

# 鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

## 平成29年度発掘調査報告 (第1分冊)

由比ヶ浜中世集団墓地遺跡

下馬周辺遺跡

大倉幕府跡

台山遺跡

東勝寺跡

大倉幕府周辺遺跡群

鎌倉城

平成30年3月

鎌倉市教育委員会





大倉幕府跡（雪ノ下三丁目637番6外地点）第4面全景（南東から）



大倉幕府周辺遺跡群（二階堂字荏柄12番8）下層遺構2010出土かわらけ



## ごあいさつ

本市は、市域の6割以上が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。

そのため、家屋や店舗の建て替えに伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が行われることも多く、毎日、市内数ヶ所で発掘調査が行われている状況です。

私たちが日々の生活を送っていく上で、やむを得ず失われる埋蔵文化財について記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅等の建設に係る発掘調査を実施しています。本書は平成18～21年、23年、27～29年度に実施した、個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査27ヶ所の調査記録を掲載しています。

本書が、武家政治発祥の地として知られ、今なお観光・文化都市として栄える鎌倉の歴史を解き明かす一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査の実施に当たり、関係者の皆様に発掘調査に対し深いご理解を賜るとともに、調査の期間中、さまざまご協力をいただきましたことを心からお礼を申しあげます。

平成30年3月30日

鎌倉市教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は平成29年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に  
係る発掘調査報告書（第1分冊）である。
- 2 本書所収の調査地点は別表・別図のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化  
財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育  
委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

## 第1分冊 目次

ごあいさつ	I
例言	II
目次	III
第1～5分冊掲載の平成18～21・23・27～29年度発掘調査地点一覧	V
平成29年度調査の概観	VI
調査地点位置図	VIII
<b>1 由比ガ浜中世集団墓地遺跡 (No.372) 由比ガ浜二丁目1235番1地点</b>	
第一章 遺跡の概要	6
第二章 発見した遺構と遺物	13
第三章 まとめ	39
<b>2 下馬周辺遺跡 (No.200) 由比ガ浜二丁目107番5地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	70
第二章 検出した遺構と遺物	75
第三章 まとめ	78
<b>3 大倉幕府跡 (No.253) 雪ノ下三丁目637番6外地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	97
第二章 発見された遺構と遺物	105
第三章 まとめ	160
<b>4 台山遺跡 (No.29) 山ノ内字篠源治860番1地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	213
第二章 調査の概要	217
第三章 発見された遺構と遺物	221
第四章 調査成果のまとめ	237
<b>5 東勝寺跡 (No.246) 小町三丁目529番1、4、5地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	259
第二章 調査の方法と経過	261
第三章 基本土層	262
第四章 発見された遺構と遺物	265
第五章 調査成果のまとめ	274

<b>6 大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 二階堂字荏柄12番8地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	301
第二章 調査の方法と経過	305
第三章 基本土層	306
第四章 発見された遺構と遺物	309
第五章 調査成果のまとめ	338
付編 大倉幕府周辺遺跡群の自然科学分析	339
<b>7 鎌倉城 (No.87) 西御門一丁目68番94地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	359
第二章 調査の方法と経過	362
第三章 基本土層	363
第四章 検出遺構と出土遺物	365
第五章 調査成果のまとめ	372

# 第1～5分冊掲載の平成18～21・23・27～29年度発掘調査地点一覧

## 第1分冊

	道 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	遺跡種別	調査面積	調 査 期 間
1	由比ヶ浜中世墓地遺跡 (№372)	由比ヶ浜二丁目1235番4	個人専用住宅 (地下下室)	墓 地	79.8	平成19年6月11日 ～平成19年8月24日
2	下馬周辺遺跡 (№200)	由比ヶ浜二丁目107番5	自己用店舗併用住宅 (柱状改良工事)	都 市	12	平成19年8月28日 ～平成19年9月21日
3	大倉幕府跡 (№253)	雪ノ下三丁目637番6外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	官 街	25	平成20年2月28日 ～平成20年4月4日
4	台山遺跡 (№29)	山ノ内字藤源治 860番1	個人専用住宅 (地下下室)	集 落	30	平成22年1月12日 ～平成22年2月17日
5	東勝寺跡 (№246)	小町三丁目529番1、4、5	個人専用住宅 (柱状改良工事)	社寺跡	83.01	平成27年9月1日 ～平成27年12月25日
6	大倉幕府周辺遺跡群 (№49)	二階堂字荏柄 12番8	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	官街跡	69.14	平成28年5月10日 ～平成28年7月15日
7	鎌倉城 (№87)	西御門一丁目68番94	個人専用住宅 (基礎工事)	城館跡	40.5	平成29年5月22日 ～平成29年6月21日

## 第2分冊

	道 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	遺跡種別	調査面積	調 査 期 間
8	法泉寺跡 (№182)	扇ガ谷四丁目518番8	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	社 寺	38	平成22年3月26日 ～平成22年5月28日
9	今小路西遺跡 (№201)	扇ガ谷一丁目145番3、146番2	店舗併用住宅 (鋼管杭工事)	都 市	120	平成23年9月26日 ～平成23年12月22日

## 第3分冊

	道 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	遺跡種別	調査面積	調 査 期 間
10	宇津宮辻子幕府跡 (№239)	小町二丁目388番2の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	官街跡	63	平成18年8月23日 ～平成18年11月12日
11	覺園寺境内遺跡 (№435)	二階堂字会下330番9	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	寺 院	64	平成19年11月29日 ～平成20年2月1日
12	勝長寺院遺跡 (№133)	雪ノ下四丁目520番6外	個人専用住宅 (地盤改良工事)	寺 院	20	平成19年11月9日 ～平成19年12月7日
13	横小路周辺遺跡 (№259)	二階堂字会向住柄 875番4	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都 市	48	平成20年5月29日 ～平成20年8月1日

## 第4分冊

	道 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	遺跡種別	調査面積	調 査 期 間
14	台山遺跡 (№29)	山ノ内字藤源治 872番9外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	集 落	56	平成19年4月4日 ～平成19年4月20日
15	今小路西遺跡 (№201)	由比ヶ浜一丁目147番1の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都 市	15	平成19年10月9日 ～平成19年10月29日
16	今小路西遺跡 (№201)	由比ヶ浜一丁目147番1の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都 市	40	平成19年10月9日 ～平成19年11月20日
17	今小路西遺跡 (№201)	由比ヶ浜一丁目147番2外	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都 市	112	平成19年7月27日 ～平成19年9月28日
18	名越ヶ谷遺跡 (№231)	大町三丁目2353番2外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都 市	37.5	平成19年12月18日 ～平成20年2月6日
	舟ヶ谷遺跡 (№249)	材木座四丁目599番8	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都 市	58.75	平成21年2月17日 ～平成21年4月15日

## 第5分冊

	道 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	遺跡種別	調査面積	調 査 期 間
19	若宮大路周辺遺跡群 (№242)	大町一丁目1084番4	個人専用住宅 (地盤改良工事)	都 市	16	平成19年11月6日 ～平成19年12月7日
20	若宮大路周辺遺跡群 (№242)	雪ノ下一丁目187番4	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都 市	25	平成20年2月15日 ～平成20年3月14日
21	若宮大路周辺遺跡群 (№242)	小町二丁目349番1の一部	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都 市	14	平成20年8月26日 ～平成20年9月12日
22	若宮大路周辺遺跡群 (№242)	小町三丁目418番4	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都 市	58	平成22年1月21日 ～平成22年3月24日
23	駿遊堂遺跡 (№257)	淨明寺一丁目598番21	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	社 寺	17	平成21年1月9日 ～平成21年2月6日
24	駿遊堂遺跡 (№257)	淨明寺一丁目598番35	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	社 寺	20	平成21年2月10日 ～平成21年3月16日
25	徳泉寺遺跡 (№173)	山ノ内字東管領屋敷 168番4	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	社 寺	20	平成20年12月2日 ～平成20年12月15日
26	龍藏寺跡 (№314)	材木座二丁目293番2	個人専用住宅 (柱状改良工事)	社 寺	52	平成18年8月10日 ～平成18年11月2日

## 平成29年度調査の概観

平成29年度の緊急調査実施件数は5件であり、調査面積は298.5m<sup>2</sup>であった。これを前年度の4件、423.04m<sup>2</sup>と比較してみると件数は1件の増加となり、調査面積は124.54m<sup>2</sup>の減少となった。1件の調査面積は平均で59.7m<sup>2</sup>（前年度は105.76m<sup>2</sup>）であり、前年度よりも減少となるが、昨年度は、面積の広い調査1件の影響により平均面積が大きくなつたという経緯がある。

調査原因は5件とも個人専用住宅の建設である。これらの工種別内訳は、基礎工事が1件、鋼管杭工事が2件、柱状改良工事が2件となっている。今年度も鋼管杭工事や柱状改良工事が発掘調査の主体的な原因になっている傾向が顕著である。以下、各地点の調査成果の概要を紹介する。（調査面積及び調査期間等については「平成29年度発掘調査地点一覧」を参照。）

### 1 鎌倉城（No.87）

西御門一丁目に所在し、鎌倉駅から北東へ1300mに位置している。個人住宅の基礎部分について発掘調査を実施し、14世紀前半の礎石建物を検出した。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器などが出土している。

### 2 材木座町屋遺跡（No.261）

市内東南部の材木座に所在し、光明寺の北西約160mに位置している。鋼管杭工事を行う個人住宅の建築に伴い発掘調査を実施した。調査の結果、13世紀から14世紀にかけて7時期の生活面が確認でき、石列、土坑、柱穴を検出した。遺物ではかわらけ、国産陶器、舶載磁器、瓦、木製品、石製品などが出土している。

### 3 横小路周辺遺跡（No.259）

二階堂字横小路に所在し、鎌倉駅から北東へ1500mに位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人住宅の建築に伴い、発掘調査を実施した。調査の結果、13世紀前半に埋め立てられた谷状地形と、その上位で13世紀後半から15世紀前半までの8枚に及ぶ遺構面が確認され、道路や柱穴列が検出された。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、木製品などが出土している。

### 4 山ノ内上杉邸跡（No.170）

山ノ内字西管領敷に所在し、北鎌倉駅の南東約330mに位置している。鋼管杭工事を行う個人住宅の建築に伴い発掘調査を実施した。調査の結果、13世紀から15世紀にかけて複数の整地面が確認でき、溝、かわらけ廃棄坑、柱穴、土坑などを検出した。かわらけ、国産陶器、舶載磁器、瓦、金属製品などが出土している。

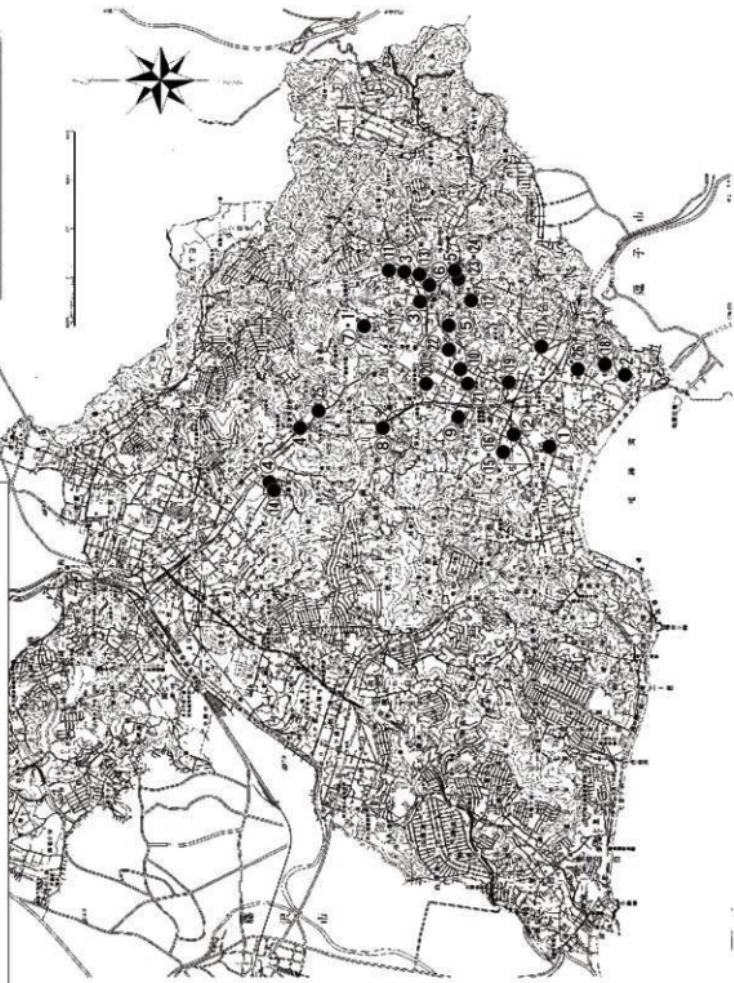
### 5 田楽辻子周辺遺跡（No.33）

市内東部の淨明寺に所在する。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築に伴い、発掘調査を実施した。調査の結果、複数の生活面が確認でき、土坑、柱穴などを検出した。かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器が出土している。

平成 29 年度発掘調査地点一覧

	遺跡名	所 在 地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1	鎌倉城 (No.87)	西御門一丁目 68 番 94	個人専用住宅 (基礎工事)	城館跡	40.5	平成 29 年 5 月 22 日 ～平成 29 年 6 月 21 日
2	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座六丁目 647 番 3 の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市遺跡	56	平成 29 年 7 月 3 日 ～平成 29 年 9 月 13 日
3	横小路周辺遺跡 (No.259)	二階堂字荏柄 81 番 1	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	77	平成 29 年 9 月 4 日 ～平成 29 年 12 月 1 日
4	山ノ内上杉邸跡 (No.170)	山ノ内字西管領屋敷 344 番 5	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	城館跡	60	平成 29 年 10 月 30 日 ～平成 30 年 2 月 7 日
5	田楽辻子周辺遺跡 (No.33)	淨明寺一丁目 590 番 2	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	51	平成 30 年 2 月 16 日 ～平成 30 年 5 月 17 日

# 鎌倉市全図



平成29年度の緊急発避調査地点（1～5）  
第1～5分冊掲載の平成18～21・23・27～29年度発避調査地点（①～⑤）  
※地図名は一覧表を参照

由比ヶ浜中世集団墓地遺跡 (No.372)

由比ヶ浜二丁目1235番4地点

## 例 言

1. 本報は由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（神奈川県遺跡台帳 №372）に所在する鎌倉市由比ガ浜二丁目1235番4地點における個人専用住宅の建設に伴う緊急発掘調査報告である。
2. 調査は平成19年6月5日から同年8月24日にかけて実施した。
3. 調査体制は以下の通りである。

担当者	伊丹まどか
調査員	宇都洋平・鈴木絵美・本城裕 小西恭平・須之内江里（鶴見大学）
調査作業員	安達越郎・片山直文・倉澤六郎・清水光一・沼上美代治
4. 本報作成分担は以下の通りである。

遺物実測	岩崎卓治・小野夏菜・菅野知子・梅岡ケイト
遺構図版作成	小野夏菜
遺物図版作成	小野夏菜
遺物観察表	小野夏菜・渡邊美佐子
破片遺物集計表	小野夏菜
遺構計測表	小野夏菜
遺構写真	宇都洋平
遺物写真	須佐仁和
写真図版作成	清水由加里
執筆・編集	伊丹まどか・小野夏菜・渡邊美佐子
5. 出土品等発掘調査に係る資料は鎌倉市教育委員会が管理している。
6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通りである。

遺構全測図：1／80 個別遺構図：1／40 遺物実測図：1／3・1／6 \* 銭は原寸  
なお各挿図にはスケールを表示してある。
7. 検出した遺構の計測値・実測遺物観察・実測できなかった遺物を含む総出土点数は表にまとめて掲載した。
8. 発掘調査及び報告書作成に際して以下の方よりご教授、ご協力を賜りました。記して深謝いたします。(五十音順、敬称略)

鍛冶屋勝二・後藤健・汐見一夫・田畑衣理・原廣志・松尾宣方・宮田眞・山田俊輔（千葉大学）

## 目次 本文目次

第一章 遺跡の概要 .....	6
(1) 歴史的環境 (図1)	
(2) 遺跡の位置とグリッド配置図 (図2)	
(3) 土層堆積 (図3)	
第二章 発見した遺構と遺物 .....	13
第1節 第1面の遺構と遺物 (図4～図12)	
第2節 第2面の遺構と遺物 (図13～図21)	
第三章 まとめ .....	39

## 挿図目次

図1 調査地と周辺の遺跡図 .....	4
図2 グリッド配置図 .....	8
図3 調査区壁土層堆積図 .....	9
図4 第1面全測図 .....	12
図5 第1面個別遺構 (1) .....	14
図6 第1面個別遺構 (2) .....	15
図7 第1面個別遺構 (3) .....	17
図8 第1面個別遺構出土遺物 (1) .....	19
図9 第1面個別遺構出土遺物 (2) .....	20
図10 第1面個別遺構出土遺物 (3) .....	21
図11 第1面個別遺構出土遺物 (4) .....	23
図12 第1面上・構成土出土遺物 .....	25
図13 第2面全測図 .....	26
図14 第2面個別遺構 (1) .....	28
図15 第2面個別遺構 (2) .....	29
図16 第2面個別遺構 (3) .....	30
図17 第2面個別遺構出土遺物 (1) .....	32
図18 第2面個別遺構出土遺物 (2) .....	33
図19 第2面個別遺構出土遺物 .....	34
図20 第2面上出土遺物 (1) .....	36
図21 第2面上・構成土出土遺物 (2) .....	37
図22 表土採集遺物 .....	38

## 表目次

遺構計測表 .....	40
出土遺物観察表 .....	41
遺物破片数表 .....	53
出土貝分類表 .....	55

## 図版目次

図版1 第1面全景・遺構6・遺構9 .....	56
図版2 第1面遺構11・遺構12・第2面遺構36 .....	57
図版3 第2面全景・遺構41 .....	58
図版4 第2面遺構42・遺構48・遺構49 .....	59
図版5 第1面遺構出土遺物 .....	60
図版6 第1面遺構出土遺物 .....	61
図版7 第1面上・第1面構成土出土遺物 .....	62
図版8 第2面遺構出土遺物 .....	63
図版9 第2面遺構出土遺物 .....	64
図版10 第2面上出土遺物 .....	65
図版11 第2面上出土遺物・表土採集遺物 .....	66



図1 調査地と周辺の遺跡図

調査地點	担当者	同行年	執筆者	タイトル	発行人
【山北・浜中世集団墓地道路】					
1 山北・浜二丁目1235番4				本調査地點	
2 山北・浜二丁目1203番20	原廣志	2000	原廣志・須佐直子	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2	鎌倉市教育委員会
3 山北・浜二丁目1015番29	大河内勉	1991	大河内勉	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7	鎌倉市教育委員会
4 山北・浜二丁目1015番23	玉川文化財研究所	2005	小山裕之・相原俊夫	山北・浜中世集団墓地道路	玉川文化財研究所
5 山北・浜二丁目1034番1	原廣志	1993	原廣志・佐藤仁彦・小林重子はか	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-1	鎌倉市教育委員会
6 山北・浜二丁目1037番1	原廣志	1993		神奈川県埋蔵文化財調査報告35	神奈川県教育委員会
7 山北・浜二丁目1014番17	熊谷満	2006	熊谷満	鎌倉考古学No.51	鎌倉考古学研究所
8 山北・浜二丁目1023	鈴木尚	1956	鈴木尚ほか	材木原跡	東京大学人類学研究室 岩波書店
9 山北・浜二丁目1015番1	齋木秀雄 瀬田哲夫	2009	齋木秀雄・熊谷満・押木弘己	鎌倉道路調査会調査報告書 第60集山北・浜集団墓地道路	有限会社鎌倉道路調査会
10 山北・浜四丁目1107番32	森孝子	2012	森孝子・赤堀拓子	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-1	鎌倉市教育委員会
11 山北・浜四丁目1133番1外	宗泰秀明 瀬田哲夫	2004		神奈川県埋蔵文化財調査報告46	神奈川県教育委員会
12 山北・浜四丁目1130番外	大河内勉 沙見一夫	1995		神奈川県埋蔵文化財調査報告37	神奈川県教育委員会
13 山北・浜四丁目1134番1	大河内勉	1996	由比ガ浜中世集団墓地道路発掘調査報告書	山北・浜中世集団墓地道路発掘調査团	
14 山北・浜四丁目1142番5	宮田眞	1996	宮田眞・高野昌巳・森孝子・流汎品子	由比ガ浜中世集団墓地道路発掘調査報告書	山北・浜中世集団墓地道路発掘調査團 鎌倉市教育委員会
15 山北・浜四丁目1142番1	玉林美男	1984		鎌倉市山北4丁目山北・浜中世集団墓地道路発掘調査報告書	鎌倉市教育委員会
16 山北・浜四丁目1136番	大河内勉 沙見一夫	1997	大河内勉・菊川英政 沙見一夫	由比ガ浜中世集団墓地道路発掘調査報告書1・2	由比ガ浜中世集団墓地道路発掘調査團
17 山北・浜四丁目1113番	大河内勉 沙見一夫	1995		神奈川県埋蔵文化財調査報告37	神奈川県教育委員会
18 山北・浜四丁目1136番11	齋木秀雄	1997	齋木秀雄・伊丹まさか 根本志保	山北・浜中世集団墓地道路発掘調査報告書3	由比ガ浜中世集団墓地道路発掘調査團
19 山北・浜四丁目1170番1	齋木秀雄	1994	齋木秀雄	由比ガ浜4-6号地点発掘調査報告書	由比ガ浜中世集団墓地道路発掘調査團
20 山北・浜四丁目1179番1他	齋木秀雄 大河内勉 川又隆央	2001	齋木秀雄・大河内勉 川又隆央	鎌倉道路調査会調査報告書 第22集 山北・浜中世集団墓地道路	由比ガ浜中世集団墓地道路発掘調査團 ・鎌倉道路調査会
21 山北・浜四丁目1181番	市教育委員	1983	松尾宣方	鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報1-38	鎌倉市教育委員会
22 山北・浜四丁目1102番2外	齋木秀雄	2001	齋木秀雄	山北・浜道路	山北・浜道路発掘調査團 ・鎌倉道路調査会
23 長谷二丁目188番2	瀬田哲夫	1995	瀬田哲夫	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1	鎌倉市教育委員会
【長谷小路周辺道路】					
24 山北・浜三丁目1175番2	馬淵和雄	1994	馬淵和雄	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-2	鎌倉市教育委員会
25 山北・浜三丁目1194番40	大河内勉 瀬田哲夫	1991	大河内勉・瀬田哲夫	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7	鎌倉市教育委員会
26 山北・浜三丁目1173番3	大河内勉 押木弘己	2001	大河内勉 押木弘己	鎌倉道路調査会調査報告書 第21集	鎌倉市長谷小路周辺道路発掘調査團 ・鎌倉道路調査会
27 山北・浜三丁目1262番2	田代節夫 宗泰秀明	2002	宗泰秀明・大畠明子 宗泰富貴子	東国歴史考古学研究所調査研究報告 第31集 長谷小路道路(№236)	長谷小路周辺道路発掘調査團 ・東国歴史考古学研究所
28 山北・浜三丁目1262番6	宮田眞 森孝子	2000	森孝子	長谷小路周辺道路発掘調査報告書	長谷小路周辺道路発掘調査團 ・宮田事務所
29 山北・浜三丁目1256番外	宮田眞 流汎品子	2005	宮田眞・森孝子 流汎品子	長谷小路周辺道路発掘調査報告書	株式会社博通
【下馬周辺道路】					
30 山北・浜二丁目1075番外	植山英史 馬淵和雄	2014	植山英史・長樂崇 菊川真	かながわ考古学財調査報告301 下馬周辺道路	財團法人かながわ考古学財團
31 山北・浜二丁目1011番1	大河内勉	1998	大河内勉	下馬周辺道路発掘調査報告書	下馬周辺道路発掘調査團

# 第一章 遺跡の概要

## (1) 歴史的環境(図1)

本調査地が位置する「由比ヶ浜中世集団墓地遺跡」は鎌倉市街地の中心を南北に貫く若宮大路を跨ぎ、東は滑川を境にする。南北、西方向は他の遺跡指定城との明確な境が地図上では見えないが、北を「下馬周辺遺跡」「長谷小路周辺遺跡」「向原古墳群(采女塚古墳)」、南と西を「由比ヶ浜南遺跡」に接し、相模湾に面する砂丘上に位置する。この砂丘は若宮大路南端に建つ一の鳥居と、采女塚古墳跡ではないかといわれている和田塚を結ぶ辺りがもっとも標高が高く(海拔約12m)、この地点から南北それぞれに標高は下がっていく。本調査地点は一の鳥居から直線距離で南西に約260m。和田塚から南東に約150mの地点に位置し、現地表は海拔約7.6mである。

和田塚付近にあったとされる下向原古墳群は現存しないが、古墳時代後期の円墳群であった様子で、その中の采女塚と呼ばれていた古墳からは人物埴輪三体・馬埴輪・円筒埴輪が発見された(現在では所在地不明・出土遺物も多くは散逸している)。また、本遺跡地より西方の「長谷小路周辺遺跡」では古墳時代後期から平安時代前期(7~10世紀)には活発な生活の営みがあったことが確認され、多くの遺構・遺物を検出している。特に奈良時代(8世紀代)には、本調査地から北西方に約1700mの地点で官衙や付属施設が発見され、市街地が賑わっていたと予測される。しかし、平安時代後期(11~12世紀代)には、本調査地を含む市街地全体が衰退に向かい、中世期に至るまで空白の期間があることを調査成果は示唆している。

相模湾に面する海浜地帯を、若宮大路東を南北に流れる滑川河口を境に東を材木座、西を由比ガ浜と現代では呼ぶが、中世においてはこの海浜地帯を「由比ガ浜」・「浜地」・「前浜」と呼称していた記録が残り、「由比ガ浜」は福村ヶ崎から材木座・飯島崎までの海岸地帯の総称、「浜地」は「鎌倉中」における土地制度上の区分名であり、「前浜」は現在の「由比ガ浜」辺を指し、武家の調練場、神事や儀式、諸種の祭事を行う場であると共に処刑場等の性格をもった墓域でもあった事が知られ、忍性の時代以来極楽寺が管領した一帯の名称となる。また、本遺跡地の名称に見るよう一帯は多くの埋葬人骨を発見する地域でもあるが、その大半は滑川に接する遺跡指定地の東側に集中し、多くは堅穴建物群・土坑・ピットなどを発見する庶民の居住域でもあり、墓域と居住域の混在する遺跡地であったことがこれまでの調査成果からわかっている。また、海浜地帯で発見される堅穴建物を主とする遺跡地では、解体痕を遺す獸骨・細工した加工骨・滑石鍋を転用し再加工した滑石スタンプ・温石・鉄滓・輪の羽口・坩埚・鋳型等の鋳物関連の遺物といった、職農民の存在を窺わせる遺物が多く発見されており、市街地遺跡の町屋あるいは武家屋敷などで発見する遺物とは大きく性格が異なる。現在、堅穴建物の用途は住居よりも倉庫としての使用に重きを置いていたのではないかと考えられているが、出土遺物からは職農民が居住し、作業所の機能を兼ね持つ建物でもあったと考えられている。本調査地点周辺では、調査地と道路を挟んだ南側では、堅穴建物等の遺構とともに、多くの中世遺物が発見されているが、北側での調査成果は少ない。本調査によって資料の蓄積が進むことを願いたい。

\*注 遺跡名は「由比ヶ浜」。地名は「由比ガ浜」と表記している。

## (2) 遺跡の位置とグリッド配置図(図2)

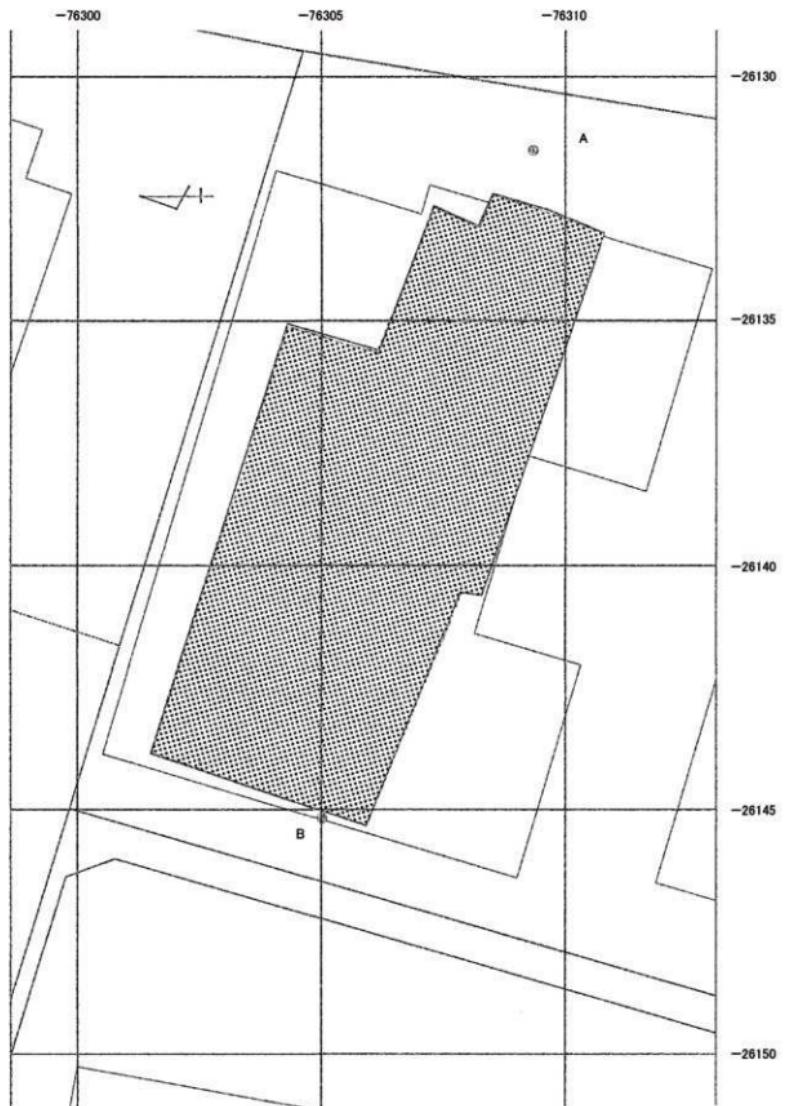
調査開始にあたって調査区に任意の方眼軸を設け、基本点Aと、見返り点Bを設定し遺構の測量・図面作成に使用した。基本点Aと見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系(座標AREA9)の国土座標値を使用したため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB版TKY2JGD」で世界測地系第IX形に変換し、座標値は図2に表記した。

## (3) 土層堆積(図3)

現地表から約70cm堆積していた現代埋土を重機によって除去し第1面を検出する作業を行った。本報告では第1面以下、2枚の生活面に分けて報告しているが、埋土によって深く削平を受けている部分が多くなったことや、どの生活面も地表層を掘りこんだ遺構ではなく砂層の堆積層を掘りこんでいるため、検出した遺構の順に生活面を分けて提示している。また、発見した遺構はほぼ同一の位置で短期間に造り替えを行い、遺構が切りあっていたために、調査区壁で観察した土層堆積のほとんどは遺構覆土の観察となった。試掘坑を設け遺構検出面下層の堆積層調査を試みたが(土層No76)、現地表下2.0m辺りから湧水が激しくなり、調査区壁が崩落するなどしたため、平面的な観察・記録が出来ず中世地山層である無遺物砂層および、古代層の確認は断念している。

### <参考・引用文献>

- ・『日本歴史大系14巻』「神奈川県の地名」 平凡社 1984年
- ・『鎌倉市史 総説編』 高柳光寿 吉川弘文館 1959年
- ・『鎌倉市史 考古編』 赤星直忠 吉川弘文館 1967年
- ・『鎌倉市史 社寺編』 高柳光寿・佐藤栄智・川副竹胤・貫達人 吉川弘文館 1972年
- ・『鎌倉事典』 東京堂出版 平成4年 白井永二
- ・『庵寺事典』 有隣堂 贫達人・川副竹胤 1980年
- ・網野善彦 1976年「鎌倉の『地』と『地奉行』について」「三浦古文化19号」
- ・齋木秀雄・伊丹まさか・根本志保 1997年「由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書」 由比ガ浜四丁目1136番地点  
由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団
- ・原廣志・須佐直子 2000年「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16 第2分冊」 由比ガ浜二丁目1203番20地点 鎌倉市教育委員会
- ・齋木秀雄・大河内勉・川又隆央 2001年「由比ガ浜中世集団墓地遺跡 第5地点1次・2次発掘調査報告書」 鎌倉遺跡  
調査会第22集



	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-76666.061	-25838.058	-76309.3448	-26131.5096
B	-76661.729	-25851.726	-76305.0119	-26145.1769



図2 グリッド配置図

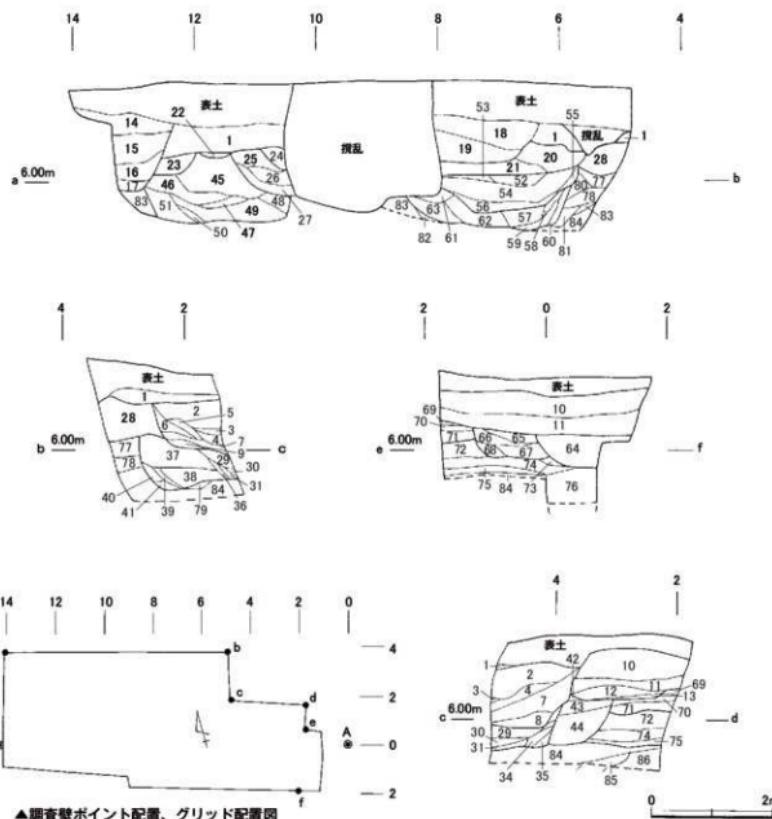


図3 調査区壁土層堆積図

<土層注記>

1. 暗褐色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量 締まりやや有り
2. 暗茶灰色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量、かわらけ片わずかに含む 締まりやや有り (遺構9)
3. 暗茶褐色砂質土 炭化物やや多く、貝砂少量含む 締まり有り (遺構9)
4. 暗茶褐色砂質土 炭化物多量、貝砂やや多く、泥岩粒少量含む 締まり有り (遺構9)
5. 暗褐色砂質土 黄褐色砂・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り (遺構9)
6. 暗褐色砂質土 炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り (遺構9)
7. 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り (遺構9)
8. 暗褐色砂質土 貝砂やや多く、炭化物少量含む 締まりやや有り (遺構9)
9. 暗灰色砂質土 黄褐色砂多量、炭化物・貝砂やや多く含む 締まりやや有り (遺構9)

10. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・貝砂・炭化物少量含む 締まりやや有り（造構14）
11. 暗褐色砂質土 炭化物・貝砂やや多く、泥岩粒少量含む 締まりやや有り（造構14）
12. 暗茶灰色砂質土 黄褐色砂・泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り（造構14）
13. 黄褐色砂質土 貝砂多量に含む 締まり有り（造構14）
14. 茶褐色砂質土 泥岩粒・貝砂やや多く、炭化物少量含む 締まりやや有り（造構8）
15. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り（造構8）
16. 暗茶褐色砂質土 炭化物やや多く、泥岩粒・貝砂少量含む 締まりやや有り（造構8）
17. 暗茶灰色砂質土 炭化物やや多く、貝砂少量含む 締まりやや有り（造構8）
18. 暗褐色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒少量、かわらけ片・炭化物わずかに含む 締まりやや有り
19. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り
20. 暗茶褐色砂質土 常滑片多量、泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まり有り（造構12）
21. 暗茶褐色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り（造構12）
22. 茶灰色砂質土 炭化物やや多く、泥岩粒少量含む 締まりよわい（造構21）
23. 暗茶灰色砂質土 泥岩粒やや多く、炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り（造構24）
24. 茶褐色砂質土 泥岩粒やや多く、炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り（造構23）
25. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量、かわらけ片わずかに含む 締まりやや有り（造構25）
26. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・貝砂少量、炭化物わずかに含む 締まりやや有り（造構25）
27. 暗褐色砂質土 貝砂やや多く、炭化物・かわらけ片わずかに含む 締まりやや有り（造構25）
28. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量、かわらけ片わずかに含む 締まりやや有り
29. 暗茶褐色砂質土 茶褐色砂を斑状に含み、貝砂やや多く、炭化物少量含む 締まりやや有り（造構51）
30. 暗褐色砂質土 茶褐色砂を斑状に含み、貝砂・炭化物やや多く含む 締まりやや有り（造構51）
31. 茶褐色砂質土 貝砂・炭化物を少量含む 締まりやや有り（造構51）
32. 暗茶褐色砂質土 炭化物やや多く、貝砂少量含む 締まり有り（造構51）
33. 茶褐色砂質土 貝砂少量含む 締まり有り（造構51）
34. 茶褐色砂質土 貝砂少量、炭化物わずかに含む 締まり有り（造構51）
35. 茶褐色砂質土 貝砂やや多く、炭化物わずかに含む 締まり有り（造構51）
36. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量、かわらけ片わずかに含む 締まりやや有り（造構51）
37. 暗黄褐色砂質土 炭化物やや多く、泥岩粒・貝砂・有機質土少量含む 締まりやや有り（造構51）
38. 暗黄褐色砂質土 炭化物・泥岩粒・貝砂少量、有機質土わずかに含む 締まりやや有り（造構51）
39. 暗黄褐色砂質土 暗灰色砂やや多く、炭化物・泥岩粒・貝砂少量、有機質土わずかに含む 締まりやや有り（造構51）
40. 暗黄褐色砂質土 暗灰色砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り（造構51）
41. 暗黄褐色砂質土 暗灰色砂多量、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り（造構51）
42. 暗茶灰色砂質土 貝砂・炭化物を少量含む 締まりやや有り（造構53）
43. 暗茶灰色砂質土 泥岩粒・暗褐色粘質土多量、炭化物・貝砂少量含む 締まり有り（造構53）
44. 茶灰色砂質土 炭化物・貝砂やや多く、泥岩粒少量、有機質土わずかに含む 締まり有り（造構53）
45. 茶褐色砂質土 灰色砂・貝砂やや多く、泥岩粒少量、炭化物わずかに含む 締まりやや有り（造構33）
46. 暗茶褐色砂質土 貝砂多量、泥岩粒・炭化物少量、締まりやや有り（造構33）
47. 暗茶褐色砂質土 貝砂多量、泥岩粒少量、締まりやや有り（造構33）

48. 暗茶灰色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物・有機質土少量含む 締まりやや有り (造構33)
49. 暗茶灰色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒少量、炭化物・有機質土わずかに含む (造構33)
50. 暗茶灰色砂質土 黄褐色砂やや多く、泥岩粒・有機質土少量含む 締まりやや有り (造構33)
51. 茶灰色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量・有機質土・小石わずかに含む 締まりやや有り (造構33)
52. 暗茶灰色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒少量、炭化物・有機質土わずかに含む 締まりやや有り (造構36)
53. 茶灰色砂質土 貝砂やや多く、炭化物少量含む 締まりやや有り (造構36)
54. 暗茶褐色砂質土 炭化物・貝砂やや多く、有機質土少量含む 締まり有り (造構36)
55. 暗茶褐色砂質土 黄褐色砂・炭化物やや多く、泥岩粒・貝砂少量含む 締まり強い (造構36)
56. 黒灰色砂質土 黄褐色砂・貝砂多量、炭化物・有機質土少量含む 締まりやや有り (造構36)
57. 暗灰色砂質土 黄褐色砂・貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り (造構49)
58. 暗灰色砂質土 黄褐色砂多量、貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り (造構49)
59. 暗黄褐色砂質土 泥岩粒少量、炭化物わずかに含む 締まりよわい (造構49)
60. 暗黄褐色砂質土 泥岩粒少量、炭化物わずかに含む 締まり強い (造構49)
61. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂・有機質土少量含む 締まりやや有り (造構49)
62. 暗灰色砂質土 黄褐色砂やや多く、貝砂・有機質土少量含む 締まりやや有り (造構49)
63. 暗茶褐色砂質土 暗灰色砂をやや多く、炭化物・貝砂少量、かわらけ片わずかに含む 締まり有り (造構49)
64. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り (造構39)
65. 暗茶灰色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量・有機質土わずかに含む 締まりやや有り (造構40)
66. 暗茶灰色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り (造構40)
67. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂少量含む 締まりやや有り (造構40)
68. 暗褐色砂質土 貝砂やや多く、泥岩粒・炭化物少量含む 締まりやや有り (造構40)
69. 暗茶褐色砂質土 貝砂・炭化物少量含む 締まり弱い (造構37)
70. 茶褐色砂質土 炭化物やや多く、貝砂少量・有機質土わずかに含む 締まりやや有り (造構37)
71. 茶褐色砂質土 貝砂やや多く、炭化物少量・締まりやや有り (造構37)
72. 茶褐色砂質土 貝砂多量、炭化物・かわらけ片少量、締まり弱い
73. 暗茶褐色砂質土 貝砂少量、炭化物わずかに含む 締まりやや有り
74. 暗黄褐色砂質土 貝砂やや多く、炭化物少量含む 締まりなし
75. 暗灰色砂質土 暗褐色砂を斑にやや多く含み、炭化物わずかに含む
76. 明灰色砂質土 貝砂多量、炭化物少量含む 締まり弱い
77. 暗褐色砂質土 泥岩粒少量、炭化物・貝砂わずかに含む 締まりやや有り
78. 暗褐色砂質土 泥岩粒少量、炭化物・貝砂・有機質土わずかに含む 締まりやや有り
79. 暗茶灰色砂質土 黄褐色砂・炭化物やや多く、貝砂少量含む 締まりやや有り
80. 暗黄褐色砂質土 貝砂・炭化物・有機質土やや多く、泥岩粒少量含む 締まり有り
81. 黄褐色砂質土 泥岩粒・炭化物わずかに含む 締まりやや有り
82. 暗茶褐色砂質土 暗灰色砂やや多く、貝砂少量・炭化物・かわらけ片わずかに含む 締まり有り
83. 黄褐色砂質土 泥岩粒少量・有機質土わずかに含む 締まりやや有り
84. 暗褐色砂質土 炭化物少量含む 締まりやや有り
85. 茶褐色砂質土 炭化物・貝砂わずかに含む 締まりやや有り
86. 暗灰色砂質土 貝砂少量・炭化物わずかに含む 締まりやや有り

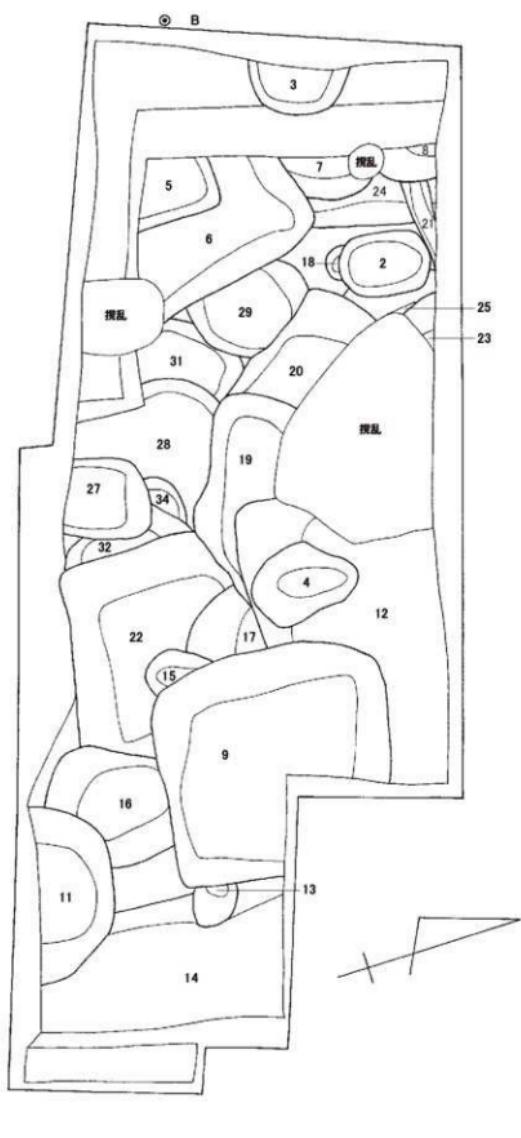


図4 第1面全測図

## 第二章 発見した遺構と遺物

本調査地は隣地との距離が狭く地質が砂層であったことから、調査（建築）による地盤の崩落を防ぐために、事前に調査範囲（建築範囲）に日鋼（形鋼）を縦・横方向に打ち調査・建築の安全を計った。砂丘上で発見される遺跡は、基本的に客土を用いた地盤層上で遺構を検出することは少なく、自然堆積の風成砂上に遺構を掘りこみ生活面が構築される例が多い。本調査地で発見した遺構も地盤層からの掘りこみではなく、表土を除去して検出した暗褐色砂質土上に広がった遺構を、切り合いで覆土の観察から考慮して2枚の生活面に分けて報告した。また、切りあいによって形状・規模が不確かになった遺構は土坑としてカウントしたが、堅穴建物だった可能性も大きい。

遺構Noは調査時に作業を簡便に進めるために付しており遺構の新旧を表すものではない。個別に図示していない遺構は全測図で形状を、遺構計測表で規模を報告し、実測遺物は観察表で詳細を報告し、本文中では説明を省いている。

### 第1節 第1面の遺構と遺物（図4～図12）

表土から10～70cmの深度で堆積していた現代埋土を人力で除去し、中世遺物包含層である暗褐色砂質土上で発見した遺構を第1面の遺構とした。それぞれの遺構は短期間に造り替えを行った様子で、大きく切りあっていた。発見した遺構は堅穴建物が主となった。また、堅穴建物の軸方向は方位にはほぼ準じて検出されている。発見した遺構は溝1条・堅穴建物9軒・土坑17基・ピット2穴である。

#### 遺構2（図5）

楕円形を呈する土坑である。遺構18・25を切る。遺構覆土は暗褐色砂質土・炭化物・黄褐色砂を含む。遺物はかわらけ・常滑窯・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構3（図4）

個別に図面は掲載していない。調査区外に遺構が伸び規模は不明。土坑である。第1面遺構として報告しているが上層の遺構である。

#### 出土遺物（図8）

1は瓦器質火鉢。雷文・菊花文（12弁）の押印・連珠文貼り付け。その他にかわらけ・瀬戸折縁皿・瀬戸卸皿・瀬戸入子・瀬戸華瓶・瀬戸壺・常滑窯が破片で出土している。

#### 遺構4（図5）

楕円形を呈する土坑である。遺構12を切る。遺構覆土は黒褐色砂質土。出土遺物はかわらけ・瀬戸平碗・瀬戸卸皿・常滑窯・東幡系鉢・鉄製品釘・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構5（図5）

調査区外に遺構が伸び規模は不明。堅穴建物である。遺構6を切る。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂・炭化物・泥岩粒・黒色粘土を含む。

#### 出土遺物（図8）

2はかわらけ。3は常滑窯。4は常滑片口鉢II類。5は鉄製品用途不明。その他に備前捕鉢・瓦器質火鉢・鉄製品釘・獸骨が破片で出土している。

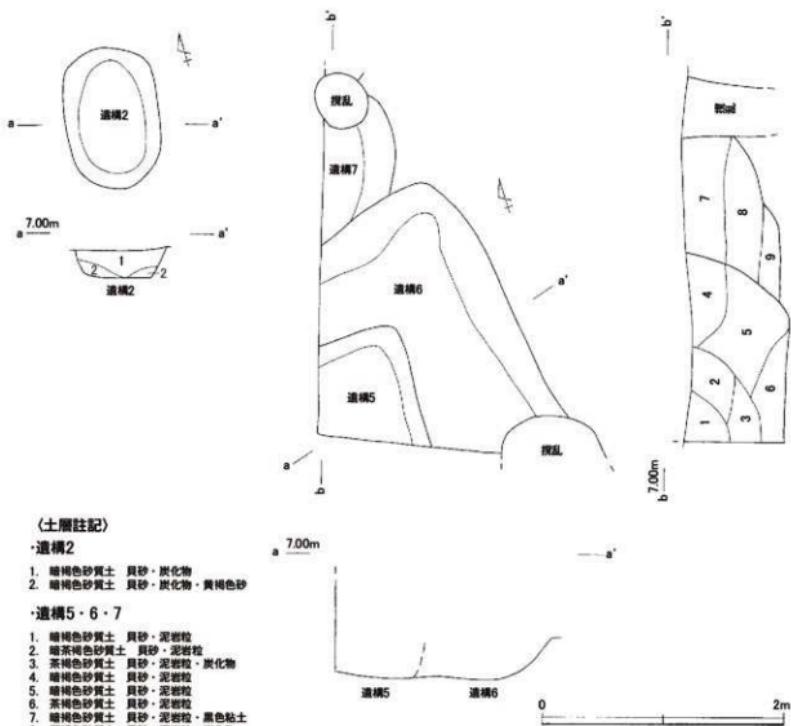


図5 第1面個別遺構(1)

### 遺構6(図5)

調査区外に遺構が伸び規模は不明。堅穴建物である。遺構5に切られる。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂・炭化物・泥岩粒を含む。

### 出土遺物(図8)

6は瀬戸折縁深皿。7は常滑甕。8～11は鉄製品釘。その他に手づくね・かわらけ・常滑片口鉢I類・常滑片口鉢II類・涅美甕・瓦器質火鉢が破片で出土している。

### 遺構7(図5)

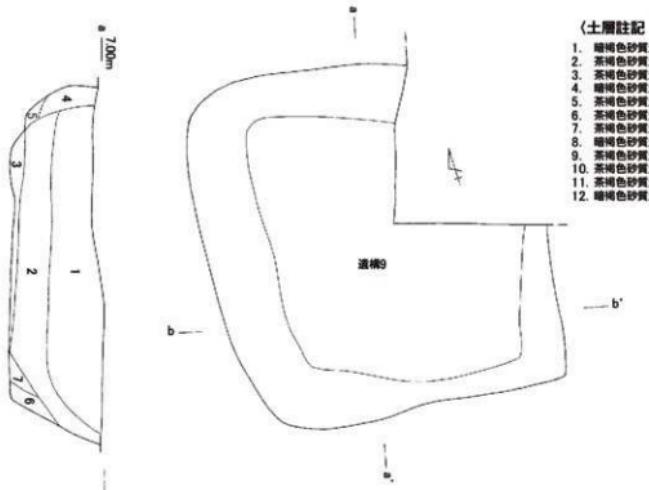
調査区外に遺構が伸び規模・形状は不明となったが。土層堆積の状況から堅穴建物であった可能性も考えている。遺構6に切られる。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂・炭化物・泥岩粒・灰褐色砂を含む。

### 出土遺物(図8)

12はかわらけ。13・14は鉄製品釘。その他に瀬戸平碗・常滑甕・常滑片口鉢I類・輪の羽口・獸骨

〈土層註記 遺構9〉

1. 線褐色砂質土 黄砂・炭化物・茶褐色砂
2. 茶褐色砂質土 黄砂・炭化物
3. 茶褐色砂質土 黄砂・炭化物・泥岩・泥岩粒
4. 線褐色砂質土 黄砂・炭化物
5. 茶褐色砂質土 黄砂・灰褐色砂
6. 茶褐色砂質土 黄砂・泥岩粒
7. 茶褐色砂質土 黄砂・炭化物
8. 茶褐色砂質土 黄砂・炭化物
9. 茶褐色砂質土 黄砂・炭化物
10. 茶褐色砂質土 黄砂・炭化物・泥岩粒
11. 茶褐色砂質土 黄砂・炭化物
12. 線褐色砂質土 黄砂・炭化物



〈土層註記 遺構12〉

1. 線褐色砂質土 黄砂・炭化物・泥岩粒
2. 茶褐色砂質土 黄砂・炭化物
3. 茶褐色砂質土 黄砂・炭化物・泥岩粒
4. 線茶褐色砂質土 黄砂・炭化物・泥岩粒
5. 線茶褐色砂質土 黄砂・炭化物・泥岩粒

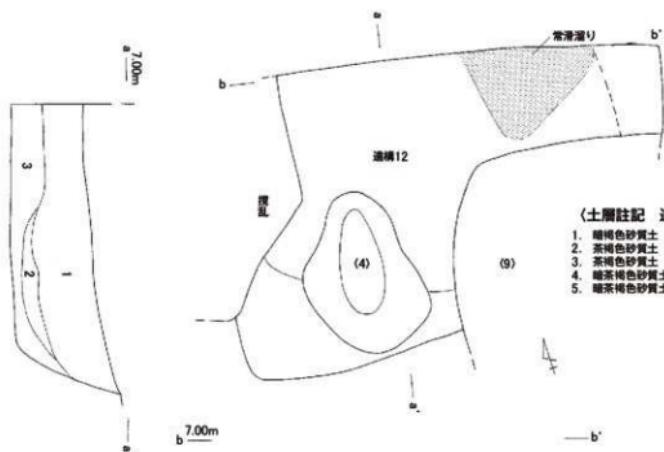


図6 第1面個別遺構(2)

が破片で出土している。

#### 遺構8(図4)

個別に図面は掲載していない。調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。

#### 出土遺物(図8)

15はかわらけ。その他に常滑片口鉢I類・常滑片口鉢II類・瓦器質火鉢・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構9(図6)

調査区外に遺構が延びている。堅穴建物である。遺構上部は現代埋土によって削平を受けているが、掘り方などは遺存していた。遺構覆土は暗茶褐色砂質土・貝砂・炭化物・泥岩粒を含む。覆土には多くの炭化物が含まれていた。

#### 出土遺物(図8)

16～36は覆土内出土遺物。16～20はかわらけ。21は白磁口兀皿。22は瀬戸鉢皿。23は瀬戸入子。24～25は常滑甕。26は備前捕鉢。27はかわらけ加工品。28～30は石製品砥石。31～36は鉄製品釘。その他に青磁蓮弁文碗・瀬戸折縁皿・瀬戸壺・瀬戸鉢・染付碗・常滑壺・常滑片口鉢I類・瓦器質火鉢・鍔釜・滑石鍋・チャート・鉄滓・獸骨・果核が破片で出土している。報告したかわらけは5個体で、内、小型のかわらけ4個体・大型のかわらけ1個体であるが、破片では(大)517片・(小)38片と、大型のかわらけが大半を占めている。

37・38は床面出土遺物。37はかわらけ。38は常滑片口鉢II類。その他に常滑甕・石製品砥石・鉄製品釘が破片で出土している。

39は掘り方出土遺物。39は常滑片口鉢II類。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

#### 遺構11(図4)

個別に図面は掲載していない。調査区外に遺構が延びる。土坑である。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・貝砂・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図8)

40は舶載・産地不明茶入れ。41は瀬戸鉢皿。42は常滑片口碗。43は東幡系鉢。44は常滑甕加工品。45は鉄製品掛け金具。46は鉄製品釘。その他にかわらけ・青磁蓮弁文碗・青磁無文碗・瀬戸折縁深皿・瀬戸壺・常滑甕・瓦器質火鉢・鉄滓・轆の羽口が破片で出土している。

#### 遺構12(図6)

調査区外に遺構が延び、搅乱・遺構9によって切られているために規模は不明となった。堅穴建物である。遺構北側、大半が調査区外に延びてしまっていたが覆土内に常滑の甕がまとまって廃棄されていた。口縁部の形状から少なくとも5個体の甕が廃棄されていたと考えている。常滑が廃棄された箇所はスクリーントーンで示し、出土遺物も分けて掲載している。

#### 出土遺物(図9)

47～59は覆土内出土。47～49はかわらけ。50は舶載天目椀。51は瀬戸折縁深皿。52～53は常滑片口鉢II類。54は土器質火鉢。55は土製品土錘。56は石製品硯。57は石製品転用品。58は石製品砥石。59は骨製品笄。その他に常滑甕・常滑壺・常滑片口鉢I類・土器質火鉢・加工骨・獸骨が破片で出土している。報告したかわらけは4個体で、全て小型のかわらけであるが、破片では(大)256片・(小)23片と、大型のかわらけが大半を占めている。

60～67は常滑廃棄遺構出土。60～66は常滑甕。67は備前捕鉢。採集した常滑甕の破片は報告個体を除いて64片あった。その他にかわらけ・常滑片口鉢II類・瓦器質火鉢が破片で出土している。

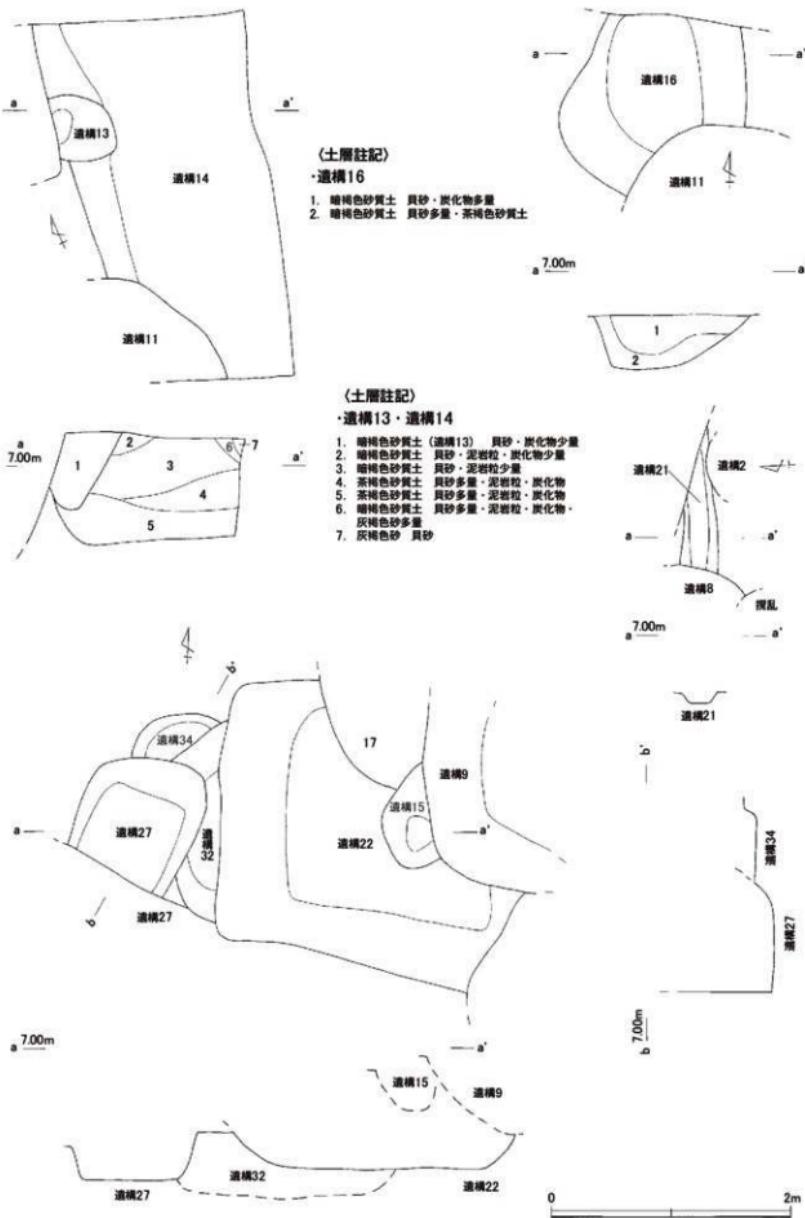


図7 第1面個別遺構(3)

### 遺構13(図7)

遺構9に切られる。土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂・炭化物を含む。

### 出土遺物(図10)

68はかわらけ。69は瀬戸鉢皿、器形は鉢皿だが、内底部に鉢目がない。その他に加工途中の石材が破片で出土している。

### 遺構14(図7)

調査区外に遺構の大半が伸び、遺構11・13に切られる。竪穴建物である。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂・泥岩粒・炭化物を含み、覆土中に風成砂が多く混入する。

### 出土遺物(図10)

70～82は覆土出土遺物。70～72はかわらけ。73は瀬戸瓶子。74は常滑壺。75～76は常滑片口鉢II類。77は東幡系鉢。78は石製品砥石。79～81は鉄製品釘。82は骨製品笄。

83～84は床面出土遺物。83はかわらけ。84は常滑片口鉢I類。

その他に青磁碗蓮弁文碗・瀬戸(皿・鉢皿・壺・縁軸小皿)・常滑壺・常滑片口鉢I類・瓦器質火鉢・鉄製品釘・骨製品笄・獸骨・果核が破片で出土している。報告したかわらけは3点であるが、破片で(大)111片・(小)17片が出でている。また、製品ではないが箱根七沢石(火山礫凝灰岩)が出土した。

### 遺構15(図7)

遺構9に切られる。土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂を含む。遺物は破片でかわらけ・瀬戸折線深皿・常滑壺・山茶碗・瓦器質火鉢・鉄製品釘・獸骨が出土している。

### 遺構16(図7)

遺構9・11に切られる。楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土・多量の炭化物と貝砂を含む。

### 出土遺物(図10)

85はかわらけ。86は白磁碗。87は瓦器質火鉢。88は鉄製品釘。その他に瀬戸入子・常滑壺・獸骨が破片で出土している。

### 遺構17(図4)

個別に図面は掲載していない。遺構9・12・15に切られ、形状・規模は不明である。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩粒・貝砂・炭化物を含む。僅かに残る遺構の肩部分が、ほぼ垂直に立ち上がるため竪穴建物であったと考えている。

### 出土遺物(図10)

89は瀬戸天目椀。その他にかわらけ・常滑壺・輪の羽口・獸骨が破片で出土している。

### 遺構18(図4)

個別に図面は掲載していない。遺構2に切られる。ピットである。遺構覆土は茶褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

### 出土遺物(図10)

90はかわらけ。その他に獸骨が出土している。

### 遺構19(図4)

擾乱、遺構12に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

### 出土遺物(図10)

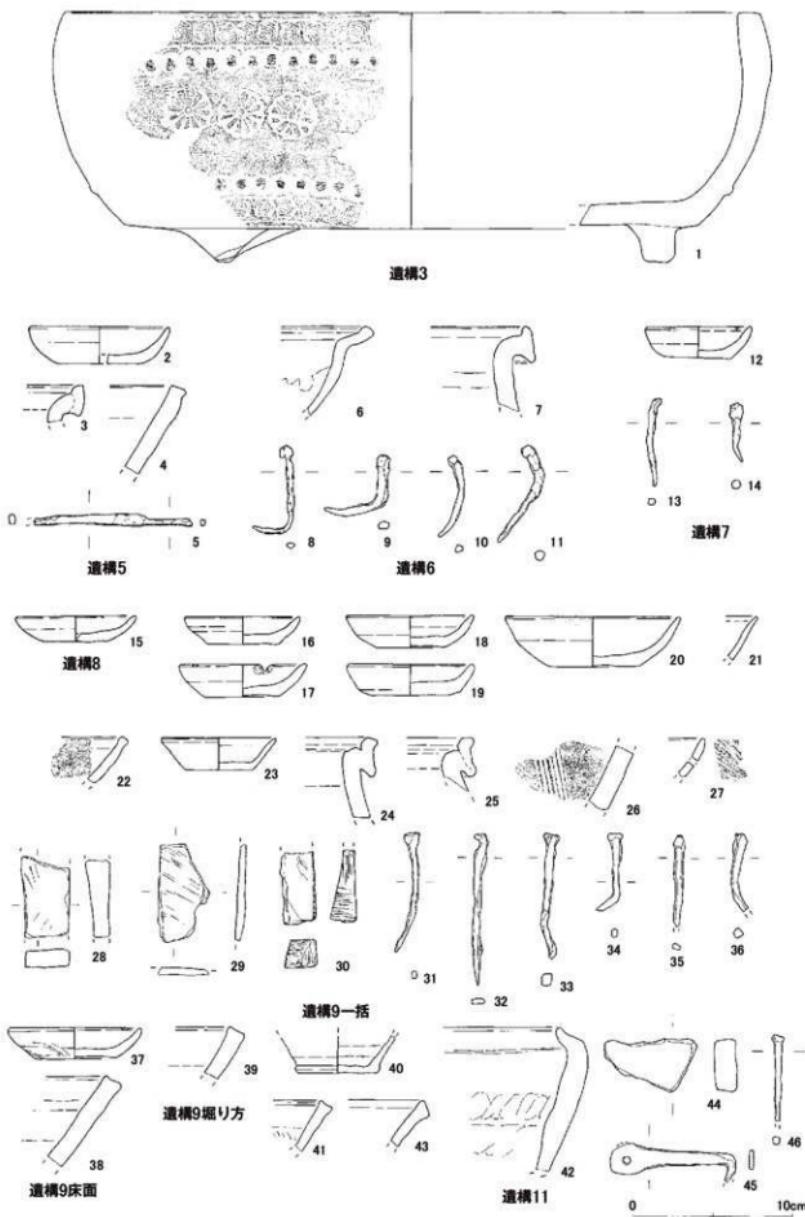


図8 第1面個別遺構出土遺物(1)

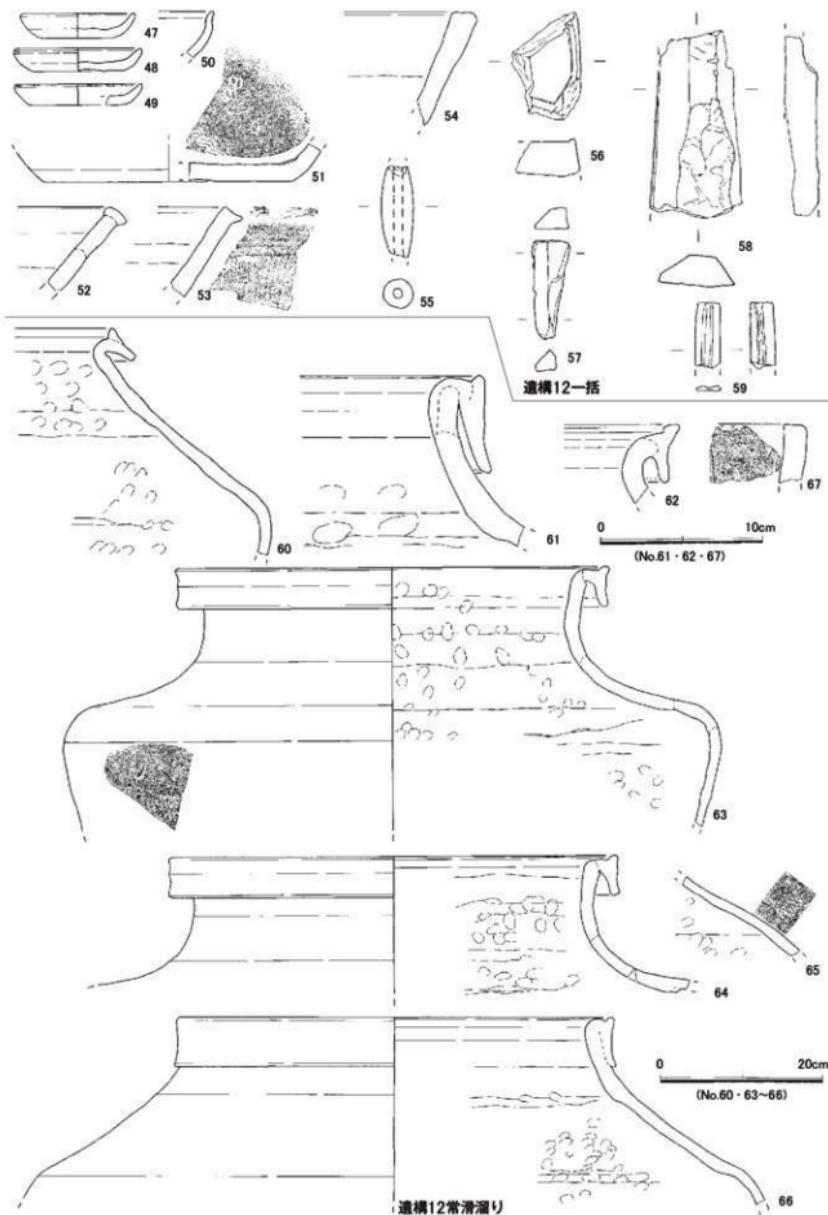
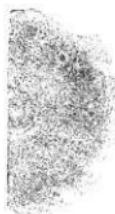
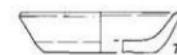
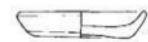
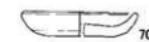


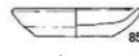
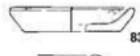
図9 第1面個別遺構出土遺物(2)



遺構13



遺構14

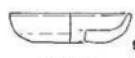


遺構14床面

86

遺構16

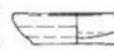
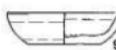
88



遺構17



遺構19



遺構20

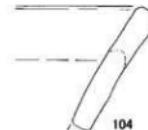
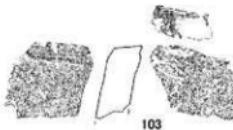


図10 第1面個別遺構出土遺物(3)



91はかわらけ。92は常滑片口鉢Ⅰ類。93～95は鉄製品釘。96は骨製品笄。その他に瀬戸天目茶碗・常滑壺・常滑鉢・瓦器質火鉢・獸骨が破片で出土している。報告したかわらけは1点であるが、破片では(大)145片・(小)5片が出土している。

#### 遺構20(図4)

個別に図面は掲載していない。擾乱・遺構19に切られる。堅穴建物である。遺構覆土は茶褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

#### 出土遺物(図10)

97は常滑片口鉢Ⅱ類。その他に常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・獸骨・果核が破片で出土している。

#### 遺構21(図7)

調査区外に遺構が延び、遺構8に切られるために規模は不明。溝状遺構である。断面逆台形を呈する。遺構覆土は茶灰色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図10)

98～101はかわらけ。102は白磁口兀皿。103は平瓦。104は土器質火鉢。105～107は鉄製品釘。その他に常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・輪の羽口・獸骨が破片で出土している。掲載したかわらけは4点だが、破片で(大)109片・(小)4片が出土している。

#### 遺構22(図7)

遺構15・16・17に切られ規模は不明。堅穴建物である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

#### 出土遺物(図11)

108～118はかわらけ。119は青磁錦蓮弁文碗。120は瀬戸天目碗。121～122は瀬戸鉢皿。123は瀬戸綠釉小皿。124は常滑壺。125は常滑片口鉢Ⅰ類。126は常滑片口鉢Ⅱ類。127は東幡系鉢。その他に白磁口兀皿・瓦器質火鉢・鍔釜・鉄製品釘・獸骨が破片で出土している。掲載したかわらけは11点だが、破片で(大)337片・(小)27片が出土している。

#### 遺構24(図4)

個別に図面は掲載していない。遺構6・7・21に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂含む。

#### 出土遺物(図11)

128は白磁口兀皿。129は常滑片口鉢Ⅱ類。130は常滑壺転用品。131は瓦器質火鉢。その他にかわらけ・常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構25(図4)

個別に図面は掲載していない。擾乱・遺構23に切られ規模・形状は不明。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・貝砂を含む。

#### 出土遺物(図11)

132は常滑壺。その他にかわらけ・常滑片口鉢Ⅱ類が破片で出土している。

#### 遺構27(図7)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。土坑である。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

#### 出土遺物(図11)

133は鉄製品釘。その他にかわらけ・常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・獸骨が破片で出土している。

## 遺構28(図4)

個別に図面は掲載していない。遺構19・27・34に切られ形状・規模は不明である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。

## 出土遺物(図11)

134はかわらけ。135は白磁口元碗。136は備前捕鉢。その他に常滑壺・渥美壺・瓦器質火鉢・鉄釜・石製品硯・鉄製品釘・獸骨が破片で出土している。

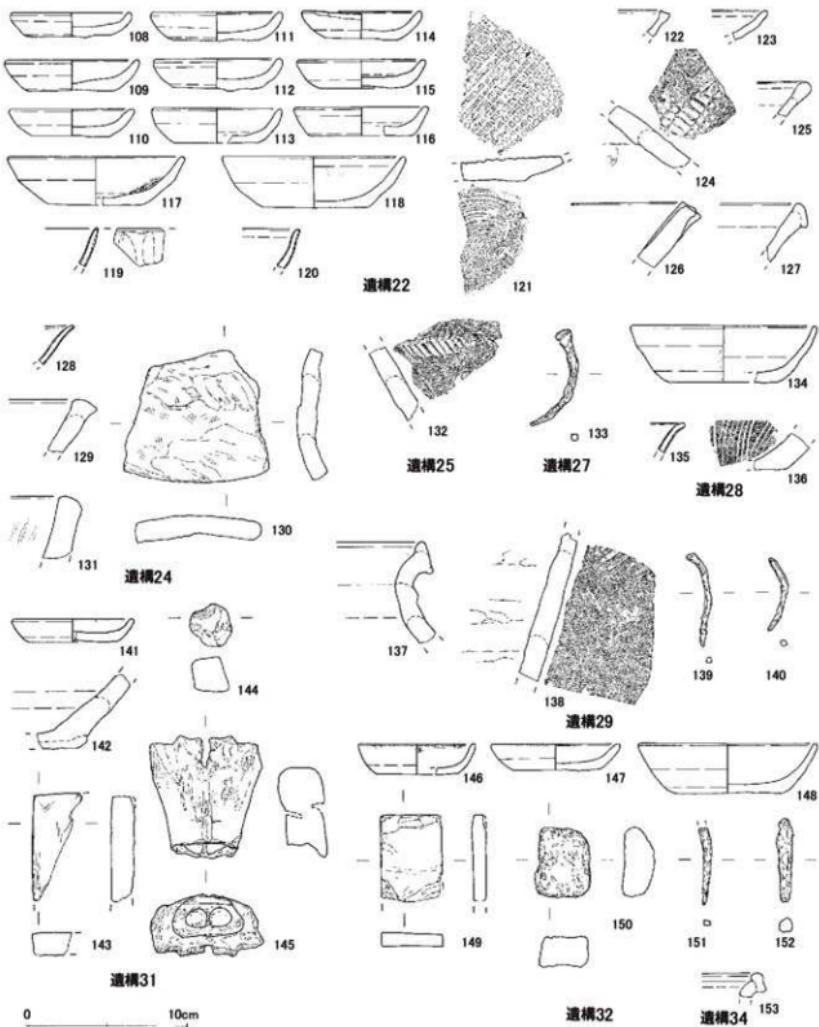


図11 第1面個別遺構出土遺物(4)

#### 遺構29(図4)

個別に図面は掲載していない。遺構6・20に切られる。円形を呈する土坑である。遺構覆土は黒褐色砂質土・炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。

#### 出土遺物(図11)

137は常滑甕。138は渥美甕。139～140は鉄製品釘。その他にかわらけ・青磁櫛搔文皿・常滑片口鉢I類・瓦・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構31(図4)

個別に図面は掲載していない。遺構28・29に切られる。遺構覆土は暗褐色砂質土・炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。

#### 出土遺物(図11)

141はかわらけ。142は常滑片口鉢II類。143は石製品砥石。144はチャート片。145は獸骨加工品。その他に常滑甕・輪の羽口・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構32(図8)

遺構22・27に切られ規模は不明。土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土・炭化物・泥岩粒・黄褐色砂を含む。

#### 出土遺物(図11)

146～148はかわらけ。149は石製品砥石。150は軽石。151～152は鉄製品釘。その他に常滑甕・常滑片口鉢I類・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構34(図7)

遺構27・34に切られ規模は不明。土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土・貝砂・炭化物を多く含む。

#### 出土遺物(図11)

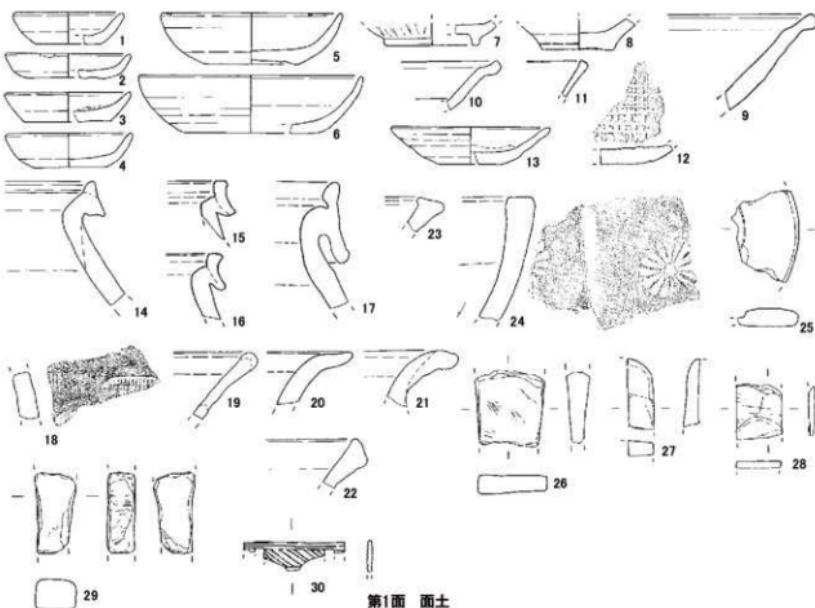
153は常滑甕。その他にかわらけ・獸骨が破片で出土している。

#### 第1面面上出土遺物(図12)

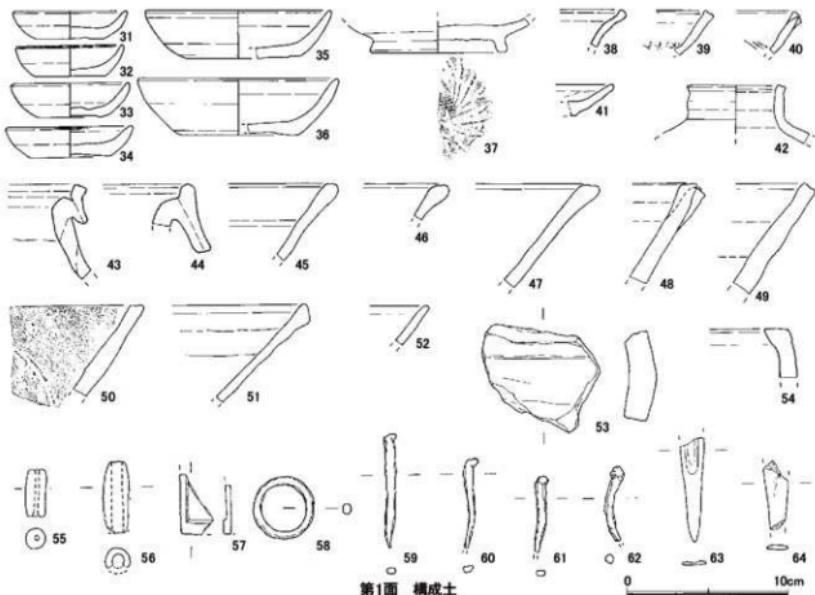
第1面精査時に発見した遺物である。1～6はかわらけ。7は青磁鍋蓮弁文碗。8は瀬戸平碗。9は瀬戸折縁深皿。10は瀬戸折縁皿。11～12は瀬戸卸皿。13は瀬戸縁釉小皿。14～18は常滑甕。19は常滑片口鉢I類。20～21は渥美甕。22は東幡系鉢。23は土器質火鉢。24は瓦器質火鉢。25は瓦器質用途不明品。26～29は石製品砥石。30は骨角製品用途不明・装飾具か。その他に青磁折腰鉢・青磁壺・青白磁梅瓶・瀬戸(入子・壺・華瓶・鉢・天目碗)・鍔釜・チャート・鉄製品釘・輪の羽口・土師器・須恵器・獸骨が破片で出土している。

#### 第1面構成土出土遺物(図12)

第1面検出後、第2面遺構検出までの堆積土から出土した遺物である。31～36はかわらけ。37～38は瀬戸底卸目皿。39～40は瀬戸卸皿。41は瀬戸縁釉小皿。42は常滑鶴口壺。43～44は常滑甕。45～47は常滑片口鉢I類。48～50は常滑片口鉢II類。51は東幡系鉢。52は山茶碗。53は常滑甕転用品。54は瓦器質火鉢。55～56は土製品土錠。57は石製品硯。58は鉄製品用途不明。59～62は鉄製品釘。63～64は骨製品笄。その他に青磁碗・白磁口元皿・白磁壺・瀬戸折縁深皿・瀬戸入子・瀬戸瓶子・瀬戸天目碗・常滑壺・渥美甕・滑石・輪の羽口・獸骨が破片で出土している。

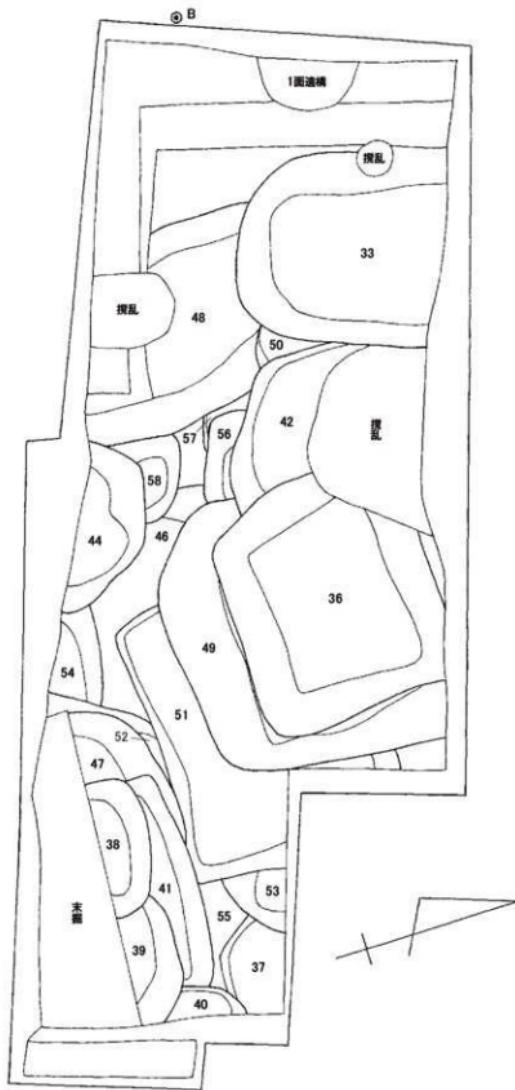


第1面 面土



第1面 構成土

図12 第1面上面・構成土出土遺物



② A

0 2m

図 13 第2面全測図

## 第2節 第2面の遺構と遺物（図13～図21）

第1面検出後、60～90cm掘り下げて発見した遺構である。第1面同様に、発見した遺構は竪穴建物が主となり、遺構の軸方向も第1面と同様に方位にはほぼ準じて検出され、短期間に遺構の造り替えが行われていた様子も同様であった。現地表から200cm下方で湧水が激しくなり、湧水によって調査壁の崩落があったため、中世基盤層および、古代層の確認は断念した。発見した遺構は竪穴建物9軒・土坑12基である。

### 遺構33（図14）

調査区外に遺構が伸び規模は不明。竪穴建物と考えているが、第2面で発見した他の竪穴建物とは軸線がやや異なる。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。

### 出土遺物（図17）

1～4はかわらけ。5はかわらけ加工品。6～7は青磁蓮弁文碗。8は白磁口元皿。9は瀬戸四耳壺。10～11は常滑甕。12は常滑片口鉢I類。13は土器質火鉢。14～17は鉄製品釘。その他に白磁壺・常滑鉢・常滑片口鉢II類・瓦・獸骨が破片で出土している。報告したかわらけは（小）3個体・（大）1個体であるが、破片で（大）143片・（小）9片が出土している。

### 遺構36（図15）

調査区外に遺構の一部が伸びる。竪穴建物である。遺構覆土は茶褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・黄褐色砂を含む。

### 出土遺物（図17～図18）

18～43は遺構覆土出土。18～25はかわらけ。26は青白磁梅瓶。27は白磁口元皿。28は瀬戸折縁深皿。29～31は常滑甕。32は常滑片口鉢I類。33は常滑片口鉢II類。34～35は常滑甕転用品。36は瓦器質火鉢。37は石製品砥石。38は滑石鍋転用品・温石か。39は鉄製品用途不明。40～43は鉄製品釘。

44～45は床面直上出土遺物。44～45はかわらけ。

その他に青磁蓮弁文碗・青白磁合子・獸骨が破片で出土している。

### 遺構37（図13）

個別に図面は掲載していない。調査区外に遺構が伸び規模・形状は不明。土坑と考えている。遺構覆土は茶褐色砂質土・炭化物・貝砂・褐色有機質土を含む。

### 出土遺物（図18）

46は常滑片口鉢I類。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

### 遺構38（図16）

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土・多量の炭化物・貝砂・褐色粘質土を含む。

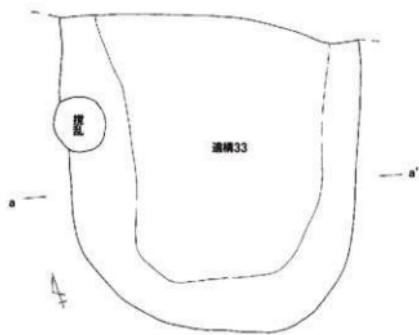
### 出土遺物（図18）

47～50はかわらけ。51は常滑片口鉢II類。52は鉄製品掛け金具。53は鉄製品釘。その他に青磁蓮弁文碗・瀬戸入子・常滑甕・瓦器質火鉢・繩の羽口・獸骨が破片で出土している。

### 遺構39（図16）

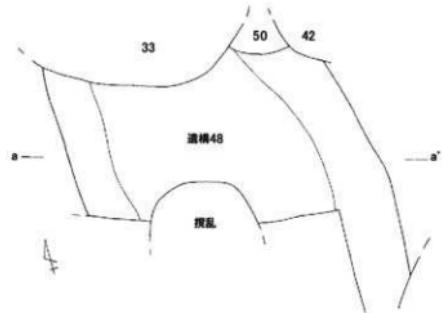
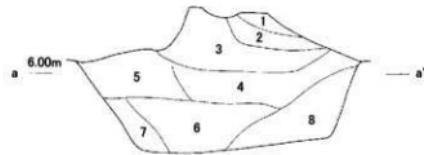
調査区外に遺構が伸び、遺構38に切られるため規模・形状は不明であるが土坑と考えている。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。出土遺物はない。

### 遺構40（図13）



〈土層註記〉

1. 墓茶褐色砂質土 貝砂多・炭化物
2. 墓黃褐色砂質土 貝砂少・泥炭質・炭化物
3. 黑灰色砂質土 泥炭質・炭化物・貝砂・褐色粘土
4. 墓茶灰色砂質土 炭化物・貝砂・褐色粘土
5. 墓茶灰色砂質土 泥炭質・貝砂・炭化物
6. 墓茶灰色砂質土 泥炭質・炭化物・貝砂多
7. 墓茶灰色砂質土 貝砂多・泥炭質
8. 墓黃褐色砂質土 炭化物多・泥炭質



〈土層註記〉

1. 墓黃褐色砂質土 墓灰色砂多・縛まりあり
2. 墓黃褐色砂質土 炭化物・有機質土・縛まりあり
3. 黑灰色砂質土 黃褐色砂多・炭化物
4. 黑灰色砂質土 黄褐色砂多・炭化物・縛まりあり
5. 墓黃褐色砂質土 墓灰色砂・炭化物多・貝砂・縛まりあり
6. 黑灰色砂質土 貝砂多・炭化物・有機質土
7. 墓黃褐色砂質土 炭化物・貝砂・有機質土
8. 黑灰色砂質土 泥炭質・炭化物・貝砂多・有機質土
9. 墓黃褐色砂質土 貝砂多・炭化物・有機質土
10. 墓茶褐色砂質土 黄褐色砂多・炭化物・貝砂

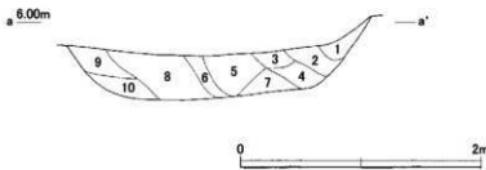
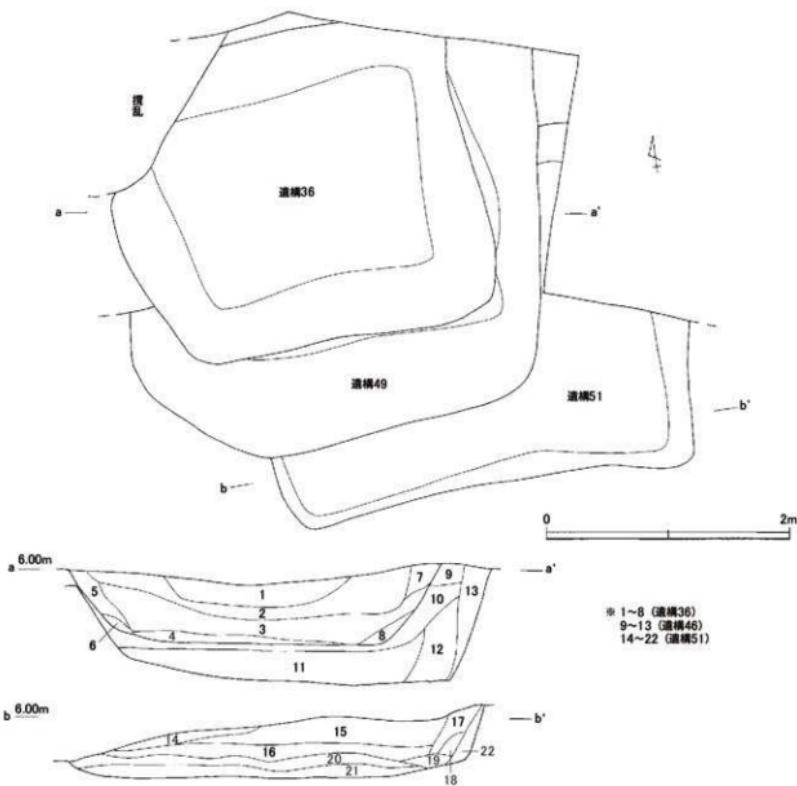


図14 第2面個別遺構(1)



(土層註記)

1. 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂
2. 茶褐色砂質土 泥岩粒多量・炭化物・褐色粘質土
3. 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・褐色粘質土・貝砂
4. 棕色砂質土 炭化物・褐色粘質土・貝砂・茶褐色砂
5. 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂・黃褐色砂
6. 黃褐色砂質土 炭化物・褐色粘質土・褐色砂
7. 棕色砂質土 褐色粘質土・炭化物・貝砂
8. 黃褐色砂質土 褐色粘質土多量・貝砂
9. 黃褐色砂質土 泥岩粒・炭化物多量・貝砂・黃褐色砂
10. 緩茶褐色砂質土 炭化物・貝砂・黃褐色砂
11. 黃褐色砂質土 炭化物・貝砂・茶色有機質土
12. 黃褐色砂質土 炭化物多量・褐色有機質土・貝砂
13. 緩茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂
14. 緩茶褐色砂質土 炭化物・貝砂多量
15. 茶褐色砂質土 炭化物
16. 黃褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂
17. 茶褐色砂質土 炭化物
18. 緩茶褐色砂質土 貝砂
19. 緩茶褐色砂質土 貝砂
20. 緩茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂
21. 緩茶褐色砂質土 炭化物・貝砂
22. 茶褐色砂質土 炭化物・貝砂

図 15 第2面個別造構(2)

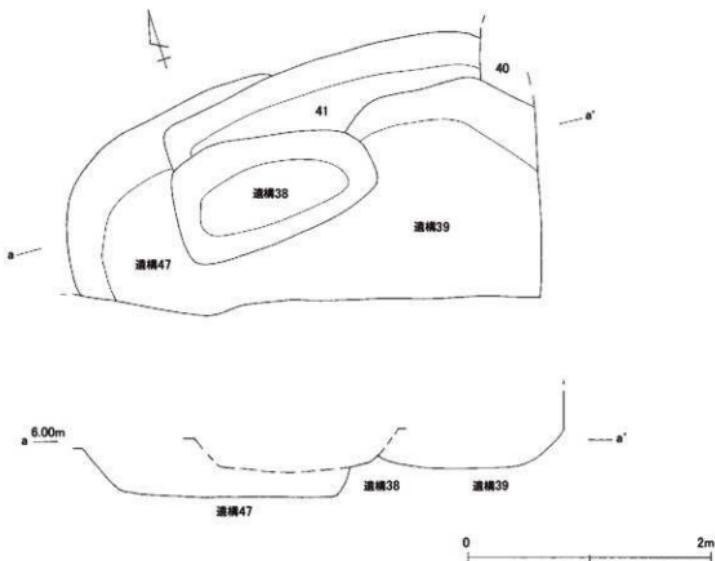


図16 第2面個別遺構(3)

個別に図面は掲載していない。調査区外に遺構が延び、遺構30に切られ規模・形状は不明であるが土坑と考えている。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・炭化物・貝砂・褐色有機質土を含む。

#### 出土遺物(図18)

54～55は常滑窯。その他にかわらけ・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構41(図16)

調査区外に遺構が延び、遺構38・39・40に切られ規模・形状は不明となったが堅穴建物と考えている。遺構覆土は暗褐色砂質土・炭化物多量・泥岩粒・貝砂を含む。

#### 出土遺物(図18)

56～58はかわらけ。59は常滑窯。60は鉄製品刀子。その他に鉄津・輪の羽口・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構42(図13)

個別に図面は掲載していない。搅乱と遺構33・36に切られ規模・形状は不明となったが堅穴建物と考えている。遺構覆土は茶褐色砂質土・炭化物多量・褐色砂・貝砂を含む。

#### 出土遺物(図18)

61は常滑窯。62は土器質火鉢。その他にかわらけ・青磁蓮弁文碗・鉄製品釘・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構44(図13)

個別に図面は掲載していない。調査区外に遺構が延び規模・形状は不明となった。遺構覆土は暗茶褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂・褐色有機質土を含む。

#### 出土遺物(図18)

63～67はかわらけ。68は常滑窯。69は常滑片口鉢II類。その他に常滑片口鉢I類・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構46(図13)

遺構44・49・51・54・59に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。

#### 出土遺物(図18)

70はかわらけ。71は常滑片口鉢I類。そのほかに獸骨が出土している。

#### 遺構47(図16)

調査区外に遺構が延び、遺構38・41に切られ規模・形状は不明であるが堅穴建物と考えている。遺構覆土は暗褐色砂質土・炭化物・黄褐色砂・褐色有機質土を含む。

#### 出土遺物(図18)

72はかわらけ。73は常滑窯。74は常滑片口鉢II類。75～76は石製品砥石。その他に獸骨が出土している。

#### 遺構48(図14)

調査区外に遺構が延び、遺構33に切られるため規模・形状は不明となった。遺構覆土は暗黄褐色砂質土・炭化物・茶色有機質土・貝砂・黄褐色砂を多く含む。

#### 出土遺物(図19)

77はかわらけ。78は常滑窯。79は常滑片口鉢I類。80～81は鉄製品釘。その他に渥美窯・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構49(図15)

調査区外に遺構が延び、遺構36に大きく切られる。堅穴建物である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂・茶色有機質土・黄褐色砂を含む。

#### 出土遺物(図19)

82～95はかわらけ。96～97は常滑窯。98は常滑片口鉢I類。99は吉備系碗。100～104は鉄製品釘。その他に青白磁梅瓶・常滑片口鉢II類・繩の羽口・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構50(図13)

遺構33・42に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は黄灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・暗灰色砂質土・貝砂を含む。

#### 出土遺物(図19)

105は鉄製品釘。その他にかわらけ・常滑窯・獸骨が破片で出土している。

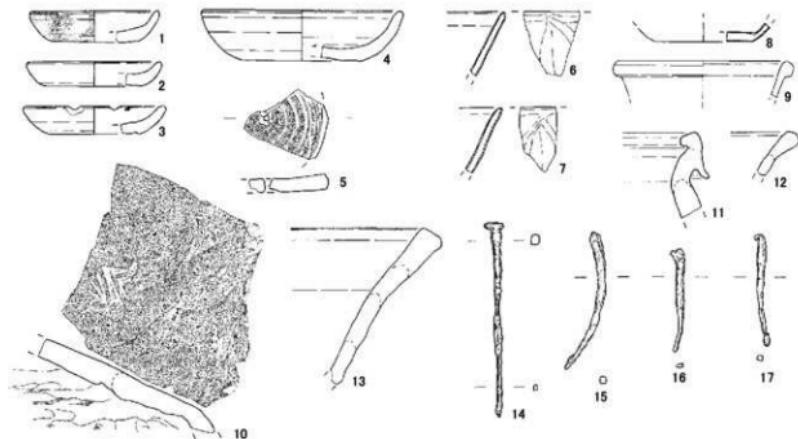
#### 遺構51(図15)

調査区外に遺構が延び、遺構36・49に切られる。堅穴建物である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

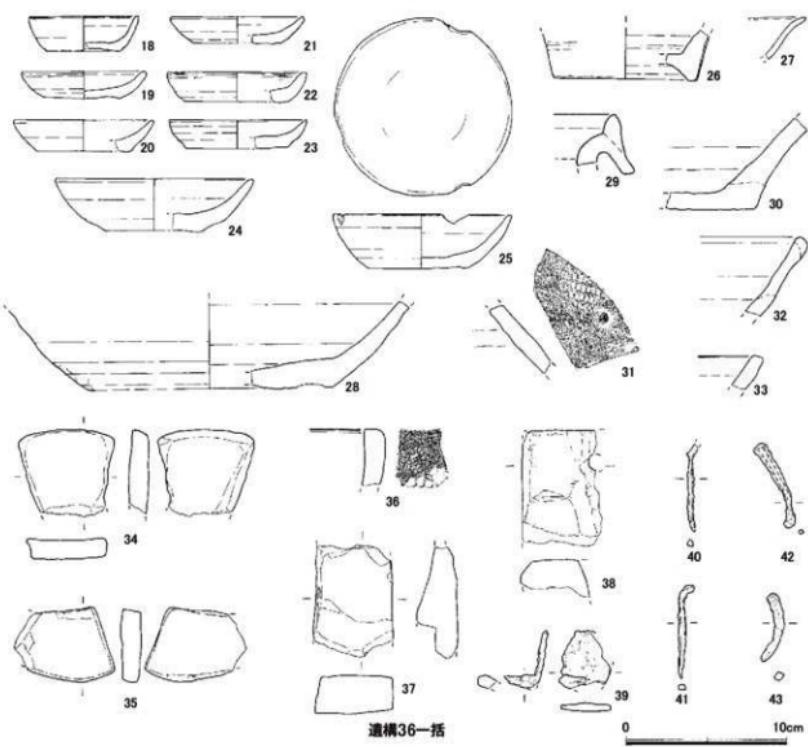
#### 出土遺物(図19)

106～117は遺構覆土出土遺物。106～107はかわらけ。108は青磁鑄蓮弁文碗。109は常滑窯。110は常滑片口鉢II類。111は石製品砥石。112は石製品軽石。113～117は鉄製品釘。

118は掘り方出土遺物。118は青磁鑄蓮弁文碗。その他に青白磁壺・瀬戸壺・獸骨が破片で出土している。



遺構33



遺構36一括

図17 第2面個別遺構出土遺物(1)

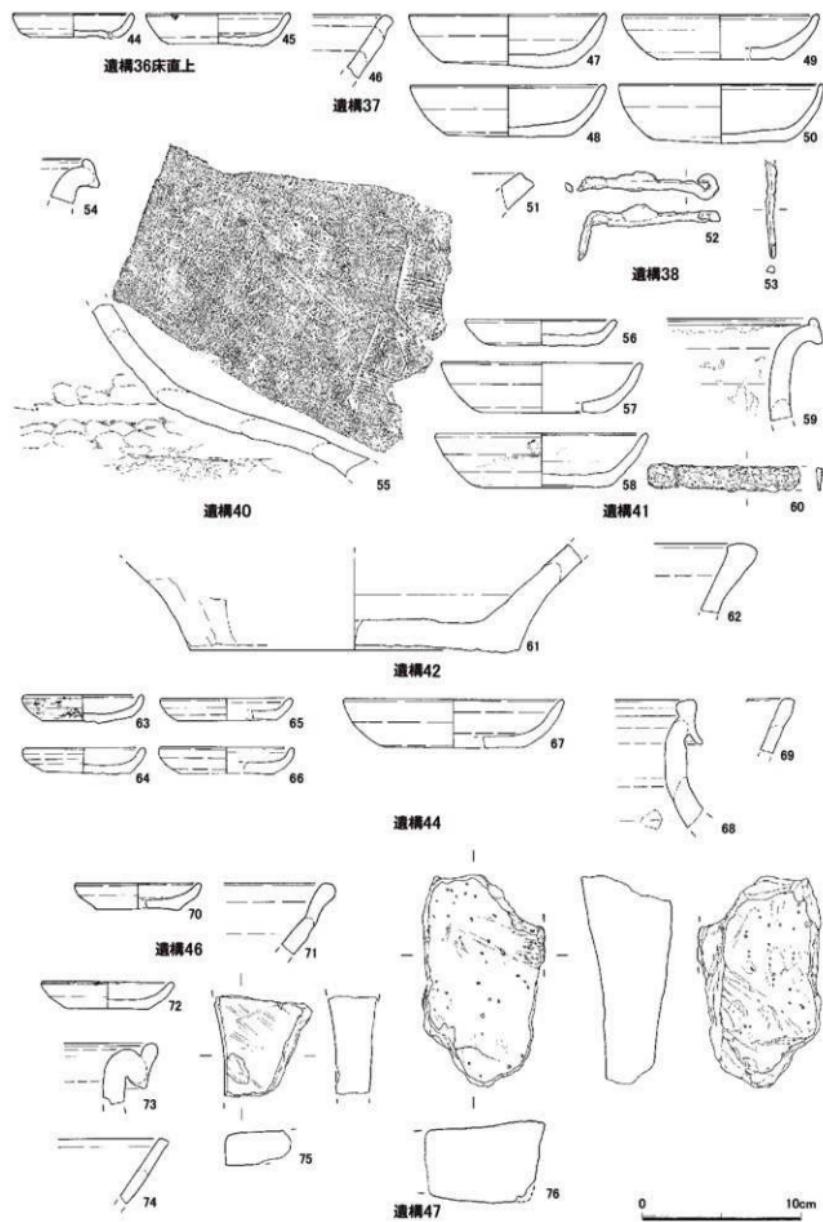


図18 第2面個別遺構出土遺物(2)

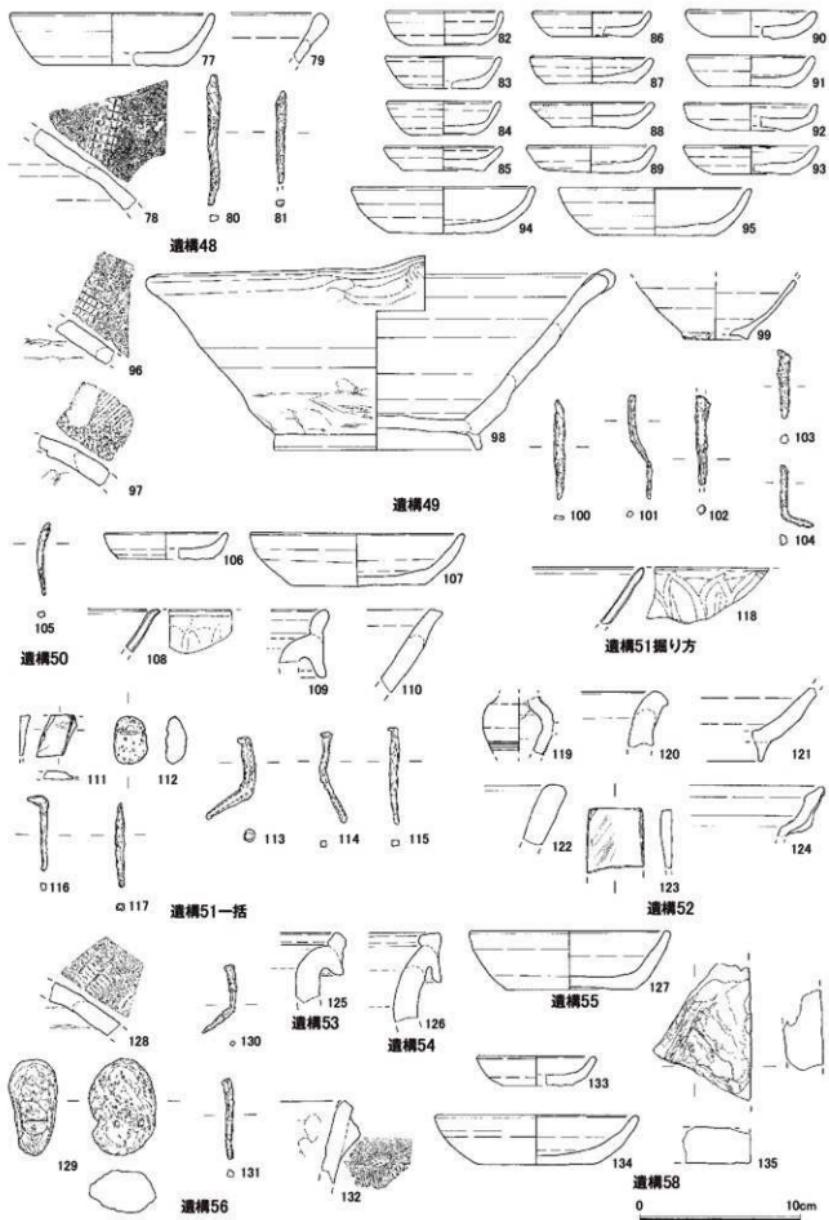


図 19 第2面個別遺構出土遺物

### 遺構52(図13)

個別に団面は掲載していない。遺構47・51に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・貝砂・褐色有機質土を含む。

### 出土遺物(図19)

119は瀬戸水滴。120は瀬戸壺。121は常滑片口鉢I類。122は瓦器質火鉢。123は石製品砥石。124は鉄製品鍋。その他にかわらけ・青磁籠蓮弁文碗・常滑壺・鉄製品釘・獸骨が破片で出土している。

### 遺構53(図13)

個別に団面は掲載していない。調査区外に遺構が延び、遺構51に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗茶灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・暗褐色砂質土・貝砂・褐色有機質土を含む。

### 出土遺物(図19)

125は常滑壺。その他にかわらけ・常滑片口鉢I類・獸骨が破片で出土している。

### 遺構54(図13)

個別に団面は掲載していない。調査区外に遺構が延び、遺構44・52に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・褐色有機質土・貝砂を含む。

### 出土遺物(図19)

126は常滑壺。その他にかわらけ・渥美甕・獸骨が破片で出土している。

### 遺構55(図13)

遺構37・41・51・53に切られ、僅かに遺構の底面が残っていた。規模・形状は不明。遺構覆土は暗灰色砂質土・泥岩粒・炭化物・黄褐色砂を含む。

### 出土遺物(図19)

127はかわらけ。その他に常滑壺・常滑片口鉢I類・鉄製品釘・輪の羽口・鍔釜・獸骨が破片で出土している。

### 遺構56(図13)

遺構42・49に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗灰色砂質土・泥岩・炭化物・黄褐色砂を含む。

### 出土遺物(図19)

128は常滑壺。129は石製品軽石。130～131は鉄製品釘。132は円筒埴輪。その他にかわらけ・常滑片口鉢I類・瓦器質火鉢・土器質火鉢・獸骨が破片で出土している。

### 遺構58(図13)

遺構44・48に切られ規模・形状は不明である。遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・貝砂・黄褐色砂多量を含む。

### 出土遺物(図19)

133～134はかわらけ。135は石製品硯。その他に常滑壺・常滑片口鉢II類・獸骨が破片で出土している。

## 第2面面上出土遺物(図20・図21)

第1面遺構検出後、第2面遺構のプラン確認時に出土した遺物である。1～30はかわらけ。31～32は青磁籠蓮弁文碗。33は舶載天目碗。34～37は瀬戸鉢皿。38は渥美無頸壺。39～44は常滑壺。45～49は常滑片口鉢I類。50～52は常滑片口鉢II類。53は尾張型片口鉢。54は山茶碗。55は土器質火鉢。

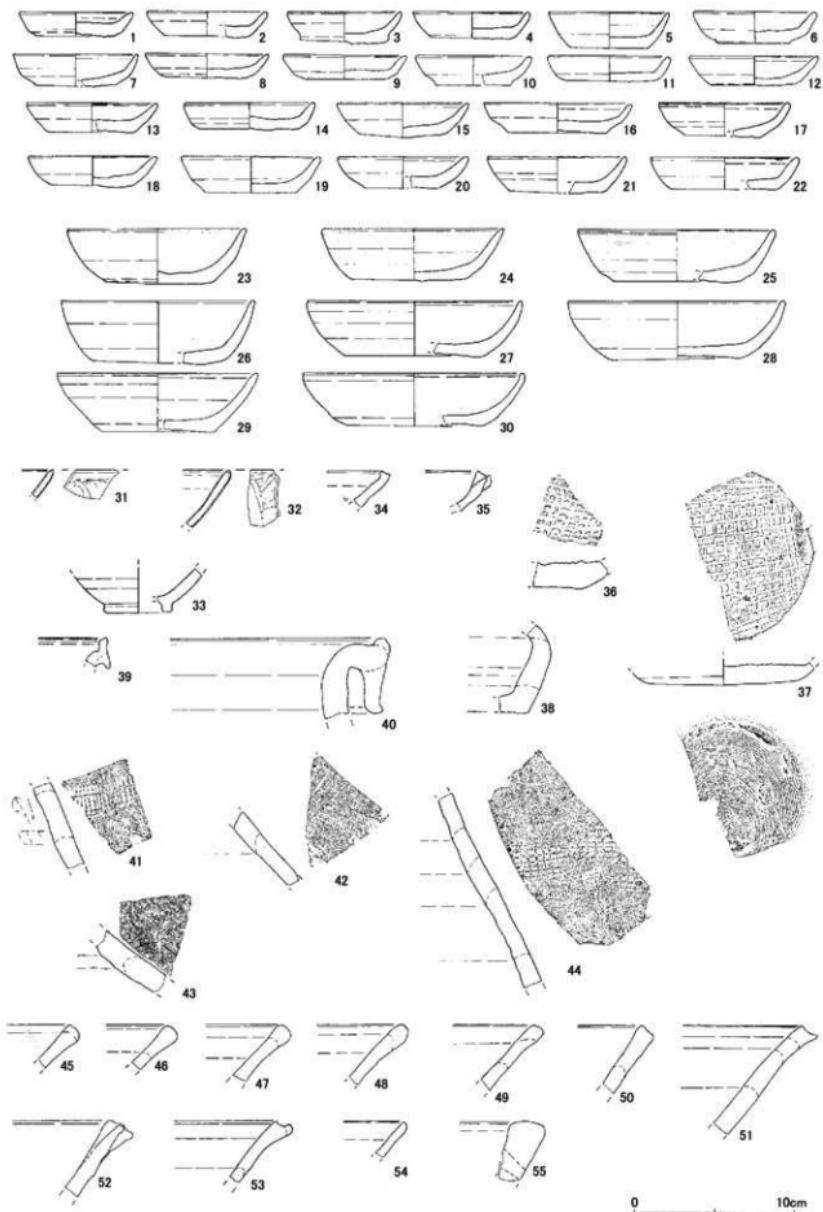


图20 第2面面上出土遗物(1)

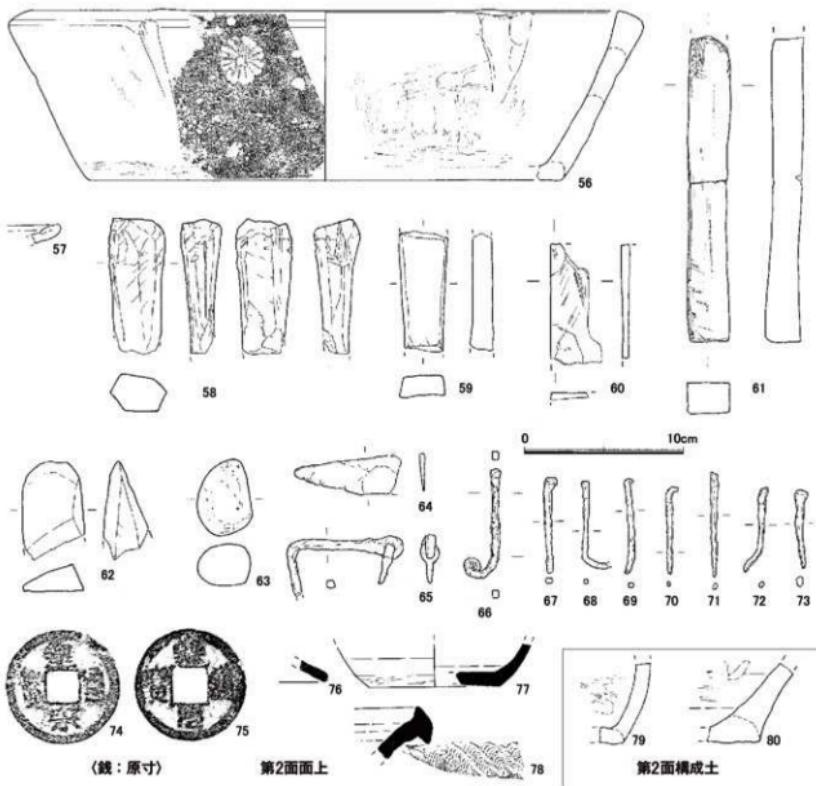


図21 第2面上面・構成土出土遺物(2)

56は瓦器質火鉢。57は南伊勢系土鍋。58～61は石製品砥石。62は石製品用途不明。63は石製品軽石。64は鉄製品刀子。65は鉄製品掛金具。66～73は鉄製品釘。74～75は銭。76は須恵器蓋。77は須恵器壺。78は須恵器甕。そのほかに手づくね・白磁口兀皿・青白磁梅瓶・常滑壺・瓦・鉄滓・轆の羽口・土師器甕・獸骨が破片で出土している。

#### 第2面構成土出土遺物(図21)

第2面構成土から出土した遺物である。79は常滑壺。80は常滑甕。その他にかわらけ・手づくね・青磁鎬蓮弁文碗・瀬戸花瓶・轆の羽口・土師器甕・獸骨が破片で出土している。

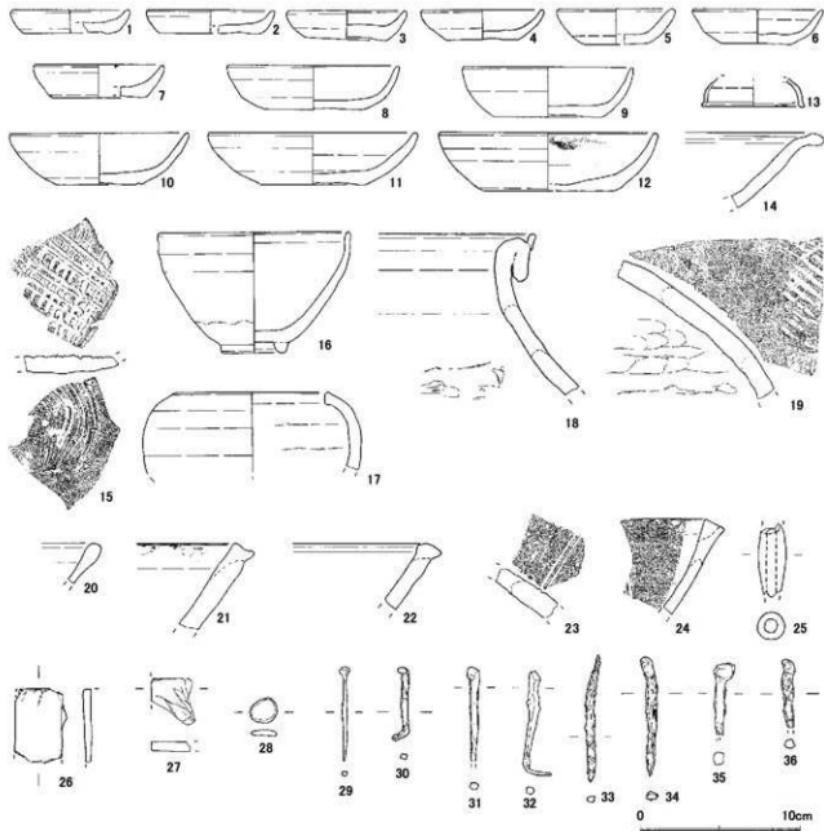


図22 表土採集遺物

#### 表土採集遺物(図22)

表土から第1面検出までの堆積層で発見した遺物である。

1～12はかわらけ。13は白磁合子蓋。14は瀬戸折縁深皿。15は瀬戸卸皿。16は瀬戸天目碗。17は常滑無頭壺。18は常滑甕。19は涅美甕。20は常滑片口鉢I類。21～22は常滑片口鉢II類。23は涅美甕。24は備前擂鉢。25は土製品土錘。26～27は石製品碁石。28は石製品碁石か。29～36は鉄製品釘。

### 第三章　まとめ

鎌倉市街地遺跡の南端に位置する本遺跡を含む砂丘上の遺跡地では、縄文期の遺物は数点出土しているが生活の痕跡は認められない。弥生時代から古墳時代になると、遺構・遺物が発見され、古墳時代後期から平安時代前期にかけてより多くの遺構・遺物を発見する。その後数百年の空白期間を経て自然堆積の風成砂層に中世の遺跡が発見される。

本調査では竪穴建物を中心に土坑・ピットなどを検出した。発見した遺構は地業層を掘りこんで構築されていないため、遺構の切りあいによって生活面を2枚に分けて報告した。第1面・第2面共に多くの遺構が切りあい、重複した遺構を検出している。発見した竪穴建物は長軸・単軸とともに3m前後の方形を呈し、やや小型の竪穴建物であった。また、第1面・第2面共に発見した竪穴建物は軸方位を同一とし、短期間に同位置で遺構の造り替えが行われた様子が窺える。

出土した遺物はかわらけ、常滑窯製品を中心に、国内窯製品、舶載製品など多様な遺物が出土した。また埴堀・鋳型の出土はなかったが、遺構覆土・堆積土等から多くの縁の羽口・鉄滓が破片で出土している。遺物の出土だけで鋳物の作業場、あるいは工人の存在を云々することはできないが、海浜城の竪穴建物が発見される一帯で石材加工、骨格加工等の工人の存在を窺わせる遺跡地が多いことを考えると、本調査地を含む周辺で鋳物師・鋳物工房の存在を考える事も出来るのではないかと思っている。第2面の遺構からは手づくねかわらけの出土量が若干増える傾向が見られるが、遺構の切り合いが激しく、それぞれの遺構が廃棄される段階で混入したものが多く、遺物が混乱しているため年代の細分は困難であった。遺構の存続年代は第1面・第2面ともに概ね14世紀代と考えている。

調査地から直線距離で北西に150mの地点にある和田塚は、明治20年に開通した道路工事中、塚を切り崩した際に人物埴輪三体、馬埴輪、円筒埴輪が発見されている。現在では土盛りされた塚（和田塚）が一基残っているだけだが、周辺には5世紀後半に比定される高塚古墳の下向原古墳群があったとされる。本調査地では第2面の遺構56覆土から5世紀後半に比定される円筒埴輪の破片が発見され、調査地周辺の古墳群の存在を示唆するものと考えている。

湧水のために中世以下の堆積層を確認することはできなかったが、須恵器・土師器などの古代遺物を数点、破片ではあるが発見し、報告した中世の生活面下層に古代の生活遺構の存在を窺わせた。

＜参考文献＞（本報分に共通する）

- ・「中世瀬戸窯の研究」 高志書院 藤澤良祐 2008年
- ・「愛知県史別編窯業3 中世・近世常滑系」 愛知県 常滑・中野晴久 2012年
- ・「愛知県史別編窯業3 中世・近世常滑系」 愛知県 涠美・安井俊則 2012年
- ・「大宰府条坊跡X V -陶磁器分類編-」 太宰府市教育委員会 2000年
- ・「日本歴史大系14巻」「神奈川県の地名」 平凡社 1984年
- ・「鎌倉市史 總説編」 高柳光寿 吉川弘文館 1959年
- ・「鎌倉市史 考古編」 赤星直忠 吉川弘文館 1967年
- ・「鎌倉市史 社寺編」 高柳光寿・佐藤栄智・川副竹胤・貫達人 吉川弘文館 1972年
- ・「鎌倉市史 近代通史編」 吉川弘文館 平成六年
- ・「鎌倉事典」 東京堂出版 平成4年 白井永二

遺構計測表

遺構No	面	長軸	短軸	深さ	遺構No	面	長軸	短軸	深さ
遺構 2	1	115	76	27	遺構 31	1	200	(160)	31
遺構 3	1	124	(53)	40	遺構 32	1	195	175	19 ~ 28
遺構 4	1	135	90	23	遺構 33	2	(235)	(220)	75 ~ 120
遺構 5	1	(94)	(85)	60	遺構 34	1	—	—	12
遺構 6	1	(226)	(187)	80	遺構 36	2	293	255	56 ~ 85
遺構 7	1	163	(110)	70	遺構 37	2	(82)	(108)	34
遺構 8	1	不明	(38)	75	遺構 38	2	168	94	32
遺構 9	1	295	276	67 ~ 76	遺構 39	2	(130)	(63)	59
遺構 11	1	220	(96)	74	遺構 40	2	(96)	(34)	40
遺構 12	1	(400)	226	40 ~ 50	遺構 41	2	(276)	(61)	44
遺構 13	1	(49)	55	42	遺構 42	2	220	(86)	24
遺構 14	1	(304)	(150 ~ 174)	42 ~ 82	遺構 44	2	210	(82)	42
遺構 15	1	70	(38)	28	遺構 45+49	2	(350)	350	60 ~ 100
遺構 16	1	(150)	134 ~ 153	46	遺構 46	2	—	—	31
遺構 17	1	(96)	(95)	51	遺構 47	2	210	168	48
遺構 18	1	39	29	21	遺構 48	2	245	(131)	40 ~ 60
遺構 19	1	(260)	(98)	27 ~ 39	遺構 49	2	343	(340)	69
遺構 20	1	(150)	(83)	25	遺構 50	2	—	—	31
遺構 21	1	(92)	30	9	遺構 51	2	346	(140)	50 ~ 64
遺構 22	1	(254)	(211)	44	遺構 52	2	210	(104)	30
遺構 23	1	—	—	35	遺構 53	2	(74)	(71)	70
遺構 24	1	(156)	(66)	36	遺構 54	2	(250)	(64)	36
遺構 25	1	(109)	(66)	75	遺構 56	2	141	114	18
遺構 27	1	(104)	98	45	遺構 57	2	(82)	76	5 ~ 9
遺構 28	1	(187)	—	16	遺構 58	2	(100)	52	30
遺構 29	1	150	126	17 ~ 26					

出土遺物観察表

団版 No.	No.	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容
8	1	遺構 3	瓦器質 火鉢	(43.2)	(32)	15.4	a. 軸組み技法 b. 壁土・素地・材質 c. 色調 d. 軸調 e. 「進存値」 g. 比考 a. 軸組み技法のミガキ 黒色處理 外底面砂絞 b. 黄灰色 砂粒・白色粒・小石粒 粗土 c. 黄 灰色 d. 軸質ナメ L口縁4寸~底部一部 g. 菊花文・玄文の押印 進存文號り付付 進行形板状脚 合組 a. ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 磨擦・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄 灰色 e. 良好 L1/4
8	2	遺構 5	かわらけ	(8.5)	(5.0)	2.3	-
8	3	遺構 5	空甕 甕	-	-	-	a. 軸組み技法 b. 壁灰色 砂粒・長石・石英 c. 壁灰褐色 e. 硬質 L口縁部分
8	4	遺構 5	片口縁2型	-	-	-	a. 軸組み技法 b. 壁灰色 砂粒・長石・石英 c. 壁灰褐色 e. 硬質 L口縁部分
8	5	遺構 5	瓦製品 用底穴不明	(9.8)	0.8	0.4	f. 先端欠損 g. 黄赤?
8	6	遺構 6	繩口 折縁甕	-	-	-	a. ロクロ 黄褐色 砂粒・良土 d. 黄褐色 滴け掛けの後継毛筆り e. 良好 L口縁部分 中期後手
8	7	遺構 6	空甕 甕	-	-	-	a. 軸組み技法 b. 黄褐色 砂粒・長石・石英 c. 壁褐色 e. 硬質 L口縁部分
8	8	遺構 6	瓦製品 甕	7.0	0.5	0.3	a. 斜面方形 距造
8	9	遺構 6	瓦製品 甕	6.5	0.7	0.4	a. 斜面方形 距造
8	10	遺構 6	瓦製品 甕	5.5	0.5	0.4	a. 斜面方形 距造
8	11	遺構 6	瓦製品 甕	7.1	0.6	0.7	a. 斜面方形 距造
8	12	遺構 7	かわらけ	6.4	4.0	1.9	a. ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 磨擦多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒・粗土 c. 黄褐色 e. 良好 L完形 g. 口部一部油黽底
8	13	遺構 7	瓦製品 甕	5.4	0.4	0.3	a. 斜面方形 距造
8	14	遺構 7	瓦製品 甕	3.6	0.5	0.5	a. 斜面方形 距造 端付着
8	15	遺構 8	かわらけ	(7.3)	(4.0)	1.6	a. ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 磨擦・雲母・赤色粒・やや粗土 c. 黄褐色 e. や や甘い L1/4
8	16	遺構 9	かわらけ	(7.1)	(4.4)	1.7	a. ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 磨擦・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄 褐色 e. やや甘い L1/4
8	17	遺構 9	かわらけ	(7.6)	4.7	2.0	a. ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 磨擦・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄褐色 e. 良好 (2/3 g. 口部打ちつき 油黽底
8	18	遺構 9	かわらけ	(7.8)	(4.3)	2.0	a. ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 磨擦・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄 褐色 e. 良好 L1/3
8	19	遺構 9	かわらけ	(7.6)	(4.9)	1.9	a. ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 磨擦・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗 土 c. 黄褐色 e. 良好 L1/3
8	20	遺構 9	かわらけ	(10.8)	(5.7)	3.1	a. ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 磨擦・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄 褐色 e. 良好 L1/3 g. L口縁内一部黒色に変色
8	21	遺構 9	白磁 口丸瓶	-	-	-	a. ロクロ b. 白色 黑色粒・難可窓 d. 黄白色 口底部膨脹 L口縁部分
8	22	遺構 9	繩口 甕	-	-	-	a. ロクロ b. 黄褐色 砂粒・白色粒・難土 d. 黄綠色 破毛筆り e. 良好 L口縁部分
8	23	遺構 9	繩口 人子	(7.1)	(4.1)	2.0	a. ロクロ b. 黄白色 砂粒・黑色粒少量 c. 黄白色 e. 良好 硬質 L口縁部分
8	24	遺構 9	空甕 甕	-	-	-	a. 軸組み技法 b. 赤褐色 磨擦・白色粒・長石 c. 壁灰褐色 e. 硬質 L口縁部分
8	25	遺構 9	空甕 甕	-	-	-	a. 軸組み技法 b. 黄褐色 磨擦・長石・石英 c. 壁灰褐色 e. 硬質 L口縁部分
8	26	遺構 9	繩口 圓沫	-	-	-	a. 軸組み技法後 b. ロクロ b. 黄褐色 砂粒・長石・石英 黑色粒 c. 壁褐色 e. 良好 硬質 L網部片 g. 网部の目地
8	27	遺構 9	かわらけ 加工品	(2.0)	(1.6)	0.5	a. 軸孔部孔・斜位の麻線 b. 磨擦・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 L用盡不明
8	28	遺構 9	石製品 瓶底	(5.0)	2.0	1.5	a. 硬面4面 c. 黄褐色 中底 上野産
8	29	遺構 9	石製品 瓶底	(6.0)	(3.2)	(0.5)	a. 硬面1面 c. 黄褐色 g. 仕上げ刷・鳴き声
8	30	遺構 9	石製品 瓶底	(4.4)	2.1	1.1	a. 硬面2面 切り出し削・搬削あり b. 小口切り取り痕 c. 壁褐色 g. 仕上研 鳴き声
8	31	遺構 9	瓦製品 甕	7.5	0.3	0.4	a. 斜面方形 距造
8	32	遺構 9	瓦製品 甕	9.5	0.8	0.4	a. 斜面方形 距造
8	33	遺構 9	瓦製品 甕	7.8	0.6	0.7	a. 斜面方形 距造
8	34	遺構 9	瓦製品 甕	5.5	0.3	0.5	a. 斜面方形 距造
8	35	遺構 9	瓦製品 甕	(5.8)	0.5	0.3	a. 斜面方形 距造 L端部欠損
8	36	遺構 9	瓦製品 甕	(5.0)	0.5	0.5	a. 斜面方形 距造 L端部欠損
8	37	遺構 9	灰面	かわらけ	8.1	4.8	2.0 a. ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 磨擦・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. やや甘い L元品 g. 口部一部黒色に変色
8	38	遺構 9	空甕 甕	片口縁2型	-	-	a. 軸組み技法 b. 黄褐色 黑色粒・白色粒・長石・石英 c. 壁褐色 e. 硬質 L口縁部分
8	39	遺構 9	空甕 甕	片口縁2型	-	-	a. 軸組み技法 b. 黄褐色 黑色粒・白色粒・長石・石英 c. 壁褐色 e. 硬質 L口縁部分
8	40	遺構 11	船 茶入れ	-	(4.9)	-	a. ロクロ b. 黄褐色 白色粒 d. 壁灰褐色 e. 壁黒 L底部片

単位(cm)

出土遺物観察表

図版 No.	出土遺構	種別	口径 長さ	板厚 幅	器高 厚さ	観察内容	
						a:成形・調整 b:粘土・素地・材質 c:色調 d:輪調 e:焼成 f:遺存状 g:参考	
8. 41	遺構 11	瀬戸 鉢皿	-	-	-	a.クロ b.灰色 微妙含む且し d.明灰緑色 粗毛巻り e.良好 f.口縁部片 g.二次焼成を受け輪調	
8. 42	遺構 11	常滑 片口碗	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰褐色 精妙・長石・石英 c.褐色 e.破質 f.口縁部・脚部片	
8. 43	遺構 11	常滑 系 鉢	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 細緻・黑色粒・白色粒・長石 c.灰色 e.良好 f.口縁部片	
8. 44	遺構 11	常滑 軽量品	32	57	14	a.輪積み技法 b.黄褐色 精妙・長石・石英 c.黃褐色 e.破質 f.脚部用品 断面拵	
8. 45	遺構 11	良賀 鋤金	(9.0)	(19)	0.3	L端部欠損 g.底部中央に0.4cmの孔あり	
8. 46	遺構 11	良賀 鋤金	(5.3)	0.4	0.5	a.断面方形 織造 L端部欠損	
9. 47	遺構 12	かわらけ	(7.0)	(43)	1.5	a.クロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・赤切り直 b.微妙多・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄褐色 e.脚部 L1/3	
9. 48	遺構 12	かわらけ	(7.0)	(58)	1.4	a.クロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・赤切り直 b.微妙・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 L1/4	
9. 49	遺構 12	かわらけ	(7.0)	(58)	1.8	a.クロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・赤切り直 b.微妙・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 L1/4 g.脚部 滑落部	
9. 50	遺構 12	朝載 瓦刀碗	-	-	-	a.クロ b.灰色 黒色粒・白色粒・粗土 d.黒繩釉 f.口縁部片 g.小柄	
9. 51	遺構 12	瀬戸 新様窯	-	(15.4)	-	a.クロ b.灰色 開妙・直土 d.灰緑色の灰斑を網毛巻りの後だけ掛け e.良好 f.底部片 g.内面丸括入と後期前手	
9. 52	遺構 12	常滑 片口路亞型	-	-	-	a.輪積み技法 外面部上部横状ナメ調整 d.下部板状に工具による調整 b.灰褐色 精妙・白色粒・長石 c.明灰褐色 e.破質 f.脚部片	
9. 53	遺構 12	常滑 片口路亞型	-	-	-	a.輪積み技法 外面部上部横状ナメ調整 d.下部板状に工具による調整 b.灰褐色 精妙・白色粒・長石 c.明灰褐色 e.破質 f.脚部片	
9. 54	遺構 12	土器 火鉢	-	-	-	a.輪積み技法 口舒張き直 b.褐色 精妙・白色粒・海綿骨芯・小石粒 c.茶褐色 e.やがい L1/3脚部片	
9. 55	遺構 12	土器 土鉢	(5.6)	胴径 2.0	孔径 0.6	c.灰褐色	
9. 56	遺構 12	石器 鏡	(6.5)	(5.1)	(2.3)	c.赤褐色 L脚部 g.赤開闊開闊	
9. 57	遺構 12	石器 用途不明	62	2.3	1.3	a.軽用品 c.灰褐色 g.端部崩壊	
9. 58	遺構 12	石器 砥石	(11.1)	(5.4)	(1.9)	a.帆前 L面 c.暗褐色 g.中柄 天草産	
9. 59	遺構 12	骨製品 管	(4.1)	1.5	0.3	-	
9. 60	遺構 12	常滑 甕	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 精妙・長石・石英 c.茶褐色 e.破質 f.口縁・脚部片	
9. 61	遺構 12	常滑 甕	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 精妙・長石・石英 c.茶褐色 e.破質 f.口縁・脚部片 g.中野編り型式	
9. 62	遺構 12	常滑 甕	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 精妙・長石・石英 c.茶褐色 e.破質 f.口縁・脚部片 g.中野編り型式	
9. 63	遺構 12	常滑 甕	(5.0)	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 精妙・長石・石英 c.茶褐色 e.破質 f.口縁・脚部片 g.斜格子の明字印	
9. 64	遺構 12	常滑 甕	(5.5)	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 精妙・長石・石英 c.褐色 e.破質 f.口縁・脚部片/1/4 g.7型式 斜格子文印	
9. 65	遺構 12	常滑 甕	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 精妙・長石・石英 c.褐色 e.破質 f.脚部片 g.斜格子文印き印 国9.66と同じ個体と思われる	
9. 66	遺構 12	常滑 甕	(5.0)	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 精妙・長石・石英 c.茶褐色 e.破質 f.口縁・脚部片/6 g.10型式	
9. 67	遺構 12	備前 信詠	-	-	-	a.輪積み技法 口縁ナメ調整 b.灰褐色 精妙・小石粒 c.灰白色 e.良好 f.口縁部片	
10. 68	遺構 13	かわらけ	(7.0)	(4.6)	1.8	a.クロ b.淡黄色 微妙・白色粒・精真土 d.明灰緑色 粗毛巻り (内面一面内削下まで) e.良好 f.口縁・脚部片 L1/2	
10. 69	遺構 13	瀬戸 鉢皿	(14.1)	(6.5)	3.0	a.クロ b.淡黄色 微妙・白色粒・精真土 d.明灰緑色 粗毛巻り (内面一面内削下まで) e.良好 f.口縁・脚部片 L1/3 即ちなし	
10. 70	遺構 14	かわらけ	(6.0)	(4.2)	1.5	a.クロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・赤切り直 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 f.良好 L1/2	
10. 71	遺構 14	かわらけ	7.6	6.2	1.6	a.クロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・赤切り直 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 f.良好 L1/2 はげ足品	
10. 72	遺構 14	かわらけ	(9.0)	(6.8)	2.5	a.クロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・赤切り直 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.褐色 e.良好 f.良好 L1/2	
10. 73	遺構 14	瀬戸 瓶	-	-	-	a.クロ b.淡黄色 精妙・白色粒含・荷先臭味 d.黒繩釉 滑け跡 e.良好 f.脚部片 L-1/3 g.肩部・之文	
10. 74	遺構 14	常滑 甕	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 精妙・黑色粒・長石・石英 c.茶褐色 e.破質 f.肩・脚部片 g.斜格子文印き印	
10. 75	遺構 14	片口路亞型	-	-	-	a.輪積み技法 b.暗褐色 精妙・長石・石英 c.灰褐色 e.破質 f.口縁部片	
10. 76	遺構 14	常滑 片口路亞型	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 精妙・長石・石英 c.暗褐色 e.破質 f.口縁部片	
10. 77	遺構 14	常滑系 鉢	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 精妙・黑色粒・白色粒・小石粒 c.灰色 e.良好 f.口縁部片	
10. 78	遺構 14	石器 砾石	-	-	-	a.帆前 L面 横面切り出し直 c.黄褐色 g.仕上刷 帽溝底 軽用道中心・二次加工底あり	
10. 79	遺構 14	良賀 鋤金	7.0	0.5	0.5	a.断面方形 織造	
10. 80	遺構 14	良賀 鋤金	7.0	0.4	0.6	a.断面方形 織造	

単位(cm)

## 出土遺物観察表

団版 No.	No.	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容
							a:成形・調整 b:始土・素地・材質 c:色調 d:輪調 e:焼成 f:遺存状 g:備考
10	81	遺構 14	陶製品 鉢	(6.4)	0.4	0.3	a.断面方形 鉢底 L端部欠損
10	82	遺構 14	陶製品 鉢	(7.5)	1.2	0.3	a.丁寧に成形 L端部欠損
10	83	遺構 14 灰面	かわらけ	(7.4)	(6.0)	1.5	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.良好 L1/4 g.器底黒色に変色
10	84	遺構 14 灰面	片口跡 I類	-	-	-	a.輪組み技法 b.灰面 微妙・貝石・石英 c.灰面 e.被質 L口縁部片
10	85	遺構 16	かわらけ	7.6	4.8	1.7	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.灰褐色 e.良好 (2.3 g)W端一部黒色に変色
10	86	遺構 16	白磁 碗	-	-	-	a.ロクロ b.灰白色 黑色粒 精良被質 d.青味がかった乳白色不透明釉 L柄部片 内面草花の印化文
10	87	瓦器質 火鉢	-	-	-	-	a.輪組み 内外両面に壓痕のミガキ 層剥離を黑色修理 b.灰白色・砂粒・白色粒・小石粒 c.灰白色 (黑色修理がれ跡) e.良好 L口縁部片 g.輪花型 黑色乳渕修理がれ跡味 内面草花の印化文
10	88	遺構 16	陶製品 鉢	(7.1)	0.4	0.4	a.断面方形 鉢底
10	89	遺構 17	窓口 天目碗	-	-	-	a.ロクロ b.灰面 微妙 精良被質 d.清け掛け e.良好 L口縁部片 -
10	90	遺構 18	かわらけ	(7.4)	(4.9)	1.8	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 L1/4
10	91	遺構 19	かわらけ	(8.3)	(6.2)	1.6	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c.黄褐色 e.やや青い L1/3
10	92	遺構 19	片口跡 I類	-	-	-	a.輪組み技法 b.灰面 微妙・黑色粒・長石・石英 c.灰面 e.被質 L口縁部片 g.内面剥離
10	93	遺構 19	陶製品 鉢	(5.5)	0.4	0.3	a.断面方形 鉢底 L端部欠損
10	94	遺構 19	陶製品 鉢	(6.7)	0.6	0.2	a.断面方形 鉢底 L端部欠損
10	95	遺構 19	陶製品 鉢	6.7	0.5	0.4	a.断面方形 鉢底
10	96	遺構 19	骨製品 斧	(6.2)	0.7	0.3	L端部欠損 再加工して使用
10	97	遺構 20	窓口 片口跡 II類	-	-	-	a.輪組み技法 b.灰褐色 砂粒・長石・石英・白色粒 c.赤褐色 e.被質 L口縁部片
10	98	遺構 21	かわらけ	(7.0)	(4.6)	2.0	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.青色 e.良好 L1/4
10	99	遺構 21	かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.9	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.青色 e.良好 L1/4
10	100	遺構 21	かわらけ	(8.1)	(2.9)	1.8	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.青灰色 e.やや青い L1/3
10	101	遺構 21	かわらけ	(11.2)	(6.0)	3.2	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.青灰色 e.やや青い L1/4
10	102	遺構 21	白磁 口光頭	-	-	-	a.ロクロ b.白色 精良被質 d.白色透明釉 L1/5
10	103	遺構 21	瓦 平瓦	-	-	1.9	a.四面・布目層・履位のナメ調整 離れ砂 凸面・斜格子の叩き目 離れ砂 e.灰褐色 黑色粒 c.暗灰色 e.良好
10	104	遺構 21	土器質 火鉢	-	-	-	a.輪組み技法 d.灰白色 砂粒・白色粒・黑色粒・小石粒 c.灰面 e.良好 L口縁部片 g.内面剥離 d.内面強化のナメ
10	105	遺構 21	陶製品 鉢	5.6	0.4	0.4	a.断面方形 鉢底 L端部付着
10	106	遺構 21	陶製品 鉢	5.5	0.5	0.3	a.断面方形 鉢底
10	107	遺構 21	陶製品 鉢	(4.2)	0.5	0.3	a.断面方形 鉢底 L端部欠損
11	108	遺構 22	かわらけ	7.3	5.1	1.4	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.黄褐色 e.やや青い L完形
11	109	遺構 22	かわらけ	8.1	5.4	1.8	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.黄褐色 e.やや青い L完形
11	110	遺構 22	かわらけ	(7.5)	(4.9)	1.6	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.青色 e.良好 L1/4
11	111	遺構 22	かわらけ	7.8	5.2	1.7	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・海綿骨芯・土丹粒 やや粗土 c.青灰色 e.やや青い L完形
11	112	遺構 22	かわらけ	7.7	5.3	1.8	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土丹粒 粗土 c.青灰色 e.やや青い L完形
11	113	遺構 22	かわらけ	(7.9)	(5.1)	2.1	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄褐色 e.やや青い L1/4
11	114	遺構 22	かわらけ	7.3	4.4	1.6	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c.黄褐色 e.良好 L1/4 L1/3 g.器底黒色に変色
11	115	遺構 22	かわらけ	(7.7)	(4.9)	1.8	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.青灰色 e.やや青い L1/3
11	116	遺構 22	かわらけ	(8.1)	(6.2)	1.8	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 L1/4 L1/3
11	117	遺構 22	かわらけ	(10.8)	(6.0)	3.0	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 L1/4 L1/3 g.器底黒色に変色
11	118	遺構 22	かわらけ	11.2	6.5	3.3	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕・系切り痕 b.微妙・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄褐色 e.やや青い L1/4 L1/3 g.内面黒色に変色
11	119	遺構 22	青磁 磁器質青磁	-	-	-	a.ロクロ b.灰褐色 精良被質 d.灰褐色 気泡多 L口縁部片
11	120	遺構 22	窓口 天目碗	-	-	-	a.ロクロ b.灰褐色 微妙 精良土 d.清け掛け e.良好 L口縁部片 g.中割

単位(cm)

## 出土遺物観察表

図版 No.	出土遺構	種別	口縁 長さ	板厚 幅	器高 厚さ	観察内容	
						a : 成形・調整	b : 土・素地・材質 c : 色調 d : 軸調 e : 焼成 f : 遺存状 g : 参考
II-121	遺構 22	瀬戸 鉢皿	-	-	-	a. ロクロ b. 黄褐色 微妙 良土 c. 黄緑色 刷毛巻り e. 良好 L底部分	
II-122	遺構 22	瀬戸 鉢皿	-	-	-	a. ロクロ b. 黄褐色 微妙 稍良土 d. 明灰緑色 清毛巻り e. 良好 L口縁部分	
II-123	遺構 22	瀬戸 縦筋小皿	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 砂粒・白色粒 良土 d. 黄緑色 清毛巻り e. 良好 L口縁部分	
II-124	遺構 22	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄褐色 砂粒・白石英・黑色粒 良土 d. 黄褐色 e. 硬質 L口縁部分 g. 狩子の咲き印文	
II-125	遺構 22	片口縁 1 盆	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄褐色 黑色粒・長石 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縁部分	
II-126	遺構 22	常滑 片口縁 1 盆	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄褐色 砂粒・長石・石英 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縁部分	
II-127	遺構 22	東洋系 鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄褐色 白色粒 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縁部分	
II-128	遺構 24	白磁 口火瓶	-	-	-	a. ロクロ b. 黄褐色 黑色粒を含む粗糲な繊密 d. 黄白色 平透明 口唇部露筋 L口縁部分	
II-129	遺構 24	常滑 片口縁 1 盆	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄褐色 砂粒・長石 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縁部分	
II-130	遺構 24	常滑 紀品	8.0	7.8	1.3	b. 黄褐色 砂粒・長石 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縁部分 g. 極端に外側壁を削っている	
II-131	遺構 24	瓦器背 火鉢	-	-	-	a. 輪積み技法 口縁部ナメ 内外面露筋の剥き b. 黄褐色 砂粒・小石粒 c. 黄褐色 e. 良好 L口縁部分	
II-132	遺構 25	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄褐色 砂粒・長石・石英・黑色粒 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縁部分 g. 尖頭瓶文	
II-133	遺構 27	乳製品 釘	7.0	0.4	0.4	a. 断面形 織造	
II-134	遺構 28	かわらけ	(11.3)	(6.9)	3.5	a. ロクロ 内底ナメ 外底部分状斑痕・赤切り目 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 稲 土 e. 良好 L1/4 g. 黒褐色に変色	
II-135	遺構 28	白磁 口火瓶	-	-	-	a. ロクロ b. 黄褐色 黑色粒を含む粗糲な繊密 d. 黄白色 平透明や薄く施釉 口唇部露筋 L口縁部分	
II-136	遺構 28	備前 縫跡	-	-	-	a. 輪積み技法後ロクロ型 b. 黄褐色 長石・石英・良土 c. 黄褐色 e. 良好 硬質 L底部分 g. 7 年の縫目	
II-137	遺構 29	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄褐色 砂粒・長石・石英・黑色粒 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縁部分	
II-138	遺構 29	洞美 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄褐色 砂粒・長石 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縁部分	
II-139	遺構 29	乳製品 釘	5.7	0.3	0.3	a. 断面形 織造	
II-140	遺構 29	乳製品 釘	4.8	0.4	0.4	a. 断面形 織造	
II-141	遺構 31	かわらけ	(7.2)	(5.5)	1.4	a. ロクロ 内底ナメ 外底部分状斑痕・赤切り目 b. 微妙・雲母・海綿骨芯・良土 c. 黄褐色 e. やや 粗土 L1/4	
II-142	遺構 31	常滑 片口縁 1 盆	-	-	-	a. 輪積み技法 紗目底 b. 黄褐色 微妙・長石・石英 c. 黄褐色 e. 硬質 L底部分 g. 内面削耗	
II-143	遺構 31	石製品 砾石	(6.5)	(2.9)	1.9	a. 茄面1面 剥面・小口切り出し痕 c. 黄褐色 g. 表土付砾 帽端部	
II-144	遺構 31	石材 チャート	藏2.6	横2.6	厚2.1	b. 滑石 c. 黄褐色	
II-145	遺構 31	骨骨 加工品	藏7.4	横6.8	厚2.8	g. 手の手骨 痕跡不明	
II-146	遺構 32	かわらけ	(7.1)	(5.0)	1.6	a. ロクロ 内底ナメ 外底部分状斑痕・赤切り目 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・良土 c. 稲 土 e. 良好 L1/4 g. 口縁部黒褐色に変色	
II-147	遺構 32	かわらけ	7.8	3.2	1.6	a. ロクロ 内底ナメ 外底部分状斑痕・赤切り目 b. 微妙・雲母・海綿骨芯・土栓粒・小石粒・粗土 c. 黄褐色 e. 良好 L1/4	
II-148	遺構 32	かわらけ	(10.0)	(6.5)	3.1	a. ロクロ 内底ナメ 外底部分状斑痕・赤切り目 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・良土 c. 稲 土 e. 良好 L1/4	
II-149	遺構 32	石製品 砾石	(5.3)	3.8	0.9	a. 茄面1面 剥面・小口切り出し痕 c. 黄褐色 g. 表土付砾 帽端部	
II-150	遺構 32	石製品 軽石	藏3.7	横3.4	厚1.8	a. 断面削耗しており、使用痕か? c. 黄褐色	
II-151	遺構 32	乳製品 釘	(4.8)	0.4	0.3	a. 断面形 織造	
II-152	遺構 32	乳製品 釘	5.2	0.8	0.8	g. 留付着	
II-153	遺構 34	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄褐色 砂粒・灰褐色 e. 硬質 L口縁部分	
II-1	第1面 面上	かわらけ	(6.6)	(4.2)	1.9	a. ロクロ 内底ナメ 外底部分状斑痕・赤切り目 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 稲 土 e. 良好 L1/4	
II-2	第1面 面上	かわらけ	(7.7)	(5.1)	1.5	a. ロクロ 内底ナメ 外底部分状斑痕・赤切り目 b. 微妙・雲母・海綿骨芯・良土 c. 黄褐色 e. やや 粗い L1/3 g. 口縁部削離している	
II-3	第1面 面上	かわらけ	(7.6)	(5.5)	1.8	a. ロクロ 内底ナメ 外底部分状斑痕・赤切り目 b. 微妙多・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 L1/3	
II-4	第1面 面上	かわらけ	(7.8)	(4.4)	2.1	a. ロクロ 内底ナメ 外底部分状斑痕・赤切り目 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土栓粒・やや粗 土 c. 黄褐色 e. 良好 L1/4	
II-5	第1面 面上	かわらけ	(11.2)	(6.0)	3.1	a. ロクロ 内底ナメ 外底部分状斑痕・赤切り目 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・粗土 c. 黄褐色 e. 良好 L1/6 g. 口縁部黒褐色に変色	
II-6	第1面 面上	かわらけ	(13.8)	(8.9)	3.6	a. ロクロ 内底ナメ 外底部分状斑痕・赤切り目 b. 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 L1/4	
II-7	第1面 面上	青磁 縦蓮支輪	-	(5.8)	-	a. ロクロ b. 黄白色 白色粒 精良緻密 d. 黄褐色不透明灰 外底面露筋 L底部 6 g. 34 世紀前半	

単位 (cm)

## 出土遺物観察表

図版 No.	No.	出土遺物	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容						
							a: 成形・調整	b: 土色・素地・材質	c: 色調	d: 様式	e: 使成	f: 造形	g: 推考
12	8	第1面 土上	繩口 平鍋	—	(4.5)	—	a. ロクロ b. 淡黄色 砂粒・白色粒 c. 黄褐色 滴け掛け d. 良好 e. 中空 f. 有底 L: 底部片 1/2 g. 後期						
12	9	第1面 土上	繩口 折縁鍋	—	—	—	a. ロクロ b. 淡黄色 砂粒 d. 淡黄綠色 滴け掛け e. 良好 縫翼 L: 口縁部分 g. 中期						
12	10	第1面 土上	繩口 折縁鍋	—	—	—	a. ロクロ b. 淡黄色 砂粒・黑色粒 d. 淡黄綠色 e. 良好 縫翼 L: 口縁部分 g. 中期						
12	11	第1面 土上	繩口 鉢机	—	—	—	a. ロクロ b. 淡黄色 砂粒 d. 淡黄綠色 刷毛彫り e. 良好 縫翼 L: 口縁部分 g. 中期						
12	12	第1面 土上	繩口 鉢机	—	—	—	a. ロクロ b. 淡黄色 砂粒・黑色粒 d. 淡黄綠色 刷毛彫り e. 良好 縫翼 L: 底部片 g. 中期						
12	13	第1面 土上	繩口 縁物小皿	(9.8)	(4.0)	2.3	a. ロクロ b. 淡黄色 砂粒・黑色粒・白色粒合む粗土 d. 淡黄綠色 滴け掛け e. 良好 f. 口縁 L: 底部片 1/4 g. 後期						
12	14	第1面 土上	滑溜 甕	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 明灰色 砂粒・白色粒・長石 c. 明褐系色 e. 縫翼 L: 口縁部分						
12	15	第1面 土上	滑溜 甕	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 赤褐色 砂粒・白色粒 c. 赤褐色 e. 縫翼 L: 口縁部分						
12	16	第1面 土上	滑溜 甕	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 赤褐色 砂粒・白色粒・長石 c. 赤褐色 e. 縫翼 L: 口縁部分						
12	17	第1面 土上	滑溜 甕	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 暗灰色 黑色粒・白色粒・長石 c. 暗灰褐色 e. 縫翼 L: 口縁部分						
12	18	第1面 土上	滑溜 甕	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 暗褐色 砂粒・白色粒 c. 暗褐色 e. 縫翼 L: 頭部小片 g. 格子文叩印						
12	19	第1面 土上	片口添 L型	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 暗灰色 長石・具石 c. 暗灰色 d. 暗白色 e. 縫翼 L: 口縁部分 g. 内面擦耗						
12	20	第1面 土上	滑美 甕	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 暗灰色 黑色粒・白色粒・長石 c. 暗灰褐色 e. 縫翼 L: 口縁部分						
12	21	第1面 土上	滑美 甕	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 暗灰色 長石・白色粒・長石 c. 暗灰褐色 e. 縫翼 L: 口縁部分 g. 内面擦物付着						
12	22	第1面 土上	束縛系 鉢	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 暗灰色 黑色粒・白色粒 c. 暗灰色 e. 縫翼 L: 口縁部分						
12	23	第1面 土上	土器質 火鉢	—	—	—	a. 縫翼み技法 L: 口縁ナメ b. 暗灰色 砂粒・白色粒・黑色粒 c. 暗灰色 e. 良好 L: 口縁部分						
12	24	第1面 土上	瓦器質 火鉢	—	—	—	a. 縫翼み技法 L: 外側面部付 L: タガキ L: 暗褐色 砂粒・白色粒・黑色粒・小石粒 c. 暗色 e. 良好 L: 口縁部分 g. 花型 L: 鉢内外面裏在 L: 口縁外側擦耗						
12	25	第1面 土上	瓦器質 品	—	—	1.1	b. 暗色 雜砂・黑色粒 c. 暗灰色 g. 口縁點狀						
12	26	第1面 土上	石製品 砥石	(4.5)	4.0	1.3	a. 細面 3面 c. 淡緑色 g. 中軸 上野産						
12	27	第1面 土上	石製品 砥石	(4.3)	1.6	1.0	a. 細面 2面 c. 淡灰緑色 g. 中軸 上野産 手持ちの砥石に転用						
12	28	第1面 土上	石製品 砥石	(3.3)	2.8	0.4	a. 細面 1面 淡灰褐色 側面切り出し痕 c. 暗灰色 g. 仕上げ感 滑溜底堅						
12	29	第1面 土上	石製品 砥石	(4.9)	2.5	1.9	c. 淡灰褐色 g. 中軸 上野産						
12	30	第1面 土上	骨角形品 用途不明品	(1.8)	6.3	0.3	a. 四角形の孔を穿ち文字を刻む g. 我の中足骨を加工か、装飾具か						
12	31	第1面 構成土	かわらけ	(6.8)	(4.0)	1.7	a. ロクロ 内底ナメ L: 外底部板状圧痕 手切り痕 b. 雜砂・雲母・白色粒・海綿骨芯 上舟粒・粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い匂 L: 4						
12	32	第1面 構成土	かわらけ	(6.6)	(4.4)	1.9	a. ロクロ 内底ナメ L: 外底部板状圧痕 手切り痕 b. 雜砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 稲穀色 e. 良好 L: 1/2 g. 口縁部分擦耗						
12	33	第1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(4.5)	2.1	a. ロクロ 内底ナメ L: 外底部板状圧痕 手切り痕 b. 雜砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い匂 L: 4						
12	34	第1面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.9	a. ロクロ 内底ナメ L: 外底部板状圧痕 手切り痕 b. 雜砂多・雲母・白色粒・海綿骨芯 上舟粒・粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い匂 L: 4 g. 口縁部分擦耗						
12	35	第1面 構成土	かわらけ	(11.4)	(7.6)	3.0	a. ロクロ 内底ナメ L: 外底部板状圧痕 手切り痕 b. 雜砂多・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄灰色 e. 良好 L: 1/2 g. 口縁部分擦耗						
12	36	第1面 構成土	かわらけ	(12.2)	(7.6)	3.5	a. ロクロ 内底ナメ L: 外底部板状圧痕 手切り痕 b. 雜砂多・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄灰色 e. 良好 L: 4						
12	37	第1面 構成土	繩口添 底縁小皿	—	(8.0)	—	a. ロクロ 葵口付高台 b. 暗灰色 精良土 d. 明灰褐色 刷毛巻り滴け掛け e. 良好 L: 底部 1/2 g. 内面に三條の波線が刻む L: 中腹後半						
12	38	第1面 構成土	繩口添 底縁小皿	—	—	—	a. ロクロ b. 暗灰色 砂粒・黑色粒 良土 d. 明灰褐色 刷毛巻り接ぎ掛け e. 良好 縫翼 L: 口縁部分						
12	39	第1面 構成土	繩口添 底縁小皿	—	—	—	a. ロクロ b. 暗灰色 雜砂 精良土 d. 暗灰褐色 薄く刷毛巻り e. 良好 L: 口縁一部						
12	40	第1面 構成土	繩口添 底縁小皿	—	—	—	a. ロクロ b. 暗灰色 雜砂 精良土 d. 暗灰褐色 刷毛巻り e. 良好 L: 口縁部分						
12	41	第1面 構成土	繩口添 縁物小皿	—	—	—	a. ロクロ b. 暗白色 砂粒・白色粒 精良土 d. 鉄粒 滴け掛け e. 良好 L: 口縁部分 g. 後期						
12	42	第1面 構成土	滑溜 甕口台	(5.5)	—	—	a. 縫翼み技法 b. 暗灰色 黑色粒・長石・石英 c. 暗灰色 e. 縫翼 L: 口縁部 1/4						
12	43	第1面 構成土	滑溜 甕	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 赤褐色 雜砂・長石・石英 c. 茶褐色 e. 縫翼 L: 口縁部分						
12	44	第1面 構成土	滑溜 甕	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 暗灰色 雜砂・白色粒・長石 c. 茶褐色 e. 縫翼 L: 口縁部分						
12	45	第1面 構成土	滑溜 甕口添 L型	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 暗灰色 雜砂・白色粒・長石・石英 c. 暗色 e. 縫翼 L: 口縁部分						
12	46	第1面 構成土	滑溜 甕口添 L型	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 暗灰色 雜砂・白色粒・長石・石英 c. 暗色 e. 縫翼 L: 口縁部分						
12	47	第1面 構成土	滑溜 甕口添 L型	—	—	—	a. 縫翼み技法 b. 暗灰色 雜砂・黑色粒・長石・石英 c. 暗色 e. 縫翼 L: 口縁・鋼部片						

単位(cm)

出土遺物観察表

図版 No.	出土遺構	種類	口徑 長さ	板厚 幅	器高 厚さ	観察内容	
						a : 成形・調整	b : 土・素地・材質 c : 色調 d : 軸調 e : 焼成 f : 遺存状 g : 捨考
12 48	第1面 構成土	常滑 片口鋸Ⅱ類	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 砂粒・長石・石英・小石粒 c.赤褐色 e.硬質 L口縁部片	
12 49	第1面 構成土	常滑 片口鋸Ⅲ類	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰褐色 砂粒・長石・石英・小石粒 c.赤褐色 e.硬質 L口縁部片	
12 50	第1面 構成土	常滑 片口鋸Ⅳ類	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰褐色 砂粒・長石・石英・小石粒 c.赤褐色 e.硬質 L口縁部片 d.内面凹緑色	
12 51	第1面 構成土	変形系 鉢	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰褐色 砂粒・白色粒 c.灰褐色 e.硬質 L口縁・銅部片	
12 52	第1面 構成土	山茶碗	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰色 砂粒・白色粒・長石・石英 c.灰褐色 e.硬質 L口縁部片 g.内面削耗	
12 53	第1面 構成土	常滑 瓶口品	6.0	7.0	1.7	a.輪積み技法 b.灰色 砂粒・長石・石英 c.赤褐色 e.硬質 g.變形片 斜面摩耗	
12 54	第1面 構成土	尾張質 火鉢	-	-	-	a.輪積み技法 外底部鋸波のミガキ 黒色処理 b.灰褐色 砂粒・白色粒・小石粒 c.灰黑色 c.良好 f.口縁部片 外側削済部	
12 55	第1面 構成土	土製品 土鉢	2.8	網目1.2	孔径0.2	c.橙色 L.完形	
12 56	第1面 構成土	土製品 土鉢	4.3	網目1.6	孔径0.7	c.黄褐色	
12 57	第1面 構成土	石製品 鏡	(3.7)	(2.0)	-	c.灰褐色 g.黑色粘板岩 降部 嵌溝	
12 58	第1面 構成土	武藏質 刷毛不規	直径3.7	内径2.8	0.5	g.端付着 環状	
12 59	第1面 構成土	武藏質 鉢	6.9	0.6	0.3	a.斜面方形 織造	
12 60	第1面 構成土	武藏質 鉢	(5.4)	0.6	0.4	a.斜面方形 織造 L.端部欠損	
12 61	第1面 構成土	武藏質 鉢	(4.6)	0.6	0.3	a.斜面方形 織造 L.端部欠損	
12 62	第1面 構成土	武藏質 鉢	(4.6)	0.6	0.6	a.斜面方形 織造 L.端部欠損	
12 63	第1面 構成土	骨質品 骨	(6.4)	(1.5)	0.3	L.端部欠損	
12 64	第1面 構成土	骨質品 骨	(4.2)	(1.4)	0.3	L.両端部欠損	
17 1	遺構 33	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.9	a.ロクロ 内底ナガ 外底部板状压痕・系切り痕 b.微細・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 L.口縁部外側全体に変色	
17 2	遺構 33	かわらけ	(8.0)	(5.9)	1.5	a.ロクロ 内底ナガ 外底部板状压痕・赤切り痕 b.微細・雲母・赤色粒・海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 L.口縁部外側全体に変色	
17 3	遺構 33	かわらけ	(8.5)	(5.4)	1.7	a.ロクロ 内底ナガ 外底部板状压痕・系切り痕 b.微細・雲母・赤色粒・海綿骨芯 凡土 c.黄褐色 e.良好 L.口縁部外側全体に変色	
17 4	遺構 33	かわらけ	(12.2)	(7.5)	3.1	c.黄褐色 e.良好 L.口縁部外側全体に変色	
17 5	遺構 33	かわらけ 加工品	破(4.3)	横(5.0)	1.0	a.底部に孔を打ち断面を剥がしている b.微細・雲母・赤色粒・海綿骨芯 粗土 c.黄褐色 e.良好	
17 6	遺構 33	青磁 偏蓮弁文碗	-	-	-	a.ロクロ b.灰色 精具織密 d.青灰色透明 気泡あり L.口縁部片	
17 7	遺構 33	青磁 偏蓮弁文碗	-	-	-	a.ロクロ b.灰色 精具織密 d.灰绿色透明 気泡あり L.口縁部片	
17 8	遺構 33	白磁 口沿刷毛	-	(6.0)	-	a.ロクロ b.灰色 精具織密 d.灰白色透明 L.底部片	
17 9	遺構 33	瀬戸 四角型	(10.5)	-	-	a.輪積み技法 b.灰褐色 砂粒・長石・石英・黑色粒 e.良好 L.口縁部片	
17 10	遺構 33	常滑 甕	-	-	-	a.輪積み技法 b.橙色 砂粒・長石・石英・黑色粒 e.硬質 g.複合斜瓶文の焼き付	
17 11	遺構 33	常滑 甕	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰褐色 砂粒・長石・石英・黑色粒 e.灰褐色 e.硬質 L.口縁部片	
17 12	遺構 33	常滑 片口鋸 I 類	-	-	-	a.輪積み技法 b.灰褐色 砂粒・黑色粒・長石・石英・小石粒 c.灰褐色 e.硬質 L.口縁部片	
17 13	遺構 33	尾張質 火鉢	-	-	-	a.輪積み技法 口縁部ミガキ 内外面横位のナダ b.橙色 砂粒・白色粒・黑色粒・小石粒 c.灰褐色 e.良好	
17 14	遺構 33	武藏質 品鉢	12.0	0.5	0.6	a.斜面方形 織造	
17 15	遺構 33	武藏質 品鉢	9.0	0.4	0.4	a.斜面方形 織造	
17 16	遺構 33	武藏質 品鉢	6.3	0.4	0.2	a.斜面方形 織造	
17 17	遺構 33	武藏質 品鉢	6.9	0.3	0.3	a.斜面方形 織造	
17 18	遺構 36	かわらけ	(6.7)	(4.6)	2.1	a.ロクロ 内底ナガ 外底部板状压痕・系切り痕 b.微細・雲母・赤色粒・海綿骨芯 土丹粒 良土 c.黄褐色 e.良好 L.口縁部外側全体に変色	
17 19	遺構 36	かわらけ	(7.6)	(5.0)	1.6	a.ロクロ 内底ナガ 外底部板状压痕・系切り痕 b.微細・雲母・赤色粒・海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 L.口縁部外側全体に変色	
17 20	遺構 36	かわらけ	(8.5)	(5.9)	1.9	a.ロクロ 内底ナガ 外底部板状压痕・赤切り痕 b.微細・雲母・海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 L.口縁部外側全体に変色	
17 21	遺構 36	かわらけ	(8.2)	(5.5)	1.6	a.ロクロ 内底ナガ 外底部板状压痕・系切り痕 b.微細・雲母・赤色粒・海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 L.口縁部外側全体に変色	
17 22	遺構 36	かわらけ	(8.5)	(6.5)	1.8	a.ロクロ 内底ナガ 外底部板状压痕・赤切り痕 b.微細・雲母・海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 L.口縁部外側全体に変色	
17 23	遺構 36	かわらけ	(8.5)	(6.4)	1.7	a.ロクロ 内底ナガ 外底部板状压痕・系切り痕 b.微細多・雲母・赤色粒・海綿骨芯 土丹粒 粗土 c.黄褐色 e.良好 L.口縁部外側全体に変色	

単位(cm)

## 出土遺物観察表

図版 No.	No.	出土遺物	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容						
							a:成形・調整	b:胎土・素地・材質	c:色調	d:輪調	e:焼成	f:遺存状	g:備考
17	24	遺構 36	かわらけ	(121)	(6.2)	3.2	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯、土丹粒 やや粗 上: c. 黄褐色 d. 良好 f. L1/3 部黑色に変色						
17	25	遺構 36	かわらけ	(110)	(6.5)	3.4	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯、土丹粒 粗上: c. 黄褐色 e. 良好 f. L1/3 完形 g.3点所打ち大きさ有り						
17	26	遺構 36	青白磁 梅瓶	-	(8.8)	-	a.ロクロ b.灰白色 黑色鉱 精良觀密 d. 黄褐色半透明 気泡あり f. 底部1/8						
17	27	遺構 36	白磁 口丸瓶	-	-	-	a.ロクロ b.灰白色 黑色鉱 精良觀密 d.灰白色半透明 L1口縁部分						
17	28	遺構 36	瓶口 折縁深腹	-	(152)	-	a.ロクロ 脚付円筒高瓶、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯、土丹粒 やや粗 上: b.灰白色 高台が剥げている						
17	29	遺構 36	常滑 壺	-	-	-	a.輪組み技法 b.黄褐色 砂粒・長石、石英 c.茶褐色 e.継貫 L口縁部分						
17	30	遺構 36	常滑 壺	-	-	-	a.輪組み技法 精良成 b.灰褐色 砂粒・長石、石英 c.茶褐色 e.継貫 f.底部部分						
17	31	遺構 36	常滑 壺	-	-	-	a.輪組み技法 b.灰色 砂粒、長石、石英 c.赤褐色 e.継貫 f.底部部分 g.猪子文叩き印						
17	32	遺構 36	片口跡 II型	-	-	-	a.輪組み技法 b.灰褐色 長石、石英 c.灰褐色 e.継貫 L口縁部分 g.内面新耗						
17	33	遺構 36	常滑 壺	-	-	-	a.輪組み技法 b.灰褐色 長石、石英 c.茶褐色 d.灰綠色 e.継貫 L口縁部分						
17	34	遺構 36	常滑 転用品	(5.2)	6.0	1.2	b.灰褐色 砂粒、長石、石英 c.茶褐色 e.継貫 f.底部部分 g.更銅部分 壓面摩耗						
17	35	遺構 36	常滑 転用品	4.5	(5.4)	1.3	b.橙色 砂粒、長石、石英 c.赤褐色 e.継貫 f.底部部分 g.更銅部分 壓面摩耗						
17	36	遺構 36	瓦器質 火鉢	-	-	-	a.輪組み技法 黒色燒成 内外面肩に横模様のミガキ b.灰褐色 砂粒、白色鉱、黒色鉱 c.茶褐色 e.少 少鉄質 L1口縁-底部肩 g.菊花文スタンプ 壓面剥離						
17	37	遺構 36	石製品 帆石	(6.9)	4.9	2.4	c.帆石面は4面 c.黒褐色 g.中柄、伊予産						
17	38	遺構 36	滑石類 転用品	(7.0)	(4.8)	(2.2)	c.灰褐色 g.晶石か						
17	39	遺構 36	鉢製品 用途不明	-	3.8	3.1	g.輪付着 織目全具か						
17	40	遺構 36	鉢製品 釘	-	(5.4)	0.4	g.断面方形 鋸造 g.端部欠損						
17	41	遺構 36	鉢製品 釘	-	6.4	0.5	g.断面方形 鋸造						
17	42	遺構 36	鉢製品 釘	-	5.6	0.2	g.断面方形 鋸造						
17	43	遺構 36	鉢製品 釘	-	4.2	0.6	g.断面方形 鋸造						
18	44	遺構 36	床直上	(7.4)	(5.4)	1.4	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯、土丹粒 粗上 c. 黄褐色 e.良好 f. L1/4 g.口縁部-一部黒色に変色						
18	45	遺構 36	床直上	(9.0)	(6.3)	1.8	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯、土丹粒 やや粗 上: c. 黄褐色 e.やや甘い f. L1/4 g.口縁部-一部黒色に変色						
18	46	遺構 37	片口跡 II型	-	-	-	a.輪組み技法 b.灰褐色 長石、石英 c.帆石面 e.継貫 L口縁部分 g.内面剥離						
18	47	遺構 38	かわらけ	12.2	7.9	3.1	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯、土丹粒 やや粗 上: c. 黄褐色 e.継貫 f. L1/2 完形 g.口縁部-一部黒色に変色						
18	48	遺構 38	かわらけ	(12.1)	(7.5)	3.2	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯、土丹粒 やや粗 上: c. 黄褐色 e.良好 f. L2/3						
18	49	遺構 38	かわらけ	(12.1)	(8.0)	2.8	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯、土丹粒 やや粗 上: c. 黄褐色 e.良好 f. L1/4						
18	50	遺構 38	かわらけ	(12.7)	(8.5)	3.6	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯、土丹粒 やや粗 上: c. 黄褐色 e.良好 f. L3/4						
18	51	遺構 38	片口跡 II型	-	-	-	a.輪組み技法 b.灰褐色 長石、石英 c.帆石面 e.継貫 L口縁部分						
18	52	遺構 38	鉢製品 掛け金具	長さ111 幅66 厚さ4	-	4.0	g.輪付着						
18	53	遺構 38	鉢製品 釘	(5.9)	0.5	0.4	g.断面方形 鋸造 g.端部欠損						
18	54	遺構 40	常滑 壺	-	-	-	a.輪組み技法 b.灰色 砂粒、長石、石英 c.灰色 e.継貫 L口縁部分						
18	55	遺構 40	常滑 壺	-	-	-	a.輪組み技法 b.灰色 砂粒、長石、石英 c.灰色 e.継貫 f.断面外側部僅びつ印						
18	56	遺構 41	かわらけ	(9.3)	(5.7)	1.5	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯、土丹粒 丸土 c. 黄褐色 e.やや甘い f. L1/4 g.内面全体僅びつ印						
18	57	遺構 41	かわらけ	(12.3)	(7.6)	3.1	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯、土丹粒 やや粗 上: c. 黄褐色 e.良好 f. L1/2						
18	58	遺構 41	かわらけ	(13.0)	(7.7)	3.4	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯 より上: c. 黄褐色 e.良好 f. L3 g.外側僅びつ印している。内面一部黒色に変色						
18	59	遺構 41	常滑 壺	-	-	-	a.輪組み技法 b.灰色 砂粒、長石、石英 c.茶褐色 e.継貫 L口縁部分						
18	60	遺構 41	鉢製品 刀子	(9.5)	1.4	0.3	L刃部分 g.萬付着						
18	61	遺構 42	常滑 壺	-	(20.5)	-	a.輪組み技法 砧底、b.黄褐色 砧砂、微妙、長石、石英 c.暗黒褐色 e.継貫 f.底部1/3						
18	62	遺構 42	土器質 火鉢	-	-	-	a.輪組み技法 L縁ナメ調整 砧底、c.暗黒褐色 砧砂、白色鉱、c.暗黒褐色 e.良好 f. L口縁部分						
18	63	遺構 44	かわらけ	7.3	5.7	1.6	a.ロクロ 内底ナメ 外底部板状圧痕、系切り痕 b.微妙、雲母、赤色鉱、海緑石芯 やや粗 上: c. 黄褐色 e.やや甘い f. L3/4 g.外側に有機物付着						

単位(cm)

出土遺物観察表

図版 No.	出土遺構	種別	口縁 長さ	板厚 幅	器高 厚さ	観察内容	
						a: 形状・調整	b: 土手・素地・材質
18 64	遺構 44	かわらけ	7.4	5.4	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土手・黄褐色	c. 黄褐色
18 65	遺構 44	かわらけ	(8.3)	(6.1)	1.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土手・黄褐色	c. 黄褐色
18 66	遺構 44	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土手・黄褐色	c. 黄褐色
18 67	遺構 44	かわらけ	(13.5)	(8.2)	3.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土手粒・直土 c. 黄褐色 e. やや甘い f. L-1/4	c. 黄褐色
18 68	遺構 44	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄色 砂粒・長石 c. 黄褐色 d. 硬質 e. 硬質 f. L口縁部分	
18 69	遺構 44	常滑 片口跡 1類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 橙色 砂粒・長石 c. 黄褐色 d. 黄褐色 e. 硬質 f. L口縁部分	
18 70	遺構 46	かわらけ	(7.6)	(4.9)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・土手粒・橙色 e. 良好 f. L-3 g. 露出部	c. 黄褐色
18 71	遺構 46	片口跡 1類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄褐色・黒色粒・長石 c. 黄褐色 d. 黄褐色 e. 硬質 f. L口縁部分 g. 内面剥耗	
18 72	遺構 47	かわらけ	(8.0)	(5.1)	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・海綿骨芯・土手粒・やや粗土 c. 黄褐色 e. やや甘い f. L-3 g. 口底部黒色に変色	c. 黄褐色
18 73	遺構 47	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄色 砂粒・長石 c. 黄褐色 d. 硬質 f. L口縁部分	
18 74	遺構 47	常滑 片口跡 1類	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄褐色 砂粒・黒色粒・小石粒 c. 黄褐色 d. 黄褐色 e. 硬質 f. L口縁部分 g. 一部黒色に変色 f. 火熱を受けた	
18 75	遺構 47	石製品 鉢	(6.3)	(6.0)	2.0	a. 断面 3面 c. 黄褐色 g. 中底 天草産 表面黒色に変色 刀物等の色画が化着か	
18 76	遺構 47	石製品 鉢	(12.9)	(7.5)	4.9	a. 断面 2面 c. 黄褐色 f. 断面剥離 g. 黄灰土 田原産 火熱を受けたか黒色に変色	
19 77	遺構 48	かわらけ	(12.4)	(8.6)	3.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土手粒・概上 c. 黄褐色 e. やや甘い f. L-1/4	
19 78	遺構 48	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 f. 黄色 砂粒・長石・黑色粒 c. 赤褐色 e. 硬質 f. L側部部分 g. 握子文叩き印	
19 79	遺構 48	常滑 片口跡 1類	-	-	-	a. 輪積み技法 f. 黄色 微妙・黑色粒・長石 c. 黄褐色 e. 硬質 f. L口縁部分	
19 80	遺構 48	瓦製品 鉢	7.9	0.5	0.3	a. 断面方形 織造	
19 81	遺構 48	瓦製品 鉢	5.7	0.5	0.4	a. 断面方形 織造	
19 82	遺構 49	かわらけ	(7.1)	(4.3)	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・土手粒・直土 c. 橙色 e. 良好 f. L-2/3	
19 83	遺構 49	かわらけ	(6.9)	(4.4)	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・やや粗土 c. 黄褐色 e. やや甘い f. L-1/4	
19 84	遺構 49	かわらけ	6.9	4.2	2.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土手粒・直土 c. 橙色 e. 良好 f. L-2/3	
19 85	遺構 49	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土手粒・概上 c. 橙色 e. 良好 f. L-1/4	
19 86	遺構 49	かわらけ	(7.1)	(5.0)	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. L-1/4	
19 87	遺構 49	かわらけ	7.5	3.7	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・海綿骨芯・土手粒・直土 c. 黄褐色 e. やや甘い f. L-2/3 g. はげ定形	
19 88	遺構 49	かわらけ	7.5	3.0	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・土手粒・直土 c. 黄褐色 e. 良好 f. L-2/3 g. 表面黒色に変色	
19 89	遺構 49	かわらけ	7.8	3.4	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土手粒・概上 c. 橙色 e. やや甘い f. L-1/4	
19 90	遺構 49	かわらけ	(7.6)	(5.1)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土手粒・直土 c. 黄褐色 e. やや甘い f. L-3 g. 口底部内面・黒色に変色	
19 91	遺構 49	かわらけ	(7.2)	(5.1)	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・やや粗土 c. 黄褐色 e. やや甘い f. L-1/3	
19 92	遺構 49	かわらけ	(8.1)	(5.0)	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土手粒・直土 c. 黄褐色 e. やや甘い f. L-3 g. 外部黒色に変色	
19 93	遺構 49	かわらけ	(8.3)	(4.9)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土手粒・直土 c. 黄褐色 e. やや甘い f. L-3 g. 口底部内面・黒色に変色	
19 94	遺構 49	かわらけ	11.2	6.6	3.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・海綿骨芯・土手粒・直土 c. 黄褐色 e. 良好 f. L-3/4 g. 外部黒色に変色	
19 95	遺構 49	かわらけ	(11.6)	(7.4)	3.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. L-3	
19 96	遺構 49	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 f. 黄色 砂粒・長石・石英・小石粒 c. 赤褐色 e. 硬質 f. L側部部分 g. 握子文の印記	
19 97	遺構 49	常滑 甕	-	-	-	a. 輪積み技法 f. 黄褐色 砂粒・長石・石英 c. 黄褐色 d. 深褐色 e. 硬質 f. L側部部分 g. 番號文を鏡に記す	
19 98	遺構 49	片口跡 1類	(27.7)	(12.7)	11.0	a. 輪積み技法 f. 黄色 砂粒・長石・石英 c. 黄褐色 e. 硬質 f. L-3 g. 内面剥耗	
19 99	遺構 49	古檜原 甕	-	-	(3.9)	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・系切り痕 b. 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・土手粒・直土 c. 黄褐色 e. 良好 f. L-1/4	
19 100	遺構 49	瓦製品 鉢	6.1	0.6	0.2	a. 断面方形 織造	
19 101	遺構 49	瓦製品 鉢	6.5	0.6	0.4	a. 断面方形 織造 f. 断面付着	
19 102	遺構 49	瓦製品 鉢	(5.5)	0.6	0.4	a. 断面方形 織造 f. 断面付着 g. 断面付着	
19 103	遺構 49	瓦製品 鉢	4.2	0.6	0.6	a. 断面方形 織造 g. 断面付着	

単位 (cm)

## 出土遺物観察表

図版 No.	出土詳細	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容								
						a:成形・調整	b:土士・素地・材質	c:色調	d:輪調	e:焼成	f:遺存状	g:備考		
19	104	遺構 49	鉢形品 封	3.0	0.4	0.6	a. 断面方形	底造	g. 踏付着					
19	105	遺構 50	鉢形品 封	4.4	0.4	0.3	a. 断面方形	底造						
19	106	遺構 51	かわらけ	(7.5)	(6.0)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙、雲母、赤色粒、土丹粒 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 L1/4							
19	107	遺構 51	かわらけ	13.0	8.3	3.3	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙、雲母、赤色粒、海緑骨芯、良土 c. 黄褐色 e. 良好 L1/4 完形 g. 口縁から外周にかけて一部黒色に変色							
19	108	遺構 51	青磁 縞薙弁文鏡	-	-	-	a. ロクロ b. 灰白色 精良繊密 d. 青灰色不透明釉 質入、気泡多い L口縁部片							
19	109	遺構 51	常滑 壺	-	-	-	a. 輪組み技法 b. 灰色 砂粒、其石、白色粒 c. 灰褐色 e. 稲實 L口縁部片							
19	110	遺構 51	片口鋤足盤	-	-	-	a. 輪組み技法 b. 純白 砂粒、長石、白色粒 c. 灰褐色 e. 稲實 L口縁部片							
19	111	遺構 51	石製品 砥石	1.8	2.7	0.6	a. 砥面2面 断面切り出し痕 c. 灰褐色 g. 仕上砥 鳴尾座							
19	112	遺構 51	石製品 砥石	2.9	横2.0	厚さ1.2	a. 一部削っている 使用痕か c. 灰白色							
19	113	遺構 51	鉢形品 封	6.6	(0.7)	(0.7)	a. 断面方形 底造 g. 踏付着							
19	114	遺構 51	鉢形品 封	5.9	0.4	0.4	a. 断面方形 底造							
19	115	遺構 51	鉢形品 封	6.1	0.5	0.4	a. 断面方形 底造							
19	116	遺構 51	鉢形品 封	5.2	0.3	0.4	a. 断面方形 底造 g. 踏付着							
19	117	遺構 51	鉢形品 封	5.2	0.5	0.4	a. 断面方形 底造 g. 踏付着							
19	118	遺構 51	青磁 縞薙弁文鏡	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 黒色蘭影 精良繊密 d. 黄褐色透明釉 L口縁部片							
19	119	遺構 52	圓底小水滴	従元銘付(4.4)	-	-	a. ロクロ b. 灰白色 砂粒 良土 d. 黄褐色 清け剥け e. 良好 L胴部片 g. 瓶底二条の沈線							
19	120	遺構 52	圓底 壺	-	-	-	a. 輪組み技法 b. 灰色 砂粒 小石粒 粗土 d. 黄褐色 清け剥け e. 良好 L口縁部片 g. 口底有疵か?							
19	121	遺構 52	常滑 片口鋤足盤	-	-	-	a. 輪組み技法 脱り付け高台 b. 灰色 微妙、黑色粒、長石 c. 灰色 e. 稲實 L底部片 g. 内面削耗							
19	122	遺構 52	瓦器質 火鉢	-	-	-	a. 輪組み技法 b. 灰色 砂粒、白色粒、黑色粒 c. 灰色 e. 稲實 L口縁部片							
19	123	遺構 52	石製品 砥石	(3.9)	3.5	0.7	a. 砥面1面 断面切り出し痕 g. 仕上砥 鳴尾座							
19	124	遺構 52	鉢形品 網	-	-	-	L端部看							
19	125	遺構 53	常滑 壺	-	-	-	a. 輪組み技法 b. 灰灰褐色 砂粒、長石 c. 灰褐色 e. 稲實 L口縁部片							
19	126	遺構 54	常滑 壺	-	-	-	a. 輪組み技法 b. 灰褐色 砂粒、長石 c. 灰褐色 e. 稲實 L口縁部片							
19	127	遺構 55	かわらけ	12.2	8.2	3.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙、雲母、赤色粒、海緑骨芯、土丹粒 良土 c. 黄褐色 e. 良好 L完形 g. 口底内部に一部黒色に変色							
19	128	遺構 56	常滑 壺	-	-	-	a. 輪組み技法 b. 灰褐色 砂粒、長石、石英 c. 灰褐色 e. 稲實 L胴部片 g. 格子文の叩き印							
19	129	遺構 56	石製品 砥石	5.9	4.1	2.5	a. 剥離消耗しており。使用痕か? c. 灰白色							
19	130	遺構 56	鉢形品 封	3.2	0.2	0.2	a. 断面方形 底造 g. 踏付着							
19	131	遺構 56	鉢形品 封	4.9	0.4	0.3	a. 断面方形 底造							
19	132	遺構 56	土製品 円筒埴輪	-	-	-	b. 黄灰地 砂粒、黑色粒 c. 黄褐色 e. 稲實 良好 L胴部片 g. たが(安岐)部擦ナデ調整したが部擦は白帯で空する。胴部外面擦にハケ目調整直、黒斑はない。内面下からのハケ目・5世紀後半以降 e. ややむし L1/4							
19	133	遺構 58	かわらけ	(7.1)	(4.3)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙、雲母、海緑骨芯、やや粗土 c. 黄褐色 e. ややむし L1/4							
19	134	遺構 58	かわらけ	(12.3)	(7.0)	3.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙、雲母、赤色粒、海緑骨芯、土丹粒 やや粗土 c. 黄褐色 e. ややむし L1/4							
19	135	遺構 58	石製品 甌	(8.2)	(4.2)	2.2	a. 壁面の切り出し痕のところが、裏面は天然石のまま L表面の一部しか残っていない。c. 灰褐色							
20	1	第2面 前上	かわらけ	(7.0)	(4.9)	1.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙多、雲母、赤色粒、海緑骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 L1/4							
20	2	第2面 前上	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙、雲母、赤色粒、海緑骨芯 や土丹粒 粗土 c. 黄褐色 e. 良好 L1/4							
20	3	第2面 前上	かわらけ	(7.0)	(5.3)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙、雲母、赤色粒、海緑骨芯、土丹粒 やや粗土 c. 黄褐色 e. ややむし L1/4							
20	4	第2面 前上	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙、雲母、赤色粒、海緑骨芯、土丹粒 粗土 c. 黄褐色 e. 良好 L1/3 g. 一部黒色に変色							
20	5	第2面 前上	かわらけ	(7.4)	(4.8)	2.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙、雲母、赤色粒、海緑骨芯、土丹粒 粗土 c. 黄褐色 e. 良好 L1/3							
20	6	第2面 前上	かわらけ	7.5	4.4	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙、雲母、赤色粒、海緑骨芯、土丹粒 やや粗土 c. 黄褐色 e. やや粗土 L1/3							
20	7	第2面 前上	かわらけ	(7.7)	(4.9)	2.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙、雲母、赤色粒、海緑骨芯、土丹粒 やや粗土 c. 黄褐色 e. やや粗土 L1/3							
20	8	第2面 前上	かわらけ	(7.5)	(5.1)	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕、系切り痕 b. 微妙、雲母、赤色粒、海緑骨芯、土丹粒 やや粗土 c. 黄褐色 e. やや粗土 L1/3							

単位(cm)

## 出土遺物観察表

開版 No.	出土遺構	種別	口縫 長さ	板幅 幅	板高 厚さ	説明内容
20 9	第2面 面上	かわらけ	(7.5)	(42)	1.6	a. 成形・調整 b. 土器・素地・材質 c. 色調 d. 軸調 e. 硬質 f. 遺存状 g. 参考 a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. 良好 f. L3
20 10	第2面 面上	かわらけ	(7.0)	(46)	1.8	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. 良好 f. L2/3
20 11	第2面 面上	かわらけ	(7.4)	(55)	1.5	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. 良好 f. L1/3
20 12	第2面 面上	かわらけ	8.0	5.5	1.8	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. やや粗い f. L2形
20 13	第2面 面上	かわらけ	(8.0)	(55)	1.8	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. やや粗い f. L3
20 14	第2面 面上	かわらけ	(8.0)	(62)	1.6	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. やや粗い f. L4
20 15	第2面 面上	かわらけ	(8.1)	(54)	2.1	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. やや粗い f. L3
20 16	第2面 面上	かわらけ	(9.2)	(62)	1.8	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. やや粗い f. L2/3 g. 外面一部黒色に変色
20 17	第2面 面上	かわらけ	(8.1)	(49)	2.0	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. やや粗い f. L4/4 g. 口沿部一部黒色に変色
20 18	第2面 面上	かわらけ	7.8	5.1	1.8	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. やや粗い f. L形
20 19	第2面 面上	かわらけ	(8.5)	(57)	2.3	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 変形 土丹粒 地上 粗粒色 e. 良好 f. L2/3
20 20	第2面 面上	かわらけ	(7.9)	(47)	2.0	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. やや粗い f. L2/3 g. 外面一部黒色に変色
20 21	第2面 面上	かわらけ	(8.6)	(6.0)	2.2	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 変形 土丹粒 地上 粗粒色 e. 良好 f. L4
20 22	第2面 面上	かわらけ	(9.1)	(6.7)	2.0	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 変形 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. やや粗い f. L形
20 23	第2面 面上	かわらけ	11.1	6.7	3.4	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 変形 土丹粒 上 e. 黄褐色 e. 良好 f. Lはば記
20 24	第2面 面上	かわらけ	11.2	6.9	3.2	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 地上 黄褐色 e. やや粗い f. L3/4 g. 内底口縫から全体にかけて一部黒色に変色
20 25	第2面 面上	かわらけ	(12.2)	(7.8)	3.2	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 やや粗 色 黄褐色 e. 良好 f. L4 g. 内底一部黒色に変色
20 26	第2面 面上	かわらけ	(12.1)	(7.3)	3.8	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 変形 土丹粒 地上 粗粒色 e. 良好 f. L4 g. 全周に覆っている
20 27	第2面 面上	かわらけ	(13.2)	(8.7)	3.4	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 地上 粗粒色 e. 良好 f. L2/2 g. 口縫部 部分黒色に変色
20 28	第2面 面上	かわらけ	13.4	8.2	3.5	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 地上 粗粒色 e. 良好 f. L4
20 29	第2面 面上	かわらけ	(12.4)	(7.0)	3.6	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 地上 粗粒色 e. 良好 f. L3/3
20 30	第2面 面上	かわらけ	(13.6)	(8.5)	3.2	a. ロクロ 内底ナダ 外底部板状圧痕 素切り痕 b. 微妙 雲母 土丹粒 地上 粗粒色 e. 良好 f. L6 g. L部一部黒色に変色
20 31	第2面 面上	青磁 編茎弁文鏡	-	-	-	a. ロクロ b. 灰色 黑色斑 鮫目網密 d. 黄褐色不透明 L口縫部片
20 32	第2面 面上	青磁 編茎弁文鏡	-	-	-	a. ロクロ b. 蓝褐色 黑色斑 鮫目網密 d. 黄褐色透明 L口縫部片
20 33	第2面 面上	舶載 大口鏡	-	(4.4)	-	a. ロクロ b. 灰色 精良土 d. 黑褐色 L底部片 L1/4
20 34	第2面 面上	瀬戸 掛鏡	-	-	-	a. ロクロ b. 黄色 雪綿 精良土 d. 黄褐色 硬質刀彫り e. 良好 L口縫部片 g. 戻期
20 35	第2面 面上	瀬戸 掛鏡	-	-	-	a. ロクロ b. 黄色 雪綿 精良土 d. 黄褐色 硬質刀彫り e. 良好 L口縫部片
20 36	第2面 面上	瀬戸 掛鏡	-	-	-	a. ロクロ b. 黄色 雪綿 精良土 d. 黄褐色 硬質刀彫り e. 良好 L底部片
20 37	第2面 面上	瀬戸 掛鏡	-	(9.0)	-	a. ロクロ b. 黄色 雪綿 精良土 d. 黄褐色 硬質刀彫り e. 良好 L底部片 L1/3
20 38	第2面 面上	深美 無文鏡	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄色 粗粒・石英・石英 c. 黄褐色 e. 硬質 L底～胴部分
20 39	第2面 面上	常滑 鏡	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 橙色 粗粒・石英・石英 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縫部片
20 40	第2面 面上	常滑 鏡	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄色 粗粒・石英・石英・黑色 d. 茶褐色 e. 硬質 L口縫部片 g. H型式
20 41	第2面 面上	常滑 鏡	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄色 長石・石英 c. 黄褐色 e. 硬質 L銅片部 g. 織紋支文叩き印
20 42	第2面 面上	常滑 鏡	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 明灰白 長石・石英 c. 黄褐色 e. 硬質 L銅片部 g. 斜削子と織紋支文叩き印
20 43	第2面 面上	常滑 鏡	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 姫灰白 粘土・長石・石英 c. 黄褐色 e. 硬質 L銅片部
20 44	第2面 面上	常滑 鏡	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄色 長石・石英 c. 黄褐色 e. 硬質 L銅片部 g. 斜削子文叩き印
20 45	第2面 面上	常滑 鏡 片口跡	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄色 長石・石英 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縫部片 g. 内外一部黒色 内面擦耗
20 46	第2面 面上	常滑 鏡 片口跡	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄色 黑色斑・長石 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縫部片 g. 内面擦耗
20 47	第2面 面上	常滑 鏡 片口跡	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄色 黑色斑・長石 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縫部片 g. 内面擦耗
20 48	第2面 面上	常滑 鏡 片口跡	-	-	-	a. 輪積み技法 b. 黄色 長石・石英 c. 黄褐色 e. 硬質 L口縫部片 g. 内面擦耗

単位 (cm)

## 出土遺物観察表

図版 No.	No.	出土遺構	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	観察内容									
							a:成形・調整	b:土色・素地・材質	c:色調	d:輪調	e:焼成	f:遺存状	g:検考			
20	49	第2面 片口跡I型	-	-	-	-	a.輪組み技法	b.灰色	長石・石英	c.灰色	d.灰白色	e.硬質	f.口縁部片	g.内面摩耗		
20	50	第2面 片口跡II型	-	-	-	-	a.輪組み技法	b.灰褐色	砂粒・長石	c.灰色	d.灰白色	e.硬質	f.口縁部片	g.内面摩耗		
20	51	第2面 片口跡II型	-	-	-	-	a.輪組み技法	b.灰褐色	長石・石英	c.灰色	d.灰白色	e.硬質	f.口縁部片	g.内面摩耗		
20	52	第2面 片口跡II型	-	-	-	-	a.輪組み技法	b.灰褐色	砂粒・長石	c.赤褐色	d.灰白色	e.硬質	f.口縁部片	g.内面摩耗		
20	53	第2面 片口跡	尾張型 片口跡	-	-	-	a.輪組み技法	b.灰褐色	長石・石英	c.灰色	d.灰白色	e.硬質	f.口縁部片	g.内面摩耗		
20	54	第2面 面上	山茶楓	-	-	-	a.クロ	b.灰褐色	砂粒・白色粒	c.良土	d.良好	e.口縁部片	f.内面摩耗	g.内面摩耗		
20	55	第2面 面上	土器質 火鉢	-	-	-	a.輪組み技法	b.灰色	砂粒・白色粒	c.灰白色	d.良好	e.口縁部片	f.内面摩耗	g.内面摩耗		
21	56	第2面 面上	瓦器質 火鉢	(36.6)	(29.0)	10.5	a.輪組み技法	b.黑色處理	内面黒漆のミガキ	c.灰褐色	d.砂粒・白色粒	e.小石粒	f.灰黑色	g.良好		
21	57	第2面 面上	南伊勢系 土鍋	-	-	-	a.輪組み技法	b.口縁部折り返し	c.黄褐色	d.砂粒・黑色粒	e.黄褐色	f.中灰	g.外側墨刷	h.黒に変色		
21	58	第2面 面上	石製品 砾石	(8.2)	3.4	2.9	a.紙面	b.灰褐色	中灰	c.天草原	d.中灰	e.天草原	f.一部黒色に変化	g.二次発掘を受けている		
21	59	第2面 面上	石製品 砾石	(7.4)	3.0	1.2	a.紙面	b.灰褐色	c.灰褐色	d.仕上げ砥	e.泥混	f.泥混	g.泥混	h.泥混		
21	60	第2面 面上	石製品 砾石	(7.0)	(3.2)	(0.5)	a.紙面	b.灰褐色	c.黄褐色	d.砂粒	e.灰褐色	f.中灰	g.仕上げ砥	h.泥混		
21	61	第2面 面上	石製品 砾石	(18.7)	2.5	2.2	a.紙面	b.灰褐色	c.灰褐色	d.砂粒	e.黄褐色	f.中灰	g.天草原	h.外側墨刷		
21	62	第2面 面上	石製品 用端子	(6.0)	3.9	2.3	a.3面削ってある。	b.灰褐色	c.灰褐色	d.砂粒	e.灰褐色	f.中灰	g.天草原	h.外側墨刷		
21	63	第2面 面上	石製品 軸石	縦4.5	横3.3	厚さ2.5	c.灰褐色	d.砂粒	e.砂粒	f.砂粒	g.砂粒	h.砂粒	i.砂粒	j.砂粒		
21	64	第2面 面上	鉄製品 刀子	(6.7)	2.3	0.3	f.刀身部	g.蔵付着	h.蔵付着	i.蔵付着	j.蔵付着	k.蔵付着	l.蔵付着	m.蔵付着		
21	65	第2面 面上	鉄製品 鎌具	7.2	×	3.2	厚さ0.5	g.蔵付着	h.蔵付着	i.蔵付着	j.蔵付着	k.蔵付着	l.蔵付着	m.蔵付着		
21	66	第2面 面上	鉄製品 鎌	6.7	0.4	0.5	a.断面方形	b.鍛造	c.先端曲がる	d.砂粒	e.砂粒	f.砂粒	g.砂粒	h.砂粒		
21	67	第2面 面上	鉄製品 鎌	5.9	0.4	0.4	a.断面方形	b.鍛造	c.砂粒	d.砂粒	e.砂粒	f.砂粒	g.砂粒	h.砂粒		
21	68	第2面 面上	鉄製品 鎌	(6.1)	0.3	0.3	a.断面方形	b.鍛造	c.砂粒	d.砂粒	e.砂粒	f.砂粒	g.砂粒	h.砂粒		
21	69	第2面 面上	鉄製品 鎌	5.7	0.4	0.5	a.断面方形	b.鍛造	c.砂粒	d.砂粒	e.砂粒	f.砂粒	g.砂粒	h.砂粒		
21	70	第2面 面上	鉄製品 鎌	5.3	0.3	0.3	a.断面方形	b.鍛造	c.砂粒	d.砂粒	e.砂粒	f.砂粒	g.砂粒	h.砂粒		
21	71	第2面 面上	鉄製品 鎌	6.0	0.4	0.4	a.断面方形	b.鍛造	c.砂粒	d.砂粒	e.砂粒	f.砂粒	g.砂粒	h.砂粒		
21	72	第2面 面上	鉄製品 鎌	5.5	0.4	0.3	a.断面方形	b.鍛造	c.砂粒	d.砂粒	e.砂粒	f.砂粒	g.砂粒	h.砂粒		
21	73	第2面 面上	鉄製品 鎌	4.8	0.5	0.6	a.断面方形	b.鍛造	c.砂粒	d.砂粒	e.砂粒	f.砂粒	g.砂粒	h.砂粒		
21	74	第2面 面上	金屬製品 鋼鏡	外径24.1	内径19.9	孔径0.63	f.定形	g.朱漆透青	h.輪調年 1038年 真善	i.砂粒	j.砂粒	k.砂粒	l.砂粒	m.砂粒		
21	75	第2面 面上	金屬製品 鋼鏡	外径23.1	内径19.5	孔径0.72	f.定形	g.朱漆透青	h.輪調年 1068年 真善	i.砂粒	j.砂粒	k.砂粒	l.砂粒	m.砂粒		
21	76	第2面 面上	組合器 蓋	-	-	-	a.クロ	b.灰褐色	c.白色粒	d.灰褐色	e.硬質	f.口縁部片	g.内面摩耗	h.内面摩耗		
21	77	第2面 面上	組合器 环	-	-	-	a.クロ	b.灰褐色	c.白色粒	d.黑色粒	e.硬質	f.口縁部片	g.内面摩耗	h.内面摩耗		
21	78	第2面 面上	組合器 蓋	-	-	-	b.灰色	c.砂粒	d.粗良土	e.烟灰褐色	f.口縁部片	g.内面摩耗	h.内面摩耗	i.内面摩耗		
21	79	第2面 構成土	雪浦 壺	-	-	-	a.輪組み技法	b.灰色	c.砂粒	d.長石	e.黑色粒	f.灰褐色	g.硬質	h.土刷・底部片		
21	80	第2面 構成土	雪浦 壺	-	-	-	a.輪組み技法	b.灰褐色	c.砂粒	d.長石	e.长石	f.烟灰褐色	g.硬質	h.底部片		
22	1	表様	かわらけ	(7.1)	(5.3)	1.4	a.クロ	b.灰褐色	c.白色粒	d.灰褐色	e.良土	f.土	g.橙色	h.良好	i.口	j.口
22	2	表様	かわらけ	(7.8)	(6.4)	1.4	a.クロ	b.灰褐色	c.白色粒	d.灰褐色	e.良好	f.口	g.口	h.口	i.口	j.口
22	3	表様	かわらけ	7.3	5	1.7	a.クロ	b.灰褐色	c.白色粒	d.灰褐色	e.良好	f.口	g.口	h.口	i.口	j.口
22	4	表様	かわらけ	(7.4)	(4.5)	1.8	a.クロ	b.灰褐色	c.白色粒	d.灰褐色	e.良好	f.口	g.口	h.口	i.口	j.口
22	5	表様	かわらけ	(7.2)	(3.8)	2.1	a.クロ	b.灰褐色	c.白色粒	d.灰褐色	e.良好	f.口	g.口	h.口	i.口	j.口
22	6	表様	かわらけ	(8.0)	(4.2)	2.0	a.クロ	b.灰褐色	c.白色粒	d.灰褐色	e.良好	f.口	g.口	h.口	i.口	j.口
22	7	表様	かわらけ	(7.8)	(5.6)	2.0	a.クロ	b.灰褐色	c.白色粒	d.灰褐色	e.良好	f.口	g.口	h.口	i.口	j.口
22	8	表様	かわらけ	(10.5)	(6.0)	2.6	a.クロ	b.灰褐色	c.白色粒	d.灰褐色	e.良好	f.口	g.口	h.口	i.口	j.口

単位(cm)

出土遺物観察表

閲覧 No.	No.	出土遺構	種別	口徑 長さ	板厚 幅	器高 厚さ	観察内容						
							a: 形成・調整	b: 驚土・素地・材質	c: 色調	d: 軸調	e: 焼成	f: 遺存状	g: 標考
22	9	表探	かわらけ	(10.5)	(66)	3.1	a. ロクロ 内底ナガ 外底部板状化痕、赤切り痕 b. 微妙・雲母・赤色絞、海綿骨芯、土舟粒 中や粗 土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/4						
22	10	表探	かわらけ	(10.9)	(52)	3.2	a. ロクロ 内底ナガ 外底部板状化痕、赤切り痕 b. 微妙・雲母・赤色絞、海綿骨芯、土舟粒 中や粗 土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/4						
22	11	表探	かわらけ	(12.8)	(65)	3.2	a. ロクロ 内底ナガ 外底部板状化痕、赤切り痕 b. 微妙・雲母・赤色絞、海綿骨芯、土舟粒 小石粒 粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/3						
22	12	表探	かわらけ	(13.3)	(80)	2.6	a. ロクロ 内底ナガ 外底部板状化痕、赤切り痕 b. 微妙・雲母・赤色絞、海綿骨芯、土舟粒 小石粒 粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/2 g. 口縁部内外、黒色に変色						
22	13	表探	白磁 合子	(6.2)	—	—	a. ロクロ b. 白色 黑色を複かに含む粗具細密 e. 青味がかった乳白色不透明釉 f. 1/4 g. 菊花型の 合子の基						
22	14	表探	瀬戸 削線深皿	—	—	—	a. ロクロ b. 黄褐色 砂粒・黑色斑・やや粗土 d. 明灰緑色 浸け剥げ e. 良好 線質 f. 口縁部片 g. 中堅後半~後期直手						
22	15	表探	瀬戸 刻印	—	—	—	a. ロクロ b. 黄褐色 磁跡・良土 d. 黄褐色 磁毛巻き e. 良好 f. 施部方面						
22	16	表探	瀬戸 刻印	(11.7)	4.0	7.4	a. ロクロ 貼り付け高台 b. 淡黄色 黑色斑・精良土 d. 黑褐色 e. 良好 f. 口縁~施部片 1/3 g. 中 堅						
22	17	表探	常滑 無鉢	(9.4)	—	—	a. 輪積み成形 b. 黄褐色 長石・石英・白色粒 c. 茶褐色 d. 黄緑色(自然軸) e. 線質 f. 口縁部~施 部						
22	18	表探	常滑 無鉢	—	—	—	a. 輪積み成形 b. 黄褐色 砂粒・長石・石英・白色粒 c. 茶褐色 d. 黄緑色(自然軸) e. 線質 f. 口縁部~施 部						
22	19	表探	陶瓦 瓦	—	—	—	a. 輪積み成形 b. 黄褐色 砂粒・石英・白色粒 c. 茶褐色 e. 線質 f. 口縁部 g. 瓦腹の押き印文						
22	20	表探	片口跡上盤	—	—	—	a. 輪積み成形 b. 黄褐色 長石・石英・黑色粒 c. 黄褐色 e. 線質 f. 口縁部片						
22	21	表探	常滑 片口跡上盤	—	—	—	a. 輪積み成形 b. 黄褐色 砂粒・長石・白色粒多 c. 茶褐色 e. 線質 f. 口縁部片 g. 口沿一部黒色に 変色						
22	22	表探	常滑 片口跡上盤	—	—	—	a. 輪積み成形 b. 黄褐色 砂粒・長石・石英・白色粒 c. 茶褐色 e. 線質 f. 口縁部片						
22	23	表探	陶瓦 瓦	—	—	—	a. 輪積み成形 b. 黄褐色 砂粒・白色粒 c. 茶褐色 e. 線質 f. 口縁部片						
22	24	表探	備前 擦跡	—	—	—	a. 輪積み成形法の後ロクロ整形 b. 黄褐色 砂粒・黑色粒・白色粒多 c. 黄褐色 e. 線質 f. 口縁部片						
22	25	表探	土器品 土鉢	(4.5)	胴径 1.7	孔径 0.6	g. 滑程色						
22	26	表探	石製品 砥石	(4.5)	2.8	0.7	a. 軸前面 横面切り出し痕 c. 黄緑色 f. 断面剥離 g. 仕上研 喰込削向田						
22	27	表探	石製品 砥石	(2.9)	(2.5)	0.6	a. 軸面 2面 横面切り出し痕 b. 壊滅状(頁岩) c. 黄白色 g. 仕上げ研 喰込削向田						
22	28	表探	石製品 用途不明	1.5	1.7	0.3	c. 黒色 g: 基石か						
22	29	表探	鉄製品 釘	5.8	0.3	0.3	a. 断面方形 純造						
22	30	表探	鉄製品 釘	5.0	0.3	0.3	a. 断面方形 純造						
22	31	表探	鉄製品 釘	(5.9)	0.6	0.4	a. 断面方形 純造 f. 端部欠損						
22	32	表探	鉄製品 釘	7.7	0.5	0.4	a. 断面方形 純造						
22	33	表探	鉄製品 釘	7.9	0.5	0.4	a. 断面方形 純造 g. 端付着						
22	34	表探	鉄製品 釘	7.4	0.6	0.3	a. 断面方形 純造 g. 端付着						
22	35	表探	鉄製品 釘	(4.5)	0.6	0.9	a. 断面方形 f. 端部欠損 g. 端付着						
22	36	表探	鉄製品 釘	(4.3)	0.5	0.5	a. 断面方形 純造 f. 端部欠損 g. 端付着						

単位(cm)

遺物破片数表(1)

		1面造拂	1面上	1面構成土	2面造拂	2面上	2面構成土	表様	合計	比率	
舶載品	青磁	蓮弁文碗	6	12	0	11	3	1	5	38	0.4
		割花文碗	0	0	0	0	0	0	2	2	0.0
		柳葉文碗	1	0	0	0	0	0	0	1	0.0
		碗	1	0	1	1	0	0	0	3	0.0
		折越皿	0	1	0	0	0	0	0	1	0.0
		壺	0	1	0	0	1	0	0	2	0.0
		鉢	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0
		その他	0	1	0	0	0	0	0	1	0.0
舶載品	白磁	器種不明	0	0	0	0	1	0	1	2	0.0
		口丸皿	8	0	1	1	1	0	0	11	0.1
		口丸碗	0	0	0	1	0	0	0	1	0.0
		皿	0	0	0	1	0	0	0	1	0.0
		壺	0	0	1	1	0	0	0	2	0.0
	青白磁	合子	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0
		梅瓶	0	2	0	2	1	0	0	5	0.1
		合子	0	0	0	1	0	0	0	1	0.0
舶載品	二彩か三彩		0	1	1	0	0	0	1	3	0.0
	舶載天目茶碗		1	0	0	0	1	0	0	2	0.0
国産陶器	瀬戸	碗	0	1	0	0	0	0	0	1	0.0
		平椀	2	1	0	0	0	0	1	3	0.0
		皿	1	0	0	0	1	0	0	2	0.0
		折縁皿	4	10	0	0	0	0	5	19	0.2
		折縁深皿	5	0	8	2	0	0	4	19	0.2
		鉢皿	10	2	5	0	4	0	3	24	0.2
		入子	2	2	2	1	0	0	0	7	0.1
		華瓶	2	1	0	0	0	1	0	4	0.0
		壺	7	2	0	4	0	0	1	14	0.1
		鉢	1	2	0	0	0	0	0	3	0.0
		大平鉢	3	0	0	0	0	0	5	8	0.1
		瓶子	0	0	3	1	0	0	2	6	0.1
		緑釉小皿	2	3	4	0	0	0	1	10	0.1
		天目茶碗	4	1	1	0	0	0	1	7	0.1
		その他	1	0	1	1	0	0	0	3	0.0
		器種不明	1	0	0	0	0	0	0	1	0.0
常滑	常滑	壺	522	116	129	264	140	5	174	1350	13.7
		壺	3	0	3	1	3	2	2	14	0.1
		椎り常滑	2	0	1	3	0	0	4	10	0.1
		片口鉢I類	29	8	13	16	18	0	11	95	1.0
		片口鉢II類	16	5	7	8	3	0	4	43	0.4
		鉢	2	1	0	2	1	0	0	6	0.1
		その他	1	0	0	0	0	0	0	1	0.0
		片口鉢	0	0	0	0	1	0	0	1	0.0
瀬美	尾張	壺	5	2	2	2	0	0	0	11	0.1
		押鉢	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0
	尾張	山茶碗	1	0	1	1	0	0	1	4	0.0
		彌前 押鉢	3	0	0	0	0	0	2	5	0.1
		東播 系鉢	5	2	1	0	0	0	0	8	0.1
		その他	2	0	0	0	1	0	0	3	0.0

遺物破片数表(2)

		1面遺構	1面上	1面側成土	2面遺構	2面上	2面側成土	表様	合計	比率
土器・土製品	かわらけ	希 大	2817	410	681	1164	846	53	587	6558 66.6
		希 小	212	29	27	109	89	0	82	548 5.6
		手 大	2	0	0	1	3	3	0	9 0.1
		加工かわらけ	1	0	0	1	0	0	0	2 0.0
	火葬	瓦器質	30	7	7	5	10	0	5	64 0.6
		土器質	1	0	0	3	0	0	0	4 0.0
	瓦器	ツバ鉢	4	1	0	1	1	0	3	10 0.1
		瓦器質香炉	1	1	1	0	0	0	0	3 0.0
		土鍋	1	0	2	0	0	0	1	4 0.0
	瓦	土製品	0	0	0	0	0	0	1	1 0.0
		平瓦	1	0	0	0	0	0	0	1 0.0
		不明	3	0	0	1	1	0	0	5 0.1
石製品	滑石	鏡	1	0	0	0	0	0	0	1 0.0
		藻石	0	0	0	1	0	0	0	1 0.0
		滑石製品	0	0	1	2	2	0	0	5 0.1
	礪	礪	3	0	2	1	0	0	1	7 0.1
		研磨用品	1	0	0	0	0	0	0	1 0.0
	砥石	砥石	10	3	0	4	2	0	3	22 0.2
		磨石	0	0	0	1	0	0	0	1 0.0
		火打ち石	2	1	0	1	0	0	0	4 0.0
	加工石製品	加工石製品	3	0	0	1	2	0	0	6 0.1
金属製品	鉄製品	釘	56	5	10	40	15	0	17	143 1.5
		鉄滓	5	0	1	3	9	0	1	19 0.2
		刀子	0	0	0	0	1	0	0	1 0.0
		鉄製品	3	1	2	5	2	0	0	13 0.1
	輸の羽口	輸の羽口	7	1	2	5	1	1	2	19 0.2
		るつぼ	0	1	0	0	0	0	0	1 0.0
	銅製品	銖	0	0	0	0	2	0	0	2 0.0
		笄	2	0	2	0	0	0	0	4 0.0
骨格製品	加工骨	加工骨	3	1	0	0	0	0	0	4 0.0
		要	0	0	0	0	4	2	0	6 0.1
古代以前	土師器	種別不明	0	1	0	0	0	0	0	1 0.0
		要	0	0	0	0	1	0	2	3 0.0
	須恵器	その他	0	0	0	0	1	0	0	1 0.0
		種別不明	0	2	0	0	0	0	0	2 0.0
	その他	その他	0	1	0	1	0	0	0	2 0.0
		骨	179	13	26	109	79	6	43	455 4.6
自然遺物	自然遺物	魚骨	3	0	0	4	0	0	0	7 0.1
		その他	1	0	0	0	0	0	0	1 0.0
		種	4	0	0	1	0	0	1	6 0.1
		玉石	41	1	42	20	17	0	10	131 1.3
		鰐石	3	0	0	2	1	1	2	9 0.1
その他		0	0	0	1	0	0	0	1	0.0
合計		4053	656	991	1813	1269	75	994	9850	100.0
比率		41.1	6.7	10.1	18.4	12.9	0.8	10.1	100.0	

出土貝分類表

生息環境	貝類群	1面造橋	1面上	1面構成土	2面造橋	2面上	2面構成土	表探	合計
内湾干潟群集	ウミニナ	3	0	4	4	0	0	0	11
	イボウミニナ	4	2	1	0	0	0	0	7
	ホソウミニナ	1	0	1	0	0	0	0	2
	オキアサリ	1	0	0	1	0	0	0	2
	マテガイ	0	2	0	0	0	0	0	2
	ウバガイ	0	0	0	1	0	0	0	1
内湾砂浜群集	ハマグリ	156	18	33	126	103	4	16	456
	イボキサゴ	15	25	8	49	13	0	0	110
	キサゴ	11	4	5	4	2	0	1	27
	年寄ゴホ	0	0	2	0	0	0	0	2
	ツメタガイ	13	1	1	5	6	0	4	30
	アカニシ	97	14	14	50	21	2	6	204
	バイ	48	10	20	18	22	0	16	134
	サルボウガイ	2	1	1	0	0	0	0	4
	シオフキガイ	2	0	0	1	0	0	0	3
	アサリ	0	0	0	1	0	0	0	1
内湾砂礫底群集	イワガイ	1	0	0	5	0	0	0	6
	オニアサリ	2	0	0	0	0	0	0	2
	ホタテガイ	0	0	0	0	1	0	0	1
内湾潮間帶～泥性群集	スズガイ	2	0	1	0	0	0	0	3
	トコブシ	0	0	0	1	0	0	0	1
	オニゾノガイ	1	0	0	0	0	0	0	1
	ウズイナモンジ	1	0	0	0	0	0	0	1
	ヒメイトマキボラ	0	1	0	0	0	0	0	1
	マツムシガイ	1	0	0	0	0	0	0	1
	クロアワビ	3	0	0	3	0	0	0	6
	アワビ	19	3	0	6	1	0	0	29
	アワビ系	6	0	0	0	9	0	0	15
	レイシガイ	1	0	0	0	0	0	0	1
	トマヤガイ	0	0	0	0	0	0	1	1
	フノマタナガニシ	0	0	0	1	0	0	0	1
	イシダタミガイ	2	0	0	0	0	0	0	2
	マガキ	3	0	1	3	1	0	0	8
	カキ系	4	2	0	1	1	0	0	8
	バチイラ	2	0	3	1	0	0	2	8
	クボガイ	2	0	0	3	0	0	1	6
	イボニシ	1	0	1	0	0	0	0	2
	サトウガイ	8	0	1	4	2	1	2	18
沿岸紗底群集	サトウガイか サルボウガイか不明	0	0	1	0	0	0	0	1
	江籠ハマグリ	53	11	20	45	36	1	11	177
	ダンベイキサゴ	34	7	17	33	25	0	14	130
沿岸紗泥底群集	ヤツシロガイ	0	0	1	0	0	0	0	1
	サザエ	60	7	18	28	15	5	12	145
	サザエ蓋	3	2	0	3	0	0	2	10
	マダカアワビ	3	1	1	7	3	0	1	16
	イガイ	12	3	0	17	1	0	0	33
沿岸紗泥底群集 感潮域群集	ミルク貝	0	0	0	0	4	0	0	4
	シジミ	0	0	0	0	0	1	0	1
	不明貝具	4	0	0	0	0	0	0	4
	不明二枚貝	0	0	0	1	0	0	0	1
	不明	1	0	0	1	0	0	0	2
合計		582	114	155	423	266	14	89	1643



△ 第1面全景  
(西から)



△ 第1面・遺構6  
(南から)



△ 第1面・遺構9  
(南から)



△ 第1面・遺構11  
(南から)



第1面・遺構12 △  
常滑窯 出土状況



△ 第2面・遺構36  
(南から)



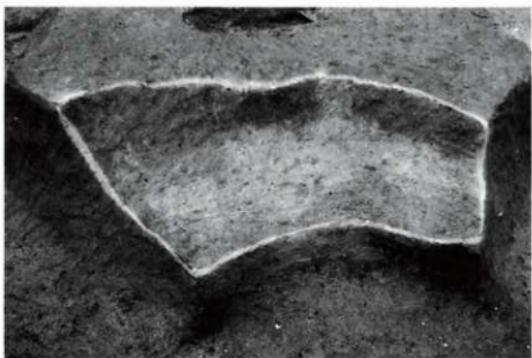
△ 第2面全景  
(西から)



△ 第2面全景  
(中央・南から)



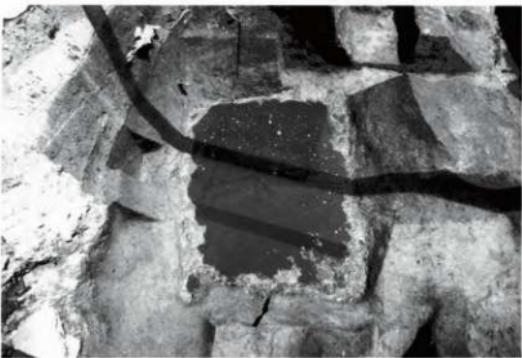
△ 第2面・遺構41  
(南から)



△ 第2面・遺構42  
(北から)



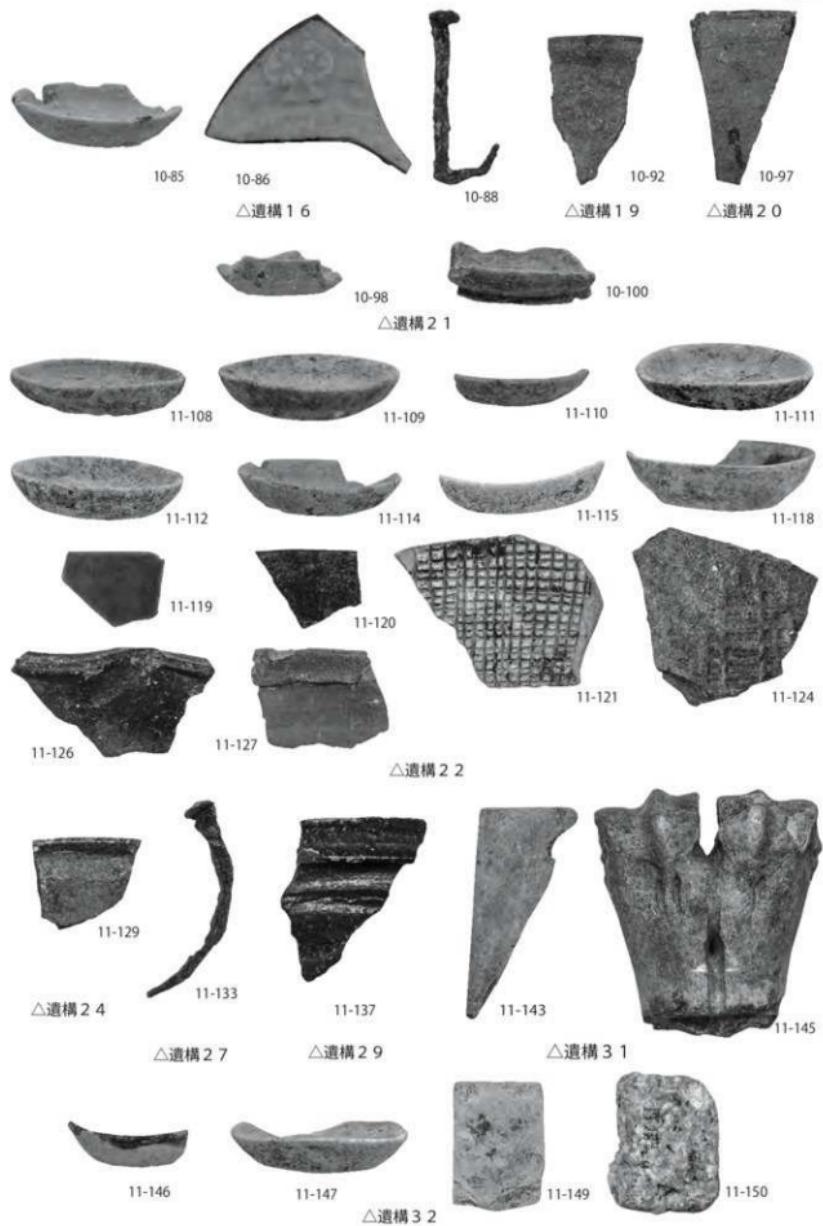
△ 第2面・遺構48  
(南から)



△ 第2面・遺構49  
(西から)

## ▼第1面





図版7



△第1面面上



△第1面構成土

## ▼第2面



## △遺構 3 3



## △遺構 3 6

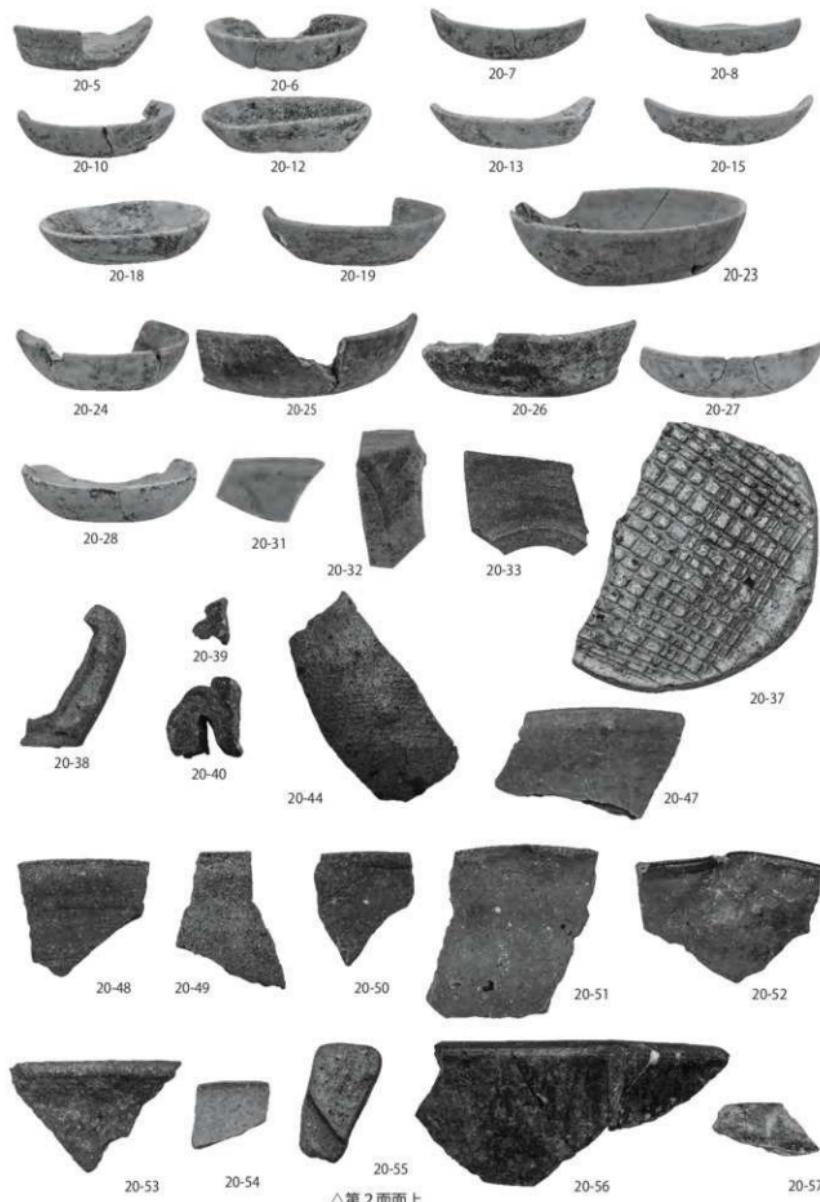


## △遺構 3 6 床直上



## △遺構 4 0

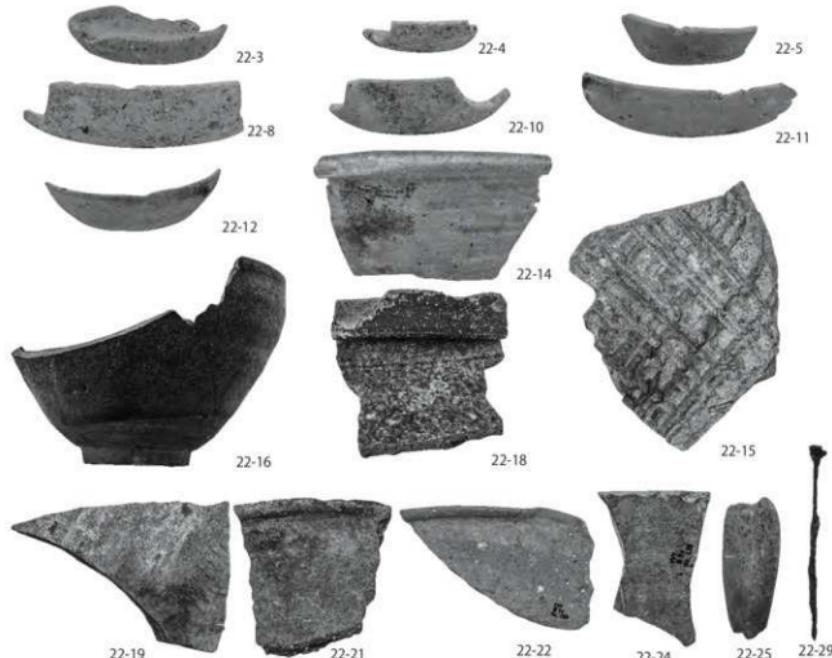




△第2面上面



△第2面上面



△表採

下馬周辺遺跡 (No.200)

由比ガ浜二丁目107番5地点

## 例 言

1. 本報は鎌倉市由比ガ浜二丁目107番5地点に所在する、個人専用住宅の新築に先立ち行われた下馬周辺遺跡（県道跡台帳No.200）の発掘調査報告書で、遺跡の略号はGB由2-107-5である。
2. 発掘調査は平成19年8月28日から同年9月21日にかけて、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。建築基礎の入る部分の調査を行った。調査面積は12m<sup>2</sup>である。
3. 本報使用の遺物実測図及び遺物トレースは梅岡ケイト、佐藤千尋、森谷十美が、原稿執筆、図版組、遺物写真撮影は福田誠が担当し、編集も福田が行った。
4. 本報に使用した遺構写真は鈴木絵美が、出土遺物写真は福田が撮影を行った。
5. 発掘調査の体制は以下の通りである。  
調査担当者 鈴木絵美  
調査員 石元道子  
調査補助員 須之内江里  
作業員 (社)鎌倉市シルバー人材センター 片山昭 牛島道夫 堀住稔
6. 資料整理の体制は以下の通りである。  
整理担当者 福田誠（鎌倉市教育委員会嘱託）  
調査員 梅岡ケイト 佐藤千尋 森谷十美（鎌倉市文化財課臨時の任用職員）
7. 発掘調査資料（記録図面・写真・出土遺物）は、鎌倉市教育委員会が一括保管している。
8. 調査時に用いた鎌倉市三・四級基準点（旧地系）座標は、資料整理の段階で国土地理院世界測地系座標変換ソフトWeb版（TKY2JGD）を用い世界測地系座標に変換し用いた。

	→	世界測地系
三級基準点 (No.53227)	X=-76321.229	X=-75964.518
	Y=-25808.711	Y=-26102.147
四級基準点 (R065)	X=-76285.430	X=-75928.720
	Y=-25797.012	Y=-26090.447
原点1	X=-76264.832	X=-75908.125
	Y=-25747.725	Y=-26041.161
原点2	X=-76269.697	X=-75912.990
	Y=-25745.099	Y=-26038.535

調査で使用した水準は、鎌倉市三級基準点 (No.53227) (L=7.930m) の海拔を原点2 (L=7.803m) に移動し用いたものである。

## 目次 本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	70
第1節 遺跡の位置	
第2節 歴史的環境	
第3節 調査の経過	
第二章 検出した遺構と遺物 .....	75
第1節 第1面の遺構と遺物 (図3、図5、図版1・2、図版5)	
第2節 第2面の遺構と遺物 (図3、図5・6、図版2・3、図版5・6)	
第3節 第3面の遺構と遺物 (図3、図7、図版4、図版7・8)	
第4節 最終トレンチ (図3)	
第三章 まとめ .....	78

## 挿図目次

図1 調査地点位置と周囲の調査地点図・表 .....	71	図5 出土した遺物 1 .....	79
図2 調査区設定図 .....	74	図6 出土した遺物 2 .....	80
図3 全測図 .....	76	図7 出土した遺物 3 .....	81
図4 土層図 .....	77		

## 表目次

観察表1 .....	82	観察表2 .....	83
------------	----	------------	----

## 図版目次

図版1 由比ガ浜通りと六地蔵近景 .....	84	図版5 出土した遺物 1 .....	88
図版2 1面・2面全景 .....	85	図版6 出土した遺物 2 .....	89
図版3 2面遺構 .....	86	図版7 出土した遺物 3 .....	90
図版4 3面遺構と全景 .....	87	図版8 出土した遺物 4 .....	91

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 第1節 遺跡の位置

調査地点の鎌倉市由比ヶ浜二丁目107番5は、下馬交差点から六地蔵交差点を経て長谷観音前に通じる由比ヶ浜通り（国道134号線）に面している。下馬交差点より見て六地蔵交差点の手前、由比ヶ浜通りの南側に位置している。（図1、下馬周辺遺跡No.200中の①）

## 第2節 歴史的環境

調査地点の北側、由比ヶ浜通りは下の下馬から長谷寺まで通る「長谷小路」の道筋に当たると考えられるが、長谷小路の名は長谷寺が創建されて以降の名と考えられている。古くは今小路と稻村崎路が六地蔵で交わってから、一の鳥居を抜けて東に伸びる車大路、下の下馬を抜けて東に延びる大町大路の一部だったとも考えられている。

「吾妻鏡」によると建長4年4月、宗尊親王が京都から下向し鎌倉に入ったときに、極楽寺坂は通らず、稻村ヶ崎を廻り由比ヶ浜の鳥居の西を経て下の下馬橋に至ることが見えている。この稻村ヶ崎からの道筋（稻村崎路）は、海づたいに稻村ヶ崎を廻り、稻瀬川から内陸に入り六地蔵・若宮大路一の鳥居を経て北に、そこから下の下馬橋に至ったと考えられる。

稻村崎路は稻瀬川口から内陸に入り長谷小路との合流地点（佐々目の塔ノ辻）まで、これ以降六地蔵を経て一の鳥居までの詳細は不明ながら、安房に抜ける旧東海道や車大路の一部に当たるとも考えられる。

この一帯は、下の下馬辺りから西に延びる後背湿地の縁にあたり、東側は下の下馬に向かいながらに下り、南側は一の鳥居から西に延びる砂丘に向かいながらに上っている。

註1 長谷寺は天平8年（736）の創建と云われているが、大和長谷寺の縁起にならったものと思われる。詳しい創建年代は不明であるが、梵鐘に文永元年（1264）7月15日の銘が見られることから鎌倉時代末には成立していたと考えられる。

註2 この稻村ヶ崎から稻瀬川・六地蔵・一の鳥居・元八幡宮・辻の薬師を経て名越に至る道筋は、車大路や旧東海道の道筋に近いともいわれ大町大路よりも古い路と考えられる。

## 第3節 調査の経過

下馬周辺遺跡内の、神奈川県鎌倉市由比ヶ浜二丁目107番5の個人専用住宅新築工事に伴う建築申請を受け、鎌倉市教育委員会文化財課は周辺の発掘調査の状況から、新築工事に先立ち埋蔵文化財の発掘調査の必要性を認めた。施主の了解を戴き、住宅基礎が入る部分に鎌倉市教育委員会が埋蔵文化財発掘調査を行う運びとなった。発掘調査は、平成19年8月28日より同年9月21日までの日程で行われ、調査対象面積は12m<sup>2</sup>である。

調査にあたって、調査地の北側を東西に走る由比ヶ浜通りを意識して測量用の方眼を設定した。市内に設置してある市四級基準点のうちR065（X=-76285.430・Y=-25797.012）と市三級基準点（No.53227）（X=-76321.229・Y=25808.711）を用いて原点1（X=-76264.832・Y=-25747.725）と原点2（X=-76269.697・Y=-25745.099）を設置した。また、市三級基準点（No.53227）の海拔高（7.930m）を原点2（7.803m）移動して用いた。調査地に設定した方眼の南北軸線は真北よりN-28°21'32"-Wである。



図1 調査地点位置と周囲の調査地点図・表

下馬周辺遺跡群 No.200

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
1	由比ガ浜二丁目107番5	2007. 8	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34-1』「由比ガ浜二丁目107番5号地点」本報告地点	2018. 3
2	由比ガ浜二丁目2番2	1988. 5	県埋蔵報告52	1990. 3
3	由比ガ浜二丁目2番10	1990. 5	県埋蔵報告53	1992. 3
4	由比ガ浜二丁目2番12	1998. 1	『下馬周辺遺跡発掘調査報告書4』「由比ガ浜二丁目2番12号地点」	1998. 9
5	由比ガ浜二丁目3番7	2005. 10	県埋蔵報告51	2007. 3
6	由比ガ浜二丁目3番6	2008. 3	『下馬周辺遺跡発掘調査報告書』	2010. 9
7	由比ガ浜二丁目18番1外	2001. 6	県埋蔵報告45	2003. 3
8	由比ガ浜二丁目18番12	1990. 8	『下馬周辺遺跡』「由比ガ浜二丁目18番12号地点」	1992. 3
9	由比ガ浜二丁目19番1	2006. 4	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-1』「由比ガ浜二丁目19番1号地点」	2013. 3
10	由比ガ浜二丁目113番5	2009. 10	県埋蔵報告56	2011. 3
11	由比ガ浜二丁目110番5	1999. 8	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-1』「由比ガ浜二丁目110番5号地点」	2001. 3
12	由比ガ浜二丁目15番15	2008. 6	県埋蔵報告55	2010. 3
13	由比ガ浜二丁目107番1	1995. 10	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13-2』「由比ガ浜二丁目107番1号地点」	1997. 3
14	由比ガ浜二丁目106番6	2000. 6	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1』「由比ガ浜二丁目106番6号地点」	2002. 3
15	由比ガ浜二丁目39番14	2004. 5	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26-1』「由比ガ浜二丁目39番14号地点」	2009. 3
16	由比ガ浜二丁目27番9	1988. 7	県埋蔵報告32「由比ガ浜二丁目27番9号地点」	1990. 3
17	材木座一丁目1002番1外	2004. 5	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』	2008. 3
18	大町二丁目1001番4	2005. 2	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27』	2011. 3
19	大町二丁目975番6	2003. 1	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22』	2006. 3
20	由比ガ浜二丁目1011番1	1989. 5	『下馬周辺遺跡発掘調査報告書』「由比ガ浜二丁目1011番1号地点」	1998. 3
21	由比ガ浜二丁目1075番外	2010. 6	『下馬周辺遺跡』「鎌倉警察署建設に伴う発掘調査」	2014. 3
22	由比ガ浜二丁目1058番5	2008. 2	県埋蔵報告54	2009. 2

由比ガ浜中世集团墓地遺跡 №372

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
1	由比ガ浜 丁目1037番1外	1992.2	【県埋蔵報告35】	1993.3
2	由比ガ浜 丁目1034番1外	1990.1	【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-1】	1993.3

3	由比ガ浜二丁目1015番25外2 筆地	2011. 1	『由比ガ浜中世集団墓地遺跡』「由比ガ浜二丁目1015番25外2 筆地点」	2015. 3
4	由比ガ浜二丁目1015番23	2000. 7	『由比ガ浜中世集団墓地遺跡』	2005. 9
5	由比ガ浜二丁目1015番29	1989. 10	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』	1991. 3
6	由比ガ浜二丁目1014番15	2012. 7	『由比ガ浜中世集団墓地遺跡(№372)発掘調査報告書』	2016. 1
7	由比ガ浜二丁目1014番	1953. 5	『鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨』「簡易裁判所用地」	1956
8	由比ガ浜二丁目1015番21 未付			
9	由比ガ浜二丁目1014番17	2006. 2	『鎌倉考古古51』	2006. 6
10	由比ガ浜二丁目1014番57	2006. 6	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-1』	2015. 3
11	由比ガ浜二丁目1213番2	2013. 11	『由比ガ浜中世集団墓地遺跡(№372)発掘調査報告書』	2017. 3
12	由比ガ浜二丁目1203番20	1998. 11	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2』「由比ガ浜二丁目12 番20地点」	2000. 3
13	由比ガ浜二丁目1203番42-44 -46	2009. 1	『由比ガ浜中世集団墓地遺跡(№372)発掘調査報告書』	2011. 12
14	由比ガ浜四丁目1130番外	1993. 5	県埋蔵報告37	
15	由比ガ浜四丁目1136番	1991. 8	『由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書』「由比ガ浜四丁 目1136番地点」	1997. 2
16	由比ガ浜二丁目1235番4			

#### 今小路西遺跡 №2.0.1

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
1	由比ガ浜一丁目157番7	2004. 1	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-2』「由比ガ浜一丁目15 番7地点」	2012. 3
2	由比ガ浜一丁目151番1	2007. 5	『今小路西遺跡発掘調査報告書』「由比ガ浜一丁目151番1地点」	2011. 3
3	由比ガ浜一丁目148番11	1983. 2	県埋蔵報告26『発掘調査概要』	1984. 3
4	由比ガ浜一丁目148番1	2000. 6	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1』「由比ガ浜148番1地 点」	2002. 3
5	由比ガ浜一丁目147番1	2007. 10	県埋蔵報告54	2009. 3
6	由比ガ浜一丁目147番2外	2007. 7	県埋蔵報告54	2009. 3
7	由比ガ浜一丁目148番5	2001. 6	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20-1』「由比ガ浜一丁目14 番5地点」	2004. 3
8	由比ガ浜一丁目141番5	2006. 2	県埋蔵報告51『鎌倉市遺跡調査研究発表会』発表要旨	2007. 3
9	由比ガ浜一丁目136番1	2008. 7	県埋蔵報告55	2010. 2
10	由比ガ浜一丁目134番4	2008. 10	県埋蔵報告55	2010. 2
11	由比ガ浜一丁目183番1	2000. 8	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-2』「由比ガ浜一丁目18 番1地点」	2002. 3
12	由比ガ浜一丁目165番2	2008. 4	県埋蔵報告55	2010. 2
13	由比ガ浜一丁目197番2外	2006. 9	『今小路周辺遺跡発掘調査報告書』(由比ガ浜一丁目197番2外 地点)	2007. 3
14	由比ガ浜一丁目213番3	1991. 3	『今小路西遺跡』「由比ガ浜一丁目213番3地点」	1993. 7
15	由比ガ浜一丁目213番12	2007. 3	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-2』「由比ガ浜一丁目21 番12地点」	2012. 3
16	由比ガ浜一丁目211番18-19 外	2009. 5	『今小路西遺跡発掘調査報告書』	2013. 3
17	由比ガ浜一丁目148番11	1983. 3	県埋蔵報告27	1984. 3

#### 若宮大路周辺遺跡群 №2.4.2

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
118	小町一丁目83番3	2007. 8	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』小町一丁目83番3-32 地点重照記』	2008. 6
53	御成町868番10	1990. 2	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』「御成町868番10地点」	1993. 7
59	御成町872番14	1991. 2	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告8-1』「御成町872番14地点」	1992. 3
82	御成町884番6	1997. 5	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』「御成町884番6地点」	1999. 6
42	由比ガ浜一丁目117番1	1988. 11	『由比ガ浜一丁目117番1地点』「堀ロビル建設に伴う緊急発掘 調査報告書」	1991. 5
125	由比ガ浜一丁目120番4	2008. 12	第19回鎌倉市遺跡調査・研究発表会要旨	2009. 3
63	由比ガ浜一丁目120番5	1991. 11	県埋蔵報告35	1993. 3
30	由比ガ浜一丁目128番7	1987. 7	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告4』「由比ガ浜一丁目128番7 地点」	1988. 3
71	由比ガ浜一丁目129番5	1993. 12	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』	1995. 5
74	由比ガ浜一丁目118番7	1995. 12	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告13-2』「由比ガ浜一丁目118 番7地点」	1998. 3
36	由比ガ浜一丁目118番8	1987	県埋蔵報告31『由比ガ浜一丁目188番8地点発掘調査概報』	1989. 3
72	由比ガ浜一丁目123番5	1994. 3	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告11-1』	1995. 3
103	由比ガ浜一丁目126番11	2005. 4	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-2』「由比ガ浜一丁目12 番6番1部」	2009. 3
102	由比ガ浜一丁目126番1部	2005. 5	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-2』「由比ガ浜一丁目12 番6番11」	2009. 3
55	御成町72番12-19	1990. 8	県埋蔵文化財調査報告34	1984. 3
143	由比ガ浜一丁目117番14	2012. 10	『若宮大路周辺遺跡群』「由比ガ浜一丁目117番14地點」	2016. 3
149	由比ガ浜一丁目128番1	2013. 7	『若宮大路周辺遺跡群』「由比ガ浜一丁目128番1地點」	2016. 1
95	由比ガ浜一丁目127番1	2003. 7	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2』「由比ガ浜一丁目 127番1地點」	2006. 3
21	由比ガ浜一丁目126番3		未付	

21	由比ガ浜一丁目126番3	未刊		
137	由比ガ浜一丁目116番9	2011. 4 『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』由比ガ浜一丁目116番9地點	2015. 8	
104	小町一丁目276番18・22・38	2005. 6 『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』小町一丁目276番18・22・38地點	2006. 9	
54	小町一丁目1028番1	1990. 11 『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』小町一丁目1028番1地點	1997. 3	
18	大町一丁目1034番2	1982. 4 『善字寺跡』県埋蔵文化財調査報告26	1984. 3	
134	大町一丁目1034番9	2010. 8 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書32-2』「大町一丁目1034番9地點」	2016. 3	
119	大町一丁目1084番1	2007. 11 県埋蔵報告54		
138	御成町872番11	2012. 11 県埋蔵報告59		
155	由比ガ浜一丁目121番22	2017. 2 南北道路		

## 米町遺跡 № 2 4 5

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
3	大町二丁目933番	1988. 8 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』「大町二丁目933番他」	1990. 3	
5	大町二丁目931番1	1996. 3 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-1』「大町二丁目931番1地點」	1998. 3	
14	大町二丁目992番7外	2003. 12 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2』「大町二丁目992番7外地點」	2006. 3	
15	大町二丁目993番1外	2008. 10 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-2』「大町二丁目993番1外地點」	2009. 3	

## 長谷小路周辺 № 2 3 6

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
1	由比ガ浜三丁目223番11	1989. 4 県埋蔵報告33		1991. 3
2	由比ガ浜三丁目228番2	1996. 10 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2』「由比ガ浜三丁目228番2地點」	1998. 3	
3	由比ガ浜三丁目228・229	1991. 7 『長谷小路周辺遺跡』「由比ガ浜三丁目228・229番外地點」	1994. 7	
4	由比ガ浜三丁目1256番4・5	2004. 2 『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』	2005. 9	
5	由比ガ浜三丁目1262番6外	1999. 4 『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』「由比ガ浜三丁目1262番6外地點」	2000. 6	
6	由比ガ浜三丁目1262番2外	1998. 1 『長谷小路周辺遺跡』由比ガ浜三丁目1262番2, 1251番1・2地點	2002. 7	

## 材木座町屋遺跡 № 2 6 1

No.	地番	調査年	報告書名	発行年
1	材木座一丁目910番	2001. 9 『材木座町屋遺跡発掘調査報告書』「材木座一丁目910番地點」	2001. 9	
2	材木座一丁目141番3	2013. 7 未刊		
3	材木座一丁目144番3	1990. 1 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』「材木座一丁目144番3地點」	1991. 3	
4	材木座一丁目890番7	1998. 9 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1』「材木座一丁目890番7地點」	2000. 3	
5	材木座一丁目921番5外	2004. 6 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-2』「材木座一丁目921番5外地點」	2007. 3	
6	材木座一丁目149番4	2005. 8 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』「材木座一丁目149番4」	2008. 3	
7	材木座一丁目889番5	2004. 12 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』「材木座一丁目889番5」	2008. 3	
8	材木座一丁目889番4	2004. 11 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』「材木座一丁目889番4」	2008. 3	
12	材木座一丁目919番19	2008. 6 県埋蔵報告55		2010. 2
13	材木座二丁目893番9	2008. 7 県埋蔵報告55		2010. 2

原点 1 X=-75908.125 Y=-26041.160  
 北緯 35° 19' 07" 東経 139° 32' 37"  
 原点 2 X=-75912.990 Y=-26038.535 L=7.803m  
 仮原点 X=-75906.601 Y=-26042.615 L=7.516m  
 ① X=-75905.526 Y=-26038.899  
 ② X=-75906.685 Y=-26044.559  
 ③ X=-75908.125 Y=-26041.160  
 ④ X=-75914.574 Y=-26043.714  
 ⑤ X=-75905.510 Y=-26038.860  
 ⑥ X=-75906.670 Y=-26044.560  
 ⑦ X=-75914.570 Y=-26043.740  
 ⑧ X=-75913.930 Y=-26037.970  
 ⑨ X=-75911.040 Y=-26039.610  
 R065 X=-75928.720 Y=-26090.447  
 三級基準点 53227  
 X=-75964.518 Y=-26102.147 L=7.93m

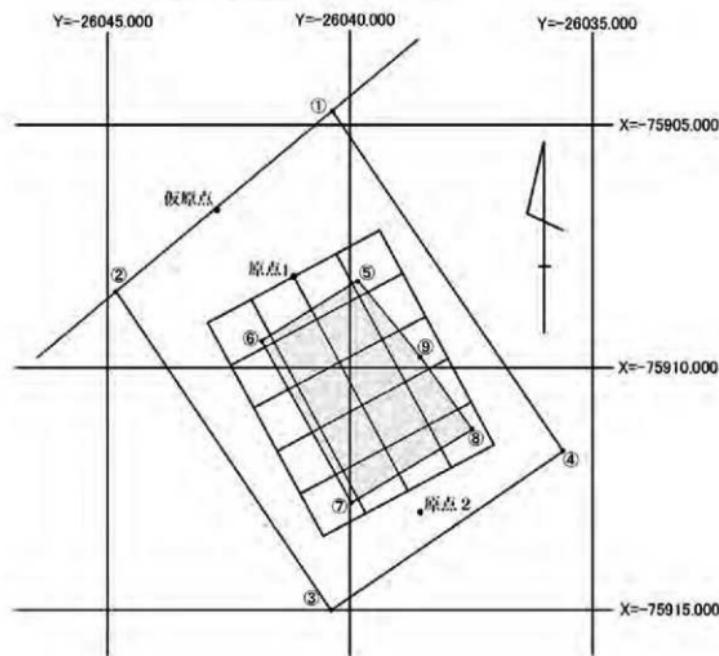
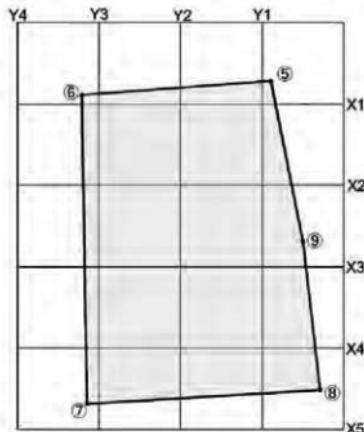


図2 調査区設定図

## 第二章 検出した遺構と遺物

地表から掘り下げて、最初の遺構面を1面として順次掘り下げて確認した遺構面を2面、3面として建物基礎が及ばない深さに確認のために開けた小トレンチを最終トレンチと呼ぶ。

### 第1節 第1面の遺構と遺物（図3、図5、図版1・2、図版5）

調査地の海拔は北側で約7.3m、南側で約7.5mで南側が20cmほど盛土で高まっている。

1面の構成土は黄茶褐色砂質土で確認された遺構は素掘りの土坑1である。

#### 土坑

土坑1は調査地の西壁に沿って検出された。南北3m以上、東西70cm以上、深さ45cm程の大きさで、北側が深い。

1面まで、1面、1面遺構の遺物を見ると、かわらけ（4～6・12）、青磁蓮弁文碗・鉢（1～3）、瀬戸御皿（11）、常滑壺（10）、常滑I類片口鉢、常滑II類片口鉢（7～9・13）、火鉢（12）、伊勢系土鍋（14）が出土している。常滑製品の多くが常滑編年7、瀬戸製品の多くが中期Ⅲ期といずれも14世紀中頃の年代と考えられる。かわらけも器壁が薄く、器高が高め、胎土は砂が少ない。概ね14世紀中頃の年代が考えられる。

#### 土坑

土坑は1穴確認された。ゴミ捨て穴と考えられるが、砂質の土壤のために有機質は分解されて遺存していない。かわらけのほかに青磁蓮弁文碗、青磁鉢と常滑I類とII類の片口鉢、瀬戸御皿片が出土している。

### 第2節 第2面の遺構と遺物（図3、図5・6、図版2・3、図版5・6）

2面の構成土は灰褐色砂質土で確認された遺構は土坑2・5である。

#### 土坑

2面では土坑が2穴（土坑2・5）確認された。平面図に載せている土坑3・4は断面を精査した結果、土坑5の上層部であった、遺物は土坑5として報告する。

北東隅で検出した土坑2は、推定直径1m、深さ50cmの土坑である。長さ約40cm、幅10cm程の木材が底面に張り付いた状態で検出されている。

口径7.6cmの小型糸切りかわらけ（29・30）と常滑壺体部片（31）、常滑片口鉢I類（32・33・35）、常滑片口鉢II類（34）、「□□通宝」（36）が出土している。

土坑5は南西隅で検出した遺構で、大きさは南北150cm以上、東西1m以上、深さ50cmである。

径7.3～7.9cmまでの小型糸切りかわらけ（37～43）、径11.6cm前後の大型糸切りかわらけ（44～47）、船載磁器（15・16・48～51）と常滑片口鉢I類（52・56）、常滑片口鉢II類（53・54）、瀬戸行平鍋（57）、瀬戸仏花瓶（58・59）、須恵器甕片（60）が出土している。

径11.6cm前後のかわらけ、青磁碗片、白磁皿、瀬戸行平鍋、仏花瓶、常滑I類、II類片口鉢等が出土し、常滑製品の多くが常滑編年6b、瀬戸製品の多くが中期I期といずれも13世紀末～14世紀初頭の年代が考えられる。かわらけも復元径11.6cm程で、器壁がやや薄く、器高がやや高め、胎土は砂が少ないことから概ね14世紀初頭の年代の中型品か。

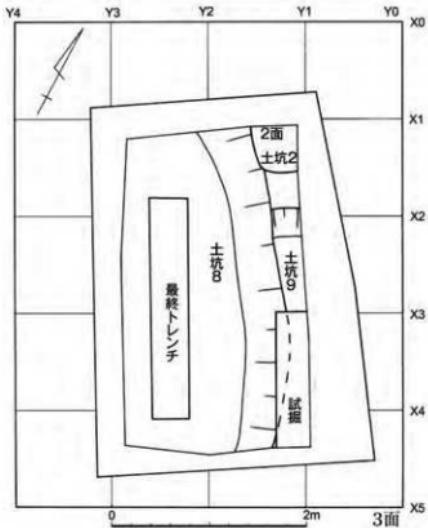
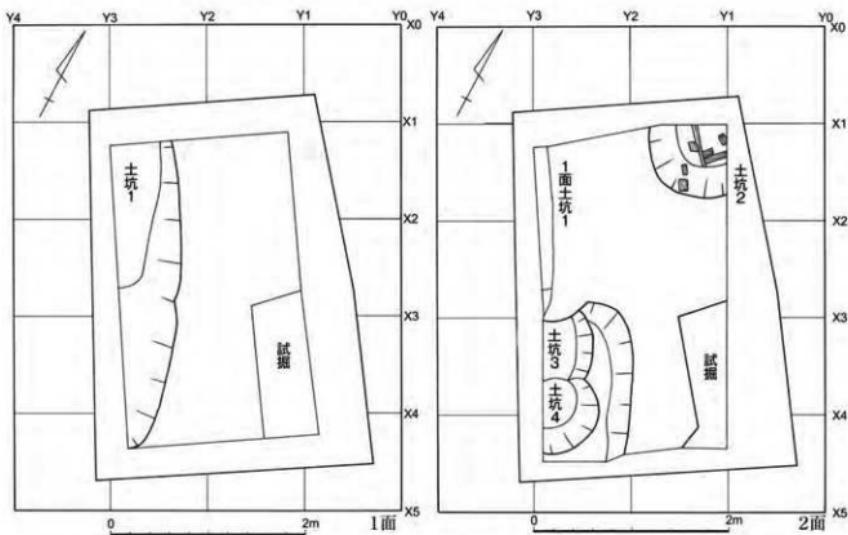
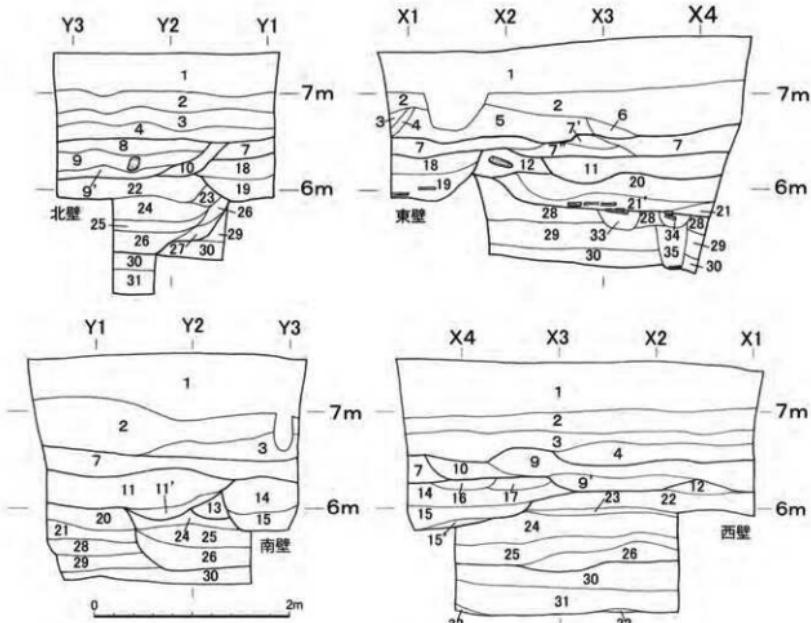


図3 全測図



1. 明茶灰色砂質土層
2. 暗茶灰色砂質土層
3. 茶褐色砂質土層 土丹粒、かわらけ少量含む
4. 土丹層 貝少量含む
5. 土丹層
6. 暗茶灰色砂質土層
7. 黄茶褐色砂質土層 0.5~1cm の土丹、貝含む
- 7'. 黄茶褐色砂質土層 0.5~1cm の土丹多く含む
- 7''. 黄茶褐色砂質土層 土丹粒多くやや粘質
8. 灰褐色砂質土層 土-1 覆土
9. 暗茶褐色砂質土層 貝多く含む 土-1 覆土
- 9'. 暗茶褐色砂質土層 やや粘性が強い 土-1 覆土
10. 茶褐色砂質土層 土-1 覆土
11. 灰褐色砂質土層 0.5~1cm の土丹、貝含む
- 11'. 灰褐色粘質層
12. 土丹層
13. 灰褐色砂質土層 貝少量含む 土-7 覆土
14. 灰褐色砂質土層 犬大土丹含む 土-5 覆土
15. 暗灰色砂質土層 3.5cm 大の土丹含む 土-5 覆土
16. 茶褐色砂質土層 土-5 覆土
17. 暗茶褐色砂質土層 土-5 覆土
18. 灰褐色砂質土層 1cm 大の土丹粒含む 土-2 覆土
19. 灰褐色砂質土層 18 より粘性が強い 土-2 覆土
20. 灰褐色砂質土層 貝、マツツ木、木片含む 土-9 覆土
21. 灰褐色砂質土層 貝、炭化物含む 土-9 覆土
- 21'. 灰褐色砂質土層 土-9 覆土
22. 灰褐色砂質土層 土-8 覆土
23. 黄茶褐色砂質土層 土-8 覆土
24. 暗茶褐色砂質土層 マツツ木、貝含む 土-8 覆土
25. 暗茶褐色砂質土層 土丹、貝多い 土-8 覆土
26. 灰褐色粘質砂層 1~3cm 大の土丹多い 土-8 覆土
27. 暗茶褐色砂質土層 土-8 覆土
28. 灰褐色砂質土層
29. 暗茶褐色砂質土層 貝多い
30. 暗茶褐色粘質土層 マツツ木、木、土師含む
31. 暗茶褐色粘質砂層 植物根、土師、須恵含む
32. 灰色砂
33. 暗茶褐色粘質砂層 炭化物、マツツ木含む Pit 覆土
34. 暗茶褐色砂質土層 Pit 覆土
35. 暗茶褐色粘質砂層 粘性有り Pit 覆土

図4 土層図

### 第3節 第3面の遺構と遺物（図3、図7、図版4、図版7・8）

3面では土坑が2穴（土坑8・9）確認された。土坑8に切られた土坑9が、当遺跡中一番古い遺構であるが、数点の自然遺物（貝・種子）の他に遺物は出土していない。

#### 土坑

土坑8は南北方向に綫長の形状で、34点の遺物が出土した。遺物は青磁碗（116）、青白磁梅瓶蓋（116）、径7.4～7.9cmまでの小型糸切りかわらけ（108～111）、径12.7cmと13.4cmの大型糸切りかわらけ（112・113）かわらけと小型手捏ねかわらけ（114・115）、常滑壺（119～121）、常滑片口鉢I類（122～127）、常滑片口鉢II類（128～132）、常滑常滑碗（133）、火鉢（134・135）、平瓦片（136）、銭「熙寧元宝」（137）等と土器器坏・壺が出土した。

かわらけは径12.7cmと13.4cmで、2面のかわらけより径が大きくなる。器高は低め。数点ではあるが、手捏ねの製品が混じる。常滑壺は編年6aと考えられることから、3面は概ね13世紀中～末頃の年代か。

### 第4節 最終トレンチ（図3）

3面の調査終了後に、幅0.5m、長さ2.5mのトレンチを設定して、中世地山と考えられる暗茶褐色砂質土層と灰色砂層（海拔4.9m）まで掘り下げたが、遺構・遺物の出土はなかった。

## 第三章 まとめ

当馬周辺遺跡（山比ヶ浜二丁目107番5地点）では主に土坑が検出された。周辺遺跡では、道に沿った軸方位を持つ竪穴建物と井戸・土坑がセットで検出確認されている。土坑しか確認できなかったのは、調査面積が小さいため偶々なのは不明である。土坑はいわゆるゴミ穴と考えられる物で、宅地内ならば裏手の場所に当たる。砂質土層のためか、有機質の遺物は殆ど遺存していない。

遺物を概観するならば、1面の土坑から出土する遺物のうち常滑II類片口鉢の口縁部では、上下に伸びておらず常滑編年7型式に相当し、年代的に14世紀中頃。糸切り成形のかわらけはいわゆる薄手丸深になり、概ね14世紀中頃の年代が考えられる。2面では概ね14世紀初頭の年代、3面では概ね13世紀中～末頃の年代が与えられることから、当遺跡の開始時期は13世紀後半以降と考えられよう。調査範囲が狭いため判然としないが、検出遺構が土坑ばかりということから、宅地内ならば表ではなく裏手の様相であると思われる。

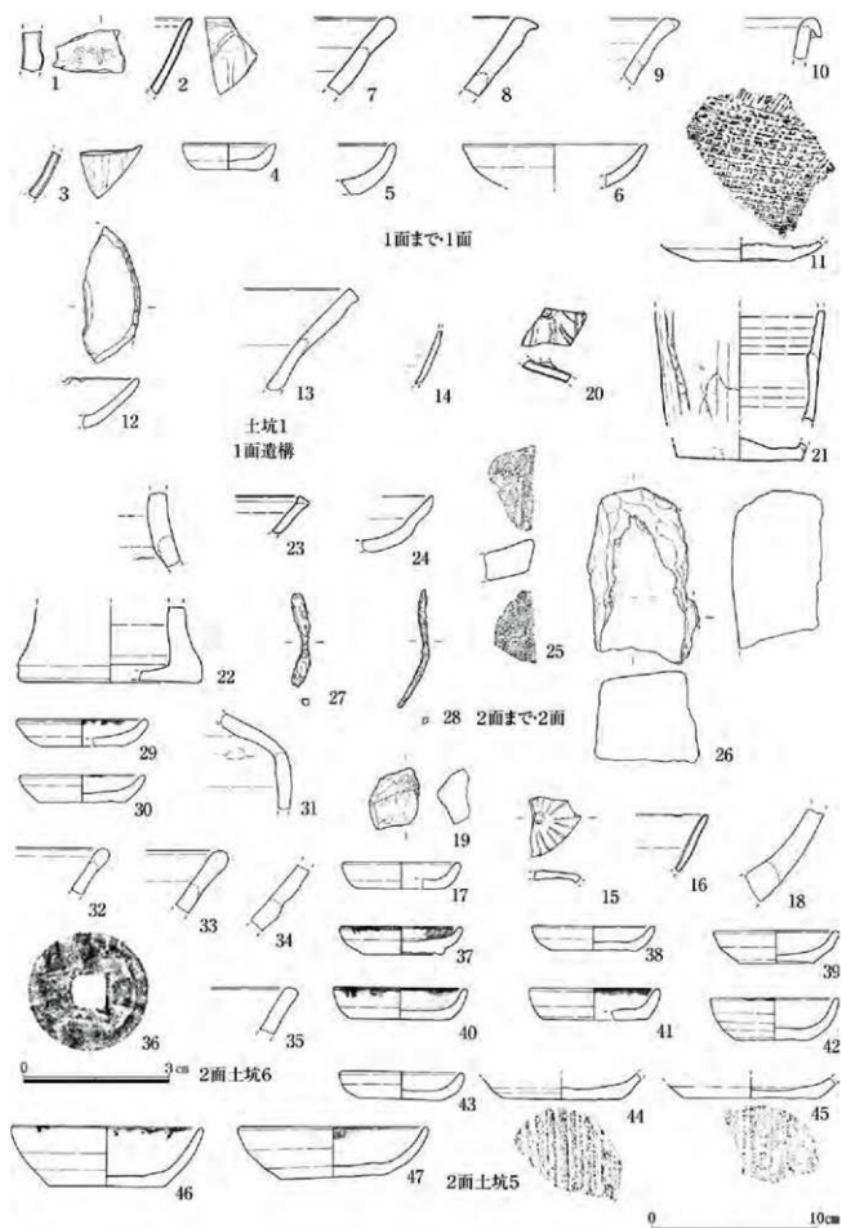


図5 出土した遺物1

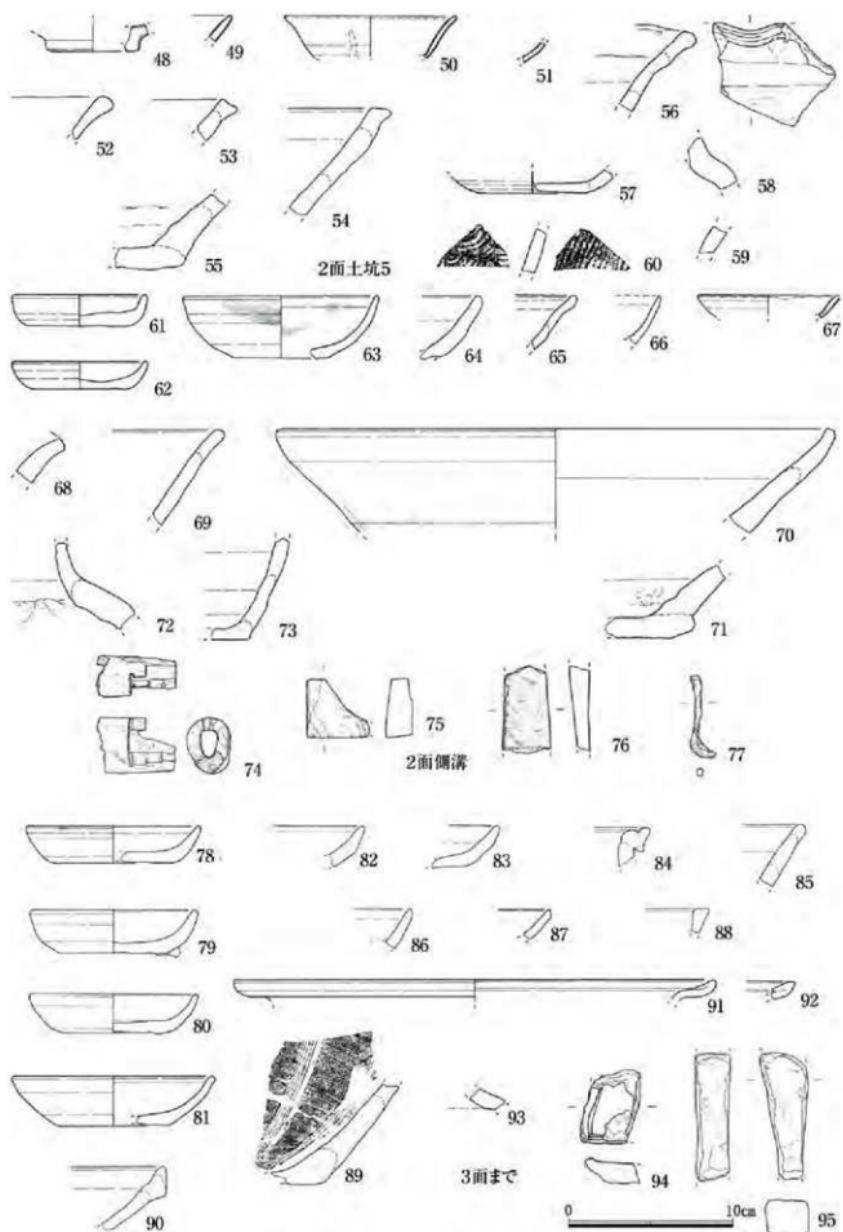


図6 出土した遺物2

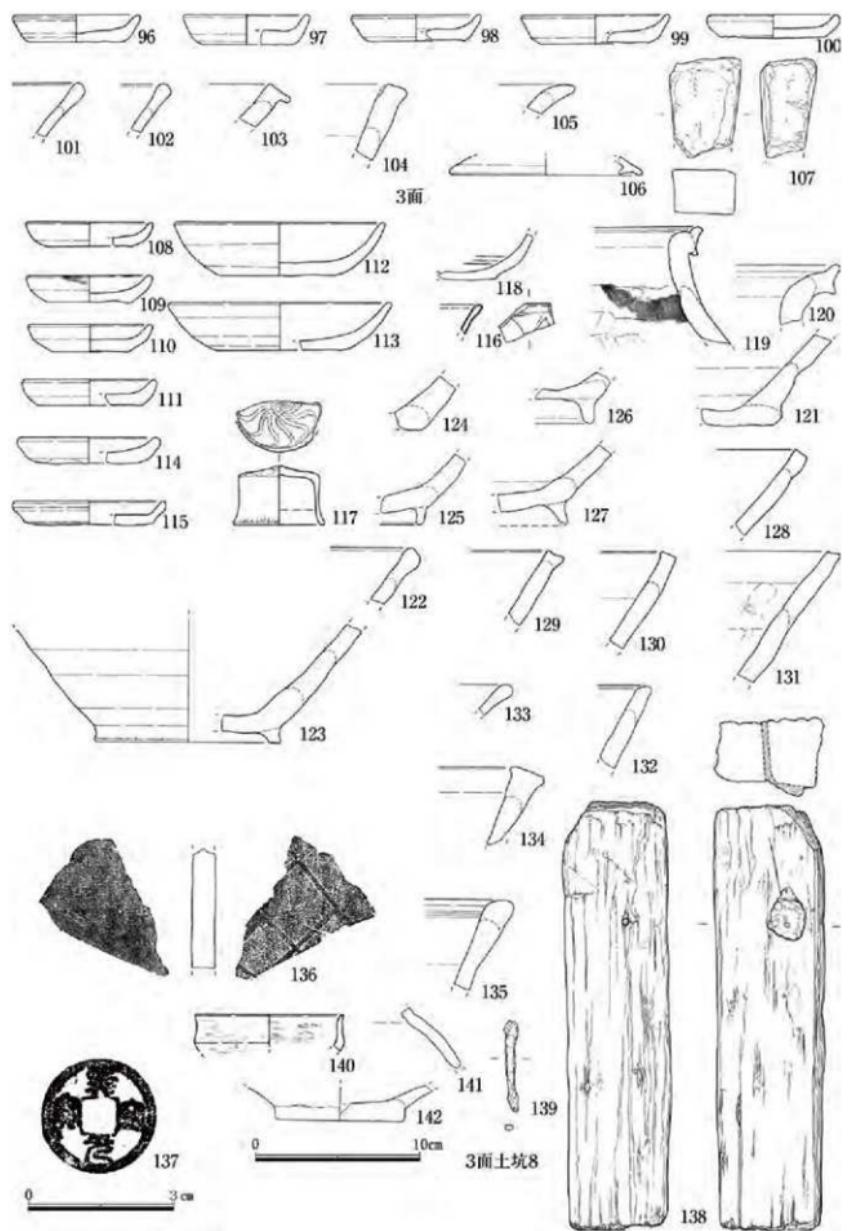


図7 出土した遺物3

観察表 1

図5 1面まで～2面複数の出土遺物

番号	出土場所・遺構	種 別	種 類	口径	高さ	底様	観 察	
							表面	裏面
-1	1面まで	陶器	青磁深鉢	-	-	-	龍泉窯・寺丹窯草木文鉢 脚部片(4×5×2.6) 素地灰白色の粗良土 鞍不透明な青灰色 賀有り	
-2	1面	陶器	青磁 扇葉文文瓶	-	-	-	龍泉窯・口縁部片 地色灰褐色 粗良土 鞍不透明な灰緑色 表面に擦り傷多	
-3	1面	陶器	青磁 扇葉文文瓶	-	-	-	龍泉窯・脚部片 素地灰褐色 粗良土 鞍不透明な灰緑色 50個多	
-4	1面	土器	小わらけ(小)	(5.7)	1.6	(4.0)	土器・微細・白目・白色粒・黑色粒 色調・橙色 成形: 手切り・スノコ板	
-5	1面	土器	小わらけ(大)	-	-	-	土器・微細・白目・クリア・黑色粒 色調・褐褐色 成形: 手切り	
-6	1面まで	土器	小わらけ(大)	(11.2)	-	-	土器・微細・白目・クリア・黑色粒 色調・褐褐色 成形: 手切り	
-7	1面	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒含む 白目・淡灰	
-8	1面	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒含む 常滑 灰褐色・赤褐色 成形: 内外面ナゲ 常滑編年6a	
-9	1面	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒含む 白目・淡灰	
-10	1面	陶器	常滑 他	-	-	-	土器・長石・灰褐色・淡灰褐色 口部脚折り出しシヤーブ 常滑編年6a	
-11	1面	陶器	無口 距鉢	-	6.1	-	土器・粗粒・真珠質・黑色粒・青磁が混在する 成形: 手内ヘラケツリ	
-12	1面土坑1	土器	小わらけ(大)	-	-	-	土器・粗粒・真珠質・黑色粒・青磁が混在する 成形: 手内ヘラケツリ	
-13	1面土坑1	土器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒含む 常滑 灰褐色・赤褐色 成形: 内外削除 常滑編年6a	
-14	1面土坑1	土器	伊勢原上鍋	-	-	-	土器・砂粒多・灰褐色・成形良好・外側削る・堅膜薄い	
-15	2面大5	陶器	青磁 合子蓋	-	-	-	土器・从白色で粗良土・内削除・手滑明の灰褐色	
-16	2面大5	陶器	青磁 斜縫鉢	12.0	-	-	土器・从白色で粗良土・青磁がかった軸	
-17	2面大5	土器	小わらけ(小)	(6.9)	1.5	(5.3)	土器・微細・白目・白色粒・黑色粒 色調・橙色 成形: 手切り・スノコ板	
-18	2面大5	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒含む 白目・淡灰	
-19	2面大5	石	火打ち石	3.4	3.3	22.7g	色調・暗灰褐色に黄褐色マーブル 撃打痕有	
-20	2面まで	磁器	青磁水 洋水	-	-	-	土器・半白色で粗良土・半透明な灰白色的釉	
-21	2面まで	陶器	青白釉	網紋	10.4	7.7	土器・黄褐色・砂粒含む 黄褐色の釉を多く施す	
-22	2面まで	陶器	網紋	-	-	-	土器・灰白色・砂粒含む 黄褐色の釉を多く施す	
-23	2面まで	陶器	無口 距鉢	-	-	-	土器・灰白色・精良土・白目・淡灰	
-24	2面	土器	小わらけ(大) 手捏ね	-	-	-	土器・より細かく手捏ね・白目・淡褐色 成形: 手捏ね 指圧痕・口唇部・ナゲ	
-25	2面まで	瓦	平(手)瓦	-	-	-	瓦長56cm 幅36cm 厚さ1.6cm 土器・淡灰褐色 白目:純白有 白目:他のナゲ調整 手捏ね	
-26	2面まで	石製品	砾石 砂鉄	長10.8 高6.5	厚1.5	5.0g	色調:表面褐色・底面赤褐色	
-27	2面まで	石製品	瓦	長5.8	幅0.4	5.0g	表面内四角形	
-28	2面まで	石製品	瓦	長7.7	幅0.35	3.8g	底面内四角形	
-29	2面大2	土器	小わらけ(小)	(7.6)	1.7	(4.8)	土器・微細・白目・白色粒・黑色粒 色調: 黄褐色 成形: 手切り・スノコ板	
-30	2面大2	土器	小わらけ(小)	7.6	1.7	5.8	土器・微細・白目・白色粒・黑色粒 色調: 黄褐色 成形: 手切り・スノコ板	
-31	2面大2	陶器	常滑 他	-	-	-	土器・長石粒含む・砂粒含む 白目・淡褐色 成形: 内外面ナゲ	
-32	2面大2	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒含む 白目・淡灰	
-33	2面大2	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒含む 白目・淡灰	
-34	2面大2	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒含む 白目・淡灰 外由下部ヘラケツリ有	
-35	2面大2	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒含む 白目・淡灰	
-36	2面大2	陶器	網紋鉢	□口 直通	15.1	27g	認読不可	
-37	2面大2	土器	小わらけ(小)	7.3	1.7	4.9	土器・白目・精良土・白目: 淡褐色 成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-38	2面大2	土器	小わらけ(小)	7.3	1.5	5.3	土器・雲母・白目・クリア・黑色粒 色調: 橙褐色 成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-39	2面大2	土器	小わらけ(小)	7.3	2.1	4.6	土器・雲母・白目・クリア・黑色粒 色調: 橙褐色 成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-40	2面大5	土器	小わらけ(小)	7.9	1.9	6.2	土器・白目・精良土・白目: 淡褐色 成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-41	2面大5	土器	小わらけ(小)	7.8	2.0	6.3	土器・白目・精良土・白目: 淡褐色 成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-42	2面大5	土器	小わらけ(小)	7.7	2.6	4.3	土器・クリア繊維 多めかく粗目 白目: 淡褐色 成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-43	2面大5	土器	小わらけ(小)	7.3	1.7	5.7	土器・雲母・白目・クリア・黑色粒 色調: 橙褐色 成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-44	2面大5	土器	小わらけ(大)	-	-	-	土器・きめ細かく雲母・精良土・白目: 淡褐色 成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-45	2面大5	土器	小わらけ(大)	-	-	-	土器・雲母含む・精良土・白目: 淡褐色 成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-46	2面大5	土器	小わらけ(大)	11.6	3.7	7.0	土器・雲母・白目・クリア・黑色粒 色調: 橙褐色 成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-47	2面大5	土器	小わらけ(大)	11.5	3.1	6.5	土器・精良土・白目: 淡褐色 成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り口内凹やや肥厚	

図6 2面過機～3面までの出土遺物

番号	出土場所・遺構	種 別	種 類	口径	高さ	底様	観 察	
							表面	裏面
-48	2面大5	陶器	青磁瓶	-	-	4.9	龍泉窯・底部片 地色灰褐色精良土 鞍: 不透明な灰緑色 気泡有	
-49	2面大5	陶器	青磁瓶	-	-	-	龍泉窯・口縁部片 地色灰褐色精良土 鞍: 不透明な灰褐色	
-50	2面大5	陶器	白磁口口瓶	(10.5)	-	-	土器・白磁で精良土・透明の瓶: 灰色	
-51	2面大5	陶器	白磁瓶	-	-	-	土器・白磁で粗良土・瓶: 灰色透明	
-52	2面大5	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒びびりが多く含む 白目: 淡灰 成形: 内外面ヨコナゲ・口唇部内面削灰	
-53	2面大5	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒含む・精良土・白目: 淡灰 成形: 内外面ヨコナゲ	
-54	2面大5	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒含む・精良土: 淡灰 成形: 内外面ヨコナゲ・外底削灰	
-55	2面大5	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒含む・白目: 淡灰 成形: 内外面ヨコナゲ	
-56	2面大5	陶器	常滑 上輪片口鉢	-	-	-	土器・長石粒及び砂多く含む 白目: 淡灰 成形: 内外面ヨコナゲ・口唇部	
-57	2面大5	陶器	無口 手掘	-	-	6.7	土器・白目: 淡灰 成形: 手捏ね	
-58	2面大5	陶器	無口 仏花瓶	-	-	-	土器・淡灰・白目: 淡灰・灰褐色 成形: 外面施釉	
-59	2面大5	陶器	無口 仏花瓶	-	-	-	土器・灰褐色・精良土: 淡灰・灰褐色 成形: 外面施釉	
-60	2面大5	陶器	留唐志 瓶	-	-	-	土器・青灰褐色・精良土: 淡灰・灰褐色 成形: 内外削除	
-61	2面大5	土器	小わらけ(小)	8.1	1.9	6.5	土器・白目・クリア・黑色粒・白色粒・成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-62	2面過機	土器	小わらけ(小)	8.1	1.7	5.7	土器・白目・クリア・黑色粒・白色粒・成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-63	2面過機	土器	小わらけ(大)	(11.9)	3.8	6.1	土器・白目・色調: 淡灰・白目: 淡灰・成形: 手切り・スノコ板 内底ナゲ有り	
-64	2面過機	土器	小わらけ(大) 手捏ね	-	-	-	土器・白目・クリア・黑色粒・白色粒・成形: 手捏ね 指圧痕	
-65	2面過機	陶器	常滑 山茶樹	-	-	-	土器・長石粒含む・白目: 淡灰・灰褐色	
-66	2面過機	陶器	青磁花文瓶	-	-	-	龍泉窯・胎: 淡灰内色・精良土: 口縁部片: 軸: 灰色透明	
-67	2面過機	陶器	白磁口口瓶	(8.6)	-	-	土器: 伝灰褐色・胎: 淡灰内色・精良土: 軸: 透明灰	
-68	2面過機	陶器	常滑 B型片口鉢	-	-	-	土器: 長石粒含む・白目: 淡灰・成形: 内面削灰 外面ヨコ方向のナゲ調整	
-69	2面過機	陶器	常滑 B型片口鉢	-	-	-	土器: 長石粒及び砂多く含む 白目: 淡灰・成形: 内外面ナゲ 外部削除ヨコナゲ	
-70	2面過機	陶器	常滑 B型片口鉢	(33.9)	-	-	土器: 白色粒・砂多く含む 白目: 淡灰・成形: 体部外下面半タケ方向のナゲ 口唇部削除ヨコナゲ	

## 観察表2

71	2面側面	陶器	常滑	窓部	-	-	-	駄土：灰白色を含む 色調：灰褐色 内底面に自然釉 砂斑
72	2面側面	陶器	常滑	窓	-	-	-	駄土：灰白色 灰褐色 窓部
73	2面側面	陶器	常滑	窓	-	-	-	駄土：灰白色 灰褐色 内外面ヨコナゲ調整 底部
74	2面側面	自然造形	合	加工品	長4.3	幅3.5	厚2.2	側面より10mm幅で削材 合材としてU字型の合材を切り出した残り
75	2面側面	石製品	砥石	中砥	長3.6	幅3.7	厚1.6	色調：黄灰色 天然色
76	2面側面	石製品	砥石	中砥	長5.4	幅2.7	厚1.4	色調：黄灰色 天然色
77	2面側面	石製品	剣		長6.9	幅0.3	3.8kg	断面四角形
78	3面まで	土器	かわらけ(大)	(126)	27	(86)	駄土：カサリ織と砂粒含む 色調：棕色 成形：希切りスノコ板 内底ナデ有り	
79	3面まで	土器	かわらけ(大)	(120)	33	(82)	駄土：カサリ織と砂粒含む 色調：黄褐色 成形：希切りスノコ板 内底ナデ有り	
80	3面まで	土器	かわらけ(大)	(121)	29	(69)	駄土：カサリ織と砂粒を多く含む 色調：黄褐色 成形：希切りスノコ板 内底ナデ有り	
81	3面まで	土器	かわらけ(大)	(122)	31	(68)	駄土：カサリ織と砂粒を多く含む 色調：灰褐色 成形：希切りスノコ板 内底ナデ有り	
82	3面まで	土器	かわらけ(大)	手捏ね	-	-	-	駄土：白羽 カサリ織 きの細かく保継 色調：灰褐色 成形：手捏ね 指擦板
83	3面まで	土器	かわらけ(大)	手捏ね	-	-	-	駄土：白羽 カサリ織 きの細かく保継 色調：棕褐色 成形：手捏ね 指擦板
84	3面まで	陶器	常滑	口縁部	-	-	-	駄土：灰白色 織合せ 色調：灰褐色
85	3面まで	陶器	常滑	1切口口跡	-	-	-	駄土：灰白色 多く含む
86	3面まで	陶器	御川	御瓶	-	-	-	駄土：淡褐色 稀丸土 色調：灰褐色カゲケ 清く施釉
87	3面まで	陶器	御川	御瓶	-	-	-	駄土：灰白色 稀丸土 色調：灰褐色 清く施釉
88	3面まで	陶器	御川	御瓶	-	-	-	駄土：珍重す良土 灰成：良好堅密 色調：灰白色
89	3面まで	陶器	御瓶	御瓶	-	-	-	駄土：灰白色 色調：灰白色 内面摩拭
90	3面まで	粘土	糞土	口跡	-	-	-	駄土：珍重す良土 灰成：良好堅密した土 色調：青灰色 内外面ヨコナゲ調整
91	3面まで	土器	伊勢系土器	縁	長(25)	-	-	駄土：砂粒多く含む 色調：灰白色 口縁部は内側に折り返しヨコナゲ調整
92	3面まで	土器	伊勢系土器	-	-	-	-	駄土：砂粒多く含む 色調：灰白色
93	3面まで	土器	軽刷	土器	-	-	-	駄土：頭部片 片切り強め土器 成成：良好堅密 色調：灰白色
94	3面まで	石製品	劍		長4.7	幅3.6	厚1.3	色調：表面灰褐色 断面赤褐色 鋒部だけの破片
95	3面まで	石製品	砥石	中砥	長8.0	幅2.7	厚2.1	色調：灰褐色 中砥

図7 3面まで3面側面の断面物

( )は復元法算・単位 cm

番号	出土位置・遺物	種別	種類	口径	高さ	底径	断面	形容
96	3面	土器	かわらけ(小)	(76)	16	(59)	駄土：白羽 やや粗土 色調：棕色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
97	3面	土器	かわらけ(小)	(76)	18	(56)	駄土：白羽 カサリ織を含む 細かな砂多く含む 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
98	3面	土器	かわらけ(小)	(90)	18	(68)	駄土：白羽 粗丸土含む 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
99	3面	土器	かわらけ(小)	(76)	16	(59)	駄土：白羽 粗丸土含む 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
100	3面	土器	かわらけ(小)	(76)	16	(58)	駄土：粗丸土含む 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
101	3面	土器	かわらけ(小)	(76)	17	(54)	駄土：白羽 カサリ織を含む 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
102	3面	土器	かわらけ(小)	(76)	16	(52)	駄土：さくらかな粗粒土 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
103	3面	土器	かわらけ(小)	(73)	21	(40)	駄土：微細な雲母 カサリ織を含む 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り 帯明細	
104	3面	土器	瓦灰黒縁	-	-	-	駄土：素地灰 黑縁 多く含む 色調：灰褐色 外面ヨコナゲ調整	
105	3面	土器	土扣 窓	-	-	-	駄土：素地灰 黑縁 多く含む 色調：灰褐色 外面ヨコナゲ調整	
106	3面	竈	窓墨器 窓墨	[11.4]	-	-	駄土：白色を含む粗粒土上 壁成：良好 色調：青灰色	
107	3面	石製品	砥石	帆船	長5.7	幅3.9	厚2.7	色調：灰褐色
108	3面土8	土器	かわらけ(小)	(75)	15	(51)	駄土：白羽 カサリ織を含む 色調：灰褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
109	3面土8	土器	かわらけ(小)	7.8	16	5.2	駄土：さくらかな粗粒土 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
110	3面土8	土器	かわらけ(小)	(74)	17	(46)	駄土：微細な雲母 カサリ織を含む 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り 帯明細	
111	3面土8	土器	かわらけ(小)	(79)	16.6	(64)	駄土：ぬめり感強く含む 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り 帯明細	
112	3面土8	土器	かわらけ(大)	127	33	7.1	駄土：粗丸土 細い土はき成土 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
113	3面土8	土器	かわらけ(大)	(13.4)	29	(7.1)	駄土：粗丸土が多めで堅めはき成土 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
114	3面土8	土器	かわらけ(小)	(83)	16	(7.3)	駄土：粗丸土が多めで堅めはき成土 色調：棕褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
115	3面土8	土器	かわらけ(小)	手捏ね	(90)	0.9	(8.0)	駄土：白羽 カサリ織 きの細かく保継 色調：青灰色 成形：手捏ね 指擦板
116	3面土8	磁器	青白	蓋 亂刷文	-	-	-	駆虫屋 部門別：素地灰褐色上 白輪透明な灰褐色
117	3面土8	磁器	青白	梅瓶	(5.5)	3.6	-	駄土：素地灰白色
118	3面土8	陶器	二彩印	-	-	-	駄土：2mmの砂粒多く含む 色調：灰褐色 成形：希切り・スノコ板 内底ナデ有り	
119	3面土8	陶器	常滑	口縁部	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：灰褐色 常滑器 常滑灰
120	3面土8	陶器	常滑	口縁部	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：灰褐色 内面に降灰
121	3面土8	陶器	常滑	窓部	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：灰褐色 内底面に自然釉 砂斑
122	3面土8	陶器	常滑	1切口口跡	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：灰褐色
123	3面土8	陶器	常滑	1切口口跡	-	-	(11.2)	駄土：其の種類含む 色調：灰褐色
124	3面土8	陶器	常滑	1切口口跡	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：灰褐色 高台部厚
125	3面土8	陶器	常滑	1切口口跡	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：灰褐色
126	3面土8	陶器	常滑	1切口口跡	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：灰褐色
127	3面土8	陶器	常滑	1切口口跡	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：灰褐色
128	3面土8	陶器	常滑	1切口口跡	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：灰褐色 成形：外面ヨコ方向のナゲ調整
129	3面土8	陶器	常滑	1切口口跡	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：素面成形：口羽降灰 外面ヨコ方向のナゲ調整
130	3面土8	陶器	常滑	1切口口跡	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：素面成形：口羽降灰 外面ヨコ方向のナゲ調整
131	3面土8	陶器	常滑	1切口口跡	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：素面成形：口羽降灰 外面ヨコ方向のナゲ調整
132	3面土8	陶器	常滑	1切口口跡	-	-	-	駄土：其の種類含む 色調：素面成形：口羽降灰 外面ヨコ方向のナゲ調整
133	3面土8	陶器	常滑	山茶柄	-	-	-	駄土：砂粒多く含む 色調：素面
134	3面土8	土器	土器質	火鉢	-	-	-	駄土：砂粒含む 色調：黄褐色 磷酸物作成シャープ
135	3面土8	土器	瓦質	火鉢	-	-	-	駄土：砂粒含む 色調：黄褐色
136	3面土8	瓦	平(女)瓦	-	-	-	駄土：灰白色 砂粒含む 色調：灰褐色 表面目叩き 水桶寺 丸瓦	
137	3面土8	鋳物品	鉢	照葉元室	径24.3	3.3g	-	照葉元室
138	3面土8	木	邵村	長26.0	幅6.8	厚4.0	スギ木か 1市所に刻が打たれている 他の2カ所を通する穴がある	
139	3面土8	鋳物品	劍		長57	幅0.6	4.3g	断面四角形
140	3面土8	土器	土器器	环	(90)	-	-	駄土：白羽 磨砂含む 色調：黄褐色
141	3面土8	土器	土器器	窓	-	-	-	駄土：白羽 磨砂含む 色調：黄褐色
142	3面土8	土器	土器器	窓	-	-	7.6	駄土：カサリ織 磨砂含む 色調：灰褐色



1. 調査地より六地蔵を望む





1. 1面で出土したかわらけ



3. 1面全景（南より）



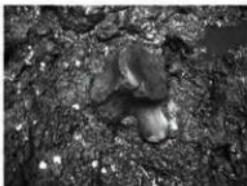
2. 1面全景（北より）



5. 2面全景（南より）



4. 2面全景（北より）



4. 土坑5出土獸骨



1. 土坑3・4(東から)



3. 土坑5(北から)



2. 土坑5(東から)



6. 土坑5(南から)



5. 土坑2(南西から)



2. 3面 (南から)



1. 3面 (北から)



3. 土坑8 (北から)

図版5



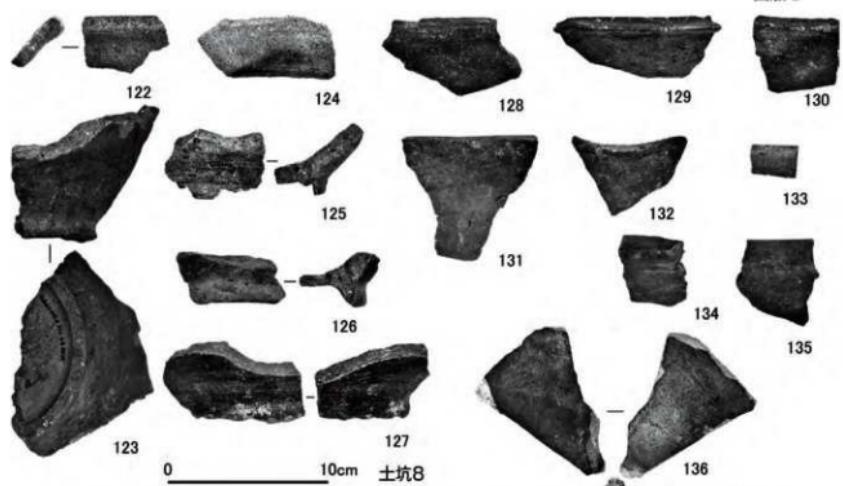
図版6



図版7



図版8





大倉幕府跡 (No.253)

雪ノ下三丁目637番6外地点

## 例 言

1. 本報は大倉幕府跡遺跡（神奈川県遺跡台帳 No253）に所在する鎌倉市雪ノ下三丁目637番6外地点における個人専用住宅の建設に伴う緊急発掘調査報告である。調査面積は約33m<sup>2</sup>である。

2. 調査は平成20年2月27日から同年4月11日にかけて実施した。

3. 調査体制は以下の通りである。

担当者 伊丹まどか・宇都洋平

調査員 梅岡ケイト・本城裕

調査作業員 天野隆男・牛飼道夫・佐藤美隆・鈴木啓之・藤枝正義

4. 本報作成者は以下の通りである。

遺物実測 岩崎卓治・神田倫子・佐藤千尋・清水由加里・菅野知子・松吉里永子・吉田桂子

遺構図版作成 菅野知子

遺物図版作成 菅野知子

遺物観察表 田畠衣理・渡邊美佐子・清水由加里・伊丹まどか

破片遺物集計表 清水由加里

遺構計測表 清水由加里

遺構写真 宇都洋平

遺物写真 須佐仁和

写真図版作成 清水由加里・小野夏菜

執筆・編集 伊丹まどか・田畠衣理・渡邊美佐子

5. 出土品等発掘調査に係る資料は鎌倉市教育委員会が管理している。

6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通りである。

遺構全測図：1／60 個別遺構図：1／40 遺物実測図：1／3 \*銭は原寸

なお各挿図にはスケールを表示してある。

7. 検出した遺構の計測値・実測遺物観察・実測できなかった遺物を含む総出土点数は表にまとめて掲載した。

・復原して実測した遺物は計測値に復元値は（ ）を、残存値は〔 〕を付して表した。

・「かわらけ」と記載したものは回転ロクロ成形の物を指し、手づくね成形の物は「手づくね」と記載している。

・かわらけの底径は回転糸切りの外径部分で計測し、手づくね成形のかわらけは底径を記載していない。

・出土遺物に関しては、生産地での編年を参考に観察表に年代をしめましたが、破片の為に不安の残るものに関しては割愛した。常滑製品は中野晴久氏。瀬戸製品は藤澤良祐氏。火鉢は河野真知郎氏の編年に基づいて分類した。

8. 発掘調査及び報告書作成に際して以下の方よりご教授、ご協力を賜りました。記して深謝いたします。(五十音順・敬称略)

太田美智子・熊谷満・古田土俊一・齋木秀雄・須佐仁和・鈴木絵美・滝沢晶子・原廣志・松尾宣方・松吉大樹・馬淵和雄・山口正紀・山口裕子

## 目次 本文目次

第一章	遺跡の位置と歴史的環境	97
1.	歴史的環境(図1)	
2.	遺跡位置とグリッド配置図(図3)	
3.	堆積土層(図4)	
第二章	発見された遺構と遺物	105
第1節	第1面の遺構と遺物(図5・図7～図14)	
第2節	第2面の遺構と遺物(図5・図15～図24)	
第3節	第3面の遺構と遺物(図6・図25～図29)	
第4節	第4面の遺構と遺物(図6・図30～図42)	
第5節	表土出土遺物(図43)	
第三章	まとめ	160
(1)	検出した遺構と遺物	
(2)	まとめ	

## 挿図目次

図1	調査地点と周辺の遺跡	98
図2	調査地点一覧	99
図3	調査区配置図	101
図4	堆積土層図	102
図5	第1面・第2面全測図	103
図6	第3面・第4面全測図	104
図7	第1面遺構(1)	106
図8	第1面遺構(2)	107
図9	第1面遺構出土遺物(1)	108
図10	第1面遺構出土遺物(2)	110
図11	第1面遺構出土遺物(3)	111
図12	第1面上・構成土出土遺物(1)	114
図13	第1面構成土出土遺物(2)	115
図14	第1面構成土出土遺物(3)	116
図15	第2面遺構(1)	118
図16	第2面遺構(2)	119
図17	第2面遺構出土遺物(1)	121
図18	第2面遺構出土遺物(2)	123
図19	第2面遺構出土遺物(3)	125
図20	第2面遺構出土遺物(4)	126
図21	第2面遺構133	129
図22	第2面上出土遺物	130
図23	第2面構成土出土遺物(1)	131
図24	第2面構成土出土遺物(2)	132
図25	第3面遺構	134
図26	第3面遺構出土遺物(1)	137
図27	第3面遺構出土遺物(2)	138
図28	第3面上・構成土出土遺物(1)	141
図29	第3面構成土出土遺物(2)	142
図30	第4面遺構・遺構出土遺物	144
図31	第4面遺構215(a・b)・遺構218	145
図32	第4面遺構218出土遺物(1)	147

図33 第4面遺構218出土遺物(2).....	148
図34 第4面遺構218出土遺物(3).....	149
図35 第4面遺構215出土遺物(1).....	150
図36 第4面遺構215出土遺物(2).....	151
図37 第4面遺構215出土遺物(3).....	152
図38 第4面遺構215出土遺物(4).....	153
図39 第4面遺構215出土遺物(5).....	154
図40 第4面遺構219出土遺物.....	155
図41 第4面上・構成土出土遺物(1).....	157
図42 第4面構成土出土遺物(2).....	158
図43 表土採集遺物.....	159
図44 本調査地とA地点位置図.....	162

## 表 目 次

遺構計測表.....	164
出土遺物観察表.....	166
遺物破片数表.....	193

## 図 版 目 次

図版1 第1面・第2面全景、第2面遺構133 玉石出土状況.....	194
図版2 第2面遺構130、第2面構成土出土水晶。 第3面全景、第3面上出土・鉄製品。 第3面遺構207.....	195
図版3 第4面遺構215・遺構218。 最終トレンチ全景.....	196
図版4 第1面遺構・第1面上出土遺物.....	197
図版5 第1面構成土出土遺物.....	198
図版6 第2面遺構出土遺物.....	199

図版7 遺構133出土遺物.....	200
図版8 第2面上・構成土出土遺物.....	201
図版9 第3面遺構・面上・構成土出土遺物.....	202
図版10 第4面遺構出土遺物.....	203
図版11 遺構218・遺構215出土遺物.....	204
図版12 遺構215出土遺物.....	205
図版13 遺構215・遺構219出土遺物.....	206
図版14 第4面上・構成土出土遺物 /表土採集遺物 .....	207

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 1. 歴史的環境(図1)

本調査地点は鎌倉市雪ノ下三丁目637番6外に位置する。調査地の所在する「大倉幕府跡(No.253)」は、東は東御門川、西は現在の横浜国立大学付属小・中学校、南は六浦道(現在の県道鎌倉金沢線)、北は現在の清泉小学校北端を東西に走る道路までの東西約270m、南北約220mを遺跡範囲としている。大倉幕府の範囲について『新編相模國風土記稿』では方六町、東西約三町半(約370m)、南北約二町(約220m)と推定している。東西の間口は遺跡指定域よりも幅広く推定されているが、現指定域の西の境は横浜国立大学付属小・中学校設立に伴ってできた道路であり、古くは西に延びる六浦道から、横大路、小町大路へと向かう筋違橋辺から北に向かって、現小・中学校校庭を横切って谷戸奥に向かって伸びる道があった。その道を境と考え距離を測ると東西は約370mとなる。数値だけで推定することはできないが、地点8(図1)では堀あるいは柵と考えられる南北に並ぶ大型の柱穴が道路に沿って発見し、西の境を示す柱穴列と想定され、西限を裏付ける調査成果が出ている。「大倉幕府(御所)」という呼び名は、治承四年(1180)、「大倉」の地に源頼朝新亭が造られたことから便宜上呼ばれているが、「大倉」は、東は十二所、西は鶴岡八幡宮、南は滑川、北は覚園寺・瑞泉寺辺りを含めた広範囲な地域の総称である。地名の由来は、貢物などを収めた倉庫の類があったことによるともいわれるが、源頼朝が名付けたとの説もある。「吾妻鏡」に、「大倉」の名がするのは治承四年(1180)の記事が初見であり、養和元年(1181)にはこの地に新御所が完成した記事が見える。以来、嘉禄元年(1225)に北条泰時によって宇津宮辻子辻へと移転が行われるまでの40年弱、頼朝、頼家、実朝と源氏三代にわたり政務が行われた地となる。「大倉幕府(御所)」の郭内には「寝殿」「大御所」「小御所」「対屋」「北向御所」「常御所」「御所対面所」「釣殿」「侍所」「門注所東西」「弓問学所」「進物所」「御厩」などの建物があり、現在も「東御門」「西御門」「南御門」といった旧地名が残っているが、東西南北、それぞれに門が設けられていた事が「吾妻鏡」に記されている。大倉幕府跡指定域の南北中軸ラインをなす道路の北方には源頼朝の墳墓堂でもある法華堂があり、そこから尾根を挟んで東には北条義時の法華堂跡が山腹に位置する。西には源頼朝が由比の若宮八幡宮を遷した鶴岡八幡宮があり、南には源家の氏寺となる勝長寿院、北東には大倉幕府の鬼門鎮守の社と定めた荏柄天神社がある。調査地前を北東に走る道路は明治時代に鎌倉宮(大塔宮)の参道として造成された道路であり、鎌倉宮に突き当たる。そこから東に進むと源頼朝が文治五年(1189)に建立を企図した永福寺へと向かい、西に進むと北条義時が建保六年(1218)に建立した「大倉薬師堂」を前身に持つ覚園寺に突き当たる。幕府周辺には、その他にも廃寺となった高松寺・太平寺・報恩寺・保寿院・白旗明神社等の仏閣があった記録が残る。遺跡指定域の南限となる六浦道は源家類代の家人である三浦一族が掌握した道として知られ、道の名が示すように武藏国六浦郷と鎌倉を結ぶ、政治的に重要な意味を持つ幹線道路であると共に、遺跡指定域東南角にあたる「大倉辻」は御所移転後の建長三年(1251)・文永二年(1265)には「町屋免許」を指定された商業地域として記録が残り、西南角にあたる「筋違橋」も文永二年には「町屋免許」が下っており、政務の中心を離れた後も商業域として栄えた道でもある。本調査地点を含む遺跡指定域および周辺で多くの発掘調査が行われている。地点8・9・15・④では14世紀以降の六浦路と推定する道路遺構、それを週る年代となる断面V字形の東西溝を発見し幕府域の南限が推定され、前述した地点8では南北の柵あるいは堀と推定される柱穴列が発見されており、幕府域の西限を示すものと考えられている。また地点⑨では海拔11.3mの基盤層上で幅5.1m、深さ2.7mの断面



図1 調査地点と周辺の遺跡

No.	地番	調査年度	面積	所轄報告書(正式報告のみ)
大倉幕府周辺遺跡群(No.49)				
1	雪ノ下四丁目 620番1	1980 年度	280 m <sup>2</sup>	未報告
2	雪ノ下四丁目 600番	1980 年度	15m <sup>2</sup>	未報告
3	雪ノ下四丁目 581番2	1981～1982 年度		未報告
4	雪ノ下四丁目 630番2	1983 年度	240 m <sup>2</sup>	未報告
5	雪ノ下四丁目 610番2	1983 年度	620 m <sup>2</sup>	未報告
6	雪ノ下四丁目 565番4	1989 年度	56 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1991
7	二階堂牛糞4番1番	1991 年度	1900 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 馬瀬和雄 1993
8	雪ノ下四丁目 606番1	1991 年度	350 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第3分冊)』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1993
9	雪ノ下三丁目 607番	1992 年度	140 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 岩田誠ほか 1994
10	雪ノ下天神下652番29	1994 年度	30 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 岩田誠ほか 1996
11	雪ノ下四丁目 620番5	1996 年度	252 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 馬瀬和雄 1998
12	雪ノ下牛糞4番1番	1999 年度	78 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 棚川真2001
13	雪ノ下三丁目 580番10	1999 年度	129 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 原廣志ほか 2001
14	二階堂牛糞4番5番4外	2000 年度	251 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 原廣志ほか 2002
15	雪ノ下三丁目 607番1	2001 年度	44 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 関次順子ほか 2004
16	雪ノ下四丁目 567番7	2002 年度	25 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 岡田誠ほか 2004
17	二階堂牛糞4番27番3の一部	2002 年度	54 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 原廣志ほか 2006
18	雪ノ下四丁目 581番5	2003 年度	1530 m <sup>2</sup>	『大倉幕府周辺遺跡発掘調査報告書』有限会社 鎌倉歴史研究会 畑木秀穂ほか 2007
19	二階堂牛糞4番7番7外	2006 年度	35 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 伊丹まどかほか 2014
20	雪ノ下四丁目 670番1	2006 年度	32 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 馬瀬和雄 2014
21	二階堂牛糞4番6外	2006 年度	122 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 木村弘己 2018
22	二階堂牛糞4番6番4	2006 年度	42 m <sup>2</sup>	未報告
23	雪ノ下天神院562番30	2007 年度	26 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書32(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 神光道 2016
24	二階堂牛糞4番3番6外	2007～2008 年度	54 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 木村弘己 2018
25	二階堂牛糞4番3番2	2011～2012 年度	1652 m <sup>2</sup>	未報告
26	二階堂牛糞4番8番	2016 年度	64 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 木村弘己 2018
㉙	二階堂牛糞4番11番3	1996 年度	15 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 萩野賢二 1998
㉚	二階堂牛糞4番5番	1998 年度	96 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 關田誠ほか 2000
㉛	二階堂牛糞4番1番	2000 年度	49 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』鎌倉市教育委員会 原廣志ほか 2003
大倉幕府跡(No.253)				
㉜	雪ノ下四丁目 569番	1989 年度	162 m <sup>2</sup>	『大倉幕府周辺遺跡群』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査会 馬瀬和雄 1990
㉝	雪ノ下三丁目 707番1	1990 年度	30 m <sup>2</sup>	未報告
㉞	雪ノ下三丁目 651番8	1997 年度	15 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 沙見一夫 1999
㉟	雪ノ下三丁目 618番4	2000 年度	24 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 沙見一夫 2002
㊱	雪ノ下三丁目 701番14	2002 年度	45 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 鶴原晶子 2005
㊲	雪ノ下三丁目 701番3	2002 年度	81 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 馬瀬和雄 2005
㊳	雪ノ下三丁目 701番1	2003 年度	16 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 鶴原晶子 2005
㊴	雪ノ下三丁目 704番3外	2005 年度	56 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 福田誠 2011
㊵	雪ノ下三丁目 637番4	2006 年度	68 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 美谷謙 2011
㊶	雪ノ下三丁目 629番1	2007 年度	170 m <sup>2</sup>	『大倉幕府跡発掘調査報告書』株式会社 博通 宮田誠 2011
㊷	雪ノ下三丁目 607番6外	2007 年度	25 m <sup>2</sup>	未報告
㊸	雪ノ下三丁目 635番2外	2008 年度	47 m <sup>2</sup>	『大倉幕府跡発掘調査報告書』有限会社 鎌倉歴史研究会 斎谷 滉ほか 2012
㊹	雪ノ下三丁目 693番5	2009 年度	33 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31(第2分冊)』鎌倉市教育委員会 木村弘己 2015
㊺	雪ノ下三丁目 648番3	2009 年度	38 m <sup>2</sup>	未報告
㊻	雪ノ下三丁目 694番18	2009 年度	42 m <sup>2</sup>	『大倉幕府跡(No.253)発掘調査報告書』株式会社 博通 斎谷 滉ほか 2013
㊼	雪ノ下三丁目 693番1	2009 年度	56 m <sup>2</sup>	『大倉幕府跡(No.253)発掘調査報告書』株式会社 博通 斎谷 滉ほか 2013
㊽	雪ノ下三丁目 648番8	2010 年度	54 m <sup>2</sup>	未報告
㊾	雪ノ下三丁目 618番8、 653番19	2013 年度	30 m <sup>2</sup>	未報告
㊿	雪ノ下三丁目 628番1	2014 年度		未報告
横小路周辺遺跡(No.259)				
㊿	二階堂牛糞4番1	1987～1988 年度	600 m <sup>2</sup>	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1990

図2 調査地点一覧

V字形を呈する南北方向の溝が発見され、幕府城の東限を想定している。幕府城内の様相は、地点⑫で13世紀前半から15世紀前半にかけての11枚の生活面が発見され、掘立柱建物・基壇状遺構・土坑・ピットなどの遺構を確認し、地点⑤・⑥・⑦で13世紀初頭から15世紀前半までに11枚にも及ぶ生活面に掘立柱建物等の遺構を確認し、地点⑫では、13世紀後半から16世紀代の掘立柱建物・石垣、あるいは土留め状の遺構とともに、庭園らしき遺構も発見される等、多くの生活面と屋敷地、あるいは寺社の一角と推定されるような遺構を確認しているが、調査地の大半は狭小な面積であるため、御所の様相を明らかにする成果には至っていない。

## 2. 遺跡位置とグリッド配置図(図3)

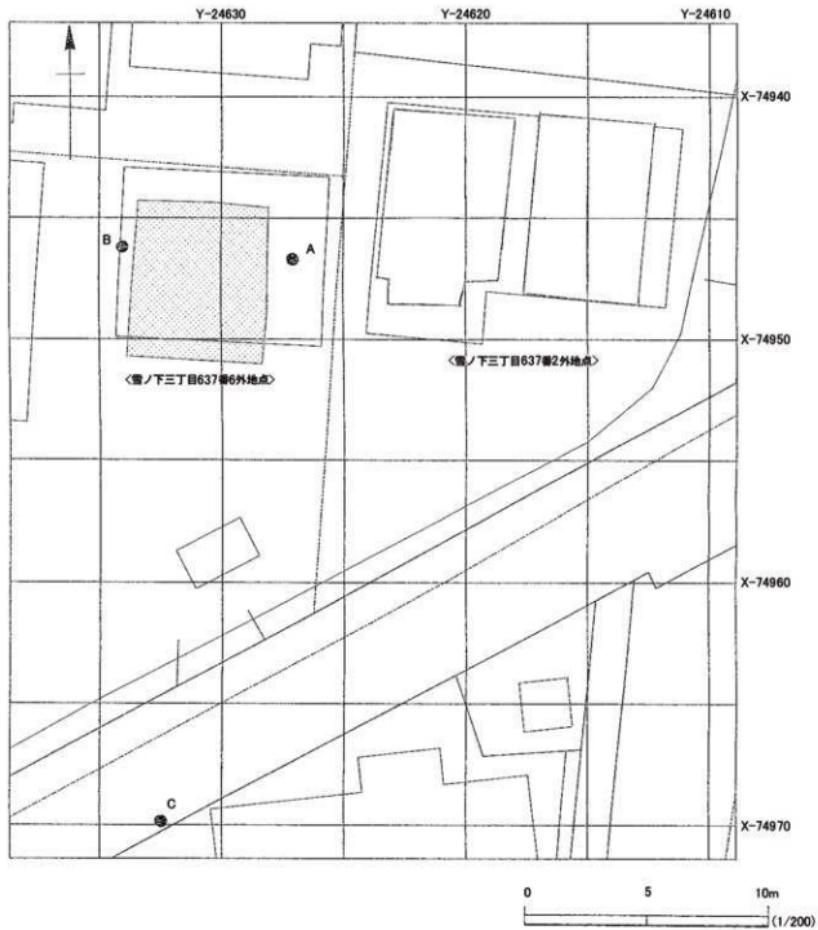
調査開始にあたり調査区に任意の方眼軸を設け、基本点Aと、見返り点Bを設定し遺構の測量・図面作成に使用した。基本点Aと、見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系(座標AREA-9)の国土座標値を使用しているため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB版TKY2JGD」で世界測地系IX形に変換し、図3に表記した。

## 3. 堆積土層(図4)

約40～50cmの深さで堆積する近・現代の堆積層を重機によって除去し、暗茶褐色弱粘質土上で第1面を検出した。第1面構成土は泥岩・破碎泥岩を含み、やや硬く締まった堆積層であった。確認レベルは11.80m。第2面は泥岩・炭化物を多く含む茶褐色弱粘質土上で検出した。調査区北側、約2m幅で泥岩・破碎泥岩・玉石を使用した地業を検出し、南側は固く締まった堆積層ではあったが、北側で確認した地業とは異なる。第2面構成土は破碎泥岩とともに炭化物を多く含む。確認レベルは11.60m。第3面は炭化物を多く含む泥岩細片による地業層上で検出した。確認レベルは11.40m。第4面は泥岩細片・炭化物・有機質土を多量に含む暗褐色砂質土上で検出した。確認レベルは11.20m。第4面以下はトレーナーを設け第4面で検出した溝(遺構218・215)の底面を確認する作業を行ったときに下層の堆積を観察し、堆積土に中世遺物が混在していることは確認したが、遺構の確認はできなかった。湧水が激しく以下、中世地山の堆積層を確認することはできなかった。

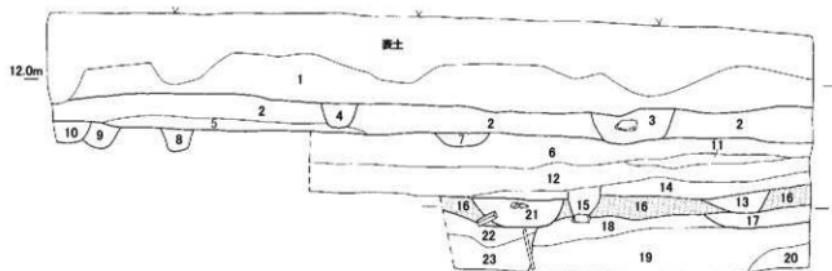
<参考文献>(本報分に共通する)

- ・藤澤良祐 2008年『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
- ・中野晴久 2012年『愛知県史別編窯業3 中世・近世常滑系』 愛知県 常滑
- ・『太宰府条坊跡XV-陶磁器分類編』 太宰府市教育委員会 2000年
- ・『日本歴史大系14巻』 「神奈川県の地名」 平凡社 1984年
- ・『鎌倉市史 考古編』 赤星直忠 吉川弘文館 1967年
- ・『鎌倉市史 社寺編』 高柳光寿・佐藤栄智・川副竹風・貫達人 吉川弘文館 1972年
- ・『鎌倉市史 近代通史編』 吉川弘文館 平成六年
- ・『鎌倉事典』 東京堂出版 平成4年 白井永二
- ・『鎌倉廬事典』 有斐閣 1980年 貫達人・川副竹風
- ・『新編相模國風土記稿』 雄山閣(大日本地誌大系) 1998年
- ・『鎌倉市文化財資料第7集 としよりのはなし』 鎌倉市教育委員会第5刷 1990年



地点	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-75303.310	-24333.660	-74946.6853	-24627.0821
B	-75302.846	-24340.643	-74946.2212	-24634.0646
C	-75326.503	-24339.083	-74949.8775	-24632.5056

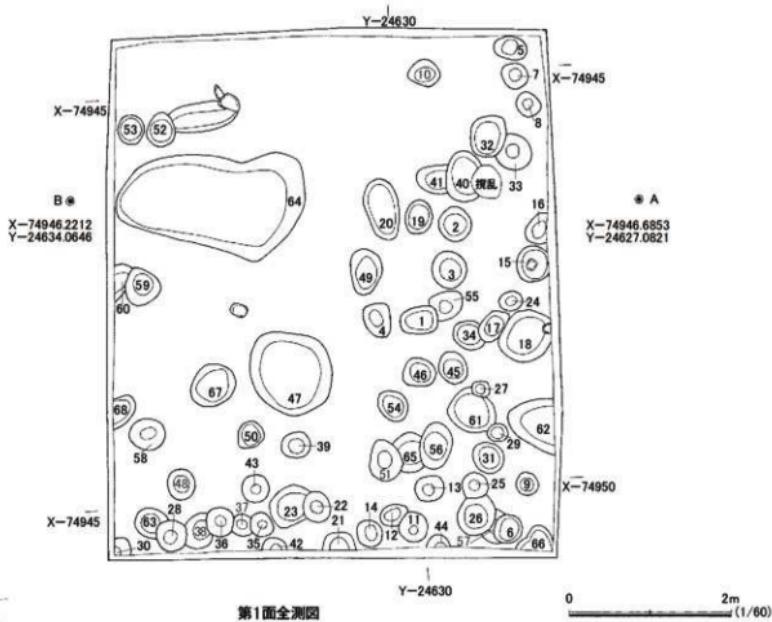
図3 調査区配置図



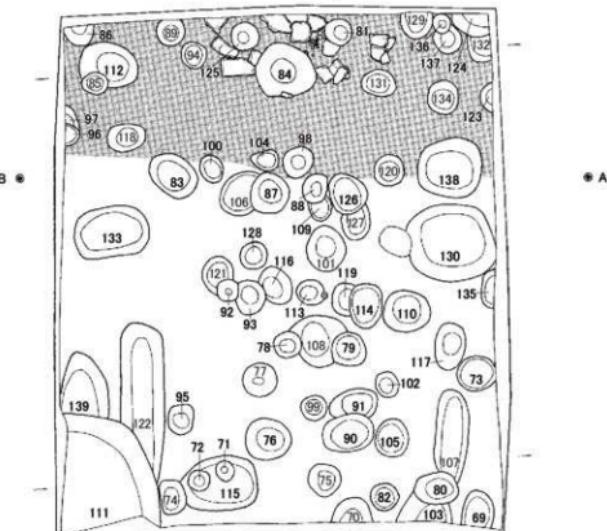
〈東壁土層記〉

- |             |  |
|-------------|--|
| 1. 近世耕作土    | 茶灰色鈣質土                                 |
| 2. 暗茶灰色鈣質土  | 泥岩中量・泥岩粒・炭化物中量・かわらけ片少量含む。しまりあり（第1面構成土） |
| 3. 暗黃褐色鈣質土  | 泥岩・泥岩粒・炭化物・かわらけ片少量（第1面造構62）            |
| 4. 暗茶褐色鈣質土  | 泥岩・泥岩粒少量・炭化物中量（第1面造構16）                |
| 5. 明茶灰色鈣質土  | 泥岩中量・破碎泥岩・泥岩粒多量・炭化物少量・粘性・締まりあり         |
| 6. 茶褐色鈣質土   | 泥岩・炭化物多量（第2面構成土）                       |
| 7. 暗茶灰色鈣質土  | 泥岩少量・泥岩粒少量・炭化物少量（第2面造構135）             |
| 8. 暗灰色鈣質土   | 泥岩・泥岩粒中量・炭化物少量（第2面造構132）               |
| 9. 暗茶褐色鈣質土  | 泥岩少量・泥岩粒少量・炭化物少量（第2面造構124）             |
| 10. 暗茶褐色鈣質土 | 破碎泥岩・茶褐色砂質土（第2面構成土）                    |
| 11. 茶褐色鈣質土  | 破碎泥岩多量・炭化物（第2面構成土）                     |
| 12. 茶褐色鈣質土  | 泥岩少量・炭化物少量（第3面構成土）                     |
| 13. 暗茶灰色鈣質土 | 茶色有機質土・泥岩・炭化物多量                        |
| 14. 茶褐色鈣質土  | 破碎泥岩・炭化物多量（第3面造構162）                   |
| 15. 暗褐色砂質土  | 泥岩細片多量・炭化物多量・硬く締まる（第3面地盤）              |
| 16. 暗茶褐色砂質土 | 泥岩・褐色砂質土・砂礫（第4面構成土）                    |
| 17. 褐色鈣質土   | 泥岩細片・炭化物多量・茶色有機質土少量（第4面構成土）            |
| 18. 暗褐色砂質土  | 暗褐色粘土・泥岩細片多量・（第4面造構215面土）              |
| 19. 暗褐色砂質土  | 泥岩細片微量・炭化物微量                           |
| 20. 茶褐色粘土   | 泥岩粒・炭化物（第3面造構207）                      |
| 21. 暗褐色鈣質土  | 茶色有機質土・木片（第4面造構218）                    |
| 22. 暗褐色鈣質土  | 暗褐色鈣質土・茶色有機質土・砂礫（第4面造構218）             |
| 23. 青灰色砂質土  |  |

図4 堆積土層図



第1面全測図



第2面全測図

図5 第1面・第2面全測図

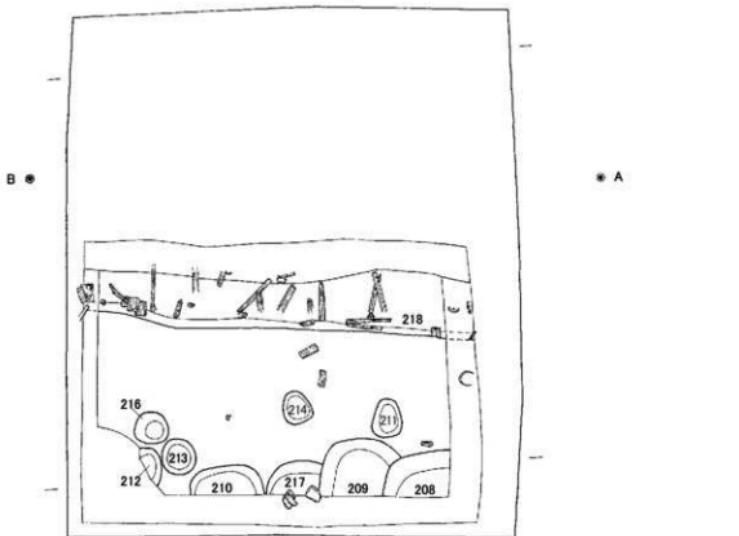
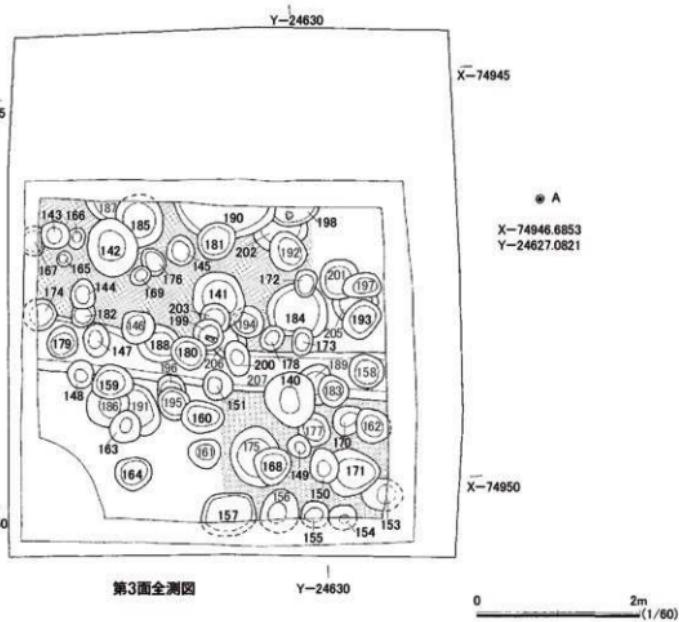


図6 第3面・第4面全測図

## 第二章 発見された遺構と遺物

本調査では4枚の生活面を発見し観察・記録を行ったが、生活面は切り合った数時期の遺構を同一面上で発見している。各生活面に付した遺構番号は調査作業の簡便を図る目的で遺構プランに対して付してあり、必ずしも番号の新旧が遺構の新旧を表すものではない。本報告で個別に提示した遺構図面は基本的に出土遺物を伴う遺構を報告した。個別図面を掲載していない遺構の形状・規模は全測図と遺構計測表を参照していただきたい。また、出土遺物の内、実測した遺物に関しては遺物観察表に詳細を報告し、本文中では遺物名だけを掲載している。発見した遺構は上層より順に報告している。調査開始前、現地表は西から東にやや傾斜しており海拔12.70m～12.50mを測った。

### 第1節 第1面の遺構と遺物（図5・図7～図14）

重機によって表土を取り除いた後、やや脆弱ではあったが破碎泥岩を多く含む暗茶灰色弱粘質土を検出した。上層の近世耕作土によって部分的に削平を受けていたため、地業層をやや大きく削り平坦に均した層上で多くの遺構を発見し第1面として記録したが、2時期の遺構が切り合っていると考えている。発見した遺構はピット65穴・土坑3基である。第1面確認レベルは海拔11.80m～11.90mである。

#### 遺構1（図7・図9）

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土を含む。

#### 出土遺物（図9）

1～3はかわらけ。その他に手づくね・常滑片口鉢I類・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構2（図7・図9）

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物（図9）

4はかわらけ。5は石製品砥石。その他に手づくね・白磁碗・渥美甌が破片で出土している。

#### 遺構3（図7・図9）

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物（図9）

6は白磁口兀皿。7は石製品、用途不明。石材は砥石の石材を使用しているが、硯に加工しなおしているような痕跡がある。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

#### 遺構6（図7）

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物（図9）

8は銭。その他にかわらけ・鉄製品釘が破片で出土している。

#### 遺構7（図7）

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物（図9）

9は青磁櫛搔文皿。その他にかわらけが破片で出土している。

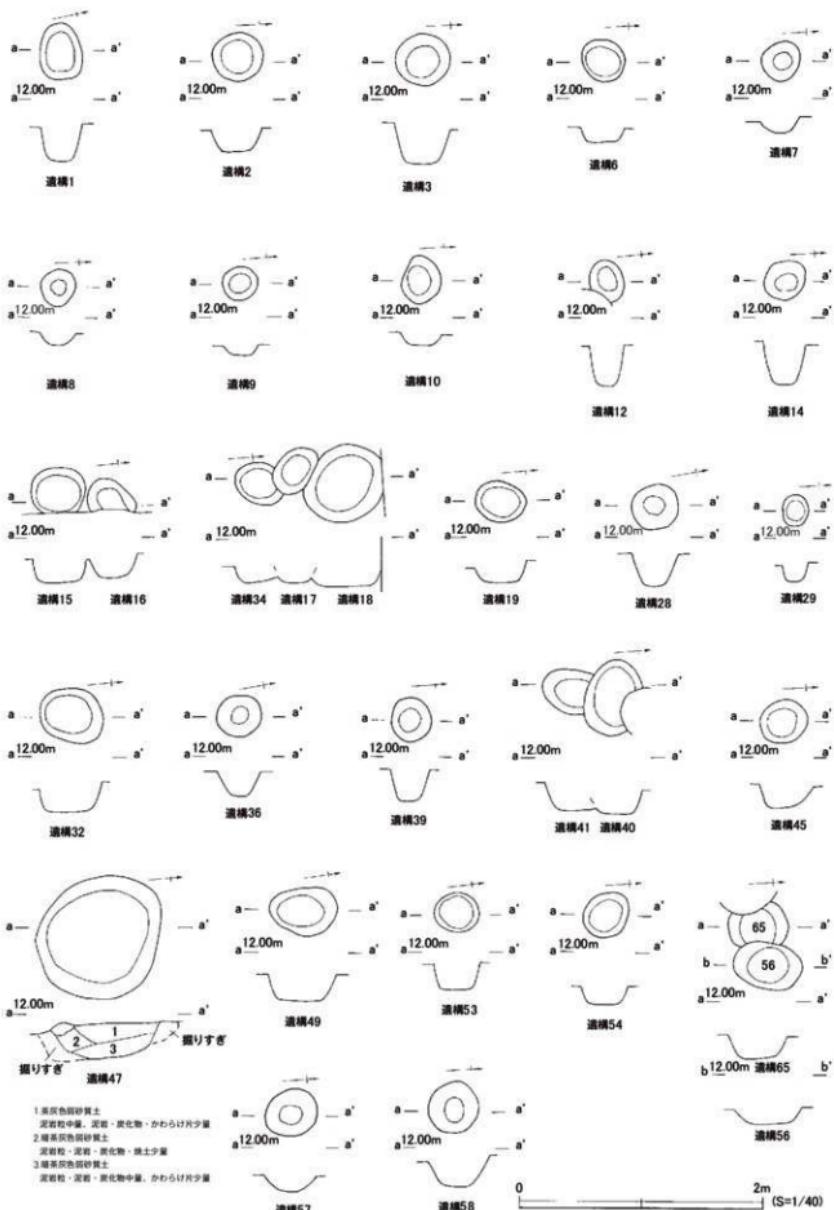


図7 第1面造構(1)

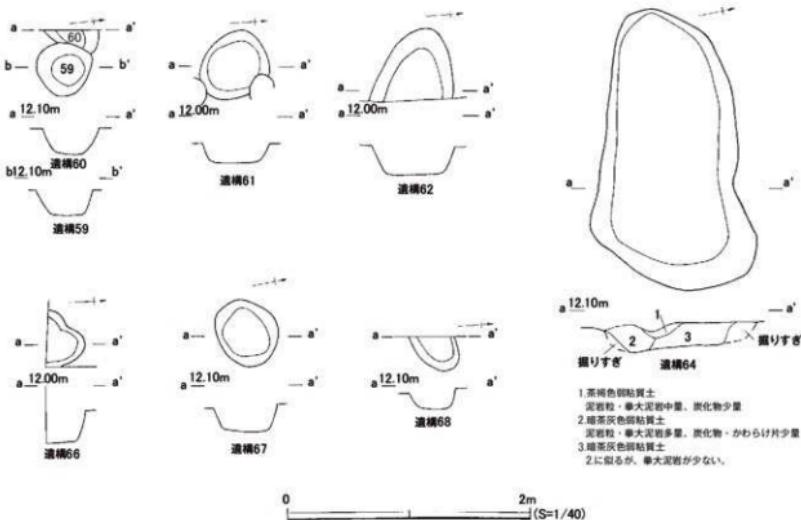


図8 第1面遺構(2)

#### 遺構8(図7)

円形を呈するピットである。茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土を含む。

#### 出土遺物(図9)

10はかわらけ。11は手づくね。

#### 遺構9(図7)

円形を呈するピットである。暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図9)

12は青磁箇蓮弁文碗。13は石製品・石材片。近世以降に採掘された石材ではないかとの指摘があり、表土遺物が混入した可能性もある。その他にかわらけ・手づくね・鉄製品釘が破片で出土している。

#### 遺構10(図7)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土を含む。

#### 出土遺物(図9)

14はかわらけ。

#### 遺構12(図7)

楕円形を呈するピットである。遺構11に切られる。暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・焼土粒を含む。

#### 出土遺物(図9)

15はかわらけ。

#### 遺構14(図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図9)

- 1 茶褐色弱粘質土  
泥岩粒・華大泥岩中量・炭化物少量
- 2 暗茶褐色弱粘質土  
泥岩粒・華大泥岩多量・炭化物・かわらけ片少量
- 3 暗茶褐色弱粘質土  
2に似るが・華大泥岩がない。

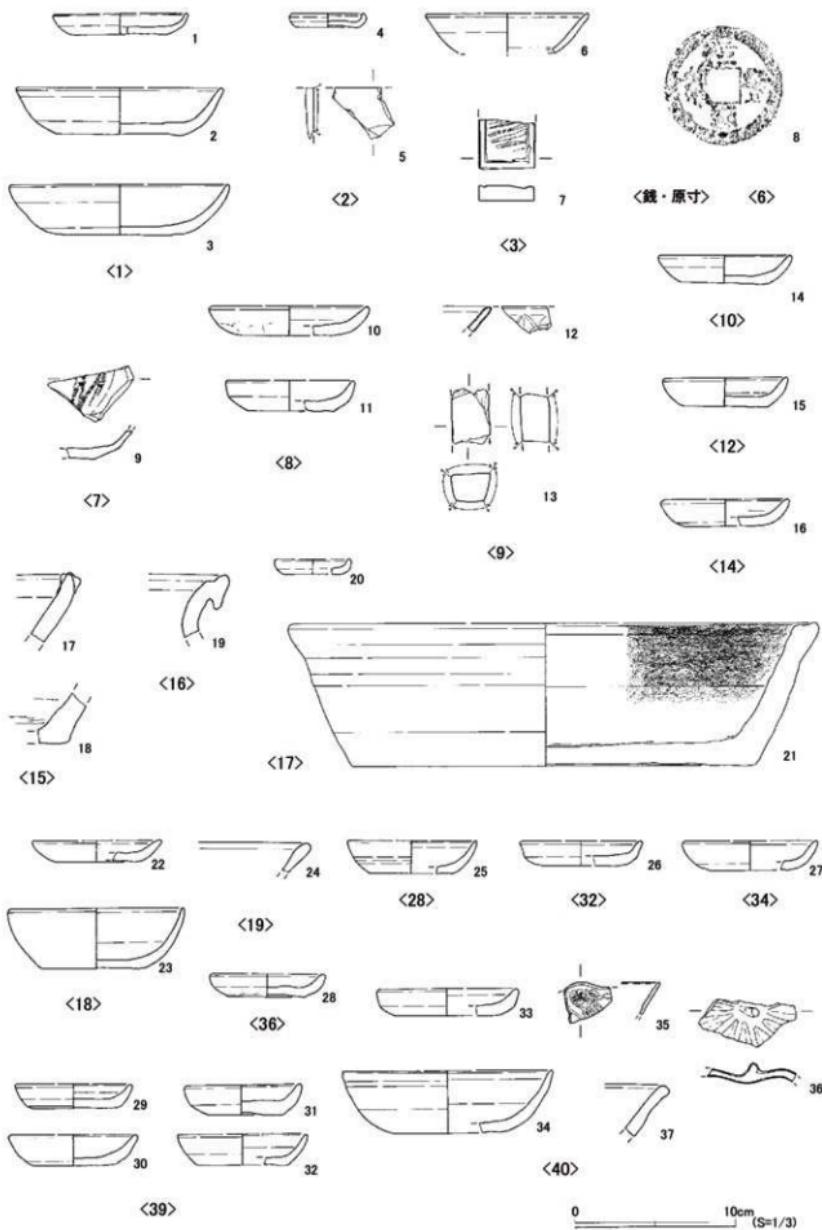


图9 第1面遺構出土遺物(1)

16はかわらけ。その他に常滑甕・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構15(図7)

円形を呈するピットである。調査区外に遺構が延びる。遺構底面に方形の小さなピットが浅く残っていた。柱痕か。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図9)

17・18は常滑片口鉢II類。その他にかわらけ・手づくね・白磁口兀皿・常滑甕が破片で出土している。

#### 遺構16(図7)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図9)

19は常滑甕。その他にかわらけが破片で出土している。

#### 遺構17(図7)

楕円形を呈するピットである。遺構18、遺構34を切る。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図9)

20はかわらけ。21は土器質火鉢。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

#### 遺構18(図7)

楕円形を呈するピットである。遺構17に切られ、一部は調査区外に延びる。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図9)

22は手づくね。23はかわらけ。その他に常滑甕・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

#### 遺構19(図7)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図9)

24は常滑片口鉢I類。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

#### 遺構28(図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図9)

25はかわらけ。その他に常滑甕・常滑片口鉢I類・貝が破片で出土している。

#### 遺構29(図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺物はかわらけ・手づくねが破片で出土している。

#### 遺構32(図7)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図9)

26はかわらけ。その他に手づくね・青磁碗・常滑甕・常滑片口鉢I類・鉄製品釘が破片で出土している。

#### 遺構34(図7・図9)

楕円形を呈するピットである。遺構17に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図9)

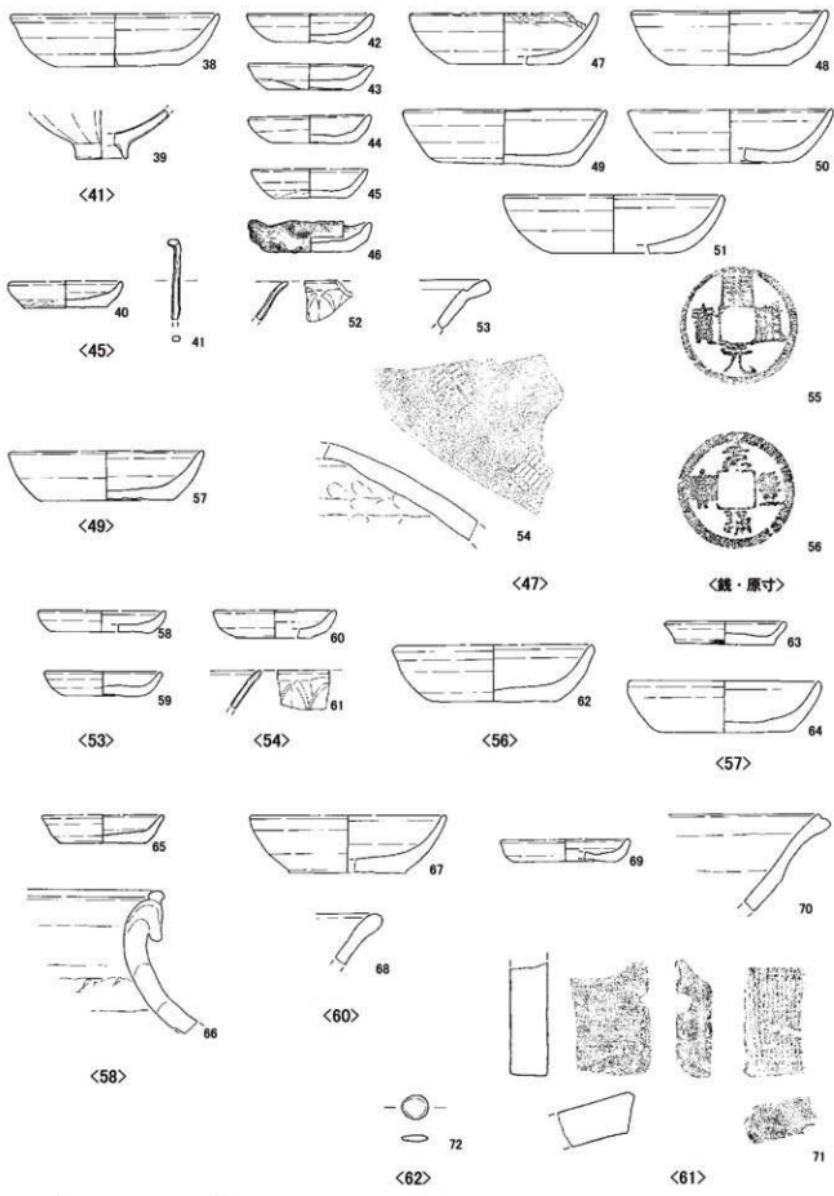


图10 第1面遺構出土遺物(2)

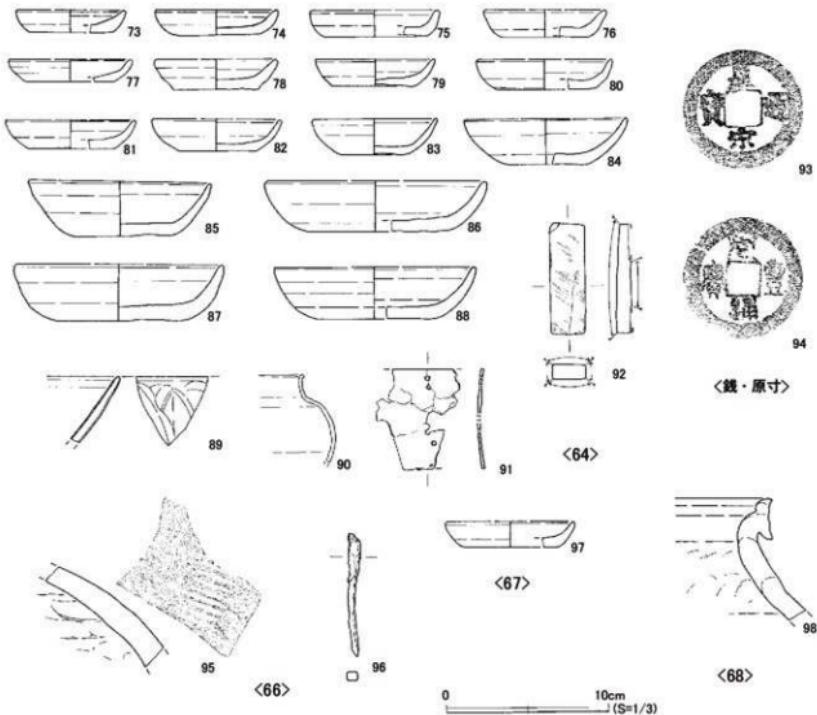


図11 第1面遺構出土遺物(3)

27はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

#### 遺構36(図7)

円形を呈するピットである。暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・焼土粒を含む。

#### 出土遺物(図9)

28はかわらけ。その他に常滑窯が破片で出土している。

#### 遺構39(図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図9)

29~32はかわらけ。その他に常滑片口鉢II類が破片で出土している。

#### 遺構40(図7)

楕円形を呈するピットである。搅乱に切られ、遺構41を切る。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図9)

33～34はかわらけ。35は白磁輪花鉢。36は青白磁合子蓋。37は常滑片口鉢I類。その他に手づくね・常滑甕が破片で出土している。

#### 遺構41(図7)

楕円形を呈するピットである。遺構40に切られる。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図10)

38はかわらけ。39は青磁鍋蓮弁文碗。その他に常滑甕・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

#### 遺構45(図7)

円形を呈するピットである。茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図10)

40はかわらけ。41は鉄製品釘。その他に砥石(鳴滝産)が破片で出土している。

#### 遺構47(図7)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図10)

42～51はかわらけ。45は内外面器壁が剥離し火熱を受けた様子が窺え、外面には多量の鉄分が付着していた。鋳造関係に利用か。52は青磁鍋蓮弁文碗。53は瀬戸折緑皿。54は常滑甕。55～56は錢。その他に手づくね・青白磁甕・土器質火鉢・平瓦が破片で出土している。

#### 遺構49(図7)

楕円形を呈するピットである。暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図10)

57はかわらけ。その他に白磁口兀皿・常滑甕・山茶碗が破片で出土している。

#### 遺構53(図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図10)

58～59はかわらけ。

#### 遺構54(図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図10)

60はかわらけ。61は青磁鍋蓮弁文碗。

#### 遺構56(図7)

楕円形を呈するピットである。遺構65を切る。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図10)

62はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

#### 遺構57(図7)

円形を呈するピットである。暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図10)

63～64はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕・渥美甕が破片で出土している。

### 遺構58(図7)

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

### 出土遺物(図10)

65はかわらけ。66は常滑甕。その他に常滑片口鉢I類・瓦器質火鉢・平瓦が破片で出土している。

### 遺構59(図8)

不正円形を呈するピットである。遺構60を切る。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。遺物はかわらけ・錢が破片で出土している。

### 遺構60(図8)

遺構59に切られ、調査区外に遺構が延びているため、規模・形状は不明となった。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

### 出土遺物(図10)

67はかわらけ。68は常滑片口鉢I類。その他に手づくね・青磁碗・青白磁梅瓶・鉄製品釘が破片で出土している。

### 遺構61(図8)

不正円形を呈するピットである。遺構27・遺構29に切られる。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

### 出土遺物(図10)

69はかわらけ。70は瀬戸片口鉢。71は平瓦。その他に手づくね・常滑甕・常滑壺が破片で出土している。

### 遺構62(図8)

調査区外に遺構が延び、規模は不明となった。土坑である。遺構覆土は暗黄褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

### 出土遺物(図10)

72は石製品。碁石として使用か。その他にかわらけ・手づくね・常滑甕・常滑片口鉢I類・備前播鉢・砥石・滑石鍋・鉄製品釘が破片で出土している。

### 遺構64(図8)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は茶褐色弱粘質土・拳大の泥岩多・泥岩粒・炭化物を含む。地業の一環であったかもしれない。

### 出土遺物(図11)

73～88はかわらけ。89は青磁鏡蓮弁文碗。90は褐釉茶入れ。91は金属製品武具。92は石製品砥石。

93～94は錢。その他に手づくね・常滑甕・瓦器碗・土器質火鉢・平瓦・鉄滓が破片で出土している。

また実測したかわらけは16点だが、破片では(大)188片・(中)1片・(小)35片が出土した。

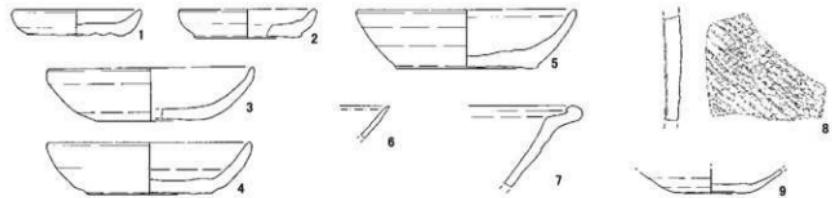
### 遺構65(図8)

楕円形を呈するピットである。遺構51・遺構56に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺物はかわらけが破片で出土している。

### 遺構66(図8)

調査区外に遺構が延び、形状・規模は不明である。遺構覆土は暗灰褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

### 出土遺物(図11)



〈第1面面上〉

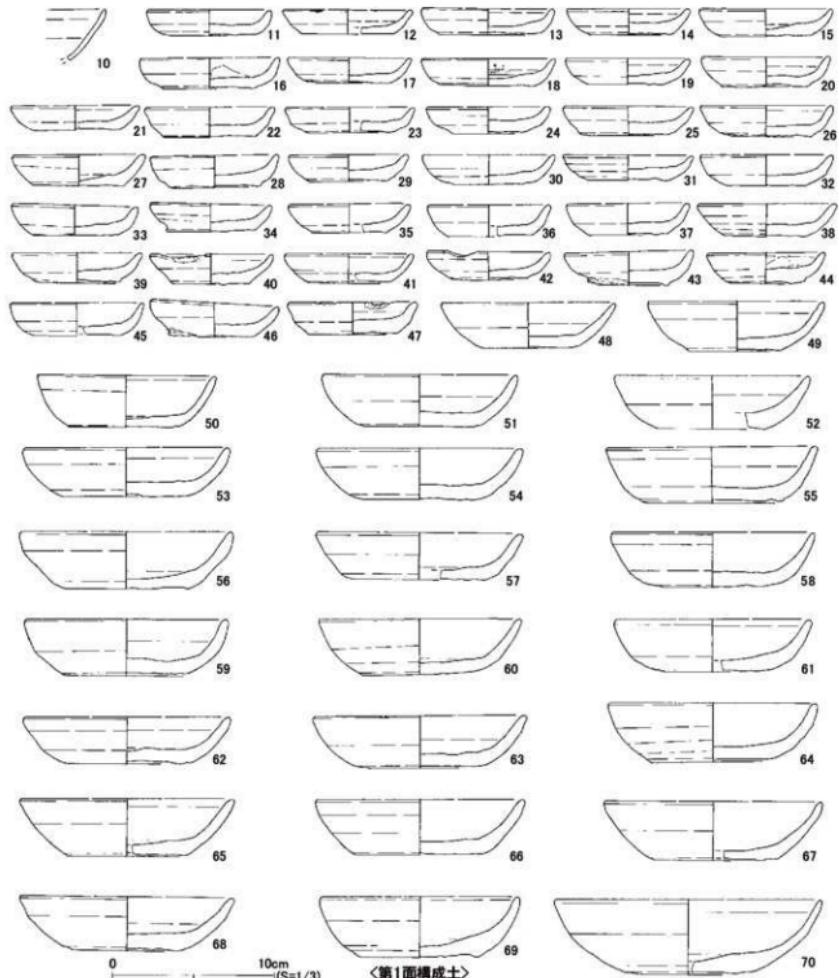


図12 第1面面上・構成土出土遺物(1)

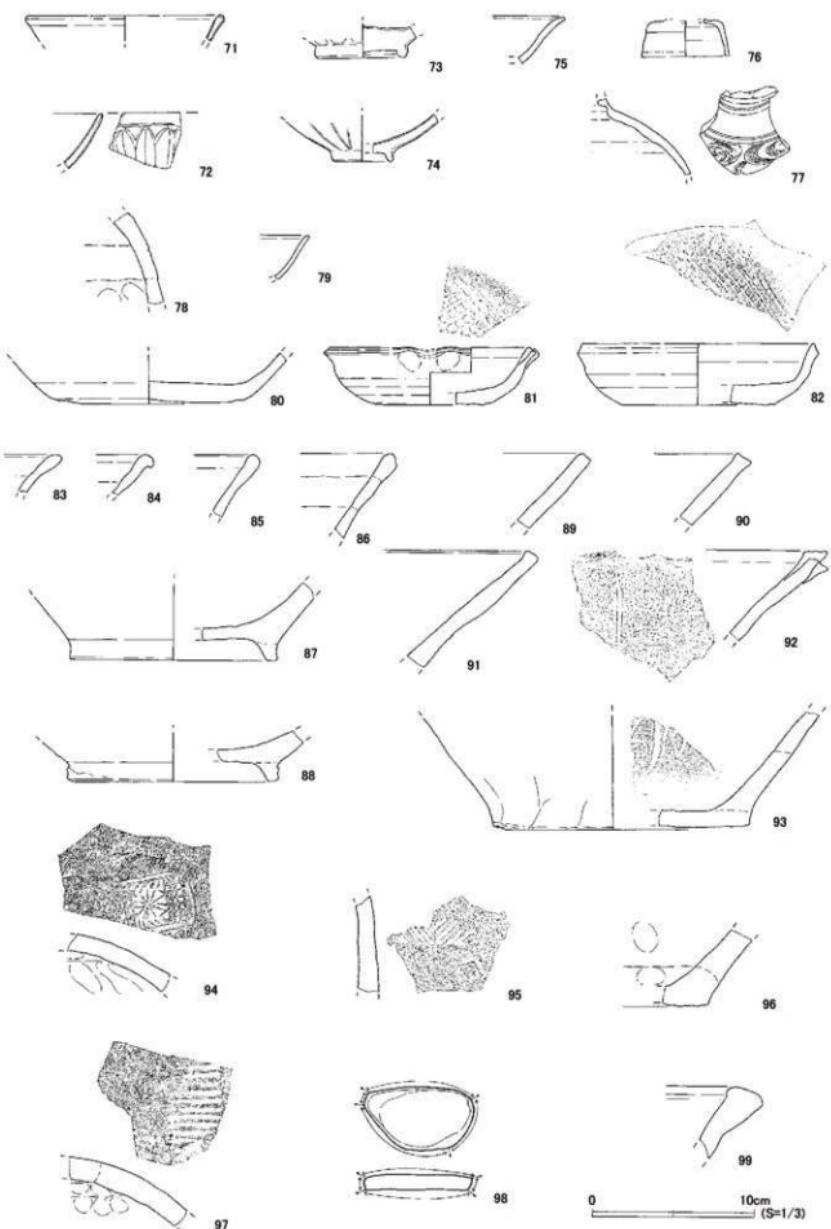


図13 第1面構成土出土遺物(2)

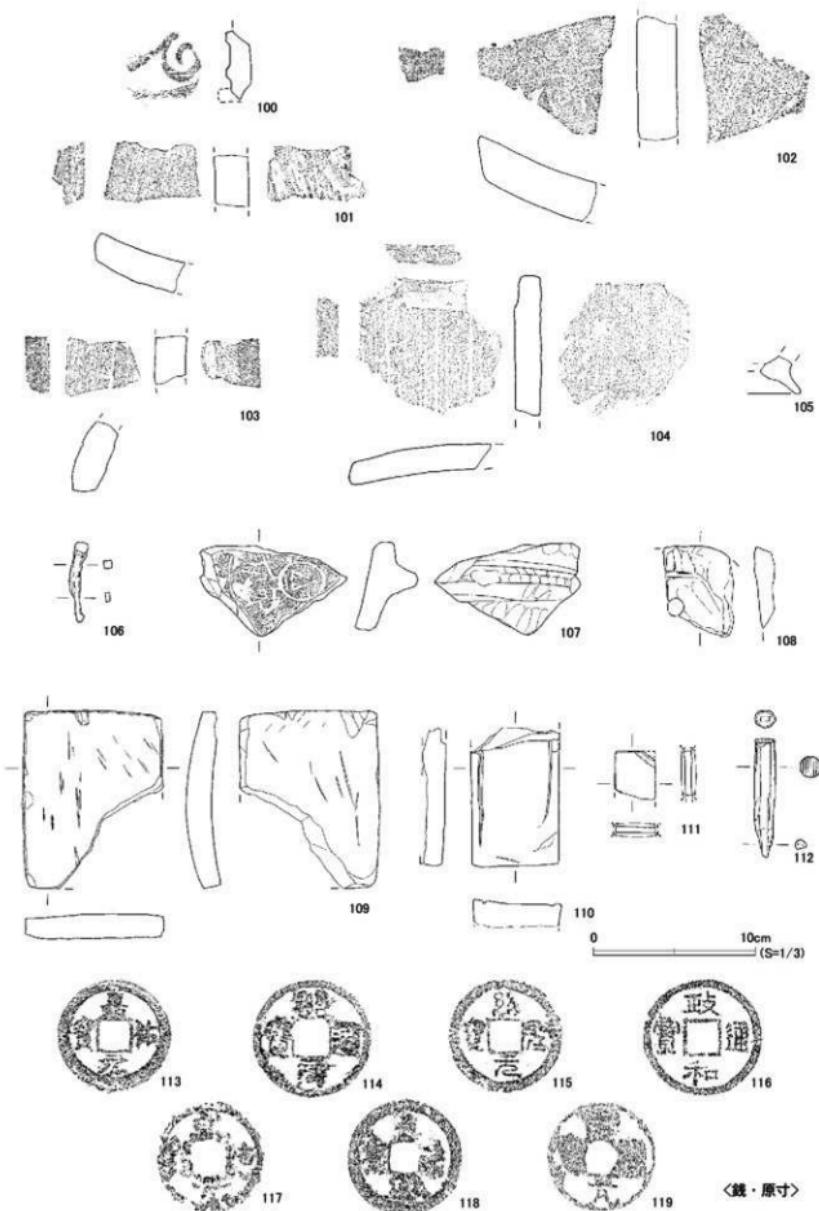


図14 第1面構成土出土遺物(3)

95は渥美甕。96は鉄製品釘。その他にかわらけ・手づくね・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類が破片で出土している。

#### 遺構67(図8)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

#### 出土遺物(図11)

97はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕が破片で出土している。

#### 遺構68(図8)

調査区外に遺構が延び、形状・規模は不明である。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

#### 出土遺物(図11)

98は常滑甕。その他にかわらけが破片で出土している。

#### 第1面面上出土遺物(図12)

第1面の面上遺構精査中に発見した遺物である。1～5はかわらけ。6は白磁口兀皿。7は瀬戸折縁深皿。8は亀山甕。9は吉備系土器碗。その他に手づくね・瀬戸入子・常滑甕・土器質火鉢が破片で出土している。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)27片・(小)10片。手づくね(大)6片・(小)3片と、僅かではあるがかわらけの出土数が多い。

#### 第1面構成土出土遺物(図12～図14)

第1面遺構検出後、第2面掘り下げ中に発見した遺物である。10は手づくね。11～70はかわらけ。71は青磁折腰皿。72・74は青磁籠運弁文碗。73は青磁運弁文碗。75は白磁口兀皿。76は青白磁梅瓶蓋。77は青白磁梅瓶。78は瀬戸入子。80は瀬戸折縁深皿。81～82は瀬戸鉢皿。83は山茶碗。84～88は常滑片口鉢Ⅰ類。89～93は常滑片口鉢Ⅱ類。94～96は常滑甕。97は渥美甕。98は常滑甕転用品。99は土器質火鉢。100は軒平瓦。101～102は平瓦。103は丸瓦。104は熨斗瓦。105はかわらけ質土製品。106は鉄製品釘。107は滑石鍋転用品用途不明。108～109は石製品温石。110は石製品硯。111は石製品砥石。112は木製品用途不明。113～119は錢。その他に青磁瓶子・青磁割花文碗・白磁皿・瀬戸瓶子・瓦器質火鉢・伊勢系土鍋・土師器・獸骨が破片で出土している。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)1016片・(小)159片。手づくね(大)36片・(小)3片で、かわらけ出土数の割合が高い。

#### 第2節 第2面の遺構と遺物(図5・図15～図24)

調査区北側に約2.00m幅で泥岩・破碎泥岩・玉石を含む茶褐色弱粘質土の地業を確認した。調査区壁で観察すると、部分的にではあるが不整形な泥岩の層下に玉石が並べられ、その下層に破碎泥岩の層が堆積し地業を形成している様子が窺えた。(図5：スクリーントーン貼り付け部分) 調査区内で直線的に断絶されたかのように地業は切れ、南側はやや脆弱な地業の様相を呈していたが、上層の遺構・堆積層によって削平を受けたものと考えている。南側でも玉石が散逸している状況を確認した。第1面同様に多くの遺構を発見しているが、2時期の遺構が切り合っていると考えている。発見した遺構はピット64穴・土坑10基である。第2面の遺構確認レベルは海拔約11.60mである。

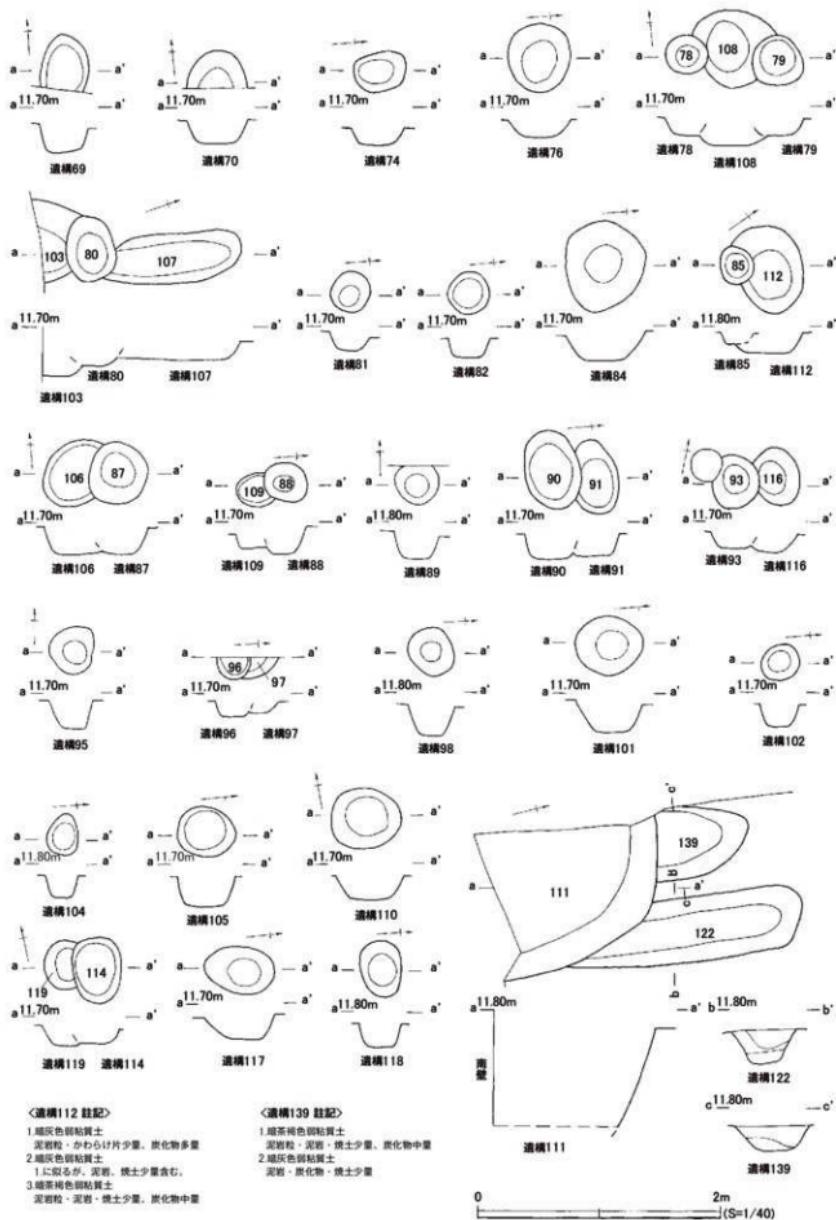


図15 第2面遺構(1)

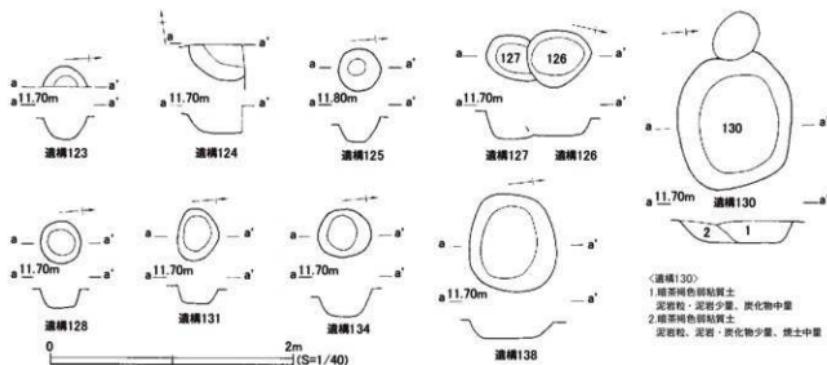


図16 第2面遺構(2)

#### 遺構69(図15)

調査区外に遺構が延び、形状・規模は不明。ピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

1は白磁壺、外面錦蓮弁文。その他にかわらけ・手づくね・白磁碗が破片で出土している。

#### 遺構70(図15)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明。ピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

2～4はかわらけ。その他に平瓦が破片で出土している。

#### 遺構74(図15)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図17)

5はかわらけ。

#### 遺構76(図15)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

6はかわらけ。7は常滑片口鉢I類。8は錢。

#### 遺構78(図15)

円形を呈するピットである。遺構108を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

9はかわらけ。10は白磁口瓦皿。11は金属製品、針か。その他に青磁蓮弁文皿が破片で出土している。

#### 遺構79(図15)

不正円形を呈するピットである。遺構108を切る。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

12はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

#### 遺構80(図15)

楕円形を呈するピットである。遺構103・遺構107を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図17)

13は青磁錫蓮弁文碗。14は青磁折腰鉢。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

#### 遺構81(図15)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

15はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕・常滑鉢が破片で出土している。

#### 遺構82(図15)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

16は鉄製品環状金具。その他にかわらけ・手づくね・常滑甕・常滑片口鉢I類・鉄製品釘・錢が破片で出土している。

#### 遺構84(図15)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

17はかわらけ。18は常滑玉縁壺。19は常滑甕。その他に手づくね・常滑片口鉢I類・常滑片口鉢II類・精製品硯・鉄製品釘が破片で出土している。

#### 遺構85(図15)

円形を呈するピットである。遺構112を切る。遺構覆土は茶灰色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

20はかわらけ。21は錢。その他に手づくねが破片で出土している。

#### 遺構87(図15)

不正円形を呈するピットである。遺構106を切る。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

22～23はかわらけ。その他に手づくね・鉄製品釘が破片で出土している。

#### 遺構88(図15)

不正円形を呈するピットである。遺構109を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・泥岩・炭化物多を含む。遺物はかわらけ・手づくね・常滑甕・常滑片口鉢I類・常滑片口鉢II類・チャート・鉄滓が破片で出土している。

#### 遺構89(図15)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

24は常滑片口鉢I類。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

#### 遺構90(図15)

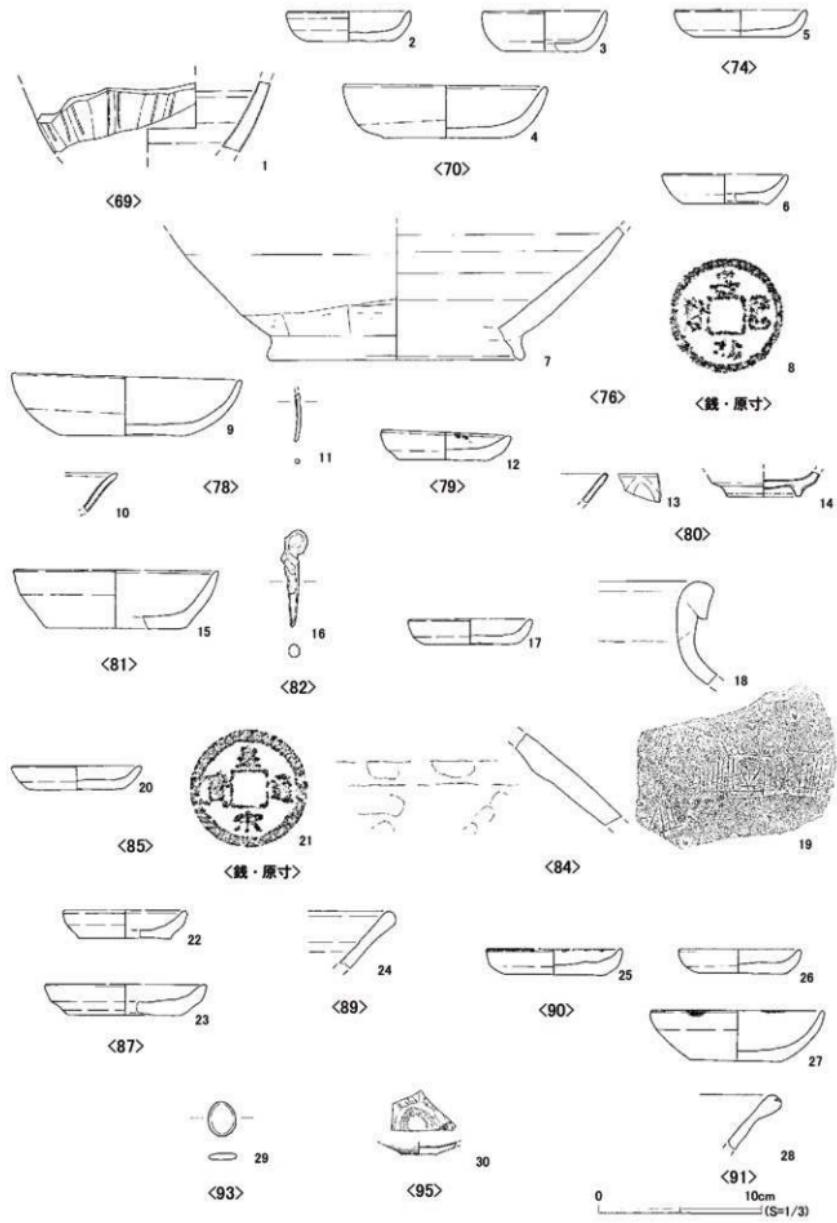


図 17 第2面遺構出土遺物(1)

梢円形を呈するピットである。遺構91を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

25はかわらけ。その他に手づくね・常滑窯・平瓦・鉄製品釘が破片で出土している。

#### 遺構91(図15)

梢円形を呈するピットである。遺構90に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図17)

26～27はかわらけ。28は常滑片口鉢I類。その他に手づくね・常滑窯・鉄製品釘・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構93(図15)

不正円形を呈するピットである。遺構92に切られ、遺構116を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒多を含む。

#### 出土遺物(図17)

29は石製品、碁石か。その他にかわらけが破片で出土している。

#### 遺構95(図15)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・泥岩・炭化物・焼土粒多を含む。

#### 出土遺物(図17)

30は白磁皿。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

#### 遺構96(図15)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。ピットである。遺構97を切る。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図18)

31～33はかわらけ。34は常滑窯。その他に手づくね・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構97(図15)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。ピットである。遺構97に切られる。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺物は出土していない。

#### 遺構98(図15)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図18)

35は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

#### 遺構101(図15)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図18)

36はかわらけ。37は常滑片口鉢II類。その他に常滑片口鉢I類・綠釉盤・鐵滓が破片で出土している。

#### 遺構102(図15)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺物は手づくね・青磁蓮弁文碗・青磁碗・綠釉盤・常滑窯・土器質火鉢が破片で出土している。

#### 出土遺物(図18)

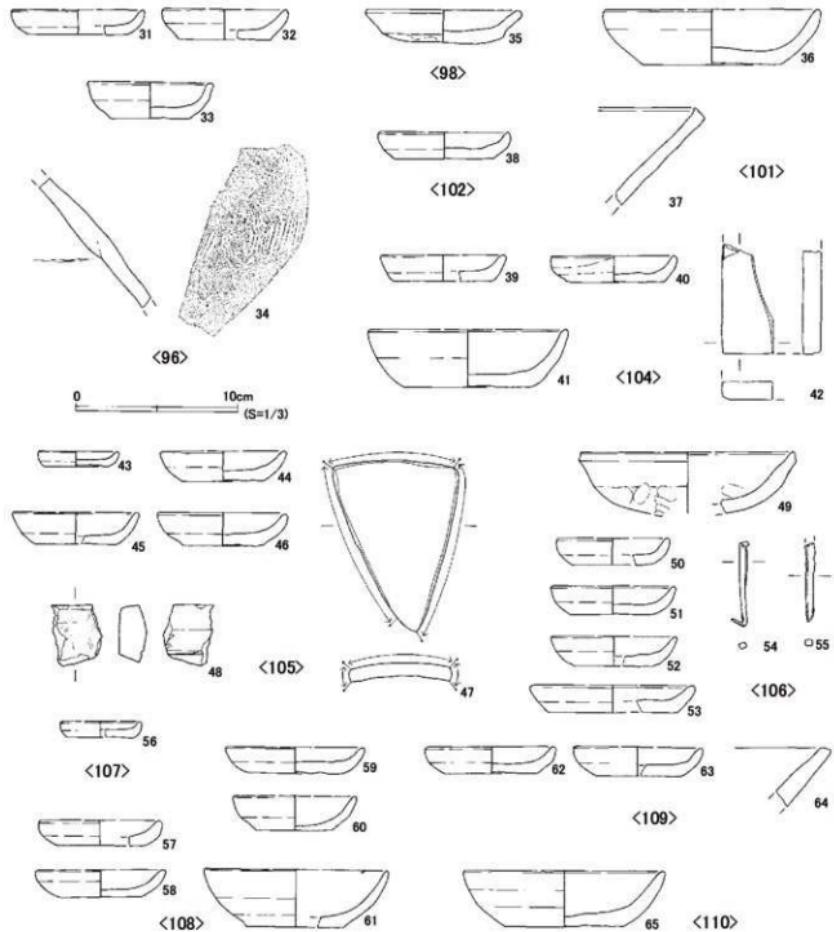


図 18 第2面遺構出土遺物(2)

38はかわらけ。

#### 遺構 103(図 15)

調査区外に遺構が伸びる規模・形状は不明。土坑である。遺構80に切られる。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩多・泥岩粒・炭化物を含む。遺物はかわらけ・手づくね・土師器甕が破片で出土している。

#### 遺構 104(図 15)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

#### 出土遺物(図 18)

39～41はかわらけ。42は石製品硯。その他に手づくね・石製品硯・鉄製品釘が破片で出土している。

#### 遺構105(図15)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図18)

43～46はかわらけ。47は常滑片口鉢転用品、断面周囲が摩耗。48は滑石鍋転用品、加工途中端材か。その他に手づくね・常滑甕が破片で出土している。

#### 遺構106(図15)

楕円形を呈するピットである。遺構87に切られる。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図18)

49は手づくね。50～53はかわらけ。54～55は鉄製品釘。その他に白磁瓶子・常滑甕・土器質火鉢・チャート・土師器甕が破片で出土している。

#### 遺構107(図15)

長楕円形を呈する土坑である。遺構80に切られる。遺構覆土は灰色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図18)

56はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕・土器質火鉢・鉄製品釘が破片で出土している。

#### 遺構108(図15)

不正円形を呈するピットである。遺構78・遺構79に切られる。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

#### 出土遺物(図18)

57～61はかわらけ。その他に手づくね・青磁蓮弁文碗・常滑甕・石製品砥石が破片で出土している。また手づくねの実測図を報告していないが、破片数ではかわらけ(大)10片・(小)35片に対し、手づくね(大)60片・(小)4片と、手づくねの出土比が多い。

#### 遺構109(図15)

楕円形を呈するピットである。遺構88に切られる。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図18)

62～63はかわらけ。64は常滑片口鉢Ⅱ類。その他に常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

#### 遺構110(図15)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図18)

65はかわらけ。その他に手づくね・青磁碗・常滑甕が破片で出土している。

#### 遺構111(図15)

調査区外に遺構が伸び規模・形状は不明。また、湧水により調査区壁が崩落する危険性があったため、遺構底面の確認を行っておらず深さも不明である。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・茶色有機質土を含む。井戸の可能性を考えている。

#### 出土遺物(図19)

66～71は手づくね。66は口縁部内折れ。72～82はかわらけ。83は青磁浅型碗。84は白磁皿。85～86は瀬戸入子。87は瀬戸卸皿。88は常滑片口鉢Ⅰ類。89は常滑甕。90は平瓦。その他に手づくね・白磁碗・

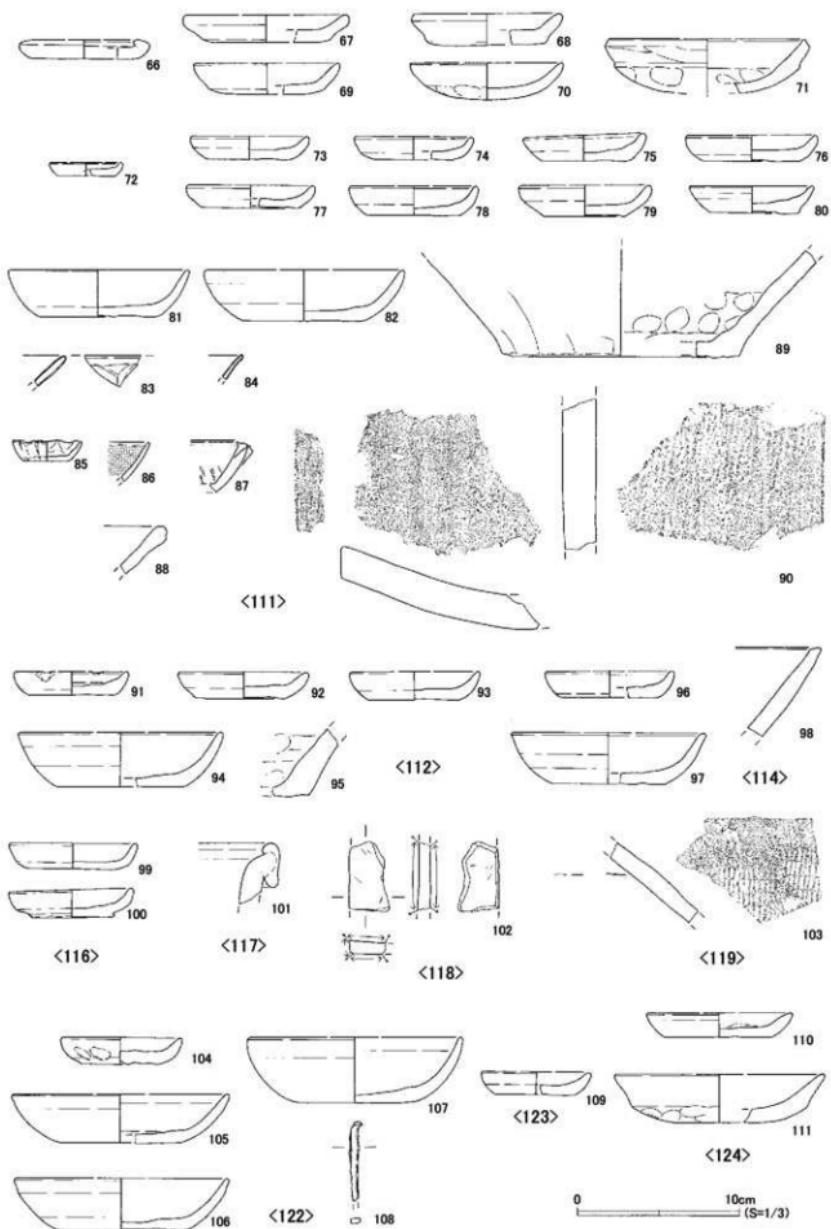


図 19 第2面遺構出土遺物(3)

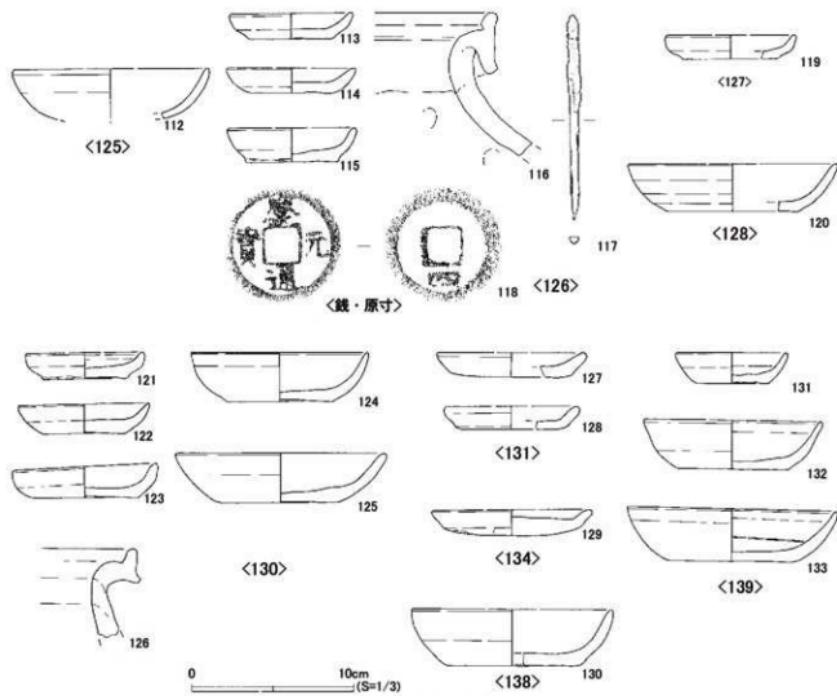


図20 第2面遺構出土遺物(4)

常滑壺・山茶碗・石製品硯・鉄製品釘・輪の羽口・土師器壺・木片・獸骨が破片で出土している。また、手づくねは実測図を報告していないが、破片数ではかわらけ(大)53片・(小)32片に対し、手づくね(大)148片・(小)41片であった。

#### 遺構112(図15)

楕円形を呈するピットである。遺構85に切られる。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図19)

91~94はかわらけ。95は常滑壺。その他に常滑片口鉢I類・山茶碗が破片で出土している。

#### 遺構114(図15)

楕円形を呈するピットである。遺構119を切る。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図19)

96~97はかわらけ。98は常滑片口鉢II類。その他に手づくね・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

#### 遺構116(図15)

楕円形を呈するピットである。遺構93に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### **出土遺物(図19)**

99～100はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕が破片で出土している。

#### **遺構117(図15)**

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### **出土遺物(図19)**

101は常滑甕。その他にかわらけ・手づくね・鉄製品釘が破片で出土している。

#### **遺構118(図15)**

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### **出土遺物(図19)**

102は石製品砥石。その他にかわらけ・手づくね・常滑甕・常滑壺・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

#### **遺構119(図15)**

楕円形を呈するピットである。遺構114に切られる。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### **出土遺物(図19)**

103は常滑甕。その他にかわらけ・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

#### **遺構122(図15)**

遺構111に切られる。長楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土を含む。

#### **出土遺物(図19)**

104～107はかわらけ。104の外側面に指頭による調整痕が残る。108は鉄製品釘。その他に手づくね・青磁蓮弁文碗・常滑甕・常滑片口鉢I類・滑石鍋・獸骨が破片で出土している。

#### **遺構123(図16)**

調査区外に遺構が伸び規模・形状は不明。ピットである。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物を含む。

#### **出土遺物(図19)**

109はかわらけ。その他に常滑片口鉢I類・伊勢系土鍋が破片で出土している。

#### **遺構124(図16)**

調査区外に遺構が伸び規模・形状は不明。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### **出土遺物(図19)**

110～111は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

#### **遺構125(図16)**

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### **出土遺物(図20)**

112は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

#### **遺構126(図16)**

不正円形を呈するピットである。遺構127を切る。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩多・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図20)

113～115はかわらけ。116は常滑窯。117は鉄製品釘。118は銭。

#### 遺構127(図16)

楕円形を呈するピットである。遺構126に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

#### 出土遺物(図20)

119はかわらけ。その他に手づくね・常滑窯・常滑片口鉢Ⅱ類・鉄製品釘・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構128(図16)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒多を含む。

#### 出土遺物(図20)

120はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

#### 遺構130(図16)

楕円形を呈する土坑である。第1面遺構3に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

#### 出土遺物(図20)

121～125はかわらけ。126は常滑広口壺。その他に手づくね・青磁鉢・常滑窯・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・山茶碗・鉄製品釘・果核が破片で出土している。

#### 遺構131(図16)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

#### 出土遺物(図20)

127～128は手づくね。

#### 遺構133(図21)

楕円形を呈する土坑である。意図的にかわらけを廃棄した土坑であり、かわらけ以外の遺物は数点混在しているのみであった。発見したかわらけのはほとんどは完形であった。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

#### 出土遺物(図21)

134～174はかわらけ。175は青白磁梅瓶蓋。176～177は常滑片口鉢Ⅰ類。178は銭。遺物は常滑窯・鉄製品釘・須恵蓋・獸骨が破片で出土している。出土したかわらけは枝番を付して採集し、それぞれの番号は観察表で報告している。重なって出土したものは同一の番号で記載している。報告したかわらけは(小)25個・(大)15個で、破片では(小)28片・(中)1片・(大)61片であった。小型のかわらけは大半が完形で遺存していた。

#### 遺構134(図16)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図20)

129は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

#### 遺構138(図16)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図20)

130はかわらけ。その他に手づくね・常滑窯・常滑片口鉢Ⅰ類が破片で出土している。

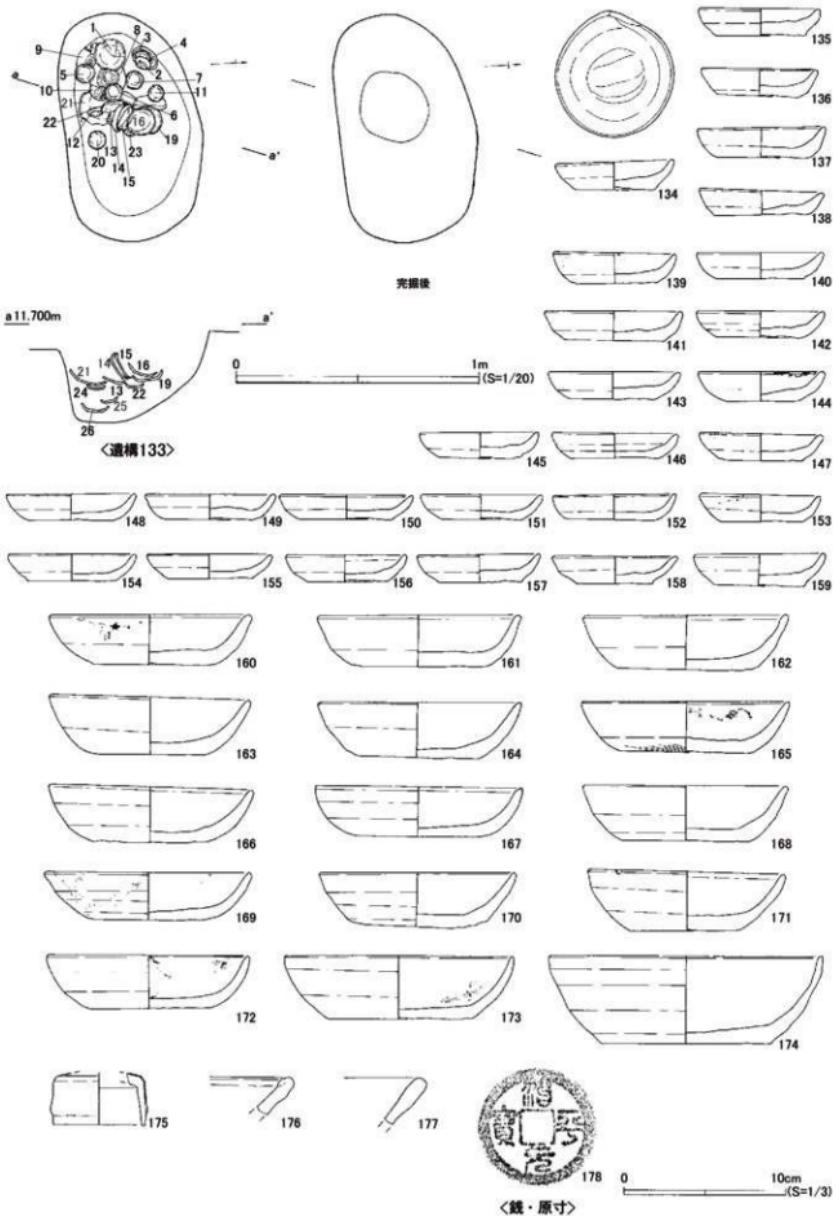


図21 第2面遺構133

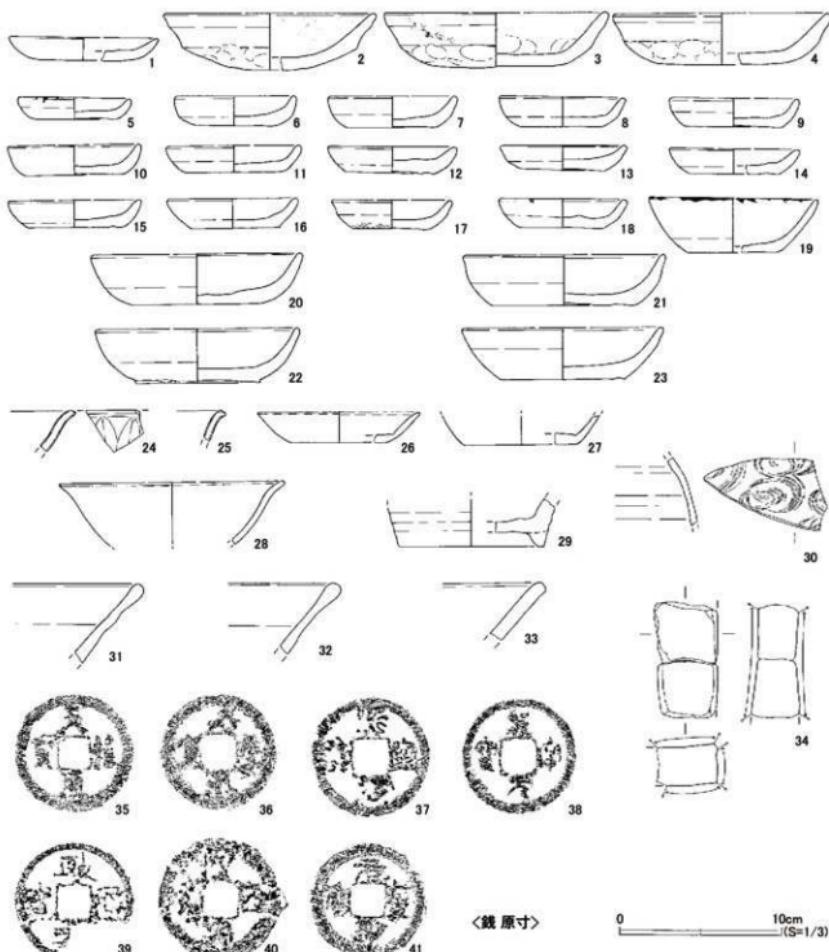


図22 第2面上出土遺物

#### 遺構139(図15)

遺構111に切られ規模・形状は不明。土坑である。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・焼土粒を含む。

#### 出土遺物(図20)

131～133はかわらけ。大・中・小の3種類の法量を持つかわらけであるが、胎土は雲母が多く混入し、やや粗土である。その他に青磁鉢・青白磁梅瓶・常滑壺・獸骨が破片で出土している。

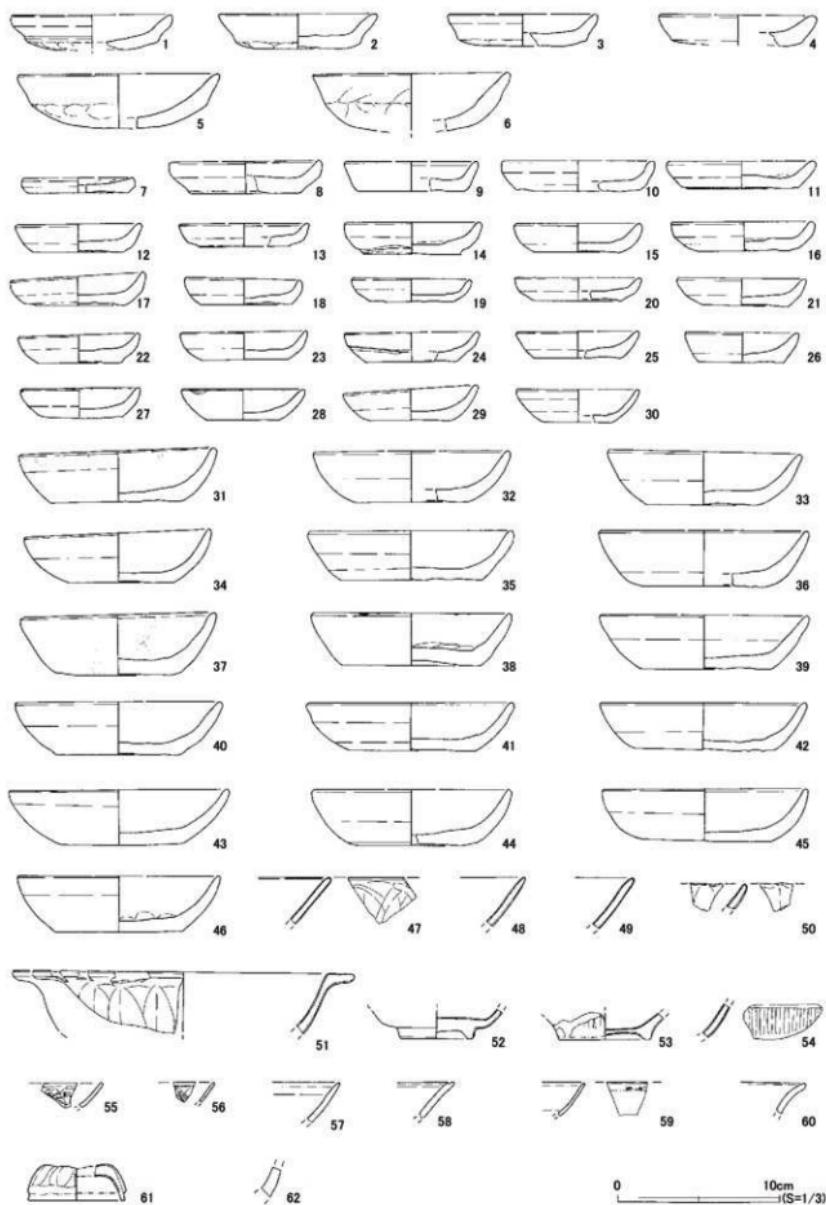


図23 第2面構成土出土遺物(1)

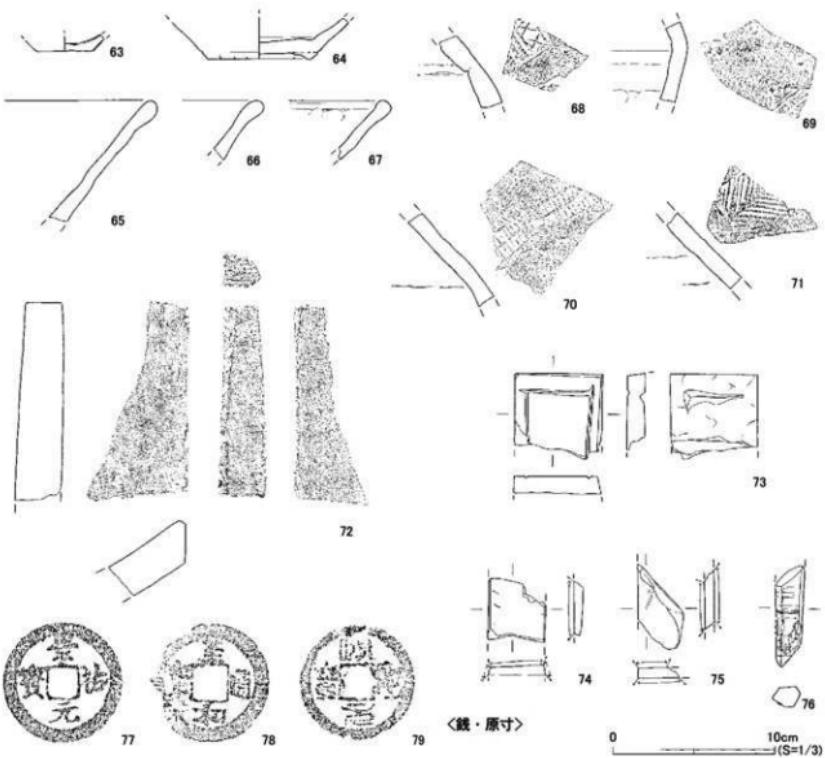


図24 第2面構成土出土遺物(2)

#### 第2面上に出土遺物(図22)

第2面上に出土した遺物は、手づくね、かわらけ、青磁碗、青磁折腰鉢、白磁口兀皿、白磁皿、青白磁梅瓶、常滑口鉢I類、石製品砥石、銭、青磁椀、青磁鉢、青磁香炉、青白磁合子、褐釉茶入れ、瀬戸卸皿、瀬戸入子、常滑壺、常滑壺、山茶碗、吉備系碗、産地不明土器、瓦器質火鉢、鉄製品釘、鐵製品用途不明、輪の羽口、木片、獸骨、軽石が破片で出土している。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)8片、(中)1片、(小)65片。手づくね(大)177片、(小)37片で、手づくね出土数の割合が高い。

#### 第2面構成土出土遺物(図23・図24)

第2面遺構検出後、第3面掘り下げ中に発見した遺物は、手づくね、かわらけ、青磁碗、青磁折腰鉢、白磁口兀皿、白磁皿、輪花型、青磁鉢、外面蓮弁文、内底に双魚文貼りつけか。52は青磁折腰鉢。53～54は青磁壺。55～56は白磁皿。57・60は白磁口兀椀。

58・59は白磁口兀皿。61は青白磁合子蓋。62は緑釉盤。63は瀬戸壺。64は山茶碗。65～67は常滑片口鉢I類。68～71は常滑甕。72は軒平瓦。73は石製品硯。74～75は石製品砥石。76は自然石水晶、加工途中か。77～79は錢。その他に青磁香炉・青磁壺・白磁壺・青白磁梅瓶・青白磁皿・黄釉器種不明・瀬戸碗・常滑壺・常滑器種不明・土器質火鉢・滑石鍋・チャート・鉄製品釘・獸骨が破片で出土している。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)159片・(小)52片。手づくね(大)639片・(小)52片で、手づくね出土数の割合が高い。

### 第3節 第3面の遺構と遺物(図6・図25～図29)

第3面は豪雨と湧水の影響で調査区北壁が崩落してしまい、調査に危険が生じたため調査区をやや狭めて行った。第3面の遺構は破碎泥岩を多く含む茶褐色弱粘質土の堅く締まった地業層上で発見した。発見した遺構はピット48穴・土坑16基・溝1条で、3時期の遺構を確認している。堅く締まった地業を調査区内で二分するように東西に溝が走る。遺構底面に礎板を伴うピットや、木質の残るピットを発見しているが、調査区外に遺構が延びているためか、建物址を推定することはできなかった。第3面確認レベルは海拔11.40mである。

#### 遺構141(図25)

不正円形を呈する土坑である。遺構203に切られる。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺物はかわらけ・手づくねが破片で出土している。

#### 遺構142(図25)

楕円形を呈する土坑である。遺構185・遺構187を切る。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図26)

1はかわらけ。2は常滑片口鉢I類。3は常滑甕。その他に手づくねが破片で出土している。

#### 遺構146(図25)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図26)

4は石製品砥石。その他に手づくねが破片で出土している。

#### 遺構147(図25)

円形を呈するピットである。遺構207を切る。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。遺物はかわらけ・手づくねが破片で出土している。

#### 遺構148(図25)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図26)

5はかわらけ。その他に常滑甕・錢が破片で出土している。

#### 遺構150(図25)

楕円形を呈するピットである。遺構171を切る。遺構覆土は暗灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図26)

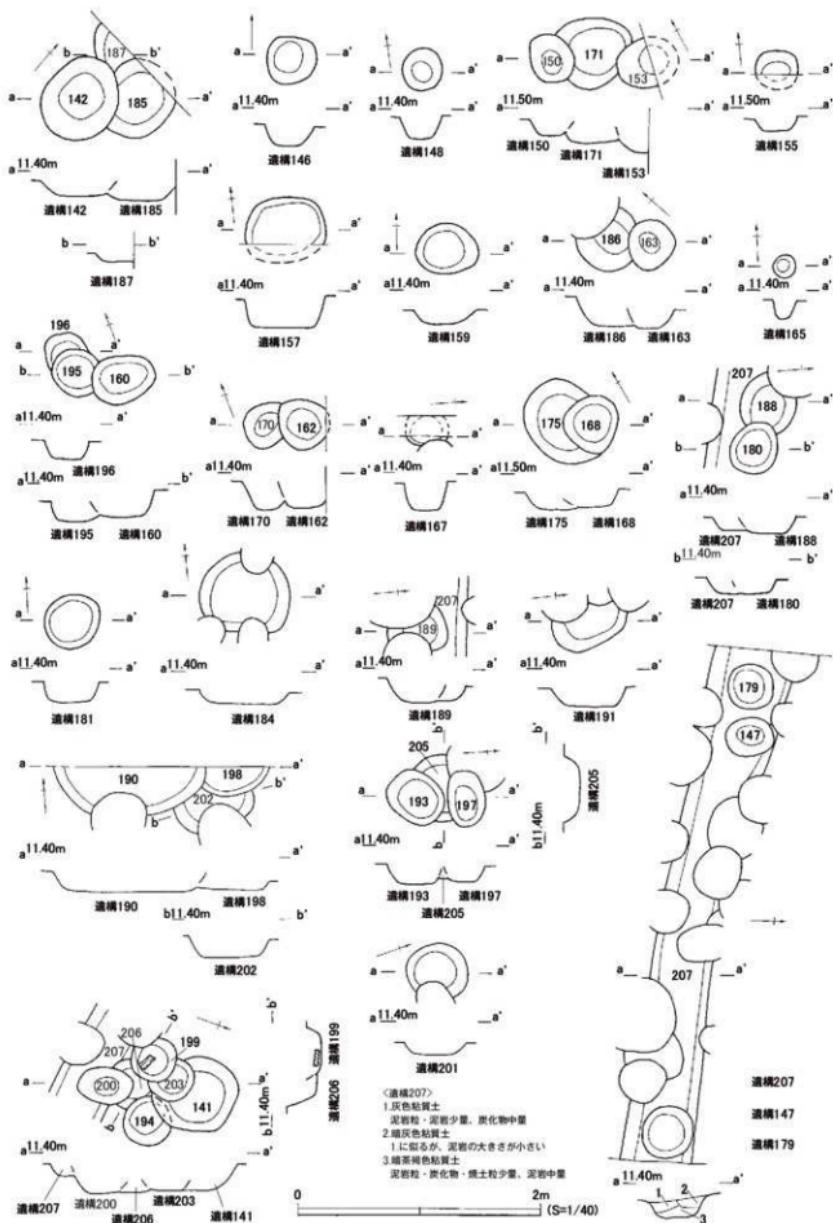


図25 第3面構造

6は常滑片口鉢Ⅰ類。7は常滑甕。8は銭。その他にかわらけ・手づくね・常滑片口鉢Ⅱ類・鉄製品釘が破片で出土している。

#### 遺構153(図25)

調査区外に遺構が延びる規模・形状は不明。遺構171を切る。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図26)

9はかわらけ。その他に手づくね・白磁碗・土師器甕が破片で出土している。

#### 遺構155(図25)

調査区外に遺構が延びている。ピットである。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図26)

10はかわらけ。

#### 遺構157(図25)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図26)

11は常滑片口鉢Ⅰ類。その他にかわらけ・手づくね・常滑甕・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構159(図25)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図26)

12は青磁箇蓮弁文碗。13は常滑片口鉢Ⅰ類。14は常滑甕。その他にかわらけ・手づくね・青磁碗が破片で出土している。

#### 遺構160(図25)

楕円形を呈するピットである。遺構195を切る。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図26)

15は鉄製品釘。その他にかわらけ・手づくね・青磁碗・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構162(図25)

不正円形を呈するピットである。遺構170を切る。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図26)

16～18は手づくね。19～24はかわらけ。その他に丸瓦が破片で出土している。

#### 遺構163(図25)

不正円形を呈するピットである。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。遺物はかわらけ・手づくね・常滑甕が破片で出土している。

#### 遺構165(図25)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図26)

25は青磁碗。その他に手づくねが破片で出土している。

#### 遺構167(図25)

調査区外に遺構が伸びる。ピットである。遺構覆土は暗茶灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図26)

26はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

#### 遺構168(図25)

不正円形を呈するピットである。遺構175を切る。遺構覆土は暗茶灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図26)

27～28は手づくね。その他に常滑片口鉢II類が破片で出土している。

#### 遺構170(図25)

不正円形を呈するピットである。遺構162に切られる。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。遺物はかわらけ・手づくね・平瓦が破片で出土している。

#### 遺構171(図25)

楕円形を呈する土坑である。遺構150・遺構153に切られる。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図26)

29は青磁錦運弁文碗。30は鎧釜。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

#### 遺構175(図25)

楕円形を呈する土坑である。遺構168に切られる。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図26)

31～32は手づくね。その他にかわらけ・常滑甕・常滑片口鉢II類が破片で出土している。

#### 遺構179(図25)

円形を呈するピットである。遺構207を切る。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。遺物はかわらけ・手づくね・常滑甕・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

#### 遺構180(図25)

楕円形を呈するピットである。遺構188・遺構207を切る。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図26)

33は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

#### 遺構181(図25)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図26)

34～35は手づくね。36は青白磁水注。その他にかわらけ・常滑片口鉢I類・平瓦が破片で出土している。

#### 遺構184(図25)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物・焼土粒を含む。

#### 出土遺物(図27)

37は手づくね。38はかわらけ。39は常滑片口鉢I類。40は常滑片口鉢II類。その他に常滑甕が破片で出土している。

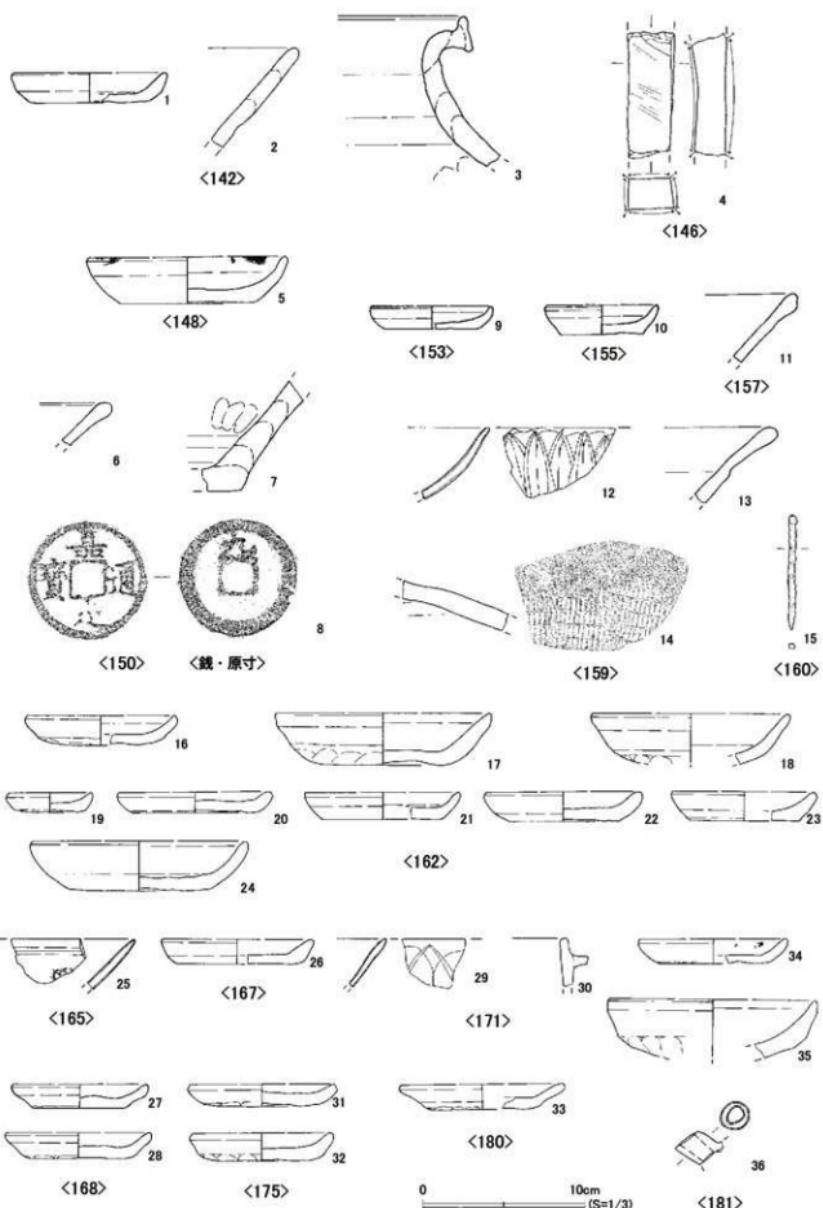


図26 第3面遺構出土遺物(1)

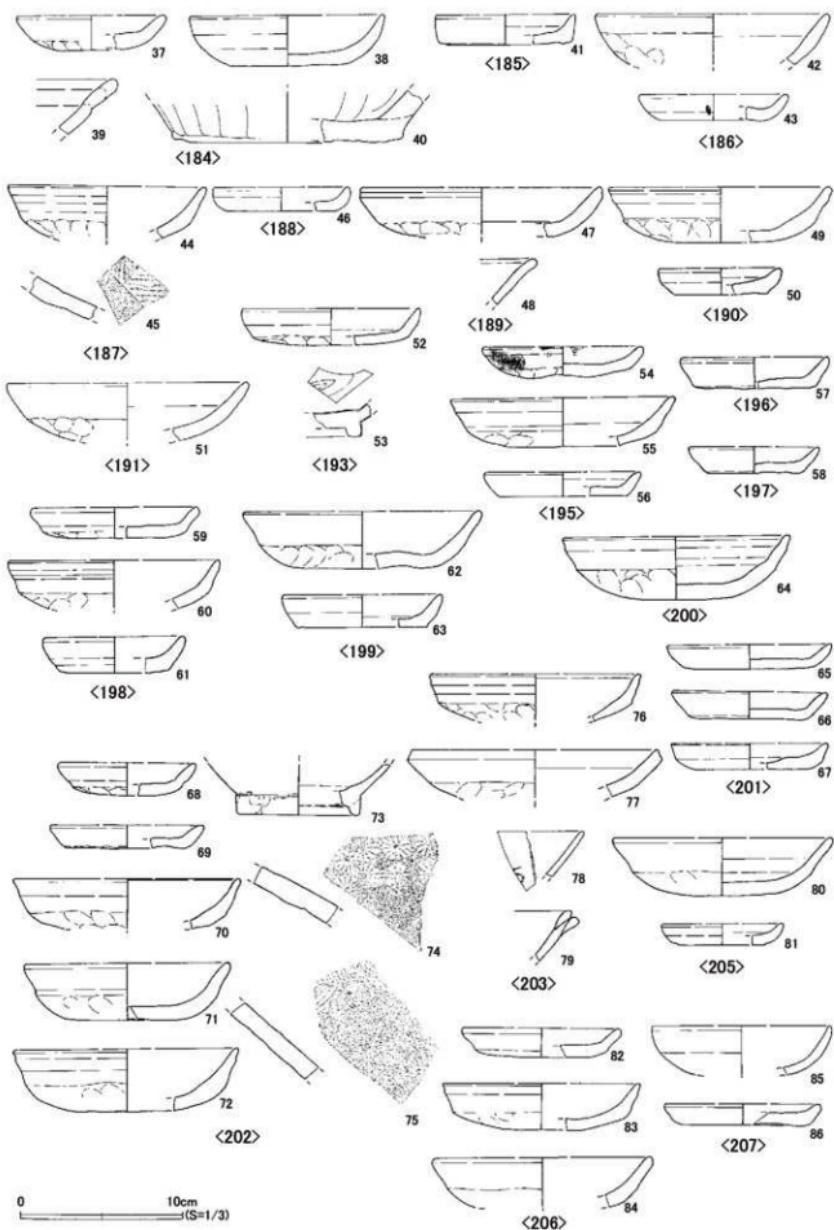


図27 第3面遺構出土遺物(2)

### 遺構 185 (図25)

楕円形を呈する土坑である。一部が調査区外に延びる。遺構142に切られる。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

### 出土遺物 (図27)

41はかわらけ。その他に手づくね・常滑壺・土師器壺・鉄製品釘が破片で出土している。

### 遺構 186 (図25)

円形を呈する土坑である。遺構163に切られる。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

### 出土遺物 (図27)

42は手づくね。43はかわらけ。

### 遺構 187 (図25)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。遺構142・遺構185に切られる。土坑である。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物多を含む。

### 出土遺物 (図27)

44は手づくね。45は常滑壺。その他にかわらけ・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

### 遺構 188 (図25)

楕円形を呈する土坑である。遺構180に切られる。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

### 出土遺物 (図27)

46はかわらけ。その他に手づくねが破片で出土している。

### 遺構 189 (図25)

円形を呈するピットである。遺構140・遺構183に切られる。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物を含む。

### 出土遺物 (図27)

47は手づくね。48は山茶碗。その他にかわらけ・土師器壺が破片で出土している。

### 遺構 190 (図25)

調査区外に遺構が延び規模は不明。遺構198を切る。土坑である。遺構覆土は暗茶灰色弱粘質土・泥岩多・泥岩粒多・炭化物を含む。

### 出土遺物 (図27)

49は手づくね。50はかわらけ。その他に常滑壺が破片で出土している。

### 遺構 191 (図25)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗茶灰色粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物・焼土粒を含む。

### 出土遺物 (図27)

51は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

### 遺構 193 (図25)

楕円形を呈するピットである。遺構205を切る。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

### 出土遺物 (図27)

52は手づくね。53は青磁碗、内底部印花文。その他にかわらけ・白磁口兀皿が出土している。

### 遺構 194 (図25)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。遺物はかわらけ・手づくねが破片で出土している。

#### 遺構195(図25)

円形を呈するピットである。遺構160に切られる。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図27)

54～55は手づくね。56はかわらけ。

#### 遺構196(図25)

遺構195に切られる。ピットである。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図27)

57は手づくね。

#### 遺構197(図25)

楕円形を呈するピットである。遺構205を切る。遺構覆土は暗茶灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図27)

58は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

#### 遺構198(図25)

調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。遺構190に切られる。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図27)

59～60は手づくね。61はかわらけ。

#### 遺構199(図25)

円形を呈するピットである。遺構底面に礎板が遺存する。遺構203を切る。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図27)

62は手づくね。63はかわらけ。その他に常滑窯が破片で出土している。

#### 遺構200(図25)

楕円形を呈するピットである。遺構206を切る。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図27)

64は手づくね。

#### 遺構201(図25)

円形を呈するピットである。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図27)

65～66は手づくね。67はかわらけ。

#### 遺構202(図25)

楕円形を呈する土坑である。遺構190・遺構192に切られる。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物多を含む。

#### 出土遺物(図27)

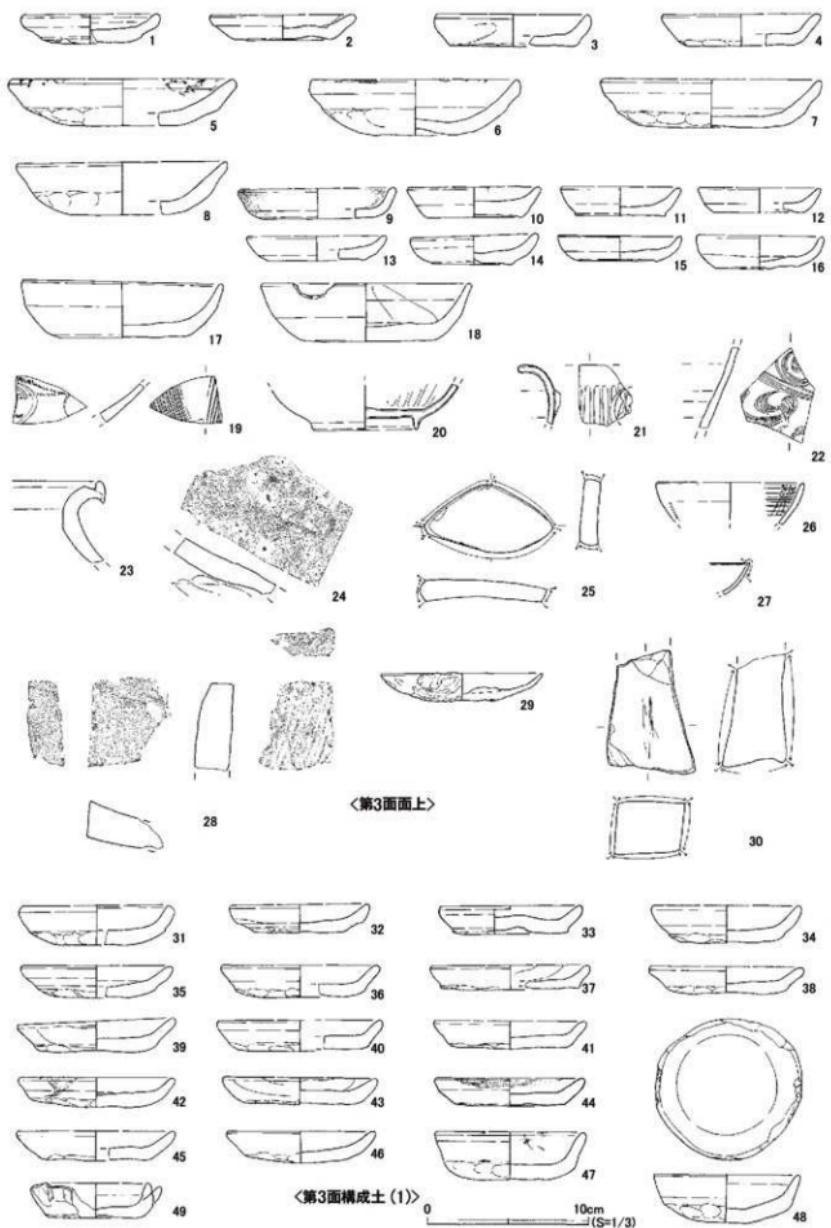


図28 第3面面上・構成土出土遺物(1)

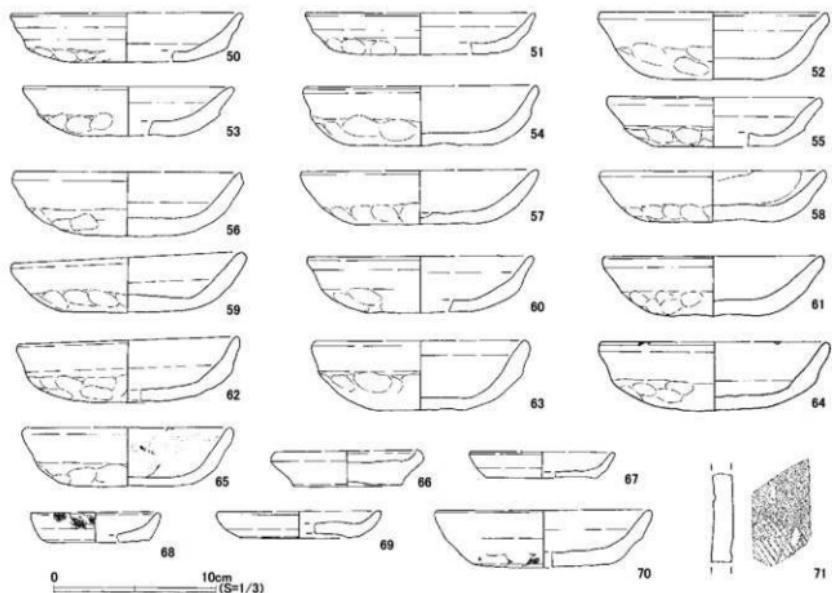


図29 第3面構成土出土遺物(2)

68～72は手づくね。73は白磁壺。74～75は常滑壺。その他にかわらけが破片で出土している。

#### 遺構203(図25)

円形を呈するピットである。遺構199に切られ、遺構141を切る。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図27)

76～77は手づくね。78は青磁碗。79は常滑片口鉢I類。その他に山茶碗が破片で出土している。

#### 遺構205(図25)

円形を呈するピットである。遺構193・遺構197に切られる。遺構覆土は暗灰色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図27)

80は手づくね。81はかわらけ。

#### 遺構206(図25)

ピットである。遺構199・遺構200・遺構203と複数の遺構に切られ規模は不明。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図27)

82～84は手づくね。その他にかわらけ・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構207(図25)

調査区内を東西に走る溝である。断面逆台形を呈する。溝である。流下方向は西から東に走る。遺構覆土は灰色粘質土・泥岩・泥岩粒多・炭化物・焼土粒を含む。

### 出土遺物（図27）

85は手づくね。86はかわらけ。その他に不明土製品・常滑甕が破片で出土している。

### 第3面面上出土遺物（図28）

第3面の面上遺構精査中に発見した遺物である。1～8は手づくね。9～18はかわらけ。19は青磁櫛搔文碗。20は青磁鉢。21は青白磁水注。22は青白磁梅瓶。23～24は常滑甕。25は常滑甕転用品・断面四周が摩耗。26は瓦器碗。27は瓦器質黒縁皿。28は軒平瓦。29は鉄製品皿。30は石製品砥石。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ（大）62片・（小）40片。手づくね（大）395片・（小）37片で、手づくね出土数の割合が高い。その他に青磁椀・青磁鉢・青磁香炉・白磁口兀皿・縁軸器種不明・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・山茶碗・鉄製品釘・鉄滓・土師器甕・須恵器坏・獸骨が破片で出土している。

### 第3面構成土出土遺物（図28・図29）

第3面遺構検出後、第4面掘り下げ中に発見した遺物である。31～65は手づくね。66～70はかわらけ。71は常滑甕。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ（大）64片・（小）51片。手づくね（大）707片・（小）196片で、手づくねの出土数の割合が高い。その他に青磁器種不明・常滑甕転用品・常滑玉縁碗・山皿・砥石・不明鉄製品・不明木製品・木製品杭が破片で出土している。

## 第4節 第4面の遺構と遺物（図6・図30～図42）

第4面は暗褐色弱粘質土・泥岩細片多・褐色有機質土を含む地業層上で確認した。発見した遺構はピット5穴・土坑4基・溝1条である。調査区の南壁に沿って数基の土坑を発見し、北側は大きく落ち込む溝状の遺構になると想定して掘り進め、北壁に沿って杭列を伴う溝（遺構218）を検出した。後に調査区中央に設けたトレンチの土層堆積の観察から、遺構218を含め4時期の溝に分かれる事を確認した。遺構218の下層で発見した遺構（溝）はトレンチを設けて土層の観察によって遺構を確認したため、全測図に平面図は報告していない。また、湧水が激しく調査区壁崩落の危険があったため発見した溝の底面を確認することはできなかった。調査区南側で発見した土坑は、溝（遺構215等）に沿った欄列等の可能性を考えたが、狹小な面積内では判断できなかった。また、礎石と礎板状の板材を面上から発見しているが、いずれもピット等の遺構を伴っておらず、上層の遺構の掘り残しがあった可能性が大きい。第4面確認レベルは海拔11.20mである。また、中世の基盤層となる青灰色粘質土層は、遺構215・遺構219を確認したトレンチ壁の観察により海拔9.8mで確認している。

### 遺構208（図30）

調査区外に遺構が伸び形状・規模は不明。土坑である。遺構209を切る。遺構覆土は褐色弱粘質土・褐色砂質土多・泥岩・砂礫を含む。

### 出土遺物（図30）

1～5は手づくね。6～7はかわらけ。8は青磁碗。9は産地・用途不明、火鉢Ⅰ類の底部に似る胎土を持つが、遺存する破片からは器種などが不明となった。参考遺物として掲載。10は平瓦、凹面に「宗清」のスタンプ。その他に瀬戸瓶子・常滑甕・木製品礎板・木製品竈が破片で出土している。

### 遺構209（図30）

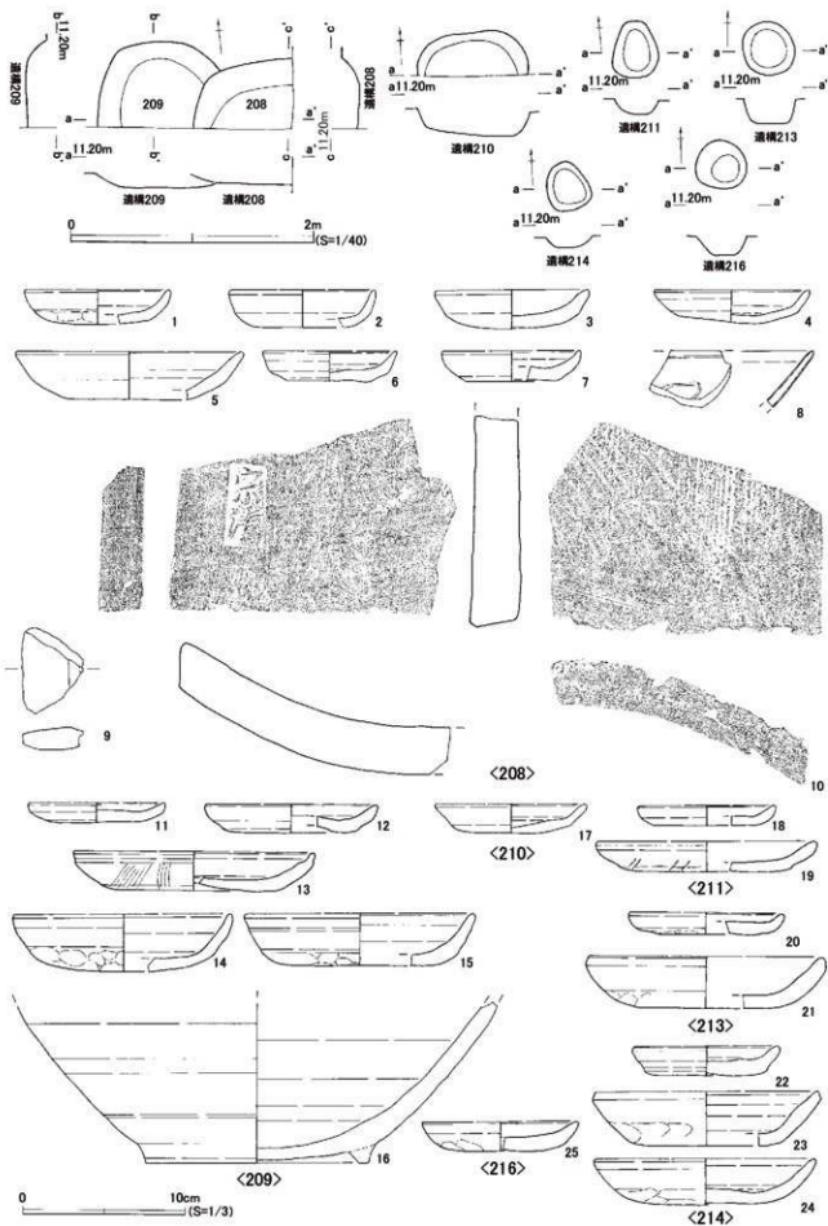


図30 第4面遺構・遺構出土遺物

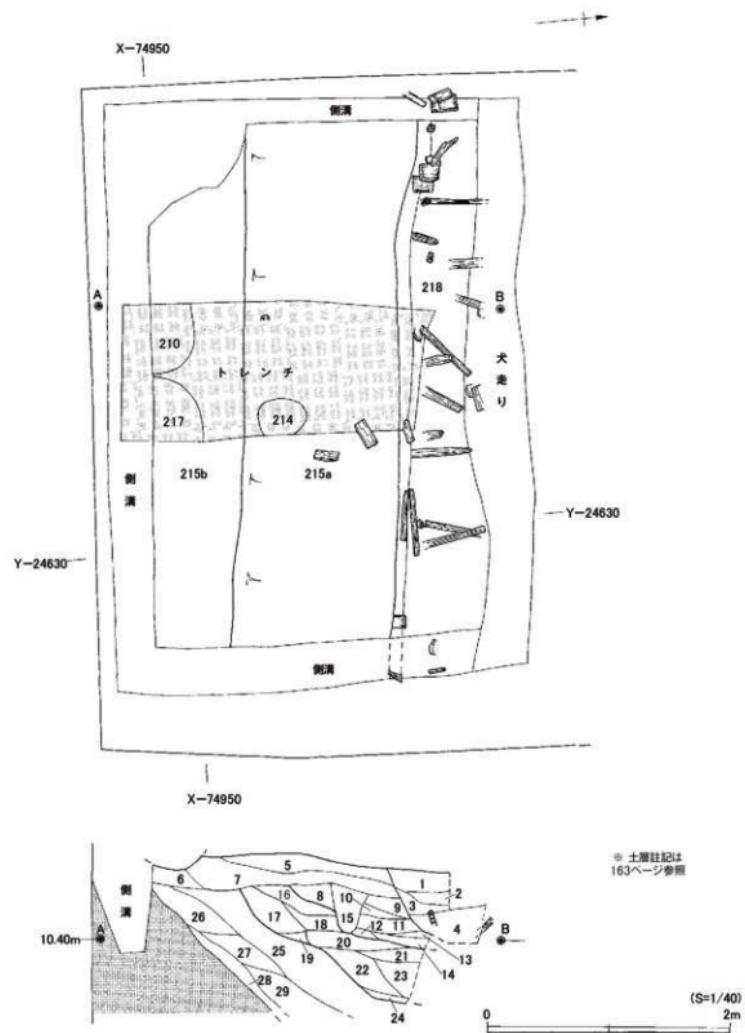


図31 第4面遺構215(a・b)・遺構218

調査区外に遺構が伸び形狀・規模は不明である。土坑である。遺構217を切り、遺構208に切られる。遺構覆土は褐色弱粘質土・泥岩多・褐色砂質土を含む。

#### 出土遺物(図30)

11～15は手づくね。16は渥美片口鉢。その他にかわらけ・白磁壺・常滑窯・常滑片口鉢I類・山茶

碗を破片で含む。

#### 遺構210(図30)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明。土坑である。遺構覆土は褐色弱粘質土・泥岩多・褐色砂質土を含む。

#### 出土遺物(図30)

17は手づくね。その他に青磁碗が破片で出土している。

#### 遺構211(図30)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩多・泥岩粒多・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図30)

18～19は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

#### 遺構213(図30)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図30)

20～21は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

#### 遺構214(図30)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩多・泥岩粒多・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図30)

22～24は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

#### 遺構216(図30)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色粘質土・泥岩・炭化物を含む。

#### 出土遺物(図30)

25は手づくね。その他にかわらけが破片で出土している。

#### 遺構215(a・b)・遺構218・遺構219(図31)

調査区内を東西に走り、緩やかに北に向かって下る溝状の遺構として遺構215の検出を進めたが、遺構215上層に杭列を伴う溝(遺構218)を検出中に確認し、第4面の遺構として報告した。掘削深度などの関係から遺構218下層の遺構を検出することが困難だったため、遺構218を検出後調査区の中央辺にトレチチを設け、後述する遺構215a・遺構215b・遺構219をトレチチ壁の土層堆積から確認した。それぞれ第4面を廻る遺構となるが、報告は第4面にまとめてある。遺構215a・遺構215b・218・219ともに、調査区外に遺構が延びているために規模、形状は不明となっているが、断面逆台形を呈する溝であったと考えている。遺構Noが前後するが、以下新しい遺構から順に報告する。

#### 遺構218(図31)

溝である。当初、北に向かって掘りこまれる大きな溝として遺構確認を行ったが、第4面構成土(5～7層)から掘りこまれる溝を調査区北端で発見したため、新たな遺構Noを付して確認作業を行った。堆積土層図の1～4層が溝覆土となる(覆土参照)。覆土内には、多くの木片・有機質土が堆積していた。調査区外に遺構が延び、規模・形状は不明だが、断面逆台形を呈すると思われる。溝壁に沿って約50cm～70cmの間隔で杭列が遺存していたが、規則性は感じられない。調査区北壁にも数本の杭を確認しており、検出した杭に対応するものであったと思われる。また、溝壁の側板は検出していない。溝の深さは約70cmを測るが、採集した杭の長さを測ると61cm～97cmを測り、溝高よりも高くなること

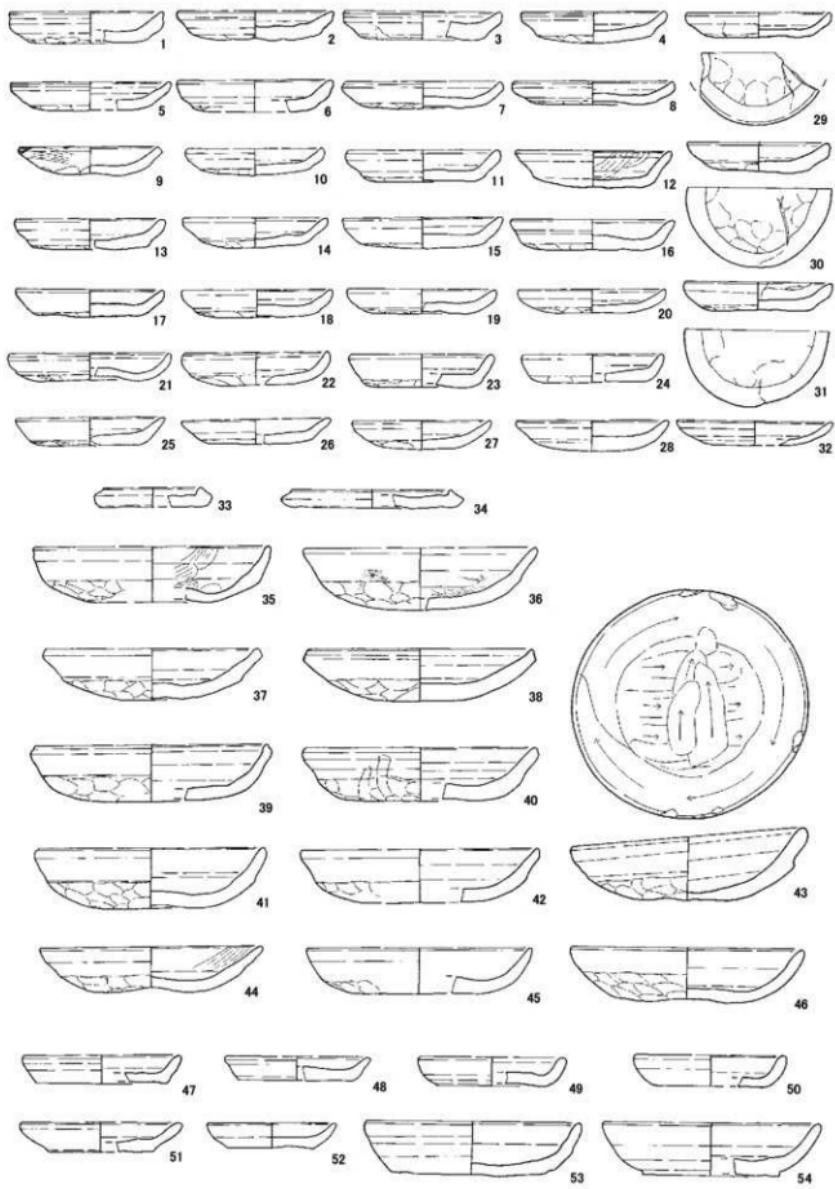


図32 第4面遺構218出土遺物(1)

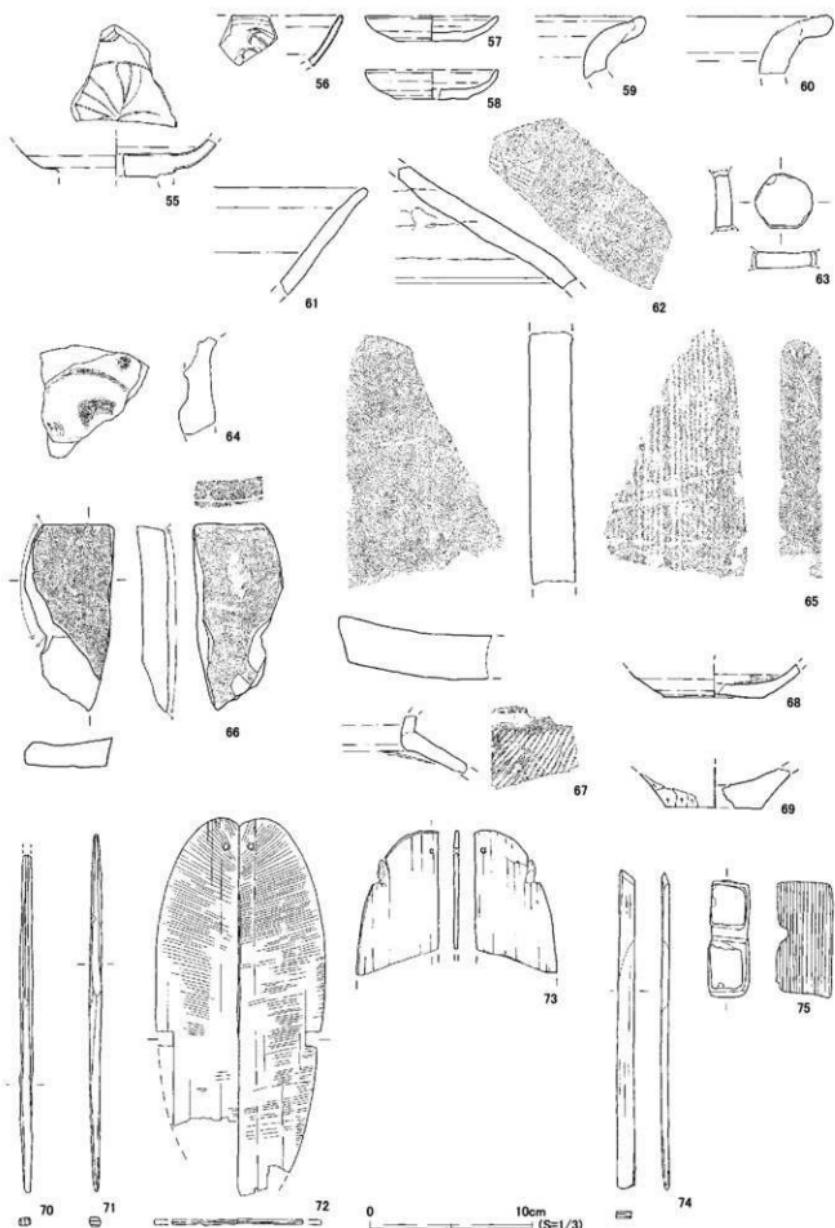


図33 第4面遺構218出土遺物(2)

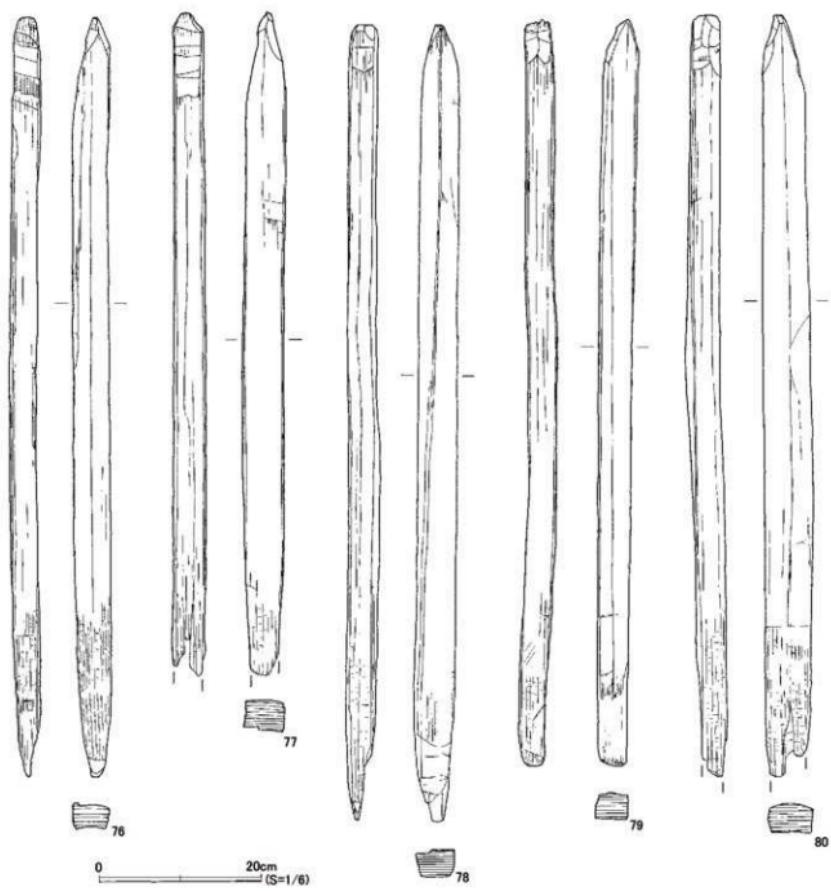


図34 第4面遺構218出土遺物(3)

から溝の深さは100cm近くあったと思われ、溝上層は削平を受けたと考えている。

#### 遺構218出土遺物(図32~図34)

1~46は手づくね。29~31は切り込み円盤技法と思われる粘土接合痕が顕著に遺存する。43は内底のナデ方向が顕著に残る例として、ナデの順位・方向を図に示した。47~54はかわらけ。55~56は青磁碗。57~58は山皿。59~60は涅美甕。61は常滑片口鉢1類。62は常滑甕。63は常滑甕転用品。64は軒丸瓦。65は平瓦。66は瓦転用品。67は須恵器甕。68は産地不明白色土器。69は土器器種不明。70~71は木製品箸。72~73は木製品草履芯。74は木製品籠。75は木製品用途不明。76~80は木製品杭。端部を削り出すなど加工の痕跡が残る。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)44片・(小)26片。手づくね(大)543片・(小)134片で手づくね出土数の割合が高い。その他に青磁鉢、

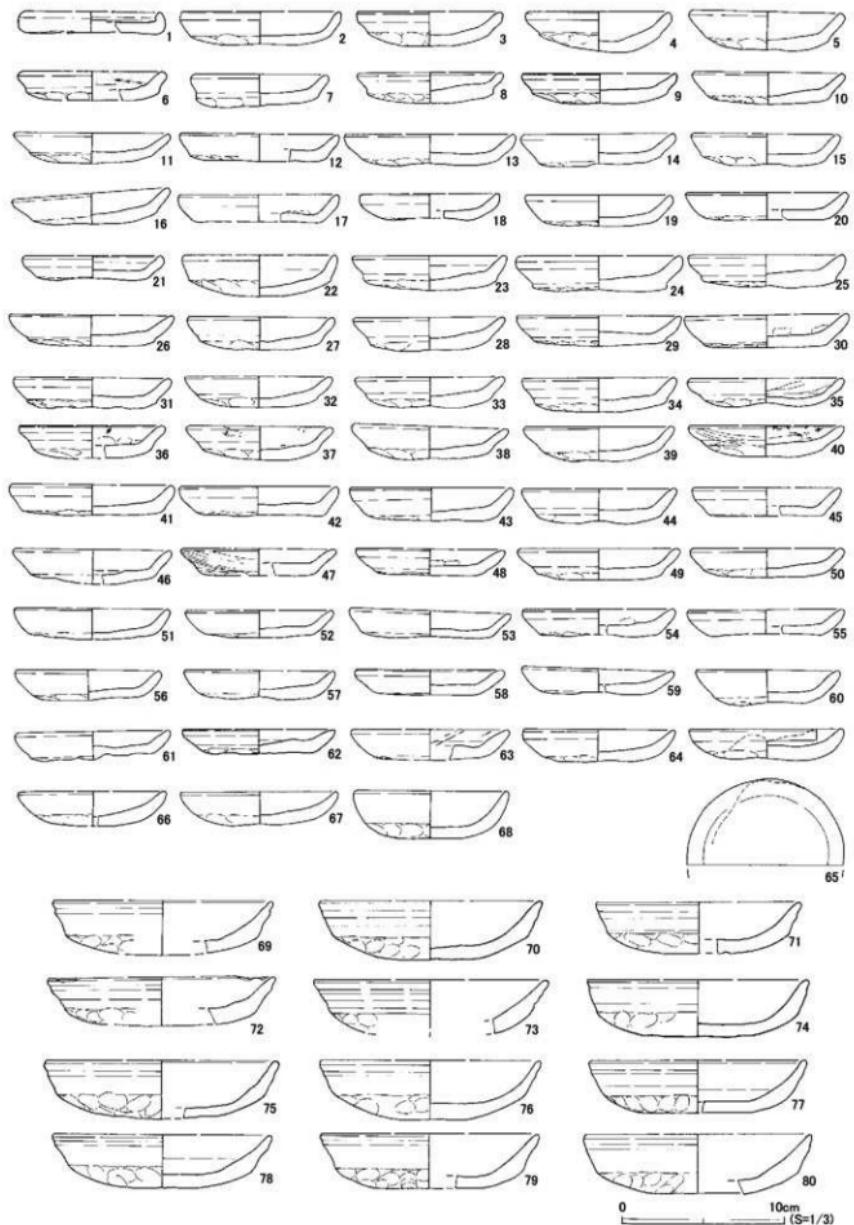


図35 第4面遺構215出土遺物(1)

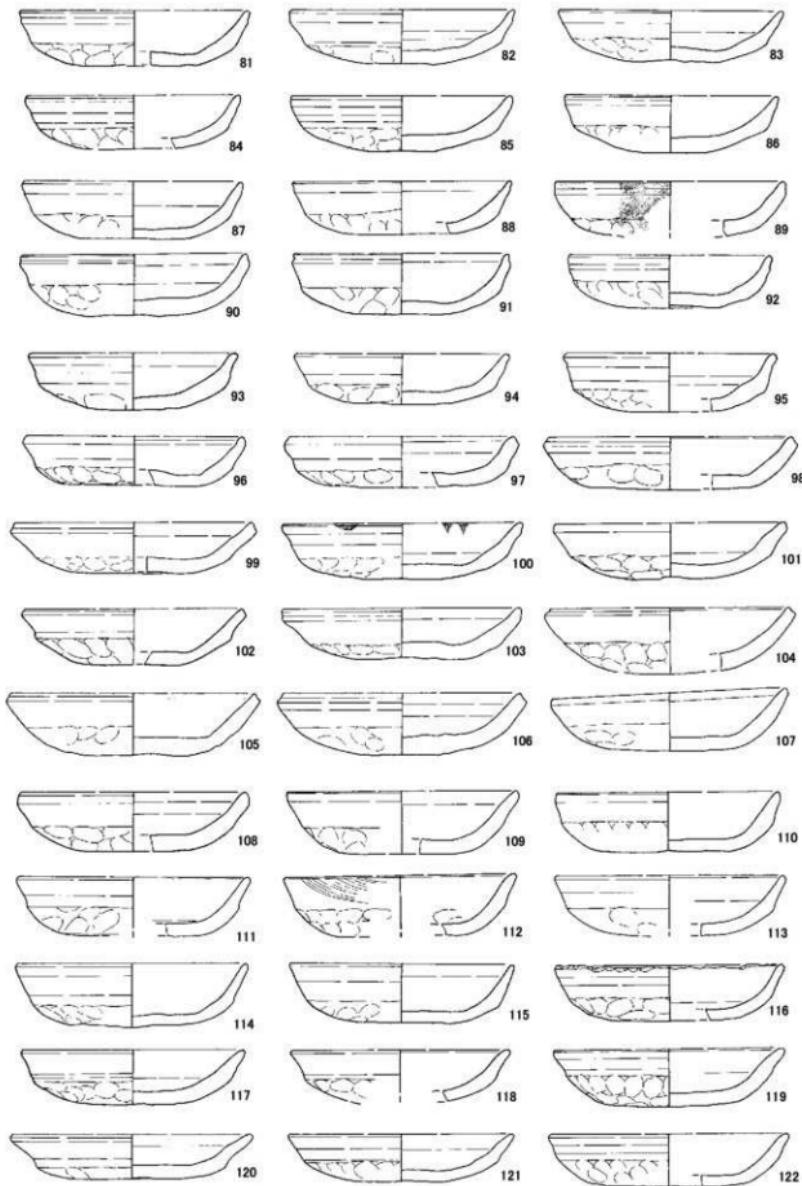


図36 第4面遺構215出土遺物(2)

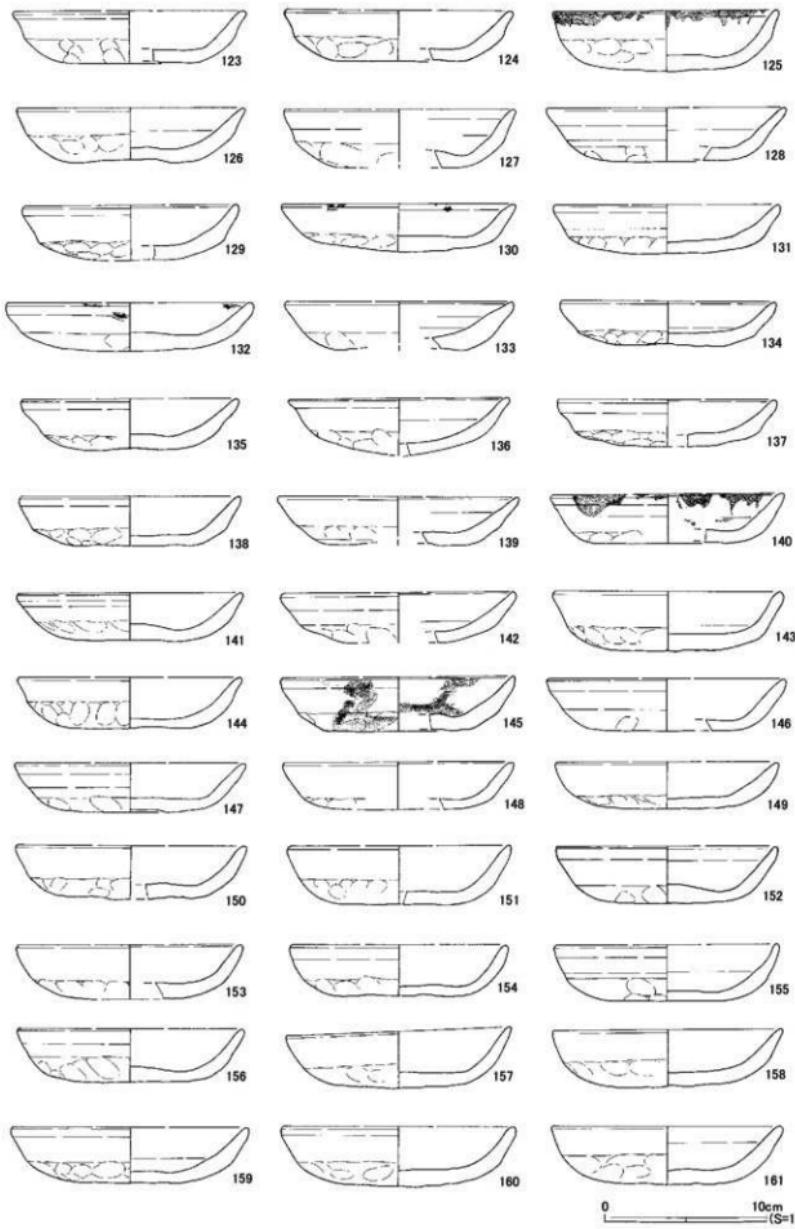


図37 第4面遺構215出土遺物(3)

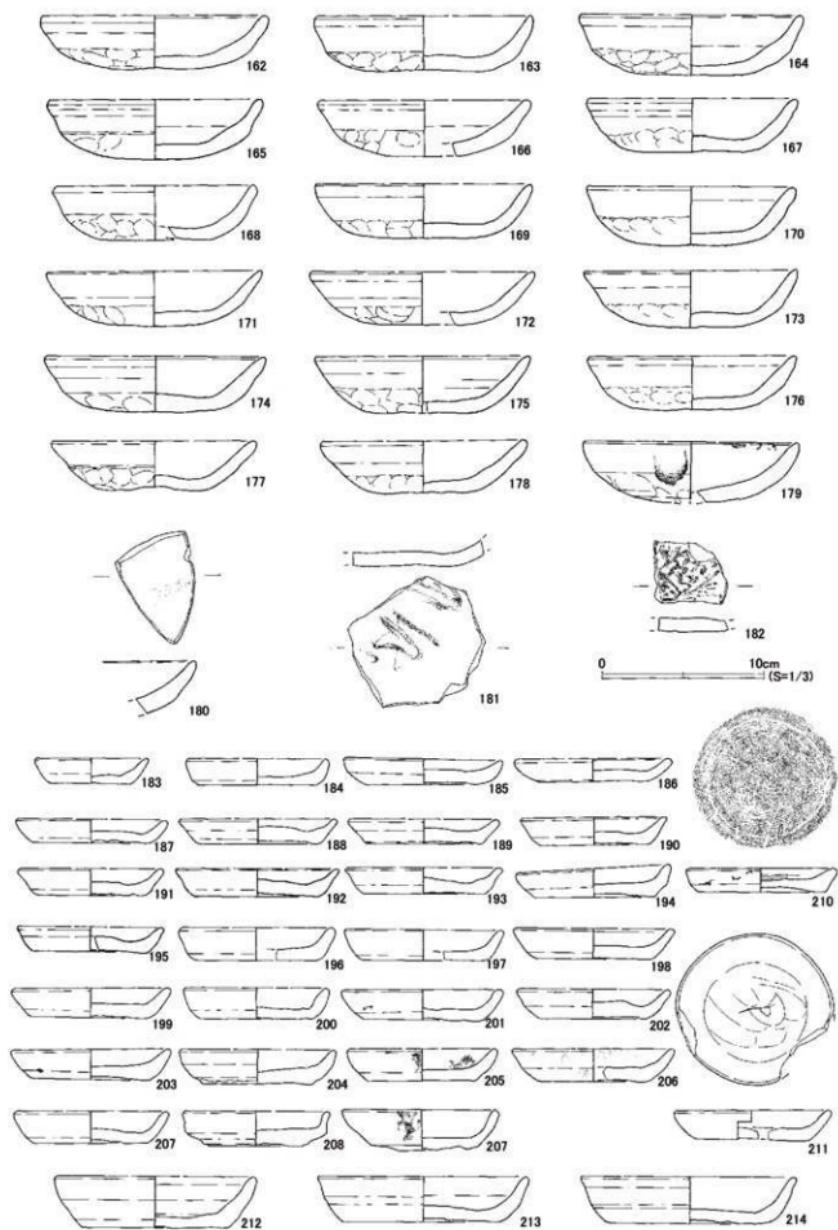


図38 第4面遺構215出土遺物(4)

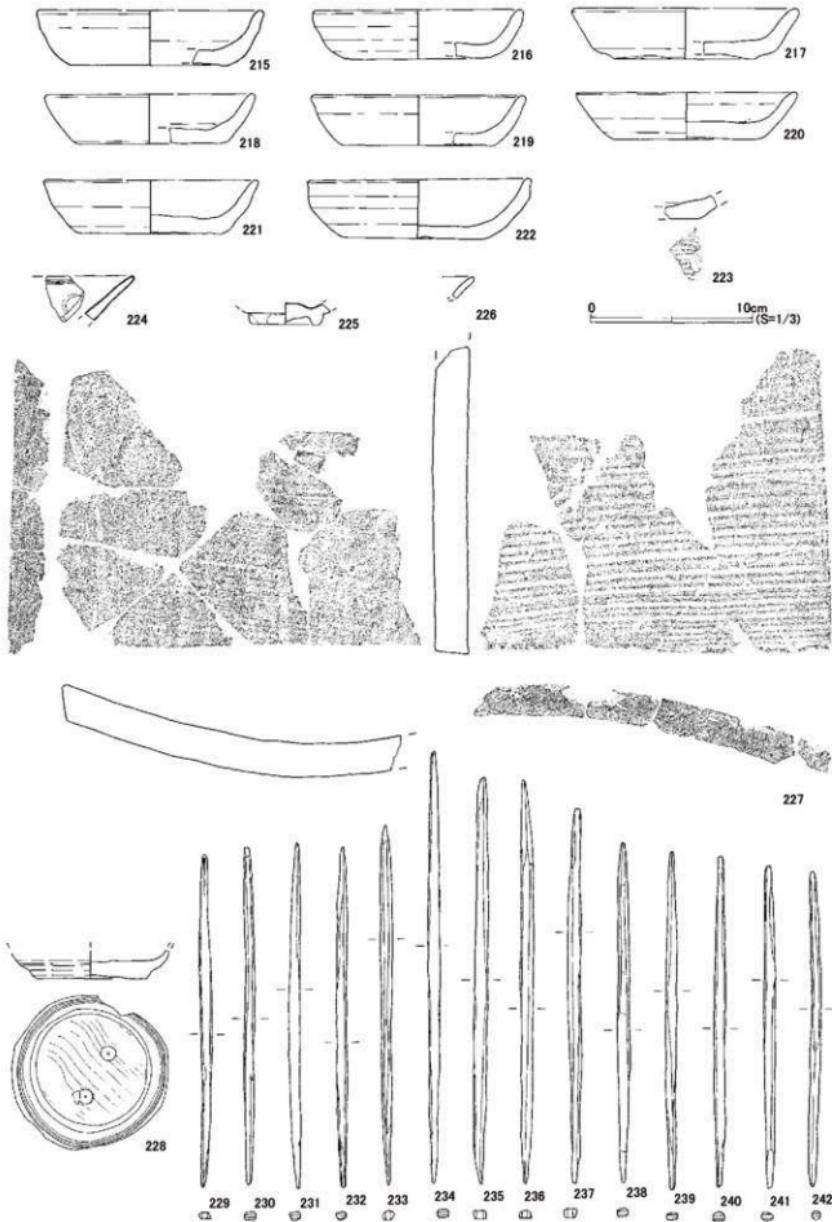


図39 第4面構遺構215出土物(5)

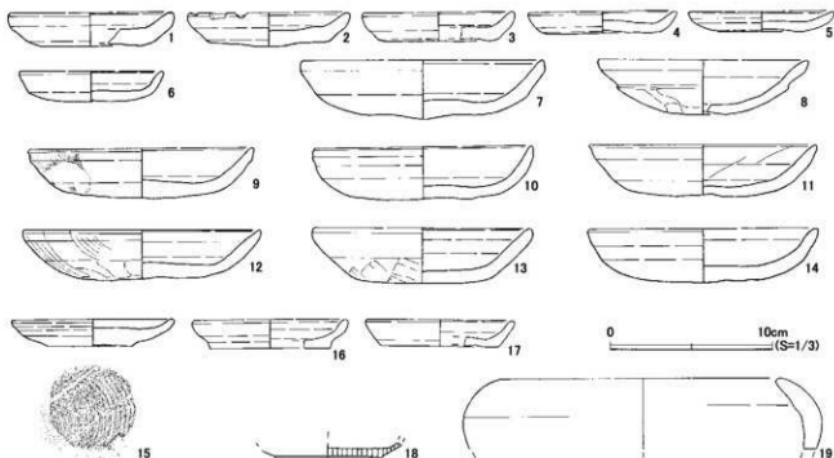


図40 第4面遺構219出土遺物

白磁壺・瀬戸皿・瀬戸瓶子・常滑片口鉢1類・土師器甕・木製品折敷・木製品曲物・木製品杭・木製品礎板・木製品棒状・貝・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構215a(図31)

溝である。遺構218に切られる。堆積土層図の8~15層が溝覆土となる。調査区外に遺構が延び、規模・形状は不明。遺構218同様に断面逆台形を呈するを考えている。15層は有機質土とともに、泥岩細片を多く含む覆土を持ち柱穴と考えている。北壁で15層検出層と同じ層位から杭を発見しており、遺構218同様に溝壁に杭を伴うと考えている。深さは約50cmを測る。

#### 遺構215b(図31)

溝である。堆積土層図の16~24層が溝覆土となる。調査区外に遺構が延び、規模・形状は不明。断面逆台形を呈する。深さは約90cmを測る。最下層の24層には貝砂と砂利が多く堆積していた。

#### 遺構215a・遺構215b出土遺物(図35~39)

遺構215aと遺構215bは、調査時は一つの遺構として扱い、整理作業時に遺構を分けたため、遺物は一括して採集している。

1~182は手づくね。1はコースター型。7・33・65は切り込み円盤技法と思われる粘土接合痕が残る。180~182は内外面一部に墨書痕。文字は判別できなかった。183~223はかわらけ。223は小片だが底部糸切り痕が静止糸切りの様子を呈しているため報告している。210は内底を櫛状工具によって整形していた。224~225は青磁碗。226は白磁皿。227は平瓦。228は漆器皿、外底部にロクロ目痕。229~242は木製品箸。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)2片・(小)109片。手づくね(大)2385片・(小)459片で、手づくね出土数の割合が高い。その他にかわらけ・青磁皿・青白磁器種不明・白磁口元碗・常滑堺・常滑片口鉢1類・常滑器種不明・山皿・渥美甕・輪の羽口・土師器甕・土師器壺・木製品下駄・木製品部材・木製品甕・木製品礎板・木製品棒状・獸骨が破片で出土している。

#### 遺構219(図31)

溝である。堆積土層図の25～29層が溝覆土となる。調査区外に遺構が伸び、規模・形状は不明。激しい湧水のため遺構底面を確認することはできなかった。27・28層の最下層からは、砂利、摩耗した遺物が検出されている。また、25層から静止糸切りのかわらけ、29層からは髹漆していない木地椀が出士している。深さ110cm以上を測る。

#### 遺構219出土遺物(図40)

1～14は手づくね。15～17はかわらけ。15は底部静止糸切りのかわらけである。18は木製品皿か、生地のままのようにも見えるが漆が剥離した可能性もある。19は漆器鉢か。その他に常滑片口鉢I類・渥美甕・土師器甕・木製品箸・木製品折敷・木製品曲物・木製品籠・木製品礎板・木製品棒状・貝・獸骨が破片で出土している。

#### 第4面面上出土遺物(図41)

第4面の面上遺構精査中に発見した遺物である。1～21は手づくね。22～25はかわらけ。26は青磁碗。27は常滑片口鉢I類。その他に木製品棒状・獸骨が破片で出土している。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)22片・(小)13片。手づくね(大)298片・(小)67片で、手づくね出土数の割合が高い。

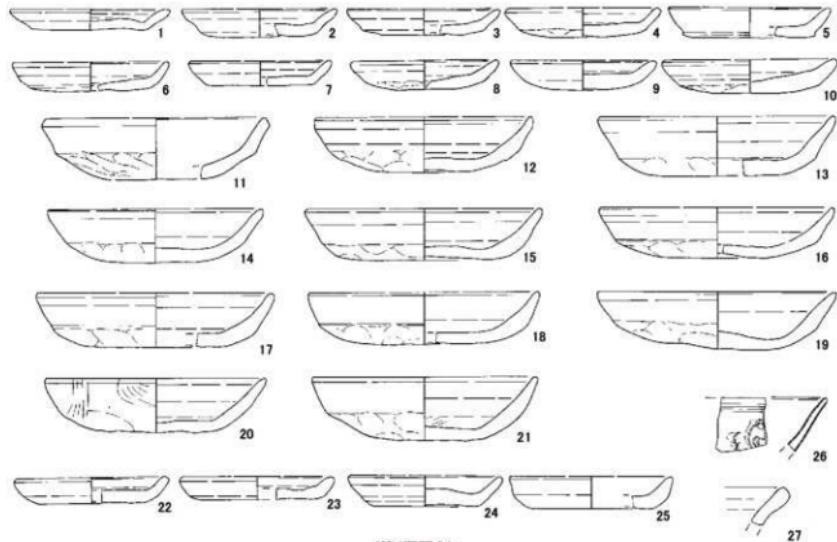
#### 第4面構成土出土遺物(図41・図42)

堆積土層図(図31)の5～7層で出土した遺物である。28～69は手づくね。70～78はかわらけ。79は白磁四耳壺。80は渥美片口鉢。81～82は渥美甕。83～84は常滑甕。85は漆器器種不明、御所車の手描き施文。86～87は木製品用途不明。その他に青磁割花文碗・平瓦・漆器椀・漆器皿・木製品箸・木製品草履芯・木製品部材・木製品籠・木製品棒状・獸骨が破片で出土している。出土したかわらけと手づくねの破片数を比較すると、かわらけ(大)0片・(小)26片。手づくね(大)738片・(小)80片で、手づくね出土数の割合が圧倒的に高い。

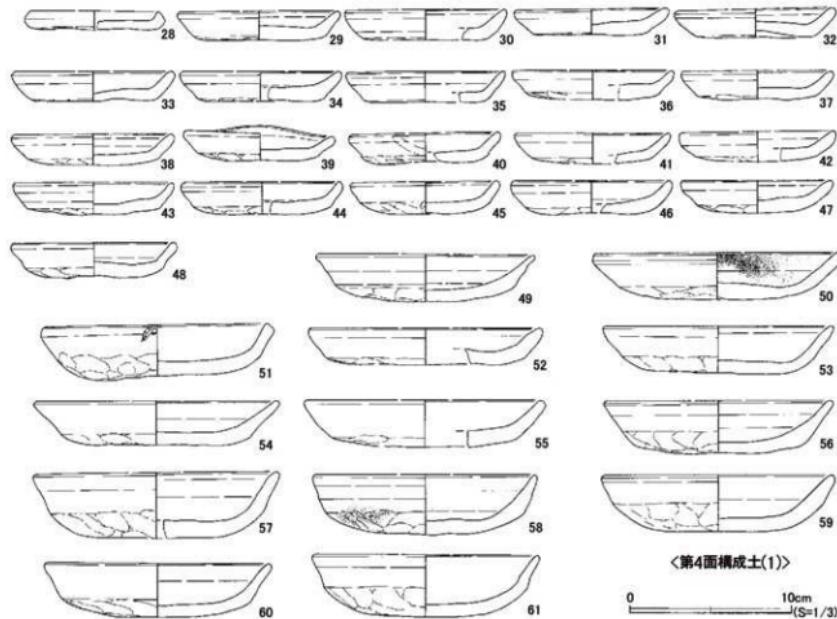
#### 第5節 表土出土遺物(図43)

調査時に調査区内表土及び調査地域内から出土した遺物である。

1～16は手づくね。17～30はかわらけ。31は白磁口元皿。32は常滑片口鉢I類。33は土器賀火鉢。34～35は瓦。34は軒平瓦。35は丸瓦。36は土製品壺。37は鉄製品釘。38～40は銭。その他に青磁蓮弁文椀・青磁椀・青磁皿・白磁口元椀・白磁椀・青白磁梅瓶・青白磁合子・青白磁椀・瀬戸碗・瀬戸折縁深皿・瀬戸卸皿・綠釉器種不明・常滑甕・常滑片口鉢II類・滑石製品・獸骨が破片で出土している。



〈第4面上面〉



〈第4面構成土(1)〉

図41 第4面上面・構成土出土遺物(1)

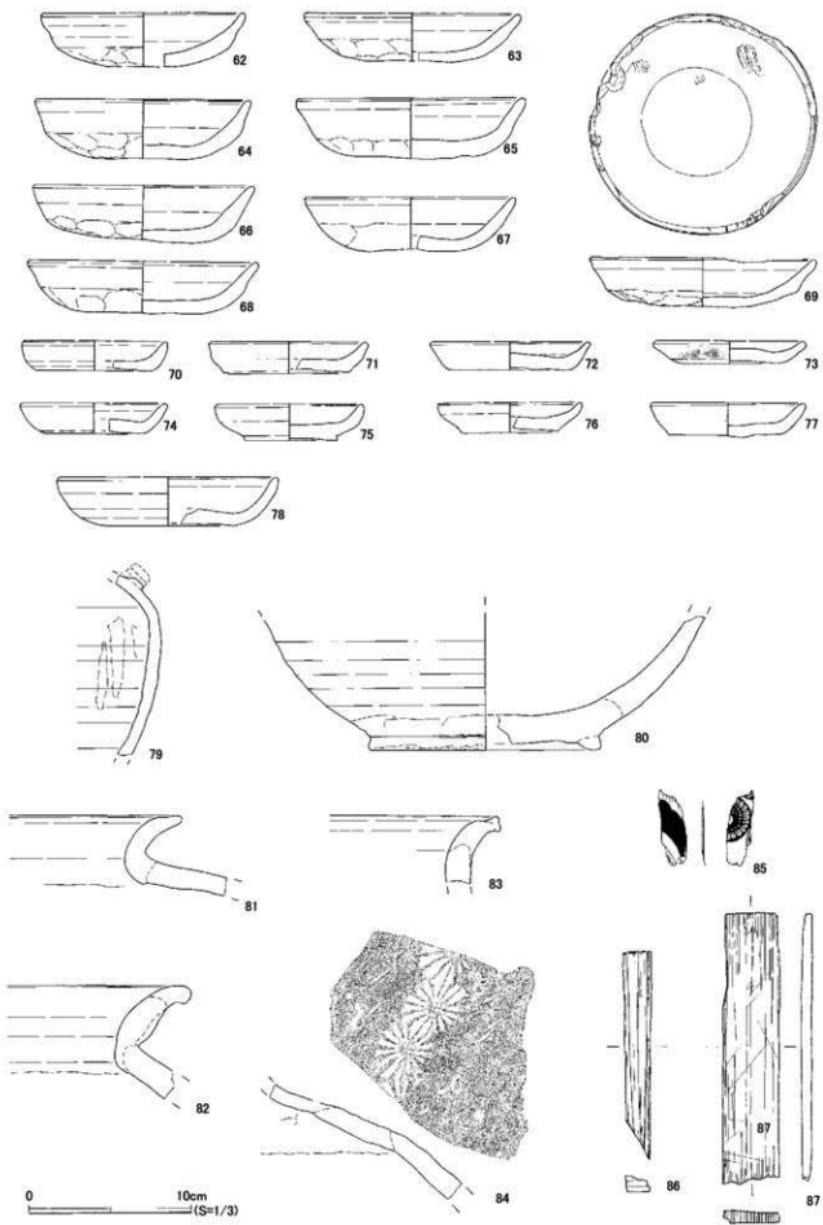
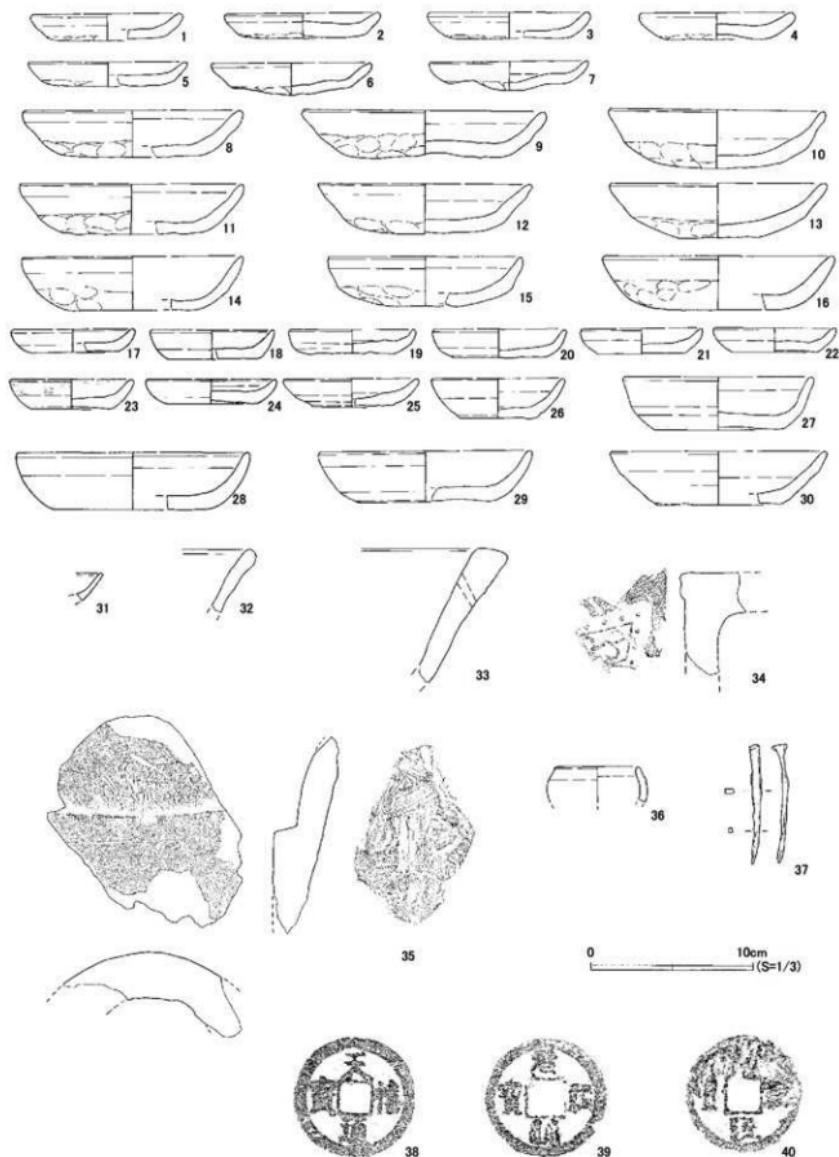


図42 第4面構成土出土遺物(2)



〈錢・原寸〉

图43 表土采集遗物

### 第三章　まとめ

本調査地は大倉幕府跡推定域の南東隅にあたる。大倉幕府の範囲については、いまだ議論され結論を導く実証を得られていない。しかし、神奈川県遺跡台帳および、「鎌倉市史・総説編」では現横浜国立大学付属小学校の東縁を南北に走る道路を推定域の西限としているが、学校建設以前に筋違橋から校庭を横切り、現在も校庭北側に残る道路と繋がり南北に延びる道が幕府城の西限であったと考える説を、近年の調査成果は有力としている。また、南限についても中世から現在まで鎌倉市中と外城を結ぶ幹線道路として機能している県道金沢鎌倉線北側に沿った調査地で発見した中世の道路址、道に沿った欄、あるいは堀の柱穴列、大型の溝等の成果から幕府城の南限と推定されている。

以下、発見した順に遺構・遺物の簡単なまとめを行いたい。

#### (1) 検出した遺構と遺物

本調査では破碎泥岩を使用し堅く締まった地業層上で4枚の生活面を検出した。それぞれの面で発見した遺構は短期間に造り替えを行い、多くの遺構が切り合って発見されている。第3面調査時に、豪雨と湧水の影響で調査区の北壁が崩落したため、第3面以降は調査面積を狭めて調査を実施した。また、第4面では4時期の溝を発見しているが、湧水が激しく調査壁の崩落など調査に危険を生じたため、トレンチを設け下層の溝は土層堆積で確認し、遺構を検出する事は出来なかった。4枚に分けた生活面の年代はかわらけ、国産陶磁器の年代観から比定している。本調査で出土した遺物は整理箱数にして計55箱、内8箱が木製品であった。

第1面は2時期の遺構を発見した。現代埋土・近世耕作土によって削平を受けた遺構が多くあり、一部遺物が混乱してしまった不安が残る。地業層は破碎泥岩を使用し、固く締まった地業である。発見した遺構は南・東部に集中しているが、北・西部は近世に削平を受けたと考えている。遺構覆土には焼土粒や炭化物が多く含まれており、火災後に遺構を廃棄し埋めたのかもしれない。出土した遺物の多くは回転クロロ成形のかわらけであった。手づくね成形のかわらけも出土しているが、その大半は細片であった為に報告した遺物はわずかである。第1面は概ね14世紀代の年代を与えており、15世紀まで下る可能性もある。

第2面の地業は不整形な泥岩の層下に玉石が並べられ、その下層に細かく碎いた泥岩が堆積し地業を形成している様子を調査区壁で確認している。玉石を建物の前庭などに敷いて、装饰的な効果を求めるやり方は寺社や武家屋敷などで多くみられるが玉石を使った地業は珍しい。特異な場であったのだろうか。調査区内で直線的に南北が断絶されたかのように地業は切れ、南側はやや脆弱な地業の様相を呈していたが、南側の地業は上層の遺構・堆積層によって削平を受けたものと考えている。南側でも玉石・破碎泥岩が散逸している状況を確認している。第2面では、面上・遺構出土ではロクロ成形・手づくね成形のかわらけがほぼ同量の破片数であるが、構成土出土では手づくね成形かわらけがロクロ成形かわらけの3倍となる。また、常滑製品の出土量が多くなる。第1面同様に多くの遺構を発見しているが、2時期の遺構が切り合っていると考えている。第2面は13世紀後半から14世紀の年代を与えている。

第3面は調査区北壁が豪雨と湧水の影響で崩落してしまったため、面積をやや狭めて調査を実施した。

破碎泥岩を多く含む茶褐色弱粘質土の堅く締まった地業層上で3時期の遺構を確認している。検出したピットの多くに、遺構底面に礎板の遺存するものや、柱材とも思える木質が遺構覆土に含まれるものを見出しているが、建物址を推察することはできなかった。調査区内を二分するように東西に溝が走るが、溝の南北で遺構や遺物の発見に大きな違いはない。第3面はロクロ成形のかわらけと手づくね成形のかわらけの破片数が大きく変化し、手づくね成形かわらけの破片数がロクロ成形かわらけの約5倍となる。第3面は13世紀第4四半期の年代を与えていた。

第4面も調査区壁崩落の危険を考え、さらに面積を狭めて調査を実施した。湧水のために表層がやや脆弱となつたが泥岩細片・褐色有機質土を多く含む地業層上で遺構を確認している。調査区の南壁に沿って数基の土坑を発見し、土坑の北側は大きく落ち込む溝状の遺構になると想定して掘り進めたが、北壁に沿って杭列を伴い東西に走る溝（遺構218）を検出したため、数基の土坑と溝（遺構218）を第4面遺構として報告した。第4面では、更に手づくね成形のかわらけの破片数が増え、手づくね成形かわらけの破片数がロクロ成形かわらけの約15倍となる。第4面は13世紀中頃の年代を与えていた。溝（遺構218・215・219）からは、大量の木製品が出土しているが、その多くは加工後の端材であった。

全測図に遺構の報告はないが、調査区南側で検出した土坑の際から落ち込むように堆積していた土層は、調査区中央に設けたトレンチの土層堆積の観察から、第4面遺構218を含め4時期の溝に分かれる事を確認した。平面での調査をせず、トレンチ内で採集した一部の遺物から比定することは危ういが、遺構215aと遺構215bは出土遺物の年代観に大きな相違がなく、短期間に造り替えが行われたと考えている。出土遺物は遺構検出時に一部混乱してしまい、確実に遺構215bとわかるもの以外は上層の遺構215aに一括して報告している。遺構215aと遺構215bは出土遺物から13世紀第3四半期の年代を与えていた。

遺構215a・遺構215b下層で検出した遺構219は湧水量が多く、遺構の底面を確認することができなかつたが、青灰色粘土の中世基盤層を掘りこんでいる。遺構底面近くの覆土からは泥岩細片とともに、砂利、摩耗した手づくねなどが出土しているが、遺物の出土量は大きく減少する。底部を静止糸切りしたかわらけ、髹漆していない生地皿などが出土した。遺構219は13世紀第2四半期の年代を与えていた。

## (2) まとめ

本調査地の東に接する遺跡地、雪ノ下三丁目637番2外地点（以降A地点）では5枚の生活面を発見し、上層から第1面を14世紀以降、第2面を13世紀後半、第3面を13世紀中頃から後半、第4a面を13世紀中頃、第4b面の一部で弥生中期後半から古墳前期の年代を報告している。A地点第1面から第3面で発見した遺構・遺物は、武家屋敷的様相を示していると報告されているが、本遺跡地の第1面から第3面は検出レベルをほぼ同じくし、建物址を推察することはできなかつたが、堅く締まった地業層上で礎板・礎石を伴うピットをはじめとする遺構を発見しており、隣接するA地点同様に屋敷地の一角であった可能性を考えている。A地点第4a面では幅約5.1m、深さ2.7mの薬研掘りの溝（遺構91）と、同じ層位から薬研掘りの溝とは軸方位がやや異なる溝（遺構96）が発見されている。第4a面を検出した海拔は約11.30mである。薬研掘りの溝は大倉の地に幕府を構えたときに鬼門の守護神とした荏柄天神の参道に対して平行に近い軸方位を示していることや、推定ではあるが幅、深さともに規模の大きな溝であること等から幕府東限の境界溝ではと推定し、もう一条の溝、遺構96は薬研掘りとは軸方位がやや異なり、調査地の東に接して流れる東御門川と軸方位を同一とすることから、河川に沿うもので境界としての役割を



図44 本調査地とA地点位置図

担った溝ではないと報告されている。性格が違うと報告される2条の溝だが出土遺物からは時期差を示すことが出来ず、共に埋没期を13世紀中頃と推察している。A地点第4a面とほぼ同じ検出レベルで発見した本遺跡地第4面の4条の溝は調査区外に遺構が延び正確な規模・形状は不明であるが、底面を境に左右対称の立ち上がりを持つと想定すると、上層の遺構218は、幅約140cm、深さ50～100cm。遺構215aは幅約240cm、深さ50cm。遺構215bは幅約360cm、深さ90cm。下層の遺構219は幅約380cm、深さ120cm以上になり、遺構218を除きやや大型の溝であったと考えられる。それぞれの溝は東に延びるとA地点第4面の溝に交わることになる。図面上では本調査地点で発見した溝とA地点遺構96はほぼ直交するが、大型の薬研掘りであるA地点遺構91は軸方位をやや異なる。

調査地の北側を東西に走る道、通称「桜道」と呼ばれる道路下には暗渠となっている流路があり、以前は「堀川」と呼ばれる川が流れている。また、中世に存在していたかは不明であるが、幕府指定城北

限となる道路下にも明治42～43年(1909～10)に開墾された「溝川」と呼ばれる河川があったといわれ、幕府郭内を区切る溝(掘り)が東西方向に何条か設けられていたと考えると、本遺跡で発見した溝もその例であったのかもしれない。

<トレンチ壁・土層注記>

P145参照

1. 茶褐色弱粘質土 泥岩塊・泥岩細片中量・泥岩粒・炭化物少量
2. 暗褐色弱粘質土 木片・茶色有機質土・泥岩細片少量
3. 暗褐色弱粘質土 茶色有機質土・泥岩細片多量
4. 青灰色砂 暗褐色弱粘質土・茶色有機質土
5. 茶褐色弱粘質土 茶色有機質土・破碎泥岩・炭化物多量
6. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片・茶色有機質土少量・炭化物多量
7. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片・炭化物多量
8. 暗褐色弱年質土 茶色有機質土・泥岩細片少量
9. 茶褐色有機質土 茶色有機質土
10. 茶褐色弱粘質土 茶色有機質土多量・破碎泥岩・泥岩粒少量
11. 暗褐色弱粘質土 茶色有機質土多量・泥岩細片少量
12. 暗褐色弱粘質土 茶色有機質土少量・木片多量
13. 暗褐色弱粘質土 茶色有機質土少量・貝砂多量
14. 暗褐色弱粘質土 貝砂を含む青灰色の砂利層が堆積
15. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片・砂利・かわらけ片・木片多量(北壁の杭と1対となる柱穴)
16. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片少量・粘性高い
17. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片多量・粘性高い
18. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片少量・暗褐色粘土
19. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片多量・茶色有機質土
20. 暗褐色弱粘質土 有機質土多量
21. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片多量・茶色有機質土
22. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片多量・茶色有機質土・縮まりあり
23. 青灰色弱粘質土 泥岩細片多量・貝砂
24. 青灰色砂層 砂利・貝砂・わずかに褐色弱粘質土混入
25. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片が全体に混入・貝砂
26. 暗褐色粘土 泥岩細片・炭化物
27. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片少量・炭化物
28. 暗褐色粘土 泥岩細片・炭化物少量
29. 暗褐色弱粘質土 泥岩細片・木片多量・下層に砂利層

遺構計測表

面	遺構No	長軸	短軸	深さ	面	遺構No	長軸	短軸	深さ
1	1	46	35	31	1	59	45	43	21
1	2	42	41	20	1	60	(46)	(18)	22
1	3	46	43	34	1	61	58	54	18
1	4	44	33	19	1	62	(58)	67	24
1	5	43	30	14	1	63	(30)	37	20
1	6	37	33	12	1	64	211	124	23
1	7	34	30	14	1	65	50	(36)	18
1	8	31	29	12	1	66	(47)	(32)	26
1	9	29	27	9	1	67	58	49	22
1	10	39	32	10	1	68	(33)	32	17
1	11	38	35	17	2	69	(44)	40	24
1	12	36	28	33	2	70	(32)	50	20
1	13	36	30	17	2	71	24	24	14
1	14	33	32	35	2	72	29	27	12
1	15	44	(38)	19	2	73	49	43	20
1	16	(30)	(34)	20	2	74	44	32	14
1	17	43	28	18	2	75	42	40	20
1	18	(72)	62	21	2	76	58	50	15
1	19	41	34	18	2	77	43	40	29
1	20	73	42	22	2	78	35	33	15
1	21	46	(22)	12	2	79	42	42	14
1	22	38	31	33	2	80	54	40	15
1	23	(43)	50	19	2	81	33	33	16
1	24	28	23	15	2	82	35	34	16
1	25	33	32	11.1	2	83	64	48	12
1	26	53	47	11	2	84	76	66	25
1	27	23	18	8	2	85	32	28	10
1	28	39	38	27	2	86	(26)	40	15
1	29	26	22	16	2	87	51	48	22
1	30	(26)	(24)	11	2	88	35	32	23
1	31	40	35	14	2	89	(32)	36	23
1	32	52	45	26	2	90	66	46	21
1	33	(39)	42	21	2	91	62	(30)	18
1	34	(43)	34	14	2	92	28	28	15
1	35	31	26	16	2	93	43	38	13
1	36	38	34	20	2	94	33	32	8
1	37	(21)	28	21	2	95	41	36	24
1	38	(47)	36	14	2	96	(18)	28	13
1	39	37	33	27	2	97	(23)	(16)	10
1	40	62	(33)	20	2	98	40	35	26
1	41	(36)	36	24	2	99	32	31	15
1	42	(20)	(20)	17	2	100	34	28	15
1	43	39	39	22	2	101	56	49	27
1	44	(18)	16	17	2	102	33	28	18
1	45	39	34	20	2	103	(40)	(69)	8
1	46	40	36	16	2	104	34	24	18
1	47	102	100	29	2	105	48	42	25
1	48	38	37	15	2	106	63	49	23
1	49	56	39	22	2	107	(103)	41	16
1	50	36	33	14	2	108	(70)	65	19
1	51	50	42	15	2	109	(24)	28	12
1	52	42	35	27	2	110	57	50	21
1	53	36	33	22	2	111	(150)	(124)	(80)
1	54	41	35	14	2	112	73	54	17
1	55	(38)	34	17	2	113	35	32	21
1	56	56	37	12	2	114	55	39	12
1	57	45	38	14	2	115	(91)	68	15
1	58	43	41	26	2	116	48	(34)	15

単位(cm)

遺構計測表

面	遺構No	長軸	短軸	深さ	面	遺構No	長軸	短軸	深さ
2	117	57	38	20	3	175	74	60	14
2	118	47	34	20	3	176	36	(25)	17
2	119	41	(23)	16	3	177	(34)	(33)	13
2	120	38	38	17	3	178	33	28	15
2	121	(32)	39	16	3	179	38	37	13
2	122	174	53	26	3	180	45	39	13
2	123	(17)	(37)	18	3	181	48	43	17
2	124	(44)	(31)	15	3	182	(23)	28	23.9
2	125	35	35	21	3	183	41	36	20
2	126	53	47	15	3	184	74	(64)	13
2	127	(35)	36	22	3	185	66	(50)	12
2	128	35	33	16	3	186	(34)	53	24
2	129	(32)	40	15	3	187	(38)	(23)	7
2	130	107	94	21	3	188	(27)	46	13
2	131	42	33	15	3	189	49	(37)	20
2	132	(28)	(30)	18	3	190	(126)	(39)	15
2	133	94	56	37	3	191	(58)	(34)	18
2	134	44	38	23	3	192	48	43	16
2	135	(45)	(16)	11	3	193	48	39	15
2	136	24	23	9	3	194	(32)	39	8
2	137	(26)	33	19	3	195	(33)	38	17
2	138	78	72	15	3	196	(14)	(36)	16
2	139	(76)	60	20	3	197	46	30	12
3	140	68	62	3	3	198	(51)	(24)	8
3	141	71	63	22	3	199	39	(31)	12
3	142	72	62	13	3	200	45	30	24
3	143	34	32	13	3	201	49	(38)	10
3	144	37	29	15	3	202	48	44	20
3	145	38	35	12	3	203	(38)	(20)	22
3	146	41	40	18	3	204	欠番		
3	147	40	32	14	3	205	55	(23)	9
3	148	35	33	19	3	206	(33)	(36)	24
3	149	30	13	13	3	207	(426)	67	20
3	150	40	36	14	4	208	(80)	(58)	9
3	151	38	36	7	4	209	(70)	(79)	12
3	152	欠番			4	210	89	(38)	24
3	153	(28)	42	20	4	211	47	37	13
3	154	33	(17)	28	4	212	(51)	(23)	14
3	155	35	(19)	11	4	213	44	42	21
3	156	(46)	47	21	4	214	40	37	10
3	157	66	(38)	24	4	215	本文参照		
3	158	44	42	18	4	216	42	39	16
3	159	52	42	12	4	217	92	(43)	52
3	160	53	39	23	4	218	(415)	(112)	33
3	161	40	36	9	4	219	本文参照		
3	162	45	41	22					
3	163	42	39	15					
3	164	46	40	19					
3	165	19	18	15					
3	166	27	20	20					
3	167	(34)	(8)	23					
3	168	48	46	15					
3	169	27	22	16					
3	170	(40)	35	23					
3	171	59	(55)	18					
3	172	31	26	8					
3	173	35	25	7					
3	174	(24)	38	21					

単位(cm)

## 出土遺物観察表

回収 番号	戻番	出土位置 と層位	種別	口径 / 高さ	底径 / 幅	器高 / 厚	器形内容
9	1	第1面 道標1	かわらけ	(8.2)	(6.2)	1.3	a: 形成・調整 b: 砂土・素地・材料 c: 水色 d: 鞍調 e: 健成 f: 進存値 g: 備考 e: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 鏡面・赤色粒・雲母・海綿骨芯・やや粗土 c: 黄色 e: 良好 f: 1/4
9	2	第1面 道標1	かわらけ	(12.5)	(8.0)	3.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 鏡面・黒色粒・赤色粒・雲母・海綿骨芯・やや粗土 c: 黄色 e: 良好 f: 1/3
9	3	第1面 道標1	かわらけ	(13.4)	(8.6)	3.1	a: ロクロ・内底強くナメテ・外底回転系切・板状圧痕 b: 鏡面・赤色粒・黒色粒・赤色粒・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄色 e: 良好 f: 1/3
9	4	第1面 道標2	かわらけ	4.4	4.0	0.8	a: ロクロ・内底強くナメテ・外底回転系切・板状圧痕 b: 鏡面・赤色粒・黒色粒・赤色粒・真土 c: 棕色 e: 良好 f: 1/3
9	5	第1面 道標2	石膏質 砥石	[3.0]	[3.1]	[0.5]	a: 本味のある灰白色 g: 喰透感・仕上感 表面のみ鉛面 裏面は済透 側面の一方のみ削り出しあ e: ロクロ・内底強くナメテ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄色 e: 良好 f: 1/2
9	6	第1面 道標3	白磁 玉皿	[10.0]	—	—	a: ロクロ・白・底白 黒色粒 精良堅韌 d: 四白色 f: 口縁部片 g: 気泡わずかにあり
9	7	第1面 道標3	石膏質 不明	[3.0]	[3.4]	[0.9]	b: 喰透感・仕上感 c: 白白色 g: 瓶の形として成型かと思われるが石材からしてその使用は不可
9	8	企画製品 瓶	外径24・内径・孔径07	—	—	—	g: 元作過溝 斷頭: 末尾 1978年 葦薺
9	9	青磁 瓶蓋文瓶	—	—	—	—	
9	10	第1面 道標7	かわらけ	(7.8)	(5.9)	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 鏡面・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄色 e: 良好 f: 1/3
9	11	第1面 道標8	てづくね	(9.6)	—	1.8	a: てづくね 内底ナメ・外底回転ナメ消し b: 鏡面・雲母・赤色粒・やや良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/4
9	12	青磁 瓶蓋文瓶	—	—	—	a: ロクロ・白: 明灰色・精良堅韌 d: 伝灰色 e: 良好 f: 口縁部片	
9	13	第1面 道標9	石膏質 石片片	—	—	—	c: 伝灰色 f: 瓶底 g: 瓶底質相違現象(伊予右小把便鏡現用ではないか・遷世以降との相違あり)
9	14	第1面 道標10	かわらけ	8.1	5.4	1.7	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 鏡面・雲母・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 淡褐色 e: 良好 f: 1/1 完形
9	15	第1面 道標12	かわらけ	7.5	5.3	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 鏡面・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄色 e: 良好 f: 1/1 完形
9	16	第1面 道標14	かわらけ	7.7	5.1	1.7	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 鏡面・雲母・赤色粒・海綿骨芯・真土 c: 棕色 e: 良好 f: 1/2
9	17	第1面 道標15	青磁 片口11型	—	—	—	a: 瓶底み b: 布面無 磨耗・白色粒多・石英・小石粒・真土 c: 棕色 e: 良好 貨質 f: 口縁部片 g: 窓穴
9	18	第1面 道標15	青磁 片口11型	—	—	—	a: 瓶底み b: 布面無 磨耗・白色粒多い・石英・小石粒・真土 c: 黄褐色・黒褐色 e: 良好・健質 f: 口縁部片 g: 内面斜長
9	19	第1面 道標16	青磁 片	—	—	—	a: 瓶底み b: 伝灰・小石粒・真土 c: 伝灰 d: 期灰褐色 e: 良好・健質 f: 口縁部片 g: 全部に帯現象
9	20	第1面 道標17	かわらけ	(4.6)	(3.0)	0.9	a: ロクロ・白・雲母・雲母・赤色粒・真土 c: 棕色 e: 良好 f: 1/5 g: 楊子の透影・器壁がや内面・全周に帯現象
9	21	第1面 道標17	白磁 片口2型	(32.4)	(25.0)	8.8	a: 瓶底み b: 布面無 磨耗・雲母・海綿骨芯・黒色粒・白色粒・白色粒・小石粒・真土 c: 棕色 e: 良好 f: 1/4 - 1/2 壁面に斑状斑紋
9	22	第1面 道標18	てづくね	(7.8)	—	1.3	a: てづくね 内底ナメ・外底回転ナメ消し b: 鏡面・雲母・海綿骨芯・真土 c: 棕色 e: 良好 f: 1/3 g: 瓶底の為内底無は参考
9	23	第1面 道標18	かわらけ	10.7	6.4	3.7	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母・赤色粒・布質真土 c: 棕色 e: 良好 f: 3/4 d: 窓孔を封
9	24	第1面 道標19	青磁 片口10・1型	—	—	—	a: 瓶底み b: 伝灰・白・白色粒・石英・小石粒・真土 c: 棕色 e: 良好 貨質 f: 口縁部片 g: 4式
9	25	第1面 道標26	かわらけ	(7.8)	(5.2)	2.0	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母・赤色粒・真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 壁面に透影持つ内面にわずかに赤色の付着物
9	26	第1面 道標32	かわらけ	(7.0)	(5.8)	1.5	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/1
9	27	第1面 道標34	かわらけ	(8.1)	(5.1)	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母・赤色粒・泥岩粒・真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5
9	28	第1面 道標36	かわらけ	(6.9)	(4.8)	1.4	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/1
9	29	第1面 道標29	かわらけ	(7.1)	(5.0)	1.5	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母多・赤色粒・真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
9	30	第1面 道標29	かわらけ	(7.7)	(4.8)	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 黄褐色
9	31	第1面 道標29	かわらけ	7.2	5.0	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/1
9	32	第1面 道標29	かわらけ	(7.0)	(5.5)	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 内面外面部透影
9	33	第1面 道標40	かわらけ	(8.5)	(6.3)	1.7	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母多・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5
9	34	第1面 道標40	かわらけ	(12.8)	(7.0)	3.3	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母・赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
9	35	第1面 道標40	白磁 輪花形	—	—	—	b: 白磁 わずかに微細な含む有理模様 d: 伝灰褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 有理模様による花唐文 後花・跡・口縁部に透影を呈す良品の品で裏腹をめでました物
9	36	第1面 道標40	合子豪 輪花形	—	—	—	b: 微細・黑色粒・やや粗い土 c: 白黄色 d: 本青色 e: 良好 g: 本体は瓦盤か 良品
9	37	第1面 道標40	片口10・1型	—	—	—	a: 瓶底み b: 伝灰・砂質白色粒・真土 c: 外底黒闇面・内面灰褐色 e: 良好・健質 f: 口縁部片 g: 4式
10	38	第1面 道標41	かわらけ	(12.6)	(7.8)	3.2	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 鏡面・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
10	39	第1面 道標41	青磁 輪花形文瓶	(—)	(3.2)	—	a: ロクロ・白・黑色粒 精良堅韌 d: 伝緑色 e: 良好 f: 1/2
10	40	第1面 道標45	かわらけ	(6.7)	(5.0)	1.6	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 鏡面・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
10	41	第1面 道標45	眞珠品 訂	14.9	10.4	0.3	g: 純造 断面方面 f: 丸底少欠損
10	42	第1面 道標47	かわらけ	7.5	47	1.7	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 鏡面・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
10	43	第1面 道標47	かわらけ	7.4	52	1.6	a: ロクロ・内底強くナメテ・外底回転系切+板状圧痕 b: 鏡面・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
10	44	第1面 道標47	かわらけ	7.4	46	1.8	a: ロクロ・内底強くナメテ・外底回転系切+板状圧痕 b: 鏡面・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4

単位: cm ( ) = 復元値 [ ] = 残存値

## 出土遺物観察表

団版 番号	柱番	出土位置 付近	種別	口径/径5	底径/幅	高さ/厚	観察内容	
							c: 色調	d: 細胞
10	45	第1面 遺構47	かわらけ	(7.0)	4.6	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/5 g: 内外器壁調査	
10	46	第1面 遺構47	かわらけ	7.2	5.0	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 4/5 g: 内外器壁調査	
10	47	第1面 遺構47	かわらけ	(11.4)	(6.7)	3.1	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 土縁部分打厙痕	
10	48	第1面 遺構47	かわらけ	11.9	7.7	3.3	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3/4	
10	49	第1面 遺構47	かわらけ	12.2	8.6	3.3	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3/4	
10	50	第1面 遺構47	かわらけ	(12.4)	(8.0)	3.3	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10	51	第1面 遺構47	かわらけ	(13.3)	(7.7)	3.6	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
10	52	青磁 施錠子文鏡	—	—	—	a: ロクロ b: 黄褐色 黑色調 精良堅頑 d: 淡灰緑色 e: 良好 f: 土縁部分 g: 人耳あり 外面施錠		
10	53	第1面 遺構47	青磁	—	—	a: ロクロ b: 白灰色 黑色調を含む土質 d: 淡灰緑色 e: 良好 f: 土縁部分		
10	54	第1面 遺構47	青磁 雲母	—	—	a: 脇彫み b: 灰色 砂粒・長石・石英 c: 雲母 e: 良好 硬質 f: 脊部部分 g: 猫子文の押印		
10	55	金銀製品 鉢	外径2.4・内径2.1・孔径0.7	—	—	g: 斧形溝 刃跡 62年 朱雀		
10	56	金属製品 鉢	外径2.4・内径1.9・孔径0.7	—	—	g: 元豐通寶 刃跡 北宋 1078年 朱雀		
10	57	第1面 遺構49	かわらけ	(10.7)	(8.0)	3.0	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10	58	第1面 遺構53	かわらけ	(7.7)	(6.2)	1.3	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母多・黑色調・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
10	59	第1面 遺構53	かわらけ	7.1	5.3	1.5	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母多・赤色調多・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 (注記)	
10	60	第1面 遺構54	かわらけ	(7.3)	(4.5)	1.7	a: ロクロ・内底ナメ不規則・外底回転系切 b: 略薄・雲母・赤色調・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
10	61	青磁 施錠子文鏡	—	—	—	a: ロクロ b: 黄褐色 黑色微細粒 精良堅頑 d: 淡灰緑色 e: 良好 f: 土縁部分 g: 毫京室系 外面施錠		
10	62	第1面 遺構56	かわらけ	(12.0)	(8.0)	3.5	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母・赤色調・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10	63	第1面 遺構57	かわらけ	7.2	6.2	1.4	a: ロクロ・内底回転ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母・赤色調・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10	64	第1面 遺構57	かわらけ	11.5	8.4	3.2	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母・赤色調・海綿骨芯・泥岩粒 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10	65	第1面 遺構58	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.7	a: ロクロ・内底回転ナメ・外底回転系切 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯・真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10	66	第1面 遺構58	青磁 雲母	—	—	a: 脇彫み b: 灰色 砂粒・黑色調・白色調 真土 c: 雲母 d: 淡灰緑色 e: 良好 硬質 f: 土縁部分		
10	67	第1面 遺構58	かわらけ	(12.6)	(8.0)	3.5	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母・赤色調・海綿骨芯・真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10	68	第1面 遺構60	片口沫1類	—	—	a: 脇彫み b: 灰色 砂粒・白色調 小石粒 真土 c: 灰色 e: 良好 硬質 f: 土縁部分 g: 6a型式		
10	69	第1面 遺構62	かわらけ	(7.6)	(6.2)	1.3	a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母多・赤色調・泥岩粒 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10	70	第1面 遺構63	青磁 口跡	—	—	a: 脇彫み b: 灰色 砂粒・白色調 多白雲母入り 黑色調を含む真土 c: 灰色 e: 良好 硬質 f: 土縁部分		
10	71	第1面 遺構65	丸 平足	—	—	a: 口面凹目彫き・四面凸目彫き 積極付着 壁面端面にケズリ b: 明灰赤 砂粒・白色調 小石粒 c: 丸足 e: 二重脚 球足 f: 2好 球足 g: 水削毛口型 (A型)		
10	72	石器品 用ひき	(14.5)	(1.6)	10.30	c: 黒色 g: 黒色百目 基石		
11	73	第1面 遺構64	かわらけ	(6.5)	(5.0)	1.3	a: ロクロ・内底ナメ不明・外底回転系切 b: 略薄・雲母・赤色調 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
11	74	第1面 遺構64	かわらけ	7.3	5.4	1.5	a: ロクロ・内底回転ナメ・内底無ナメなし・外底回転系切 b: 略薄・雲母・赤色調・海綿骨芯・泥岩粒 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 完形	
11	75	第1面 遺構64	かわらけ	(7.7)	(6.2)	1.6	a: ロクロ・内底回転ナメ・外底回転系切 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 (注記) 外底面下部端面に沿る堅板	
11	76	第1面 遺構64	かわらけ	(7.4)	(5.3)	1.7	a: ロクロ・内底ナメ不明・外底回転系切 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 (注記) 内外器壁調査	
11	77	第1面 遺構64	かわらけ	(7.3)	(5.4)	1.4	a: ロクロ・外底回転系切 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
11	78	第1面 遺構64	かわらけ	(7.3)	(5.1)	1.9	a: ロクロ・内底回転ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 真土 e: 黄褐色 c: 良好 f: 1/2 (注記)	
11	79	第1面 遺構64	かわらけ	7.2	5.0	1.7	a: ロクロ・内底回転ナメ・外底回転系切 b: 略薄・雲母・赤色調・泥岩粒 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
11	80	第1面 遺構64	かわらけ	(8.2)	(6.6)	1.9	a: ロクロ・内底ナメナメ・外底回転系切 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 内外器壁調査	
11	81	第1面 遺構64	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.8	a: ロクロ・内底ナメ不明・外底回転系切 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
11	82	第1面 遺構64	かわらけ	(7.7)	(4.8)	2.0	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 内外器壁調査	
11	83	第1面 遺構64	かわらけ	7.6	4.2	2.2	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母・赤色調・海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 (注記) 内外器壁調査	
11	84	第1面 遺構64	かわらけ	(9.8)	(5.2)	2.8	a: ロクロ・内底ナメナメ・外底回転系切 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 内外器壁調査	
11	85	第1面 遺構64	かわらけ	(11.0)	7.1	3.3	a: ロクロ・内底ナメナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母多・赤色調・海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 (注記) 内外器壁調査	
11	86	第1面 遺構64	かわらけ	(13.3)	(8.7)	3.1	a: ロクロ・内底ナメナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母・赤色調・泥岩粒 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
11	87	第1面 遺構64	かわらけ	(12.6)	8.4	3.5	a: ロクロ・内底ナメナメ・外底回転系切・板状圧痕 b: 略薄・雲母・赤色調・泥岩粒 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	

単位: cm ( )=復元値 [ ]=残存値

## 出土遺物観察表

回収 番号	機番	出土位置 出土地点	種別	口径 / 高さ	底径 / 幅	器高 / 厚	観察内容
11	88	道標 64	かわらけ	(12.0)	(7.5)	3.2	a: 形成・調整 b: 砂土・素地・材料 c: 色調 d: 釉調 e: 既成 f: 運存値 g: 考察 a: ロクロ・内底ナード・外底斜面切+板状圧痕・板状圧痕不明確 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.3
11	89	道標 64	青磁 臨邑文陶	—	—	—	a: 亂文
11	90	第1面 道標 64	灰陶	—	—	—	a: ロクロ b: 亂文
11	91	第1面 道標 64	金銀製品 武具	[6.0]	[5.0]	[0.2]	b: 鉄・鐵 c: 錆色 d: 直径約 0.1~0.3cm の6個の孔を確認
11	92	第1面 道標 64	石質製 石	[6.0]	[2.1]	[0.0]	c: 黄褐色 g: 滑面系・仕上研磨・波紋状質感・底岩 4面焼垣 表面に数多くの刃物痕あり 両端に形崩れあり
11	93	第1面 道標 64	金銀製品 政	外径 24・内径・孔径 0.7	—	—	g: 皇帝寶寶 制作: 北宋 1038 年 葵唐
11	94	第1面 道標 64	金銀製品 政	外径 24・内径・孔径 0.6	—	—	g: 元鼎通寶 制作: 北宋 1076 年 葵唐
11	95	第1面 道標 66	深米 圭	—	—	—	a: 磨精み b: 黄色・赤鉄・白色粒・黑色粒・良土 c: 亂文褐色 e: 良好・被質 f: 脊部分
11	96	第1面 道標 66	瓦質製品 圭	7.7	0.7	0.5	g: 磨造 斜面方形
11	97	道標 67	かわらけ	(7.7)	(6.0)	1.6	良好 f: 1.4
11	98	道標 68	青磁	—	—	—	a: 磨精み b: 黄褐色・砂粒・白色粒・黑色粒・小石粒 c: 黄褐色 d: 帽褐色 e: 良好・被質 f: 1.3 程度 g: 亂文
12	1	第1面 面上	かわらけ	7.8	6.1	1.6	a: ロクロ・内底ナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・泥引粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.4
12	2	第1面 面上	かわらけ	(8.0)	(6.7)	1.8	a: 磨精み b: 黄褐色・砂粒・白色粒・黑色粒・小石粒 c: 黄褐色 d: 帽褐色 e: 良好・被質 f: 1.3 程度 g: 亂文
12	3	第1面 面上	かわらけ	(12.6)	(6.8)	3.2	a: ロクロ・内底ナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.3 程度
12	4	第1面 面上	かわらけ	12.4	(7.4)	3.1	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.3 程度 g: 亂文
12	5	第1面 面上	かわらけ	(13.4)	(8.6)	3.6	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.3 程度
12	6	第1面 面上	白磁 口口瓶	—	—	—	b: 黄褐色・堅白系 c: 透明 e: 良好 f: 1.2 線部部分 g: 1.2 線部部分
12	7	第1面 面上	青磁深腹 瓶	—	—	—	a: ロクロ・内底ナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 亂文
12	8	第1面 面上	青磁 瓶	—	—	—	a: 磨精み b: 黄褐色・砂粒・白色粒・黑色粒・小石粒 c: 黄褐色 d: 帽褐色 e: 良好・被質 f: 亂文
12	9	第1面 面上	青磁 上器瓶	—	4.2	—	a: ロクロ・内底ナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・砂粒・堅白系・良土 c: 白褐色 e: 良好・被質 f: 亂文のみ
12	10	第1面 横成土	てづくね	—	—	—	a: 手づくり b: 黄褐色 c: 白褐色 e: 良好 f: 1.2 線部部分 g: 接合不可の同一器片より 外面糊膜あり 白土上器
12	11	第1面 横成土	かわらけ	7.5	5.5	1.6	a: ロクロ・内底ナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 外面糊膜分付着
12	12	第1面 横成土	かわらけ	(7.0)	(5.6)	1.5	a: ロクロ・内底ナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 口唇部に糊膜付着
12	13	第1面 横成土	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.65	a: ロクロ・内底ナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・砂粒・堅白系・良土 c: 白褐色 e: 良好・被質 f: 亂文
12	14	第1面 横成土	かわらけ	7.45	5.1	1.6	a: ロクロ・内底ナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母多・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 外面糊膜付着
12	15	第1面 横成土	かわらけ	8	5.6	1.7	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・本色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 内底糊膜付着
12	16	第1面 横成土	かわらけ	(8.4)	(5.6)	1.9	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 内底ナード付着
12	17	第1面 横成土	かわらけ	7.4	5.1	1.55	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 内底ナード付着
12	18	第1面 横成土	かわらけ	8	5.8	1.7	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 内底面に堅牢み・其付着 既付着をナードして消し
12	19	第1面 横成土	かわらけ	7.5	4.7	1.6	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 亂文
12	20	第1面 横成土	かわらけ	7.8	5.2	1.9	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・本色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 亂文
12	21	第1面 横成土	かわらけ	(7.0)	(4.9)	1.5	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・砂粒・堅白系・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 亂文
12	22	第1面 横成土	かわらけ	(7.0)	(5.6)	1.85	a: ロクロ・内底ナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 内底外周に糊膜付着
12	23	第1面 横成土	かわらけ	(7.0)	(5.2)	1.6	a: ロクロ・内底ナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 内底外周に糊膜付着
12	24	第1面 横成土	かわらけ	7.3	4.7	1.65	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥引粒 粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 内底外周に糊膜付着
12	25	第1面 横成土	かわらけ	7.8	5.7	1.8	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 内底外周に糊膜付着
12	26	第1面 横成土	かわらけ	8	4.9	1.95	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 亂文
12	27	第1面 横成土	かわらけ	7.9	5.6	1.85	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 亂文
12	28	第1面 横成土	かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.95	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 亂文
12	29	第1面 横成土	かわらけ	7.3	4.7	1.6	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 亂文
12	30	第1面 横成土	かわらけ	8.0	5.4	1.8	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 亂文
12	31	第1面 横成土	かわらけ	(7.8)	(4.8)	1.5	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 亂文
12	32	第1面 横成土	かわらけ	(8.0)	(4.7)	1.85	a: ロクロ・内底強くナード・外底斜面切+板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥引粒 やや粗目 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 程度 g: 亂文

単位: cm ( ) =復元値 [ ] =残存値

## 出土遺物観察表

図版番号	柱番	出土位置・層位	種別	口径×高さ	底径×幅	器高/厚	観察内容	
							c: 黄色	d: 銅鏡
12	33	第1面 横成土	かわらけ	7.5	5.2	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上	e: 良好
12	34	第1面 横成土	かわらけ	7.25	5.4	1.75	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上	e: 良好
12	35	第1面 横成土	かわらけ	(7.4)	(4.6)	1.7	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上	e: 良好
12	36	第1面 横成土	かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に分付者	e: 良好
12	37	第1面 横成土	かわらけ	(7.4)	(4.8)	1.9	a: ロクロ・内底ナメの見込み凹凸なし・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.3 g: 外底に分付者	e: 良好
12	38	第1面 横成土	かわらけ	8.3	5.1	2.1	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上	e: 良好
12	39	第1面 横成土	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.85	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に分付者	e: 良好
12	40	第1面 横成土	かわらけ	7.4	4.8	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に分付者	e: 良好
12	41	第1面 横成土	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.8	a: ロクロ・内底ナメの見込み凹凸なし・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 外底に分付者	e: 良好
12	42	第1面 横成土	かわらけ	7.4	4.6	1.7	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に分付者	e: 良好
12	43	第1面 横成土	かわらけ	7.7	4.5	2.1	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に分付者	e: 良好
12	44	第1面 横成土	かわらけ	7.15	5	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に分付者	e: 良好
12	45	第1面 横成土	かわらけ	(8.1)	(5.2)	2.05	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒多、白色粒、海綿骨芯、真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.2 g: 内外底に黒褐色斑	e: 良好
12	46	第1面 横成土	かわらけ	7.75	5.1	2.1	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	47	第1面 横成土	かわらけ	(7.8)	(5.4)	2	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡多、雲母多、赤色粒、白粉粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	48	第1面 横成土	かわらけ	(10.6)	6.0	2.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	49	第1面 横成土	かわらけ	(10.7)	(5.8)	3.1	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	50	第1面 横成土	かわらけ	10.8	6.4	3.15	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡多、雲母、赤色粒多、白色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	51	第1面 横成土	かわらけ	(11.8)	6.8	3.2	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒多、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	52	第1面 横成土	かわらけ	(11.6)	(6.6)	3.3	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上	e: 良好
12	53	第1面 横成土	かわらけ	(12.5)	(7.6)	2.95	a: ロクロ・内底ナメや中底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	54	第1面 横成土	かわらけ	12.4	7.5	3.1	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	55	第1面 横成土	かわらけ	(12.7)	(8.8)	3.4	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	56	第1面 横成土	かわらけ	(12.8)	(7.5)	3.5	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	57	第1面 横成土	かわらけ	(12.5)	(8.4)	2.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上	e: 良好
12	58	第1面 横成土	かわらけ	(12.4)	(6.8)	3.1	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	59	第1面 横成土	かわらけ	12.3	7.8	3.45	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	60	第1面 横成土	かわらけ	12.3	7.0	3.4	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	61	第1面 横成土	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.2	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上	e: 良好
12	62	第1面 横成土	かわらけ	(12.6)	(7.5)	2.85	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	63	第1面 横成土	かわらけ	(12.9)	(7.6)	3.2	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	64	第1面 横成土	かわらけ	12.6	7.6	3.6	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡多、雲母、赤色粒、白色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	65	第1面 横成土	かわらけ	(13.0)	(7.2)	3.2	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上	e: 良好
12	66	第1面 横成土	かわらけ	(12.7)	(7.7)	3.3	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	67	第1面 横成土	かわらけ	(13.2)	(7.9)	3.6	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	68	第1面 横成土	かわらけ	(13.0)	(7.6)	3.3	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上	e: 良好
12	69	第1面 横成土	かわらけ	(12.0)	(7.2)	3.7	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底に黒褐色斑	e: 良好
12	70	第1面 横成土	かわらけ	(16.2)	(7.9)	4.6	a: ロクロ・内底ナメ・外底剥離系切・板状圧痕 b: 銅鏡、雲母、赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒、粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1.5以上	e: 良好
13	71	青磁 折腰器	—	—	—	—	a: ロクロ b: 銀粒、堅繩、灰白色 c: 淡青色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底部分	g: 内底に黒褐色斑
13	72	青磁 蓋付文瓶	—	—	—	—	a: ロクロ b: 銀粒、堅繩、灰白色 c: 淡青色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 内底部分	g: 内底に黒褐色斑
13	73	青磁 蓮瓣文碗	—	—	(5.2)	—	a: ロクロ b: 銀粒、堅繩、灰白色 c: 淡青色 外面厚く施釉 e: 良好 f: 1.5以上 g: 底部部	g: 高台部の内底に灰白色の斑
13	74	青磁 蓋付文瓶	—	—	(3.4)	—	a: ロクロ b: 銀粒、堅繩、灰白色 c: 淡青色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 底部部	g: 亂世から後半
13	75	青磁 白口瓶	—	—	—	—	a: ロクロ b: 銀粒、堅繩、灰白色 c: 淡青色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 底部部	g: 亂世から後半
13	76	青白磁 蓋付瓶	(5.4)	—	—	—	a: ロクロ b: 銀粒、堅繩、灰白色 c: 淡青色 e: 良好 f: 1.5以上 g: 底部部	g: 亂世から後半

単位: cm ( ) = 復元値 [ ] = 残存値

出土遺物観察表

図版 番号	機番	出土位置 と埋位	種類	口径/高さ	底径/幅	器高/厚	器形内容	
							a:成形・調整 b:土なし・素地・材料 c:色調 d:釉調 e:健成 f:存痕 g:備考	
13	27	第1面 横成土	青白釉 板瓦	—	—	—	a:ロクロ 底部貼り付け b:焼良・堅膜・灰白色 c:薄青色 e:良好 f:底部片 g:外面貫入	
13	28	第1面 横成土	青戸 串・瓶型	—	—	—	a:ロクロ b:灰白色 e:自然釉 e:良好 f:胴部片 g:3条の沈継が頗る	
13	29	第1面 横成土	瓶戸 丸子	—	—	—	a:ロクロ b:焼良・堅膜・灰白色 e:自然釉 e:良好 f:口縁部分 g:内面に赤色の付着物あり	
13	30	第1面 横成土	瓶戸 折縁深皿	—	(122)	—	a:ロクロ 底部切り口+窓による整形 b:灰黄色 裂け剥け e:良好 f:底部片	
13	31	第1面 横成土	瓶戸 鉢皿	(122)	(65)	35	a:ロクロ 底部切切り b:灰色 燃良・e:自然釉 e:良好 f:坑部片 脚付底板なし	
13	32	第1面 横成土	瓶戸 鉢皿	(142)	(94)	375	a:ロクロ 底部切切り b:精良・灰色 e:自然釉 e:良好 f:底部片 g:内面跡目跡若干	
13	33	第1面 横成土	山形瓶	—	—	—	a:輪筋み b:灰褐色・小粒石・燃膜 c:灰褐色 e:良好 f:口縁部分	
13	34	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:灰褐色・燃膜 c:灰褐色 e:良好 f:口縁部分	
13	35	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:灰褐色・小粒石・燃膜 c:灰褐色 e:良好 f:口縁部分	
13	36	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:灰白色・小粒石・微細 c:灰褐色 e:良好 f:口縁部分 g:5形式	
13	37	第1面 横成土	片口筒II型	—	(226)	—	a:輪筋み b:灰白色・小粒石・微細 c:灰褐色 e:良好 f:底部片 g:内面摩耗・高台脚付有り	
13	38	第1面 横成土	片口筒II型	—	(228)	—	a:輪筋・銅鋸下底部による整形 b:灰白色・小粒石・微細 c:灰褐色 e:良好 f:底部片 g:内面摩耗・高台脚付有り 内底部一部間に変色・5形式	
13	39	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:7形式	
13	40	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:底部片 g:内面摩耗・高台脚付有り	
13	41	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:6a形式	
13	42	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:8形式・内面に十字の線刻あり	
13	43	第1面 横成土	片口筒II型	—	(15.8)	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:内面に範囲あり・文様不明・内底摩耗	
13	44	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:方形容の中に毫毛と他の押印	
13	45	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:斜筋の押印	
13	46	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:底部片 g:良好	
13	47	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:輪筋文の押印	
13	48	第1面 横成土	片口筒II型	65	39	09	b:稍褐色・微細 c:暗褐色・小粒石・微細 c:灰褐色 e:良好 f:底部片 g:直面全周が摩耗	
13	49	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋・微細 b:灰白色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:直面	
13	50	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋・微細 b:灰褐色・白色粒・小粒石・微細 c:明系褐色 e:良好 f:軸部片 g:方形容の中に毫毛	
13	51	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:直面	
13	52	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:内面に十字の線刻あり	
13	53	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:内面に範囲あり・文様不明	
13	54	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:直面	
13	55	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:軸部片 g:方形容の中に毫毛と他の押印	
13	56	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:底部片 g:良好	
13	57	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:口縁部分 g:輪筋文の押印	
13	58	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋み b:褐色・小粒石・微細 c:褐色 e:良好 f:底部片 g:直面	
13	59	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:輪筋・微細 b:灰褐色・小粒石・微細 c:灰褐色 e:良好 f:口縁部分 g:直面	
13	60	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:丸当部草文・外底部0.8cm・内区草文・丸当部不明 b:灰褐色・黄褐色・白色粒・直上 e:執賀 g:1	
13	61	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	1・輪筋のみ造形	
13	62	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面叩き前・輪筋付着・凹面叩きナデ消し・離れ付着・黑色発堀・側面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	63	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面ナデ消し・離れ付着・側面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	64	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	65	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	66	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	67	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	68	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	69	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	70	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	71	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	72	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	73	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	74	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	75	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	76	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	77	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	78	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	79	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	80	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	81	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	82	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	83	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	84	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	85	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	86	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	87	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	88	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	89	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	90	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	91	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	92	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	93	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	94	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	95	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	96	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	97	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	98	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	99	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面窓ケリ叩き前・凹面叩き前・離れ付着・凹面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・執賀・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	100	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:丸当部草文・外底0.8cm・内区草文・丸当部不明 b:灰褐色・黄褐色・白色粒・直上 e:執賀 g:1	
13	101	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面叩き前・離れ付着・凹面叩きナデ消し・離れ付着・黑色発堀・側面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	102	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面叩き前・離れ付着・凹面叩きナデ消し・離れ付着・黑色発堀・側面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	103	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面叩き前・離れ付着・凹面叩きナデ消し・離れ付着・黑色発堀・側面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	104	第1面 横成土	片口筒II型	—	—	—	a:凸面叩き前・離れ付着・凹面叩きナデ消し・離れ付着・黑色発堀・側面窓ケリ整形前・側縁テクスチャ b:灰褐色・微細・白色粒・直上 e:執賀 g:2箱D組	
13	105	第1面 横成土	高付土質品	—	—	—	a:ロクロ 内面ナデ消し b:微細・芸苔・土色・白色粒・白色部分を含む・粉質構造 やや直上 c:橙色 e:良好 f:軸部片 g:古代のロクロ土器容高台环の可能性もあり	
13	106	第1面 横成土	高付土質品	[485]	[0.5]	[0.43]	a:鍛造 g:断面方形	
13	107	第1面 横成土	滑石磨削品	[808]	[5.7]	[1.0]	a:滑石磨削品 膜外側側面付着・内面崩壊をかく男が鍛削してある、仏画であろうか、鏡面に織あらわす面があり、正面となるためミステンプとしての利用は難しい	
13	108	第1面 横成土	滑石磨削品	[508]	[1.1]	[1.2]	a:滑石磨削品	
13	109	第1面 横成土	石高品質	[845]	[10.8]	1.5	a:滑石磨削品	
13	110	第1面 横成土	石高品質	[84]	[5.3]	[1.3]	a:側面削り出し痕はなく丁寧な整形 b:灰褐色 g:鶴嘴面・仕上	
13	111	第1面 横成土	石高品質	[24]	[2.45]	[0.35~0.45]	a:側面削り出し痕はなく丁寧な整形 b:灰褐色 g:鶴嘴面・仕上	
13	112	第1面 横成土	高品質 不透明	[72]	従	[1.2~1.30]	a:内部に0.5×0.3cmの方形を呈する乳頭品が挿入されている。工具の柄か	
13	113	第1面 横成土	多回製品	外径23	内径18	孔径0.6	g:豪華元寶 刻記:北宋1056年 青書	
13	114	第1面 横成土	多回製品	外径24	内径21	孔径0.8	g:粗元寶 刻記:北宋1068年 葉書	
13	115	第1面 横成土	多回製品	外径2.35	内径18	孔径0.7	g:精元寶 刻記:北宋1094年 葉書	
13	116	第1面 横成土	多回製品	外径24	内径21	孔径0.65	g:致和通寶 刻記:北宋1111年 葉書	
13	117	第1面 横成土	多回製品	外径22	内径19	孔径0.7	g:錢橋不明	
13	118	第1面 横成土	多回製品	外径23	内径18.5	孔径0.6	g:錢橋不明	
13	119	第1面 横成土	多回製品	外径22	内径2.0	孔径0.65	g:錢橋不明	
13	120	第2面 遺物	白磁	—	—	—	a:ロクロ b:白色 黄褐色を含む粗粒堅膜 d:青色がかる乳白色透明釉をやや角用施釉 e:施釉	
13	121	第2面 遺物	白磁	—	—	—	e:堅膜 f:軸部片 (小方のため仕様は不確) g:施墨文	

単位: cm ( ) =復元値 [ ] =残存値

## 出土遺物観察表

団版 番号	柱番	出土位置 と層位	種別	口径×高さ	底径／幅	高さ／厚	現状内容	
							a: 断面 b: 前土・素地 c: 色調 d: 摩耗 e: 残存 f: 付存 g: 推考	
17	2	第2面 道標 70	かわらけ	(7.5)	(5.0)	1.85	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑多・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 細粒色・e: 良好 f: 1.12 g: 表面に部分付着	
17	3	第2面 道標 70	かわらけ	(7.4)	(5.2)	2.45	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 細粒色・e: 良好 f: 1.12 g: 表面に部分付着	
17	4	第2面 道標 70	かわらけ	122	8.0	3.25	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 細粒色・e: 良好 f: 1.12 g: 表面に部分付着	
17	5	第2面 道標 74	かわらけ	(8.0)	(5.8)	1.6	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒多・やや粗土・c: 細粒色・e: 良好 f: 1.12 g: 表面に部分付着	
17	6	第2面 道標 76	かわらけ	(7.5)	(5.2)	1.8	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・小石粒・やや粗土・c: 細粒色・e: 良好 f: 1.12 g: 表面に部分付着	
17	7	第2面 道標 76	常滑 片口跡 1類	(5.4)	—	—	a: 軸柄み b: 黄色・砂粒・赤色系・黄石多・右肩・小石粒を含む粗土 c: 黄色 e: 良好・健質 f: 1部式 g: 5.5~6.5型式	
17	8	全製品 鉄	外径2.2 内径2.0 高さ0.7	g: 錆斑消滅 補修前: 北宋 1056年 横書				
17	9	第2面 道標 78	かわらけ	13.9	8.0	3.6	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・良土・芸母薄い・隔壁 c: 細粒色・e: 良好 f: 1.12 g: 表面に部分付着	
17	10	第2面 道標 78	白磁 口元頭	—	—	—	a: ロクロ b: 白色・黑色を含む黄赤色系 d: 黄色がかる白色平透明釉をやや厚く施釉 口部取り e: 良好 f: 1.14 g: 表面に部分付着	
17	11	第2面 道標 78	全製品 鉄	13.01	0.2	0.3	f: 先端は欠損	
17	12	第2面 道標 78	女文わけ	7.7	5.6	1.8	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒多・やや粗土・c: 細粒色・e: 良好 f: 1.12 g: 内側わずかに黒く変色	
17	13	第2面 道標 78	青磁 隔壁支文鏡	—	—	—	a: ロクロ b: 黄色・黑色を含む黄赤色系 w: に気孔あり d: 淡灰青色手透明釉 e: 壁紙 f: 口縁部片 g: 口面わずかに凹凸入り 補修後 極厚 1.3cm → 1.4cm	
17	14	第2面 道標 80	青磁 隔壁跡	4.4	—	—	a: ロクロ b: 黄色・黑色を含む黄赤色系 w: に気孔あり d: 淡灰青色手透明釉 e: 壁紙 f: 底部1.2cm → 内側に粗土と使用によるキズあり i: 浅环形環状電巻窓 13cm → 14cm	
17	15	第2面 道標 81	かわらけ	(32.4)	(8.5)	3.6	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒多・やや粗土・c: 細粒色・e: 良好 f: 1.3~1.3cm 内面に部分付着	
17	16	第2面 道標 82	跳ね品 跳ね具	6.0	1.4	0.8	a: 斜面前面方に斜め溝あり w: 頭部は縦に斜めか? g: 縦の付差差なし	
17	17	第2面 道標 84	かわらけ	(7.3)	(5.2)	1.55	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・良土 c: 淡灰青色・良土・直線	
17	18	第2面 道標 84	常滑 玉手鏡	—	—	—	a: 軸柄み b: 黄色・長・小・砂粒・黄石・小石粒を含む粗土 c: 黄色 d: 口縁部に淡灰青色の自然釉 e: 良好・直線・f: 1.14cm g: 略帶有	
17	19	第2面 道標 84	常滑 鏡	—	—	—	a: 軸柄み b: 黄色・長・小・砂粒・黄石・小石粒を含む粗土 c: 黄色 e: 良好・健質 f: 口縫部 g: 略帶有	
17	20	第2面 道標 85	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.5	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 細粒色・e: 良好 f: 1.14	
17	21	全製品 鉄	外径2.4 内径1.9 高さ0.7	g: 皇宋通鑑 補修: 北宋 1056年 横書 裏面彫り				
17	22	第2面 道標 85	かわらけ	(7.4)	(5.7)	1.7	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・粗土 c: 淡灰青色・良土・直線	
17	23	第2面 道標 87	かわらけ	(9.6)	(7.0)	1.9	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・良土 c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.2程度	
17	24	第2面 道標 89	常滑 片口跡 1類	—	—	—	a: 軸柄み b: 黄色・砂粒・白色系・黄石・右肩・小石粒 e: 良好・健質 f: 口縫部 g: 6.0型式	
17	25	第2面 道標 90	かわらけ	(8.2)	(6.3)	1.6	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 細粒色・e: 良好 f: 1.12 g: 口縁部油膜	
17	26	第2面 道標 91	かわらけ	7.3	5.4	1.5	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 細粒色・e: 良好 f: 1.14 g: 口縁部に油膜	
17	27	第2面 道標 91	かわらけ	10.4	5.6	3.1	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・質粗土・薄手丸頭 c: 黄褐色・e: 良好 f: 2.3程度 g: 口縁部に油膜	
17	28	第2面 道標 91	青磁 片口跡 1類	—	—	—	a: 軸柄み b: 黄色・砂粒・白色系・黄石 c: 口縫部に自然釉あり e: 良好・健質 f: 口縫部 g: 6.0型式	
17	29	第2面 道標 93	白駒品 筋白	2.2	1.7	0.4	a: 全体的に黒いくずれ b: 宝山土? c: 黑灰色 (不定形) g: 黒でして加工か	
17	30	第2面 道標 95	白駒 瓶	—	2.2	—	a: 体部斜切で高さ・体部幅はシナ直角 b: 黄色・白色を含む黄赤色系 w: に気孔あり d: 乳白色内側に印文字・外側部墨	
18	31	第2面 道標 96	かわらけ	(8.0)	(6.1)	1.5	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.14 g: 底部裏	
18	32	第2面 道標 96	かわらけ	(7.6)	(5.5)	1.85	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.14 g: 底部裏	
18	33	第2面 道標 96	かわらけ	(7.5)	(4.8)	2.2	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.14 g: 3.5程度	
18	34	第2面 道標 96	常滑 瓶	—	—	—	a: 軸柄み b: 黄色・砂粒・白色系・黄石・右肩・小石粒を含む粗土 c: 黄褐色 e: 良好・健質 f: 口縫部 g: 6.0型式	
18	35	第2面 道標 98	かわらけ	(9.2)	—	21	a: 「づくね」内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.14 g: 3.5程度	
18	36	第2面 道標 101	かわらけ	(13.1)	(8.6)	34	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.14 g: 3.5程度	
18	37	第2面 道標 101	青滑 片口跡 2類	—	—	—	a: 軸柄み b: 黑灰色・赤褐色・白色系・黄石 c: 口縫部に自然釉あり e: 良好・健質 f: 口縫部 g: 6.0型式	
18	38	第2面 道標 102	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.6	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・粗土 c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.12 g: 表面彫り	
18	39	第2面 道標 104	かわらけ	(7.4)	(6.0)	1.6	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.14 g: 表面の彫りナメ落き斑	
18	40	第2面 道標 104	かわらけ	7.5	6.1	1.6	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.14 g: 完形	
18	41	第2面 道標 104	かわらけ	(12.0)	(7.7)	3.55	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.14 g: 3.5程度	
18	42	第2面 道標 104	白駒品 鏡	1671	[31]	1.21	b: 黑色粘板岩 e: 材味がかった黒色 g: 帽瘤狀・方形彫	
18	43	第2面 道標 105	かわらけ	48	4.0	0.9	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・粗土 c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.12 g: 表面彫り	
18	44	第2面 道標 105	かわらけ	(7.5)	(5.2)	1.8	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.14 g: 表面彫り	
18	45	第2面 道標 105	かわらけ	(7.6)	(5.0)	1.9	a: ロクロ・内赤ナメ・外焼転剥赤切・板状圧痕 b: 黒斑・芸母・本色系・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土・c: 黄褐色・e: 良好 f: 1.14 g: 表面彫り	

単位: cm ( ) = 復元値 [ ] = 残存値

## 出土遺物観察表

回収 番号	機番	出土位置 と土層	種類	口径 / 高さ	底径 / 幅	器高 / 厚	欄内内容
18	46	第2面 遺構105	かわらけ	7.7	5.0	2.0	a: 形成・調整 b: 砂土・素地・材料 c: 色調 d: 釉調 e: 健成 f: 遺存前 g: 考査
18	47	第2面 遺構105	板状鋸盤型	[10.0]	[2.7]	1.0	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒や粗土 c: 黄褐色・赤色粒
18	48	第2面 遺構105	滑石製品	[3.7]	[3.0]	1.7	c: 地底灰土 [口縁部] g: 滑石回転系切 加工用中品か? 開部分を削り、削いている
18	49	第2面 遺構106	てづくね	(13.0)	—	—	a: てづくね 外底指揮痕 口縫部を取りこみ b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 口縫部面取り
18	50	第2面 遺構106	かわらけ	(6.8)	(4.8)	1.6	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部]
18	51	第2面 遺構106	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.7	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒や粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 全周にわたる摩耗
18	52	第2面 遺構106	かわらけ	(7.6)	(4.9)	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 全周にわたる摩耗
18	53	第2面 遺構106	かわらけ	(9.2)	(7.4)	1.7	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・良土 c: 洪褐色
18	54	第2面 遺構106	瓦製品 鉢	5.1	0.4	0.3	a: 四角形状に鍛造 b: 先端部欠損 g: 菊の付着が激しい
18	55	第2面 遺構106	瓦製品 鉢	(4.8)	0.5	0.35	a: 四角形状に鍛造 b: 上部欠損 g: 菊の付着が激しい
18	56	第2面 遺構107	かわらけ	(4.8)	(4.0)	1.0	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・良土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 瓦端部に部分欠損
18	57	第2面 遺構108	かわらけ	(7.0)	(5.3)	1.5	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 瓦端部に部分欠損
18	58	第2面 遺構108	かわらけ	(7.0)	(4.8)	1.7	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部]
18	59	第2面 遺構108	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.6	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 瓦端部に部分欠損
18	60	第2面 遺構108	かわらけ	(7.0)	(4.6)	2.3	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕不規則 b: 微妙・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・良土 c: 黄褐色・良好 [口縫部]
18	61	第2面 遺構108	かわらけ	(11.2)	(6.0)	3.5	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕不明瞭 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・質粗且土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 瓦端部に部分欠損
18	62	第2面 遺構109	かわらけ	7.8	5.8	1.6	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 全周にわたる摩耗
18	63	第2面 遺構109	かわらけ	(7.7)	(5.2)	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 全周にわたる摩耗
18	64	第2面 遺構109	片口跡・皿型	—	—	—	a: 磁器類 b: 素地・印模・直痕・直孔・小石子・小石粒 c: 黄褐色・体部内面に緑色斑の陥れ凹あり g: 良好・焼成・良好 [口縫部] g: 皿型式
18	65	第2面 遺構110	かわらけ	(13.2)	(7.2)	3.4	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 内底部に偏在者
19	66	第2面 遺構111	てづくね	(6.2)	—	1.2	a: てづくね 外底指揮痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・粗土 c: 黄褐色: e: 良好 f: 1/6
19	67	第2面 遺構111	てづくね	(10.0)	—	1.7	a: てづくね 外底指揮痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・良土 c: 黄褐色: e: 良好 f: 1/3
19	68	第2面 遺構111	てづくね	(9.0)	—	1.9	a: てづくね 外底指揮痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・良土 c: 黄褐色: e: 良好 f: 1/4
19	69	第2面 遺構111	てづくね	(8.0)	—	1.9	a: てづくね 外底指揮痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・良土 c: 黄褐色: e: 良好 f: 1/4 (口縫部) に偏在者
19	70	第2面 遺構111	てづくね	(9.2)	—	2.3	a: てづくね 外底指揮痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・良土 c: 橙色: e: 良好 f: 1/4
19	71	第2面 遺構111	てづくね	(12.0)	—	—	a: てづくね 外底指揮痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む質粗且土や粗土 c: 橙色: e: 良好 f: 1/4 (口縫部) に偏在者
19	72	第2面 遺構111	かわらけ	(4.4)	(3.6)	0.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・良土 c: 黄褐色: e: 良好 f: 1/2 (口縫部) 内底
19	73	第2面 遺構111	かわらけ	(7.0)	(5.0)	1.4	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 全周にわたる摩耗
19	74	第2面 遺構111	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.4	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙多・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 全周にわたる摩耗
19	75	第2面 遺構111	かわらけ	7.3	5.4	1.55	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 全周にわたる摩耗
19	76	第2面 遺構111	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.6	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 全周にわたる摩耗
19	77	第2面 遺構111	かわらけ	(7.7)	(6.0)	1.4	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・良土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 全周にわたる摩耗
19	78	第2面 遺構111	かわらけ	(7.7)	(5.7)	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 全周にわたる摩耗
19	79	第2面 遺構111	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 全周にわたる摩耗
19	80	第2面 遺構111	かわらけ	7.5	5.5	1.65	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・良土 c: 黄褐色・良好 f: 完成
19	81	第2面 遺構111	かわらけ	11.0	7.1	3.0	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 皿型式
19	82	第2面 遺構111	かわらけ	(12.0)	(7.4)	3.2	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切・板状直痕 b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色・良好 [口縫部] g: 皿型式
19	83	第2面 遺構111	青磁 浅口瓶	—	—	—	a: ロクロ b: 白色 黄褐色 瓶形を含む質粗且土や粗土 c: 橙色: d: 柱状不透明窓を多く施す
19	84	第2面 遺構111	白磁 瓶	—	—	—	a: ロクロ b: 白色 黄褐色 瓶形を含む質粗且土 c: 橙色: d: 柱状不透明窓を多く施す
19	85	第2面 遺構111	瓶口 人子	4.3	2.8	1.2	a: ロクロ・内底ナメヨコマサ内底ナメ赤切口→ハケゼリ b: 黄色: 硅酸・黑色・泥岩粒・白色粒・白色粒・白色粒・白色粒 c: 黄褐色: d: 口縫部に自然崩壊あり e: 良好 f: 破損 g: 前期後半
19	86	第2面 遺構111	瓶口 人子	—	—	—	a: ロクロ b: 白色 黄褐色 瓶形を含む質粗且土 c: 橙色: d: 柱状不透明窓を多く施す
19	87	第2面 遺構111	瀬戸 四足	—	—	—	a: ロクロ b: 白色 黄褐色 小石粒を含む質粗且土 c: 橙色: d: 柱状不透明窓を多く施す
19	88	第2面 遺構111	常滑 四足	—	—	—	a: ロクロ b: 白色 黄褐色 小石粒を含む質粗且土 c: 橙色: d: 柱状不透明窓を多く施す
19	89	第2面 遺構111	常滑 瓶	—	—	—	a: ロクロ b: 白色 黄褐色 小石粒を含む質粗且土 c: 橙色: d: 柱状不透明窓を多く施す

単位: cm ( ) =復元値 [ ] =残存値

出土遺物觀察表

枚番 号	種番	個體内容									
		口径	長さ	径幅	幅	高さ	厚	形	色	材質	備考
19	90	第2番 通路11	瓦 平瓦	—	—	2.0	—	a: 截形、調整 : b: 勒上、壜地、材質 : c: 色黒度 : d: 摻成 : e: 既成 : f: 進存 : g: 採收			
19	91	第2番 通路12	かわらけ	(6.9)	(5.4)	1.4	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 完形			
19	92	第2番 通路12	かわらけ	7.8	5.6	1.6	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 完形			
19	93	第2番 通路12	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.7	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 完形			
19	94	第2番 通路12	かわらけ	(12.4)	(7.8)	3.3	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 面部に部分付着			
19	95	第2番 通路12	雲母 雲	—	—	—	—	a: 脱落 : b: 黒色鉄・錫鉛・白石・小石粒 : c: 喙褐色 : d: 内底面部に部分的に灰化的自然降解あり : e: 良好 : f: 完形 : g: 既成			
19	96	第2番 通路14	かわらけ	(7.7)	(6.0)	1.6	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・白色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 完形			
19	97	第2番 通路14	かわらけ	(11.7)	(7.0)	3.1	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・白色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 既成			
19	98	第2番 通路14	雲母 雲	—	—	—	—	a: 脱落 : b: 黑色鉄・錫鉛・白石・長石・右 : c: 黒褐色 : d: 良好 : 破裂 : f: 口縁部 : g: g型式 : 中世宮殿屋根の構成 : d: 類似 : 相当 : 3段 : 6組			
19	99	第2番 通路16	かわらけ	7.6	5.7	1.6	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 完形			
19	100	第2番 通路16	かわらけ	7.4	5.1	1.7	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 完形			
19	101	第2番 通路17	雲母 雲	—	—	—	—	a: 脱落 : b: 黑色鉄・錫鉛・白石 : c: 黒褐色 : d: 内底口縁部に自然降解あり : e: 良好 : 破裂 : f: 1.6 : g: 60° 型式			
19	102	第2番 通路18	石製品 石	(4.3)	(2.5)	0.6	—	a: 破損 : b: 長石 : c: 黒褐色 : d: 良好 : 破裂 : f: 口縁部 : g: 既成			
19	103	第2番 通路19	雲母 雲	—	—	—	—	a: 脱落 : b: 黑色鉄・錫鉛・白石 : c: 黒褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 完形			
19	104	第2番 通路122	かわらけ	7.3	4.9	1.6	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 既成			
19	105	第2番 通路122	かわらけ	(13.2)	(7.4)	3.0	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 既成			
19	106	第2番 通路122	かわらけ	(13.0)	(7.8)	3.2	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 既成			
19	107	第2番 通路122	かわらけ	(13.0)	(7.6)	3.1	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 2.3 : g: 既成			
19	108	第2番 通路124	瓦製品 瓦	[4.9]	0.6	0.3	—	a: 四角形状に断面 : f: 先端部欠損 : g: 端の付着が強い			
19	109	第2番 通路125	かわらけ	(6.6)	(5.0)	1.4	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 既成			
19	110	第2番 通路124	てづくね	(8.8)	—	1.4	—	a: てづくね : b: 黑色鉄・錫鉛 : c: 黃褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 既成			
19	111	第2番 通路124	てづくね	(12.8)	—	—	—	a: てづくね : 外底指痕 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄 : c: 黃褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 既成			
19	112	第2番 通路124	てづくね	(12.0)	—	—	—	a: てづくね : 外底指痕 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 既成			
19	113	第2番 通路126	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.6	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.3 : g: 口縁部に擦痕			
20	114	第2番 通路126	かわらけ	(7.7)	(5.0)	1.6	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.7 : g: 面部に付着			
20	115	第2番 通路126	かわらけ	(7.7)	(5.6)	2.1	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄 : c: 黄褐色 : d: 口縁部に付着			
20	116	第2番 通路126	雲母 雲	—	—	—	—	a: 脱落 : b: 黑色鉄・錫鉛・白石・小石粒 : c: 黑褐色 : d: 口縁部に付着 : e: 良好 : f: 1.6 : g: 7型式			
20	117	第2番 通路126	瓦製品 瓦	[12.3]	0.5	0.4	—	a: 四角形状に断面 : f: 先端部欠損 : g: 端の付着が強い			
20	118	第2番 通路126	瓦製品 瓦	外径24.4 内径18.8 孔径0.7	—	—	—	a: 麻元瓦 : 雷文瓦 : 面瓦 : 面瓦 : 唐草 : 南宋11世紀 : 棘造			
20	119	第2番 通路127	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.5	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.3 : g: 面部に付着			
20	120	第2番 通路128	かわらけ	(12.8)	(8.0)	2.1	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.3 : g: 面部に付着			
20	121	第2番 通路130	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.6	—	a: 脱落 : b: 黑色鉄・錫鉛・白石 : c: 黑褐色 : d: 口縁部に付着 : e: 良好 : f: 1.3 : g: 既成			
20	122	第2番 通路130	かわらけ	7.8	5.9	2.3	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.4 : g: 完形			
20	123	第2番 通路130	かわらけ	8.7	6.4	1.9	—	a: 脱落 : b: 黑色鉄・錫鉛 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.6 : g: 面部に付着			
20	124	第2番 通路130	かわらけ	10.8	6.4	3.0	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 2.3 : g: 口縁部に油漬痕			
20	125	第2番 通路130	かわらけ	12.7	7.7	3.65	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 2.3 : g: 既成			
20	126	第2番 通路130	雲母 雲	—	—	—	—	a: 脱落 : b: 黑色鉄・錫鉛・白石 : c: 黄褐色 : d: 口縁部と底部に自然降解あり : e: 良好 : 破裂 : f: 1.6 : g: 既成			
20	127	第2番 通路131	てづくね	(9.0)	—	1.5	—	a: てづくね : 外底指痕 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂 : c: 黄褐色 : d: や良 : e: や弱 : f: 1.4 : g: 既成			
20	128	第2番 通路131	てづくね	(8.0)	—	1.4	—	a: てづくね : 外底指痕 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂 : c: 黄褐色 : d: や良 : e: や弱 : f: 1.4 : g: 既成			
20	129	第2番 通路134	てづくね	(9.8)	—	1.6	—	a: てづくね : 外底指痕 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂 : c: 黄褐色 : d: 面部に付着			
20	130	第2番 通路134	かわらけ	(12.2)	(8.6)	2.1	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂・泥瓦呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1.3 : g: 口縁部に付着			
20	131	第2番 通路134	かわらけ	67	4.5	1.9	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 完形			
20	132	第2番 通路139	かわらけ	(10.8)	(6.8)	3.0	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1/4 : g: 既成			
20	133	第2番 通路139	かわらけ	(12.7)	7.5	3.2	—	a: ロクロ・内底ナード・外底回転切削・板状圧瓦 : b: 錫鉛・雲母・赤色鉄・海綿骨呂 : c: 黄褐色 : d: 良好 : f: 1/2 : g: 2/3 : h: 休眠 : i: 表面に剥離した土の上の砂の間に油漬痕による跡がある : j: 既成			

单位:cm ( ) =復元値 [ ] =残存値

## 出土遺物観察表

回収 番号	機番	出土位置 と土層	種別	口径/高さ	底径/幅	器高/厚	摘要	欄内内容
21	134	第2面 道標 133-8	かわらけ	7.1	5.0	1.7	a: 形成、調整 b: 砂土、素地、材料 c: 乾燥 d: 濡潤 e: 干燥 f: 未造形 g: 番考	
21	135	第2面 道標 133-15	かわらけ	7.3	5.5	1.7	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口沿部に歪がるのみあり、成形時の不完全?	
21	136	第2面 道標 133-18	かわらけ	7.1	5.0	1.7	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形	
21	137	第2面 道標 133-15	かわらけ	7.7	5.8	1.9	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形	
21	138	第2面 道標 133-24	かわらけ	7.6	5.8	1.5	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形	
21	139	第2面 道標 133-22	かわらけ	7.4	5.2	1.9	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 内外壁に薄く黒変色	
21	140	第2面 道標 133-12	かわらけ	7.6	5.3	1.6	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 命み	
21	141	第2面 道標 133-6	かわらけ	8.3	6.3	1.9	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形	
21	142	第2面 道標 133-45	かわらけ	7.7	5.3	1.65	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形	
21	143	第2面 道標 133-8	かわらけ	8	5.5	1.7	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形	
21	144	第2面 道標 133-8	かわらけ	7.6	5.0	1.85	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	145	第2面 道標 133-21	かわらけ	7.2	5.2	1.6	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形	
21	146	第2面 道標 133-11	かわらけ	7.6	5.4	1.55	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、泥岩粒、小石粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 内底面ナラ隔壁を削取した後あり	
21	147	第2面 道標 133-3	かわらけ	7.5	5.1	1.7	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	148	第2面 道標 133-15	かわらけ	7.8	5.3	2.0	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙多-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形	
21	149	第2面 道標 133-10	かわらけ	7.8	5.4	1.6	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙多-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 小石粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: ほぼ形	
21	150	第2面 道標 133-7	かわらけ	8	5.7	1.5	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、泥岩粒、小石粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	151	第2面 道標 133-8	かわらけ	7.3	5.0	1.5	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: ほぼ形	
21	152	第2面 道標 133-15	かわらけ	7.4	5.6	1.55	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙多-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	153	第2面 道標 133-25	かわらけ	7.2	5.0	1.7	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙多-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 小石粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	154	第2面 道標 133-5	かわらけ	7.7	5.3	1.7	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、泥岩粒、小石粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	155	第2面 道標 133-2	かわらけ	7.5	5.3	1.6	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形	
21	156	第2面 道標 133-1	かわらけ	7.2	4.8	1.7	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	157	第2面 道標 133-15	かわらけ	7.4	5.1	1.65	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	158	第2面 道標 133-25	かわらけ	7.2	5.0	1.7	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙多-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 小石粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	159	第2面 道標 133-21	かわらけ	7.7	5.3	1.7	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、泥岩粒、小石粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	160	第2面 道標 133-7	かわらけ	12.1	7.5	4.1	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	161	第2面 道標 133-17	かわらけ	12.2	8.0	3.2	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙多-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	162	第2面 道標 133-4	かわらけ	12.3	8.3	3.4	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形	
21	163	第2面 道標 133-15	かわらけ	12.2	7.5	3.5	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形	
21	164	第2面 道標 133-14	かわらけ	12.3	7.9	3.35	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形 g: ほぼ形	
21	165	第2面 道標 133-26	かわらけ	12.7	8.0	3.1	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙多-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 内面に油膜痕に黒く変色	
21	166	第2面 道標 133-7	かわらけ	12.4	7.7	3.45	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形	
21	167	第2面 道標 133-9	かわらけ	(12.6)	(7.6)	4.1	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	168	第2面 道標 133-1	かわらけ	12.8	7.9	3.4	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形 g: 口沿部に油膜痕	
21	169	第2面 道標 133-13	かわらけ	12.5	7.0	3.0	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3才以上 g: 口沿部に油膜痕	
21	170	第2面 道標 133-16	かわらけ	12.0	8.0	3.3	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: ほぼ完形	
21	171	第2面 道標 133-15	かわらけ	11.9	6.6	3.65	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3才以上 g: 口沿部に油膜痕	
21	172	第2面 道標 133-20	かわらけ	12.3	7.4	3.3	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3才以上 g: 口沿部に油膜痕	
21	173	第2面 道標 133-8	かわらけ	13.9	8.8	3.9	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3才以上 g: 口沿部に油膜痕	
21	174	第2面 道標 133-19	かわらけ	(16.7)	10.6	3.5	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 微妙-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3才以上 g: 内面に油膜痕	
21	175	第2面 道標 133-1	青白磁 海綿芯	(5.6)	—	(3.2)	a: ロクロ 内底ナラ 外底回転系切+板状圧痕 b: 青白磁-雲母-赤色粒、海綿骨芯-泥岩粒 やや粗上 c: 黄褐色 e: 有り f: 3才以上 g: 内面に油膜痕	
21	176	第2面 道標 133-15	青白磁	—	—	—	a: 軸輪輪 b: 色調と青白磁共に白 海綿芯-白色粒、青白磁-長石、小石粒 d: 口縁部に油膜痕	
21	177	第2面 道標 133-15	青白磁	片口1型	—	—	a: 軸輪輪 b: 色調と共に白 海綿芯-白色粒、青白磁-長石、小石粒 d: 口縁部に油膜痕	

単位: cm ( )=復元値 [ ]=残存値

## 出土遺物観察表

図版番号	柱番	出土位置	種別	口径×長さ	底径×幅	高さ/厚	観察内容	
							a:成形・調整	b:土色・素地・材質
21	178	第2面 溝23	全底製品 鉢	外径2.4	内径2.1	孔径0.7	g: 地元元寶 初唐 北宋 1064年 葉書	
22	1	第2面 面上	てづくね	(86)	—	1.5	a: てづくね 内底ナメ 外底指捺ナメ消し b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや甘口 f: 1/3	
22	2	第2面 面上	てづくね	(128)	—	3.5	a: てづくね 内底ナメ 外底指捺ナメ消し b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
22	3	第2面 面上	てづくね	(136)	—	3.4	a: てづくね 内底ナメ 外底指捺ナメ消し b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
22	4	第2面 面上	てづくね	(130)	—	3.15	a: てづくね 内底ナメ 外底指捺ナメ消し + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3	
22	5	第2面 面上	かわらけ	675	5.2	1.35	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/6	
22	6	第2面 面上	かわらけ	715	5.0	1.85	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5	
22	7	第2面 面上	かわらけ	(76)	(5.4)	1.95	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3	
22	8	第2面 面上	かわらけ	74	5.1	1.85	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
22	9	第2面 面上	かわらけ	(77)	(6.0)	1.8	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
22	10	第2面 面上	かわらけ	(80)	(6.0)	1.85	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや甘口 f: 1/3	
22	11	第2面 面上	かわらけ	(80)	(5.9)	1.65	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや甘口 f: 1/2	
22	12	第2面 面上	かわらけ	76	5.4	1.6	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3	
22	13	第2面 面上	かわらけ	75	5.1	1.5	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/6	
22	14	第2面 面上	かわらけ	(7.8)	(5.5)	1.55	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや甘口 f: 1/3	
22	15	第2面 面上	かわらけ	(7.8)	(5.9)	1.7	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
22	16	第2面 面上	かわらけ	77	5.5	1.85	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
22	17	第2面 面上	かわらけ	75	5.1	1.8	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/6	
22	18	第2面 面上	かわらけ	(7.2)	(4.6)	1.8	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
22	19	第2面 面上	かわらけ	10.2	5.5	3.35	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 口沿部強削	
22	20	第2面 面上	かわらけ	(12.6)	(8.0)	3.1	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
22	21	第2面 面上	かわらけ	(12.1)	(8.8)	3.1	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3	
22	22	第2面 面上	かわらけ	(12.0)	(7.6)	3.25	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや甘口 f: 1/3	
22	23	第2面 面上	かわらけ	(12.4)	(7.6)	3.35	a: ロクロ・内底ナメ 外底指捺系切 + 板状圧痕 b: 微妙・芸母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 口沿部強削	
22	24	青磁 蓮瓣弁文瓶	—	—	—	—	a: ロクロ b: 精真堅緻 c: 白灰色 d: 淡褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 口沿部強削	
22	25	青磁 折腰體	—	—	—	—	a: ロクロ b: 精真堅緻 c: 白灰色 d: 淡褐色 e: 良好 f: 1/3	
22	26	白磁 口沿周	—	(9.8)	(5.8)	1.9	a: ロクロ b: 黒色微細 精真堅緻 c: 白灰色 d: 淡白色 e: 良好 f: 口縁部分 g: 口縁部強削	
22	27	白磁 口沿	—	—	(7.0)	—	a: ロクロ b: 黒色微細 精真堅緻 c: 白灰色 d: 淡白色 e: 良好 f: 口部	
22	28	白磁 口沿周	(13.4)	—	—	—	a: ロクロ b: 黑色微細 精真堅緻 c: 白灰色 d: 淡褐色 e: 良好 f: 口縁部分 g: 口縁部強削	
22	29	青白磁 梅瓶	—	(8.8)	—	—	b: 精真堅緻 c: 白灰色 d: 淡褐色 e: 良好 f: 口縁部分	
22	30	青白磁 梅瓶	—	—	—	—	b: 精真堅緻 c: 白灰色 d: 淡褐色 e: 良好 f: 口縁部分	
22	31	青白磁 片口跡 1個	—	—	—	a: 脇彫み b: 白灰色 肥粒・右肩・小石粒 c: 淡褐色 d: 淡褐色 e: 良好 視界: f: 口縁部分 g: fu形式		
22	32	青白磁 片口跡 1個	—	—	—	a: 脇彫み b: 白灰色 肥粒 c: 淡褐色 d: 淡褐色 e: 良好 視界: f: 口縁部分 g: fu形式		
22	33	青白磁 片口跡 1個	—	—	—	a: 脇彫み b: 白灰色 肥粒 c: 淡褐色 d: 淡褐色 e: 良好 視界: f: 口縁部分 g: fu形式		
22	34	石飼器 瓶	(7.2)	(4.0)	(3.0)	a: 2面遺存 c: 白灰色 g: 伊予南・中級		
22	35	全底製品 鉢	—	外径2.4	内径2.0	孔径0.6	g: 天祐通寶 初唐 北宋 1017年 楠秀	
22	36	第2面 面上	全底製品 鉢	外径2.3	内径1.9	孔径0.7	g: ■■■■■	
22	37	第2面 面上	全底製品 鉢	外径2.4	内径2.0	孔径0.7	g: 熙寧元寶 初唐 北宋 1068年 葉書	
22	38	第2面 面上	全底製品 鉢	外径2.3	内径1.9	孔径0.7	g: 宋元元寶 初唐 北宋 1101年 葉書	
22	39	第2面 面上	全底製品 鉢	外径2.4	内径2.1	孔径0.7	g: 政和通寶 初唐 北宋 1111年 分辨	
22	40	第2面 面上	全底製品 鉢	外径2.5	内径2.0	孔径0.7	g: 繁縛不明	
22	41	第2面 面上	金屬製品 鉢	外径2.3	内径1.8	孔径0.7	g: 元祐通寶 初唐 北宋 1078年 葉書	
23	1	第2面 燒成土	てづくね	(98)	—	(2.1)	a: てづくね 内底ナメ 外底指捺ナメ消し b: 微妙・芸母・赤色粒・黑色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4	
23	2	第2面 燒成土	てづくね	(95)	—	2.1	a: てづくね 内底ナメ 外底指捺ナメ消し b: 微妙・芸母・赤色粒・黑色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3	

単位:cm ( )=復元値 [ ]=残存値

## 出土遺物観察表

層級 番号	既番	出土位置 出土地点	種別	口径/高さ	底径/幅	器高/厚	欄目内容
23 3		第2面 構成土	てづくね	(9.6)	—	1.5	a: 形成。調整。b: 砂土・素地・材料 c: 色調 d: 釉調 e: 健成 f: 道存値 g: 備考 e: てづくね 内底ナデ・外底回転ナデ消し b: 微妙、雲母、赤色粒・黒色粒、海綿骨芯 真土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/3
23 4		第2面 構成土	てづくね	(9.4)	—	1.8	a: てづくね 内底ナデ・外底回転ナデ消し b: 微妙、雲母、海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 小良好 f: 1/2
23 5		第2面 構成土	てづくね	(12.2)	—	3.3	a: てづくね 内底ナデ・外底回転ナデ消し b: 微妙、雲母、海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 小良好 f: 1/3
23 6		第2面 構成土	てづくね	(12.0)	—	—	a: てづくね 内底ナデ・外底回転ナデ消し b: 微妙、雲母、赤色粒・黒色粒、海綿骨芯 良土 c: 淡黄色 e: 良好 f: 1/4
23 7		第2面 構成土	かわらけ	(6.7)	(6.2)	0.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、小石粒・海綿骨芯 粗土 c: 淡褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 内部の凹みが近く底と口肩部がほぼ平等となる 外側面は窓ケズり整形によって壁を形成
23 8		第2面 構成土	かわらけ	(9.2)	(6.6)	2.0	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切・状況仄 b: 微妙、雲母、赤色粒・黒色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 淡褐色 e: 良好 f: 1/2
23 9		第2面 構成土	かわらけ	(8.0)	(6.8)	1.85	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、赤色粒、海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 小良好 f: 1/3
23 10		第2面 構成土	かわらけ	(9.1)	(7.8)	1.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
23 11		第2面 構成土	かわらけ	(8.6)	(7.2)	1.7	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 未切り底をナデ消し b: 微妙、雲母、赤色粒、海綿骨芯 真土 c: 良好 e: 良好 f: 1/2
23 12		第2面 構成土	かわらけ	7.5	5.4	1.25	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、赤色粒、泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/1 完形
23 13		第2面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.4	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 不明 b: 微妙、雲母、赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
23 14		第2面 構成土	かわらけ	8.2	6.0	1.95	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、赤色粒、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 完形
23 15		第2面 構成土	かわらけ	7.55	5.6	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 完形
23 16		第2面 構成土	かわらけ	8.5	5.6	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、赤色粒、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 小石粒・海綿骨芯 粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4
23 17		第2面 構成土	かわらけ	8.1	5.4	1.4	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 不明 b: 微妙、雲母、赤色粒、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
23 18		第2面 構成土	かわらけ	7.0	5.6	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、赤色粒、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 帽端削除
23 19		第2面 構成土	かわらけ	7.2	5.3	1.4	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、赤色粒、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
23 20		第2面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.4	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、赤色粒、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
23 21		第2面 構成土	かわらけ	7.8	5.5	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、赤色粒、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/1 完形
23 22		第2面 構成土	かわらけ	7.3	5.0	1.7	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、赤色粒、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 帽端削除
23 23		第2面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.3)	1.7	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、赤色粒、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
23 24		第2面 構成土	かわらけ	(8.1)	(5.7)	1.80	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 未切りの垂直面が複数まで残っている
23 25		第2面 構成土	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.6	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
23 26		第2面 構成土	かわらけ	(6.6)	(4.6)	1.8	a: ロクロ・外底回転希切 b: 微妙、雲母、赤色粒、海綿骨芯 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 1/4
23 27		第2面 構成土	かわらけ	7.2	5.0	1.85	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 帽端削除
23 28		第2面 構成土	かわらけ	7.4	4.5	1.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 帽端削除
23 29		第2面 構成土	かわらけ	8.1	5.3	1.95	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: ほぼはぎ
23 30		第2面 構成土	かわらけ	(7.4)	(4.4)	2.0	a: ロクロ・外底回転希切 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 帽端削除
23 31		第2面 構成土	かわらけ	11.8	8.1	3.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 g: ほぼはぎ
23 32		第2面 構成土	かわらけ	(11.6)	(6.9)	3.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
23 33		第2面 構成土	かわらけ	11.7	7.0	3.3	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
23 34		第2面 構成土	かわらけ	11.3	6.6	3.1	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/1 完形
23 35		第2面 構成土	かわらけ	12.3	8.7	3.05	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: ほぼはぎ
23 36		第2面 構成土	かわらけ	(12.7)	(7.6)	3.45	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
23 37		第2面 構成土	かわらけ	11.7	7.6	3.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
23 38		第2面 構成土	かわらけ	(12.0)	(8.4)	3.2	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: ほぼはぎ
23 39		第2面 構成土	かわらけ	(12.7)	(8.0)	3.3	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
23 40		第2面 構成土	かわらけ	(12.5)	(7.5)	3.3	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
23 41		第2面 構成土	かわらけ	12.5	7.6	3.0	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: ほぼはぎ
23 42		第2面 構成土	かわらけ	12.6	8.6	2.9	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
23 43		第2面 構成土	かわらけ	13.4	7.4	3.4	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: ほぼはぎ
23 44		第2面 構成土	かわらけ	(12.0)	(8.0)	3.55	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
23 45		第2面 構成土	かわらけ	12.5	8.5	3.3	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
23 46		第2面 構成土	かわらけ	(12.4)	(7.8)	3.4	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転希切・板状圧痕 b: 微妙、雲母、黑色粒、泥岩粒・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3

単位: cm ( ) =復元値 [ ] =残存値

## 出土遺物観察表

図版番号	柱番	出土位置	種別	口径×長さ	底径／幅	高さ／厚	観察内容					
							a: 成形・調整	b: 砂土・素地・材質	c: 色調	d: 構造	e: 残度	f: 遺存状
23	47	第2面 構成土	青磁 罐蓋文瓶	—	—	—	a: □クロ b: 黒直堅壁 c: 黑色 d: 从绿色 e: 良好 f: □口縁部片					
23	48	第2面 構成土	青磁 罐	—	—	—	a: □クロ b: 黑色微砂・精良堅壁 c: 从白色 d: 从绿色 e: 良好 f: □口縁部片	g: 无文				
23	49	第2面 構成土	青磁 罐	—	—	—	a: □クロ b: 黑直堅壁 c: 从白色 d: 从绿色 e: 良好 f: □口縁部片	g: 无文				
23	50	第2面 構成土	青磁 罐	—	—	—	a: □クロ b: 黑直堅壁 c: 黑色 d: 从绿色 e: 良好 f: □口縁部片	g: 轮花型				
23	51	第2面 構成土	青磁 钵	(208)	—	—	a: □クロ b: 黑直堅壁 c: 从白色 d: 从绿色 e: 良好 f: □口縁部片	g: 外面輪花弁文 次熱全 受け鉢調査				
23	52	第2面 構成土	青磁 折腰钵	—	4.4	—	a: □クロ b: 黑直堅壁 c: 从白色 d: 从绿色 e: 良好 f: □底部片	g: 无文 高台内部露胎, 高 台部には施釉・火熱全受け鉢調査				
23	53	第2面 構成土	青磁 罐	—	(5.6)	—	a: □クロ b: 黑直堅壁 c: 从白色 d: 青绿色 e: 良好 f: □底部片	g: 外面に輪状の連続した文 様 小型 53 と 54 に同一個体の可能性あり				
23	54	第2面 構成土	青磁 罐	—	—	—	a: □クロ b: 黑直堅壁 c: 从白色 d: 青绿色 e: 良好 f: □脚部片	g: 外面に輪状の連続した文 様 小型 53 と 54 に同一個体の可能性あり				
23	55	第2面 構成土	白磁 罐	—	—	—	b: 黑直堅壁 c: 从白色 d: 不透明	e: 白色 f: □口縁部片	g: 内面印花文			
23	56	第2面 構成土	白磁 罐	—	—	—	a: □クロ b: 白色 精良堅壁 c: 白色 d: 透明釉 e: 良好 f: □口縁部片	g: 内面印花文				
23	57	第2面 構成土	白磁 口火碗	—	—	—	a: □クロ b: 黑色微砂・精良堅壁 c: 从白色 d: 淡灰黄色 e: 良好 f: □口縁部片	g: □口縁部露胎				
23	58	第2面 構成土	白磁 口火碗	—	—	—	a: □クロ b: 黑色微砂・精良堅壁 c: 从白色 d: 淡灰黄色 e: 良好 f: □口縁部片	g: □口縁部露胎				
23	59	第2面 構成土	白磁 口火碗	—	—	—	a: □クロ b: 白色 精良堅壁 d: 乳白色半透明釉 薄い e: 良好 f: □口縁部片	g: □口縁部露胎				
23	60	第2面 構成土	白磁 口火碗	—	—	—	a: □クロ b: 黑色微砂・精良堅壁 c: 从白色 d: 淡灰黄色 e: 良好 f: □口縁部片	g: □口縁部露胎				
23	61	第2面 構成土	青白磁 合子蓋	(5.8)	—	2.0	a: 壶型くり b: 精良堅壁 c: 白色 d: 淡水色 e: 良好 f: □口縁部片	g: 轮花型				
23	62	第2面 構成土	綠釉 壺	—	—	—	f: 部品小片 内面墨化					
24	63	第2面 構成土	青白磁 器形不明	—	(3.4)	—	a: □クロ b: 外底回転布面 b: 雜斑・黑色粒 やや粗い c: 从灰色 e: 良好 f: □底部片	g: 窄小				
24	64	第2面 構成土	山茶碗	—	(6.2)	—	a: □クロ b: 粘砂・長石・小石粒・石英 c: 从灰色 e: 良好 f: 壱質 f: 1/4 g: 尾張型, 7形式					
24	65	第2面 構成土	青白磁 片口钵 1型	—	—	—	a: 輪積み b: 从色 粘砂・長石・小石粒 c: 从灰色 d: 内面自然降灰 e: 良好 壱質 f: □口縁部片	g: 口底部露胎に黒色の付着物あり				
24	66	第2面 構成土	青白磁 片口钵	—	—	—	a: □クロ b: 黑色微砂・精良堅壁 c: 从白色 d: 淡灰黄色 e: 良好 f: □口縁部片	g: □口縁部露胎				
24	67	第2面 構成土	片口钵 1型	—	—	—	a: 輪積み b: 从色 粘砂・長石・小石粒 c: 从灰色 d: □底部片 内面自然降灰 e: 良好 壱質 f: □口縁部片	g: 6形式				
24	68	第2面 構成土	片口钵 1型	—	—	—	a: 輪積み b: 从色 粘砂・長石・小石粒 c: 从灰色 d: 亂形 e: 良好 壱質 f: □脚部片	g: 脊椎鳥子文の押印				
24	69	第2面 構成土	片口钵 1型	—	—	—	a: 輪積み b: 从色 粘砂・長石・小石粒 c: 从灰色 d: 亂形 e: 良好 壱質 f: □脚部片	g: 文様不規の押印				
24	70	第2面 構成土	片口钵 1型	—	—	—	a: 輪積み b: 从色 粘砂・長石・小石粒 c: 从灰色 d: 亂形 e: 良好 壱質 f: □脚部片	g: 脊椎鳥子文の押印				
24	71	第2面 構成土	青白磁 甕	—	—	—	a: 輪積み b: 亂形 粘砂・長石・小石粒 c: 从灰色 d: 乱形 e: 良好 壱質 f: □脚部片	g: 乱形				
24	72	第2面 構成土	瓦	—	—	—	a: □クロ b: 雜斑・砂付付・凹面方眼のナゲ・雑斑付付・圓筒丁寧な器蓋クリ彫形 壁 b: 从色 砂付・石粒・白色粒・軸質・瓦質 e: 壱質	f: 乱形				
24	73	第2面 構成土	石製品	(5.2)	5.45	(1.05)	a: 画面に剥落を認めた前頭あり、製作途中 c: 系帶色					
24	74	第2面 構成土	石製品 砾石	(3.7)	3.5	(0.55)	c: 黄褐色 g: 喰入(瓦)下谷・岸・仕上砾					
24	75	第2面 構成土	石製品 砾石	(3.5)	(2.75)	0.6	a: 1面のみ遺存 裏面切り出し板 c: 黄褐色 g: 喰入(中山)岸・仕上砾					
24	76	第2面 構成土	自然石 水晶	(6.3)	(1.7)	(1.0)	g: 加工途中か? 剥り出し痕あり					
24	77	第2面 構成土	金属製品 鉄	外径24・内径19.5・孔径0.65	—	—	g: 藟原元寶 初鋤: 北宋1034年 茲書					
24	78	第2面 構成土	金属製品 鉄	外径24・内径19・孔径0.7	—	—	g: 至和通寶 初鋤: 北宋1054年 茲書					
24	79	第2面 構成土	金属製品 鉄	外径23・内径20・孔径0.6	—	—	g: 熙寧元宝 初鋤: 北宋1068年 茲書					
25	1	かわらけ	(9.2)	(7.4)	1.8	—	a: □クロ b: 内底ナマ・外底回転系切・板状压痕 c: 雜斑・雲母・海綿骨芯・泥岩質・良土 c: 稲色 e: 良好 f: 1/2					
25	2	第3面 道場142	片口钵 1型	—	—	—	a: 輪積み b: 从色 粘砂・白色粒・黑色粒・小石粒 c: 从灰色 e: 良好 壱質 f: □口縁部片	g: 5型式				
25	3	第3面 道場142	片口钵 1型	—	—	—	a: 輪積み b: 从色 粘砂・白色粒・黑色粒・小石粒 c: 从灰色 d: 自然降灰 e: 良好 壱質 f: □口縁部片	g: 6a型式				
25	4	第3面 道場146	石製品 砾石	(7.7)	2.9	2.1	c: 黄褐色 g: 伊尹座・中嶽 4面使用					
25	5	第3面 道場148	かわらけ	(12.0)	(8.2)	2.8	a: □クロ b: 内底ナマ・外底回転系切 b: 雜斑・黑色粒・雲母・海綿骨芯・泥岩質・やや粗土 c: 稲色 e: 良好 f: 1/2	g: 2型式				
25	6	第3面 道場150	片口钵 1型	—	—	—	a: 輪積み b: 从色 粘砂・白色粒・黑色粒・小石粒 c: 从灰色 d: 自然降灰 e: 良好 壱質 f: □口縁部片	g: 5型式				
25	7	第3面 道場150	片口钵 1型	—	—	—	a: 輪積み b: 从色 粘砂・白色粒・黑色粒・小石粒 c: 从灰色 d: 自然降灰 e: 良好 壱質 f: □口縁部片	g: 6b型式				
25	8	第3面 道場150	金属製品 鉄	外径24・内径24・孔径0.67	—	—	g: 重定通寶 初鋤: 南宋1236年 桥背 茲書	f: 九				
25	9	第3面 道場153	かわらけ	(7.4)	(6.0)	1.4	a: □クロ 内底ナマ・外底回転系切・板状压痕 b: 雜斑・雲母・海綿骨芯・泥岩質・やや粗土 c: 稲色 e: 良好 f: 1/2	g: 2型式				
25	10	第3面 道場155	かわらけ	(6.8)	(5.0)	1.8	a: □クロ 内底ナマ・外底回転系切 b: 雜斑・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩質 やや粗土 c: 稲色 e: 良好 f: 1/2	g: 2型式				
25	11	第3面 道場157	片口钵 1型	—	—	—	a: 輪積み b: 从色 粘砂・白色粒・黑色粒・赤色粒 c: 从灰色 d: 自然降灰 e: 良好 壱質 f: □口縁部片	g: 6a型式				

単位: cm ( ) = 復元値 [ ] = 残存値

## 出土遺物観察表

図版 番号	機番	出土位置 出土地層	種別	口径/高さ	底径/幅	器高/厚	輪形内部	
							a: 成形・調整 b: 破土・素地・材料 c: 色調 d: 釉調 e: 健成 f: 遺存値 g: 備考	
26	12	第3面 遺構159	青磁 輪面文鏡	—	—	—	a: ロクロ b: 黄白色 精良堅致 d: 从绿色 e: 健成 f: 口縁部片	
26	13	第3面 遺構159	常滑 片口鉢上盤	—	—	—	a: 輪輪み b: 黄色 痕致・白色粒・黑色粒・小石粒 c: 黄色 d: 自然隕灰 e: 良好 f: 遺存 g: 1:13	
26	14	第3面 遺構159	常滑 盤	—	—	—	a: 輪輪み b: 黑灰色 砂粒・白色粒・黑色粒 真土 c: 黑褐色 e: 良好 f: 破損 g: 断片	
26	15	第3面 遺構160	真製品 鏡	7.1	0.5	0.3	f: ほば完形 g: 断面方瓶	
26	16	第3面 遺構162	てづくね	(9.1)	—	1.8	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪ナテ消し b: 微緻・雲母・赤色粒・海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:4	
26	17	第3面 遺構162	てづくね	(13.0)	—	3.2	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪ナテ消し・板状圧痕 b: 微緻・雲母・海綿骨芯 真土 c: 棕色 e: 良好 f: 2:3	
26	18	第3面 遺構162	てづくね	(12.0)	—	—	a: てづくね 精良堅致前 b: 雷紋・雲母・海綿骨芯・赤色粒 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:4	
26	19	第3面 遺構162	かわらけ	4.9	4.3	1.2	a: ロクロ・内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:12	
26	20	第3面 遺構162	かわらけ	(9.3)	(7.5)	1.3	a: ロクロ・内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:5	
26	21	第3面 遺構162	かわらけ	(9.0)	(7.4)	1.7	a: ロクロ・内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・海綿骨芯 真土 硬質 c: 棕色 e: 良好 f: 1:3	
26	22	第3面 遺構162	かわらけ	(9.5)	(6.8)	1.85	a: ロクロ・内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・赤色粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:4	
26	23	第3面 遺構162	かわらけ	(8.8)	(6.4)	1.8	a: ロクロ・内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:4	
26	24	第3面 遺構162	かわらけ	(13.1)	(8.6)	3.0	a: ロクロ・内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・赤色粒・白色彩・海綿骨芯・小石粒 粗土 c: 赤色粒 e: 良好 f: 1:2	
26	25	第3面 遺構165	青磁 鏡	—	—	—	a: ロクロ・白褐色 精良堅致 d: 从绿色 e: 良好 f: 口縁部片 g: 貫入あり 内底口縁部に「金の沈澱」施りの擦傷印(印文花)	
26	26	第3面 遺構167	かわらけ	(9.2)	(7.6)	1.5	a: ロクロ・内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・赤色粒 真土 c: 棕色 e: 良好 f: 1:4	
26	27	第3面 遺構168	てづくね	(8.2)	—	1.5	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・赤色粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:2	
26	28	第3面 遺構168	てづくね	(8.8)	—	1.6	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪 b: 微緻・雲母・海綿骨芯 真土 c: 棕色 e: 良好 f: 3:4	
26	29	第3面 遺構171	青磁 輪面文鏡	—	—	—	a: ロクロ・白褐色 精良堅致 d: 从绿色 e: 良好 f: 口縁部片	
26	30	第3面 遺構171	上製品 鏡面	—	—	—	b: 花紋・白色粒・赤色粒・雲母・海綿骨芯 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:1	
26	31	第3面 遺構175	てづくね	(8.8)	—	1.4	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 3:4	
26	32	第3面 遺構175	てづくね	(8.0)	—	1.7	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪 b: 微緻・雲母・赤色粒・海綿骨芯 真土 c: 棕色 e: 良好 f: 1:2	
26	33	第3面 遺構180	てづくね	(9.8)	—	1.6	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪 b: 微緻・雲母・赤色粒 d: 黄緑色透明點をやや青く施す e: 良好 f: 口縁部片	
26	34	第3面 遺構181	てづくね	(9.0)	—	1.5	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 棕色 e: 良好 f: 1:4 g: 内底の一部黒色に変色	
26	35	第3面 遺構181	てづくね	(12.6)	—	3.5	a: てづくね 外底指爪 b: 微緻・雲母・黑色粒・赤色粒 真土 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1:4	
26	36	第3面 遺構181	青白磁 水注	—	—	—	a: ロクロ・白褐色 精良堅致 c: 黄緑色 e: 良好 f: 口縁部片	
27	37	第3面 遺構184	てづくね	(9.0)	—	2.0	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・赤色粒 真土 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1:1	
27	38	第3面 遺構184	かわらけ	(11.8)	(6.8)	3.0	a: ロクロ・内底ナテ・外底部指爪希切 b: 泥岩粒・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 2:3 g: 施りの為に瓦部に横擦傷	
27	39	第3面 遺構184	常滑 片口鉢上盤	—	—	—	a: 輪輪み b: 黄色 痕致・白色粒・黑色粒 真土 c: 黄褐色 d: 自然隕灰 e: 良好 f: 1:1 g: 施りの為に瓦部に横擦傷	
27	40	第3面 遺構184	片口鉢上盤	—	(14.0)	—	a: 輪輪み b: 黄色 痕致・白色粒・雲母 c: 黄褐色 e: 良好 f: 底部片 1:6 g: 内底に瓦部	
27	41	第3面 遺構185	かわらけ	(8.4)	(8.2)	1.7	a: ロクロ・内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・赤色粒 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:8 g: 施りの為に瓦部に横擦傷	
27	42	第3面 遺構186	てづくね	(14.2)	—	3.0	a: てづくね 外底部指爪等なナテ消し b: 微緻・雲母・海綿骨芯・赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:1	
27	43	第3面 遺構186	かわらけ	(8.8)	(6.4)	1.6	a: ロクロ・内底ナテ・外底部指爪希切 b: 泥岩粒・雲母・海綿骨芯・赤色粒・白色粒・泥岩粒 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:6 g: 施りの為に瓦部は参考	
27	44	第3面 遺構187	てづくね	(12.0)	—	3.2	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪等なナテ消し b: 微緻・雲母・海綿骨芯・赤色粒 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:4	
27	45	第3面 遺構187	常滑 盤	—	—	—	a: 輪輪み b: 黑灰色 痕致・白色粒・黑色粒 小石粒 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 断片	
27	46	第3面 遺構188	かわらけ	(8.2)	(6.6)	1.5	a: ロクロ・内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・赤色粒 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:6 g: 施りの為に瓦部に横擦傷	
27	47	第3面 遺構189	てづくね	(14.6)	—	3.0	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・赤色粒 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:5	
27	48	第3面 遺構189	山系柄	—	—	—	a: ロクロ・白褐色 黑灰色・白色粒・黑色粒 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 破損 g: 断片	
27	49	第3面 遺構190	てづくね	(13.6)	—	3.4	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・赤色粒 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:4	
27	50	第3面 遺構190	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.6	a: ロクロ・内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・赤色粒 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:8	
27	51	第3面 遺構191	てづくね	(14.6)	—	3.5	a: てづくね 外底部指爪等なナテ消し b: 微緻・雲母・海綿骨芯・白色粒 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:1	
27	52	第3面 遺構193	てづくね	(10.8)	—	2.2	a: てづくね 黄褐色 痕致・白色粒 黑灰色・白色粒 小石粒 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:4	
27	53	第3面 遺構193	常滑 盤	—	—	—	a: ロクロ・白褐色 痕致・白色粒・黑色粒 小石粒 真土 c: 黄褐色 e: 不良 f: 底部条子 g: 断片	
27	54	第3面 遺構195	てづくね	(9.6)	—	1.9	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・白色粒 黑灰色・白色粒 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:3 g: 断片	
27	55	第3面 遺構195	てづくね	(13.6)	—	3.0	a: てづくね 内底ナテ・外底部指爪希切 b: 微緻・雲母・海綿骨芯・白色粒 真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1:4 g: 内底にナテによる粘土の焼り残し 瓦を接着	

単位: cm ( ) = 復元値 [ ] = 残存値

## 出土遺物観察表

図版番号	柱番	出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	高さ/厚	観察内容	
							c: 色調	d: 構成
27	56	道場196	かわらけ	(9.4)	(7.8)	1.5	a: ロクロ・黒色 b: 灰土・素地 c: 材質 d: 開底 e: 後成 f: 造形 g: 推考	
27	57	道場196	てづくね	(8.9)	—	1.95	a: 黄褐色 c: 良好 f: 1/4	
27	58	道場196	てづくね	(7.9)	—	1.6	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
27	59	道場196	てづくね	(10.0)	—	1.9	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
27	60	道場196	てづくね	(12.8)	—	2.9	a: てづくね 外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
27	61	道場196	かわらけ	(8.4)	(6.8)	2.2	a: ロクロ・内底ナマ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: やや古い f: 1/6 g: 織片の復元値は参考	
27	62	道場196	てづくね	(14.4)	—	3.5	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3	
27	63	道場196	かわらけ	(7.6)	(8.0)	2.0	a: ロクロ・内底ナマ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
27	64	道場196	てづくね	(13.6)	—	4.0	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
27	65	道場196	てづくね	(10.0)	—	1.5	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: やや古い f: 1/4	
27	66	道場196	てづくね	(9.4)	—	1.7	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
27	67	道場196	かわらけ	(9.4)	(7.4)	1.6	a: ロクロ・内底ナマ・外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3	
27	68	道場196	てづくね	(8.2)	—	2.0	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: やや古い f: 1/6 g: 織片の復元値は参考	
27	69	道場196	てづくね	(9.6)	—	1.7	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: やや古い f: 1/4	
27	70	道場196	てづくね	(14.8)	—	3.05	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
27	71	道場196	てづくね	(12.4)	—	3.5	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3	
27	72	道場196	てづくね	(13.6)	—	3.8	a: てづくね 外底回転系切 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
27	73	道場196	白磁	—	(7.1)	—	a: ロクロ・白色 c: 白色 d: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 e: 黄褐色 f: 既製 g: 断面部 p: 高古良質付 i: 織片の復元値は参考	
27	74	道場196	白磁	—	—	—	a: 磁器類 b: 白色 c: 白色 d: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・小石程・やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 既製 g: 断面部 p: 14世紀の断面付	
27	75	道場196	白磁	—	—	—	a: 磁器類 b: 黄褐色 c: 白色 d: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・小石程・やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 既製 g: 断面付	
27	76	道場196	てづくね	(32.8)	—	2.9	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・黑色粒・泥岩粒・やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
27	77	道場196	てづくね	(15.0)	—	2.9	a: てづくね 外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・赤色粒・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: やや古い f: 1/6 g: 織片の復元値は参考	
27	78	道場196	青磁	—	—	—	a: ロクロ b: 白色 c: 白色 d: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 e: 黄褐色 f: 断面部 p: 質付	
27	79	道場196	青磁	—	—	—	a: 磁器類 b: 白色 c: 白色 d: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 e: 黄褐色 f: 断面部 p: 質付	
27	80	道場196	青磁	—	—	—	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・黑色粒・泥岩粒・やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3	
27	81	道場196	かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.3	a: ロクロ・内底ナマ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・泥岩粒・やや粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
27	82	道場196	てづくね	(9.6)	—	1.8	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 棕色 e: 良好 f: 1/2	
27	83	道場196	てづくね	(12.0)	—	2.9	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・黑色粒・良土 c: 棕色 e: 良好 f: 1/2	
27	84	道場196	てづくね	(13.2)	—	3.0	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 a: 洗消 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・赤色粒・良土 c: 黄褐色 e: やや古い f: 1/4	
27	85	道場196	てづくね	(10.8)	—	3.0	a: てづくね b: 微絶・雲母・黑色粒・良土 c: 白色 e: 良好 f: 1/4 g: 口沿部内面に褐色の付着物	
27	86	道場196	かわらけ	(9.4)	(7.4)	1.3	a: ロクロ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・黑色粒・赤色粒・泥岩粒・粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
28	1	表面	てづくね	(8.2)	—	1.65	a: てづくね 外底部ナマ b: 微絶・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・粗上 c: 棕色 e: 良好 f: 1/3	
28	2	表面	てづくね	(8.7)	—	1.45	a: てづくね 外底部ナマ b: 微絶・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・粗上 c: 棕色 e: 良好 f: 1/4	
28	3	表面	てづくね	(9.2)	—	1.8	a: てづくね 外底部ナマ b: 微絶・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
28	4	表面	てづくね	(9.5)	—	1.8	a: てづくね 内底部ナマ b: 微絶・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3	
28	5	表面	てづくね	(11.6)	—	2.9	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
28	6	表面	てづくね	(12.6)	—	3.4	a: てづくね 外底回転系切 b: 微絶・雲母・泥岩粒・粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3	
28	7	表面	てづくね	(13.4)	—	2.9	a: てづくね 内底ナマ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・粗上 c: 棕色 e: 良好 f: 1/2	
28	8	表面	てづくね	(12.8)	—	3.2	a: てづくね 外底回転系切 b: 微絶・雲母・泥岩粒・粗上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4	
28	9	表面	かわらけ	(9.4)	(6.8)	1.85	a: ロクロ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・粗上 c: 棕色 e: 良好 f: 1/4 内底・新面の黒色の付着物	
28	10	表面	かわらけ	(8.0)	(5.8)	1.90	a: ロクロ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・粗上 c: 棕色 e: 良好 f: 1/4 内底中央・口沿部	
28	11	表面	かわらけ	(7.2)	(5.6)	1.75	a: ロクロ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・赤色粒・泥岩粒・粗上 c: 棕色 e: 良好 f: 1/3	
28	12	表面	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.5	a: ロクロ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・赤色粒・泥岩粒・粗上 c: 棕色 e: 良好 f: 1/3 内底中央・口沿部	
28	13	表面	かわらけ	(8.3)	(6.0)	1.55	a: ロクロ・外底回転系切 b: 微絶・雲母・赤色粒・泥岩粒・粗上 c: 棕色 e: 良好 f: 1/3	

単位: cm ( )=復元値 [ ]=残存値

出土遺物觀察表

版番 番号	機番	出土位置 出土地點	種別	口径 / 高さ	底径 / 幅	器高 / 厚	觀物内容
28	14	第3面 面上	かわらけ	7.6	505	1.8	a: 成形・調整 b: 手始・素地・材質 c: 色調 d: 陶輪 e: 槌成 f: 通存量 g: 考考 g: リメイク 内面側 $\wedge$ 外底部底面切欠き b: 微妙・雲母・赤色斑・海綿骨芯・泥羽根 具上: c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 内外面部分有り
28	15	第3面 面上	かわらけ	7.4	50	1.55	a: ロクロ b: 内底ナマ $\wedge$ 外底部底面切欠き・板状底座 c: 微妙・雲母・赤色斑・海綿骨芯・泥羽根多 少小粒状 d: 陶褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 内外面部分有り
28	16	第3面 面上	かわらけ	7.6	52	2.05	a: ロクロ b: 内底ナマ $\wedge$ 外底部底面切欠き・板状底座 c: 微妙・雲母・赤色斑・海綿骨芯・泥羽根多 少小粒状 d: 陶褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 内外面部分有り
28	17	第3面 面上	かわらけ	12.2	80	3.4	a: ロクロ b: 内底ナマ $\wedge$ 外底部底面切欠き・板状底座 c: 微妙・雲母・赤色斑・海綿骨芯・やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 完形
28	18	第3面 面上	かわらけ	12.7	815	3.55	a: ロクロ b: 内底ナマ $\wedge$ 外底部底面切欠き・板状底座 c: 微妙・雲母・海綿骨芯・やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 内外面部分有り
28	19	第3面 面上	青磁 織田文鏡	—	—	—	a: ロクロ b: 精良・無鉛 c: 陶色 d: 黄褐色 e: 良好 f: 銅牌片 g: 安国室系 内外面に傷 が残る・便用帯 $\wedge$ 12世紀後半
28	20	第3面 面上	青磁 錦	—	(63)	—	a: ロクロ b: 精良・無鉛 c: 陶色 d: 黄褐色 e: 良好 f: 铜牌片 g: 内底青背 文内面に貫 高台部有り
28	21	第3面 面上	青白磁 水注	—	—	—	a: ロクロ b: 精良・無鉛 c: 陶色 d: 淡水青色 e: 良好 f: 铜牌片 g: 外面蓮弁文
28	22	第3面 面上	青白磁 梅瓶	—	—	—	a: ロクロ b: 精良・無鉛 c: 陶色 d: 淡水青色 e: 良好 f: 铜牌片
28	23	第3面 面上	青白 壺	—	—	—	a: 裸胎み b: 陶色・小石斑・微緻 c: 陶色 e: 良好 f: 1/2 錠片 5形式
28	24	第3面 面上	青白 壺	—	—	—	a: 裸胎み b: 陶色・小石斑・微緻 c: 陶色 e: 良好 f: 铜牌片 不明だが嵌状の跡印
28	25	第3面 面上	青白 壺	(7.9)	(42)	1.0	a: 鋼部内側削れ有り
28	26	第3面 面上	瓦器	(9.0)	—	—	a: ロクロ b: 精良・長石・無鉛 c: 陶色 d: 黑色 e: 良好 f: 1/2 錠片 g: 内外面黒色寫 内面裏側の後退段のカラ擦き 花型
28	27	第3面 面上	瓦器	—	—	—	a: ロクロ b: 精良・陶色 d: 淡白色 e: 良好 f: 1/2 錠片 g: 口部削れ黒色見残
28	28	第3面 面上	丸 軒平瓦	—	—	2.1	a: 凹面に前筋・離れ付着する・西面直目・離れ付着する・圓面開ケリ整形・丁寧な剥き b: 黄色・跡印 右斜・白色斑・鉛灰・粗土・e: 製造
28	29	第3面 面上	瓦器	(9.8)	(4.0)	1.7	a: 全体に暗が付着
28	30	第3面 面上	石質品 砾石	(7.9)	(5.2)	—	a: 円形使用穴 b: 白色 g: 伊尹家・中風
28	31	第3面 面上	てづくね	(9.0)	—	2.4	a: てづくね 外底部斜面部なテナ消し b: 微妙・雲母・白色斑・海綿骨芯・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
28	32	第3面 面上	てづくね	(8.4)	—	1.7	a: てづくね 内底回転ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・赤色斑・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
28	33	第3面 面上	てづくね	(8.5)	—	1.7	a: てづくね 内底回転ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・白色斑・海綿骨芯・小石斑 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
28	34	第3面 面上	てづくね	(9.0)	—	2.3	a: てづくね 内底回転ナマ・外底部斜面部工具による削面ナ消し b: 微妙・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
28	35	第3面 面上	てづくね	(9.0)	—	2.0	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・白色斑・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
28	36	第3面 面上	てづくね	(9.0)	—	2.0	a: てづくね 外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・白色斑・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
28	37	第3面 面上	てづくね	(10.0)	—	1.5	a: てづくね 内底回転ナマ・微抜き頭・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
28	38	第3面 面上	てづくね	(9.2)	—	1.7	a: てづくね 内底回転ナマ・内底斜面部工具による削面ナ消し b: 微妙・雲母・白色斑・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
28	39	第3面 面上	てづくね	9.55	—	1.9	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部工具による削面ナ消し b: 微妙・雲母・白色斑・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
28	40	第3面 面上	てづくね	(10.0)	—	1.7	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部工具による削面ナ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
28	41	第3面 面上	てづくね	(9.2)	—	1.7	a: てづくね 内底回転ナマ・内底部斜面部工具による削面ナ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 4/5
28	42	第3面 面上	てづくね	9.35	—	1.85	a: てづくね 内底回転ナマ・抜抜き頭・外底部斜面部工具による削面ナ消し b: 微妙・雲母・白色斑・海綿骨芯・ 小石斑 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 4/5 内外面部分有り
28	43	第3面 面上	てづくね	(9.3)	—	1.6	a: てづくね 内底回転ナマ・抜抜き頭・外底部斜面部ナ消し 工具痕あり b: 微妙・雲母・白色斑・ 海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
28	44	第3面 面上	てづくね	(9.0)	—	1.7	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 口縁部破損
28	45	第3面 面上	てづくね	(9.6)	—	1.8	a: てづくね 内底回転ナマ・外底部斜面部工具による削面ナ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
28	46	第3面 面上	てづくね	8.85	—	2.0	a: てづくね 内底回転ナマ・内底部斜面部工具による削面ナ消し b: 微妙・雲母・白色斑・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
28	47	第3面 面上	てづくね	(9.0)	—	2.9	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・白色斑・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 内外面部分有り
28	48	第3面 面上	てづくね	8.9	—	2.9	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・白色斑・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 (注記) 13.6mm
28	49	第3面 面上	てづくね	(7.8)	—	2.05	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・白色斑・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 (注記) 14.8mm
29	50	第3面 面上	てづくね	(14.0)	—	2.95	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
29	51	第3面 面上	てづくね	(14.0)	—	2.5	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
29	52	第3面 面上	てづくね	(13.9)	—	4.1	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
29	53	第3面 面上	てづくね	(12.8)	—	3.9	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯 賀寅良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
29	54	第3面 面上	てづくね	(14.2)	—	3.6	a: てづくね 内底ナマの後退部ナマ・抜抜き頭・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・白色斑・ 海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 (注記) 14.8mm
29	55	第3面 面上	てづくね	(13.0)	—	3.0	a: てづくね 内底ナマ・抜抜き頭・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 (注記) 13.6mm
29	56	第3面 面上	てづくね	(13.7)	—	3.95	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 (注記) 14.8mm
29	57	第3面 面上	てづくね	(14.0)	—	3.3	a: てづくね 内底ナマ・外底部斜面部ナ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4

单位：cm ( ) =復元値 [ ] =残存値

## 出土遺物観察表

図版番号	柱番	出土位置 施設名	種別	口径/長さ	底径/幅	高さ/厚	観察内容							
							c: 色調	d: 機械	e: 造成	f: 進存値	g: 稽考			
29	58	第3面 構成土	てづくね	136	—	3.15	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歯状・外底部鋸歯状ナメ消し c: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・小石粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 4.5	b: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・小石粒	c: 黄鉛	d: 機械	e: 良好	f: 進存値	g: 稽考	
29	59	第3面 構成土	てづくね	141	—	3.3	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歯状ナメ消し c: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・やや良土 d: 黄鉛 e: 良好 f: 4.5	b: 黒鉛・雲母・海綿骨芯	c: 黄鉛	d: 機械	e: 良好	f: 進存値	g: 稽考	
29	60	第3面 構成土	てづくね	(138)	—	3.4	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歯状ナメ消し c: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・やや良土 d: 黄鉛 e: 良好 f: 3.4	b: 黒鉛・雲母・海綿骨芯	c: 黄鉛	d: 機械	e: 良好	f: 進存値	g: 稽考	
29	61	第3面 構成土	てづくね	(133)	—	3.7	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歯状ナメ消し c: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・赤色粘 d: 黄鉛 e: 良好 f: 3.7	b: 黒鉛・雲母・海綿骨芯	c: 赤色粘	d: 機械	e: 良好	f: 進存値	g: 稽考	
29	62	第3面 構成土	てづくね	(135)	—	3.8	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歯状ナメ消し c: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・やや良土 d: 黄鉛 e: 良好 f: 3.8	b: 黒鉛・雲母・海綿骨芯	c: 黄鉛	d: 機械	e: 良好	f: 進存値	g: 稽考	
29	63	第3面 構成土	てづくね	(128)	—	4.3	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歯状ナメ消し c: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・やや良土 d: 黄鉛 e: 良好 f: 4.3	b: 黒鉛・雲母・海綿骨芯	c: 黄鉛	d: 機械	e: 良好	f: 進存値	g: 稽考	
29	64	第3面 構成土	てづくね	(138)	—	4.2	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歯状ナメ消し c: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・真土 d: 黄鉛 e: 良好 f: 2.3	b: 黒鉛・雲母・海綿骨芯	c: 真土	d: 機械	e: 黄鉛	f: 進存値	g: 稽考	
29	65	第3面 構成土	てづくね	(126)	—	3.65	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歯状ナメ消し c: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・やや良土 d: 黄鉛 e: 良好 f: 3.65	b: 黒鉛・雲母・海綿骨芯	c: 黄鉛	d: 機械	e: 良好	f: 進存値	g: 稽考	
29	66	第3面 構成土	かわらけ	(86)	(6.5)	2.2	a: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歯状ナメ消し c: 黒鉛・雲母・赤色粘・加熱骨芯・小石粒 d: 黃鉛 e: 良好 f: 2.2	b: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歯状ナメ消し c: 黒鉛・雲母・赤色粘・加熱骨芯・小石粒	d: 黃鉛	e: 良好	f: 2.2	口縁部・心臓部	g: 陶器	
29	67	第3面 構成土	かわらけ	(87)	(6.8)	1.65	a: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歯状ナメ消し c: 黒鉛・雲母・赤色粘・加熱骨芯・真土 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.65	b: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・赤色粘・加熱骨芯	c: 真土	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.65	口縁部	g: 陶器
29	68	第3面 構成土	かわらけ	(78)	(5.5)	1.85	a: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・赤色粘・加熱骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.85	b: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・赤色粘・加熱骨芯	c: 泥岩粒	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.85	口縁部	g: 陶器
29	69	第3面 構成土	かわらけ	(10.0)	(7.0)	1.65	a: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・赤色粘・小石粒 やや粗土 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.65	b: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・赤色粘・小石粒 やや粗土	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.65	口縁部	g: 陶器
29	70	第3面 構成土	かわらけ	(11.0)	(8.5)	3.5	a: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・赤色粘・加熱骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 3.5	b: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・赤色粘・加熱骨芯	c: 泥岩粒	d: 黄鉛	e: 良好	f: 3.5	口縁部	g: 陶器
29	71	第3面 構成土	常滑 窯	—	—	—	a: 輪組み b: 帽輪色・白色粘・小石粒・微砂 c: 箱系褐色 d: 良好 f: 鋼片部 g: 粒子の押印	b: 輪組み	c: 帽輪色	d: 良好	e: 良好	f: 鋼片部	g: 粒子の押印	
30	1	第4面 道病208	てづくね	(88)	—	2.1	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 2.1	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯	c: 泥岩粒	d: 黄鉛	e: 良好	f: 2.1	口縁部	g: 陶器
30	2	第4面 道病208	てづくね	(870)	—	2.3	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 2.3	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 2.3	口縁部	g: 陶器
30	3	第4面 道病208	てづくね	94	—	2.35	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 2.35	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 2.35	口縁部	g: 陶器
30	4	第4面 道病208	てづくね	94	—	2.1	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 2.1	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 2.1	口縁部	g: 陶器
30	5	第4面 道病208	てづくね	(13.7)	—	2.9	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 2.9	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 2.9	口縁部	g: 陶器
30	6	第4面 道病208	かわらけ	(820)	(5.0)	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.8	b: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.8	口縁部	g: 陶器
30	7	第4面 道病208	かわらけ	(82)	(5.0)	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.8	b: ロクロ・内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.8	口縁部	g: 陶器
30	8	第4面 道病208	青磁 碗	—	—	—	a: ロクロ・白粗厚織目 c: 灰白色 d: 灰綠色 e: 良好 f: 1.1	b: 青磁・碗	c: 灰白色	d: 灰綠色	e: 良好	f: 1.1	口縁部	g: 陶器・内面刻文
30	9	第4面 道病208	青磁 碗	—	—	—	a: ロクロ・白粗厚織目 c: 灰白色 d: 灰綠色 e: 良好 f: 1.1	b: 青磁・碗	c: 灰白色	d: 灰綠色	e: 良好	f: 1.1	口縁部	g: 陶器・内面刻文
30	10	第4面 道病208	瓦	[166]	[12.9]	2.8	a: 白面粗目・黒面織目・凹面有目・圓方有目・圓方有目ナメの底部に限る、内面丁寧な削り目 b: 黑色・黒斑・黒端多・白色粘・真土 c: 黑色・黒斑・黒端多・白色粘・泥岩粒 d: 黄色	b: 白面粗目・黒面織目・凹面有目・圓方有目ナメの底部に限る、内面丁寧な削り目	c: 黑色・黒斑・黒端多・白色粘・泥岩粒	d: 黄色	e: 良好	f: 2.8	瓦	g: 陶器
30	11	第4面 道病209	てづくね	(82)	—	1.2	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.2	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.2	口縁部	g: 陶器
30	12	第4面 道病209	てづくね	(10.4)	—	1.7	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.7	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.7	口縁部	g: 陶器
30	13	第4面 道病210	てづくね	(14.6)	—	2.4	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 2.4	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目によるナメ d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 2.4	口縁部	g: 陶器
30	14	第4面 道病210	てづくね	(13.1)	—	3.5	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 3.5	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 3.5	口縁部	g: 陶器
30	15	第4面 道病209	てづくね	(13.8)	—	3.2	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 3.2	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 3.2	口縁部	g: 陶器
30	16	第4面 道病209	脚	(13.6)	—	—	a: 輪組み b: 白色粘・小石粒・砂粒 c: 黑色 e: 良好 網目 I: 底部底 g: 2 b 形式	b: 輪組み	c: 黑色	d: 良好	e: 良好	f: 1.1	脚	g: 陶器
30	17	第4面 道病210	てづくね	(9.10)	—	1.8	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目ナメ消し d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.8	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目ナメ消し d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.8	口縁部	g: 陶器
30	18	第4面 道病211	てづくね	(8.2)	—	1.2	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.2	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・板状圧痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.2	口縁部	g: 陶器
30	19	第4面 道病211	てづくね	(13.5)	—	1.85	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・外縁に工具痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.85	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目・外縁に工具痕 d: 黒鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.85	口縁部	g: 陶器
30	20	第4面 道病211	てづくね	(9.4)	—	1.3	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.3	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.3	口縁部	g: 陶器
30	21	第4面 道病213	てづくね	(14.4)	—	3.1	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 3.1	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 3.1	口縁部	g: 陶器
30	22	第4面 道病214	てづくね	(8.9)	—	1.8	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目ナメ消し d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.8	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目ナメ消し d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.8	口縁部	g: 陶器
30	23	第4面 道病214	てづくね	(13.7)	—	3.3	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 3.3	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 3.3	口縁部	g: 陶器
30	24	第4面 道病214	てづくね	(13.4)	—	2.8	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 2.8	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 2.8	口縁部	g: 陶器
30	25	第4面 道病216	てづくね	(9.6)	—	1.8	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.8	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.8	口縁部	g: 陶器
32	1	第4面 道病218	てづくね	(9.2)	—	1.9	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目ナメ消し d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.9	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目ナメ消し d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.9	口縁部	g: 陶器
32	2	第4面 道病218	てづくね	(9.3)	—	1.8	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目ナメ消し d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.8	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目ナメ消し d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.8	口縁部	g: 陶器
32	3	第4面 道病218	てづくね	(9.5)	—	1.7	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.7	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.7	口縁部	g: 陶器
32	4	第4面 道病218	てづくね	(8.7)	—	1.9	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.9	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.9	口縁部	g: 陶器
32	5	第4面 道病218	てづくね	(9.5)	—	1.7	a: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 d: 黄鉛 e: 良好 f: 1.7	b: てづくね b: 内底ナメ・外底部鋸歬切目 d: 黑鉛・雲母・海綿骨芯・泥岩粒	c: 黄鉛	d: 黄鉛	e: 良好	f: 1.7	口縁部	g: 陶器

単位: cm ( ) = 復元値 [ ] = 残存値

## 出土遺物観察表

回収 番号	機番	出土位置 と土層位	種別	口径/高さ	底径/幅	器高/厚	報告内容
32	6	第4回 遺構218	てづくね	(9.2)	—	1.9	a: 形成、調整 b: 立土・基壇・土質 c: 水色 d: 軸測 e: 健成 f: 遺存前 g: 考古
32	7	第4回 遺構218	てづくね	(9.5)	—	1.6	a: てづくね・内底ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
32	8	第4回 遺構218	てづくね	(9.6)	—	1.4	a: てづくね・内底ナデの複数面に転ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
32	9	第4回 遺構218	てづくね	(8.5)	—	1.75	a: てづくね・内底削面ナデ・削抜きナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・良好粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	10	第4回 遺構218	てづくね	(8.2)	—	1.6	a: てづくね・内底・方向別の削面ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	11	第4回 遺構218	てづくね	(9.0)	—	1.9	a: てづくね・内底・一方別の削面ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	12	第4回 遺構218	てづくね	9.4	—	2.25	a: てづくね・内底・一方別の削面ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: はげ足
33	13	第4回 遺構218	てづくね	(8.8)	—	1.9	a: てづくね・内底・一方別の削面ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 内底部に切りこみ円錐形法と思われる削面直接
34	14	第4回 遺構218	てづくね	(8.6)	—	1.9	a: てづくね・内底・一方別の削面ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	15	第4回 遺構218	てづくね	9.5	—	2.0	a: てづくね・内底・一方別の削面ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 表面削
32	16	第4回 遺構218	てづくね	(9.8)	—	1.9	a: てづくね・内底・一方別の削面ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	17	第4回 遺構218	てづくね	8.9	—	1.7	a: てづくね・内底・一方別の削面ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 内底部に複数直
32	18	第4回 遺構218	てづくね	(8.7)	—	1.7	a: てづくね・内底・一方別の削面ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
32	19	第4回 遺構218	てづくね	(8.9)	—	1.5	a: てづくね・内底ナデ不規則・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
32	20	第4回 遺構218	てづくね	(8.9)	—	1.45	a: てづくね・内底ナデ・外底削面難なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
32	21	第4回 遺構218	てづくね	(9.7)	—	1.65	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母多・海綿骨芯・黑色粒多・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 内底部に複数直
32	22	第4回 遺構218	てづくね	9.0	—	1.75	a: てづくね・内底ナデ不明確・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母多・海綿骨芯・白色粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
32	23	第4回 遺構218	てづくね	(8.6)	—	2.0	a: てづくね・内底・一方別の削面ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母多・海綿骨芯・黑色粒多・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	24	第4回 遺構218	てづくね	(8.6)	—	1.7	a: てづくね・内底ナデ・外底削面難なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
32	25	第4回 遺構218	てづくね	(8.6)	—	2.0	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒多・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 切り込み円錐形法と思われる粘土層合板
32	26	第4回 遺構218	てづくね	(9.0)	—	1.5	a: てづくね・内底ナデ・外底削面難なナデ消し b: 露砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	27	第4回 遺構218	てづくね	(8.3)	—	1.75	a: てづくね・内底・一方別の削面ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 2/3
32	28	第4回 遺構218	てづくね	9.2	—	1.9	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・小粒粒・やや粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: はげ足
32	29	第4回 遺構218	てづくね	(8.8)	—	1.45	a: てづくね・内底ナデ・外底削面難なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
32	30	第4回 遺構218	てづくね	(8.6)	—	2.0	a: てづくね・内底ナデ・外底削面難なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒多・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	31	第4回 遺構218	てづくね	(9.6)	—	1.75	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒多・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 内底部に複数直
32	32	第4回 遺構218	てづくね	(8.7)	—	1.7	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒多・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	33	第4回 遺構218	てづくね	(5.8)	—	1.8	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒多・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	34	第4回 遺構218	てづくね	(9.6)	—	1.1	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 工程内側面内凹
32	35	第4回 遺構218	てづくね	(8.5)	—	1.8	a: てづくね・内底・一方別の削面ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	36	第4回 遺構218	てづくね	(8.9)	—	1.8	a: てづくね・内底・一方別の削面ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	37	第4回 遺構218	てづくね	(9.2)	—	1.5	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒多・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	38	第4回 遺構218	てづくね	(5.8)	—	1.1	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 工程内側面内凹 サイズ: 最大幅3km
32	39	第4回 遺構218	てづくね	(9.6)	—	1.1	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・黑色粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 内底部に複数直
32	40	第4回 遺構218	てづくね	(13.7)	—	3.2	a: てづくね・内底ナデ・外底削面難なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	41	第4回 遺構218	てづくね	(14.2)	—	3.4	a: てづくね・内底ナデ・外底削面難なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 内底削面直接
32	42	第4回 遺構218	てづくね	(14.0)	—	3.2	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
32	43	第4回 遺構218	てづくね	(13.7)	—	3.7	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 内底削面直接
32	44	第4回 遺構218	てづくね	(13.5)	—	2.75	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	45	第4回 遺構218	てづくね	(13.6)	—	2.8	a: てづくね・内底ナデ・外底削面ナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
32	46	第4回 遺構218	てづくね	14.1	—	3.3	a: てづくね・内底ナデ・外底削面丁寧なナデ消し b: 露砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 g: 3cm
32	47	第4回 遺構218	かわらけ	(9.4)	(8.0)	1.7	a: ロクロ・内底削面ナデ・外底削面直接切・板状圧痕 b: 露砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2
32	48	第4回 遺構218	かわらけ	(8.6)	(7.0)	1.4	a: ロクロ・内底削面ナデ・外底削面直接切・板状圧痕 b: 露砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 内底削面直接
32	49	第4回 遺構218	かわらけ	(8.6)	(6.9)	1.7	a: ロクロ・内底削面ナデ・外底削面直接切・板状圧痕 b: 露砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・や粗粒・良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3

単位: cm ( ) = 復元値 [ ] = 残存値

## 出土遺物観察表

図版番号	柱番	出土位置	種別	口径/長さ	底径/幅	高さ/厚	観察内容			
							c: 色調	d: 細部	e: 既成	
32	50	第4面 道溝218	かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転赤切・板状圧痕 b: 黒鉛、雲母、海綿骨芯、黒色粒 や小粗土 c: 黄色 e: 1.1 ~ 1.6			
32	51	第4面 道溝218	かわらけ	(9.6)	(6.4)	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転赤切・板状圧痕 b: 黒鉛、雲母多・白色粒・黒色粒、海綿骨芯 や小粗土 c: 黄色 e: 1.1 ~ 1.6			
32	52	第4面 道溝218	かわらけ	7.8	5.3	1.55	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転赤切・板状圧痕 b: 黒鉛、雲母多・白色粒・黒色粒、海綿骨芯 や小粗土 c: 黄色 e: 1.1 ~ 1.6			
32	53	第4面 道溝218	かわらけ	13.0	9.7	3.3	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転赤切・板状圧痕 b: 黒鉛、雲母・赤色粒、海綿骨芯、泥岩粒 や小粗土 c: 黄色 e: 1.1 ~ 1.6			
32	54	第4面 道溝218	かわらけ	(13.0)	(8.4)	3.2	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転赤切・板状圧痕 b: 黒鉛、雲母、海綿骨芯 や小粗土 c: 赤色粒 e: 1.1 ~ 1.6			
33	55	第4面 道溝218	青磁 碗	—	—	—	a: ロクロ b: 精良堅韌 c: 灰黑色 d: 青色 e: 良好 f: 泥質部 g: 内底部劃花 白高底部露胎			
33	56	第4面 道溝218	青磁 碗	—	—	—	a: ロクロ b: 精良堅韌 c: 灰白色 d: 青色 e: 良好 f: 泥質部 g: 内底部劃花			
32	57	第4面 道溝218	山瓶	(8.0)	(4.2)	1.5	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転赤切 b: 白粉、白色彩 や小粗土 c: 青灰色 e: 良好 f: 1/3 g: 露通窓			
32	58	第4面 道溝218	山瓶	(8.0)	(4.4)	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転赤切 b: 白色粒・小石粒 や小粗土 c: 青灰色 e: 良好 f: 1/4 g: 露通窓、内底に鉛付有			
33	59	第4面 道溝218	陶美 甕	—	—	—	a: 軸柄み b: 露通窓 c: 灰白色 e: 良好 f: 泥質部 g: 2b 形式			
33	60	第4面 道溝218	陶美 甕	—	—	—	a: 軸柄み b: 露通窓 c: 灰白色 e: 良好 f: 泥質部 g: 2b 形式			
33	61	第4面 道溝218	片口呑口類	—	—	—	a: 軸柄み b: 白色粒、黒色粒 c: 單灰白色 e: 良好 f: 露通窓 g: 5 ~ 6a 形式			
33	62	第4面 道溝218	片口呑口類	—	—	—	a: 軸柄み b: 露通窓 c: 白色粒、白色彩、黒色粒、黒色粒 c: 單灰白色 e: 良好 f: 露通窓 g: 5 ~ 6a 形式			
33	63	常滑窯 転用品	—	(3.4)	(3.2)	1.0	b: 露通窓、白色粒、小石粒 や小粗土 c: 陶色 e: 良好 f: 露通窓 g: 陶部片 g: 5 ~ 6a 形式			
33	64	瓦 軒丸瓦	—	—	—	a: 陶表面に黒文様と火文 真理指痕による直筋痕 b: 灰色、荷葉、雲母多・石紋、硬質、真土 e: 良好 f: 灰瓦				
33	65	瓦 瓦平瓦	—	—	—	2.6	a: 陶表面黒文・摩れ跡付有 四面目口縫・摩れ跡付有 陶部片 g: 5 ~ 6a 形式			
33	66	瓦 軒用品	—	—	—	1.6	a: 陶表面黒文 b: 黑色粒、陶粉、白色粒、白色彩、荷葉、真土 e: 良好 f: 陶部片 g: 5 ~ 6a 形式			
33	67	瓦 屋根瓦	—	—	—	—	a: 陶表面黒文 e: 黑色粒、荷葉付有 陶部片 g: 5 ~ 6a 形式			
33	68	第4面 道溝218	帶地白 白色器	(6.0)	—	—	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転赤切 b: 黑色粒 や小粗土 c: 白色 e: 良好 f: 1/5 g: 内底部黒色に変色			
33	69	第4面 道溝218	器種不明	1.25	—	6.0	—	b: 露通窓、砂粒 c: 陶色 e: 良好 f: 泥質部 g: 陶部片		
33	70	第4面 道溝218	木製品 箸	(20.8)	0.7	0.45	—			
33	71	第4面 道溝218	木製品 箸	21.9	0.7	0.55	—			
33	72	第4面 道溝218	木製品 草履	(22.1)	10.3	0.4	—			
33	73	第4面 道溝218	木製品 草履	(22.8)	14.8	0.3	f: 先端部片			
33	74	第4面 道溝218	木製品 草履	19.6	1.0	0.4	—			
33	75	第4面 道溝218	木製品 草履	7.1	2.5	3.4	—			
34	76	第4面 道溝218	木製品 草履	92.2	4.4	3.2	g: 両端部削り出し痕あり			
34	77	第4面 道溝218	木製品 草履	81.2	5.0	3.5	g: 端部削り出し痕あり			
34	78	第4面 道溝218	木製品 草履	96.7	4.8	3.5	g: 両端部削り出し痕・劣物痕あり			
34	79	第4面 道溝218	木製品 草履	91.3	4.2	3.2	g: 端部削り出し痕あり			
34	80	第4面 道溝218	木製品 草履	93.2	5.9	3.8	g: 端部削り出し痕あり			
35	1	第4面 道溝215	てづくね	(8.3)	—	1.3	a: てづくね・内底ナメ・外底回転ナメ・外底指面削工具によるナメ削し b: 露通窓、雲母、海綿骨芯、真土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/4 コヨーテー型			
35	2	第4面 道溝215	てづくね	(9.7)	—	2.0	a: てづくね・内底ナメの後回転ナメ・外底指面削工具によるナメ削し b: 露通窓、雲母多・海綿骨芯、真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2			
35	3	第4面 道溝215	てづくね	(8.8)	—	2.1	a: てづくね・内底ナメ・外底指面削工具によるナメ削し b: 露通窓、雲母多・海綿骨芯、泥岩粒、真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2			
35	4	第4面 道溝215	てづくね	8.7	—	2.4	a: てづくね・内底回転ナメ・外底指面削工具によるナメ削し + 不明瞭な板状圧痕 b: 露通窓、雲母、海綿骨芯、真土 c: 陶土 e: やや黄土 f: 4.5 内底部大きく述べ			
35	5	第4面 道溝215	てづくね	9.1	—	2.35	a: てづくね・内底回転ナメ・外底指面削工具によるナメ削し b: 露通窓、雲母、白色粒、海綿骨芯、真土 c: 黄褐色 e: 定形			
35	6	第4面 道溝215	てづくね	(8.6)	—	1.75	a: てづくね・内底ナメの後回転ナメ・外底指面削工具によるナメ削し b: 露通窓、雲母、海綿骨芯 や小粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3 内底部に僅量			
35	7	第4面 道溝215	てづくね	8.1	—	2.0	a: てづくね・切り込み円錐削除法ナメ・内底ナメ・外底指面ナメ削し b: 露通窓、雲母、白色粒、海綿骨芯 や小粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 内底に鉛付有			
35	8	第4面 道溝215	てづくね	(8.8)	—	1.9	a: てづくね・内底回転ナメ・外底指面削工具によるナメ削し b: 露通窓、雲母、海綿骨芯、真土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2			
35	9	第4面 道溝215	てづくね	(9.3)	—	1.8	a: てづくね・内底回転ナメ・外底指面削工具によるナメ削し b: 露通窓、雲母、海綿骨芯、泥岩粒 や粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/5			
35	10	第4面 道溝215	てづくね	(9.0)	—	2.0	a: てづくね・内底ナメの後回転ナメ・外底指面削工具によるナメ削し b: 露通窓、雲母、海綿骨芯、泥岩粒 や粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 内底に鉛付有			
35	11	第4面 道溝215	てづくね	9.35	—	1.9	a: てづくね・内底ナメの後回転ナメ・外底指面削工具によるナメ削し b: 露通窓、雲母、海綿骨芯、小石粒 や粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2			
35	12	第4面 道溝215 トレンチ15	てづくね	(9.6)	—	1.7	a: てづくね・内底ナメの後回転ナメ・外底指面削工具によるナメ削し b: 露通窓、雲母、海綿骨芯、赤色粒 や粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2			
35	13	第4面 道溝215	てづくね	(10.4)	—	1.9	a: てづくね・内底ナメの後回転ナメ・外底指面削工具によるナメ削し b: 露通窓、雲母、海綿骨芯、泥岩粒 や粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2			

単位: cm ( ) = 復元値 [ ] = 残存値

出土遺物観察表

回収 番号	機番	出土位置 と層位	種別	口径/高さ	底径/幅	器高/厚	欄内 記入
35	14	第4回 遺構215	てづくね	9.3	—	2.0	a: 形成・整形 b: 粗土・素地・材料 c: 色調 d: 植潤 e: 健成 f: 遺存状 g: 考査 a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し・板状灰瓦 b: 微妙・雲母・泥岩片・小石粒・海綿骨芯・粗土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕
35	15	第4回 遺構215	てづくね	(8.9)	—	1.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し・板状灰瓦 b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒・粗土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔4.5〕
35	16	第4回 遺構215	てづくね	9.5	—	1.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し・板状灰瓦不明確 b: 微妙・雲母・泥岩片・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕
35	17	第4回 遺構215	てづくね	(9.7)	—	1.7	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒・粗土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔4.5〕
35	18	第4回 遺構215	てづくね	(8.4)	—	1.6	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・海綿骨芯・真土 c: 半赤色 e: 良好 f: 〔3.4〕
35	19	第4回 遺構215	てづくね	8.8	—	1.95	a: てづくね 内底植潤ナメ 外底植潤ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・泥岩片・海綿骨芯・真土 c: 半赤色 e: 良好 f: 〔3.4〕
35	20	第4回 遺構215	てづくね	(9.7)	—	1.7	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 不明確 c: 海綿骨芯・真土 c: 半赤色 e: 良好 f: 〔3.4〕
35	21	第4回 遺構215	てづくね	(8.4)	—	1.5	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 不明確 c: 海綿骨芯・真土 c: 半赤色 e: 良好 f: 〔3.4〕
35	22	第4回 遺構215	てづくね	(9.2)	—	2.5	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・泥岩粒 不明確 c: 海綿骨芯・真土 c: 半赤色 e: 良好 f: 〔3.4〕
35	23	第4回 遺構215	てづくね	9.3	—	2.1	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・泥岩片・海綿骨芯・小石粒・海綿骨芯・粗土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕
35	24	第4回 遺構215	てづくね	(10.0)	—	2.1	a: てづくね 小底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・泥岩片・海綿骨芯・半赤色 e: 黄色 e: 良好 f: 〔3.4〕
35	25	第4回 遺構215	てづくね	9.4	—	1.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕 完形
35	26	第4回 遺構215	てづくね	(10.0)	—	1.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・泥岩片・海綿骨芯・泥岩粒 不明確 c: 海綿骨芯・真土 c: 半赤色 e: 良好 f: 〔2.3〕
35	27	第4回 遺構215	てづくね	8.9	—	2.0	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: 良好 f: 〔3.4〕 完形
35	28	第4回 遺構215	てづくね	9.1	—	2.0	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: 良好 f: 〔3.4〕 完形
35	29	第4回 遺構215	てづくね	(10.0)	—	1.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・泥岩片 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕
35	30	第4回 遺構215	てづくね	(9.9)	—	2.0	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・泥岩片・海綿骨芯・泥岩粒 不明確 c: 海綿骨芯・真土 c: 半赤色 e: 良好 f: 〔3.4〕
35	31	第4回 遺構215	てづくね	(9.4)	—	1.8	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕
35	32	第4回 遺構215	てづくね	(8.9)	—	1.95	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・泥岩片 不明確 c: 海綿骨芯・真土 c: 半赤色 e: 良好 f: 〔3.4〕
35	33	第4回 遺構215	てづくね	(9.0)	—	1.8	a: てづくね 内底ナメの後回転法か 内底ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: 良好 f: 〔2.3〕
35	34	第4回 遺構215	てづくね	9.2	—	2.15	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 板状灰瓦 b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕
35	35	第4回 遺構215	てづくね	—	—	—	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔1.2〕
35	36	第4回 遺構215	てづくね	(8.7)	—	2.05	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔1.2〕
35	37	第4回 遺構215	てづくね	8.7	—	2.1	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕
35	38	第4回 遺構215	てづくね	9.4	—	2.0	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕
35	39	第4回 遺構215	てづくね	(9.0)	—	2.15	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・泥岩片 不明確 c: 海綿骨芯・真土 c: 半赤色 e: 良好 f: 〔3.4〕
35	40	第4回 遺構215	てづくね	(9.3)	—	1.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・泥岩片 不明確 c: 海綿骨芯・真土 c: 半赤色 e: 良好 f: 〔3.4〕
35	41	第4回 遺構215	てづくね	(9.8)	—	1.85	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: 良好 f: 〔3.4〕
35	42	第4回 遺構215	てづくね	9.6	—	1.8	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 板状灰瓦 b: 微妙・雲母・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: 良好 f: 〔2.3〕
35	43	第4回 遺構215	てづくね	9.8	—	2.05	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 板状灰瓦 b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕
35	44	第4回 遺構215	てづくね	(9.4)	—	2.0	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔1.2〕
35	45	第4回 遺構215	てづくね	(9.0)	—	1.7	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔1.2〕
35	46	第4回 遺構215	てづくね	9.5	—	2.1	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・泥岩片・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔1.2〕
35	47	第4回 遺構215	てづくね	(9.3)	—	1.6	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: 良好 f: 〔1.2〕
35	48	第4回 遺構215	てづくね	(9.0)	—	1.6	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・赤色・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: 良好 f: 〔1.2〕
35	49	第4回 遺構215	てづくね	9.65	—	1.95	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕
35	50	第4回 遺構215	てづくね	(9.2)	—	1.8	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: 良好 f: 〔1.2〕
35	51	第4回 遺構215	てづくね	(9.3)	—	1.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: 良好 f: 〔2.3〕
35	52	第4回 遺構215	てづくね	(8.9)	—	1.7	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕
35	53	第4回 遺構215	てづくね	9.8	—	1.6	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・泥岩片・小石粒・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔2.3〕
35	54	第4回 遺構215	てづくね	(9.2)	—	1.6	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・泥岩片・小石粒・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔2.3〕
35	55	第4回 遺構215	てづくね	(9.4)	—	1.5	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母多・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: やや青い f: 〔3.4〕
35	56	第4回 遺構215	てづくね	8.7	—	1.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: 良好 f: 〔3.4〕
35	57	第4回 遺構215	てづくね	(9.0)	—	1.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ 外底植潤等ナメ消し b: 微妙・雲母・海綿骨芯・真土 c: 黄色 e: 良好 f: 〔3.4〕

単位: cm ( ) = 復元値 [ ] = 残存値

## 出土遺物観察表

図版番号	柱番	出土土器名	種別	口径/径×高	底径/幅	高さ/厚	観察内容	
							c: 色調	d: 構造
35	58	第4面 道場	てづくね	(90)	—	1.6	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、海綿骨芯 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2	
35	59	第4面 道場	てづくね	(91)	—	1.6	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、海綿骨芯 小右 粒 やや良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 3/4	
35	60	第4面 道場	てづくね	86	—	2.0	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 小右 粒 やや良上 c: 黄褐色 f: 1/3	
35	61	第4面 道場	てづくね	93	—	1.75	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 小右 粒 やや良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2	
35	62	第4面 道場	てづくね	(92)	—	1.5	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、海綿骨芯 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4	
35	63	第4面 道場	てづくね	(93)	—	1.85	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、海綿骨芯 泥岩粒 やや良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3	
35	64	第4面 道場	てづくね	91	—	2.0	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨芯 やや左 粒 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3	
35	65	第4面 道場	てづくね	93	—	1.8	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨芯 やや左 粒 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3	
35	66	第4面 道場	てづくね	(88)	—	2.1	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、海綿骨芯 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2	
35	67	第4面 道場	てづくね	95	—	1.95	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨芯 やや左 粒 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3	
35	68	第4面 道場	てづくね	93	—	2.0	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、海綿骨芯 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4	
35	69	第4面 道場	てづくね	(136)	—	3.3	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、海綿骨芯 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4	
35	70	第4面 道場	てづくね	(134)	—	3.6	a: てづくね 初引込み輪抜法 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黒砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 やや左 粒 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2	
35	71	第4面 道場	てづくね	(124)	—	3.1	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、海綿骨芯 泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3	
35	72	第4面 道場	てづくね	(138)	—	2.8	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、海綿骨芯 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4	
35	73	第4面 道場	てづくね	(144)	—	—	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 やや左 粒 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3	
35	74	第4面 道場	てづくね	(134)	—	3.5	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、海綿骨芯 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 2/3	
35	75	第4面 道場	てづくね	(140)	—	3.6	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4	
35	76	第4面 道場	てづくね	(134)	—	3.6	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4	
35	77	第4面 道場	てづくね	(130)	—	3.2	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2	
35	78	第4面 道場	てづくね	(132)	—	3.2	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、海綿骨芯 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 2/3 g: 前面は「異なる想影」の細部が示される	
35	79	第4面 道場	てづくね	(132)	—	3.3	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、海綿骨芯 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3	
35	80	第4面 道場	てづくね	(138)	—	3.6	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 やや左 粒 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2	
35	81	第4面 道場	てづくね	(138)	—	3.4	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3	
35	82	第4面 道場	てづくね	(136)	—	3.4	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、海綿骨芯 赤色粒 泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4	
35	83	第4面 道場	てづくね	(136)	—	3.2	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、海綿骨芯 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4	
35	84	第4面 道場	てづくね	(128)	—	3.3	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3	
35	85	第4面 道場	てづくね	(134)	—	3.4	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、海綿骨芯 泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2	
35	86	第4面 道場	てづくね	(130)	—	3.5	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3 g: 表面は「異なる想影」	
35	87	第4面 道場	てづくね	(132)	—	3.5	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒 泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 2/3	
35	88	第4面 道場	てづくね	(133)	—	3.2	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2	
35	89	第4面 道場	てづくね	(140)	—	3.3	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 全面全體油膜張	
35	90	第4面 道場	てづくね	(136)	—	3.8	a: てづくね 初引込み輪抜法 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒 泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4	
35	91	第4面 道場	てづくね	(130)	—	3.65	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒 泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2	
35	92	第4面 道場	てづくね	(124)	—	3.2	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3	
35	93	第4面 道場	てづくね	(124)	—	3.5	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3	
35	94	第4面 道場	てづくね	(130)	—	3.2	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2/3	
35	95	第4面 道場	てづくね	(126)	—	3.6	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2	
35	96	第4面 道場	てづくね	(132)	—	3.0	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒、泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4	
35	97	第4面 道場	てづくね	(136)	—	3.1	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒 泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4	
35	98	第4面 道場	てづくね	(150)	—	3.2	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒 泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/4	
35	99	第4面 道場	てづくね	(146)	—	3.1	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒 泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2	
35	100	第4面 道場	てづくね	(144)	—	3.4	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒 泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/3	
35	101	第4面 道場	てづくね	(140)	—	3.4	a: てづくね 内底ナマ 外底指繩ナマ消し b: 黑砂、雲母、赤色粒 泥岩粒 良上 c: 黄褐色 e: やや甘い f: 1/2	

単位: cm ( )=復元値 [ ]=残存値

出土遺物觀察表

单位：cm ( ) =復元値 [ ] =残存値

出土遺物觀察表

单位:cm ( ) =復元値 [ ] =残存値

## 出土遺物観察表

回収 番号	機番	出土位置 と層位	種別	口径 / 高さ	底径 / 幅	器高 / 厚	被物内容
38	188	第4面 遺構215	かわらけ	(9.4)	(7.3)	1.55	a: 形成・調整 b: 土・塊・材料 c: 乾燥 d: 濡潤 e: 健造 f: 透造 g: 練考
38	189	第4面 遺構215	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.5	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 見込みを強くしたために内部が盛りあがる
38	190	第4面 遺構215	かわらけ	(8.7)	(6.6)	1.65	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 c: 黑鉄・雲母多・赤色鉄・海綿骨芯・真土 e: 褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	191	第4面 遺構215	かわらけ	(8.6)	(6.6)	1.65	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	192	第4面 遺構215	かわらけ	(9.6)	(7.6)	1.7	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	193	第4面 遺構215	かわらけ	(9.2)	(7.4)	1.6	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	194	第4面 遺構215	かわらけ	9.25	7.5	1.75	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	195	第4面 遺構215	かわらけ	(8.6)	(7.0)	1.55	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	196	第4面 遺構215	かわらけ	(9.2)	(7.4)	2.05	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	197	第4面 遺構215	かわらけ	(9.5)	(7.3)	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	198	第4面 遺構215	かわらけ	(9.6)	(7.1)	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	199	第4面 遺構215	かわらけ	9.4	7.2	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: やや甘い f: 1/2 g: 良好
38	200	第4面 遺構215	かわらけ	(8.5)	(6.8)	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: やや甘い f: 1/2 g: 良好
38	201	第4面 遺構215	かわらけ	9.5	7.2	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	202	第4面 遺構215	かわらけ	(9.1)	(6.4)	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	203	第4面 遺構215	かわらけ	9.5	7.2	1.8	a: ロクロ・内底ナメ・外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: よくばり f: はげ足
38	204	第4面 遺構215	かわらけ	(9.2)	(6.6)	2.1	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	205	第4面 遺構215	かわらけ	(8.8)	(6.6)	1.95	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: 良好 f: 1/2 g: 良好
38	206	第4面 遺構215	かわらけ	9.7	6.8	2.0	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: やや甘い f: 1/2 g: 良好
38	207	第4面 遺構215	かわらけ	(9.2)	(7.0)	1.95	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: よくばり f: はげ足
38	208	第4面 遺構215	かわらけ	(8.8)	(6.5)	2.1	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・真土 c: 褐色 e: よくばり f: 2/3 g: 良好
38	209	第4面 遺構215	かわらけ	9.25	6.6	2.5	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: やや甘い f: 1/2 g: 良好
38	210	第4面 遺構215	かわらけ	9.9	7.8	1.45	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	211	第4面 遺構215	かわらけ	9.3	6.8	1.6	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	212	第4面 遺構215	かわらけ	(12.0)	(9.0)	3.2	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	213	第4面 遺構215	かわらけ	12.6	9.6	2.8	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	214	第4面 遺構215	かわらけ	13.0	9.8	2.9	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	215	第4面 遺構215	かわらけ	(13.6)	(9.6)	3.35	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	216	第4面 遺構215	かわらけ	(12.7)	(8.9)	3.0	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: やや甘い f: 1/2 g: 良好
38	217	第4面 遺構215	かわらけ	(13.6)	(8.7)	3.1	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: やや甘い f: 1/2 g: 良好
38	218	第4面 遺構215	かわらけ	(12.6)	(9.0)	3.05	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	219	第4面 遺構215	かわらけ	(12.8)	(9.3)	3.15	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: やや甘い f: 1/2 g: 良好
38	220	第4面 遺構215	かわらけ	(13.2)	(8.8)	2.9	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	221	第4面 遺構215	かわらけ	(12.8)	(9.0)	3.3	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	222	第4面 遺構215	かわらけ	13.4	8.8	3.7	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	223	第4面 遺構215	かわらけ	—	—	—	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	224	第4面 遺構215	青磁 碗	—	—	—	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	225	第4面 遺構215	青磁 碗	—	—	—	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	226	第4面 遺構215	白磁 碗	—	—	—	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	227	第4面 遺構215	瓦 平瓦	[20.7]	[18.8]	2.0	a: 凸面縫合向アリ・難易度付・四面横方向アリ・布目縫合・難易度付着・側面丁字なヶズリ b: 伝統色・鈍角・雲母・石粒・白色鉄・軟質・やわらか e: よくばり f: 1/2 g: 内外全体黒色・白色
38	228	第4面 遺構215	唐瓦 屋瓦	—	4.7	—	a: 凸面縫合アリ・難易度付・四面横方向アリ・布目縫合・難易度付着・側面丁字なヶズリ b: 伝統色・鈍角・雲母・石粒・白色鉄・軟質・やわらか e: よくばり f: 1/2 g: 内外全体黒色・白色
38	229	第4面 遺構215	木製品 箸	20.5	9.7	0.4	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	230	第4面 遺構215	木製品 箸	20.8	9.7	0.5	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好
38	231	第4面 遺構215	木製品 箸	21.3	9.7	0.55	a: ロクロ・内底ナメの外底回転系切+板状圧痕 b: 微鉗・雲母多・赤色鉄・黒鉄・海綿骨芯・泥引鉢 e: よくばり f: 1/2 g: 良好

単位: cm ( )=復元値 [ ]=残存値

## 出土遺物観察表

図版番号	柱番	出土土器名	種別	口径/底径	底径/幅	器高/厚	観察内容					
							a:成形・調整	b:土粒・素地・材質	c:色調	d:輪郭	e:焼成	f:遺存状況
39	232	第4面 道耕215	木製品 箸	21.0	0.7	0.5						
39	233	第4面 道耕215	木製品 箸	22.1	0.7	0.6						
39	234	第4面 道耕215	木製品 箸	26.8	0.7	0.5						
39	235	第4面 道耕215	木製品 箸	25.1	0.8	0.55						
39	236	第4面 道耕215	木製品 箸	24.8	0.7	0.55						
39	237	第4面 道耕215	木製品 箸	23.0	0.8	0.6						
39	238	第4面 道耕215	木製品 箸	29.9	0.7	0.5						
39	239	第4面 道耕215	木製品 箸	20.8	0.65	0.4						
39	240	第4面 道耕215	木製品 箸	20.3	0.7	0.55						
39	241	第4面 道耕215	木製品 箸	19.9	0.7	0.5						
39	242	第4面 道耕215	木製品 箸	19.5	0.5	0.5						
40	1	第4面 道耕219	てづくね	9.8	—	2.0	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵ナメ消し+板状圧痕不明瞭 b:微細・雲母多・黒色粒・海綿骨芯 や小粒土・c:灰黄色 e:良好 f:1/3					
40	2	第4面 道耕219	てづくね	9.6	—	1.9	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母多・黑色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:2/3					
40	3	第4面 道耕219	てづくね	9.2	—	1.7	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯・泥引粒 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3					
40	4	第4面 道耕219	てづくね	8.9	—	1.3	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黑色粒・海綿骨芯・泥引粒 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:3/4					
40	5	第4面 道耕219	てづくね	8.8	—	1.2	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黑色粒・海綿骨芯・泥引粒・小石粒 精土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2					
40	6	第4面 道耕219	てづくね	8.6	—	1.9	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:2/3					
40	7	第4面 道耕219	てづくね	14.6	—	3.6	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3					
40	8	第4面 道耕219	てづくね	12.8	—	3.4	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4					
40	9	第4面 道耕219	てづくね	13.6	—	3.1	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4 c:内底に油垢感					
40	10	第4面 道耕219	てづくね	13.2	—	3.2	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3					
40	11	第4面 道耕219	てづくね	13.8	—	3.15	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯・小石粒・泥引粒 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4					
40	12	第4面 道耕219	てづくね	14.4	—	3.1	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母多・黒色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4					
40	13	第4面 道耕219	てづくね	13.2	—	3.4	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4					
40	14	第4面 道耕219	てづくね	14.0	—	3.25	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黑色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3					
40	15	第4面 道耕219	かわらけ	9.8	5.2	1.7	a:「かわらけ」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯・小石粒・赤色粒・赤色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3					
40	16	第4面 道耕219	かわらけ	9.3	(7.4)	1.8	a:「かわらけ」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3					
40	17	第4面 道耕219	かわらけ	8.95	(7.1)	1.55	a:「かわらけ」 内底ナメ・外底回転止め・板状压痕 b:微細・雲母多・赤色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3					
40	18	第4面 道耕219	木製品 容器不明	—	6.7	—	E底部片 g: 地面 平高台					
40	19	第4面 道耕219	漆器	漆器不明	17.0	—	g: 内外面全体に墨 g: 楊心跡か					
41	1	第4面 前上	てづくね	9.6	—	1.3	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母多・黒色粒・海綿骨芯 や小粒土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4					
41	2	第4面 前上	てづくね	9.3	—	1.7	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し+板状压痕 b:微細・雲母多・黒色粒・海綿骨芯 精土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3					
41	3	第4面 前上	てづくね	9.10	—	1.6	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯 正土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4					
41	4	第4面 前上	てづくね	9.2	—	1.8	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・赤色粒・海綿骨芯 正土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4					
41	5	第4面 前上	てづくね	9.8	—	1.85	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母多・黒色粒・海綿骨芯 正土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4					
41	6	第4面 前上	てづくね	9.3	—	1.75	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯 正土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4					
41	7	第4面 前上	てづくね	8.5	—	1.5	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯 正土 c:精土 e:良好 f:1/4					
41	8	第4面 前上	てづくね	8.8	—	1.8	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・赤色粒・海綿骨芯 正土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4					
41	9	第4面 前上	てづくね	8.7	—	1.8	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯 正土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4					
41	10	第4面 前上	てづくね	10.5	—	2.0	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯 正土 c:精土 e:良好 f:1/4					
41	11	第4面 前上	てづくね	10.5	—	2.0	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・赤色粒・海綿骨芯 正土 c:灰黄色 e:良好 f:1/4					
41	12	第4面 前上	てづくね	13.1	—	3.3	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・赤色粒・海綿骨芯 正土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2					
41	13	第4面 前上	てづくね	14.2	—	3.1	a:「てづくね」 内底ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯・泥引粒 正土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2					
41	14	第4面 前上	てづくね	13.0	—	3.3	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵ナメ消し b:微細・雲母・黒色粒・海綿骨芯 正土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2					

単位:cm ( )=復元値 [ ]=残存値

出土遺物観察表

回収 番号	機番	出土位置 出土地層位	種別	口径/高さ	底径/幅	器高/厚	輪形内容
41	15	第4面 上面	てづくね	(14.1)	—	3.15	a: 形成・調整 b: 土・素地・材料 c: 水色 d: 鞘調 e: 健成 f: 進存値 g: 考査 a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削溝なし消し b: 鏡神・雲母・黑色粒・水色粒・海綿骨芯 やや土上 c: 黒灰地 e: 良好 f: 1/2
41	16	第4面 上面	てづくね	(14.2)	—	3.1	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削溝なし消し b: 鏡神・雲母多・黑色粒・水色粒・海綿骨芯 良土 c: 黒灰地 e: 良好 f: 1/2
41	17	第4面 上面	てづくね	(14.2)	—	3.3	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削溝なし消し b: 鏡神・雲母・黑色粒・水色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黒灰地 e: 良好 f: 1/2
41	18	第4面 上面	てづくね	(14.0)	—	3.2	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削溝なし消し b: 鏡神・雲母・黑色粒・水色粒・海綿骨芯 良土 c: 黒灰地 e: 良好 f: 1/2
41	19	第4面 上面	てづくね	14.5	—	3.65	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削溝なし消し b: 鏡神・雲母・黑色粒・水色粒・海綿骨芯・ 尾羽粒・良土 c: 黑灰地 e: 良好 f: 1/4
41	20	第4面 上面	てづくね	13.4	—	3.3	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削溝なし消し b: 鏡神・雲母・黑色粒・水色粒・海綿骨芯・小石粒・ 尾羽粒・良土 c: 黑灰地 e: 良好 f: 1/2
41	21	第4面 上面	てづくね	13.6	—	3.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削溝なし消し b: 鏡神・雲母多・黑色粒・海綿骨芯・泥羽粒・良土 c: 黒灰地 e: 良好 f: 1/2
41	22	第4面 上面	かわらけ	(8.0)	(6.4)	1.6	a: ロクロ・内底ナメ・外底指削溝なし消し・板状圧痕 b: 鏡神・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・小石粒・泥羽 粒・良土 c: 良好 f: 1/2
41	23	第4面 上面	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.4	a: ロクロ・内底ナメ・外底指削溝なし消し・板状圧痕 b: 鏡神・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・小石粒・ 泥羽粒・良土 c: 良好 f: 1/2
41	24	第4面 上面	かわらけ	(9.1)	(6.5)	1.9	a: ロクロ・内底ナメ・外底指削溝なし消し・板状圧痕 b: 鏡神・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/2
41	25	第4面 上面	かわらけ	(9.9)	(7.2)	2.0	a: ロクロ・内底ナメ・外底指削溝なし消し・板状圧痕 b: 鏡神・雲母多・赤色粒・海綿骨芯・泥羽粒・良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/2
41	26	青磁 碗	—	—	—	—	a: ロクロ b: 精良無撚 c: 水色 d: 黄緑色 e: 良好 f: 口縁部片 g: 電卓裏・内底磨削面文化 a: 磨擦み b: 水色 微粒・長石・小石粒 c: 黑褐色 d: 黑褐色 e: 良好 f: 口縁部片 g: fa形式
41	27	青磁 片口1個	—	—	—	—	a: てづくね 内底ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黑灰地 e: やや目立 f: 1/4
41	28	第4面 構成土	てづくね	(7.6)	—	1.2	a: てづくね 内底ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・海綿骨芯 良土 c: 黑灰地 e: やや目立 f: 1/4
41	29	第4面 構成土	てづくね	(9.7)	—	1.8	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕・板状圧痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯・ 泥羽粒を含む黄味佳良 c: 黄灰色 e: やや目立 f: 1/4
41	30	第4面 構成土	てづくね	(9.7)	—	1.8	a: てづくね・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/4
41	31	第4面 構成土	てづくね	9.2	—	1.6	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥羽粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや目立 f: 完形
41	32	第4面 構成土	てづくね	(9.6)	—	1.7	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕・板状圧痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯・ 良土 e: 黄灰色 f: 1/2
41	33	第4面 構成土	てづくね	(9.6)	—	1.8	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯・泥羽粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや目立 f: 1/2
41	34	第4面 構成土	てづくね	(9.6)	—	1.8	a: てづくね・内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/2
41	35	第4面 構成土	てづくね	(9.6)	—	1.8	a: てづくね・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/2
41	36	第4面 構成土	てづくね	(9.7)	—	1.7	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/3 g: 頭部剥離
41	37	第4面 構成土	てづくね	(9.0)	—	1.7	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/2
41	38	第4面 構成土	てづくね	(9.6)	—	1.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯・泥羽粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや目立 f: 1/4
41	39	第4面 構成土	てづくね	9.0	—	1.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯・泥羽粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや目立 f: 1/4
41	40	第4面 構成土	てづくね	(8.9)	—	1.7	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/2 g: 片断部剥離
41	41	第4面 構成土	てづくね	(9.4)	—	1.9	a: てづくね・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/4
41	42	第4面 構成土	てづくね	(9.1)	—	1.8	a: てづくね・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや目立 f: 1/4 g: 器表部が全般的に泥色剥離で
41	43	第4面 構成土	てづくね	(9.7)	—	2.0	a: てづくね・内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/2
41	44	第4面 構成土	てづくね	(9.6)	—	2.0	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯・泥羽粒 や や粗土 c: 残色 e: 良好 f: 1/2
41	45	第4面 構成土	てづくね	(8.8)	—	2.0	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 良土 c: 残色 e: 良好 f: 1/2
41	46	第4面 構成土	てづくね	(9.6)	—	2.0	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯・泥羽粒を含 む砂質風化土 c: 黑灰色 e: やや目立 f: 1/3
41	47	第4面 構成土	てづくね	(9.2)	—	2.0	a: てづくね・内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/2
41	48	第4面 構成土	てづくね	7.3	—	1.5	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: やや目立 f: 1/2
41	49	第4面 構成土	てづくね	(13.1)	—	2.9	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや目立 f: 1/2
41	50	第4面 構成土	てづくね	(14.9)	—	2.8	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯・泥羽粒を含 む砂質風化土 c: 黑灰色 e: やや目立 f: 1/3
41	51	第4面 構成土	てづくね	13.6	—	3.3	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕・板状圧痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯・泥羽 粒 やや良土 e: 良好 f: 3-4 g: 全体的に黒色変色 口縁部に1箇所削成面による引っ掛け感が残る 口縁部 剥離あり
41	52	第4面 構成土	てづくね	(14.0)	—	2.2	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/4
41	53	第4面 構成土	てづくね	13.9	—	3.0	a: てづくね 内底ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯・泥羽粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 2/4
41	54	第4面 構成土	てづくね	(14.6)	—	2.70	a: てづくね 内底ナメの後回転ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・白色粒・海綿骨芯 良土 c: 残色 e: 良好 f: 1/2
41	55	第4面 構成土	てづくね	(14.4)	—	2.8	a: てづくね・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 粗土 c: 黑灰色 e: やや粗土 f: 1/4 g: 器表部はりびつあり 内底部分は黒色変色
41	56	第4面 構成土	てづくね	(13.8)	—	3.2	a: てづくね 内底ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯・泥羽粒 やや粗土 c: 黄 灰色 e: やや目立 f: 1/4
41	57	第4面 構成土	てづくね	(14.7)	—	4.0	a: てづくね 内底ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯・泥羽粒 やや良土 c: 黄 灰色 e: やや目立 f: 1/2
41	58	第4面 構成土	てづくね	(13.5)	—	3.7	a: てづくね 内底ナメ・外底指削痕 b: 鏡神・雲母・赤色粒・水色粒・海綿骨芯 良土 c: 黄灰色 e: 良好 f: 1/3 g: 器部表面は黒色変色

単位: cm ( ) =復元値 [ ] =残存値

## 出土遺物観察表

図版番号	柱番	出土位置 層位・断面	種別	口径/長さ	底径/幅	高さ/厚	観察内容	
							a	b
41	39	第4面 横成土	てづくね	(140)	—	3.40	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黒縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/2	
41	60	第4面 横成土	てづくね	136	—	3.3	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黒縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/2	
41	61	第4面 横成土	てづくね	(138)	—	3.8	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/2	
42	62	第4面 横成土	てづくね	(124)	—	(3.2)	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・良土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/3	
42	63	第4面 横成土	てづくね	(136)	—	2.9	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/3	
42	64	第4面 横成土	てづくね	(130)	—	3.7	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/3	
42	65	第4面 横成土	てづくね	137	—	3.2	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・良土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/3	
42	66	第4面 横成土	てづくね	(139)	—	3.2	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/3	
42	67	第4面 横成土	てづくね	(126)	—	3.4	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・良土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/3	
42	68	第4面 横成土	てづくね	(139)	—	3.2	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2	
42	69	第4面 横成土	てづくね	137	—	3.0	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2	
42	70	第4面 横成土	かわらけ	(86)	(7.1)	1.8	a:「クロ」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2	
42	71	第4面 横成土	かわらけ	9.4	7.2	1.9	a:「クロ」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/3	
42	72	第4面 横成土	かわらけ	(96)	(7.5)	1.7	a:「クロ」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/3	
42	73	第4面 横成土	かわらけ	(89)	(5.8)	1.3	a:「クロ」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2 g: 破壊後に部分的に黒く変色 (一次焼成)	
42	74	第4面 横成土	かわらけ	(87)	(5.8)	1.9	a:「クロ」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2	
42	75	第4面 横成土	かわらけ	(88)	5.6	2.2	a:「クロ」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・良土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/2	
42	76	第4面 横成土	かわらけ	(87)	(6.0)	1.8	a:「クロ」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/4	
42	77	第4面 横成土	かわらけ	9.2	7.0	2.0	a:「クロ」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/3 g: 破壊後に部分的に黒く変色 (二次焼成)	
42	78	第4面 横成土	かわらけ	(13.3)	(8.0)	3.0	a:「クロ」 内底ナメの後回転ナメ・外底指淵痕 b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 や良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2	
42	79	第4面 横成土	白磁 四耳鉢	—	—	—	a:「輪枝目」 ブラック b: 黑色 黑色を含む粗堅厚壁 d: 黑色不透明釉をやや厚く塗籠 e: 壁裂 f: 裂片部 g: 且の部分がわずかに変色	
42	80	第4面 横成土	闇美 片口鉢	—	(14.0)	—	a:「輪枝目」 瓦部赤褐色の内側に薄青、内部全体に黒い斑状 (二次焼成)	
42	81	第4面 横成土	闇美 甕	—	—	—	a:「輪枝目」 b: 黑色 研磨・白色粒子 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2	
42	82	第4面 横成土	闇美	—	—	—	a:「輪枝目」 b: 白色 研磨・白色粒子 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2	
42	83	第4面 横成土	闇美 甕	—	—	—	a:「輪枝目」 b: 白色 研磨・白色粒子 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2	
42	84	第4面 横成土	闇美 甕	—	—	—	a:「輪枝目」 b: 白色 研磨・白色粒子 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2	
42	85	第4面 横成土	器形不明	—	—	—	g: 内外面全黑色 (輪枝目) 内外面に手書き施文、御所幸文・円文	
42	86	第4面 横成土	木製品 用具不明	12.8	1.7	0.7 ~ 1.0	f: 木質 材 離合ヘッドに切口がされたる	
42	87	第4面 横成土	木製品 用具不明	16.7	3.4	0.6	f: 木質 目下端部は刃物で削つけてから折りとり ? 両面共に刃物によるキズが譲者	
43	1	表探	てづくね	(91)	—	1.6	a:「てづくね」 外底部指淵ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/4	
43	2	表探	てづくね	(94)	—	1.6	a:「てづくね」 外底部指淵ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/3	
43	3	表探	てづくね	(97)	—	1.6	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ b: 外底部指淵ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2	
43	4	表探	てづくね	(92)	—	1.6	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ b: 外底部指淵ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2	
43	5	表探	てづくね	(96)	—	1.5	a:「てづくね」 外底部指淵ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/4	
43	6	表探	てづくね	(96)	—	1.95	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ b: 外底指淵痕 d: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰土 e: やや凹凸 f: 1/2	
43	7	表探	てづくね	9.6	—	1.75	a:「てづくね」 外底部指淵痕ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/3	
43	8	表探	てづくね	(132)	—	2.85	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ b: 外底指淵痕ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/3	
43	9	表探	てづくね	14.8	—	2.9	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ b: 外底指淵痕ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/2	
43	10	表探	てづくね	(132)	—	3.6	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ b: 外底指淵痕ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・小石粒 良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/3	
43	11	表探	てづくね	(136)	—	3.1	a:「てづくね」 外底部指淵痕ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/3	
43	12	表探	てづくね	(130)	—	3.1	a:「てづくね」 外底部指淵痕ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/4	
43	13	表探	てづくね	(131)	—	3.4	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ b: 外底部指淵痕ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・小石粒 良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/3	
43	14	表探	てづくね	(134)	—	3.3	a:「てづくね」 内底ナメの後回転ナメ b: 外底部指淵痕ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/3	
43	15	表探	てづくね	(118)	—	1.05	a:「てづくね」 外底部指淵痕ナメ消し b: 黑縞。雲母・赤色粒子・海綿骨芯・良土 c: 黄灰土 e: より好 f: 1/4	

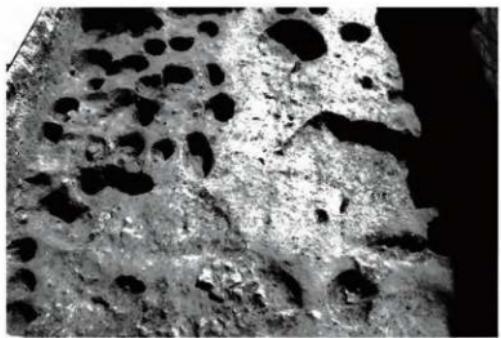
単位: cm ( ) = 復元値 [ ] = 残存値

出土遺物観察表

回収 番号	機番	出土位置 出土層位	種別	口径/高さ	底径/幅	器高/厚	表面内容
43	16	表探	てづくね	(14.0)	—	3.3	a: 成形・調整 b: 土なし・素面、材質 c: 色調 d: 釉調 e: 健成 f: 道存後 g: 備考 a: てづくね 内底ナデ・外底回転系切 b: 微渺・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや甘口 f: 1:1.3
43	17	表探	かわらけ	(7.0)	(5.5)	1.4	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b: 微渺・黒色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや甘口 f: 1:1.4
43	18	表探	かわらけ	(7.0)	(5.6)	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b: 微渺・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや甘口 f: 1:1.3
43	19	表探	かわらけ	7.6	5.4	1.5	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切・板状圧痕 b: 微渺・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 1:1.3
43	20	表探	かわらけ	(7.0)	(5.4)	1.7	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b: 微渺・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 1:1.2
43	21	表探	かわらけ	(7.0)	(5.3)	1.55	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切・板状圧痕 b: 微渺・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 2:3
43	22	表探	かわらけ	(7.0)	(5.2)	1.45	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b: 微渺・赤色粒・泥岩粒 やや良土 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 1:2
43	23	表探	かわらけ	(7.0)	(5.0)	1.8	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b: 微渺・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 1:2 内底回転系切に変色
43	24	表探	かわらけ	(7.0)	(5.6)	1.5	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b: 微渺・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 1:2
43	25	表探	かわらけ	(8.0)	(4.9)	1.7	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b: 微渺・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 1:2
43	26	表探	かわらけ	(8.0)	(4.6)	2.45	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b: 微渺・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 1:2
43	27	表探	かわらけ	(11.5)	(8.0)	3.25	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b: 微渺・赤色粒・泥岩粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 1:4
43	28	表探	かわらけ	(14.0)	(9.8)	2.5	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切・板状圧痕 b: 微渺・黒色粒・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 1:5
43	29	表探	かわらけ	(12.0)	(8.0)	3.1	a: ロクロ・内底ナデの後見込み・周回凹ナデ・外底回転系切・板状圧痕 曲筋りの削除が窺い b: 微渺・黒色粒・泥岩粒・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 1:4
43	30	表探	かわらけ	(13.2)	(7.9)	3.25	a: ロクロ・内底ナデ・外底回転系切 b: 微渺・赤色粒・泥岩粒・小石粒・海綿骨芯 やや良土 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 1:4
43	31	表探	白磁 白口白	—	—	—	a: ロクロ・白磁ナデ・外底回転系切 b: 微渺・白色粒・黄良堅壁 d: 白口白 g: 口縁部剥離
43	32	表探	片口白 I型	—	—	—	a: 磁精み b: 茶褐色・小石粒・微渺 c: 明顯色 e: やや良好 f: 口縁部剥離
43	33	表探	上部黄 火葬	—	—	—	a: 磁精み b: 灰色・微渺・赤色粒 c: 黄褐色 e: やや良好 f: 口縁部剥離
43	34	表探	瓦 瓦丸	—	—	2.5	a: 凸向ナデによる不整形・前面端口直・側面・側面端ナデ又不整形 亂刷り付け b: 白色・青粒・石粒・白色粒・良土 c: やや健成 g: 主期C期・瓦当部・輪面幅約9cm・外径約12cm・跋文草文が界隈上に小さく残文で認める
43	35	表探	瓦 瓦丸	—	—	—	a: 凸向ナデの痕をヘタによるナデ消し・西面布口直・輪面端ナデ又不整形 b: 白色・青粒・石粒・白色粒・粗土 c: やや健成 g: 主期C期
43	36	表探	土製品 陶	(5.0)	—	—	a: ロクロ b: 微渺・雲母・白色粒・白色粒 やや粗土 c: 陶程色 e: やや良好 f: 口縁部
43	37	表探	瓦製品 瓦	(7.0)	0.5	0.2	g: 鋼造 斜面方形
43	38	表探	金属製品 鉄	外径24	内径2.0	孔徑0.6	g: 天祐通寶 制錢: 北宋 1017年 横書
43	39	表探	金属製品 銅	外径24	内径2.0	孔徑0.8	g: 元祐通寶 制錢: 北宋 1086年 横書
43	40	表探	金属製品 銅	外径24	内径2.0	孔徑0.7	g: 鎏金不明

単位: cm ( )=復元値 [ ]=残存値

遺物破片數表



▲第一面全景（北から）



▲第二面全景（北から）



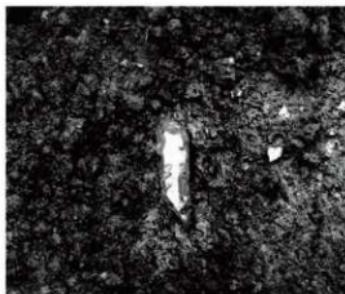
▲第二面・イコウ 133 (東から)



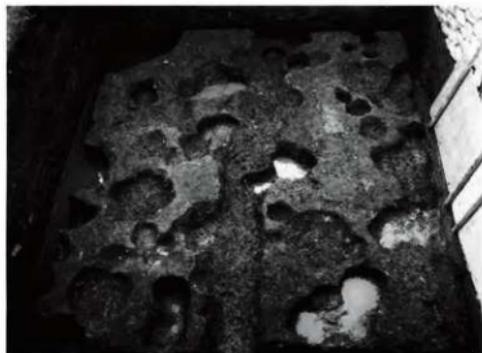
▲第二面・北側玉石検出状況 (北から)



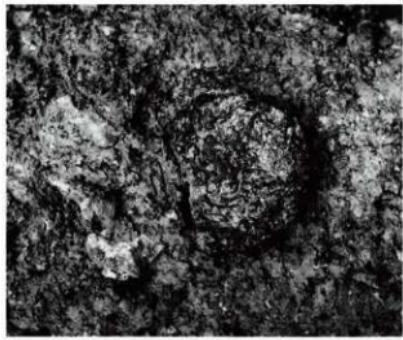
▲第二面・イコウ130(東から)



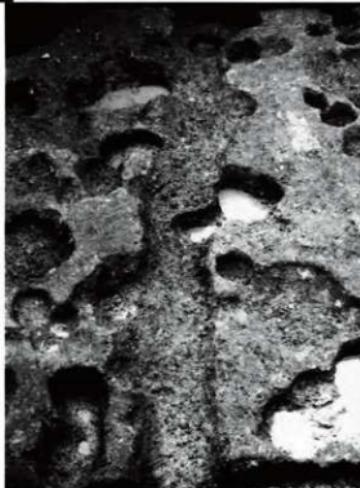
▲第二面構成土  
水晶出土状況



▲第三面全影(東から)



▲第三面・面上 鉄製品出土状況



▲第三面・イコウ207(東から)



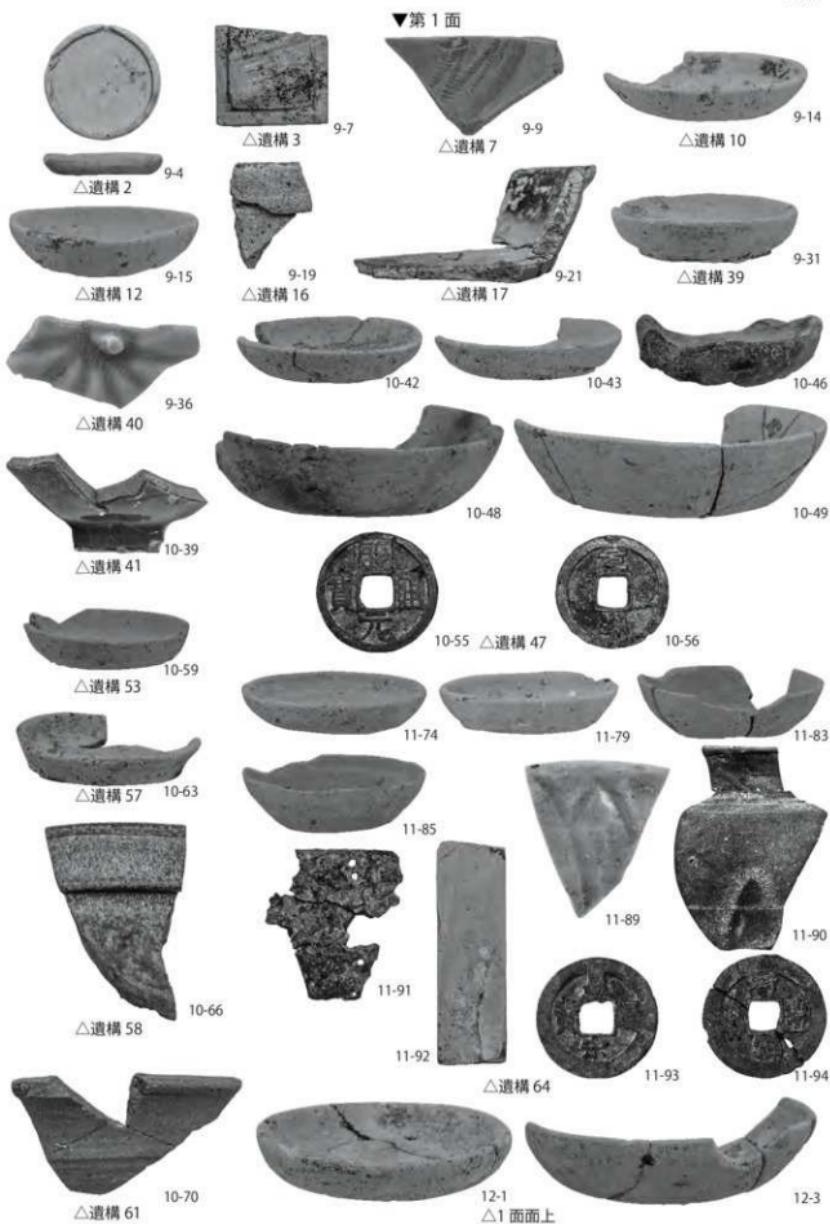
◀第四面・イコウ215・218



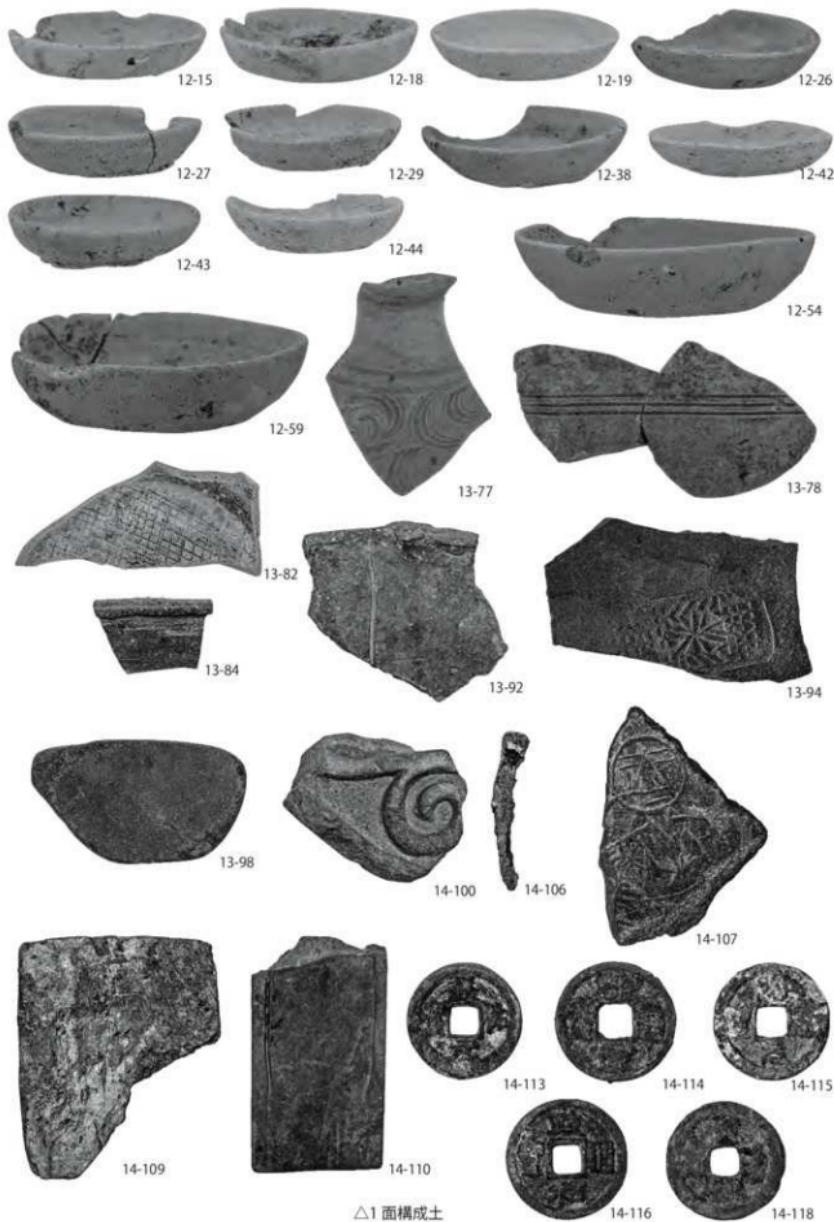
第四面・イコウ218▶



◀最終Tr全景



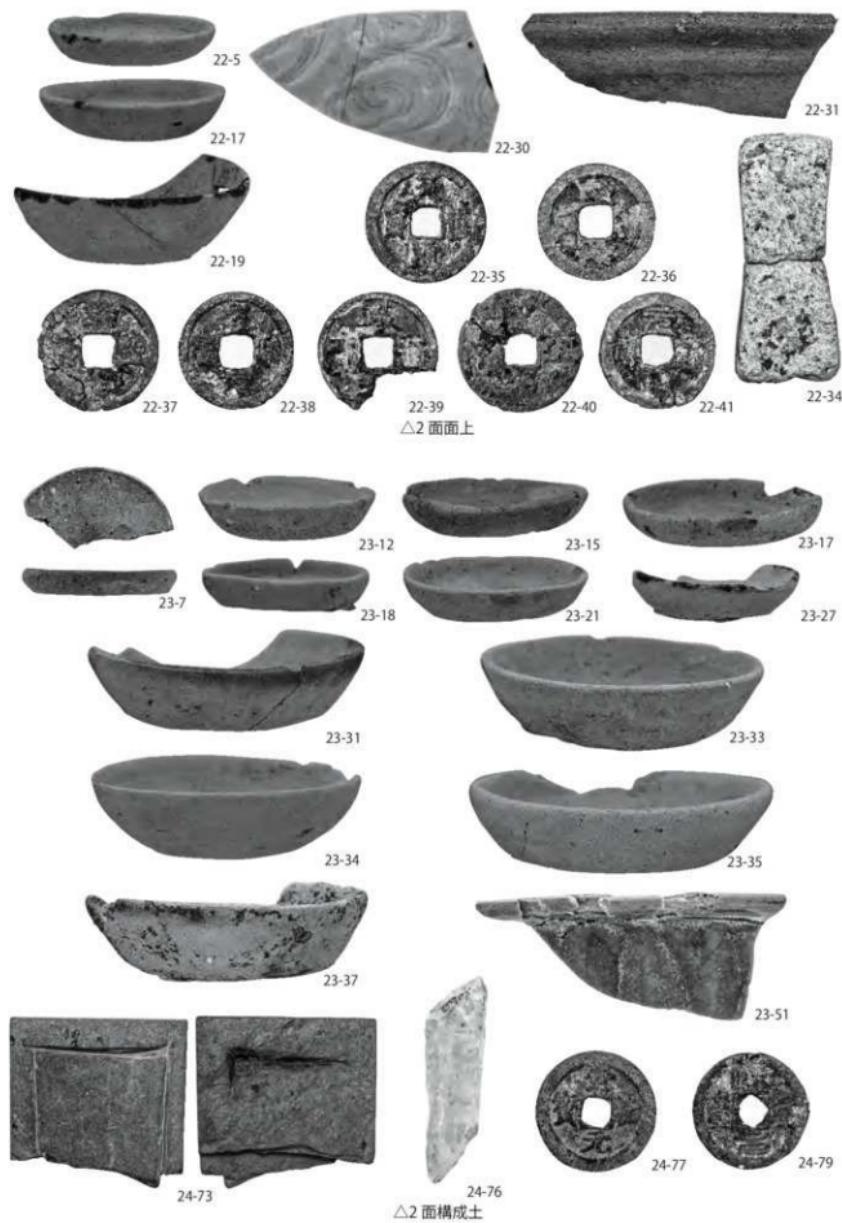
图版5





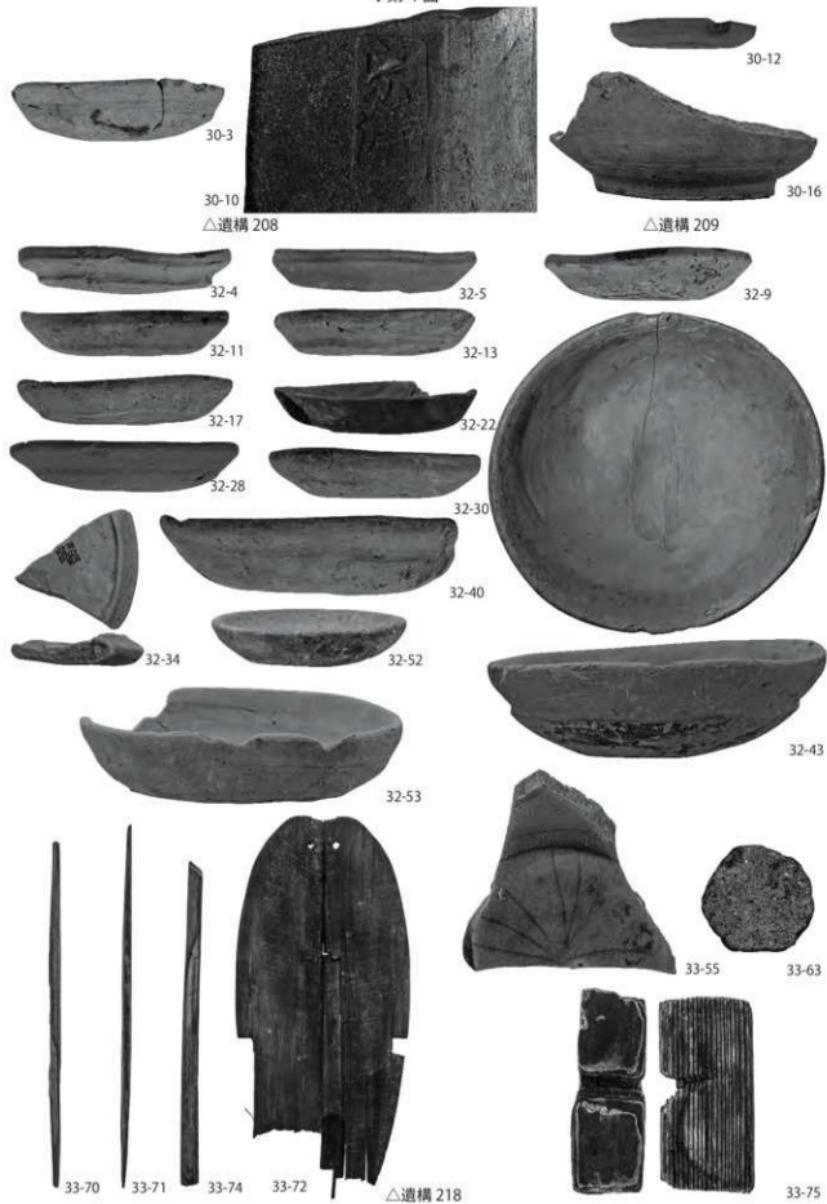


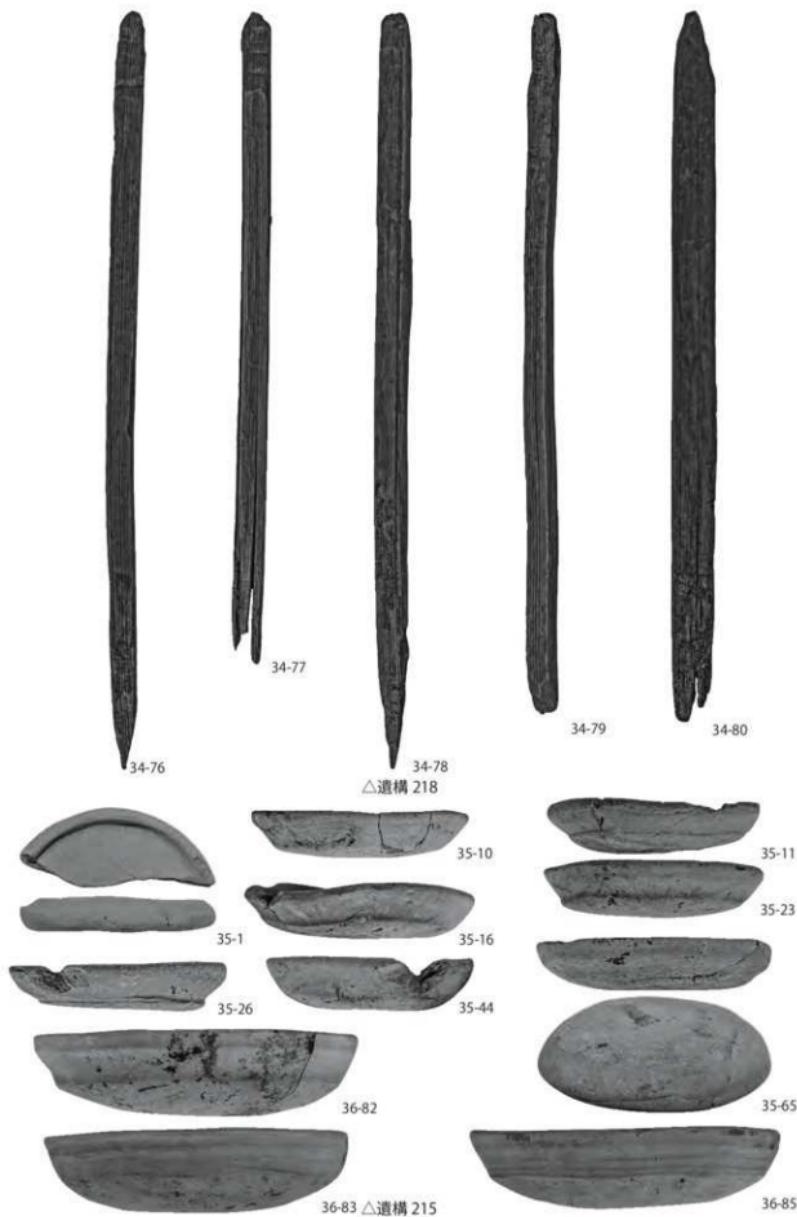
△遺構 133

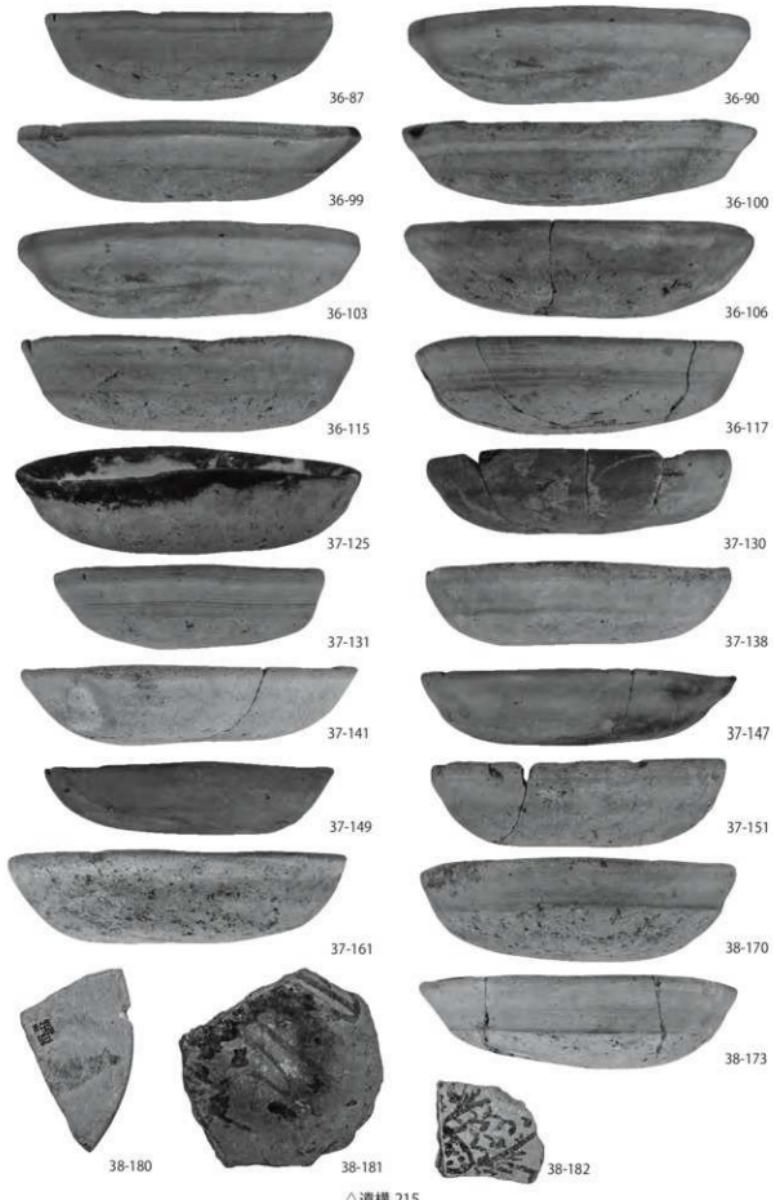




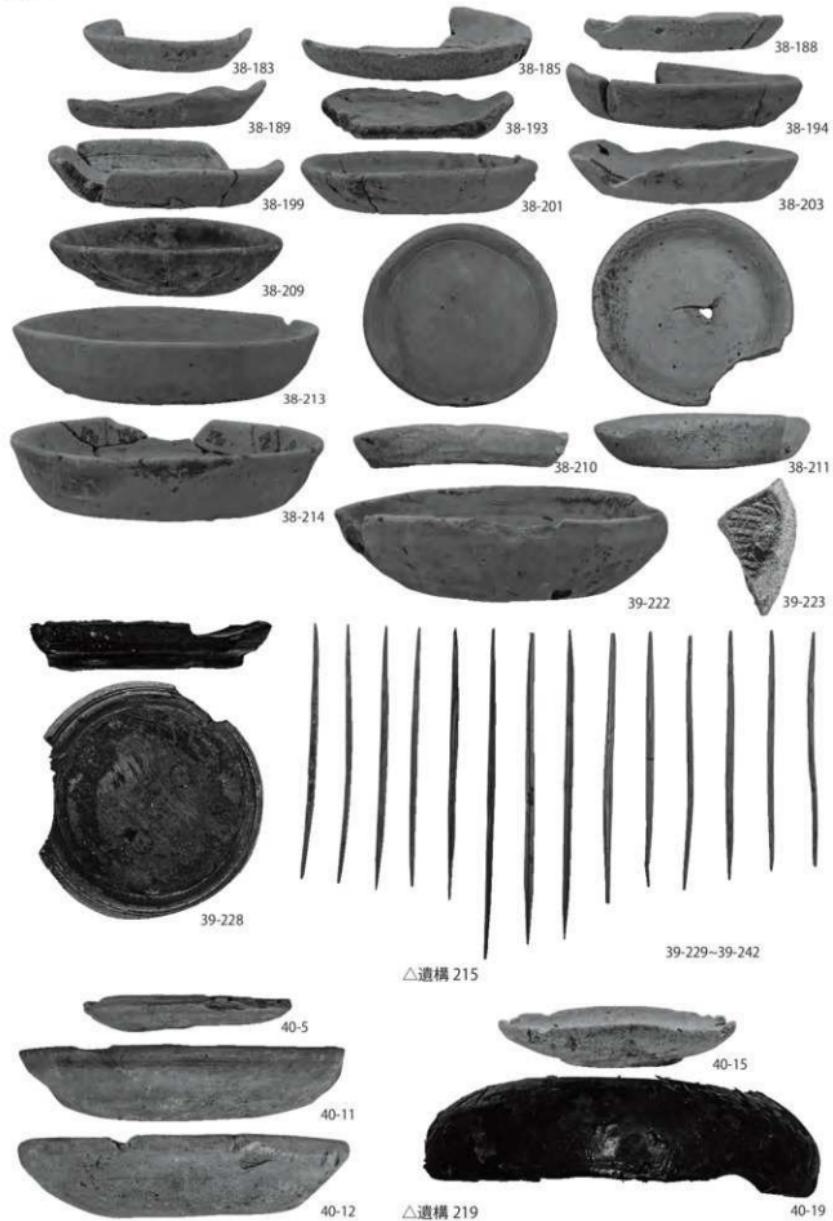
## ▼第4面

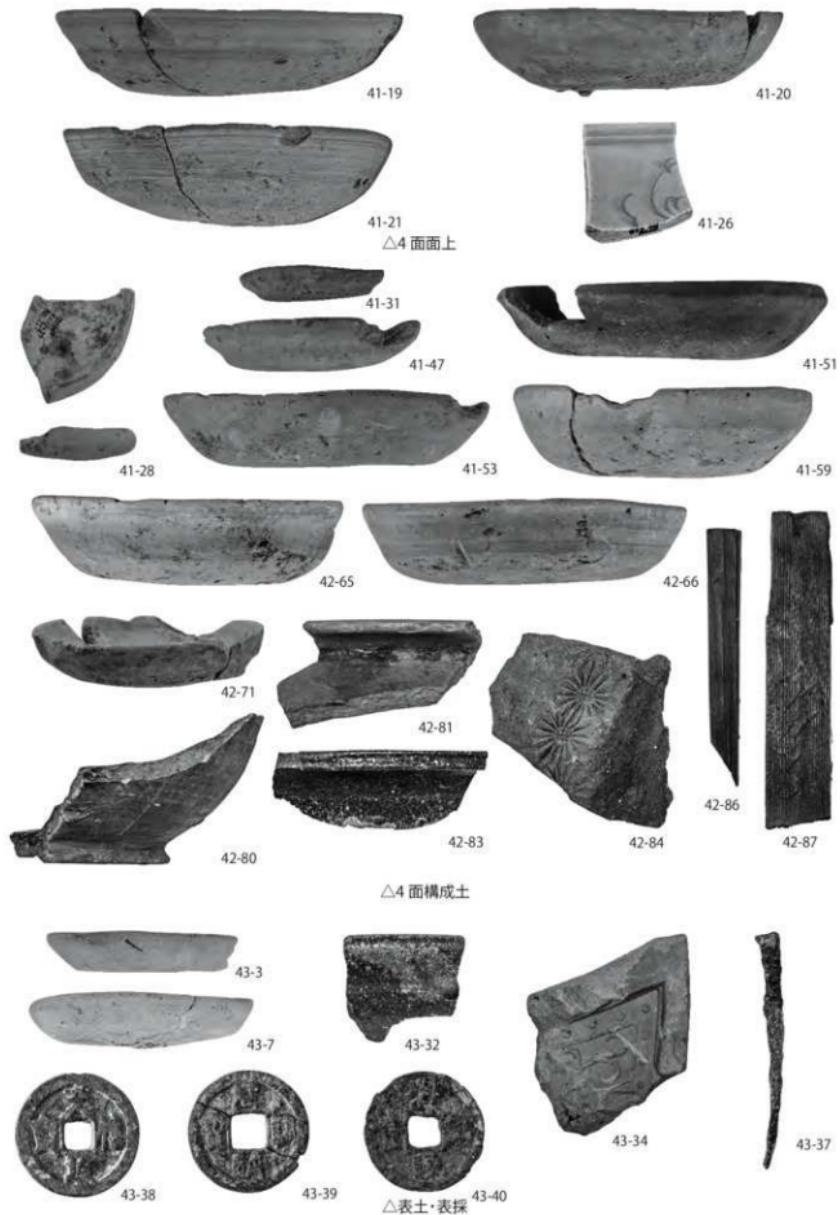






图版 13







台山遺跡 (No.29)

山ノ内860番1地点

## 例 言

1. 本報は鎌倉市山ノ内860番1地点に所在する遺跡の発掘調査である。
2. 発掘調査は個人専用住宅にかかる建築範囲約30m<sup>2</sup>を対象とし、平成22年1月12日から2月17日にかけて実施した。

3. 現地での調査体制は以下の通り

担当者 伊丹まどか

調査員 松原康子

作業員 牛鶴道夫・大塚尚城・田口康雄・田島道夫・根市真古人（社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4. 本報作成は以下の分担で行った。

遺物実測 岩崎卓司・須佐直子

遺物図版作成 清水由加里・田畠衣理

遺構図版作成 清水由加里・田畠衣理

遺物観察表 田畠衣理

遺構計測表 伊丹まどか・清水由加里

遺構写真 伊丹まどか

遺物写真 田畠衣理

写真図版作成 田畠衣理

執筆・編集 田畠衣理

5. 本調査に係る出土遺物・図面・写真等の記録資料は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は調査段階では「DMI」としていたが、市教育委員会の統一基準により「DI0914」として整理した。

6. 本報の凡例は以下の通りである。

・挿図縮尺 遺構全測図：1／60 個別遺構図：1／40 実測遺物図：1／3 銭：1／1

なお各挿図にはスケールを表示してある。

・遺構図版 遺構のレベルは海拔標高の数値を示す。

・遺物図版 軸薬の範囲は・・・、加工痕・使用痕は♀→♀、生産地加工痕♀←♀

7. 本文の都合から遺物に関する詳細は観察表にまとめて掲載している。また復元して実測した遺物は計測値に（ ）を、最大遺存値に〔 〕を付して表している。

8. 遺物の分類及び編年は下記を参考にした。

瀬戸窯製品・尾張型山茶碗：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

常滑・渥美窯製品：中野晴久2012『愛知県史別編窯業3中世・近世常滑系』愛知県／藤澤良祐他  
2015『中世常滑窯編年の再検討－5型式以降を中心に－』[上巻2号窯跡第9次調査発掘調査概要報告書]  
愛知学院大学文学部歴史学科

舶載陶器：大宰府市教育委員会2000『大宰府条坊跡X V－陶磁器分類編－』

火鉢：河野眞知郎1993『中世鎌倉火鉢考』[考古論叢 神奈川第2集]神奈川県考古学会

9. 発掘調査及び報告書作成に関しては下記の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。(敬称略・五十音順)

押木弘己・汐見一夫・福田誠・藤澤良祐・渡邊美佐子

## 目 次 本 文 目 次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	213
第1節 遺跡の位置と歴史的環境(図1)	
第2節 周辺遺跡の調査成果(図1)	
第二章 調査の概要 .....	217
第1節 調査の経過・方法と調査区設定(図2)	
第2節 堆積土層図(図3)	
第三章 発見された遺構と遺物 .....	221
第1節 第1面の遺構と遺物(図4)	
第2節 第2面の遺構と遺物(図5～6)	
第3節 第3面の遺構と遺物(図7～9)	
第4節 第4面の遺構と遺物(図10～11)	
第5節 第5面の遺構と遺物(図12)	
第6節 最終トレンチ・表採遺物(図13)	
第四章 調査成果のまとめ .....	237

## 挿 図 目 次

図1 調査地点と周辺の遺跡 .....	214	図8 第3面各遺構・構成土・出土遺物 .....	227
図2 調査区配置図 .....	218	図9 第3面遺構94・出土遺物 .....	230
図3 堆積土層図 .....	219	図10 第4面全測図 .....	231
図4 第1面各遺構・出土遺物 .....	222	図11 第4面各遺構・出土遺物 .....	233
図5 第2面全測図 .....	223	図12 第5面全測図・各遺構出土遺物 .....	234
図6 第2面各遺構・出土遺物 .....	225	図13 最終トレンチ・表採出土遺物 .....	236
図7 第3面全測図 .....	226	図14 周辺の岩盤検出状況 .....	238

## 表 目 次

表1 調査地点の遺構年代 .....	216	表3 遺物破片数表 .....	242
表2 出土遺物観察表 .....	239	表4 遺構計測表 .....	243

## 図 版 目 次

図版1 .....	244	図版5 .....	248
1. 第1面全景（南から）		1. 第2面遺構46（南から）	
2. 第2面全景（南から）		2. 第3面遺構104（東から）	
3. 第3面全景（南から）		3. 第3面遺構57・58（北から）	
図版2 .....	245	図版6 .....	249
1. 第4面全景（南から）		1. 第3面遺構94遺物出土状況（北から）	
2. 第5面全景（東から）		2. 第3面遺構94遺物出土状況（西から）	
3. 最終トレンチ（東から）		3. 第3面北西隅遺構群（南から）	
図版3 .....	246	図版7 .....	250
1. 調査区西壁①（東から）		1. 第4面遺構73・74・78・80・81・82・150（南から）	
2. 調査区西壁②（東から）		2. 第4面遺構88・91・92・99・98・100・147（北から）	
3. 調査区西壁③（東から）		3. 第5面遺構109・110・123・124（東から）	
図版4 .....	247	図版8 .....	251
1. 調査区西壁④（東から）		図版9 .....	252
2. 調査区北壁①（南から）		図版10 .....	253
3. 調査区北壁②（南から）			

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 第1節 遺跡の位置と歴史的環境（図1）

台山遺跡は鎌倉市北部に位置し、山ノ内道（現在の主要地方道横浜鎌倉線）とJR横須賀線・北鎌倉駅の西側、柏尾川へと流下する小袋川を見下す標高93.3mの台峯の東の支脈上にある。支脈は標高50m前後の南と東に開けた斜面に位置し、遺跡範囲は長さ約700m×幅約300mの規模をもつ。本遺跡の南東辺に位置する地点3・8・6は付近の字名を加えて「台山藤源台遺跡」とされ、今回の調査地点はその北側・JR北鎌倉駅から300m西の丘陵中腹部の雑壇状に造成された宅地内に位置する。

本遺跡の南側は西方奥へ深く入り込んだ瓜ヶ谷の谷戸を形成し、多数のやぐら群が存在する。東側に走る山ノ内道は鎌倉市域に入る主要な道として配し、山ノ内地域は建保元年（1213）に幕府より北条義時に与えられ、幕府滅亡までは北条氏の私領、その後は山内上杉氏の居館が構えられている。また中世鎌倉の北の境界として機能し、数多くの寺院が建立されている。東側は横須賀線を挟んで13世紀末創建の円覚寺、瓜ヶ谷を流れる小袋川には十王堂の名を残す橋が架かっている。十王堂は『鹿山略記』によれば延寿堂（藥師堂）の右にあり、堂前の橋を十王堂と称したとしており、宗旨は不明。

台山遺跡内においては調査地点北東側に光熙寺がある。西台山英月院と号し、時宗。開山は一向、開基は不明。本尊は阿弥陀如来像（正長二年（1429）修理銘）で、もと藤沢清淨光寺（遊行寺）の末である。客物として明治五年（1872）廃寺の東渓院旧蔵釈迦如来坐像があり、山門も同院からの移築という。境内には正中二年（1325）銘の阿弥陀三尊種子板碑がある。現在は本堂・庫裏・日限地蔵堂・山門などがある。一説には、弘安五年（1282）執権北条時宗に鎌倉入りを拒絶された一遍が、当寺のある辺りで野宿し布教したとされる。

西側には臨濟宗箱根早雲寺の末である徳藏山東渓院跡とされる。延宝八年（1680）豊後国大野郡原城主中川久清が娘の供養のために建立した位牌堂であった。当寺は明治五年（1872）に廃絶し、先述通り、山門と本尊の釈迦如来坐像は光熙寺に移されている。徳藏山東渓院跡の北側には室町期造立の地蔵堂跡（現台公会堂）がある。堂内には地蔵菩薩坐像と半跏像が納められていた。坐像は室町前期の造立とされ、宝暦八年（1758）の修理銘がある。半跏像は胎内に延宝三年（1675）、明治十三年（1880）、明治四十二年（1909）の修補文書が納められていた。延宝三年の文書には念佛講の人々が中心となって寄付をつのり、仏師（三橋）但馬に依頼して修補を行なうことができたとある。現在、鎌倉国宝館に寄託されている。

この他には、南東側に位置する北鎌倉女子学園がある一帯は「藤源治」という名字が付され、「相模國鎌倉郡村誌」によれば、字名の由来については「古刀銘尽大全」から引いて肥前の鍛冶助直（=東源治）が正元元年（1259）～文永五年（1268）まで住した処とされる。なお、少字名「藤源治」は「藤源氏」・「藤願寺」とあてられることもあったようだ。後者の「寺」に着目すると、かつて山ノ内には東現寺という寺があったことが『風土記稿』に見え、「藤源治」の由来に何らかのかかわりがあるかもしれない。また『鎌倉市史・考古編』においては、先史・古代の遺跡の遺物散布地として記されている。北鎌倉駅裏・山内水道山・鎌倉山・大船平戸山・手広（弥生時代）、水道山・鎌倉山・手広（古墳時代）水道山1980年、手広1983年に調査され、弥生時代中期から平安時代までの住居址と遺物が確認されている。台山遺跡は台地上に広範囲に存在する縄文時代～中世にかけての複合遺跡であり、特に弥生時代から古墳時代にかけては大集落の存在が予想されるとしている。



#### 【調査地点一覧】

1. 本調査地点
2. 丑野 毅 1974「神奈川県鎌倉市台遺跡調査報告書(台1737番)」『人文学科紀要』第59輯 東京大学教養学部人文学科
3. 手塚直樹他 1985「台山桃源台遺跡 第1次調査報告(台字藤源治914番)」台山遺跡発掘調査団
4. 斎木秀雄・宗臺秀明 1988「3. 台山遺跡(山内字藤源治874番2)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1』鎌倉市教育委員会
5. 玉林美男他 1988「6. 台山遺跡(台西/台1730番1.1732番1)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4』鎌倉市教育委員会
6. 大河内 勉 1996「台山桃源台遺跡 第2次調査報告(山内字藤源治914番)」台山遺跡発掘調査団
7. 大上周三 1992「4. 台山遺跡(台字西/台1624番外)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8』鎌倉市教育委員会
8. 宗臺秀明 1993「台山桃源台遺跡 第3次調査報告(台字藤源治914番)」台山桃源台遺跡発掘調査団
9. 野本賛二 1997「台山遺跡(台字西/台1627番地点)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
10. 若松美智子 1998「台山遺跡発掘調査報告書(西/台1733-1外地点)」台山遺跡埋蔵文化財調査団・東国歴史考古学研究所  
1999「台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
11. 繼 実 2001「台山遺跡(台字西/台1718番3)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
12. 森 孝子 2002「台山遺跡発掘調査報告書(山内藤源治860番1地点)」有限会社 博通
13. 伊丹まだか 2004「台山遺跡(山内字宮下小路819番1外地点)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
14. 2007年度調査・未報告
15. 押木弘己 2016「台山遺跡(台字西/台1418番10地点)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書32(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
16. 押木弘己 2017「台山遺跡(山内860番2地点)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書33(第2分冊)』鎌倉市教育委員会

図1 調査地点と周辺の遺跡

## 第2節 周辺遺跡の調査成果（図1）

台山遺跡では本調査地点を含め現在までに16地点の発掘調査が実施されており、主な調査成果を順に説明する。

地点2は東京大学教養学部が三上次男氏を团长として発掘調査が行われ、3軒の住居址（弥生後期・古墳後期・時期不明）を検出。遺物は採集品で中世かわらけ・縄文時代の石器も発見されており、付近に縄文時代の遺跡の存在する可能性を示唆している。

地点3・6・8は北鎌倉女子学園の校舎建設に伴い3次にわたる調査が行われ、付近の字名から「台山藤源台遺跡」としている。第1次調査（地点3）では、縄文時代の陥し穴1基、弥生時代の竪穴住居址18軒（中期2、後期11、時期不明5）他、古墳時代の竪穴住居址13軒（前期4、中期1、後期4、時期不明4）他、平安時代の竪穴住居址5軒・土坑群2基・溝1条他、中世の道路状造構と削平面を検出。道路状造構は台地の縁辺を走行するもので、断面は逆台形を呈し（幅1m前後）、底面は硬化している。東西方向で山ノ内道（現在の主要地方道横浜鎌倉線）と平行・分岐して西谷ヶ谷に入り、山崎・梶原方面に抜ける山越えの支道の可能性が考えられる。遺物は14世紀初頭～16世紀にかけての多様な種類の遺物が検出。以上から13世紀末の円覚寺の創建に伴い、旧市街以外地が開発された可能性を示唆している。第2次調査（地点6）では、縄文時代の陥し穴2基（早期～前期）、弥生時代の竪穴住居址1軒（後期）、古墳時代の明確な造構は認められず、遺物は前期～後期にわたる。古代の竪穴住居址1軒（8世紀後葉～9世紀）、中世は14～16世紀頃の遺物のみを検出。第3次調査（地点8）は上下2段の平坦面からなり、下段の段築は中世期に造成されている。造構確認面はローム層（ハードローム）上面で、中世期の削平によって上段平坦面の古代造構もかなり削られている。竪穴住居址7軒（弥生後期後半～古墳前期1、古墳中期2、古墳後期2、平安前期1、不明1）、中世の切岸を伴う段築・柵列ピットを検出し、概ね14～15世紀代の遺物が出土。柵列ピットから出土した密教系法具の銅製六器や周辺の宗教施設等の存在との関連から「藤源治」に寺院跡の可能性を示唆している。

地点4は竪穴住居址6軒確認し、うち調査は3軒（弥生後期1、時期不明2）、縄文時代～中世にかけての遺物を検出。地点5は狭い範囲のトレンチ調査であるが、竪穴住居址2軒（弥生後期1、古墳後期1）弥生時代～中世にかけての遺物を検出。地点7は谷戸の奥の調査であり、確認面から溝底まで1.70mを測る溝状造構を主として落ち込み造構・ピットが検出。遺物が非常に少なく年代特定は難しいが、概ね中世後半頃としている。地点9も谷戸の奥の調査で、狭い調査範囲内で溝・土坑・ピット8基が検出。地点7と至近距離にあり、造構の方向性（溝）はほぼ同一なもの、連続性は認められない。遺物も地点7同様に中世後半以降と思われる。地点10は弥生時代の竪穴住居址4軒（後期）、古墳時代の竪穴住居址3軒（前期1・後期2）・掘立柱建物址1棟（後期1）・土坑1基（中期）、奈良時代の横穴（室か）を伴う竪穴住居址1軒（貯蔵施設か）を検出。古代以前の掘立柱建物や奈良時代の竪穴住居は、台山遺跡では初めての確認例である。これまで明確に奈良時代に位置づけられる住居址は少なく、一時的に集落が衰退したのではないかとされていたが、該期にも一定の規模の集落が存続することがわかった。地点11は弥生時代後期～古墳時代前期のピット2基のみを検出し、弥生時代から中世に至る幅広い時代の遺物が含まれる。

地点12・16は本調査地点と同じ雑壇状の造成平場に立地している。地点12は掘削深度の制限の為、遺物包含層の確認調査にとどまり、造構の検出までは至っていない。遺物は古代遺物も混じるが、概ね14世紀後半～15世紀前半を主体とする。地点16は中世段階で丘陵斜面の岩盤を削って平場を造成し、削平面上に整地層を重ねて生活面として利用しており、計2枚の中世造構面を検出。丘陵裾に沿って排水目的の溝が開削、造成開始期は14世紀前半まで遡る可能性があるが、遺物の様相から、土地利用の

中心は14世紀末～15世紀代であったと考えられる。

地点13は丘陵の北向き斜面に立地し、雑壇状の平場において中世の遺構面3枚、遺構は土坑・ピット・ピット列を検出。遺物の様相から、15世紀中葉～15世紀後葉を中心に土地利用がなされていたと考えられる。地点15はローム層上面で堅穴遺構3基、ピット10基等を検出。うち1基は古墳時代後期(終末期)にあたる7世紀中葉前後の堅穴住居等である。その他の遺構からも同時期の遺物が多く出土し、古墳時代後期に属する集落の広がりを窺える結果となっている。西ノ台地区は近代に入り海軍将校の宅地造成により丘陵稜線が大幅に削平されているが、損壊を免れている。

以上を表1と共にまとめると、台山遺跡では丘陵上を中心に広範囲にわたって各時代の集落が展開されている。縄文時代の検出遺構は早期～前期の陥とし穴のみで生活の痕跡はほとんど認められないが、鎌倉における縄文時代の様相を知る上で貴重な資料の一つである。弥生時代中期以降に人の移住が始まると、弥生時代後期～古墳時代前期と古墳時代後期に大規模集落の存在があったことが推察でき、集落の規模は縮小しつつも連続と平安前期頃までは存続するようである。そして一旦古代末～中世前葉に廃絶するが、14世紀以降より中世鎌倉の北の境界として機能し、山ノ内に数多く建立する寺院の関連で本遺跡付近にもおそらく寺院が建立されて16世紀ごろまで存続したものと推測される。

表1 調査地点の遺構年代

	縄文 早期・前期～	弥生			古墳			奈良	平安 前期	中世 14c～
		前期	中期	後期	前期	中期	後期			
地点1										
地点2	遺物(石器)のみ			○	○		○			
地点3	○(陥とし穴)	○	○	○	○	○	○		○	○
地点4		○	○	○			○			
地点5		○	○				○			
地点6	○(陥とし穴)	○							○	
地点7										○
地点8		○	○	○	○			○	○	○
地点9										○
地点10		○	○	○	○	○	○			
地点11			○							
地点12										○
地点13										○
地点14(未報告)										
地点15							○			
地点16										○

#### 【引用・参考文献】

- ・『鎌倉市史 総説編』高柳光寿 吉川弘文館 1959年
- ・『鎌倉市史 社寺編』高柳光寿・貫達人 吉川弘文館 1959年
- ・『鎌倉市史 考古編』赤星直忠 吉川弘文館 1959年
- ・『鎌倉廃寺事典』貫達人・川副武胤 有斐閣1980年
- ・『鎌倉事典』白井英二 東京堂出版 1976年
- ・『日本歴史体系14巻 神奈川県の地名』下中邦彦 平凡社 1984年
- ・『神奈川県皇国地誌 相模国鎌倉郡村誌』神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会 神奈川県図書館協会 1991年

## 第二章 調査の概要

### 第1節 調査の経過・方法と調査区設定（図2）

本調査は鎌倉市山ノ内860番1地点における、個人専用住宅建設に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会が平成21年7月21・23日の二日間に行った確認調査の結果に基づき実施された。この結果、地表下約22cmの表土層直下で中世の遺物包含層が、地表下約88cmでは黄茶褐色粘土を主体とした褐色粘土・泥岩粒を含む地業層上面を第1面の生活面とし、地表下約134cmで検出された砂岩質の岩盤を地山とし、掘削深度200cmまでに少なくとも2枚以上の中世遺構面の存在があることを確認した。以上の調査結果を受け、建築計画の実施に先立ち本格的な発掘調査を実施する必要があるとの判断に至った。

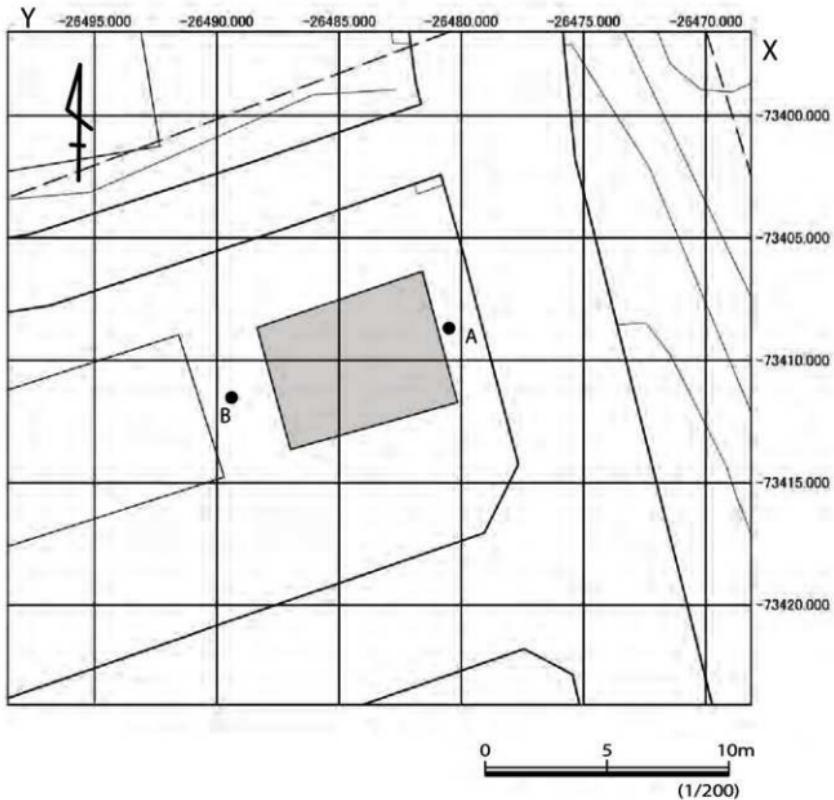
調査期間は平成22年1月12日から2月17日まで、調査面積は30（5m×6m）m<sup>2</sup>。地表下60cmまでは重機で掘削し、以下は人力による掘削に移行した。地下室築造部分の狭い範囲を一括全面調査で行い、それに伴う残土は敷地内処理している。掘削深度200cm時点での安全性に配慮して調査途中H鋼内に矢板の打ち込みを行い、残土も考慮した上で下層での調査については調査面積を狭めトレンチを設定し確認した。

測量に当たっては調査区に任意の方眼紙を設け、基本点Aと見返り点Bを設定して遺構の測量・図面作成に使用。基本点Aと見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表（K097・K098）に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行なった。現地では日本測地系（座標AREA9）の国土座標値を使用し、本報告作成に際して国土地理院が公開する座標変換ソフトweb版「TKY2JGD」で世界測地系（第IX系）に変換し、図2に表記した。

### 第2節 堆積土層図（図3）

本調査地点は丘陵中腹部の斜面地形に位置し、南側の「藤源治」稜線に沿った北に開口する雑壇状の平場を形成している。確認調査において現地表下134cmで検出された砂質凝灰岩の岩盤は、南東側（海拔26.8m）から北西側（海拔26.6m）に下る緩やかな傾斜を形成するが、東壁から西へ1.2m以降はやや急激に落ち込むことが北壁堆積土層より確認できた。同平場に位置する地点16同様に、地形を利用しながら丘陵斜面の岩盤を削って平場を造成し、削平面上に整地層を重ねて生活面として利用していることがわかる。調査区北壁・西壁と確認調査の南壁の土層堆積図を基に説明する。崩落防止の大走り設置の為、図示した調査区壁の堆積土層図は平面調査の検出状況とは合致しないことを前以て明記する。

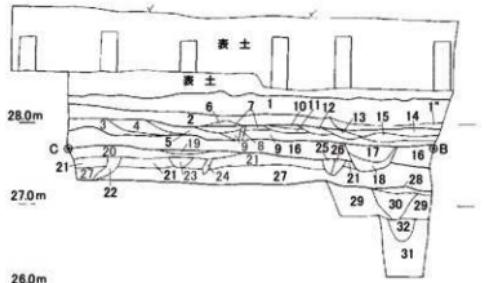
調査前の現地表海拔は29.1～29.4m前後でほぼ平坦な造成を形成していた。現地表下80～110cmの表土を除去した海拔28.3m前後で検出された暗茶褐色弱粘質土・炭化物を含む泥岩地業の黄茶褐色弱粘質土（第1層）上を第1a面、20cm下の炭化物・泥岩粒・褐鉄・玉石を含む硬く締まる暗茶褐色弱粘質土（第2層）上を第1b面とし、図示は第1面としてまとめた。第2面以降は東から西に下る緩やかな傾斜を形成する。第2面は海拔28.0～27.8m前後で検出された泥岩粒・炭化物・砂質凝灰岩を含む茶褐色～暗茶褐色弱粘質土（第3～15層）上としたが、第1面を構成する地業堆積の一環と捉えている。第3面は海拔27.9～27.7m前後で検出された泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む締まりのある暗茶褐色弱粘質土（第16層）上、第4面は海拔27.7～27.5m前後で検出された泥岩粒・炭化物を含む粘性が強い締まりのある暗茶褐色弱粘質土（第21・27層）上とした。第3～4面間の遺構の新旧関係をみる限り、時期差は殆どみられない。第5面は調査区を2分割した北側半分とし、海拔27.6～27.2m前後で検出された泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄・玉石を含む茶褐色弱粘質土（第29層）上とした。調査区北側のトレンチ調査で海拔26.6～26.8m前後で地山岩盤を検出している。



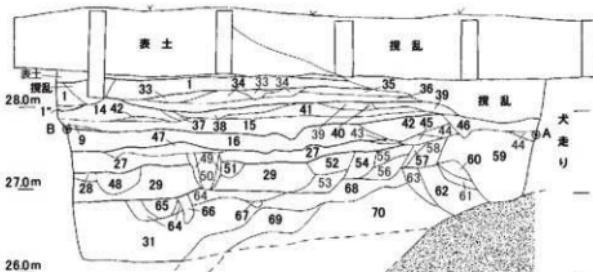
地点	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-73765.428	-26187.168	-73408.7191	-26480.5004
B	-73768.260	-26196.101	-73411.5507	-26489.4332
K097(市4級基準点)	-73726.980	-26354.986	-73370.2564	-26648.3156
K098(市4級基準点)	-73732.986	-26360.003	-73376.6230	-26653.3328

図2 調査区配置図

<西壁>



<北壁>



<南壁(試掘坑)>

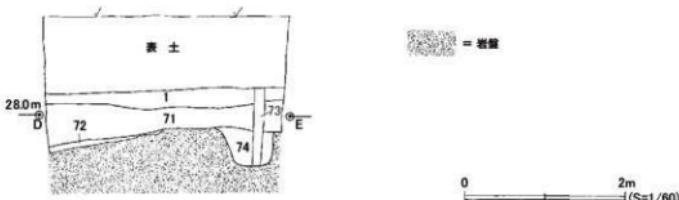


図3 堆積土層図

<土層注記>

1. 黄褐色弱粘質土 黄褐色・褐色粘土、炭化物を含む泥岩地業層、しまり・粘性あり
- 1'. 明茶褐色弱粘質土 1.に近似した砂質混入土
2. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒少量、炭化物多量、褐鉄、玉石、砂質混入土
3. 暗茶褐色弱粘質土 茶褐色粘土、泥岩粒、炭化物、褐鉄
4. 暗茶褐色弱粘質土 3.に近似、泥岩粒、砂質凝灰岩
5. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物少量、砂質凝灰岩
6. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量、炭化物
7. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物多量
8. 茶褐色弱粘質土 杭痕か?泥岩粒、炭化物、褐鉄
9. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩、砂質凝灰岩、玉石
10. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物、砂質凝灰岩
11. 暗褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒、炭化物多量

12. 暗褐色弱粘質土 炭化粒多量、砂質凝灰岩、有機質土
13. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化粒、褐鉄、粘性あり
14. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物少量、褐鉄
15. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒、炭化物多量
16. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量、炭化物、褐鉄、しまりあり
17. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒、炭化物少量、粘性あり
18. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物少量・粘性あり
19. 茶褐色弱粘質土 褐鉄、粘性あり
20. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物微量・しまり・粘性あり
21. 暗茶褐色弱粘質土 炭化物微量、褐鉄、しまり・粘性あり
22. 暗茶褐色弱粘質土 炭化物多量、褐鉄、砂質凝灰岩
23. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物少量、砂質凝灰岩
24. 暗茶褐色弱粘質土 杭痕か？泥岩粒・炭化物・褐鉄
25. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒微量・炭化物多量、砂質凝灰岩
26. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒、褐鉄、粘性あり
27. 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒多量・炭化物微量・粘性あり
28. 茶褐色弱粘質土 褐鉄
29. 茶褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒・炭化物少量、褐鉄、玉石
30. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・炭化物・褐鉄
31. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒少量・炭化物微量・玉石・しまり・粘性あり
32. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒微量・褐鉄、砂質凝灰岩
33. 暗茶色弱粘質土 泥岩、泥岩粒・炭化物
34. 黄褐色弱粘質土 泥岩地業(1b面構成土)
35. 黄褐色弱粘質土 泥岩地業(1b面構成土)
36. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物・粘性あり
37. 暗褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒・炭化物・砂質凝灰岩
38. 褐色弱粘質土 9.に近似・砂質凝灰岩による地業
39. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物・しまりあり
40. 暗褐色弱粘質土 粘性あり
41. 茶褐色弱粘質土 泥岩、泥岩粒・褐色、玉石
42. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物・砂質凝灰岩
43. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒・しまりあり
44. 茶褐色弱粘質土 泥岩少量・泥岩粒・砂質土
45. 茶褐色弱粘質土 泥岩微量・泥岩粒・褐鉄、粘性あり
46. 茶褐色弱粘質土 泥岩・泥岩粒・褐鉄・砂質凝灰岩
47. 褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物微量・褐鉄・玉石
48. 褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物少量
49. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物微量・褐鉄、しまりあり
50. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化粒・砂質凝灰岩
51. 暗褐色弱粘質土 泥岩微量・泥岩粒・褐鉄・砂質土
52. 暗褐色弱粘質土 泥岩・泥岩粒・玉石
53. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒少量・炭化物微量・褐鉄・粘性あり
54. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・炭化物微量・褐鉄
55. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・砂質土・粘性あり
56. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒微量・褐鉄
57. 褐色弱粘質土 根痕か？有機質土
58. 褐色弱粘質土 有機質土混入
59. 黄褐色弱粘質土 砂質凝灰岩と山砂？粘土・有機質土混入
60. 黄褐色弱粘質土 砂質凝灰岩・砂質土
61. 黄褐色弱粘質土 泥岩粒・粘性あり
62. 黄褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物微量・砂質土
63. 黄褐色弱粘質土 泥岩粒多量・炭化物・褐鉄・粘性あり
64. 暗褐色弱粘質土 粘性あり
65. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒多量・炭化物
66. 暗褐色弱粘質土 泥岩・泥岩粒微量・炭化物多量
67. 暗褐色弱粘質土 泥岩粒微量・砂質凝灰岩
68. 茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量・炭化物微量・褐鉄
69. 黄褐色弱粘質土 泥岩粒少量・褐鉄・しまりあり
70. 黄褐色弱粘質土 泥岩粒微量・炭化物少量・砂質土・砂質凝灰岩
71. 褐色土 泥岩粒少量・炭化物・かわらけ片・しまりややあり・粘性なし
72. 明茶褐色弱粘質土 しまりややあり・粘性あり
73. 茶褐色弱粘質土 しまり・粘性なし
74. 黄褐色弱粘質土 砂質土 しまり・粘性なし

### 第三章 発見された遺構と遺物

本調査では現地表から約60cm下まで重機によって表土掘削を行ない、その後は人力によって遺構の発見・記録をした。調査区は南北5.8m×東西7.5mで、本報告では5面とした。報告の際の遺構番号は遺構確認時点もしくは整理段階で付したものであり、遺構の新旧を表すものではない。本文内では各面の特徴的な遺構・遺物出土のある遺構のみを説明しており、その他は遺構計測表にまとめて提示した。

出土遺物は遺物整理箱に総数4箱と非常に少なく、その大半は小破片のため報告数は少ない。各面で発見した遺物の詳細は出土遺物観察表にまとめ、他の遺物の様相は遺物破片数表を提示した。以下、発見した遺構は上層から下層の順に第1面から第5面・最終トレンチと分けて調査日誌を参考に実記載を記した。調査開始前現地表の海拔は29.1～29.4m前後である。

#### 第1節 第1面の遺構と遺物（図4）

海拔28.3m前後で検出された暗茶褐色弱粘質土・炭化物を含む泥岩地業の黄茶褐色弱粘質土（第1層）上で遺構を確認し、第1a面とした。宅地造成による埋土で上層は削平されており、遺構深度は10cm内外と浅い。その20cm下で炭化物多量・泥岩粒・褐鉄・玉石を含む砂質混じりの硬く縮まった暗茶褐色弱粘質土（第2層）を確認、第1b面として調査した。生活面とするには地業が弱く、数穴の遺構と北西部分に第1a面構成土に近似した泥岩層を覆土とする南東から北西に下がる浅い落込みを検出したことから、この層は第1面を構成する地業の一つとして捉え、時期的な段階を追って1面が造成されたものと考えた。落込み部分はドットで、第1a～第1b面の2枚の地業面は第1面全測図としてまとめて示した。検出遺構は土坑5基、ピット43穴、内ピットと言葉難い小穴も含まれている。遺物は伴わず、更に構成土から出土した遺物も僅かである。

##### 遺構7（図4）

調査区中央で検出された梢円形状ピット。検出規模は長軸40cm×短軸34cm、確認面からの深さ12cm（海拔28.2m）前後を測る。覆土は泥岩粒・小石粒を含む暗茶褐色弱粘質土。遺構底面に長軸0.9cm×短軸0.7cm×深さ0.5cmの柱痕かと思われる小穴あり。南北軸方位はN-24°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけの小片1点出土。

##### 遺構22（図4）

調査区北部で検出された不整円形状ピット。検出規模は長軸32cm×短軸28cm、確認面からの深さ8cm（海拔28.2m）前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-4°-Wを示す。

出土遺物：土師器甕の小片1点出土。

##### 遺構38（図4）

調査区北部で検出された円形状小ピット。検出規模は長軸15cm×短軸15cm、確認面からの深さ12cm（海拔28.2m）前後を測る。覆土は微量の炭化物を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN-31°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけの小片1点出土。

##### 第1面面上・構成土・出土遺物（図4）

図4-1は面上出土遺物。1は常滑甕の肩部小片。一斜線格子目文のスタンプあり。

図4-2～7は構成土出土遺物。2は常滑片口鉢II類の口縁部片。3は常滑甕の口縁部片。常滑窯製品は中野編年8型式の所産と推定する。4～6は鉄釘。7は弥生末期～古墳前期の土師器甕口縁部小片。

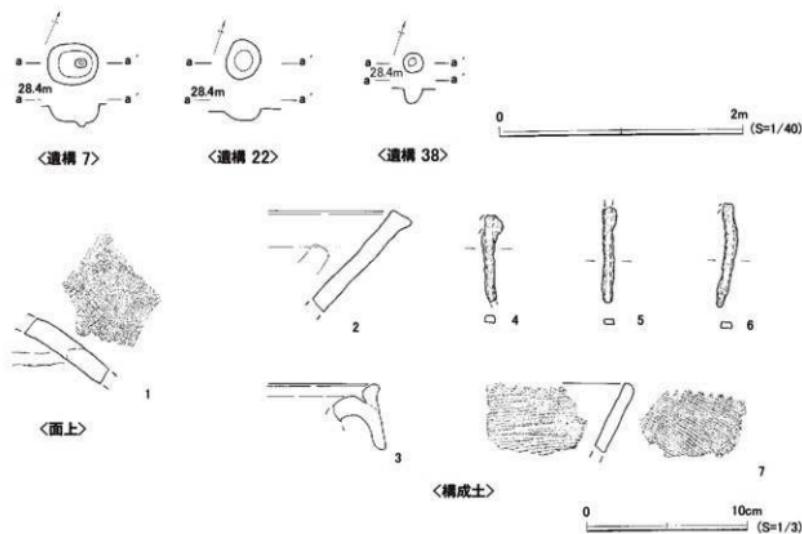
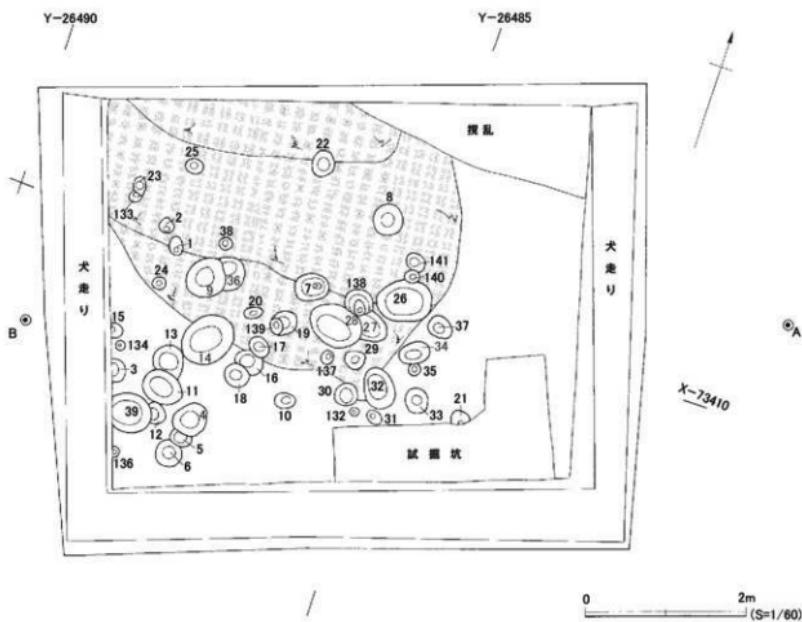


図4 第1面各遺構・出土遺物

## 第2節 第2面の遺構と遺物（図5～6）

第2面は海拔28.0～27.8m前後で検出された東から西に緩やかに下る泥岩粒・炭化物・砂質凝灰岩を多く含む暗（茶）褐色弱粘質土上とした。生活面とするには地業が弱く、遺構プランも明確に判別し難い状況であったが、泥岩粒・炭化物・粘性の強い暗茶褐色弱粘質土を覆土とした土坑3基・ピット8穴を検出した。出土遺物は概ね大型ロクロかわらけで、第1a～第1b面との時期差も殆ど見いだせない。以上のことから、第2面として報告したが、第1b面同様に第1面を構成する地業堆積の一環と捉えている。

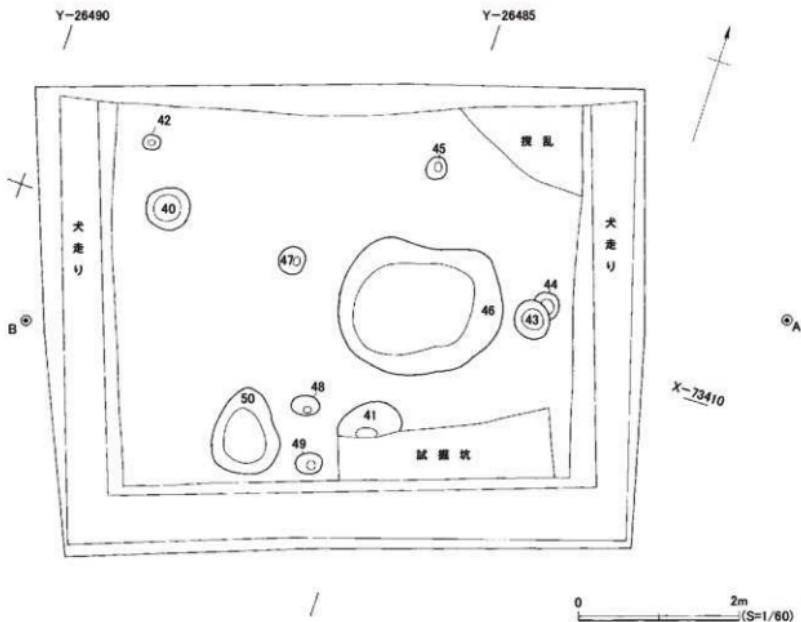


図5 第2面全測図

### 遺構40（図5・6）

調査区北西部で検出された円形状土坑。検出規模は長軸52cm×短軸50cm、確認面からの深さ15cm（海拔27.75m）前後。覆土は砂質凝灰岩・炭化物・褐鉄を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-18°-Wを示す。

出土遺物：図6-1は鉄釘。その他に破片で大型ロクロかわらけ出土。

### 遺構41（図5・6）

調査区南部で検出された不整円形状土坑。検出規模は長軸81cm×短軸47以上cm、確認面からの深さ56cm（海拔27.7m）前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒を密に含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-19°-Wを示す。

出土遺物：図6-2は鉄釘。その他に破片で大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構43(図5・6)

調査区東部で検出された梢円形状ピット。遺構44を切る。検出規模は長軸48cm×短軸42cm、確認面からの深さ19cm(海拔27.85m)前後を測る。覆土は砂質凝灰岩を含む粘性強い暗茶褐色弱粘質土。遺構底面に長軸0.9cm×短軸0.7cm×深さ0.5cmの柱痕かと思われる小穴あり。南北軸方位はN-6°-Eを示す。

出土遺物：大型～小型のロクロかわらけ出土。

#### 遺構45(図5・6)

調査区北東部で検出された円形状ピット。検出規模は長軸26cm×短軸25cm、確認面からの深さ13cm(海拔27.85m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-28°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構46(図5・6)

調査区中央部で検出された梢円形状土坑。検出規模は長軸200cm×短軸156cm、確認面からの深さ17cm(海拔27.85m)前後を測る。覆土は泥岩粒・砂質凝灰岩・炭化物少量・玉石少量を含む粘性のある暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-16°-Eを示す。

出土遺物：図6-3は小型ロクロかわらけ。4は鉄釘。その他に破片で大型～小型のロクロかわらけ、白磁口兀皿、鉄釘、土師器高杯。

#### 遺構47(図5・6)

調査区中央部で検出された円形状ピット。検出規模は長軸34cm×短軸33cm、確認面からの深さ38cm(海拔27.65m)前後を測る。覆土は暗茶褐色弱粘質土を呈し、炭化物が遺構底面に堆積していた。南北軸方位はN-1°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構48(図5・6)

調査区北部で検出された梢円形状ピット。検出規模は長軸35cm×短軸24cm、確認面からの深さ24cm(海拔27.7m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-18°-Eを示す。

出土遺物：図6-5は常滑片口鉢II類。その他に破片で大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構49(図5・6)

調査区南部で検出された梢円形状ピット。検出規模は長軸32cm×短軸27cm、確認面からの深さ9cm(海拔27.8m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物・玉石を含む粘性のある暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-18°-Eを示す。

出土遺物：大型～小型のロクロかわらけ出土。

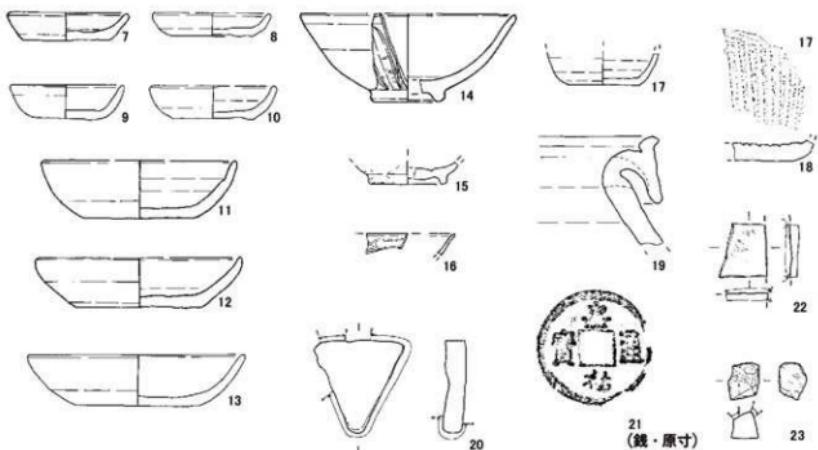
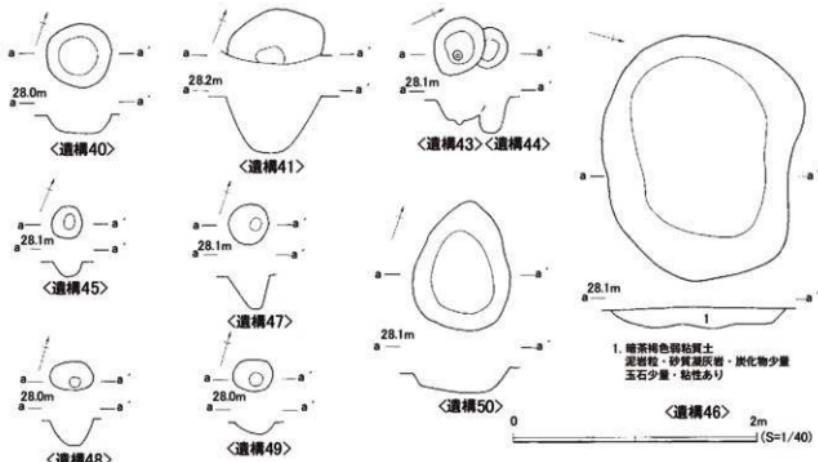
#### 遺構50(図5・6)

調査区南西部で検出された不整円形状土坑。検出規模は長軸104cm×短軸82cm、確認面からの深さ17cm(海拔27.7m)前後を測る。覆土は泥岩粒少量・炭化物少量を含む粘性のある暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-13°-Wを示す。

出土遺物：図6-6は鉄釘。

#### 第2面構成土出土遺物(図6)

図6-7～23は構成土出土遺物。7～10は小型、11～13は大型のロクロかわらけ。14は龍泉窯系青磁鏡連弁文碗。15は白磁碗の底部。16は青白磁小皿の口縁部片。17は瀬戸入子の底部片。18は瀬戸鉢皿の底部片。共に中期前半の製品。19は常滑壺の口縁部片で、第8型式の製品。20は常滑壺体部転用の研磨製品。21は銅錢。22は鳴滝産仕上砥、23は火打石か。



<構成土>

0 10m  
(S=1/3)

図6 第2面各遺構・出土遺物

### 第3節 第3面の遺構と遺物（図7～9）

第3面は海拔27.9～27.7m前後で検出された東から西に緩やかに下がる泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む締まりのある暗茶褐色弱粘質土上とした。遺構覆土や調査区壁の土層堆積図を参考に第3～4面間の遺構の新旧関係を再考し、その結果を図示した。その為、調査時の全測図・全景写真とは異なることを明記しておく。遺構は溝状土坑1基・土坑6基・ピット21穴を検出した。遺構に伴う遺物の出土が少ない中で、遺構94の大量のロクロかわらけの一括廃棄は本調査地点の年代を推定するにあたって貴重な資料と言える。

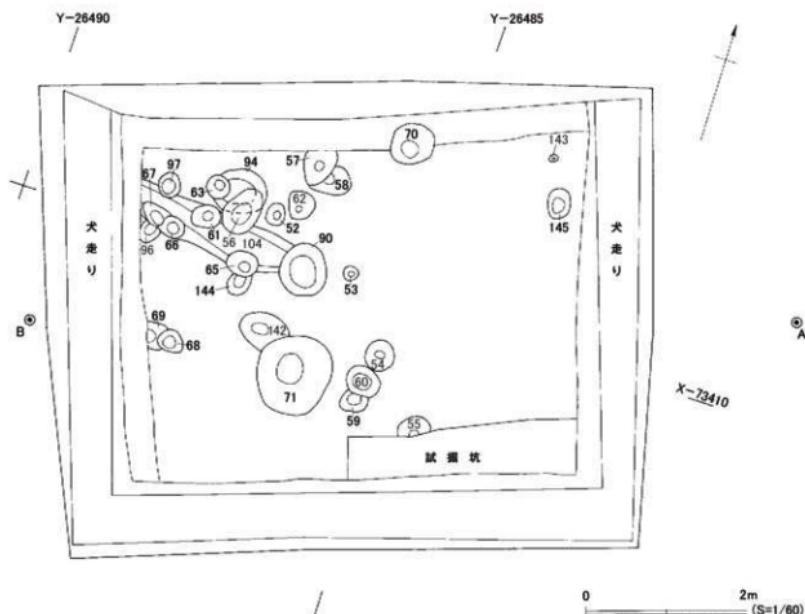


図7 第3面全測図

遺構52(図7・8)

調査区北西部で検出された楕円形状ビット。検出規模は長軸27cm×短軸23cm、確認面からの深さ15cm（海拔27.55m）前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物・玉石を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-16°-Wを示す。

出土遺物：大型口クロカニわらけ。

遺構54(図7・8)

調査区南部で検出された円形状ピット。検出規模は長軸38cm×短軸35cm、確認面からの深さ40cm(海拔27.35m)前後を測る。覆土は炭化物を含む暗茶褐色粘質土。東北軸方位はN-6°-Wを示す。

出土遺物：大型日夕日かねらは。

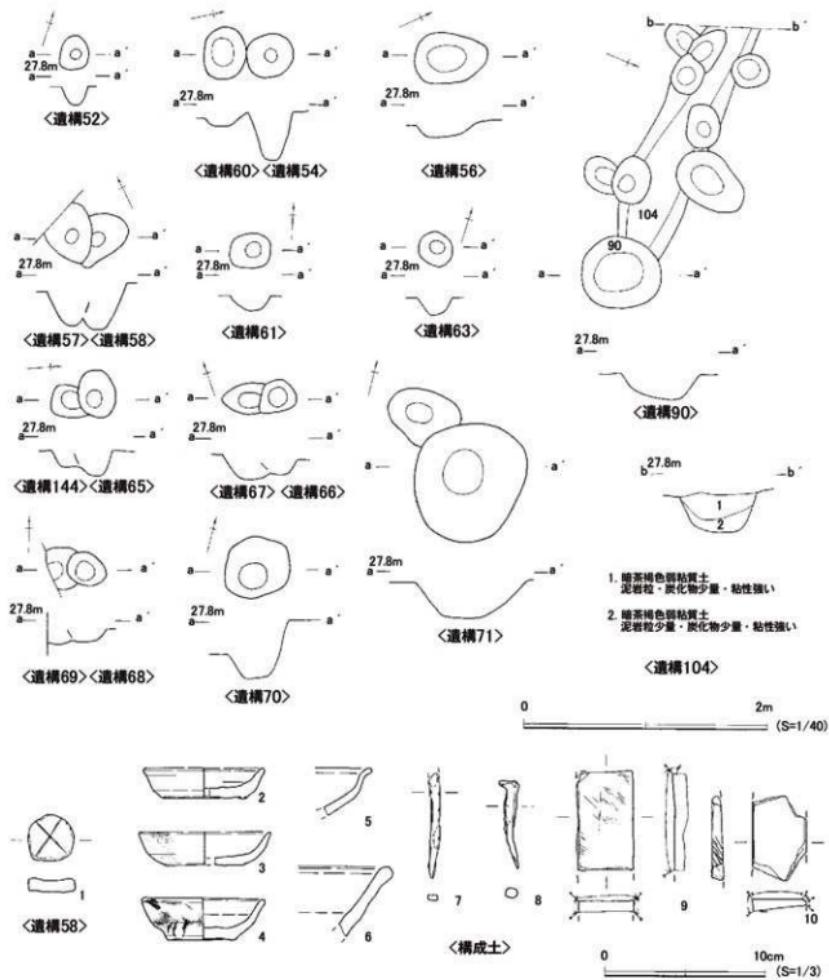


図8 第3面各遺構・構成土・出土遺物

#### 遺構 56(図7・8)

調査区北部で検出された楕円形状土坑。検出規模は長軸61cm×短軸43cm、確認面からの深さ8cm(海拔27.55m)前後を測る。覆土は炭化物を多量に含む暗茶褐色弱粘質土で、遺構ではなく第3面直上の炭化層落込みの可能性もある。南北軸方位はN-23°-Eを示す。

出土遺物：大型口クロかわらけ、土師器甕が出土。

#### 遺構57(図7・8)

調査区北部で検出された不整円形状ピット。遺構58を切る。検出規模は長軸41cm以上×短軸41cm、確認面からの深さ34cm(海拔27.4m)前後。覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-2°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ、青磁鍋連弁文碗。

#### 遺構58(図7・8)

調査区北部で検出された不整円形状ピット。遺構57に切られる。検出規模は長軸40以上cm×短軸34cm、確認面からの深さ38cm(海拔27.35m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-2°-Eを示す。

出土遺物：図8-1はロクロかわらけ底部転用の円盤状土製品。表面に「×」印の刻みがある。その他に大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構61(図7・8)

調査区北西部で検出された方形状ピット。検出規模は長軸35cm×短軸29cm、確認面からの深さ12cm(海拔27.5m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物多量に含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-2°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構63(図7・8)

調査区北西部で検出された円形状ピット。検出規模は長軸30cm×短軸25cm、確認面からの深さ13cm(海拔27.5m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む締まりのない暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-2°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構65(図7・8)

調査区西部で検出された梢円形状ピット。遺構144を切る。検出規模は長軸40cm×短軸32cm、確認面からの深さ20cm(海拔27.5m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物大量に含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-4°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構66(図7・8)

調査区北西部で検出された不整円形状ピット。遺構67を切る。検出規模は長軸32cm×短軸25cm、確認面からの深さ16cm(海拔27.5m)前後を測る。覆土は泥岩粒多量・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-5°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構67(図7・8)

調査区北西部で検出された梢円形状ピット。遺構66に切られる。検出規模は長軸32cm以上×短軸24cm、確認面からの深さ21cm(海拔27.45m)前後を測る。覆土は泥岩粒多量・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-21°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ、土師器甕出土。

#### 遺構68(図7・8)

調査区西部で検出された梢円形状ピット。遺構69を切る。検出規模は長軸33cm×短軸27cm、確認面からの深さ12cm(海拔27.6m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物少量を含む暗茶褐色弱粘質土。

南北軸方位はN - 6° - Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構69(図7・8)

調査区西部で検出された楕円形状ピット。遺構68に切られる。検出規模は長軸27cm以上×短軸34cm、確認面からの深さ11cm(海拔27.6m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物少量を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 25° - Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構70(図7・8)

調査区北部で検出された楕円形状土坑。検出規模は長軸56cm×短軸48cm、確認面からの深さ47cm(海拔27.3m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物多量を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 20° - Wを示す。中央に炭化物を多く伴う。

出土遺物：大型・小型ロクロかわらけ、獸骨出土。

#### 遺構71(図7・8)

調査区南部で検出された楕円形状土坑。遺構142を切る。検出規模は長軸97cm×短軸90cm、確認面からの深さ30cm(海拔27.4m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物少量を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 11° - Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ、獸骨出土。

#### 遺構90(図7・8)

調査区中央部で検出された楕円形状土坑。遺構104を切る。検出規模は長軸67cm×短軸52cm、確認面からの深さ20cm(海拔27.4m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 25° - Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ、不明金属製品出土。

#### 遺構94(図7・9)

調査区南西部で検出された楕円形状土坑で、調査時は第4面の海拔27.6m前後で確認しているが、土層覆土の様相から第3面とした。検出規模は長軸67cm×短軸50cm、確認面からの深さ17cm(海拔27.4m)前後を測る。覆土は泥岩粒・褐鉄を含む暗褐色弱粘質土で砂質凝灰岩・炭化物と共にまとまった量のかわらけが検出し、一括廃棄土坑と考えられる。南北軸方位はN - 86° - Eを示す。

出土遺物：図9-1～13・15～25は大型、14は中型ロクロかわらけ。半数は被火して黒く変色している。図面に各かわらけの出土位置付近の場所を示した。小型は出土しておらず、他は軽石1点のみ。遺物を伴う遺構の検出が少ない中で、廃棄年代が推察できる唯一の遺構と言える。全体的に体部外面に稜をもち、やや背高い器壁が薄いタイプが多い。さらに中型かわらけ1点を含む事も踏まえ、概ね14世紀前半と推定する。

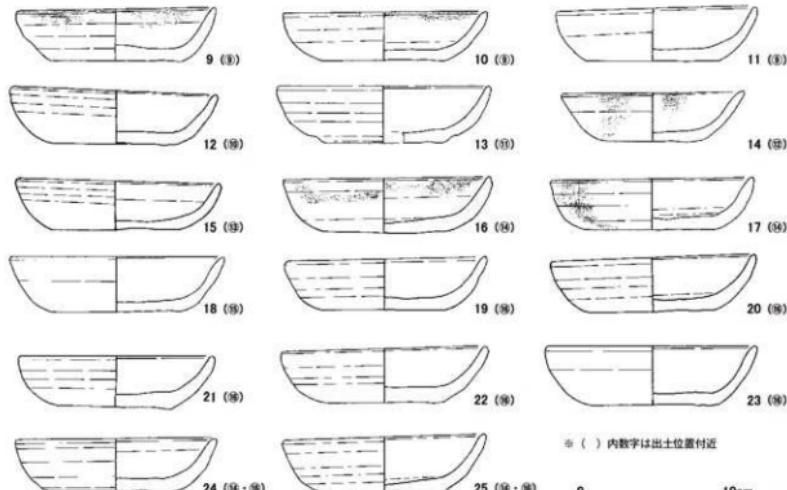
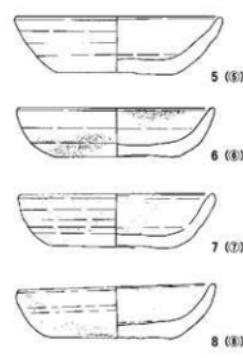
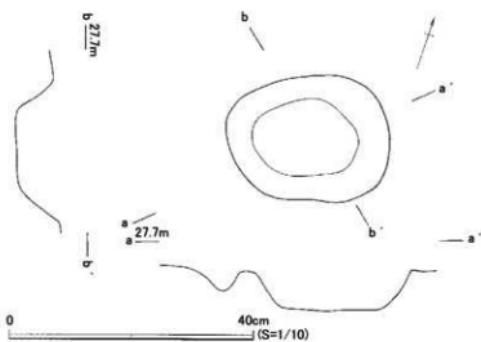
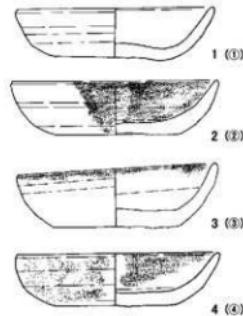
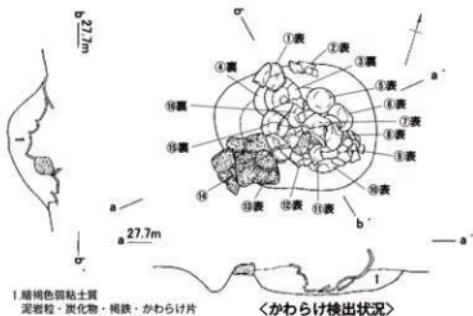
#### 遺構104(図7・8)

調査区北西部で検出された溝状土坑。調査時は第4面の海拔27.6m前後で確認したが、西壁堆積土層より第3面の遺構とした。検出規模は長軸193cm以上×短軸60cm、確認面からの深さ30cm(海拔27.3m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物を含む粘性の強い暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 92° - Eを示す。

出土遺物：大型～小型ロクロかわらけ、鉄釘、土師器坏・甕、器種不明品出土。

#### 第3面構成土・表土出土遺物(図8)

図8-2～10は構成土出土遺物。2～4は小型のロクロかわらけ。5は後期I～IIと推定する瀬戸浅碗の口縁部片。6は第6a型式の常滑片口鉢I類の口縁部片。7～8は鉄釘。9～10は石製品仕上砥。



\* ( ) 内数字は出土位置付近

0 10cm  
(S=1/3)

図9 第3面遺構94・出土遺物

#### 第4節 第4面の遺構と遺物（図10～11）

第4面は海拔27.7～27.5m前後で検出された東から西に緩やかに下がる泥岩粒・炭化物を含む粘性の強い締まりのある暗茶褐色弱粘質土上とした。第3～4面間の遺構の新旧関係をみる限り、時期差はない。遺構は土坑6基・ピット30穴を検出した。第4面として報告したが、第3面を構成する地業堆積の一環と捉えている。

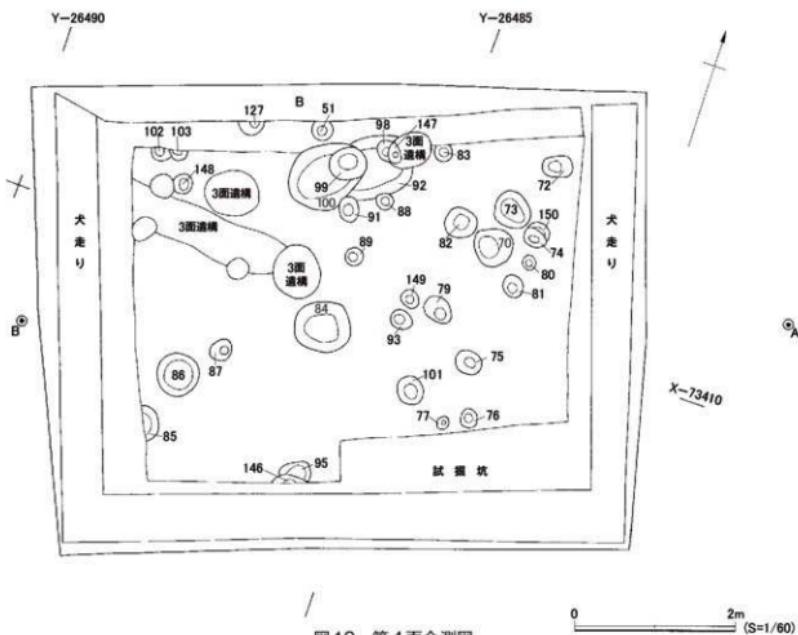


図10 第4面全測図

### 遺構51(図10・11)

調査区北部で検出された円形状ピット。検出規模は長23cm以上×短軸25cm、確認面からの深さ17cm（海拔27.3m）前後。覆土は泥炭粒・炭化物多量に含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-39°-Wを示す。

出土遺物：常滑窯、鉄釘出土。

遺構72(図10・11)

調査区北東部で検出された楕円形状ビット。検出規模は長軸36cm×短軸28cm、確認面からの深さ14cm(海拔27.7m)前後を測る。覆土は泥岩粒を含む暗茶褐色粘質土。南北軸方位はN-21°-Wを示す。

出土遺物：大型口クロかわらけ出土。

### 遺構74(図10・11)

調査区東部で検出された不整円形状ビット。検出規模は長軸30cm×短軸20cm、確認面からの深さ22cm(海拔27.6m)前後を測る。覆土は泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-2°-Wを示す。

出土遺物：大型口クロ口かわらけ出土。

#### 遺構78(図10・11)

調査区東部で検出された不整円形状土坑。検出規模は長軸48cm×短軸48cm、確認面からの深さ24cm(海拔27.55m)前後を測る。覆土は泥岩粒少量・炭化物少量を含む砂質土混じりの茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-36°-Wを示す。

出土遺物：図11-1は白磁口元皿。その他に大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構81(図10・11)

調査区東部で検出された円形状ビット。検出規模は長軸25cm×短軸24cm、確認面からの深さ16cm(海拔27.7m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-25°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構82(図10・11)

調査区東部で検出された円形状ビット。検出規模は長軸39cm×短軸36cm、確認面からの深さ58cm(海拔27.15m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒を含む暗茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-12°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構85(図10・11)

調査区南西部で検出された円形状土坑。検出規模は長軸46cm×短軸18cm以上、確認面からの深さ16cm(海拔27.6m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物多量を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-22°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構86(図10・11)

調査区北西部で検出された円形状土坑。検出規模は長軸50cm×短軸52cm、確認面からの深さ19cm(海拔27.45m)前後を測る。覆土は泥岩粒多量・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-15°-Wを示す。

出土遺物：図11-2は大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構87(図10・11)

調査区西部で検出された不整円形状ビット。検出規模は長軸27cm×短軸26cm、確認面からの深さ26cm(海拔27.35m)前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物少量を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-10°-Wを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構91(図10・11)

調査区北部で検出された梢円形状ビット。遺構92・100を切る。検出規模は長軸30cm×短軸27cm、確認面からの深さ12cm(海拔27.5m)前後を測る。覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物微量を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-29°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構95(図10・11)

調査区南部で検出された不整円形状ビット。遺構146に切られる。検出規模は長軸44cm×短軸25cm以上、確認面からの深さ12cm(海拔27.65m)前後を測る。覆土は泥岩粒少量・炭化物・褐鉄・砂質土を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN-15°-Eを示す。

出土遺物：大型ロクロかわらけ出土。

#### 遺構100(図10・11)

調査区北部で検出された不整円形状土坑。遺構92を切り、遺構91・99に切られる。検出規模は長軸

101cm × 短軸73cm、確認面からの深さ25cm（海拔27.35m）前後を測る。覆土は大きめの炭化物粒・黃灰色砂岩粒・土器片を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN-21°-Eを示す。

出土遺物：図11-3は石製品の砥石中砥出土。

#### 第4面構成土出土遺物（図11）

図11-4～11は構成土出土遺物。4は小型、5～6は大型のロクロかわらけ。体部外面に稜を持ち、やや薄い器壁を開きながら立ちが上がる。7は小型の瀬戸輪花型入子。ヘラ押して八弁輪花状を施す。中期前半頃の製品。8は鉄釘。9～11は石製品の砥石。9～10は鳴滝産仕上砥、11は天草産中砥。

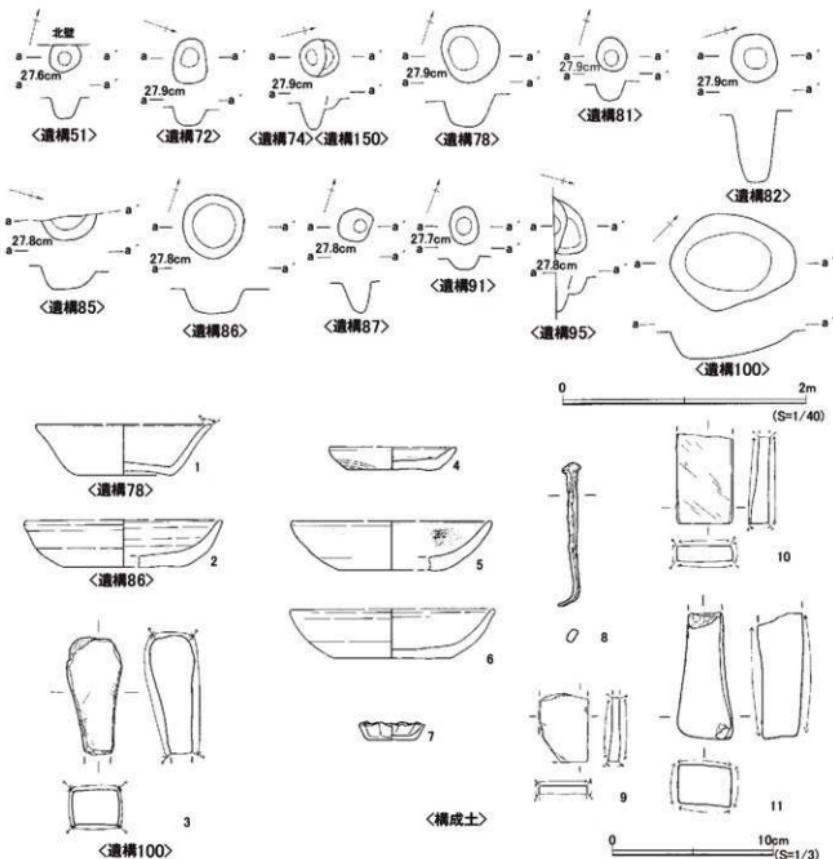


図11 第4面各遺構・出土遺物

## 第5節 第5面の遺構と遺物（図12）

第5面は調査区を2分割して北側半分のみとし、南側半分は大量の残土を処理するため試掘坑部分を除いて堆土山とした。海拔27.6～27.2m前後で検出された東から西に緩やかに下る泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄・玉石を含む茶褐色弱粘質土上とした。遺構は土坑2基、ピット24穴、内ピットと言葉の難い小穴も含まれている。遺構に伴う遺物の出土は少なく、概ねロクロかわらけの他は、土師器壺が出土している。

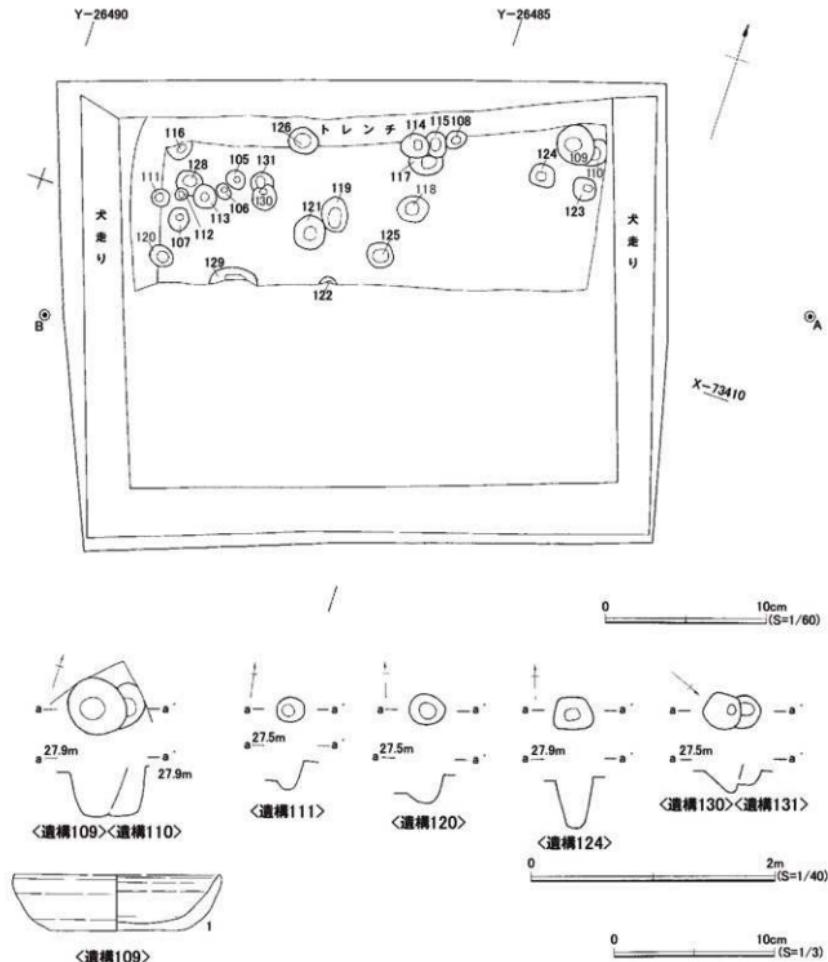


図12 第5面全測図・各遺構出土遺物

#### 遺構 109 (図 12)

調査区北東部で検出された円形状土坑。検出規模は長49cm × 短軸44cm、確認面からの深さ36cm（海拔27.2m）前後を測る。覆土は破碎砂質凝灰岩・炭化物少量を含む砂質混じりの茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 44° - Wを示す。

出土遺物：図12-1は大型かわらけ。その他にも大型かわらけが4点出土。

#### 遺構 110 (図 12)

調査区北東部で検出された楕円形状ビット。検出規模は長軸33cm × 短軸15cm以上、確認面からの深さ40cm（海拔27.2m）前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 21° - Wを示す。

出土遺物：大型・小型かわらけ出土。

#### 遺構 111 (図 12)

調査区北西部で検出された円形状ビット。検出規模は長軸23cm × 短軸21cm、確認面からの深さ24cm（海拔27.15m）前後を測る。覆土は泥岩粒少量・炭化物微量・褐鉄を含む粘性のある黒褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 1° - Eを示す。

出土遺物：大型かわらけ出土。

#### 遺構 120 (図 12)

調査区北部で検出された円形状ビット。検出規模は長軸31cm以上 × 短軸25cm、確認面からの深さ24cm（海拔27.15m）前後を測る。覆土は砂質凝灰岩・炭化物微量・褐鉄を含む縮まりのない黒褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 8° - Eを示す。

出土遺物：大型かわらけ。

#### 遺構 124 (図 12)

調査区北東部で検出された不整円形状ビット。検出規模は長軸32 cm × 短軸27cm、確認面からの深さ41cm（海拔27.35m）前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物少量・褐鉄・砂質土を含む茶褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 8° - Wを示す。

出土遺物：大型かわらけ出土。

#### 遺構 130 (図 12)

調査区北西部で検出された円形状ビット。遺構131を切る。検出規模は長軸30cm × 短軸29cm、確認面からの深さ18cm（海拔27.25m）前後を測る。覆土は泥岩粒・炭化物多量・褐鉄を含む砂質土を含む暗褐色弱粘質土。南北軸方位はN - 31° - Wを示す。

出土遺物：土師器壺出土。

### 第6節 最終トレンチ・表採遺物 (図 13)

調査区南側に位置する試掘坑で砂質凝灰岩の地山岩盤が検出（現地表下134cm）され、南東部では岩盤掘り込みの遺構を伴う平坦面を形成し、南東側（海拔27.9m）から北西側（海拔27.5m）にむかって緩やかに下がる傾斜面となっている。第5面検出後の下層堆積を確認するため調査区北側にトレンチを設け、試掘坑で検出した岩盤の確認を試みた。その結果、岩盤は南東側（海拔26.8m）から北西側（海拔26.6m）にむかって下がる緩やかな傾斜を形成するが、東壁から西へ1.2m以降はやや急激に落ち込むことが北壁堆積土層より確認できた。試掘坑南東部では岩盤掘り込みの遺構が数穴検出しており、南壁

にかかる遺構132は岩盤面からの深さ40cm（海拔27.4m前後）の楕円形状土坑と推測できるが、遺構133は岩盤面からの深さ10cm（海拔27.5m前後）で、意図的に掘り込まれたものではないかもしない。トレンチから遺物は出土していない。

#### 表採集出土遺物（図13）

図13-1は小型ロクロかわらけ。2は瀬戸平碗。3は石製品砥石の中紙。

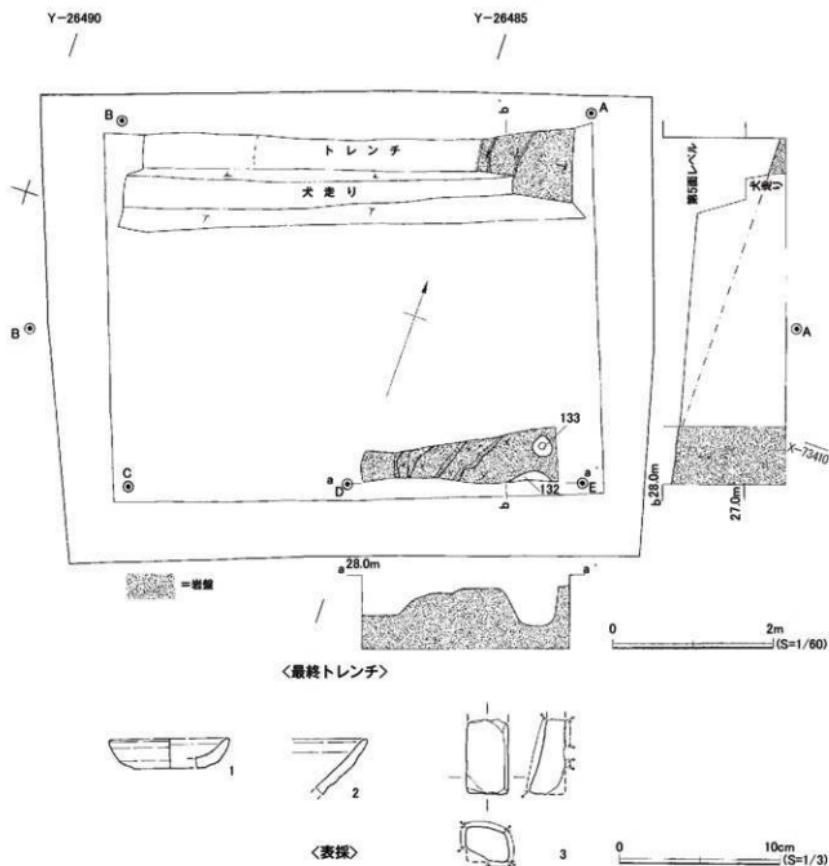


図13 最終トレンチ・表採出土遺物

## 第四章 調査成果のまとめ

本調査地点は、南側の「藤源治」稜線に沿った北に開口する斜面地形を利用した雑壇状に位置する。同じ雑壇状の造成平場に立地する地点15の地山岩盤検出状況は北西側(海拔29.4～30.0m)から南東側(海拔28.8～29.0m)へ、本調査地点は南東側(海拔27.4～27.9m)から北西側(海拔26.6～26.7m)へ傾斜しており、地形的に窪地状を呈した丘陵斜面の岩盤を削って平場を造成し、削平面上に整地層を重ねて生活面としていたと思われる(図14参照)。本報告では5枚の生活面としたが、遺物を観察する限りでは面ごとに明確な時期差は見出せず、細かい地業の変化を面として捉えていたことがわかる。地点15が中世遺構面を2枚としていることからも、本来は第1面～第2面で1枚、第3～4面で1枚、地山岩盤面に付随する第5～6面で1枚の計3枚の地業面として捉えるべきかもしれない。地点12は掘削深度の制限の為、遺物包含層の確認調査にとどまり、遺構の検出までには至っていない。

本調査地点の遺物出土点数は、接合後の破片数で2,591点(遺物整理箱4箱)を数える。その大半が小破片であるため図示できた報告数は少ない。出土遺物の傾向としては90%強をロクロかわらけが占め、そのほとんどが大型である。第5面遺構109より出土した大型ロクロかわらけが最も古く、13世紀末～14世紀前葉と推定する。遺構密度の高い第3～4面より検出した遺構94土坑の中型・大型ロクロかわらけを主に、常滑窯が概ね第8型式(1350～1450年)、瀬戸窯は第3面構成土より後期Ⅰ～Ⅱ期(1360～1420年)まで下る浅碗が出土している。以上のことから、本遺跡の年代は13世紀末～14世紀前葉頃より岩盤削平の平場造成が開始し、14世紀代～15世紀前半頃にかけて土地利用していたと考えられる。13世紀末の円覚寺創建に伴う旧市街以外地が開発されたした可能性を示唆し、遺物は14世紀初頭～16世紀にかけての多様な種類の遺物が検出するという、中世においての「台山遺跡」における他の調査地とも概ね同様な傾向である。古代は遺物のみの検出で、全体の2%程であった。

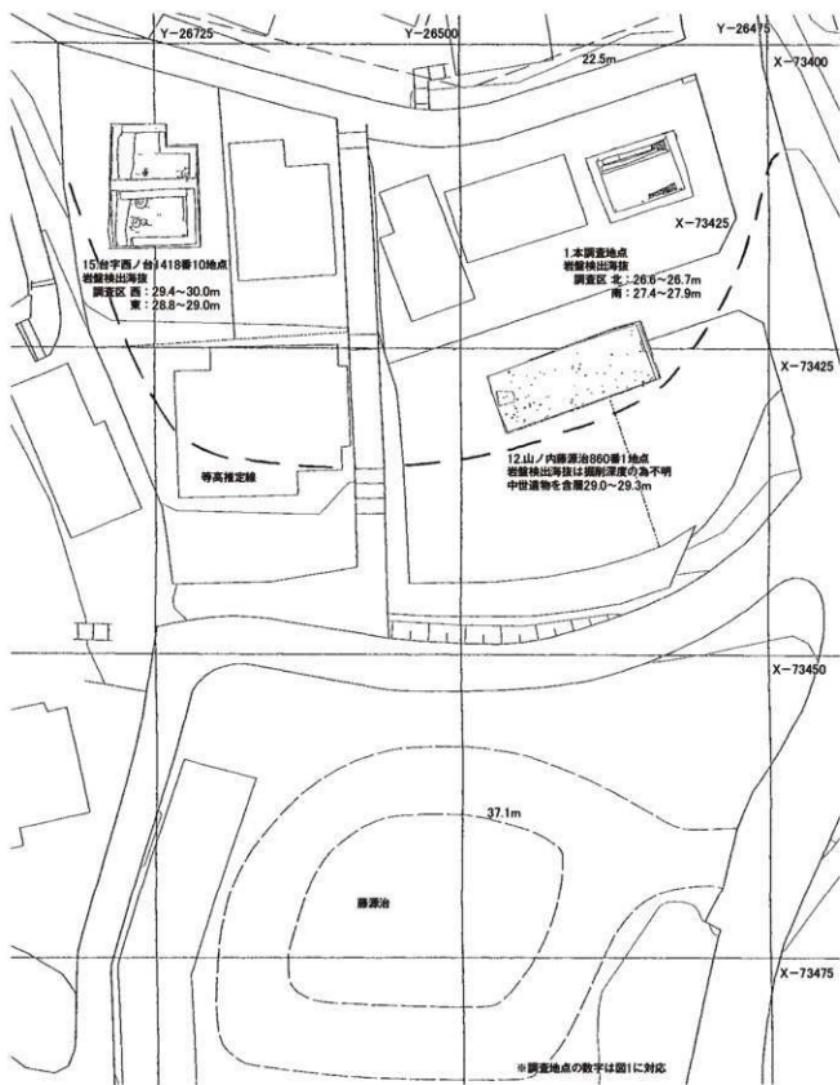


図14 周辺の岩盤検出状況

表2 出土遺物観察表(1)

国版 番号	出土層位	種別	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	観察内容
			単位:cm	( ) :復元頭 ( ) :残存底大頭		
国44	第1面 上面	常滑 类型				a: 輪積み成形 b: 岩灰岩 石英・白色粒・黒色粒・砂粒 c: 基褐色 e: 頸部付近 g: 磁器
2	第1面 横成土	常滑 片口鉢Ⅱ類				a: 輪積み成形 b: 岩灰岩 石英・白色粒・黒色粒・砂粒 c: 基褐色 e: 頸部付近 g: 岩灰岩 片口鉢部小口 g: 中野編年式
3		常滑型		縦帶幅:40		a: 輪積み成形 b: 岩灰岩 石英・白色粒・黒色粒・小石粒・砂粒 c: 基褐色 e: 頸部付近 g: 岩灰岩 片口鉢部欠損 g: 中野編年式
4		真製品 鉢	[5.2]	0.4	0.3	a: 断面方形状に輪造 f: 岩灰岩 g: 箔の付着感しい
5		真製品 鉢	[5.7]	0.5	0.3	a: 断面方形状に輪造 f: 先端部欠損 g: 箔の付着感しい
6		真製品 鉢	[6.2]	0.5	0.3	a: 断面方形状に輪造 f: 先端部欠損 g: 箔の付着感しい
7		土器器 型				a: 輪積み成形 内面は錐状の網目 网目は斜め網目 网目部はキザミアリ b: 砂粒・雲母・黑色粒多。赤色粒を含む丸底 c: 雲母 e: 頸部 g: 口縁部少片 g: 捺出
国61	第2面 道構40	真製品 鉢	[4.9]	0.4	0.3	a: 断面方形状に輪造 f: 先端部欠損 g: 箔の付着感しい
2	第2面 道構41	真製品 鉢	[5.3]	0.4	0.3	a: 断面方形状に輪造 f: 頸部欠損 g: 箔の付着感しい
3	第2面 道構46	かわらけ	(7.0)	(5.2)	1.9	a: ロクロ・外底削除系 板状圧痕・内底ナメ b: 雲母・雲母・赤色・海緑色芯・泥岩粒・粉質土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5
4		真製品 鉢	[2.7]	0.5	0.2	a: 断面方形状に輪造 f: 先端部欠損 g: 箔の付着感しい
5	第2面 道構48	常滑 片口鉢Ⅱ類				a: 輪積み成形 b: 岩灰岩 石英・白色粒・黒色粒・小石粒・砂粒 c: 基褐色 e: 頸部欠損 g: 中野編年式
6	第2面 道構50	真製品 鉢	[3.5]	0.4	0.3	a: 断面方形状に輪造 f: 先端部欠損 g: 箔の付着感しい
7	第2面 構成土	かわらけ	7.2	5.3	1.7	a: ロクロ・外底削除系 板状圧痕・内底ナメ b: 雲母・雲母・赤色・海緑色芯・泥岩粒・やや粗粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/6
8		かわらけ	(7.0)	(5.0)	1.4	a: ロクロ・外底削除系 板状圧痕・内底ナメ b: 雲母・雲母・赤色・海緑色芯・泥岩粒・やや粗粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
9		かわらけ	(6.8)	(3.9)	2.0	a: ロクロ・外底削除系 板状圧痕・内底ナメ b: 雲母・雲母・赤色・海緑色芯・泥岩粒・やや粗粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
10		かわらけ	(7.4)	(5.0)	2.0	a: ロクロ・外底削除系 板状圧痕・内底ナメ b: 雲母・雲母・赤色多・海緑色芯・泥岩粒・粉質粘土や真底 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/3
11		かわらけ	(11.7)	(6.9)	3.5	a: ロクロ・外底削除系 板状圧痕不明確・内底ナメ b: 雲母・雲母・赤色・海緑色芯・粉質粘土や真底 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/6 g: 破壊後に再び黒く変色
12		かわらけ	(12.4)	(7.8)	3.0	a: ロクロ・外底削除系 板状圧痕・内底ナメ b: 雲母・雲母・赤色・海緑色芯・泥岩粒・泥岩粒・やや粗粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5
13		かわらけ	(13.2)	(7.7)	3.1	a: ロクロ・外底削除系 板状圧痕・内底ナメ b: 雲母・雲母・赤色・白色粒・海緑色芯・泥岩粒・粉質粘土や真底 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
14	青磁 罐蓋弁文鏡		(33.1)	(4.2)	5.4	a: ロクロ・外底削除系 板状圧痕不明確・内底ナメ b: 雲母・雲母・赤色・海緑色芯・粉質粘土や真底 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 大字の編年能見系系縦目
15		白磁 鏡		高台背(4.6)		a: ロクロ・削除した面 内面に残り工具の削れ跡を残す b: 白色 黑色を含む心材真鍮無地 e: 白磁 真鍮無地 d: 半透明な清秀青色釉を薄く施釉 気泡あり f: 口縁部片 g: 内面に花紋を配する
16		青白磁 小瓶				a: ロクロ・成都産切り削り b: 岩灰岩 磨擦・丸底・丸底 c: 清秀青色 d: 内面~外縁部に自然剥離 e: 磨擦・丸底・丸底 1/2 g: 中間
17		瓶口 入子		(4.0)		a: ロクロ・成都産切り削り b: 岩灰岩 磨擦・丸底 c: 清秀青色 d: 清秀青色釉を薄くハラ影 e: 外底剥離 e: やや軽底 f: 底部1/4 g: 中間曲面 刃口が僅でキツイ。未使用
18		瓶口 鋸底				a: 輪積み成形 b: 岩灰岩 石英・白色粒・黒色粒・小石粒・砂粒 c: 基褐色 e: 頸部欠損 f: 口縁部片
19	常滑 类型			縦帶幅:4.0		a: 輪積み成形 b: 岩灰岩 石英・白色粒・黒色粒・砂粒 c: 基褐色 e: 基褐色
20	常滑型 研磨製品				a: 所有者付帯 輪積み成形 b: 岩灰岩 石英・白色粒・黒色粒・砂粒 c: 基褐色 e: 磨耗	
21	金銀製品 鋼鉢		外徑24 内徑20 高さ0.6		g: 基礎遺物 初期: 1910年6月 権書	
22	石製品 石碗、土碗		[3.3]	[2.5]	[0.5]	a: 砥石は表面のみ、裏面は滑潤。側面は切り出し痕 b: 岩灰岩 c: 基褐色 g: 岩灰岩 (轍跡有り?)
23	石製品 火打石		[2.2]		[1.7]	a: チャート b: 石英・砂粒 c: 乳白色~暗褐色 g: 二次焼成のため、全体的に黒く変色
国81	第3面 道構58	かわらけ用 門壁灰土製品		径27×厚3.67~0.8		a: ロクロ型のかわらけ底部を転用し、円盤状に削りを施す b: 雲母・雲母・赤色・黒色・海緑色芯・泥岩粒・やや粗粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5
2	第3面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.85	a: ロクロ・外底削除系 板状圧痕・内底ナメ b: 雲母・雲母多・黒色・赤色・海緑色芯・泥岩粒・泥岩粒・やや粗粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5
3		かわらけ	(8.0)	(4.6)	2.0	a: ロクロ・外底削除系 板状圧痕不明確・内底ナメ b: 雲母・雲母多・黒色・赤色・海緑色芯・泥岩粒・泥岩粒・やや粗粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5 g: 外面部分の黒く変色
4		かわらけ	7.4	4.3	2.5	a: ロクロ・外底削除系 板状圧痕・内底ナメ b: 雲母・雲母・黒色・赤色・白色粒・やや粗粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5 g: 外面全般的に黒く変色
5	瓶口 浅柄				a: ロクロ b: 清秀青色・磨擦・白色粒・やや粗粒 d: 从绿色(火候) 内面~外縁部中位でツケ掛け・気泡多 e: やや軽底 f: やや軽底 (瓶底に不安あり) g: 後削第一凹窓	
6	常滑 片口鉢Ⅱ類				a: 輪積み成形 b: 丸底・石英・白色粒・黒色粒・小石粒・砂粒 c: 基褐色 e: 基褐色 f: 磨耗	
7	真製品 鉢		[6.3]	[0.65]	0.3	a: 断面方形状に輪造 f: 頸部欠損 g: 箔の付着感しい
8	真製品 鉢		5.3	0.68	0.6	a: 頸部は折り曲げ。断面は方形状に輪造 f: 完形 g: 箔の付着感しい

表2 出土遺物観察表(2)

回版 番号	出土位置 出土遺物	種別	日付	大きさ	底面	幅面	厚さ	観察内容
			単位(cm)	(cm)	底面	幅面	厚さ	
回89 -10	第3面 構成土	石製品 石臼・土上鉢	[5.9]	3.3	[0.6]	底面・最大幅		a: 成形・調整 b: 砂土・赤土・材質 c: 黄褐色 d: 手調 e: 打成 f: 造存痕 g: 摂考 g: 製造痕は表面のみ、裏面は滑潤。小口・側面は切り出し痕 b: 錐窓凹 c: 黄白色 g: 黒泥斑(表面)?
		石製品 石臼・土上鉢	[5.1]	[3.2]	[0.7]			a: 製造は表面のみ、裏面は滑潤、側面は切り出し痕 b: 錐窓凹 c: 黄褐色 g: 黒泥斑 (表面?)
回91 -2	第3面 遺物94	かわらけ	123	7.2	3.0			a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・黒色粒・赤色粒・海綿 骨芯・泥岩粒多・粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 出土位置①
		かわらけ	[126]	7.6	3.4			a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・黒色粒・赤色粒・白色粒・ 海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 外部面部に部分的に 黒く変色 出土位置?
-3	かわらけ	122	7.4	3.3				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・黒色粒・赤色粒・白色粒・ 海綿骨芯・泥岩粒・小石粒・粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 外部面部に 黒く変色 出土位置?
-4	かわらけ	123	7.3	3.2				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・黒色粒・赤色粒・白色粒・ 海綿骨芯・泥岩粒多・粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 外部面部に 黒く変色 出土位置?
-5	かわらけ	125	7.4	3.4				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・黒色粒・赤色粒・白色粒・ 海綿骨芯・泥岩粒多・粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 外部面部に 黒く変色 出土位置?
-6	かわらけ	120	7.	3.0				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・黒色粒・赤色粒・白色粒・ 海綿骨芯・泥岩粒多・粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 部分的に 黒く変色 出土位置?
-7	かわらけ	126	7.6	3.5				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ羽(ロクロ直残) b: 手調・雲母・黒色粒・ 海綿骨芯・泥岩粒・泥岩粉・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 外部 面部に黒く変色 出土位置?
-8	かわらけ	121	7.5	3.1				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・黒色粒・赤色粒・ 海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 外部面部に部分的に 黒く変色 出土位置?
-9	かわらけ	121	8.0	3.1				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・黒色粒・赤色粒・ 海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 外部面部に黒く変色 出土位置?
-10	かわらけ	124	7.4	2.9				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ残(ロクロ直残) b: 手調・雲母・ 海綿骨芯・黒色粒・赤色粒・泥岩粉・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 外外部面部に黒く変色 出土位置?
-11	かわらけ	122	8.0	3.9				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒・ 赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 外部面部に部分的に 黒く変色 出土位置?
-12	かわらけ	124	7.4	3.2				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒・ 赤色粒・泥岩粒多・赤色粒・泥岩粉多・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 出土位置?
-13	かわらけ	[130]	7.2	3.4				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒多・ 赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 出土位置?
-14	かわらけ	112	6.0	3.1				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒多・ 赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 外部面部に黒く変色 出土位置?
-15	かわらけ	123	7.6	3.13				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒・ 赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 外部面部に黒く変色 出土位置?
-16	かわらけ	126	7.7	3.4				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒・ 赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 外部面部に黒く変色 出土位置?
-17	かわらけ	124	7.5	3.1				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒・ 赤色粒・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 外部面部に黒く変色 出土位置?
-18	かわらけ	130	8.0	3.4				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・黒色粒・赤色粒多・ 白泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 4/5 g: 地下位置?
-19	かわらけ	122	7.4	3.1				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒多・ 赤色粒・泥岩粒多・小石粒・粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 地下位置?
-20	かわらけ	124	7.4	3.3				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒多・ 赤色粒・泥岩粒多・小石粒・粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 地下位置?
-21	かわらけ	118	7.0	3.0				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒・ 赤色粒・泥岩粒多・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 4/5 g: 地下位置?
-22	かわらけ	123	7.1	3.2				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒・ 赤色粒・泥岩粒多・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 4/5 g: 地下位置?
-23	かわらけ	1222	7.22	321				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・ やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 地下位置?
-24	かわらけ	122	7.6	3.5				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒多・ 赤色粒・泥岩粒多・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 地下位置?
-25	かわらけ	122	7.4	3.4				a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒多・ 赤色粒・泥岩粒多・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 3/4 g: 地下位置?
回11-1 -2	第4面 遺物28 -3	白磁 13丸皿	[106]	[5.8]	32			a: ロクロ b: 白色粒・黒色粒・粗黄鐵土 d: 白色土 不透明物をやがて気泡 すかにあり 口縁部・外底部は施釉後に焼き取り(部分的に施釉) e: 施釉 f: 1/2 g: 大字印刷年號(年號直隸)
3	第4面 遺物86	かわらけ	120	7.2	2.9			a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・黒色粒・赤色粒・ 海綿骨芯・泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4
4	第4面 遺物100 構成土	石製品 石臼・土瓶	[7.2]	19~33	13~27			a: 机は直用 b: 錐窓凹 c: 黑色(二次焼成) g: 底面不明
	かわらけ	[7.6]	[5.4]	14			a: ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナメ b: 手調・雲母・海綿骨芯・黑色粒・ 泥岩粒・やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 g: 外底直用 g: 机は直用から入る	

表2 出土遺物観察表（3）

団號 番号	出土場所	種別	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	観察内容	
						半径：cm	（ ）：復元値（ ）：残存最大径
国11-5	第4面 積或土	かわらけ	122	66	30	a: 形成・調節 b: 斜上・素地・材質 c: 色調 d: 滑潤 e: 焼成 f: 残存量 g: 雜考	
6		かわらけ	123	72	30	a: ロクロ・外底削輪希望・板状圧痕不明・内底ナメ b: 微妙・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粒・やや粗上 c: 嚴重擦傷	e: 良好 f: 1~5 g: 内外面全体黒く変色
7		漸口 輪孔型入子	4.0	26	11	a: ロクロ・外底削輪希望・板状圧痕・内底ナメ b: 微妙・雲母・海綿骨芯・赤色粒・粉質良上 c: 褐色	e: 良好 f: 1~5
8		瓦製品 封	9.4	0.8 (図12)	0.5	a: 潟部は折り曲げ、断面は方形状に鉛造 f: 完形 g: 端の付着激しい	
9		石製品 硯石・仕上硯	[4.2]	39	0.6	a: 砥面は表面1面のみ、小口・側面は切り出し直 b: 磨拭痕 c: 線條がかる淡黃白色 g: 喰溜窓（中山？）	
10		石製品 硯石・仕上硯	[5.5]	34	11	a: 砥面は表面2面・側面・小口は切り出し直 b: 磨拭痕 c: 朱絵色 e: 軟質 g: 喰溜窓（轍消？）	
11		石製品 硯石・中硯	[7.7]	34	28	a: 砥面は4面使用 b: 磨拭痕 c: 赤味を帯びた黃白色（マーブル調で表面に黒い斑点あり） e: 軟質 g: 天草産	
国12-1	第5面 道標 100	かわらけ	12.4	89	33	a: ロクロ・外底削輪希望・板状圧痕・内底ナメ b: 微妙・雲母・黑色粒・赤色粒多・海・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗上 c: 褐色	e: 良好 f: 1~4
国13-1	表土 採集	かわらけ	(7.2)	(4.4)	1.8	a: ロクロ・外底削輪希望・板状圧痕・内底ナメ b: 微妙・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒・やや粗上 c: 褐色	e: 良好 f: 1~5
2		漸口 平底				a: ロクロ b: 深め黄色・微妙・黑色粒・小石粒 d: 深灰緑色（灰釉）滑潤鋭利 e: 良好 f: やや軟質 g: 滑潤且手	
3		石製品 硯石・中硯	[4.5]	26	12~19	a: 砥面は4面使用 b: 磨拭痕 c: 黃色味がかる白色 表面に黒やびが浮き出る e: やや軟質 g: 上野産か？	

表3 遺物破片数表

		第1面 面上	第1面 遺構	第1面 構成土	第2面 面上	第2面 遺構	第2面 構成土	第3面 面上	第3面 遺構	第3面 構成土	第4面 遺構	第4面 構成土	第5面 遺構	表土 破片数	合計	%
かわらけ	赤・大	12	2	695	56	176	630	26	136	430	38	3	12	66	2302	88.85
	赤・小			20		7	22	6	3	24	1		1	3	87	3.36
船軌組器	青磁						5		1						6	0.23
	無文磁			1	1					1					3	0.12
	赤						1								1	0.04
	白瓦					1									1	0.04
	白瓦組			1						1	1				3	0.12
	不明			1		1			1						3	0.12
	青白磁						1								1	0.04
国産陶器	裏口		入子		1			1				1			3	0.12
			鋸皿				1								1	0.04
			平鉢											1	1	0.04
			浅鉢		1					1					2	0.08
		黒	1	8			11			5	1			4	30	1.16
		片口露工型								1					1	0.04
		片口露非型		3		1	1								5	0.19
		山茶碗							1						1	0.04
		軽便研磨製品 (すり室)					1								1	0.04
		器種不明		1											1	0.04
土器・土製品類	鬼山		甕		1									1	2	0.08
		火鉢			1					1					2	0.08
		瓦質					2								2	0.08
石製品		黒縄綱		2											2	0.08
		円錐(縄綱)						1							1	0.04
		紙石		仕上紙	3		1		2		2				8	0.31
			中紙	1					1	1	1			1	5	0.19
			火打ち石				1								1	0.04
			削り石		1										1	0.04
			玉石(使用後有)				1								1	0.04
			輝緑巖灰岩		1										1	0.04
			鉛石						1						1	0.04
		金属製品		鉄釘	19	3	7	7	3	7	2	2			30	1.93
自然遺物			銅錢				1								1	0.04
			不明						1						1	0.04
			獸骨				2		2						4	0.15
			種子				1		1						2	0.08
		要	6	1	12	2		2	4	3		2	1		33	1.27
		白介要			1										1	0.04
		垂			2		5								7	0.27
		杯	1		2			1	1	2					7	0.27
		壺			1										1	0.04
		高坪		1		1									2	0.08
古代遺物		不明							1						1	0.04
		伝統陶器		瓶				1							1	0.04
合計		20	3	280	62	198	720	32	155	481	44	11	14	76	2591	100.00
%		0.77	0.12	30.10	2.39	7.45	27.79	1.24	5.98	18.56	1.70	0.42	0.54	2.93	100.00	

表4 遺構計測表

面	遺構 No.	長幅	幅幅	深さ	面	遺構 No.	長幅	幅幅	深さ	面	遺構 No.	長幅	幅幅	深さ
1	1	24	17	18	2	42	22	18	10	4	85	46	(18)	16
1	2	24	19	21	2	43	48	42	19	4	86	50	52	19
1	3	26	(18)	6	2	44	33	(18)	30	4	87	27	26	36
1	4	43	41	13	2	45	26	25	13	4	88	22	22	7
1	5	26	(15)	11	2	46	200	156	17	4	89	23	20	10
1	6	32	32	12	2	47	34	33	38	4	91	30	27	12
1	7	40	34	12	2	48	35	24	24	4	92	(129)	(58)	10
1	8	38	35	12	2	49	32	27	9	4	93	28	22	9
1	9	52	45	17	2	50	104	82	17	4	95	44	(25)	12
1	10	24	17	13	3	52	27	23	15	4	98	24	(15)	25
1	11	50	38	12	3	53	17	17	9	4	99	43	39	12
1	12	26	(18)	6	3	54	38	35	40	4	100	101	73	25
1	13	37	(32)	13	3	55	40	(24)	17	4	101	37	31	12
1	14	68	57	13	3	56	61	43	8	4	102	(22)	(15)	11
1	15	18	(15)	12	3	57	(41)	41	34	4	103	23	(14)	12
1	16	35	(19)	9	3	58	(60)	34	38	4	127	32	(15)	39
1	17	28	21	13	3	59	33	(20)	10	4	146	45	(16)	28
1	18	32	27	13	3	60	44	35	17	4	147	26	16	15
1	19	29	(18)	6	3	61	35	29	12	4	150	(32)	30	30
1	20	24	15	11	3	62	33	33	27	4	147	25	16	16
1	21	24	(16)	10	3	63	30	25	13	4	148	25	(22)	8
1	22	32	28	8	3	64	33	(27)	10	4	149	23	20	7
1	23	24	15	6	3	65	49	32	20	4	150	29	(10)	6
1	24	16	15	13	3	66	32	25	16	5	105	23	24	25
1	25	21	20	12	3	67	(32)	24	21	5	106	16	15	18
1	26	66	49	7	3	68	33	27	12	5	107	27	26	31
1	27	(80)	34	16	3	69	(27)	34	11	5	108	24	23	19
1	28	67	47	17	3	70	56	48	47	5	109	49	44	36
1	29	25	21	15	3	71	97	90	30	5	110	33	(15)	40
1	30	29	27	11	3	90	66	58	17	5	111	23	23	24
1	31	20	15	10	3	94	67	52	17	5	112	16	15	25
1	32	50	35	13	3	96	32	23	9	5	113	28	27	26
1	33	30	27	11	3	97	29	29	8	5	114	27	(17)	12
1	34	40	27	17	3	104	(183)	60	20	5	115	32	(24)	15
1	35	15	15	5	3	142	(53)	40	18	5	116	31	(21)	16
1	36	40	(23)	23	3	143	10	8	17	5	117	42	(26)	25
1	37	29	25	10	3	144	(23)	27	11	5	118	33	32	28
1	38	15	15	12	3	145	36	27	6	5	119	42	32	25
1	39	47	(47)	10	4	51	(23)	25	17	5	120	31	25	24
1	132	10	12	6	4	72	36	28	14	5	121	42	37	31
1	133	16	(12)	4	4	73	48	43	11	5	122	18	(8)	15
1	134	12	11	10	4	74	30	20	22	5	123	28	27	41
1	135	47	(47)	10	4	75	33	28	20	5	124	32	27	41
1	136	13	(10)	14	4	76	25	21	6	5	125	32	31	19
1	137	18	14	6	4	77	16	14	9	5	126	37	33	18
1	138	34	30	7	4	78	48	48	24	5	128	32	30	23
1	139	22	15	24	4	79	39	28	17	5	129	56	(16)	24
1	140	19	16	12	4	80	17	16	5	5	130	30	29	18
1	141	25	(20)	11	4	81	25	24	16	5	131	27	(17)	12
2	40	52	50	15	4	82	39	36	58	6	132	79	(10)	46
2	41	81	(47)	56	4	84	68	61	16	6	133	25	25	10

※調査区に遺構が延びていたもの、他の遺構に切られていたものに関しては、遺存値を( )で表記した。

(単位: cm)



△ 1. 第1面全景（南から）



2. 第2面全景（南から） △



△ 3. 第3面全景（南から）



△ 1. 第4面全景(南から)



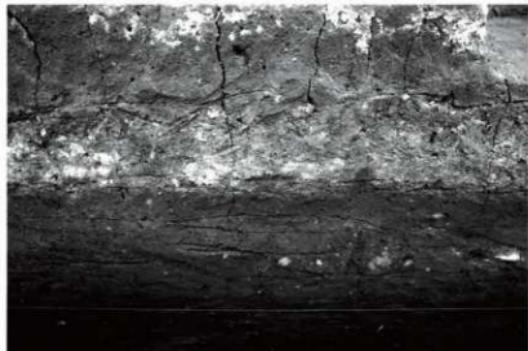
△ 2. 第5面全景(東から)



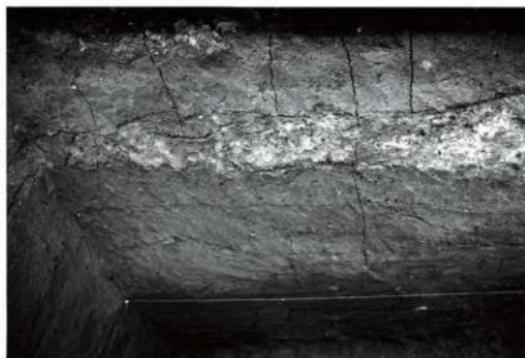
△ 3. 最終トレンチ(東から)



△ 1. 調査区西壁①(東から)



△ 2. 調査区西壁②(東から)



△ 3. 調査区西壁③(東から)



△ 1. 調査区西壁④(東から)



2. 調査区北壁①(南から) △



△ 3. 調査区北壁②(南から)



△ 1. 第2面遺構 46(南から)



2. 第3面遺構 104(東から) △



△ 3. 第3面遺構 57・58(北から)



△ 1. 第3面遺構94  
遺物出土状況(北から)



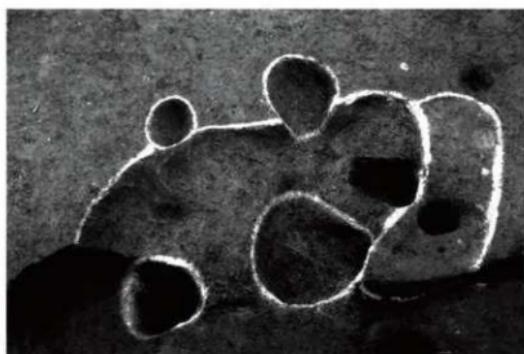
△ 2. 第3面遺構94  
遺物出土状況(西から)



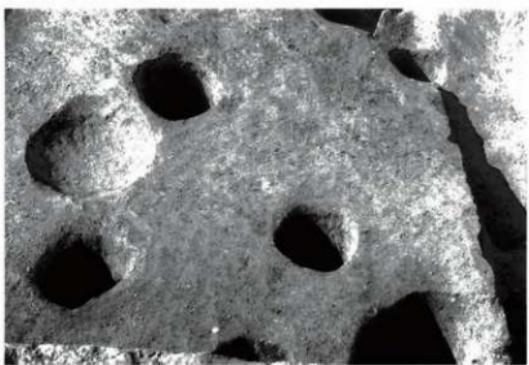
△ 3. 第3面北西隅遺構群(南から)



△ 1. 第4面遺構 73・74・78・80  
81・82・150 (南から)



2. 第4面遺構 88・91・92・99  
98・100・147 (北から) ▷



△ 3. 第5面遺構 109・110  
123・124 (東から)

## ▼第1面



△面上



△構成土



4-2



4-5

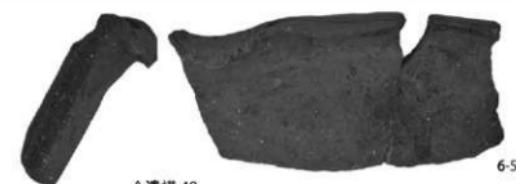
## ▼第2面



△遺構 40



△遺構 46



△遺構 48



6-7



6-9



6-13



6-14



6-15



6-16



6-17



6-18



6-20



6-21



6-22



6-23

△構成土

图版9

▼第3面



8-4



8-8



8-9

△遺構 58

△構成土

8-2

8-5



8-6



9-1



9-2



9-3



9-4



9-5



9-6



9-7



9-8



9-9



9-10



9-11



9-12



9-14



9-15



9-16



9-17

△遺構 94

▼第3面



9-18



9-19



9-20



9-21



9-22



9-23



9-24



9-25

△遺構 94

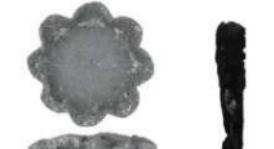
▼第4面



11-3



11-4



11-7



11-10



11-11

△遺構 78

△構成土

▼第5面



12-1



13-2



13-3

△遺構 109

▼表採



## 東勝寺跡 (No.246)

小町三丁目 529 番 1、4、5 地点

## 例 言

1. 本報告は、鎌倉市小町三丁目529番1、4、5において実施した、東勝寺跡（鎌倉市No.246）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は平成27年9月3日から同年12月25日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は、83.01m<sup>2</sup>である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査指導 水田史子（鎌倉市文化財課）

調査担当者 押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時の任用職員）

調査員 吉田桂子、小野夏菜、菅野智子、佐藤千尋（鎌倉市文化財課 臨時の任用職員）

作業員 安達越郎、安藤宗幸、江津兵太、遠藤雅廣、久島忠敬、永野幹晴、高柳雅一、寺尾征夫、岡 利文、西澤靖明、二宮久友

（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

整理作業参加者 押木弘己、吉田桂子、正木恵子（鎌倉市文化財課 臨時の任用職員）

4. 本報告の執筆と編集は、押木が行った。
5. 本報告で使用した写真は、現地・出土遺物とも押木が撮影した。
6. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「T S T 1 5 0 3」とし、出土品への注記などに使用した。

## 凡 例

1. 掘図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第Ⅷ系：東日本大震災後の補正前）に基づいている。
3. 掘図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより0° 09' 25"ほど東に振れている。
4. 遺構掘図中の水糸高は、海拔値を示す。
5. 出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。
  - ◆かわらけ・遺物全体の様相：宗基秀明 2005『中世鎌倉の土器・陶磁器』『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』
  - ◆輸入陶磁器：『太宰府条坊跡 X V -陶磁器分類編-』太宰府市教育委員会 2000
  - ◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
  - ◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史』別編窯業3 中世・近世常滑系 愛知県 2012

## 目 次 本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	259
第1節 遺跡の立地と沿革	
第2節 周辺の調査成果	
第二章 調査の方法と経過 .....	261
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の方法	
第3節 調査の経過	
第三章 基本土層 .....	262
第四章 発見された遺構と遺物 .....	265
第1節 検出遺構	
第2節 出土遺物	
第五章 調査成果のまとめ .....	274

## 挿 図 目 次

図1 周辺の発掘調査地点 .....	260	図8 3面 岩盤面の遺構 .....	269
図2 調査区配置図 .....	262	図9 3面全体図(2) .....	270
図3 土層断面図 .....	263	図10 I区出土遺物(1) .....	271
図4 1面全体図 .....	265	図11 I区出土遺物(2) .....	272
図5 2面全体図 .....	266	図12 I区出土遺物(3) .....	273
図6 2面遺構2 遺物出土状況 .....	267	図13 I区出土遺物(4) .....	274
図7 3面全体図(1) .....	268	図14 II区出土遺物 .....	275

## 表 目 次

表1 東勝寺跡(No.246)の調査地点一覧 .....	261	表3 出土遺物観察表 .....	282
表2 出土遺物カウント・計量表 .....	276		

## 図 版 目 次

図版1 .....	287	6. I区2面遺構2上層 かわらけ出土状況 (東から)	
1. 現地調査前(北東から)			
2. I区表土掘削状況(南東から)		7. I区2面遺構2中層 かわらけ出土状況 (北から)	
3. I区1面攢乱除去後(北から)			
4. I区1面検出状況(東から)		8. 同上 近景(南から)	
5. I区2面検出状況(北から)			

図版2	288	図版5	291
1. I区2面遺構2南壁面(北から)		1. I区岩盤斜面上堆積(南西から)	
2. I区2面遺構3断面(南から)		2. I区岩盤斜面上堆積(北西から)	
3. I区2面遺構3(南から)		3. 調査地点近景(北から)	
4. I区2面調査風景(北西から)		4. I区調査終了後 空撮作業風景(東から)	
5. I区2面全景(北から)		5. I区調査完了時 上空撮影(上が北)	
6. I区2面北半部(南西から)		図版6	292
7. I区2面下断面(南西から)		1. II区表土掘削状況(北西から)	
8. I区3面遺構8上かわらけ出土状況 (南東から)		2. II区1面全景(南から)	
図版3	289	3. II区2面全景(南から)	
1. I区3面清掃作業(南東から)		4. II区2面下全景①(南から)	
2. I区3面全景(北から)		5. II区2面下琥珀片出土状況 全景(西から)	
3. I区3面全景(西から)		6. II区3面下最終全景(南から)	
4. I区3面遺構4・5(北東から)		7. II区3面下最下層 土層断面(南から)	
5. I区3面遺構4断面(北から)		図版7	293
6. I区3面遺構4(北西から)		1. I区3面下最下層 土層断面(南西から)	
7. I区3面遺構5(南西から)		2. II区3面下かわらけ出土状況(東から)	
8. I区3面岩盤斜面(北西から)		3. 調査地～鶴岡八幡宮を望む(南上空から)	
図版4	290	図版8 I区 出土遺物(1)	294
1. I区3面遺構6～8(北東から)		図版9 I区 出土遺物(2)	295
2. I区3面遺構9断面(西から)		図版10 I・II区 出土遺物	296
3. I区3面岩盤上階段状痕跡(南から)			
4. I区北壁土層断面(南から)			
5. I区北壁断面(2面遺構2の落ち込み:北から)			
6. I区南壁土層断面(北から)			
7. I区東壁土層断面(西から)			
8. I区岩盤斜面上堆積確認トレンチ(東から)			

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 第1節 遺跡の立地と沿革

青龍山東勝寺は臨濟宗寺院で、鎌倉旧市街北東部の葛西ヶ谷に所在する。北条泰時が嘉祐三年（1237）に母の追善のため建立した。開山は寿福寺2世などを務めた退耕行勇で、彼は仁治二年（1241）に当寺で没している。元亨三年（1323）の北条貞時13回忌供養では当寺から53人の供僧が参列したというから、この段階には一定規模の伽藍を誇っていたと推察される。元弘三年（1333）五月二十二日、新田義貞の鎌倉攻めに抗しきれず得宗北条高時は一族とともに東勝寺で自害して果てた。鎌倉幕府の滅亡である。

葛西ヶ谷は衣張山から西に延びる丘陵の突端部にあり、これより西は滑川を隔てて鎌倉の中央平野に移行する。南西・中央・北東の大きく三支谷からなり、中央支谷の最奥部斜面地には鎌倉幕府滅亡時の伝承を残す「腹切やぐら」が所在する。今回の調査地点は北東支谷でも最も標高の高い北端部に所在し、現況では標高25m強の宅地平坦面となっている。この平坦面から西方眼下には、高時邸跡地に後醍醐天皇が建立したと伝える宝戒寺を望むことができる。

## 第2節 周辺の調査成果

本遺跡では、これまでに確認調査も含め12回の発掘調査が実施されている（平成29年12月現在）。

中央支谷および北東支谷では、第1～4次調査において複数のトレンチが設定されている。中央支谷南部の第1・2次調査では、凝灰質砂岩の切石（鎌倉石）を敷き並べた造構が数多く確認されている。谷戸奥に向かう坂道やこれに付随する石垣、門に推定されるカギ形の区画施設、小堂基壇などで、小堂の建築以前には厚い炭層の検出から大規模な火災があったことが想定され、「太平記」に語られた高時自害後の東勝寺焼失との関連も指摘されている。第3・4次調査では、「腹切やぐら」前面の平場が調査され、やはり元弘三年の火災に推定される炭層が検出され、この時に焼失したと思しき梁間4間×桁行7間以上の純柱式掘立柱建物が検出されている。掘立柱である点から仏堂的施設ではなく住宅的建物で、しかも規模が大きいことから方丈の可能性が高いと報告されている。これら一連の考古学成果を受け、平成11年（1999）には中央支谷を中心に国史跡に指定されている。

北東支谷・南東支谷での調査は断片的であり、各々の成果を直接結び付けることは難しいが、概ね13世紀後葉～14世紀前・中葉に活発な土地利用の痕が窺われ、地点によっては15世紀後葉における利用痕跡も確認されている。創建期とされる13世紀前半（第2四半期）に遡る造構・遺物はきわめて希薄であり、この段階の土地利用は葛西ヶ谷のうちでも限定的であったと思われる。第3・4次調査で検出された方丈的建物の下層については造構保存のために調査が及んでいないが、これより約40cm下位で中世基盤層が確認されており、この間に鎌倉末期以前の営為痕跡を想定できる。

本調査地点の東側隣接地では、宅地造成工事に伴う調査が平成24年に実施されている（図2-10）。ここでは岩盤を削平した平坦面が検出され、溝や井戸、ピットなどの中世造構が確認されている。明確な建物の確認には及んでいないが、溝で区画された小規模建物の存在が想定され、寺域の塔頭のような性格が指摘されている。また出土量は少ないものの手づくねかわらけも散見されており、13世紀前半に土地利用が始まったことが考えられている。

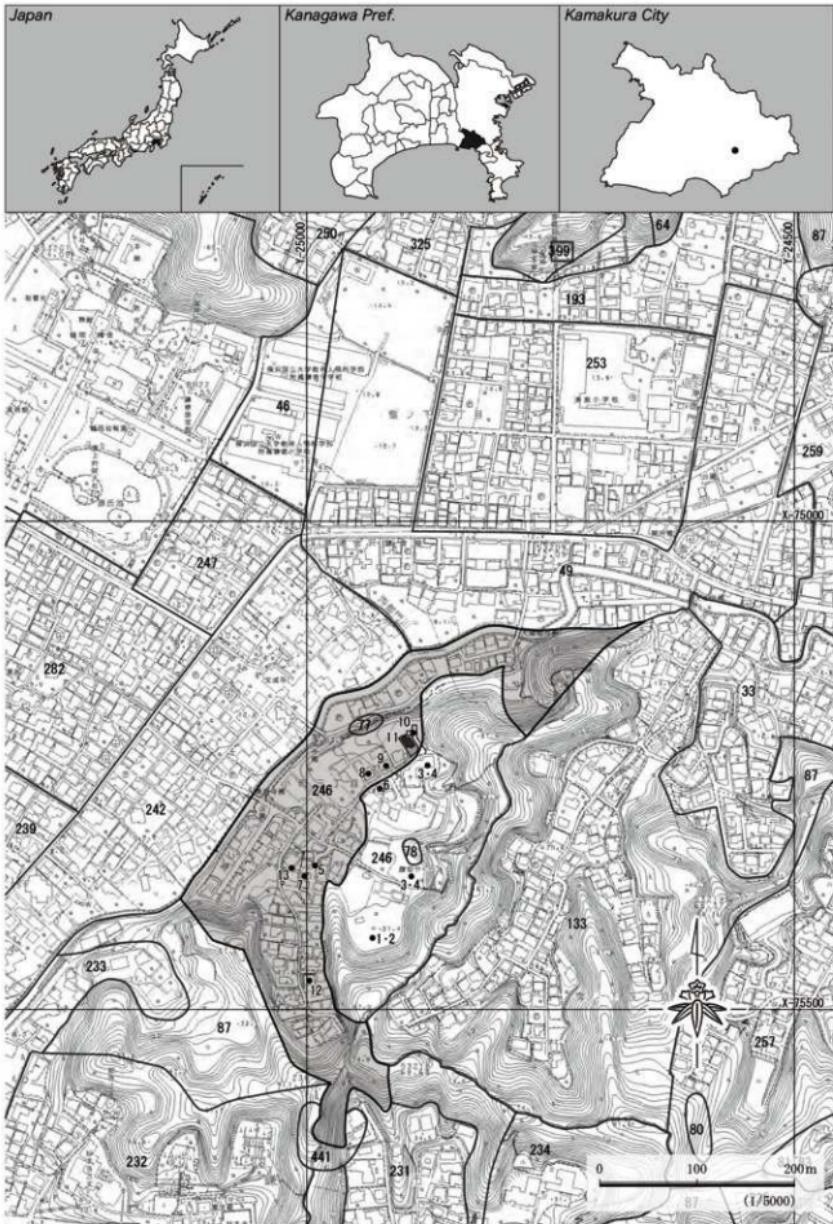


図1 周辺の発掘調査地点（鎌倉市発行1:2,500都市計画基本図を使用・改変）

表1 東勝寺跡(No.246)の調査地点一覧

No.は図1に対応

No.	地番	調査年度	面積 (m <sup>2</sup> )	所収報告書(正式報告のみ)
1-2	小町三丁目497番	1975-76年度	550	「東勝寺跡発掘調査報告書」東勝寺遺跡発掘調査団編・鎌倉市教育委員会 赤星直忠ほか1983
3-4	小町三丁目506番・523番	1996-97年度	432	「東勝寺跡—第3・4次遺構確認調査報告書—」鎌倉市教育委員会 菊川英政ほか1998
5	小町三丁目468番2外	1999年度	326	「東勝寺跡発掘調査報告書」東勝寺跡発掘調査団・宮田 真・浅澤晶子2000
6	小町三丁目523番14	1999年度	90	「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)」鎌倉市教育委員会 渋見一夫ほか2001
7	小町三丁目468番10	2000年度	27	「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第1分冊)」鎌倉市教育委員会 宮田 真2002
8	小町三丁目538番8	2004年度	43	「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27(第1分冊)」鎌倉市教育委員会 原 康志2011
9	小町三丁目538番3	2004年度	65	「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27(第1分冊)」鎌倉市教育委員会 原 康志2011
10	小町三丁目529番6外	2010年度	241	「東勝寺跡発掘調査報告書」(有)鎌倉遺跡調査会 斎木秀雄2015
11	小町三丁目529番1外	2015年度	83	本報告
12	小町三丁目485番5外	2016年度	108	未報告
13	小町三丁目467番6	2017年度	460	未報告

## 第二章 調査の方法と経過

### 第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、個人住宅の建設に先立つ埋蔵文化財の記録保存を目的に実施した。住宅基礎下の地盤は最大深度6.89 mの柱状改良工事を施す計画であり、東隣接地(図1-10)で実施された発掘調査の成果を参考にすると現地表下100cmまでに3枚の中世遺構面が遺存することが予測されたため、鎌倉市教育委員会文化財課は工事の実施に先立って発掘調査を行う必要があるとの判断に至った。

### 第2節 調査の方法

調査区は、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から南半部のI区と北半部のII区とに分割し、I区→II区の順に調査を進めた(図2)。表土掘削はI・II区ともに重機で行った。遺物包含層以下は全て人力によって掘削し、遺構の確認と掘削を行った後、写真撮影・測量図作成などの記録作業を進めた。

測量に当たっては国家座標値を載せた基準杭を敷地内に設け、光波測距儀で測定した座標値を方眼紙にプロットする方法で平面図を作成した。国家座標の移設は市道上に設置された4級基準点「T071」と「T072」の二点間関係から開放トラバース法で行った。4級基準点の座標値は旧測地系に基づくことから、国土地理院が公開する座標変換ソフト「Web版TKY2JGD」で新測地系(JGD2011)座標値に変換してから移設を行った。標高は都市再生街区多角点「2A075」(9.474 m)を起点に、直接水準測量を繰り返して敷地内の測量杭に移した。

### 第3節 調査の経過

I区の表土掘削は平成27年9月1日に実施した。翌日には調査用具を搬入して本格的に調査に着手した。遺構の確認と掘削、図面作成および写真撮影などの記録作業を進め、11月6日にはI区の埋め戻しとII区の表土掘削を行った。II区でも掘削と記録を順次進め、12月16日には全ての記録作業を終え、21日にII区の埋め戻し、25日には調査用具を撤収して現地での調査工程を全て終了した。

出土品および記録類の整理作業は、平成28・29年度に鎌倉市教育委員会文化財課分室で行った。



図2 調査区配置図

第三章 基本土層

現地表面の標高は図2に示した通りで、南西側が最も低くなっている。

図3には、本地点の土層堆積状況を示した。I区南東隅では西に向けて急激に落ち込む岩盤面を確認し、この上位で黒色粘質土(g層)の堆積を確認した。同層からは手づくねかわらけが出土し、13世紀前半以降に堆積が進んだとみられる(次章第2節参照)。この後、泥岩粒を含む整地層上に柱穴や土坑などの遺構が形成されていた。13世紀後半～14世紀前半を中心とする土地利用の痕跡と考えられる。

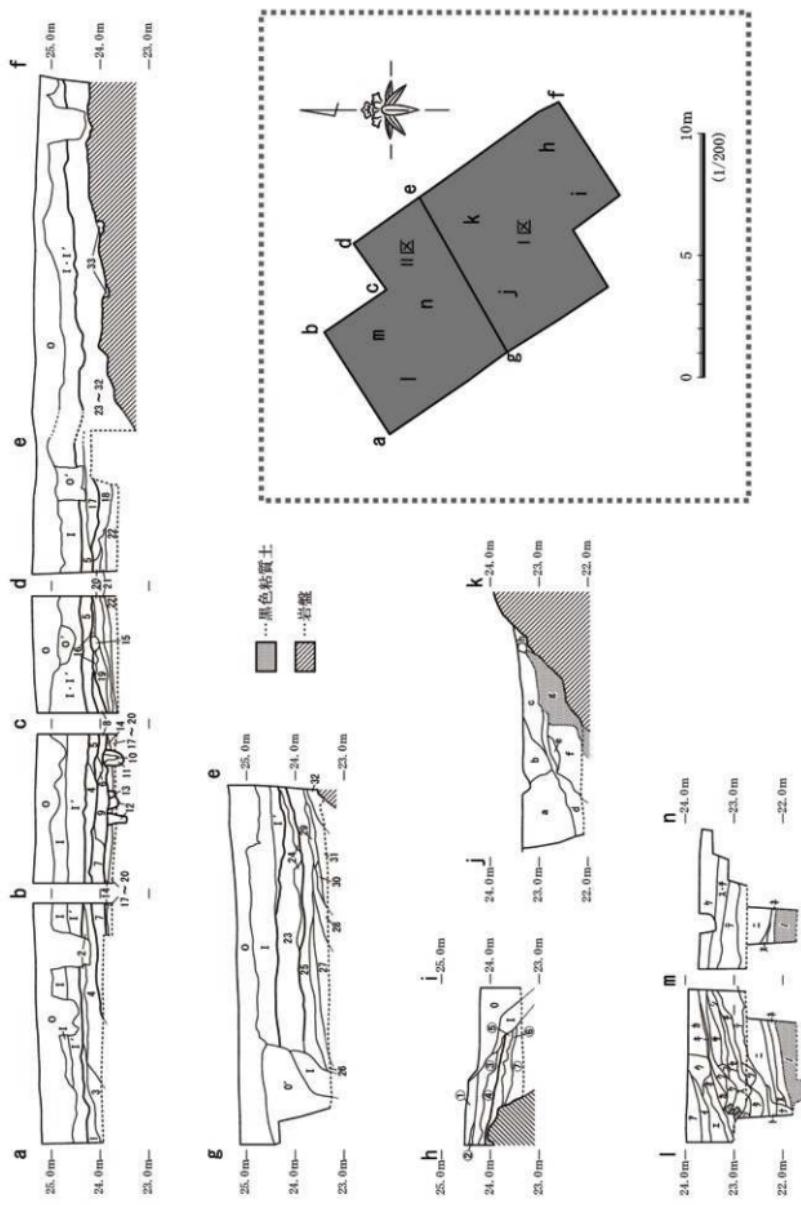


图 3 土層断面図

土層説明（図3に対応）

〈a ~ g〉

- |         |                   |
|---------|-------------------|
| 0 灰褐色土  | 表土。               |
| 0' 灰褐色土 | 現代擾乱。泥岩ブロック多量。    |
| I 灰褐色土  | 砂質土。近世耕作土か。       |
| I' 灰褐色土 | I層をベース土とし、泥岩粒少量。  |
| 1 黄褐色土  | 泥岩ブロックが主体。1面構築土。  |
| 2 暗褐色土  | 泥岩粒少量。炭粒・かわらけ片多量。 |
| 3 黑褐色土  | 泥岩粒多量。            |
| 4 暗黄褐色土 | 泥岩粒多量。            |

1面構築土

- |         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 5 暗褐色土  | 泥岩粒少量。炭粒・かわらけ片多量。                |
| 6 暗黄褐色土 | 泥岩粒多量。                           |
| 7 暗褐色土  | 粘質土。                             |
| 8 暗褐色土  | 泥岩ブロック多量。                        |
| 9 黑色土   | 粘質土。                             |
| 10 暗褐色土 | 泥岩ブロック多量。                        |
| 11 暗褐色土 | 泥岩ブロック多量。                        |
| 12 暗褐色土 | 粘質土。泥岩粒少量。                       |
| 13 暗褐色土 | 泥岩粒少量。                           |
| 14 暗褐色土 | 泥岩粒多量で密度濃い箇所あり。                  |
|         | 3面構築土                            |
| 15 暗褐色土 | 泥岩ブロック多量。                        |
| 16 暗褐色土 | 泥岩粒多量。                           |
| 17 暗褐色土 | 泥岩粒少量。炭粒・かわらけ片多量。<br>= 24層。      |
| 18 暗褐色土 | 泥岩粒・ブロック多量。締まりあり。<br>= 25層。2面構築土 |
| 19 黑褐色土 | 粘質土。泥岩粒多量。                       |
| 20 黑褐色土 | 粘質土。泥岩粒多量。                       |
| 21 黑褐色土 | 粘質土。泥岩粒微量。                       |
| 22 黑色土  | 粘質土。                             |
| 23 暗褐色土 | 泥岩粒・ブロックやや多い。1面構築土               |
| 24 暗褐色土 | 泥岩粒少量。炭粒・かわらけ片多量。                |
| 25 暗褐色土 | 泥岩粒・ブロック多量。締まりあり。                |
|         | 2面構築土                            |
| 26 暗褐色土 | 泥岩粒多量。締まりあり。                     |
| 27 暗褐色土 | 泥岩粒・ブロック多量。締まりあり。                |
| 28 黑褐色土 | 粘質土。泥岩粒・ブロック少量。                  |
| 29 黑褐色土 | 粘質土。泥岩ブロック多量。                    |
| 30 黑褐色土 | 粘質土。29層より泥岩粒多い。                  |
| 31 黒色土  | 強粘質土。泥岩粒少量。                      |
| 32 黒色土  | 強粘質土。崩落岩盤が流入。                    |
| 33 暗褐色土 | 泥岩粒少量。締まりややあり。                   |

〈h~i〉

- |        |                     |
|--------|---------------------|
| ① 暗褐色土 | 泥岩ブロック多量。           |
| ② 暗褐色土 | 泥岩粒少量。              |
| ③ 暗褐色土 | 泥岩ブロック多量。           |
| ④ 暗褐色土 | 泥岩粒少量。              |
| ⑤ 暗褐色土 | 泥岩粒・ブロックやや多い。2面構築土。 |
| ⑥ 黑褐色土 | 泥岩粒少量。              |
| ⑦ 暗褐色土 | 泥岩ブロック多量。           |

〈j~k〉

- |         |                  |
|---------|------------------|
| ア 暗褐色土  | 泥岩粒多量、泥岩ブロック少量。  |
| イ 暗褐色土  | 泥岩ブロック多量。        |
| ウ 暗褐色土  | 泥岩ブロック多量。        |
| エ 暗褐色土  | 泥岩ブロック多量。        |
| オ 黄褐色土  | 泥岩ブロック密。         |
| カ 黑褐色土  | 泥岩粒少量。           |
| キ 黑色土   | 粘質土。             |
| ク 黑褐色土  | 泥岩ブロック多量。        |
| ケ 黑褐色土  | 泥岩ブロック多量。        |
| コ 黑褐色土  | 粘質土。             |
| サ 黑色土   | 粘質土。泥岩粒少量。       |
| シ 黑褐色土  | 泥岩粒多量。           |
| ス 黑色土   | 粘質土。泥岩粒少量。       |
| セ 暗黄褐色土 | 泥岩粒が主体。          |
| タ 黑褐色土  | 粘質土。泥岩粒多量。       |
| チ 黑褐色土  | 泥岩粒多量。           |
| ツ 黄褐色土  | 泥岩粒多量。           |
| テ 黑色土   | 粘質土。泥岩粒多く集中箇所あり。 |
| ト 黑褐色土  | 粘質土。             |
| ナ 黑褐色土  | 粘質土。泥岩ブロック多量。    |
| ニ 黑色土   | 強粘質土。            |
| ヌ 暗青灰色土 | 泥岩粒やや多い。         |
| フ 黑色土   | 粘質土。締まり弱い。       |

〈l ~ n〉

- |        |                   |
|--------|-------------------|
| ア 暗褐色土 | 泥岩ブロック多量。         |
| ブ 暗褐色土 | 泥岩粒・ブロック多量。       |
| シ 黑褐色土 | 泥岩ブロック多量。         |
| ド 黑褐色土 | 泥岩ブロック少量。         |
| エ 黑褐色土 | 泥岩ブロックごく少量。       |
| フ 黑褐色土 | 泥岩ブロック多量。         |
| グ 黑色土  | 粘性あり。手づくねかわらけ片微量。 |
| ヒ 黑色土  | 崩落岩盤が流入。          |

#### 第四章 発見された遺構と遺物

## 第1節 檢出遺構

今回の調査では3枚の中世遺構面を確認したが、各面の整地状況は良好でなく、ここで検出に及んだ遺構も小規模かつ不明瞭なものが多かった。急傾斜地という地形上の制約もあって、簡便な埋め立てを繰り返すだけでは安定した地盤を得ることができなかつた結果、低調な土地利用に留まつたと推察している。以下、上層の遺構面から順に、概要を述べる。

(1) 1面

表土直下の中世遺物包含層上面を1面とした。標高24.15～24.5mで、北西側での確認レベルが低い。調査区の南東側1/3程は大型の泥岩ブロックで埋め立てられた現代の斜面であった。

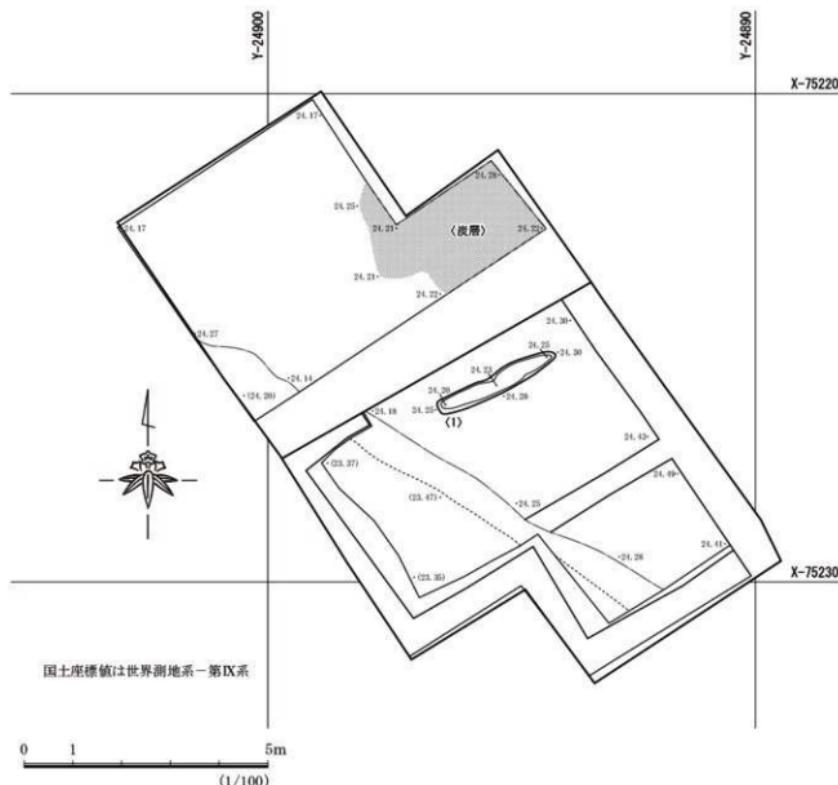


図4 1面全体図

## (2) 2面

標高23.6～24.2m前後で確認し、北西側の検出レベルが低い。

I区の北東部では東西3m以上×南北23m以上の円形状プランをもつ深さ30cmほどの窪みが確認され(遺構2)、南東側の上場縁辺などが焼けて赤く変色していた。埋土は炭化物粒が多く含み、層中からは完形、もしくはそれに近いロクロかわらけが一定量出土している。

I区では他に小規模のピット2基も確認しているが、並ぶ訳でもなく、性格については不明とせざるを得ない。

## (3) 3面

中世遺構面としては最下層に位置する。標高23.4～24.1m前後で確認され、上位遺構面2枚と同様、北西側の検出レベルが最も低い。I区南東部では岩盤の平坦面と西向き斜面が検出され、平坦面の縁辺から斜面部にかけてはピットの他、人工的造作かは定かでないが、階段状の痕跡を確認している。

2基のピット(遺構4・5)はともに一辺60cm弱の方形プランを呈し、相互の中心間距離が約110cmを計測する。遺構4の埋土には柱材の腐食痕と思しき軟質層が見て取れることから、両ピットが柱穴列として並んでいた可能性が考えられる。

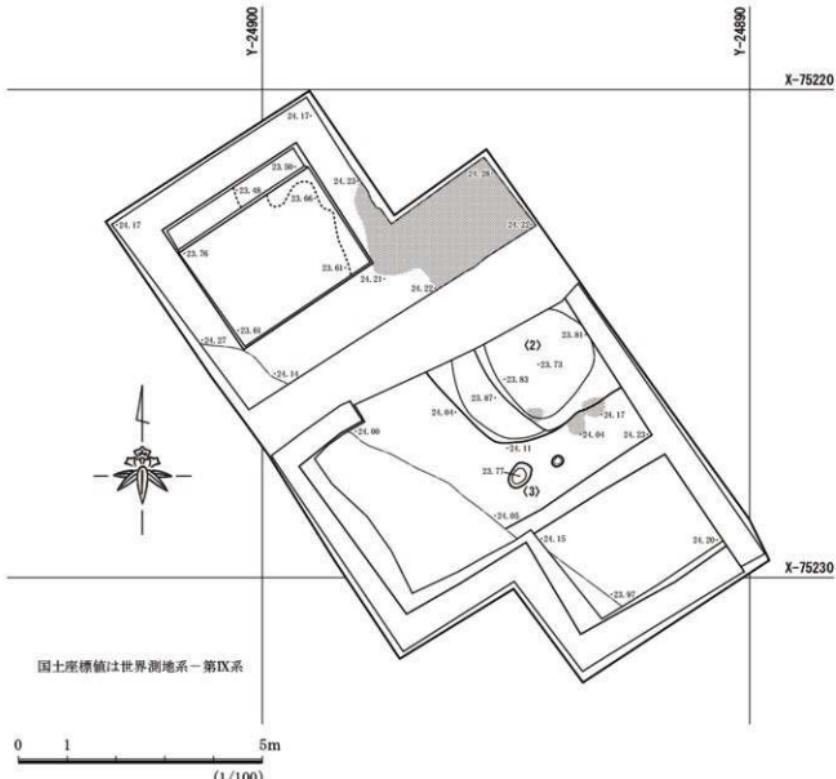


図5 2面全体図

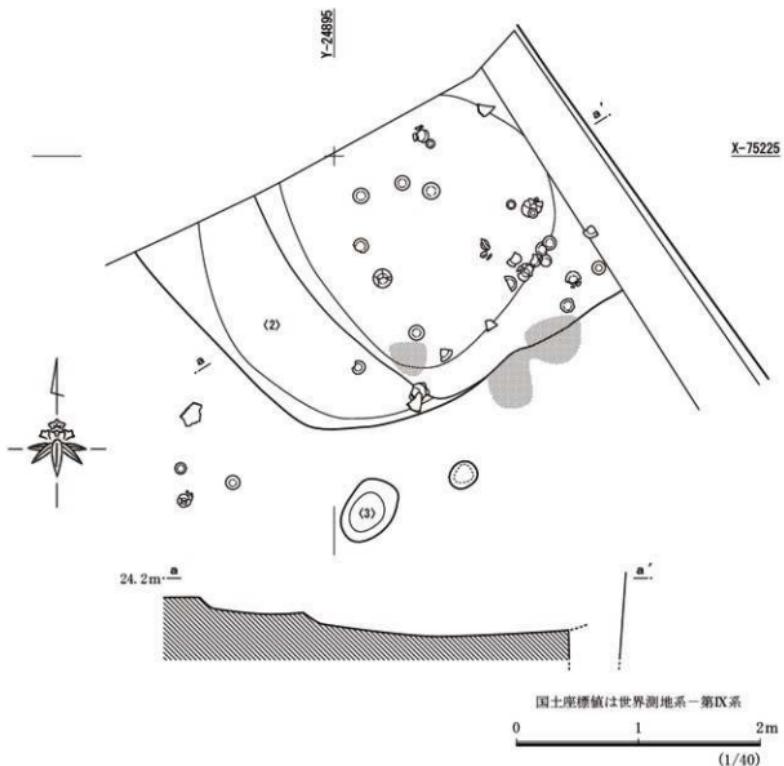


図6 2面遺構2 遺物出土状況

I区北部からII区にかけては岩盤面を確認できず、岩盤上に堆積した黒褐色土を掘り込んだ小規模なピット群が確認された。検出範囲が限定的でもあり、明確なピットの並びは把握できなかった。II区は西半部が斜面地形であり、ピットとして残る何らかの構築物も斜面際までしか展開していなかったか、或いは後世の地滑りなどで失われてしまったという二通りの可能性が考えられる。

斜面部に関しては狭いトレンチ調査に留めたため平面的な広がりは確認できていないが、人頭大程度の泥岩ブロックを法面に沿って積み上げたかのような状況も見受けられた(図3のI-m断面図、図版5-1・2など)。石垣と呼ぶには粗略に過ぎるが、簡易的な土留めであった可能性を示しておきたい。

## 第2節 出土遺物

今回の調査では、中世の土器・陶磁器を中心にコンテナにして22箱分の遺物が出土した。

表2には、層位・遺構ごとの遺物量を示した。「1面下①～⑤」といった表記であれば、基本的には⑤

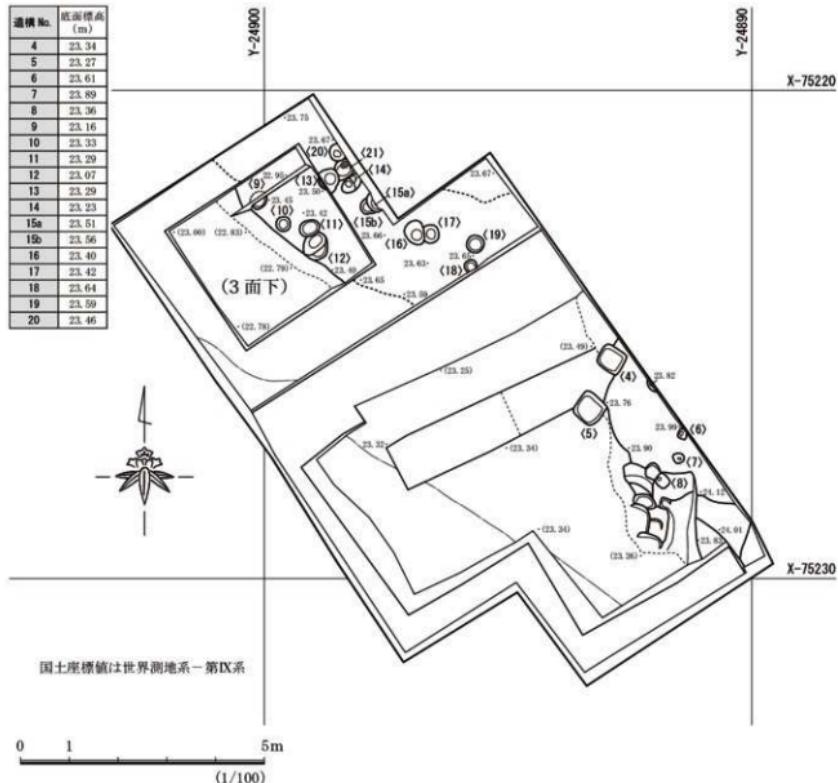


図7 3面全体図(1)

の方が標高の低いところを掘った際に出土したものであることを示すが、本来が斜面堆積のところを水平ベースで掘り広げて調査しているところも多くあり、出土層位を厳密に反映したデータとはなっていない。層位として一定の限定性を担保できるのは、「黒色地山」や「黒色土」に限られる。

こうした調査上の不備は認めつつも、本地点出土の遺物傾向としては次のことがいえる。

1面下 = 中世遺物層含層や2面造構2からの出土かわらけはロクロ成形品で占められ、大・小を主体に少量の中型品を含んでいる。三法量とも身深で強く内湾する器形を呈している。陶磁器類はきわめて少なく、細片資料に限られるので参考にしにくいが、古瀬戸前期様式でも後半以降の鉢皿(図11-44)や常滑6型式の甕(図4-72)があり、13世紀後半以降の資料群と見なすことができる。I区2面下①でもかわらけの主体は身深・内湾基調のロクロ成形品であるが、ここでは「薄手丸深」と呼ばれる胎土・作りとともに精製の中型品が一定量あった(図12-103~106)。これらの出現・確立時期は、13世紀後葉~14世紀前葉に位置付けられている(宗基2005)。

表2で手づくねかわらけの出土量を見ると、2面下②で散見され、2面下③以下では定量的出土傾向

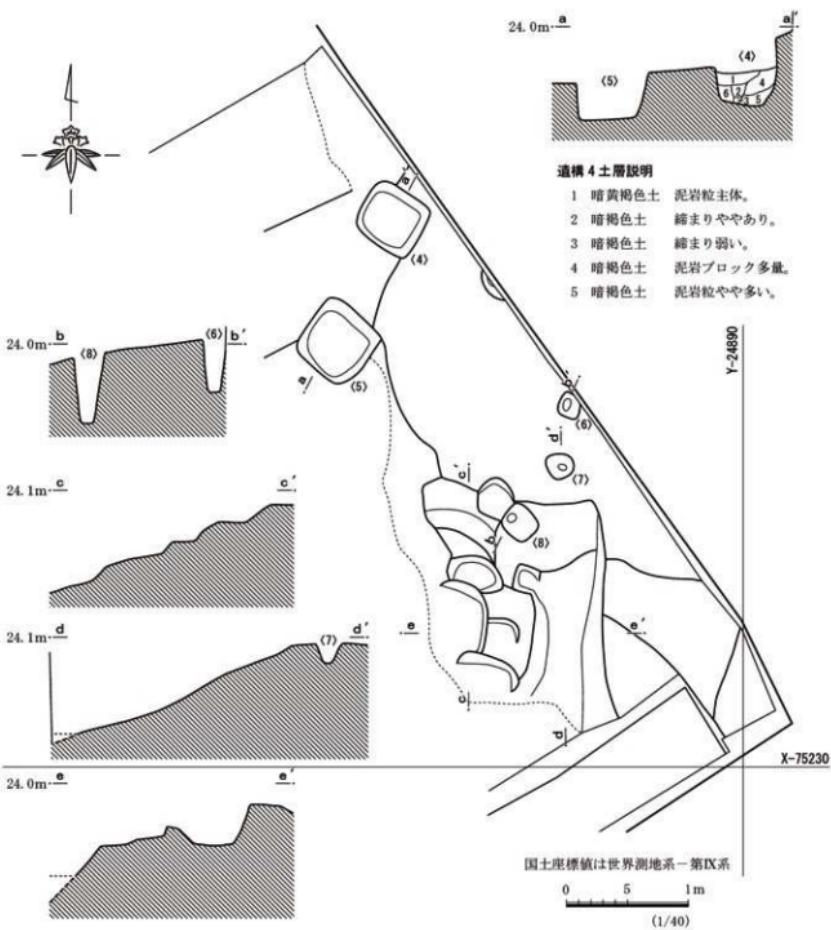


図8 3面 岩盤面の遺構

を示している。前述のように層位の厳密性は担保できないが、2面下③以下で手づくね製品がかわらけの中での構成主体となっていく状況が読み取れる。表2の取り上げ記録には反映されていないが、現地での観察所見として以下のことがいえる。泥岩粒を殆ど含まない黒色土～黒褐色土層(図3-g層など)は岩盤上に堆積する中世基盤層がベースであるが、斜面に流失した二次堆積層と考えている。包含遺物が僅少である中、手づくねかわらけが主体であった。従って、元々手づくねかわらけが使用されていたのは調査地東隣の平場で、本地点で2面が形成される以前には中世基盤層に混入する形で斜面地に流れ込んだのではないだろうか。本地点のI区東端部から東隣地の調査区の大部分にかけては削平岩盤面が

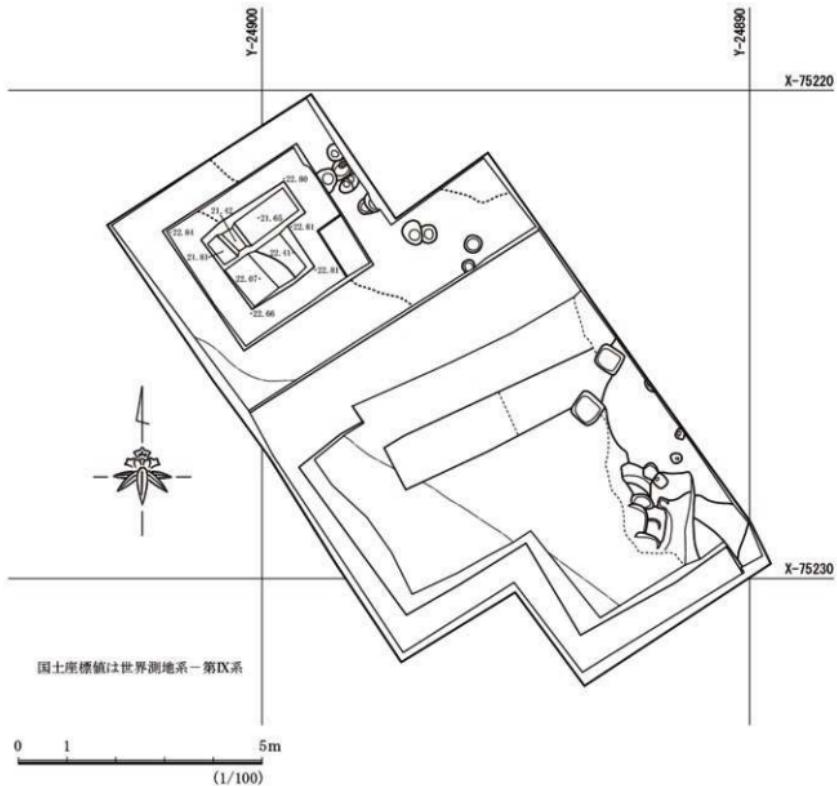


図9 3面全体図(2)

検出されているが、本来この上位に堆積していた筈の中世基盤層は残っておらず、厚さ10～20cm程度で泥岩粒を多く含む暗褐色土層が堆積していた。本地点では、1面構築土の図3-23層や、2面構築土の図3-18・25層などが相当する。本地点では、I区東端部の岩盤面上と、レベル的にはやや低いがII区東部の暗褐色土層(図3-14層)上面を3面とした。手づくねかわらけの出土が目立つのは14層よりも下位(表2-2面下③以下)であることから、岩盤面の削平=3面構築は、同種が消失に向かう時期以降の事象と考えられる。

出土状況の補足説明が長くなつたが、出土した手づくねかわらけは大・小とも器壁が厚く、口端部の面取り状ナデ整形を施さない資料が主体をなす。大皿は図示できた個体数が少ないが(図13-115・125)、やや身深で口径が12cm台後半～13cm台前半に収まる。これらの特徴から、13世紀第2四半期～中葉頃に位置付けられる(宗墓前掲)。

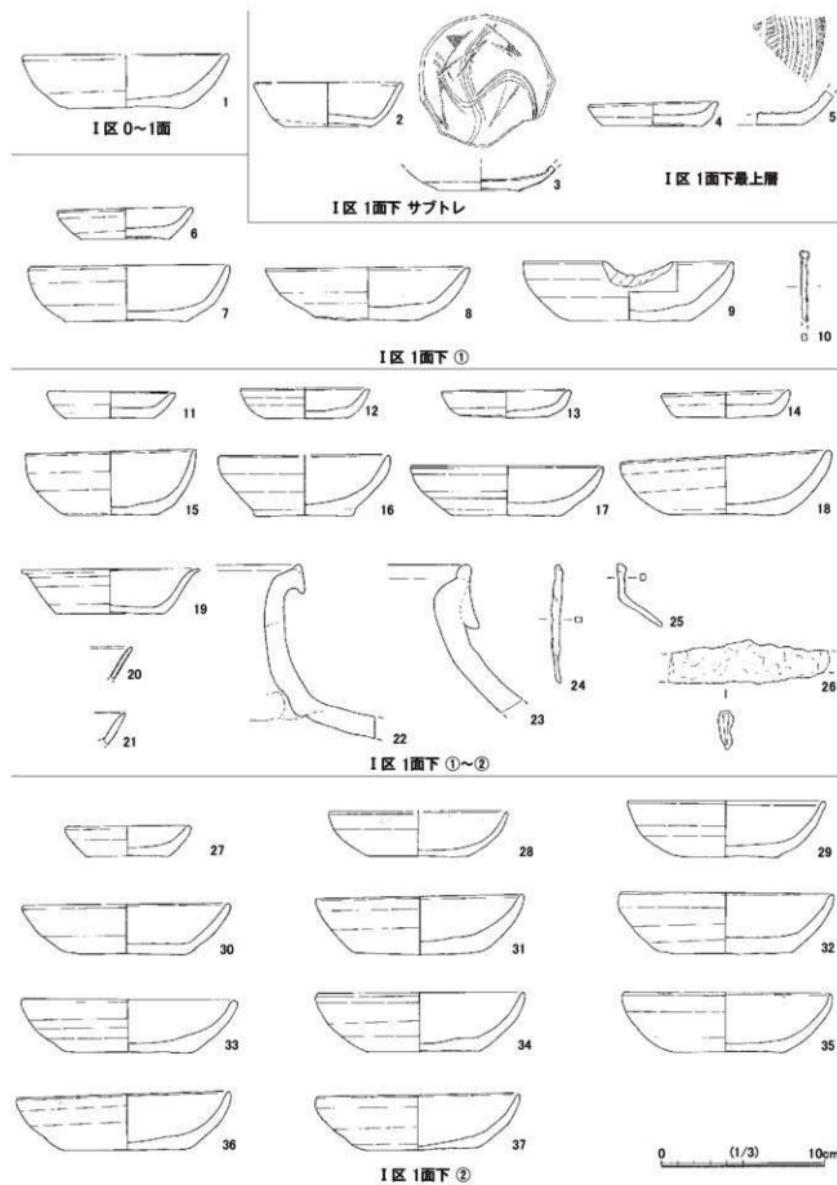
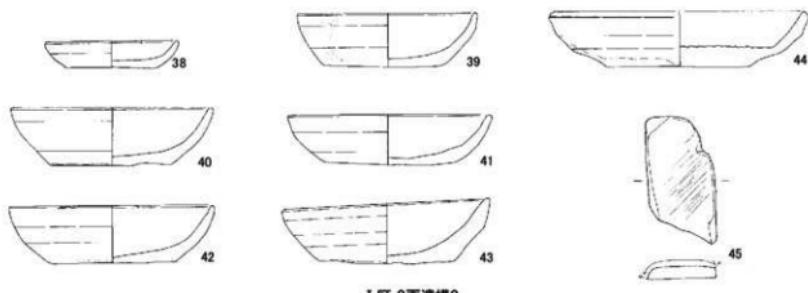
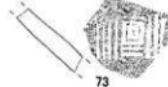
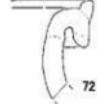
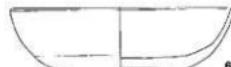
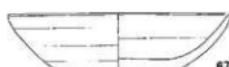
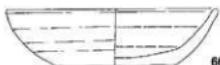
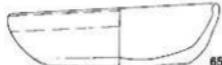
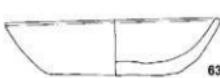
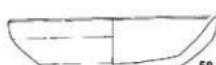
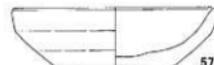
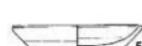
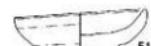
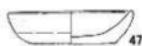


図10 I区出土遺物(1)



I区 2面造構2



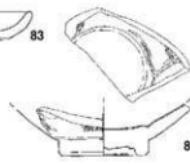
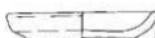
I区 2面造構2 下層

0 (1/3) 10cm

図11 I区出土遺物(2)

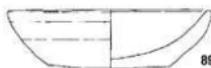
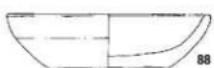


I区2面下③

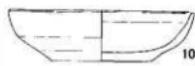
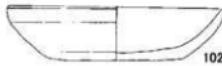
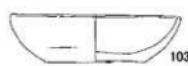


I区2面下④

I区2面下⑤

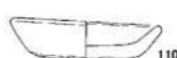
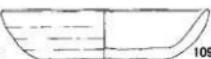


I区2~3面



I区3面上

I区3面下①



I区3面下②

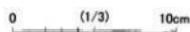


図12 I区出土遺物(3)

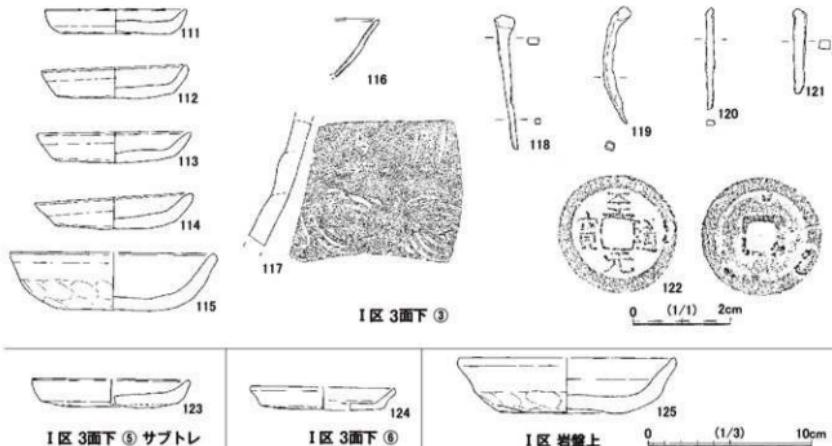


図13 I区出土遺物(4)

## 第五章 調査成果のまとめ

ここまで簡略な説明を進めてきた。調査範囲の大部分が西に向かた斜面地という旧地形であったが、それを面的に再現する調査をできず、結果として遺物の出土層位も精密さを欠いた点は反省している。

前章の第2節ではこうした状況を補うべく、現地での観察所見も提示した。本章では土地利用の状況と年代的位置付けについて整理し、粗略な報告のまとめとしたい。

土地利用の状況について、本来の地形が急な斜面地ということもあり、中世における利用の在り方も活発といえるものではなかった。2面では完形のかわらけを含む炭層の落ち込み(遺構2)を確認し、3面では削平岩盤面とこれにレベルを合わせた埋め土整地面上でピット群を検出したものの、建物等の復元提示には至らなかった。本地点東隣では溝で区画された空間に方2間程度の礎石建物等の存在を想定しているので、生活・土地利用の中心は同地にあったといえよう。3面以前には斜面上に手づくねかわらけを含む黒色土=中世基盤層の流出土が堆積し、上段にあった生活空間から流れ込んだ可能性を考えた。斜面の埋没が一定程度進んだ後、岩盤の削平を伴う3面が整えられ、以後2面→1面へと後続するが、本地点の土地利用は低調な状況が続いた。

前章で述べた土器様相の変化から、3面以前の斜面堆積が13世紀中葉までに進み、3面の整地・利用が13世紀後葉～14世紀初頭頃に、間を置かずして14世紀前葉頃に2面の利用が行われたと想定している。鎌倉幕府滅亡後は、葛西ヶ谷での土地利用が中央支谷など旧来の中心伽藍でも限定されたエリアに集約された可能性を考え、北周縁である本地点での14世紀中葉以降の土地利用を想定しなかった。

なお、本報告の脱稿後、葛西ヶ谷の沿革を考証した下記文献に接した。第一章の説明不足を補う良書である。併せて参照されたい。

田中奈保 2017「葛西谷 滑川と六浦道の交差点」「鎌倉の歴史 谷戸めぐりのスヌ」高橋慎一郎編 高志書院

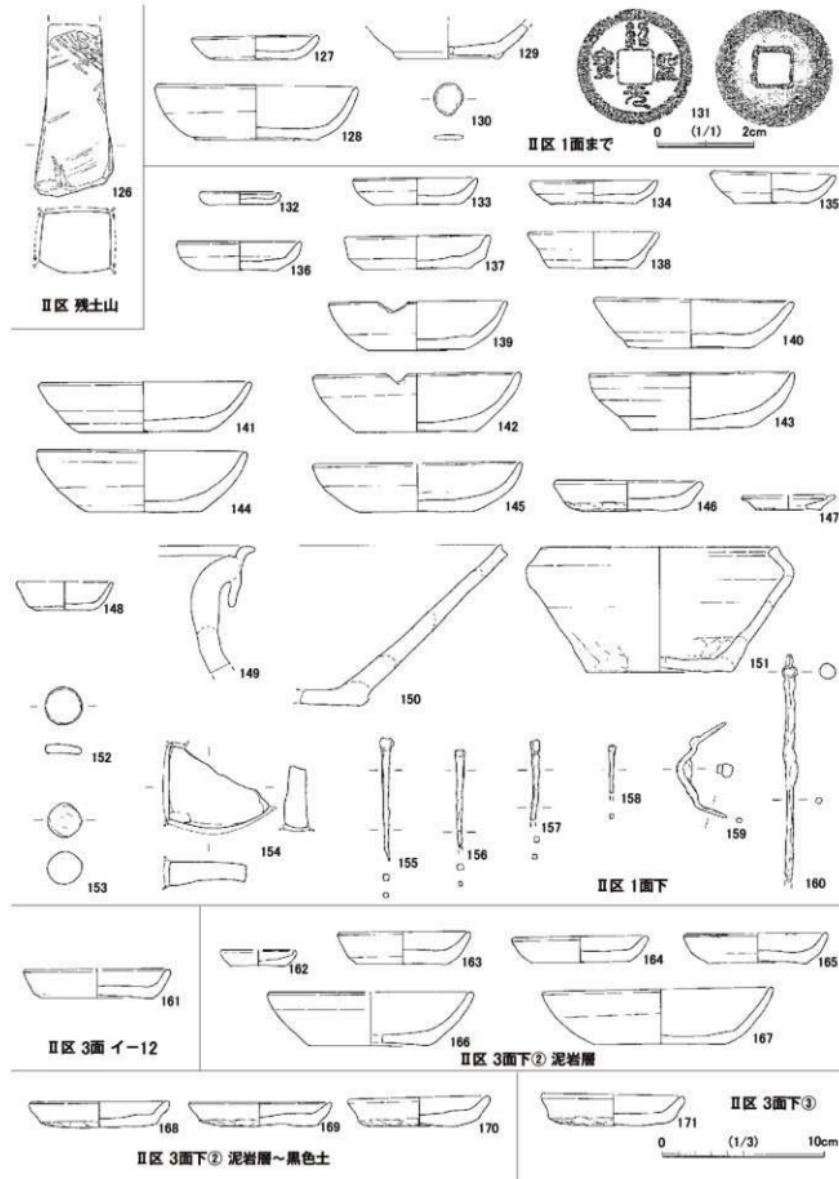


図14 II区出土遺物

表2 出土遺物力カウント・計量表

I区遺構外①

面	通稱 居位	舌口小形						手口小形						舌口大形						手口大形						舌口舌形							
		大 圓形 面	口 クロ 面	中 圓形 面	小 圓形 面																												
優良	優良	2	45°	28°	29°	2	15°	15°	8°	23	6°	124°	63°	3	15°	1	6°	6	54°	1	1°	2°	1	12°	3	3°	1	12°	3	3°			
1面尖 <sup>○</sup>	234°	281°	276°	296°	15°	165°	8°	63°	1	6°	362°	183°	1	4°	1	1°	2°	6°	100°	20°	100°	20°	100°	20°	100°	20°	100°	20°	100°				
2面下 <sup>①</sup>	5	47°	2	63°	12°	164°	1	15°	1	15°	105°	105°	1	105°	105°	1	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°			
2面下 <sup>②</sup>	84°	47°	6	28°	47°	12°	164°	1	15°	114°	155°	21°	19°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°			
2面下 <sup>③</sup>	57°	109°	15°	217°	1	15°	114°	155°	21°	19°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°	105°				
2面下 <sup>④</sup>	5	80°	52°	82°	82°	17°	122°	26°	68°	1	2°	124°	63°	3	15°	1	6°	6	54°	1	1°	2°	1	12°	3	3°	1	12°	3	3°			
3面	4	377°	1	47°	1	2°	122°	26°	68°	1	2°	124°	63°	3	15°	1	6°	6	54°	1	1°	2°	1	12°	3	3°	1	12°	3	3°			
3面下 <sup>①</sup>	83	149°	4	367°	4	128°	2	15°	1	22°	128°	128°	1	128°	128°	1	128°	128°	128°	128°	128°	128°	128°	128°	128°	128°	128°	128°	128°	128°	128°		
3面下 <sup>②</sup>	25°	243°	3	13°	59°	14°	208°	45°	163°	1	15°	114°	24°	346°	1	5°	150°	522°	1	15°	1	5°	1	12°	3	3°	1	12°	3	3°			
3面下 <sup>③</sup>	207°	234°	26°	106°	87°	137°	2	11°	16°	137°	1	15°	114°	24°	346°	1	5°	150°	522°	1	15°	1	5°	1	12°	3	3°	1	12°	3	3°		
背側牙唇面	11	83°	4	13°	6	59°	1	12°	47°	44°	6°	59°	1	12°	1	10°	29°	66°	1	10°	1	10°	1	12°	3	3°	1	12°	3	3°			
3面下 <sup>④</sup>	14	125°	3	53°	1	6°	6°	59°	1	12°	1	12°	1	12°	1	10°	29°	66°	1	10°	1	10°	1	12°	3	3°	1	12°	3	3°			
3面下 <sup>⑤</sup>	黑色土	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
3面下 <sup>⑥</sup>	金屬	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
3面下 <sup>⑦</sup>	金屬	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
小計		694	9777	4	367°	376	4602	1	15°	348	1692	136	14537	2	11	2014	7577	2	19°	10	74	1	7	4	13	1	12	3	3°	1	12°	3	3°

I 区遺構外②

面	透視 方位	圓錐-圓柱			片口林			圓錐-圓柱			片口林			上凹			瓦圓			黑鐵瓦圓			瓦質土沿				
		鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)		
後瓦	後瓦	5	679	20	779	1	264	1	7	10	684	9	304	1	59	1	8	1	7	1	5	1	28				
1面表 <sup>一</sup>	1面下 <sup>一</sup>	1	35	8	92	6552	1	264																27			
2面下 <sup>①</sup>																									1	205	
2面下 <sup>②</sup>									1	77							1	65									
2面下 <sup>③</sup>									4	264																	
2面下 <sup>④</sup>																											
3面										1	45																
3面下 <sup>①</sup>										1	57																
3面下 <sup>②</sup>										3	113																
3面下 <sup>③</sup>										1	170																
3面下 <sup>④</sup>										6	380							1	43								
3面下 <sup>⑤</sup>										2	79								3	180							
サブトレ		1	82							1	102																
黑色土																											
泥炭苔上																											
小計		8	2667	1	8	131	8418	1	264	1	7	11	609	14	682	2	69	1	8	1	7	1	7	2	65	1	205
面	透視 方位	鋼鐵品			銅製品-純淨			石製品			鐵製品-純淨			銅製品			鐵製品			近代磁器			近代磁器				
後瓦	後瓦	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)	鏡	鏡片數 (枚)	鏡片總 厚度 (mm)		
1面表 <sup>一</sup>	1面下 <sup>一</sup>	1	2		1	45	4	34	1	36	1	19	1	62	1	13	1	5	1	2	1	57	1	16	3		
1面下 <sup>①</sup>		1	3		1	45	1	4																			
2面下 <sup>①</sup>																											
2面下 <sup>②</sup>																											
2面下 <sup>③</sup>																											
3面																											
3面下 <sup>①</sup>																											
3面下 <sup>②</sup>																											
3面下 <sup>③</sup>																											
3面下 <sup>④</sup>																											
サブトレ																											
黑色土																											
泥炭苔上																											
小計		2	5	1	45	14	118	1	36	2	76	1	69	1	19	1	6	1	2	10	57	1	16	6	1	205	

## II 区通横外(1)

50×50cm													
面	地塊 層位	口クロ			手づく石			内側石			軸用石		
		大 幅 組片數 (G)	小 幅 組片數 (G)	内側石 幅 組片數 (G)	大 幅 組片數 (G)	小 幅 組片數 (G)	内側石 幅 組片數 (G)	幅 組片數 (G)	厚 度 組片數 (G)	幅 組片數 (G)	厚 度 組片數 (G)	幅 組片數 (G)	厚 度 組片數 (G)
表土	表土	58	679	8	62								
1面下	泥岩～黒色土	252	2859	33	226			1	8	1	7		
2面下	泥岩～黒色土	1863	30867	248	2730	3	15	41	527	8	120	0	0
3面下	泥岩層	4	37			9	82	20	341			1	4
4面下	泥岩層	529	2003	62	758	1	5	66	895	17	274	1	4
5面下	黑色細山												
6面下	黑色細山	1	14					11	68	3	13		
7面下	黒引	2707	3864	351	3876	4	20	128	1600	50	790	1	4
<b>小計</b>												3831	45905

50×50cm													
面	地塊 層位	青白岩			青白岩			青白岩			青白岩		
		幅 組片數 (G)	幅 組片數 (G)	合子石									
表土	表土	1	4					1	4				
1面下	泥岩～黒色土	1	17	1	4			1	27	1	7	1	7
2面下	泥岩～黒色土	4	71					1	22	3	37	4	33
3面下	泥岩層	3	18		2	9	2	65	1	12			
4面下	黑色細山												
5面下	黑色細山												
6面下	黒引												
<b>小計</b>												9	110

50×50cm													
面	地塊 層位	口光面			口光面			内側・面			内側・面		
		幅 組片數 (G)	幅 組片數 (G)	合子石									
表土	表土	1	4					1	4				
1面下	泥岩～黒色土	1	17	1	4			1	27	1	7	1	7
2面下	泥岩～黒色土	4	71					1	22	3	37	4	33
3面下	泥岩層	3	18		2	9	2	65	1	12			
4面下	黑色細山												
5面下	黑色細山												
6面下	黒引												
<b>小計</b>												9	110

## II 区道標外(2)

面	道標 附近	瓦		灰口瓦		山茶碗		小瓦		片口砖		片口磚		圓頭		青磚系土器		瓦質土器		陶製品		鉢		瓶		瓶製品・瓶淨			
		板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤		
表土	表土	14	664							2	34																		
1面下		29	27.32	1	42	1	29		2	25	1	35		1	119							2	72	1	3	2	7	1	27
1面下	泥岩~黑色土	141	65.88	1	21			1	10	23	227	7	364	3	144							8	384			25	157	6	681
2面下	頁岩層	1	56																										
2面下	黑色土	31	16.53	1	180						10	273																	
3面下	黑色土																												
3面下	黑色土																												
3面下	黑褐色土																												
小計		216	1599	3	243	1	29	1	10	37	1659	8	419	3	144	1	119	1	4	13	737	1	3	32	794	10	791	1	11

面	道標 附近	石器・石打製品		砾石		鐵		滑石塊		滑石塊		地田		圓材等		土器器		燒		不規則器		灰管					
		板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤	板片形	瓦盤				
表土	表土	1	2			1	5		1	10	4	250										1	3	2	6		
1面下	泥岩~黑色土																										
2面下	泥岩層			1	3						2	66		1	1											2	
2面下	黑色土																										
3面下	黑色土																										
3面下	黑褐色土																										
小計		1	2	1	3	1	5	1	10	6	216	1	1	1	16	2	19	1	3	10							



出土地不明

面	遺物 部位	手心向外			手心向内			小片			口类器 (X面)			柄			合子施			蛋白施			蛋白施 文觸			能免當水者施			
		大	小	大	小	直面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	底面	
—	西土山	37	575	4	65	3	27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	西土山	45	568	7	39	14	17/19	5	167	20	73	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
不明		82	1449	11	124	17	206	5	167	33	113	1	9	2	7	2	5	1	7	1	12	1	5						
<b>小計</b>																													

面	遺物 部位	尾部·腹面			尾部·背部			近代器物			鋼製品			
		變	變	直面	直面	直面	直面	直面	直面	直面	直面	直面	直面	
—	西土山	1	40	3	237	1	15	2	62	—	1	47	—	
不明		1	66	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
<b>小計</b>		<b>1</b>	<b>40</b>	<b>4</b>	<b>303</b>	<b>1</b>	<b>15</b>	<b>2</b>	<b>62</b>	<b>1</b>	<b>47</b>	<b>1</b>	<b>4</b>	

表3 出土遺物観察表

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	重量 (g)	内底面調査		外底面圧痕 板状	スコボ	色調	出土遺物・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			ナデ	ササラ状				
I 区出土遺物(1)(図10)													
1	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	7.2	3.3	2/3		○		○		橙	白鉢 混つまい
2	磁器	白磁 口充里	(9.0)	5.3	2.7	口小～ 底完存						灰白 半透明	大宰府直類
3	磁器	同安窯系青磁 皿	—	5.0	[1.5]	底完存						明青灰 半透明	大宰府直類
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.1	1.5	ほぼ完形	55.0	○		○		橙	白鉢
5	陶器	撇口 鉢	—	—	[2.1]	底部片						明灰	
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.5	2.0	3/4		○		○		黄橙	白鉢
7	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	7.6	3.5	2/3		○				橙	白鉢
8	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	6.6	3.2	4/5		○		○		黄橙	白鉢 内底面黒色に変色、墨か？ 口縁部走み
9	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.0	3.6	ほぼ完形	201.0	○		○		黄橙	白鉢 口縁部打ち欠き
10	鉄製品	釘	長さ [4.3]	幅 0.5	厚さ 0.5	下端欠損	[28]					—	
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.4	1.6	5/6		○		○		橙	白鉢
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.6	1.8	3/4		○		○		黄橙	白鉢
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.4	1.7	5/6		○				黄橙	白鉢
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.0	1.6	4/5		○				黄橙	白鉢
15	土器	ロクロ かわらけ・中	10.4	6.0	3.9	3/4		○		○		黄橙	白鉢
16	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.4)	6.0	3.7	2/3		○		○		橙	白鉢
17	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	6.8	3.1	1/2		○				橙	白鉢
18	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	7.8	3.6	3/4		○		○		黄橙	白鉢
19	磁器	白磁 口充里	(10.8)	(6.6)	2.7	1/3						灰白 半透明	大宰府直類 外底面施釉
20	磁器	白磁 口充里	—	—	[2.0]	口小片						灰白 半透明	大宰府直類
21	磁器	白磁 口充里	—	—	[2.0]	口小片						灰白 半透明	大宰府直類 貫入あり 口唇部露胎部 黒色に変色
22	陶器	常滑 壺	—	—	[10.8]	口小片						褐	6a型式 白色粒・黒色粒 (広口壺 の可能性)
23	陶器	常滑 壺	—	—	[9.1]	口小片						褐	6b-7型式長石粒・石英粒
24	鉄製品	釘	長さ 7.3	幅 0.4	厚さ 0.3	完形	4.0					—	
25	鉄製品	釘	長さ 4.9	幅 0.5	厚さ 0.3	完形	4.0					—	
26	鉄製品	刀子	長さ [1.8]	幅 [0.8]	厚さ 0.3~0.4	両端欠損	[41.0]					—	
27	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.1	1.9	完形	59.0	○		○		黄橙	白鉢
28	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.9)	6.2	2.7	3/4		○				黄橙	白鉢 口縁部爆付着
29	土器	ロクロ かわらけ・大	11.9	6.4	3.4	4/5		○		○		橙	白鉢
30	土器	ロクロ かわらけ・大	12.6	7.4	3.6	完形	164.0	○				黄橙	白鉢、砂質
31	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	7.8	3.6	ほぼ完形	198.0	○		○		黄橙	白鉢
32	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.2	3.6	4/5		○		○		黄橙	白鉢
33	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	8.0	3.2	完形	221.0	○		○		橙	白鉢 内底面粘土塊貼り付け
34	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	7.4	3.6	完形	206.0	○		○		橙	白鉢
35	土器	ロクロ かわらけ・大	12.6	7.4	3.7	4/5		○		○		砂質	口縁部爆付着

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	重量(g)	内底面調整 ナデ サササ型	外底面圧痕 板状 スノコ状	色調	出土遺物・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
36	土器	ロクロ かわらけ・大	131	8.0	3.7	4/5		○	○	黄橙	白針 口縁部保付着
37	土器	ロクロ かわらけ・大	124	7.1	3.5	ほぼ完形	152.0	○	○	棕	白針、砂質
1区出土遺物(2)(図11)											
38	土器	ロクロ かわらけ・小	80	5.6	1.7	完形	520	○	○	黄橙	◆2面造橋2 白針 口縁部保付着
39	土器	ロクロ かわらけ・中	108	7.6	3.3	3/5		○		黄橙	◆2面造橋2 白針 外表面及び内底面黒色に変色
40	土器	ロクロ かわらけ・大	123	7.4	3.5	4/5		○		黄橙	◆2面造橋2 白針
41	土器	ロクロ かわらけ・大	124	8.2	3.1	4/5		○	○	棕	◆2面造橋2 白針
42	土器	ロクロ かわらけ・大	(124)	(8.0)	3.5	1/2		○	○	棕	◆2面造橋2 口針 口縁部保付着
43	土器	ロクロ かわらけ・大	126	8.4	3.7	4/5		○	○	黄橙	◆2面造橋2 白針
44	陶器	瓶 瓶足	(15.4)	(8.8)	3.4	1/3				明灰黄	◆2面造橋2 前部稍か 狹質 外面ハケ状工具によるナマ痕 仄輪縦毛塗り
45	陶器	常滑 転用瓶器具	長さ 幅 厚さ	68	4.2	0.7	完形	36.0		灰	◆2面造橋2 片口鉢 1頭類部片を転用 長石粒・石英粒
46	土器	ロクロ かわらけ・小	75	5.4	1.9	完形	500	○	○	棕	◆2面造橋2 下層 白針
47	土器	ロクロ かわらけ・小	76	5.6	2.0	完形	620	○	○	灰黄	◆2面造橋2 下層 白針 口縁・体部黒色に変色
48	土器	ロクロ かわらけ・小	76	4.8	1.7	完形	490	○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針
49	土器	ロクロ かわらけ・小	79	4.8	2.1	2/3		○		黄橙	◆2面造橋2 下層 白針
50	土器	ロクロ かわらけ・小	76	5.2	1.8	3/4		○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針
51	土器	ロクロ かわらけ・小	80	4.4	2.3	5/6		○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針
52	土器	ロクロ かわらけ・小	(74)	5.6	1.6	3/4		○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針
53	土器	ロクロ かわらけ・小	74	5.4	1.9	完形	560	○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針
54	土器	ロクロ かわらけ・小	78	5.4	1.5	完形	330	○	○	棕	◆2面造橋2 下層 白針 滾作引で シャープ(手) 口縁部淡黒色に変色
55	土器	ロクロ かわらけ・大	(115)	7.8	2.9	1/3		○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針 体部外側の一部へラブリ状
56	土器	ロクロ かわらけ・大	123	8.0	2.9	ほぼ完形	172.0	○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針
57	土器	ロクロ かわらけ・大	(123)	7.2	3.6	4/5		○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針
58	土器	ロクロ かわらけ・大	128	7.6	3.4	4/5		○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針
59	土器	ロクロ かわらけ・大	(136)	7.6	3.5	4/5		○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針 脊部歪みあり
60	土器	ロクロ かわらけ・大	126	8.5	3.3	完形	178.0	○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層
61	土器	ロクロ かわらけ・大	124	7.4	3.6	3/4		○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針 内外面淡黒色に変色
62	土器	ロクロ かわらけ・大	126	8.5	3.2	4/5		○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針 内外面淡黒色に変色
63	土器	ロクロ かわらけ・大	130	8.2	3.4	5/6		○	○	黄灰	◆2面造橋2 下層 白針
64	土器	ロクロ かわらけ・大	124	7.6	3.3	ほぼ完形	190.0	○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針
65	土器	ロクロ かわらけ・大	126	9.1	4.0	5/6		○	○	黄橙	◆2面造橋2 下層 白針 脊部歪み著者
66	土器	ロクロ かわらけ・大	129	7.4	3.6	1.5/6～ 底残存		○	○	棕	◆2面造橋2 下層 砂質
67	土器	ロクロ かわらけ・大	136	7.6	3.5	ほぼ完形	180.0	○	○	棕	◆2面造橋2 下層 白針 薄手丸深
68	土器	ロクロ かわらけ・大	136	7.8	3.9	ほぼ完形	177.0	○	○	棕	◆2面造橋2 下層 白針、砂質強 滾手丸深
69	土器	ロクロ かわらけ・大	131	7.8	3.7	3/4		○	○	棕	◆2面造橋2 下層 白針 滾手丸深
70	磁器	青白磁 水滴	—	(32)	22.5	胸1/3～ 底1/6				白 透明	◆2面造橋2 下層 ロクロ型打成形 銀刷草花文

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	重量 (g)	内底面調査		外底面圧痕 板状・スコボ	色調	出土遺物・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			ナデ	ササラ状			
71	磁器	龍泉窯系青磁 折縁皿(片)	(12.3)	—	[3.1]	1/8				灰オリーブ	◆2面道構2下層 半透明 片茎類	
72	陶器	常滑 甕	—	—	16.0	口小片				灰	◆2面道構2下層 6a~6b型式 長石粒	
73	陶器	常滑 甕	—	—	[3.9]	肩小片				灰	◆2面道構2下層	

1区出土遺物(3)(図12)

74	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.5	1.8	2/3	○	○	○	橙	白封	
75	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.3)	6.0	2.8	2/3	○	○	○	橙	白封、砂質 薄手丸澤	
76	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.0	3.0	2/3	○	○	○	橙	白封	
77	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.9)	8.0	3.2	2/3	○	○	○	橙	白封	
78	土器	ロクロ かわらけ・小	(5.5)	4.0	1.1	2/5	○	○	○	橙	白封	
79	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.7	1.6	2/3	○	○	○	橙	白封	
80	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	6.3	1.7	3/5	○	○	○	橙	白封	
81	磁器	同安窯系青磁 皿	(9.8)	(4.8)	1.9	1/6				淡灰 透明	大宰府I類 口縁部刷毛打痕 露外部 淡黒色に変色	
82	鉄製品	板状製品	長さ (7.5)	幅 5.4	厚さ 0.4	両端欠損	[37.8]			—		
83	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	6.5	1.7	2/3	○	○	○	橙	白封、砂質	
84	磁器	同安窯系青磁 斜文花瓶	—	5.2	[3.1]	底1/2				灰緑 透明	大宰府I類	
85	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.4	1.8	4/5	○	○	○	淡黄橙	白封	
86	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	(7.0)	3.2	1/3	○			橙	白封 口縁部刷毛着 器面剥落	
87	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(8.0)	2.9	1/5	○			黄橙	白封	
88	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	7.6	3.3	4/5	○	○	○	黄橙	白封 89とほぼ同法量	
89	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	7.4	3.5	ほぼ完形	201.0	○		黄橙	白封 88とほぼ同法量	
90	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(8.0)	3.7	1/2	○	○	○	橙	白封	
91	土器	ロクロ かわらけ・内折	(5.4)	(3.8)	0.9	1/4	○			黄橙白	白かわらけ	
92	磁器	白磁 皿	—	—	11.8	口小片				淡青灰 半透明		
93	磁器	白磁 口壺皿	—	—	[2.0]	口小片				灰白 半透明		
94	磁器	白磁 口壺皿	—	(6.8)	[0.8]	底1/4				淡灰リープ 半透明	大宰府II類 外底面も施釉	
95	磁器	白磁 口壺印花皿	—	—	[1.7]	口小片				淡青白 半透明		
96	舶載陶器	泉州窯系 青釉盤	—	—	12.8	口小片				綠灰	軟質	
97	陶器	常滑 甕	—	—	[5.5]	口小片				暗褐	6a型式 白色絞・黒色粒	
98	石製品	礎	長さ [8.2]	幅 [3.7]	厚さ 1.3	不明	[62.0]			暗灰	鳴海礎(若王子石) 方硯芸形鏡 水 溝座(筆舟も含む)	
99	石製品	仕上砥	長さ [3.0]	幅 3.2	厚さ 0.6	片端欠損	[124.0]			明灰黄	鳴海 仕上砥	
100	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.1	1.7	ほぼ完形	48.0	○	○	橙	白封	
101	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.1	3.5	2/3	○	○	○	橙	白封 内面刷毛着	
102	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	8.2	3.4	完形	181.0	○	○	橙	白封	
103	土器	ロクロ かわらけ・中	10.3	6.2	3.0	2/3	○	○	○	橙	口縁部刷毛着 薄手丸澤	
104	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	6.2	2.8	3/4	○	○	○	橙	口縁部刷毛着 薄手丸澤	
105	土器	ロクロ かわらけ・中	11.2	6.2	3.2	ほぼ完形	112.0	○		橙	口縁部刷毛着 薄手丸澤	

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	重量(g)	内底面調整		外底面圧痕	色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			ナデ	ササラ型			
106	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	6.0	3.1	2/3		○	○		橙	口縁部留付着 薄手丸底
107	鉄製品	釘	長さ [5.4]	幅 0.6	厚さ 0.4	下端欠損	[28.]				一	
108	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.8	2.2	4/5		○			黄橙	白針
109	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	8.0	3.0	4/5		○	○		黄橙	白針
110	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	2.3	4/5		○			灰黄	白針

I区出土遺物(4)(図13)

111	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	6.8	1.5	ほぼ完形	58.0	○	○		赤橙	白針
112	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	1.8	5/6		○			黄橙	白針
113	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	1.8	5/6		○			黄橙	白針
114	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	—	1.9	完形	77.0	○			橙	白針 器形彫刻有
115	土器	手づくね かわらけ・大	(12.6)	—	3.5	2/3		○			黄橙	白針
116	磁器	白磁 口先輪	—	—	[3.5]	口小片					灰白 半透明	大宰府B類
117	陶器	常滑 裏窯	—	—	[7.5]	胴小片					青	
118	鉄製品	釘	長さ 8.4	幅 0.4～ 0.7	厚さ 0.3～ 0.4	完形	9.0				—	
119	鉄製品	釘	長さ 7.7	幅 0.5	厚さ 0.3	完形	8.0				—	
120	鉄製品	釘	長さ 6.3	幅 0.6	厚さ 0.3	完形	5.0				—	
121	鉄製品	釘	長さ 5.1	幅 0.6	厚さ 0.5	完形	6.0				—	
122	銅製品	錢	直徑 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形	2.6				—	至道元寶(真書) 中国北宋代 995年初鑄
123	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(8.2)	1.7	1/2		○	○		赤橙	白針 外底面に別の板状粘土が貼り付く
124	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.4	1/3		○			黄橙	白針 口縁部取扱 滾作り
125	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	3.4	2/3		○			橙	白針 黏土板結合法成形 外底模状压痕 内底面淡黒色に変色

残土山・II区出土遺物(図14)

126	石製品	中砥	長さ [10.7]	幅 4.8	厚さ 3.8	片端欠損	[309.0]				明灰	上野 中砥
127	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.0	1.5	2/3		○	○		橙	白針
128	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	7.6	3.5	2/3		○	○		橙	白針
129	陶器	尾張蟹 山茶楓	—	(6.0)	[2.1]	底1/4					明灰	長石粒
130	石製品	碁石	長さ 20	幅 1.8	厚さ 0.3	完形	2.1				黑	
131	銅製品	錢	直徑 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形	2.9				—	紹聖元寶(真書) 中国北宋代 1094年初鑄
132	土器	ロクロ かわらけ・内折	4.7	3.8	1.8	1/2		○	○		黄橙	
133	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.3	1.6	ほぼ完形	60.0	○	○		黄橙	白針
134	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.3	1.4	完形	49.0	○	○		黄灰	白針
135	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.6	2.0	3/4		○	○		橙	白針
136	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.6	1.8	ほぼ完形	60.0	○	○		黄橙	白針
137	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	6.7	2.1	4/5		○			橙	白針
138	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	5.5	2.3	2/3		○	○		黄橙	白針
139	土器	ロクロ かわらけ・中	10.9	6.0	3.1	4/5		○	○		黄橙	白針 口縁部打ち込み

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調査 ナデ ササラ状	外底面圧痕 板状 スコボ	色調	出土遺構、 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
140	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	7.9	3.2	3/4	○	○	○	橙	白針、砂質 内面淡黒色に変色
141	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.3	3.1	3/4	○	○	○	橙	白針、砂質
142	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	7.3	3.7	完形	2120	○	○	黄橙	白針 口縁部打ち欠き 口縁部縦付着
143	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	7.4	3.5	3/4	○	○	○	黄橙	白針
144	土器	ロクロ かわらけ・大	12.9	7.5	3.9	2/3	○	○	○	橙	白針
145	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	7.0	3.0	3/5	○	○	○	橙	白針 口縁部内面淡黒色に変色
146	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	1.9	2/3	○			橙	白針
147	土器	ロクロ かわらけ・小	(5.6)	(4.0)	0.9	1/4				白	白かわらけ 内折れ
148	陶器	撇口 入子	(5.8)	(3.6)	1.8	111/6 ~ 底1/3				明灰	白色粒・黑色粒
149	陶器	常滑 裏	—	—	17刻	口小片				褐	6b型式 長右粒
150	陶器	常滑 片口跡付	—	—	9.9	11 ~ 底部片				褐	6b ~ 7型式 長右粒
151	陶器	常滑 片口(無頭壺)	(14.8)	(8.8)	7.7	1/6				褐	長右粒
152	土製品	円盤	長さ 22	幅 22	厚さ 0.5	完形	36			橙	土師質土器片を転用 白針
153	陶器	陶丸	長さ 21	幅 21	厚さ 2.0	完形	10.1			灰白	陶器片を転用 白色粒
154	陶器	常滑 軸用研磨具	長さ 50	幅 62	厚さ 1.4	完形	43.0			明灰	片口跡I類片を転用 長右粒
155	鉄製品	釘	長さ 7.6	幅 0.8	厚さ 0.6	完形	6.0			—	
156	鉄製品	釘	長さ [6.1]	幅 0.6	厚さ 0.4	下端欠損	[2.9]			—	
157	鉄製品	釘	長さ [4.9]	幅 0.5	厚さ 0.7	下端欠損	[2.8]			—	
158	鉄製品	釘	長さ [3.0]	幅 0.5	厚さ 0.3	下端欠損	[0.7]			—	
159	鉄製品	鑑?	長さ 8.5	幅 0.1 ~ 0.5	厚さ 0.1 ~ 0.3	完形	6.5			—	
160	鉄製品	棒状具	長さ [14.1]	幅 0.4/0.9	厚さ 0.4/0.9	下端欠損	[13.1]			—	棒状
161	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.2)	1.8	1/2	○	○	○	黄橙	◆3面造構 12 (Pt) 白針
162	土器	ロクロ かわらけ・内折	(4.6)	(3.4)	1.0	1/4	○	○	○	橙	体部外面の一部ヘラ削り状
163	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.8	2.1	3/4	○	○	○	黄橙	砂質
164	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.2	1.7	完形	61.0	○	○	橙	白針、砂質 口縁部縦付着
165	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	6.2	1.9	3/4	○	○	○	黄橙	白針 口縁部縦付着
166	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(7.2)	3.3	1/3	○			橙	
167	土器	ロクロ かわらけ・大	14.0	8.2	3.5	5/6	○	○	○	黄橙	薄手丸深
168	土器	手づくね かわらけ・小	8.5	—	1.6	4/5	○			黄橙	白針 粘土板結合法による成形
169	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	—	1.5	4/5	○			黄橙	白針 粘土板結合法による成形
170	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	—	1.9	完形	72.0	○		橙	白針 粘土板結合法による成形
171	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	2.0	2/3	○			橙	白針



1. 現地調査前（北東から）



2. I区 表土掘削状況（南東から）



3. I区1面 掘乱除去後（北から）



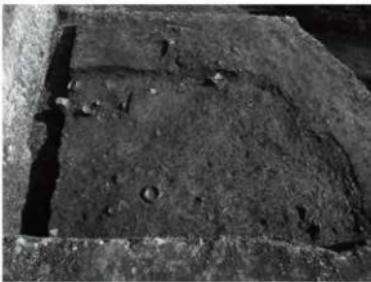
4. I区1面 検出状況（東から）



5. I区2面 検出状況（北から）



6. I区2面 遺構2上層 かわらけ出土状況(東から)



7. I区2面 遺構2中層 かわらけ出土状況(北から)

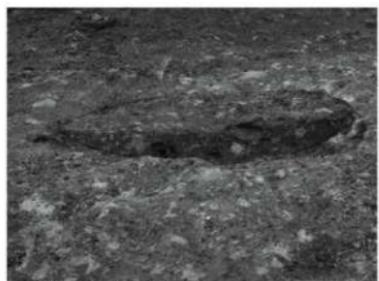


8. 同上 近景（南から）

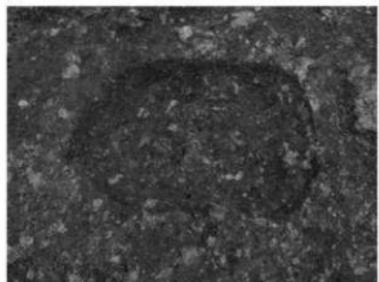
図版2



1. I区2面 遺構2 南壁面（北から）



2. I区2面 遺構3 断面（南から）



3. I区2面 遺構3（南から）



4. I区2面 調査風景（北西から）



5. I区2面 全景（北から）



6. I区2面 北半部（南西から）



7. I区2面下 断面（南西から）



8. I区3面 遺構8上 かわらけ出土状況（南東から）



1. I区3面 清掃作業（南東から）



5. I区3面 遺構4断面（北から）



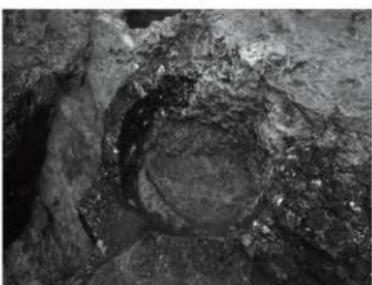
2. I区3面 全景（北から）



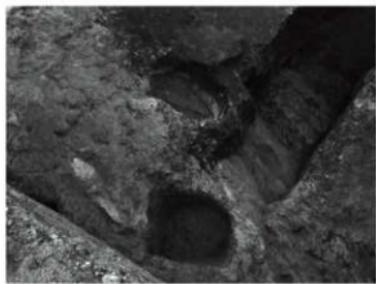
6. I区3面 遺構4（北西から）



3. I区3面 全景（西から）



7. I区3面 遺構5（南西から）



4. I区3面 遺構4・5（北東から）

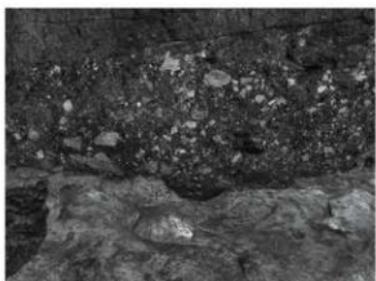


8. I区3面 岩盤斜面（北西から）

図版4



1. I区3面 遺構6～8（北東から）



2. I区3面 遺構9断面（西から）



3. I区3面 岩盤上階段状痕跡（南から）



4. I区北壁 土層断面（南から）



5. I区 北壁断面(2面遺構2の落ち込み：北から)



6. I区南壁 土層断面（北から）



7. I区東壁 土層断面（西から）



8. I区 岩盤斜面上堆積 確認トレンチ（東から）



1. I区 岩盤斜面上堆積（南西から）



3. 調査地点近景（北から）



2. I区 岩盤斜面上堆積（北西から）



4. I区調査終了後 空撮作業風景（東から）



5. I区調査完了時 上空撮影（上が北）

図版6



1. II区 表土掘削状況（北西から）



2. II区1面 全景（南から）



3. II区2面 全景（南から）



4. II区2面下 全景①（南から）



5. II区2面下 全景②（南から）



6. II区2面下 琥珀片出土状況 全景（西から）



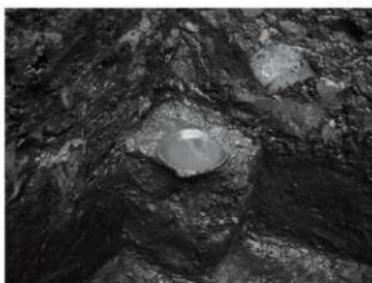
7. II区3面下 最終全景（南から）



8. II区3面下最下層 土層断面（南から）



1. I区3面下最下層 土層断面（南西から）



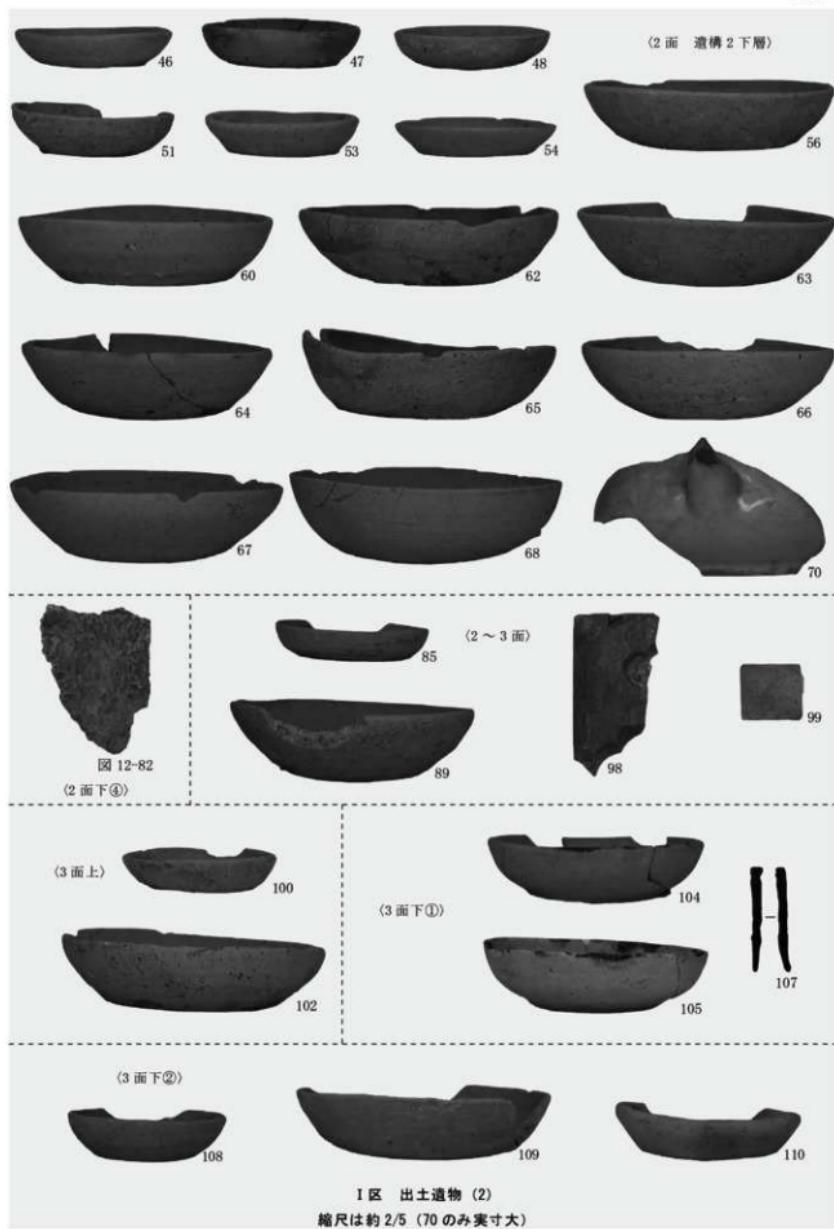
2. II区3面下 かわらけ出土状況（東から）



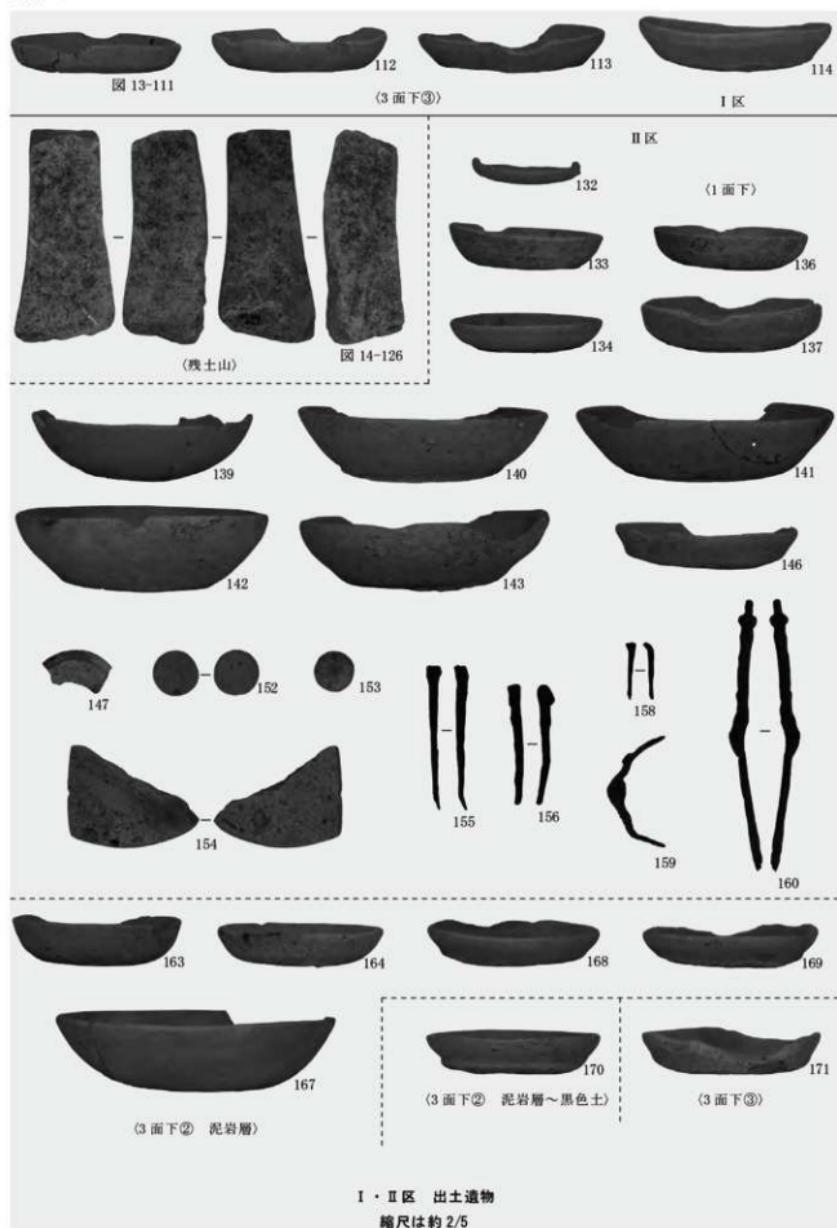
3. 調査地～鶴岡八幡宮を望む（南上空から）

図版8





图版 10



大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)

二階堂字荏柄12番8地点

## 例 言

1. 本報告は、鎌倉市二階堂字荏柄12番8において実施した、大倉幕府周辺遺跡群（鎌倉市No.49）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は平成28年5月11日から同年7月15日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は、64.43m<sup>2</sup>である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。

主任調査員	押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時の任用職員）
調査員	梅岡ケイト、松吉里永子、菅野知子（鎌倉市文化財課 臨時の任用職員）
作業員	安達越郎、永野幹晴、星 荘人、高柳雅一、本村一行、平林 泉、小松原一郎 (公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター)
整理作業参加者	押木弘己、吉田桂子、菅野知子、神田倫子、正木恵子 (鎌倉市文化財課 臨時の任用職員)
4. 本報告の執筆と編集は、押木が行った。
5. 本報告で使用した写真は、現地・出土遺物とも押木が撮影した。
6. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「OBS1602」とし、出土品への注記などに使用した。

## 凡 例

1. 掘図の縮尺は、遺構・遺物とともに図中に表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第IX系：東日本大震災後の補正前）に基づいている。
3. 掘図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより0° 09' 25"ほど東に振れている。
4. 遺構掘図中の水系高は、海拔値を示す。
5. 出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。
  - ◆かわらけ・遺物全体の様相：宗基秀明 2005「中世鎌倉の土器・陶磁器」「全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集」
  - ◆火鉢：河野眞知郎 1992「鎌倉の搬入土器と在地土器」「中近世土器の基礎研究Ⅳ」日本中世土器研究会（A～G類表記）
    - ：河野眞知郎 1993「中世鎌倉火鉢考—東国との関連において」「考古論叢神奈川」第2集 神奈川県考古学会（I～VI類表記）
  - ◆輸入陶磁器：「太宰府条坊跡 X V—陶磁器分類編」太宰府市教育委員会 2000
  - ◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008「中世瀬戸窯の研究」高志書院
  - ◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史』別編窯業3 中世・近世常滑系 愛知県 2012

## 目次 本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	301
第1節 遺跡の立地と沿革	
第2節 周辺の調査成果	
第二章 調査の方法と経過 .....	305
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の方法	
第3節 調査の経過	
第三章 基本土層 .....	306
第四章 発見された遺構と遺物 .....	309
第1節 検出遺構	
第2節 出土遺物	
第五章 調査成果のまとめ .....	338
付編 大倉幕府周辺遺跡群の自然科学分析 .....	339

## 挿図目次

図1 周辺の発掘調査地点 .....	302	図9 最終掘削深度 .....	315
図2 調査区配置図 .....	306	図10 表面採集・表土出土遺物 .....	316
図3 土層断面図 .....	307	図11 上層遺構面までの出土遺物 .....	317
図4 上層遺構群 .....	309	図12 上層遺構出土遺物(1) .....	318
図5 上層遺構 東西溝・柱穴列 .....	310	図13 上層遺構出土遺物(2) .....	319
図6 上層遺構 南北溝 .....	312	図14 下層遺構面までの出土遺物 .....	320
図7 下層遺構群 .....	313	図15 下層遺構出土遺物 .....	320
図8 下層溝状遺構群 .....	314		

## 表目次

表1 周辺調査地点一覧 .....	303	表3 出土遺物カウント・計量表 .....	321
表2 上層遺構観察表 .....	311	表4 出土遺物観察表 .....	335

# 図 版 目 次

図版 1 .....	345	図版 5 .....	349
1. 現地調査前（南東から）		1. II区上層① 全景（西から）	
2. I区 表土掘削状況（南から）		2. II区上層② 全景（西から）	
3. I区上層 全景（西から）		図版 6 .....	350
4. I区上層 遺構 1001・1036（東から）		1. II区上層③～下層①全景（西から）	
5. 同左 低位から（東から）		2. II区上層③ 遺構 1036（西から）	
図版 2 .....	346	3. II区下層① 遺構 2009・2010（西から）	
1. I区上層 遺構 1001・1036（西から）		4. II区下層① 遺構 2010 土器出土状況	
2. I区上層 遺構 1001 断面（西から）		(西から)	
3. I区上層 遺構 1036 断面（東から）		図版 7 .....	351
4. I区上層 遺構 1002（南から）		1. II区下層② 全景（西から）	
5. I区上層 遺構 1002 断面（南から）		2. II区下層② 遺構 2011 検出状況	
6. I区上層 遺構 1014 断面（西から）		(北から)	
7. I区上層 遺構 1014 底面（西から）		3. II区下層② 遺構 2011（南から）	
8. I区上層 遺構 1014 底面の鍵板痕跡 (西から)		4. II区下層② 遺構 2011 断面（北から）	
図版 3 .....	347	図版 8 .....	352
1. I区下層 全景（南から）		1. II区下層② 遺構 2013（東から）	
2. I区下層 遺構 2009・2010・2014（東から）		2. 同上 低位から（南西から）	
3. I区下層 遺構 2009・2010 断面（東から）		3. I区下層調査時 上層遺構 1162（北から）	
4. I区下層 遺構 2013 断面（東から）		4. 同上 断面（北から）	
5. I区下層下 トレンチ掘削状況 (南西から)		5. II区下層調査時 上層遺構 1036 断面（東から）	
図版 4 .....	348	6. II区下層 遺構 2011 断面（北から）	
1. I区下層下 全景（北から）		7. II区上層遺構 1174・ 下層遺構 2009 断面（東から）	
2. I区下層下 トレンチ①底面（東から）		8. II区北壁断面 土層サンプリング箇所（南から）	
3. I区下層下 トレンチ①断面（北から）		図版 9 出土遺物 .....	353
4. I区下層下 トレンチ①断面（西から）			
5. I区下層下 トレンチ②（西から）			
6. I区下層下 トレンチ②断面（西から）			
7. I区下層下 トレンチ②断面（北から）			
8. I区下層下 トレンチ②・③断面 (北西から)			

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 第1節 遺跡の立地と沿革

大倉幕府周辺遺跡群は鎌倉中心市街地の北東部に所在し、治承四年（1180）以降、頼朝以下源氏三代將軍が居住した大倉御所（幕府）推定地の東西と南を「コ」字状に取り囲む形で展開している（図1）。現在、御所推定地は「大倉幕府跡」の遺跡名で登録され、その西限は横浜国立大学付属小・中学校校地の東辺とされているが、かつては県道の「筋違橋」から校地内を縦断して西御門の谷戸へ抜ける道路が存在していたことから、これを幕府西限の名残とする理解がある。現在、清泉小学校南西角の市道上には「大蔵幕府旧跡」の碑が建つが、今までのところ推定地中心部での発掘例は皆無に近く、御所本体の存在を裏付ける考古学的知見は得られてない。推定地内では鎌倉時代初期の地表面に達するまでに3m以上の深さを測るケースが多く、荏柄天神社参道付近と比べ相対的に低い土地であったことが明らかとなりつあることから、史料考証に基づいた從来の評価を疑問視する向きもある。ただ、図1-地点⑨では御所東辺とされる東御門川の前身とも見なせる鎌倉時代初期の南北大溝2条が検出されるなど御所の傍証となり得る発見もある。限定的かつ断片的な発掘成果しかない現時点では、土地の高低差のみを根拠に從来の考証結果を覆すことは性急に過ぎるだろう。資料の増加に伴い、地道に検討を積み重ねる努力が必要である。

本地点は「関取場跡」の石碑から国史跡永福寺跡へと向かう市道の南に位置し、この市道は「吾妻鑑」寛喜三年（1231）や建長三年（1251）の火災記事に登場する「二階堂大路」の後身と見なせる。同大路の開通時期に関する記録は残っていないが、永福寺の創建にあたり、礎石や木材・瓦といった膨大な量の資材が運搬されたことを想起すれば、本格的造営に先立つ建久初年（1190）頃には一定規模の道路が開通していたと考えるのが自然であろう。

建保七（1219）年正月に起きた三代將軍実朝の横死を受け、同年（承久元年に改元）七月には摂関家から幼少の三寅（九条頼經）が將軍繼嗣として迎えられ、北条義時「大倉亭」の郭内南方に新造なった邸宅が居所とされた。義時の大倉亭は史料検討を通じて二階堂大路の東にあったと考証され、嘉祐元年（1225）十二月に宇津宮辻子新御所に移転するまでの間、仮御所が郭内に所在したとされている（秋山2010・高橋2016）。現代の地理感覚からすると二階堂大路の東という理解では字句通りに受け止め難いところがあるので、東=南辺と意識して考えるべきだろうか。ちなみに、頼経の將軍任命は新御所移転の翌年、嘉祐二年（1226）正月のことである。

奈良～平安時代の当地区に目を向けると、正倉院文書の「相模国天平七年封戸租交易帳」（735）（①）や、承平年間（931～938）成立の『和名類聚抄』（②）に見える鎌倉郡「荏草（えがや）郷」が、現存する小字名「荏柄」に通じるとされている。②は鎌倉郡所在郷として他に、鎌倉・尺度・沼浜・埼立・梶原・大島の各郷名を掲げている。この時期の鎌倉郡郷（郡家）は今小路西遺跡（御成小学校地点）の調査で発見されており、①・②に加え、綾瀬市宮久保遺跡出土の天平五年銘木簡にも記載されている「鎌倉郷」を郡郷周辺に当てる見方が有力である。

本地点は、地形的には滑川右岸の沖積微高地上に立地し、現況での標高は約12.4mを測る。次節で述べる周辺成果から、旧二階堂大路関連遺構や古代遺構の発見が期待された。

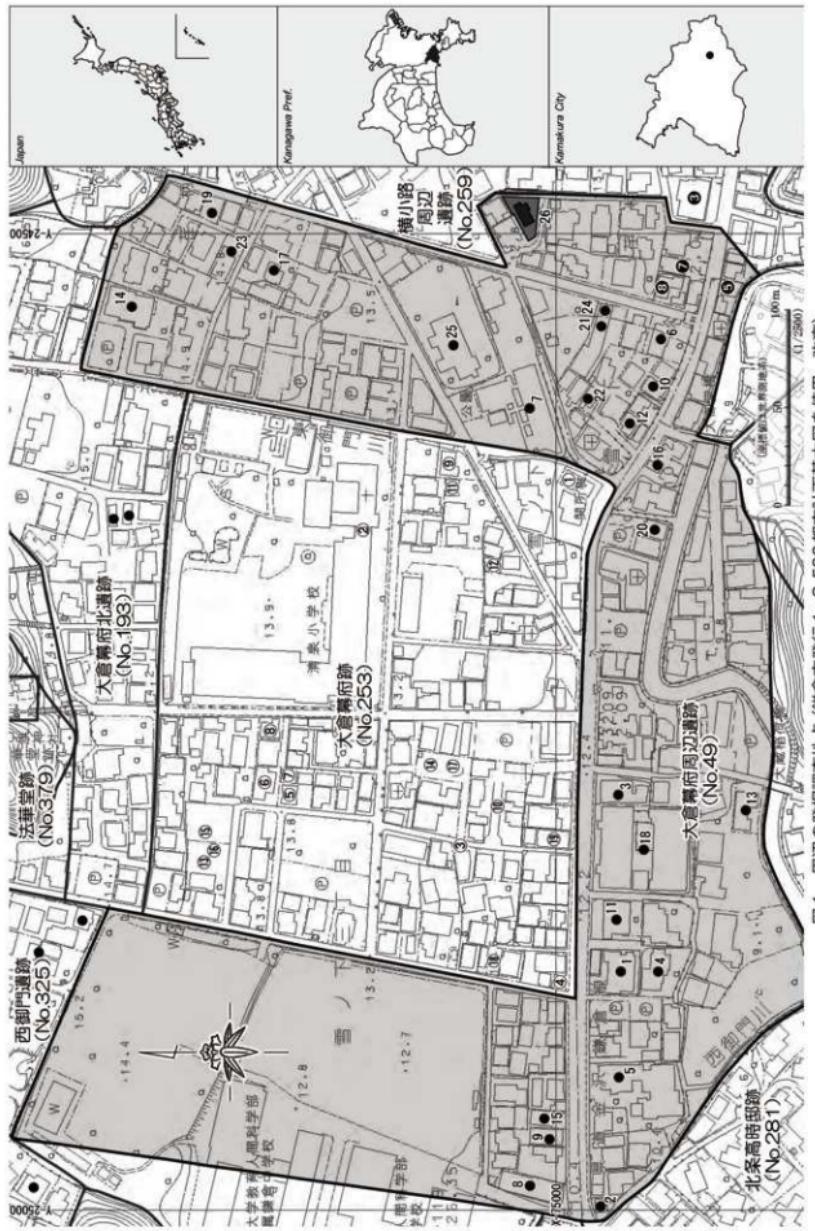


図 1 周辺の発掘調査地点（鎌倉市発行 1:2,500都市計画基本図を使用・改変）

表1 周辺調査地点一覧

No.	地番	調査年度	面積 (m <sup>2</sup> )	所収報告書(正式報告のみ)
<b>大倉幕府周辺跡群(No.49)</b>				
1	雪ノ下西丁目620番1	1980年度	280	未報告
2	雪ノ下西丁目600番	1980年度	147	未報告
3	雪ノ下西丁目581番2	1981~1982年度		未報告
4	雪ノ下西丁目620番2	1983年度	240	未報告
5	雪ノ下西丁目610番2	1983年度	620	未報告
6	雪ノ下西丁目565番4	1989年度	56	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7〕鎌倉市教育委員会 菊川英政1991
7	二階堂字在柄38番1	1991年度	1000	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 馬渕和雄1993
8	雪ノ下三丁目606番1	1991年度	350	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第3分冊)〕鎌倉市教育委員会 菊川英政1993
9	雪ノ下三丁目607番	1992年度	140	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10(第1分冊)〕鎌倉市教育委員会 菊川英政1994
10	雪ノ下天神下562番29	1994年度	30	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12(第1分冊)〕鎌倉市教育委員会 福田 誠ほか1996
11	雪ノ下西丁目620番5	1996年度	252	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 馬渕和雄1998
12	雪ノ下字大倉跡562番16	1999年度	78	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 菊川 亮2001
13	雪ノ下西丁目580番10	1999年度	129	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 菊川 亮ほか2001
14	二階堂字在柄58番4外	2000年度	281	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第1分冊)〕鎌倉市教育委員会 菊川 亮ほか2002
15	雪ノ下三丁目607番1	2001年度	44	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 降矢順子ほか2004
16	雪ノ下西丁目567番7	2002年度	25	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 馬渕和雄2004
17	二階堂字在柄27番3の一部	2002年度	54	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22(第1分冊)〕鎌倉市教育委員会 菊川 亮2006
18	雪ノ下西丁目581番5	2003年度	1630	〔大倉幕府周辺道路発掘調査報告書〕有限会社 鎌倉道路調査会 斎木秀雄ほか2007
19	二階堂字在柄76番7外	2005年度	33	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30(第1分冊)〕鎌倉市教育委員会 伊丹まだかほか2014
20	雪ノ下西丁目570番1	2006年度	32	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30(第1分冊)〕鎌倉市教育委員会 伊丹まだかほか2014
21	二階堂字在柄3番6外	2006年度	122	未報告
22	二階堂字在柄76番4	2006年度	42	未報告
23	雪ノ下天神前562番30	2007年度	26	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書32(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 沢元 道2016
24	二階堂字在柄3番6外	2007~2008年度	54	未報告
25	二階堂字在柄38番2	2011~2012年度	1552	未報告
26	二階堂字在柄12番8	2016年度	64	本報告
①	二階堂字横小路110番3	1996年度	18	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 野本賢二1998
②	二階堂字在柄10番6	1998年度	96	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 福田 誠ほか2000
③	二階堂字在柄10番1	2000年度	40	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19〕鎌倉市教育委員会 菊川 亮ほか2003
<b>大倉幕府跡(No.253)</b>				
④	雪ノ下西丁目569番	1989年度	162	〔大倉幕府周辺跡群〕大倉幕府周辺跡群発掘調査团 馬渕和雄1990
⑤	雪ノ下三丁目707番1	1990年度	30	未報告
⑥	雪ノ下三丁目651番8	1997年度	15	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 沙見一夫1999
⑦	雪ノ下三丁目618番4	2000年度	24	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第1分冊)〕鎌倉市教育委員会 沙見一夫2002
⑧	雪ノ下三丁目701番14	2002年度	45	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21(第1分冊)〕鎌倉市教育委員会 鳩澤晶子2005
⑨	雪ノ下三丁目701番3	2002年度	81	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21(第1分冊)〕鎌倉市教育委員会 鳩澤晶子2005
⑩	雪ノ下三丁目701番1	2003年度	16	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21(第1分冊)〕鎌倉市教育委員会 鉄治屋勝二2005
⑪	雪ノ下三丁目704番3外	2005年度	56	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 福田 誠2011
⑫	雪ノ下三丁目637番4	2006年度	68	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 熊谷 满2011
⑬	雪ノ下三丁目629番1	2007年度	170	〔大倉幕府跡(No.253)発掘調査報告書〕株式会社 博通 宮田 真也2011
⑭	雪ノ下三丁目637番6外	2007年度	25	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34(第1分冊)〕鎌倉市教育委員会 伊丹まだか2018
⑮	雪ノ下三丁目635番2外	2008年度	47	〔大倉幕府跡発掘調査報告書〕有限会社 鎌倉道路調査会 熊谷 满ほか2012
⑯	雪ノ下三丁目693番8	2009年度	33	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31(第2分冊)〕鎌倉市教育委員会 押本弘巳2015
⑰	雪ノ下三丁目648番3	2009年度	38	未報告
⑱	雪ノ下三丁目694番18	2009年度	42	〔大倉幕府跡(No.253)発掘調査報告書〕株式会社 博通 鳩澤晶子ほか2013
⑲	雪ノ下三丁目693番1	2009年度	56	〔大倉幕府跡(No.253)発掘調査報告書〕株式会社 博通 鳩澤晶子ほか2013
⑳	雪ノ下三丁目648番8	2010年度	54	未報告
㉑	雪ノ下三丁目618番8、 653番10	2013年度	29	〔大倉幕府跡(No.253)発掘調査報告書〕株式会社 博通 鳩澤晶子ほか2017
㉒	雪ノ下三丁目628番1	2014年度		未報告
<b>横小路周辺跡(No.259)</b>				
㉓	二階堂字在柄9番1	1987~1988年度	500	〔鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6〕鎌倉市教育委員会 菊川英政1990

①・②・③は現在の道路範囲では大倉幕府周辺跡群に含まれるが、横小路周辺跡として報告

## 第2節 周辺の調査成果

大倉幕府周辺遺跡群では、現在までに29地点で発掘調査が実施され、この中には横小路周辺遺跡として報告された字荏柄の3地点も含まれている(図1・表1)。本地点の東100mに位置する地点7では旧二階堂大路に並行する大規模な溝が検出され、鎌倉時代初期から近世にかけて20数回もの造り替えが確認されている。位置的に見て二階堂大路の北側溝と考えて大過なく、鎌倉時代前期には北岸に沿う形で柱穴が並列することから、板塀など遮蔽施設が付帯する時期もあったと考えられる。また、図1の範囲からは東に外れてしまうが、本地点から北東に230m離れた横小路周辺遺跡の一地点でも調査区の南端部で南東に落ち込む斜面堆積が確認されており(野本1999)、この北肩のラインが旧二階堂大路と概ね並行することから、これも大路北側溝の延伸部であった可能性を指摘できる。

先述したように大倉御所推定地の東側一帯は微高地となっており、中世基盤層の検出レベルも高い。こうした幕府中枢近くの微高地上では、頼朝入部後のごく早い段階から武家の宿館や寺院地として土地利用が進んでいったことが発掘調査の結果により明らかとされている。地点7・25では鎌倉時代前半の土器(かわらけ)一括廃棄土坑が複数基検出され、特に地点25での古相かわらけの一括出土を受けて、近年では在地土器編年の再構築に向けた取り組みが活発化している(八重樫・高橋2016など)。ただ、地点25については正式報告書が未刊行であるため、土器が示す各年代における土地利用の実態は詳らかとなっていない。

微高地エリアでは、古代以前に遡る遺構・遺物の検出事例も多い。詳しい報告はないが、地点7・25では古墳時代～平安時代の竪穴住居や掘立柱建物・井戸に加え、幾筋かの蛇行する旧河道が確認されている。地点25では中世基盤層下から大型の蒸研堀も発見され、出土した灰釉陶器の碗から10世紀後半以降の開削であることが指摘でき(押木2016)、具体的な年代とともに、堀の性格や開削主体者の実像が注目される。このほか、本地点の東方150mの横小路周辺遺跡(市立第二小学校地点=向花柄遺跡)では平安時代の竪穴住居7軒が、西方190mの大倉幕府跡地点@では中世基盤層の下で2間×2間以上の総柱式掘立柱建物1棟が検出されるなど、古代「荏草郷」を構成する集落が点在していた状況が把握されつつある。

県道金沢鎌倉線の南側では、地点11・18で弥生時代中期後葉～後期後半の竪穴住居が数多く分布し、近在の未報告地点でも同時期の住居が多数確認されているという。鎌倉平野部では最も古く、まとまりをもった住居展開といえ、微高地上を居住域とし、周囲の低地帯を水田生産域に置いた拠点集落として評価できる。地点18では古墳時代前期初頭の方形周溝墓が単基で確認され、居住域から墓域への土地利用の変化のみならず、地域を統括する首長墓の萌芽をも窺うことができる。

### 主要参考文献

- ・野本賢二ほか 1999「横小路周辺遺跡(No.259)二階堂字横小路93番11地点」「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15(第2分冊)」鎌倉市教育委員会
  - ・秋山哲雄 2010『都市鎌倉の中世史』吉川弘文館
  - ・押木弘己 2016「相模国における古代末期の土器様相」「鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－」鎌倉かわらけ研究会
  - ・高橋慎一朗 2016「御所と邸宅」「現代語訳呂妻鑑」別巻 吉川弘文館
  - ・八重樫忠郎・高橋一樹編 2016『中世武士と土器かわらけ』高志書院
  - ・特定非営利活動法人鎌倉考古学研究所 2016「二階堂地城を学ぶ!」資料集
- この他、表1に掲載した調査報告書は割愛した。

## 第二章 調査の方法と経過

### 第1節 調査に至る経緯

本調査は、個人住宅の建設に先立つ埋蔵文化財の記録保存を目的に実施した。建築に当たり、建物の基礎下に最大深度7.25mの鋼管杭を打ち込む設計であったことから、鎌倉市教育委員会文化財課では平成27年9月8日に埋蔵文化財の遺存状況について確認調査を実施した。その結果、現地表下10cmで中世の整地面を確認し、以下、地表下86cmまでに最大で5枚の中世遺構面が遺存している状況が確認された。この結果を受け、杭打ち施工に先立ち発掘調査を実施する必要があるとの判断に至った。

### 第2節 調査の方法

調査区は、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から東半部のⅠ区と西半部のⅡ区とに分割し、Ⅰ区からⅡ区の順に調査を進めた(図2)。

表土掘削はⅠ・Ⅱ区とも重機によって行い、遺物包含層以下は全て人力によって掘削し、順次遺構の確認と掘削、次いで写真撮影・測量図作成といった記録作業を進めた。

測量に当たっては、国家座標値を載せた基準杭を敷地内に設定し、主に光波測距儀で測定した座標値を方眼紙にプロットする方法で平面図を作成した。国家座標の移設は市道上に設置された都市再生街区多角補助点「3A071」と「3A029」との二点間関係をもとに開放トラバース法で行った。標高は、多角点「20A31」(14.235m)を起点に、光波測距儀で高低差測量を繰り返して敷地内の測量杭に移した。測量の基準として使用した多角点および補助点の国家座標値は、東日本大震災後の補正值である(JGD2011)。

### 第3節 調査の経過

Ⅰ区の表土掘削は平成28年5月10日に実施した。翌日には調査用具を搬入し、本格的に調査に着手した。遺構の確認と掘削、図面作成および写真撮影など記録作業を進め、6月8・9日にはⅠ区の埋め戻しとⅡ区の表土掘削を行った。Ⅱ区でも掘削と記録を順次進め、7月8日には全ての記録作業を終え、12・13日にⅡ区の埋め戻し、15日には調査用具を撤収して、現地での調査工程を全て終了した。

出土品および記録類の整理作業は平成28年度後半から着手し、報告書の執筆・編集作業は29年度の後半に進めた。これら一連の整理作業は、鎌倉市教育委員会文化財課分室において行った。

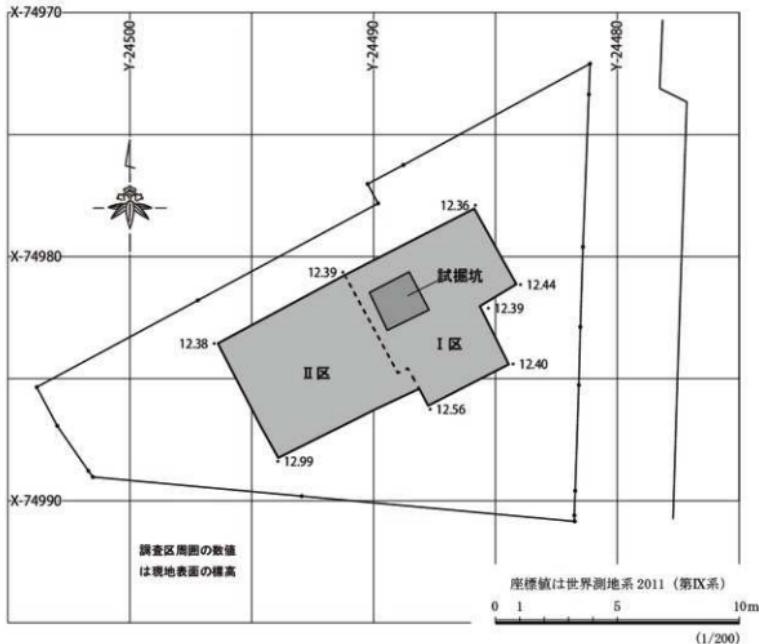


図2 調査区配置図

### 第三章 基本土層

現地表面の標高は図2に示した通りで、敷地の南西側が最も高くなっている。

図3には、本地点の土層堆積状況を示した。基本土層は大きくI～V層に分層でき、III・IV層は色調の変化などにより、さらに細分できた。図中ではII層の具体的な位置は明示されていないが、I層とIII層に挟まれた中世の整地層全般を指す。III層は中世基盤層がベースの黒色～黒灰色の粘質土で、鎌倉の発掘従事者は「ネチャ」と呼んでいる。

本報告では、II層で確認した造構を上層造構群、III層で確認した造構を下層造構群としてまとめた。調査区全体を掘り下げたのはIVa層上面までで、ここで下層造構の見落としがないか確認した。以下はI区に確認トレンチを設定して、下部の堆積状況および造構・遺物の有無について確認を試みた。その結果、IV層中での出土遺物は古墳時代以前の土器小片に限られ、基本的に水平堆積で層序の乱れも認められなかった。V層は部分的な確認となったが、南東から北西に向けて緩やかに下がる様子が見て取れた。黒褐色土をベースに凝灰岩の砂礫を多く含み、検出範囲の限りでは、出土遺物はなかった。明確な根拠はないが、一時的な水流などに伴う自然堆積層と考えている。

確認トレンチの最深部標高は10.75mで、これ以下の掘り下げは行わなかった。

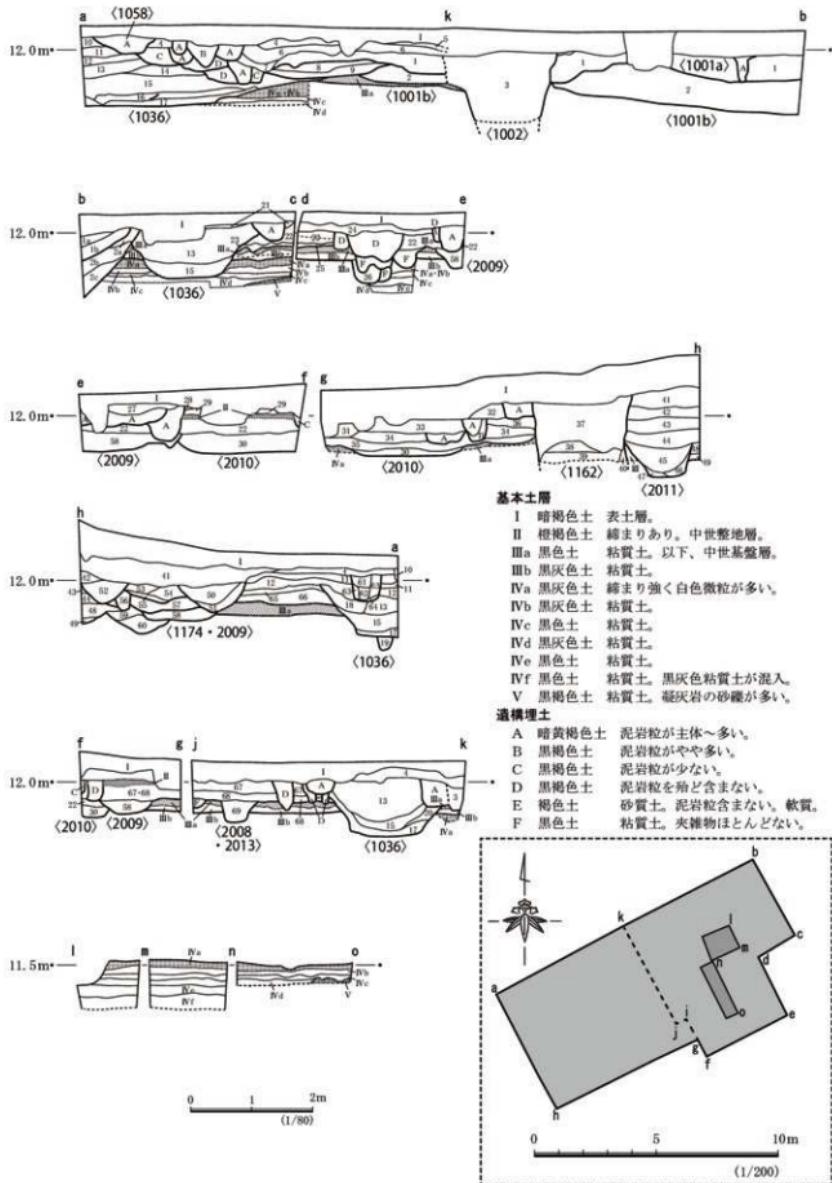


図3 土層断面図

調査区壁断面 土層説明（図3に対応）

1 黄褐色土	拳大の泥岩ブロック密。		33 暗褐色土	泥岩粒多量。
1a 黄褐色土	泥岩粒主体。 (1001a)		34 黒色土	粘質土。
1b 黄褐色土	拳大の泥岩ブロック密。		35 黒灰色土	粘質土。
2 暗褐色土	泥岩粒少量。		36 黄褐色土	泥岩粒主体。
2a 黄褐色土	泥岩粒主体。 (1001b)		37 暗褐色土	泥岩粒多量。
2b 暗褐色土	泥岩粒少量。		38 黑色土	粘質土。上部に砂が堆積。(1162)
2c 暗褐色土	泥岩粒微量。		39 黑灰色土	粘質土。上部に砂が堆積。
3 黄褐色土	拳～人頭大の泥岩塊主体。		40 黑色土	締まり弱い。
4 黄褐色土	泥岩粒が主体。		41 暗褐色土	泥岩粒多量。
5 暗黄褐色土	泥岩粒多量。		42 暗褐色土	泥岩ブロック多量。
6 暗褐色土	泥岩粒多量。		43 暗褐色土	泥岩粒多量。
7 黑色土	粘質土。		44 黑色土	粘質土。
8 黑褐色土	泥岩粒微量。		45 黑色土	粘質土。
9 黑色土	粘質土。泥岩粒多量。		46 暗灰色土	粘質土。 (2011)
10 暗褐色土	泥岩粒主体。		47 黑色土	粘質土。泥岩粒多量。
11 黑褐色土	粘質土。泥岩粒やや多い。		48 黑色土	粘質土。
12 黑色土	粘質土。泥岩粒微量。		49 黑褐色土	粘質土。泥岩粒多量。
13 黑褐色土	粘質土。泥岩粒微量。		50 暗褐色土	泥岩粒、炭粒少量。(1113・1114)
14 暗灰色土 + 黑色土	粘質土。		51 暗灰色土	粘質土。炭粒少量。
15 黑色土	粘質土。		52 暗褐色土	粘質土。炭粒少量。(2016)
16 暗灰色土	粘質土。泥岩粒多量。 (1036)		53 暗褐色土	炭粒少量。
17 黑色土	粘質土。締まり弱い。		54 暗褐色土	泥岩粒、炭粒少量。
18 黑灰色土	粘質土。		55 暗褐色土	炭粒少量。
19 暗灰色土	粘質土。締まり弱い。		56 暗褐色土	炭粒少量。
20 黑色土	粘質土。泥岩粒微量。		57 黑灰色土	粘質土。炭粒多量。(1174)
21 黑褐色土	泥岩粒少量。		58 黑灰色土	粘質土。炭粒微量。(2009)
22 黑褐色土	泥岩粒微量。		59 暗灰色土	粘質土。中世基盤層塊を含む。
23 黑褐色土	泥岩粒多量。		60 暗灰色土	粘質土。(2015)
24 暗褐色土	泥岩粒少量。		61 黑色土	粘質土。泥岩粒少量。
25 黑褐色土	泥岩粒微量。		62 黑色土	泥岩粒多量。
26 黑灰色土	粘質土。		63 黑色土	泥岩粒多量。
27 暗褐色土	泥岩粒少量。		64 黑色土	粘質土。締まり強い。(1116)
28 黑褐色土	締まりややあり。		65 黑色土	泥岩粒微量。
29 灰褐色土	締まりあり。		66 黑色土	~ 5mm 大の橙色粒子微量。
30 黑灰色土	粘質土。 (2010)		67 黑色土	粘質土。白色粒子微量。
31 暗褐色土	泥岩粒多量。		68 黑色土	粘質土。泥岩粒、白色粒子微量。
32 黄褐色土	泥岩粒主体。		69 黑色土	粘質土。炭粒微量。(2008・2013)

## 第四章 発見された遺構と遺物

### 第1節 検出遺構

基本土層のⅡ層上面と層中では、溝やピットなどの中世遺構が濃密に分布していた。明確な整地面としては捉えられなかったものの遺構掘り込み面は複数枚あり、上位の遺構を掘削して記録を取った後、薄く掘り下げて下位の遺構を確認・掘削・記録という手順で調査を進めた。本来、より上位層でプラン確認すべき遺構を見落としてしまった可能性も否定できないことから、本報告では上面・層中を問わずⅡ層で確認した遺構を上層遺構として一括提示した(図4)。上層遺構の番号は1001番(=1面001番)から付け始め、原則として切り合い関係で新しい遺構に若い番号を与えている。また、確認順に番号を付したため、必然的に上位層で確認した遺構の方が下位の遺構より番号が若いが、Ⅱ区上層遺構の多くは遺構1036より確認が後れたため、遺構間の新旧関係と逆転している例も多々ある。

Ⅲa層=中世基盤層の上面を確認面とする遺構を、本報告では下層遺構群とした。Ⅲa層と各遺構の

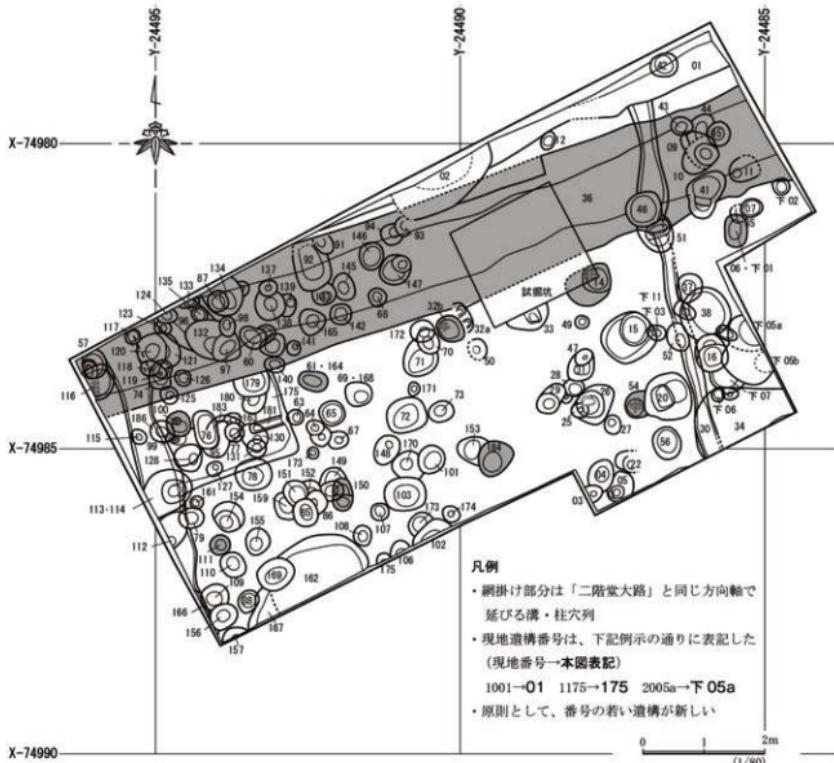


図4 上層遺構群

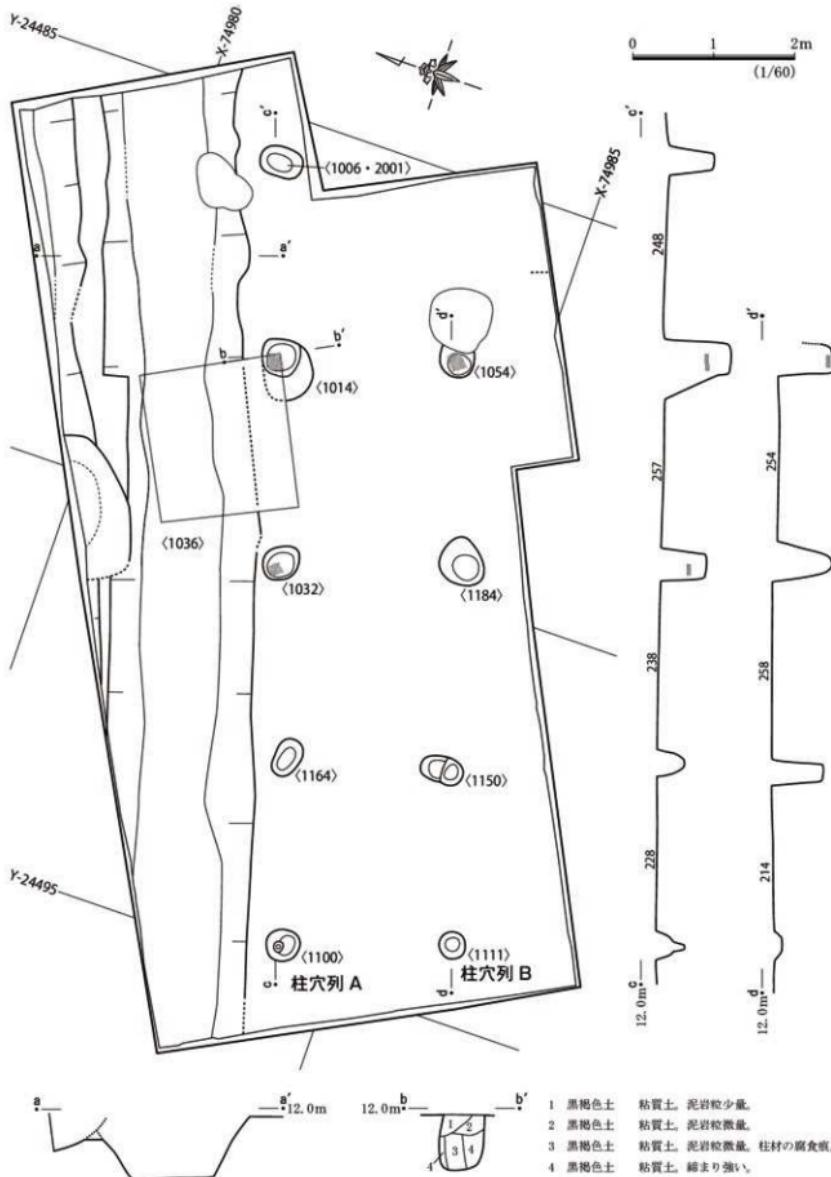


図5 上層遺構 東西溝・柱穴列

表2 上層遺構観察表

埋土タイプ(A~F)の内容は、図3を参照

遺構 No.	埋土	底面標高(m)	遺構 No.	埋土	底面標高(m)	遺構 No.	埋土	底面標高(m)	遺構 No.	埋土	底面標高(m)	遺構 No.	埋土	底面標高(m)	遺構 No.	埋土	底面標高(m)	
1001	A	(11.50)	1033	D	11.56	1066	欠番	—	1099	A	11.61	1132	C	11.53	1163	D	11.92	
1002	A	(10.81)	1034	B	11.67	1067	A	11.85	1100	A	11.66	1133	D	11.49	1166	B	11.70	
1003	C	11.72	1035	B	11.84	1068	A	11.76	1101	C	11.74	1134	C	11.04	1167	B	11.65	
1004	C	11.87	1036	D	11.04	1069	E	11.36	1102	B	11.39	1135	C	11.64	1168	D	11.25	
1005	C	11.62	1037	C	11.38	1070	A	11.71	1103	B	11.48	1136	C	11.69	1169	A	11.39	
1006	C	11.77	1038	B	11.78	1071	A	11.27	1104	欠番	—	1137	C	11.17	1170	C	11.55	
1007	B	11.85	1039	欠番	—	1072	B	11.79	1105	欠番	—	1138	B	11.60	1171	A	11.71	
1008	B	11.13	1040	C	11.36	1073	C	11.80	1106	A	11.59	1139	C	11.40	1172	B	11.44	
1009	(1010)	B	11.66	1041	D	11.13	1074	C	11.88	1107	B	11.56	1140	C	11.56	1173	B	11.89
1011	B	11.39	1043	A	11.42	1075	A	—	1108	B	11.69	1141	C	11.44	1174	C	11.64	
1012	B	11.76	1044	A	11.35	1077	C	11.79	1110	C	11.63	1143	C	11.37	1176	D	11.37	
1013	欠番	—	1045	A	11.44	1078	B	11.85	1111	C	11.76	1144	欠番	—	1177	D	11.68	
1014	C	11.23	1046	D	11.02	1079	B	11.93	1112	B	11.32	1145	C	11.65	1178	D	11.69	
1015	C	11.52	1047	A	11.66	1080	欠番	—	1109	B	11.75	1142	D	11.74	1175	D	11.56	
1016	B	11.30	1048	欠番	—	1081	欠番	—	1113	C	11.69	1146	A	11.75	1179	D	11.49	
1017	欠番	—	1049	A	11.54	1082	欠番	—	1115	C	11.71	1148	B	11.46	1180	D	11.50	
1018	欠番	—	1050	A	11.51	1083	欠番	—	1116	B	11.61	1149	B	11.63	1182	欠番	—	
1019	欠番	—	1051	D	11.36	1084	欠番	—	1117	C	11.74	1150	B	11.32	1183	D	11.52	
1020	C	11.25	1052	B	11.42	1085	B	11.62	1118	B	11.59	1151	E	11.73	1184	D	11.14	
1021	欠番	—	1053	A	11.33	1086	B	11.60	1119	B	11.73	1152	D	11.73	1185	D	11.22	
1022	C	11.94	1054	D	11.15	1087	A	11.74	1120	A	11.59	1153	A	11.33	1186	D	11.41	
1023	欠番	—	1055	A	11.71	1088	A	11.86	1121	C	11.38	1154	C	11.44	1187	欠番	—	
1024	欠番	—	1056	A	11.45	1089	欠番	—	1122	D	11.55	1155	D	11.70	2001	D	11.31	
1025	C	11.69	1057	B	11.75	1090	欠番	—	1123	B	11.67	1156	D	11.64	2002	D	11.45	
1026	B	11.25	1058	A	11.89	1091	A	11.76	1124	B	11.45	1157	C	11.76	2003	D	11.37	
1027	C	11.62	1059	欠番	—	1092	A	11.72	1125	C	11.73	1158	欠番	—	2004	D	11.42	
1028	A	11.70	1060	A	11.69	1093	A	11.65	1126	C	11.68	1159	E	11.63	2005a	D	11.21	
1029	A	11.60	1061	A	11.83	1094	A	11.63	1127	D	11.35	1160	D	11.70	2005b	F	11.42	
1030	C	11.76	1062	欠番	—	1095	C	11.30	1128	D	11.49	1161	D	11.20	2006	D	11.42	
1031	A	11.81	1063	A	11.79	1096	B	11.80	1129	C	11.48	1162	A	11.28	2007	D	11.45	
1032ab	C	11.60	1068	B	11.56	1097	A	11.45	1130	D	11.64	1163	C	11.48	2017	D	11.49	
1032c	A	11.40	1065	A	11.92	1098	欠番	—	1131	D	11.51	1164	D	11.64	—	—	—	

覆土が近似することから、調査ではⅢb層上面まで掘り下げて遺構確認に当たった。また、Ⅳa層上面でも遺構の見落としがないか、最終確認している。ここまで来ると遺構埋土との色調・土質の差は明瞭であり、遺漏はないものと考えている。

#### (1) 上層遺構群(図4~6)

II層の上面および層中で検出された遺構群で、明確な整地面の把握には至らなかった。I区南部での検出レベルは12.20、12.05、11.75m前後で、各レベル検出の遺構埋土に顕著な違いは認められない。傾向としては、上位層で確認できた遺構の方が泥岩粒の混入が目立っていた印象がある。確認レベルの違いは、当然のように層序の新旧を示すものだが、遺構確認時の見落としも考慮して上層遺構群としてまとめた。検出遺構としては旧二階堂大路と同方向軸で延びる大型の溝やピット、井戸と思われる断面円筒形の土坑などがある。ピットは小規模なものが多く、II区に集中する傾向が見られた。柱材の腐食痕跡や底面に柱当たりの硬化面を残す例もあり、わずかながら柱穴列として復元できる可能性も見出すことができた。

#### 東西溝(遺構1036・図5)

調査区北辺で検出された東西溝で、東・西とも調査区外へ続く。長さは12mまで確認でき、調査区の壁断面での計測値として、上幅200cm強、下底部幅90~115cm前後、深さ100cm弱を測る。上部は後世の削平を受けている可能性が高く、本来は上幅・深さとともに計測値より大きかったと考えられる。横断面は逆台形を呈し、溝壁上部は外方に開く。下底面は平坦で、西に向けてわずかに低くなる。

走行軸はN-110°-Wで、調査地北側の現行市道(旧二階堂大路)のN-118°-Nより若干北に振れる。この市道は荏柄天神社参道より西ではN-110°-W前後で延び、本遺構と同じ方向軸を取る。

埋土は中世基盤層に近似した黒色粘質土がベースで、若干量の泥岩粒を含む。後節に示す遺物様相と

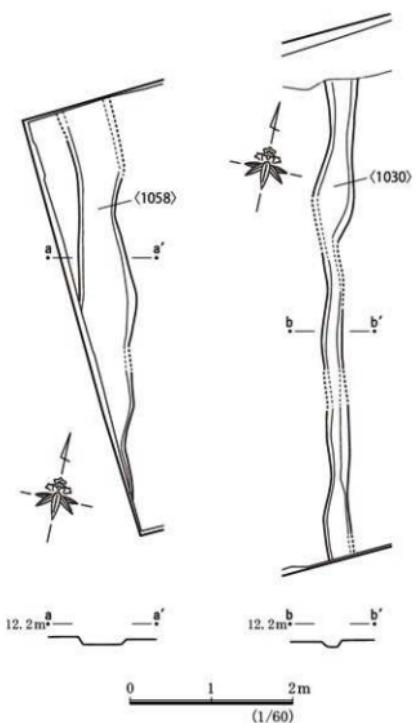


図6 上層遺構 南北溝

先述した柱間隔のばらつきも含め、今回確認できた限りでは両柱穴列が一体の構造物を成していたのか、断定することは難しい。一体と仮定すれば建物としての可能性を考えられ、一方で版築層などの痕跡は全く確認できていないものの両列が一対となって垣(築地塀)を構成していた可能性も想定可能である。両列が単独で延びていたとすれば、板塀など、より簡便な遮蔽施設であったことが推測でき、その場合、両列の存続時期には新旧を考える必要がある。いずれのケースとしても、柱穴列Aは東西溝と近接し過ぎた観があり、本来の掘り込み面を考慮すると両者が重複していた可能性が高く、同時存在は考えにくい。

#### その他の上層遺構(図4)

以上の他、大部分が調査範囲外に出てしまうため完掘できなかった遺構として、東西溝(遺構1001)・南北溝(遺構1030・1058)や井戸と思しき断面円筒形の土坑(遺構1102・1162)がある。

遺構1001は調査区北東部で確認された東西溝で、南肩のみ長さ5.5mほど検出し得たに過ぎない。そのため走行軸も不明確だが、N-112°-Nと、遺構1036と概ね同方向か、わずかに南に傾く可能性がある。断面観察の結果、1036を切って構築され、泥岩ブロックを充填した埋土であることが確認された。部分的な検出に留まったため断定できないが、遺構1036の埋没後、同じ役割を担った東西溝であった可能性を考えている。

併せ、鎌倉時代でも比較的早い段階=13世紀前半のうちには廃絶・埋没過程に至ったと考えられる。

#### 柱穴列(図5)

遺構全測図から東西溝(遺構1036)に並行する2本の柱穴列を抽出・復元することができた。溝に近い順に、柱穴列A・Bと名称を付した。溝中心から柱穴列中心までの距離は、Aが120cm、Bが360cmを測り、A-B間の距離は210~220cmで調査区西側での間隔が狭い。A・Bともに柱穴間距離は240cmを基準とするが、やはり調査区西側では狭くなる傾向が窺える。調査範囲が限られていることもあり即断できないが、調査区の西半部と東半部では柱間隔の異なる別の柱穴列が存在した可能性がある。

柱穴列の中心軸はAがN-110°-N、BがN-109°-Nで、ともに東西溝と同じ軸線で展開する。

列Aでは遺構1014・1032、列Bでは遺構1054の各柱穴で基底部に柱加重による硬化面が確認され、1014では埋土断面に柱材の腐食痕とみられる垂直方向の粘質土堆積がみられた。その幅は22cmを測り、上部は欠失することから抜き取り時に切断されたようだ。

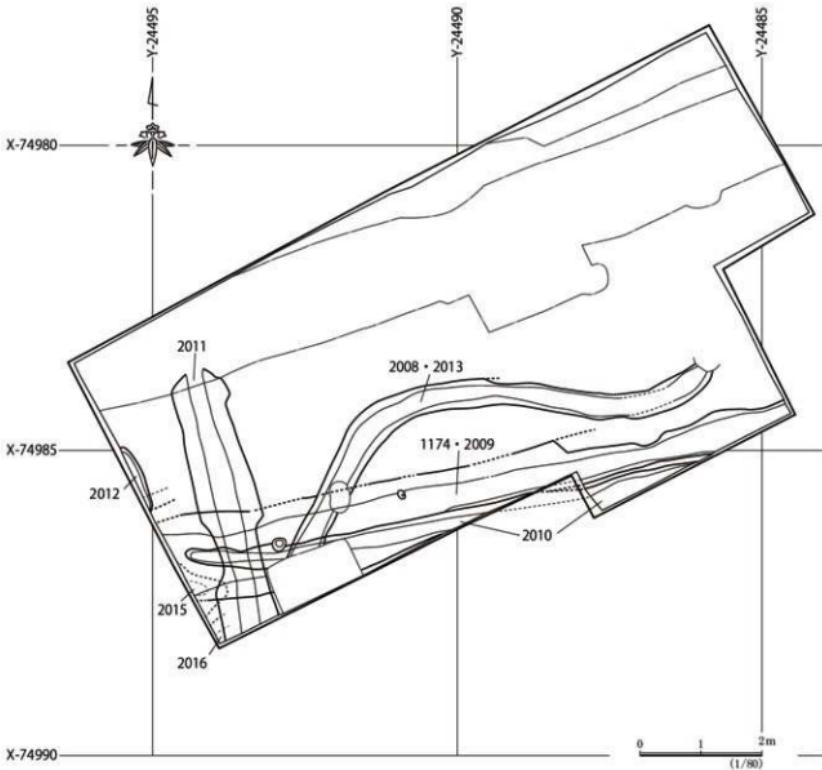


図7 下層遺構群

遺構1030はI区で検出された。北側を遺構1001に切れられ、南側が調査区外に続く。長さ5.8mまでを確認した。断面観察の結果、同質埋土の遺構と切り合うため東側の立ち上がりが不明瞭であったことが分かり、深さは23cmを確認した。底面標高は11.76m～11.98mを測り、北側が低い。調査区北側の東西溝に流し込む溝であったのだろう。

遺構1058はII区西端部で検出された。南北とも調査区外に続き、長さ4.8mまでを確認した。断面観察による上幅は105cm、深さ30cmを測り、若干蛇行するがN-16°-Wで延びる。底面標高は11.89～11.96mで、南に向けて僅かに低くなる。

遺構1002はI区北西隅で確認した。遺構番号とは逆順に、遺構1001（東西溝）の埋没後に構築されている。井戸と思われる断面円筒形の土坑で、北半部は調査区外に続く。断面観察による直径は約180cm、深さは120cmまでを確認したが、調査区壁の崩落を回避するため、これ以上の掘削は断念した。埋土は人頭大の泥岩ブロックで短期間に埋め立てられた様子で、多量の瓦片が混じっていた。泥岩・瓦片ともに火を受けて変色しており、また炭化物も付着していたことから、火災後の復旧に際して埋められたと考えている。遺構間の切り合い及び遺物様相から見て、本地点では最も新しい段階の遺構と考えられる。

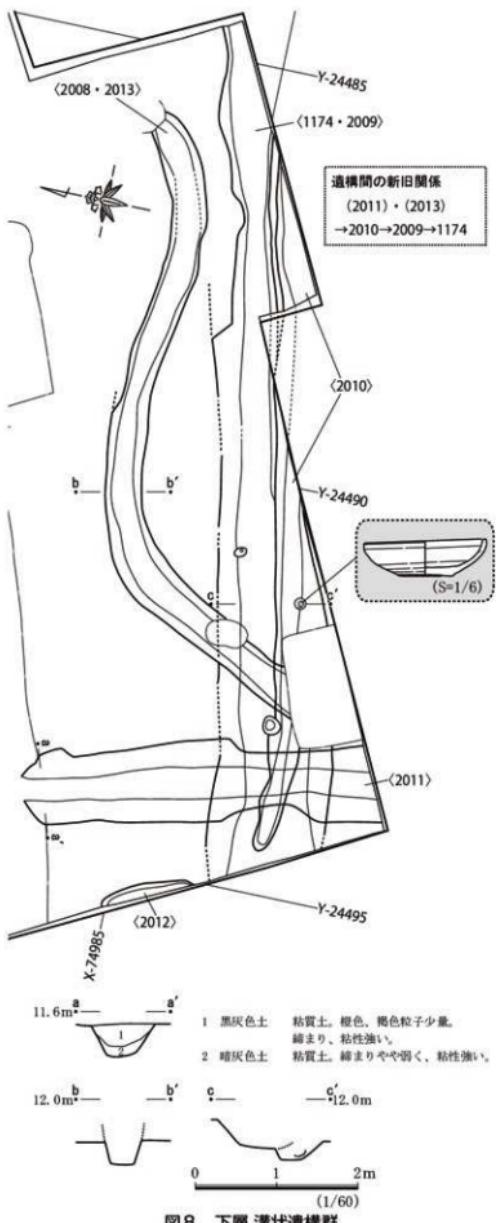


図8 下層溝状遺構群

遺構1162は調査区の南西部で検出され、南側1/2ほどが調査区外に続くとみられる。断面観察では直径160cm、深さ110cm以上となることを確認したが、ここでも崩落の危険性に配慮して、これ以下の掘り下げを断念した。垂直な落ち込みをもち、井戸であった可能性が高い。埋土は暗褐色土がベースで、下位に向かうに連れて固く締まり、水平に均した様子が窺えた。廃絶後は丁寧に埋め戻されたのだろう。図4では円形基調の平面形を呈するが、下部に行くほど壁が直線的となることから、本来は方形基調の掘り方であったと考えている。埋土と周辺の整地土からは、比較的多くの遺物が出土している。本遺構の出土かわらけは、手づくね製品が主体となる（表3-上層遺構⑩）。

この他、ピット・土坑など小規模遺構の観察結果を表2にまとめた。平面規模については、図4から計測されたい。

#### (2) 下層遺構群（図7・8）

中世基盤層であるⅢa層の上面が掘り込み面で、遺構確認はⅢb層上面となる標高11.5m前後で行った。ここでは2000番台の遺構を検出したが、2001～2007は上層遺構の確認漏れと判断した結果、小規模な溝で構成される遺構群であることが明らかとなった。各溝の埋土はⅢa層と似ており、全体として出土遺物は僅少で、古代遺物の比率が高い中、中世初期の遺物も散見された。

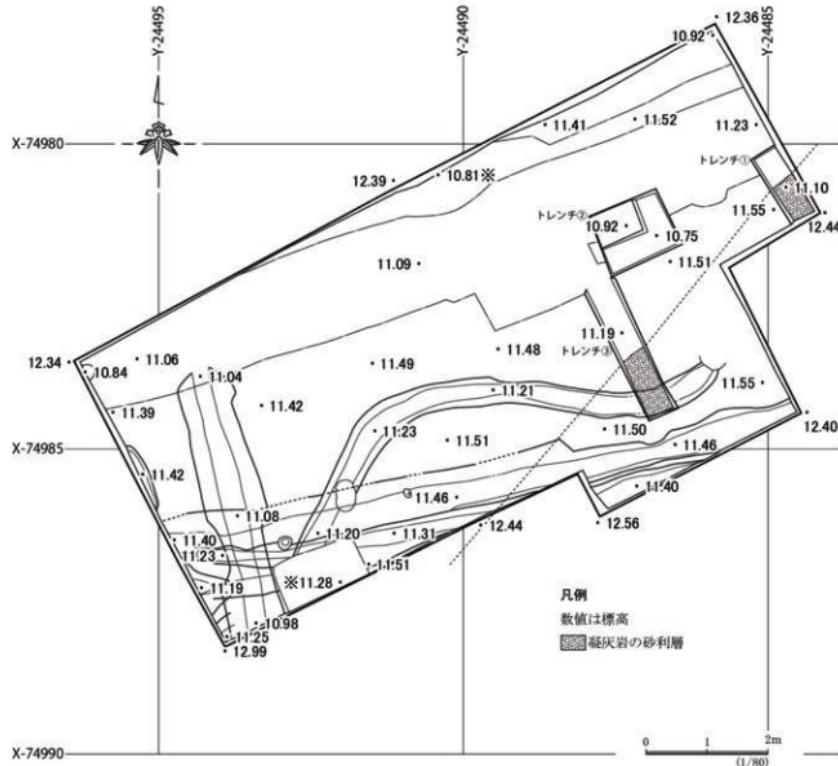
以下、各溝の概要を記す。

遺構 2009・2010 は調査区南辺で検出した東西溝で、切り合って並行する。埋土が相似するため概ね同時期の遺構と見られ、曖昧さは残すが 2009 が新しい遺構と判断した。ともに N-102°-W 前後で延び、調査区外に続く。断面逆台形を呈し、断面観察による深さは 2009 が 20cm、2010 が 30cm を測る。底面標高は 2009 が 11.40 ~ 11.47 m、2010 が 11.23 ~ 11.40 m で、ともに西へ向けて緩やかに下がる。

2010 の底面付近では土師質土器の完形環が正位で出土している。手づくねかわらけ導入以前の資料と考えられ、伴出した常滑窯の型式から 12 世紀後半の所産と考えられる。

遺構 2008・2011 は 2009・2010 より古い遺構と判断したが、埋土が近似するため大きな時期差は考えにくい。2008 は、II 区では 2013 の番号を付した。蛇行しながら東に延び、両端を上層遺構に切られるため全長は不明である。断面 U 字形を呈し、断面観察での規模は上幅 60cm、下底幅 30cm、深さ 36cm を計測した。底面の標高は 11.2m 前後で推移し、どちらか一方へ落ちる様子は見られなかった。

2011 は調査区の西辺付近で検出された南北溝で、北部は上層遺構 1036 に切られ、南部は調査区外に続く。中心軸は N-13°-W で、2009・2010 と直交関係にあると見てよい。上幅 90cm、下底幅 40cm を測り、断面逆台形を呈する。確認面からの深さは 50cm で、底面標高は 10.98 ~ 11.08 m を測り、検出された中央部が最も高く、南北両方向に低くなる。



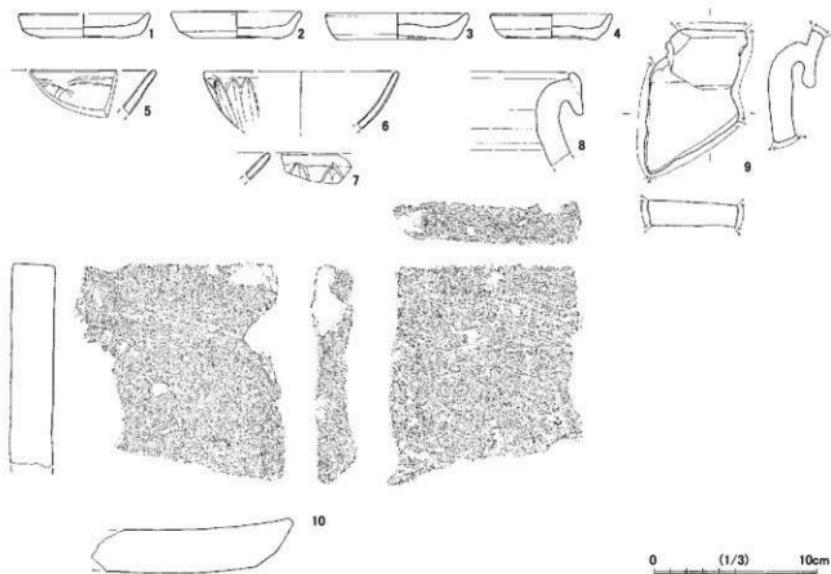


図10 表面採集・表土出土遺物

### (3) 中世基盤層下(図9)

下層遺構群の調査後、調査区全体をIVa層上面（標高11.4～11.55m前後）まで掘り下げて遺構の見落としがないか確認を試みた。遺構2008の溝肩など部分的な掘り残しを確認した以外に、新たな遺構の検出はなかった。IVb層以下については1区に確認トレンチを設定して掘り下げたものの、古墳時代以前の土器小片が3点出土したに過ぎず、この時期の生活痕跡を見出すことはできなかった。土層堆積の概況については、第三章で述べたとおりである。トレンチ最深部の標高は、現地表面から1.7m下の10.75mである。

## 第2節 出土遺物

図10～15には、出土遺物の実測図を掲げた。遺物個々の特徴は図と観察表（表4）を参照されたく、本節では遺物様相全体の印象、および特徴的な遺物の説明に留めたい。

今回の調査地は表土直下で鎌倉時代前期の遺構群を確認しており、鎌倉後期以降の整地面は削平され失われてしまった可能性が高い。そのため、13世紀後半～14世紀前半という消費拡大期の遺物は溝や井戸など深い掘り込みをもつ一部の遺構から出土したに過ぎない。中世遺物の主体は手づくねかわらけで、身深・内湾器形のロクロかわらけを大きく上回る出土量であった。

今回は、古代以前の出土遺物も多く見られた。殆どが中世遺構の埋土から出土したもので、弥生時代～古墳時代の土器や、奈良～平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器などがあった。下層遺構群は平安末～鎌倉初期に属すると見られ、堅穴住居など集落居住域の確認には及ばなかったが、遺物量や周辺での調

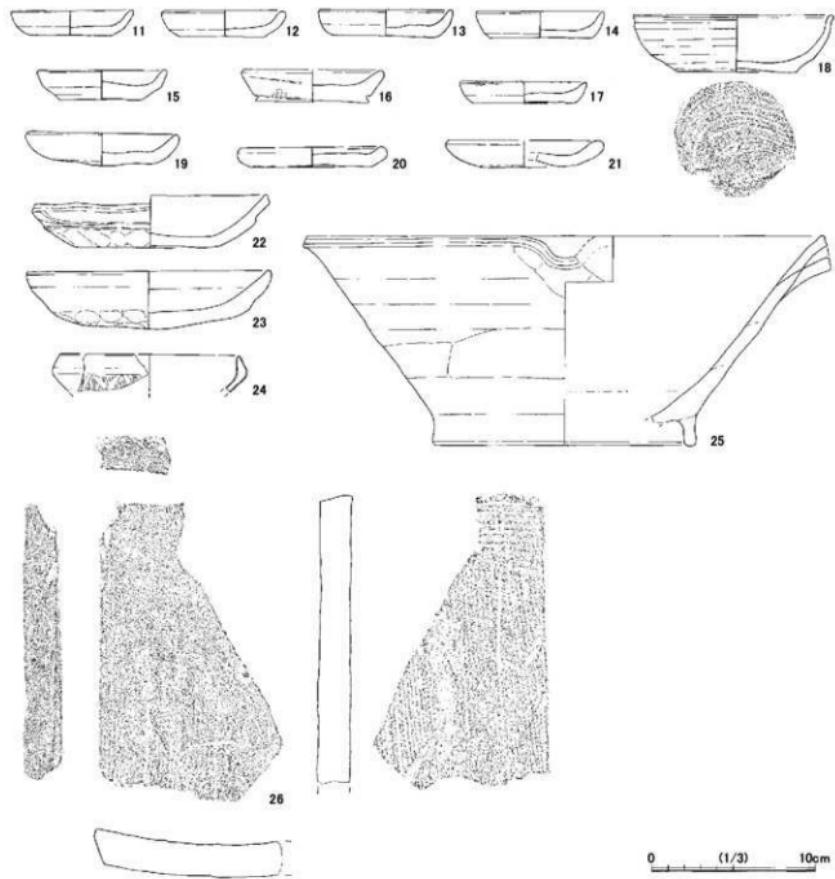


図11 上層遺構面までの出土遺物

査成果から、集落が近在していた可能性は高いだろう。

前節で述べたように、下層遺構群の東西溝（遺構2010）では土師質土器壺が出土した（図15-96）。土圧により一部破損していたが、破片は散逸しておらず、接合により完形に復元できた。溝底が僅かに埋没した上に完存品が伏せた状態で廃棄されていた。器形・法量・調整技法・胎土などの諸点で鎌倉で大量に消費されたロクロかわらけと差異が認められ、出土層位や伴出遺物の様相からも京都系手づくり土器の導入、そしてその影響を受けた中世「かわらけ」成立以前の在地土器という評価ができる。伴出した常滑窯（97）は2型式または3型式と見なされ、大よそ12世紀後半という所産年代を当てることができよう。鶴岡八幡宮や永福寺創建以前の土器との比較から、治承四年（1180）の頼朝入部後、永福寺造営が始まる建久初年（1190年代初頭）までの土器と見なすのが穏当な評価といえるだろうが、これ

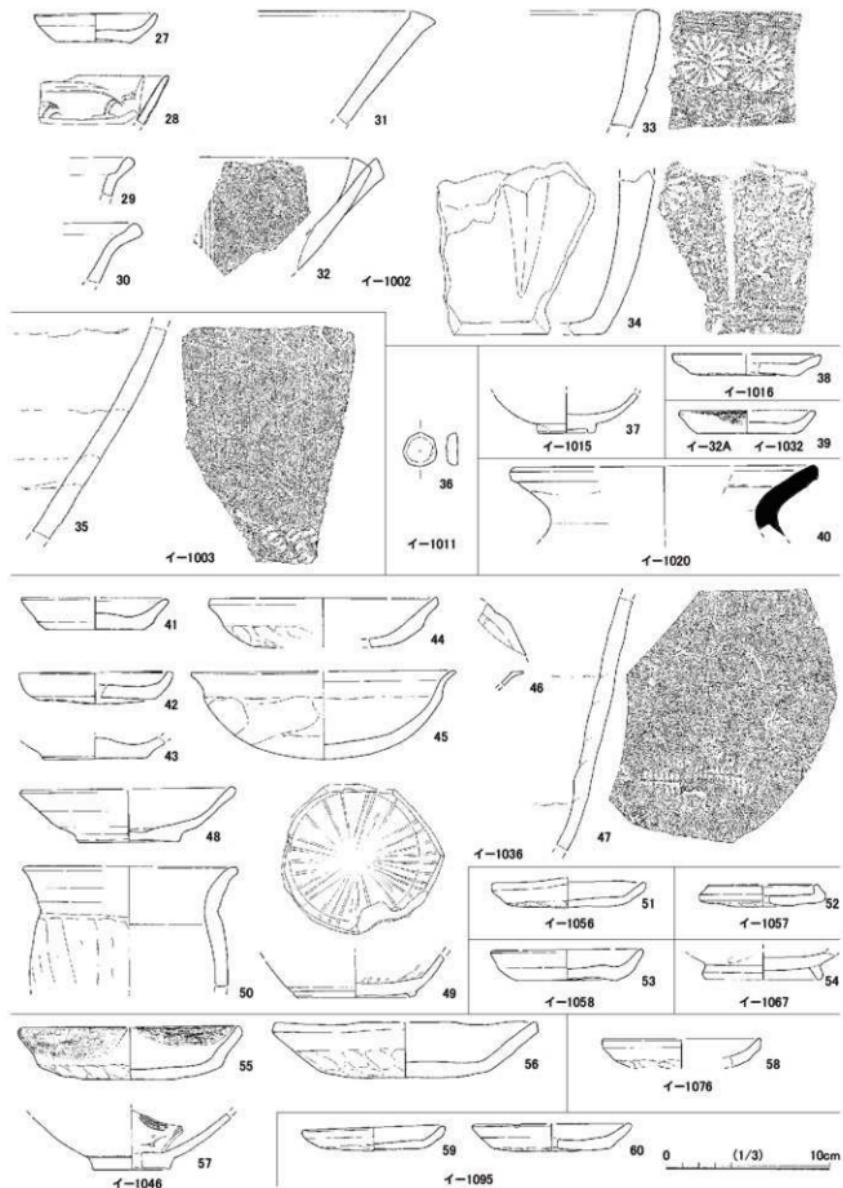


図12 上層遺構出土遺物(1)

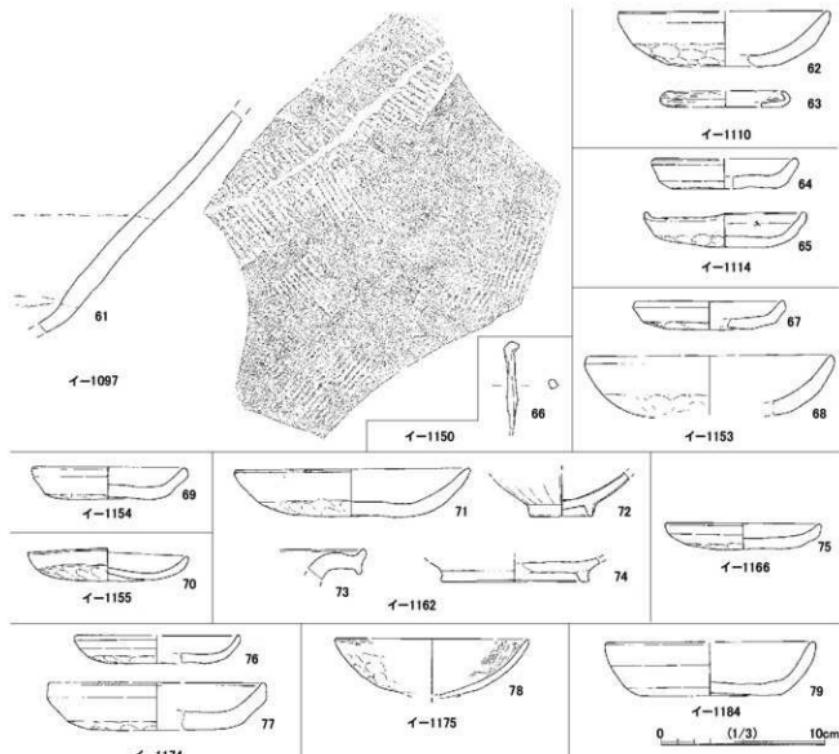


図13 上層遺構出土遺物(2)

より遡る可能性も皆無とはいえない。頼朝入部以前、12世紀第3四半期の鎌倉は父義朝や兄義平の活動拠点であり、彼らを支えた三浦氏一族の杉本氏は当地点の至近にある杉本寺にその名を残している。1点の土器を以てこれ以上の言及はできないが、こうした視点を与えてくれる希少な考古資料であることは述べておきたい。

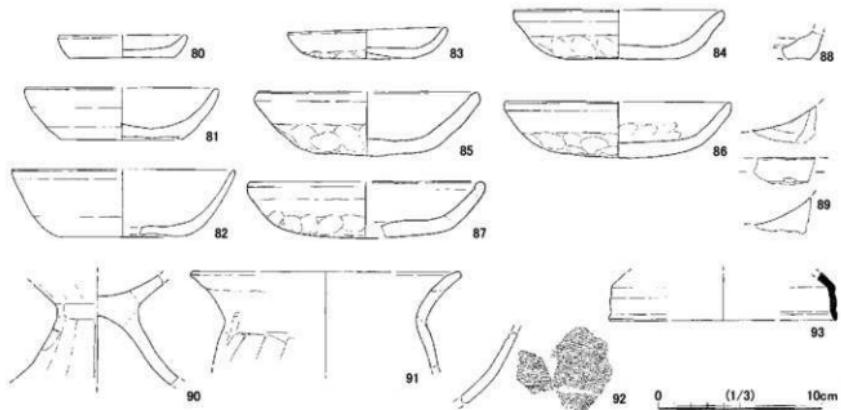


図14 下層遺構面までの出土遺物

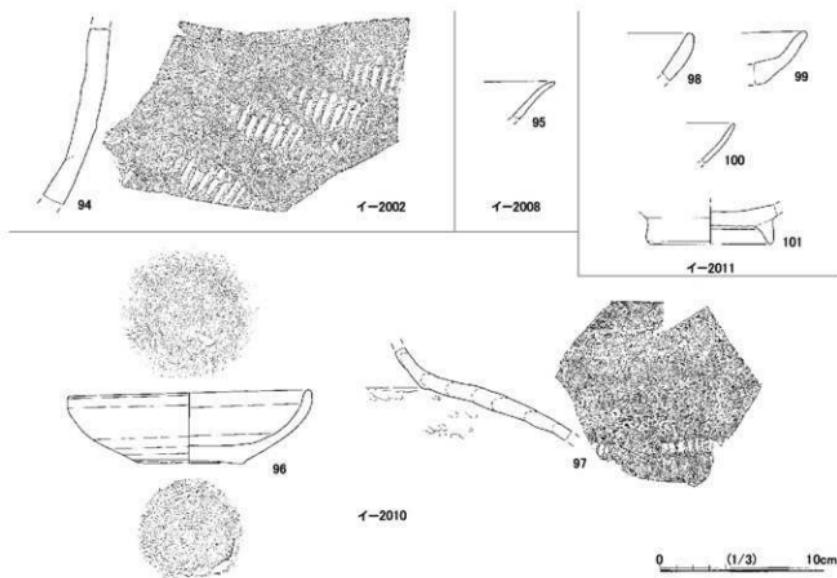


図15 下層遺構出土遺物

表3 出土遺物力カウント・計量表

道精外

遺構外②

遺稿外③

面	地区	瓦						陶製品					
		A類 紙片數 (枚)	B類 紙片數 (枚)	C類 紙片數 (枚)	その他 紙片數 (枚)	A類 紙片數 (枚)	B類 紙片數 (枚)	C類 紙片數 (枚)	鉢	瓶	鋤	鉗	輪の羽口
不明	不明												
表深	I・II区	1	220	1	686	1	462	1	70	1	151	1	5
槽台	I・II区	2	611	3	874	5	686	1	462	1	4	2	17
上層構造まで	I・II区												
下層構造まで	I・II区												
下層構造まで	漆喰1162回切 下層構造面下												
下層構造面下	漆喰1162回切 サブトレ(3)												

遺構外④

面	地区	石器・石製品						土師器					
		基石 紙片數 (枚)	礫 紙片數 (枚)	磯 紙片數 (枚)	不明 紙片數 (枚)	鐵 紙片數 (枚)	滑石 紙片數 (枚)	不明 紙片數 (枚)	高坏 紙片數 (枚)	比金型坏 紙片數 (枚)	甕 紙片數 (枚)	瓶 紙片數 (枚)	柵 紙片數 (枚)
不明	不明												
表深	I・II区												
槽台	I・II区												
上層構造まで	I・II区												
下層構造まで	I・II区												
下層構造まで	漆喰1162回切 下層構造面下												
下層構造面下	漆喰1162回切 サブトレ(3)												

遺構外⑤

面	地区	須恵器						灰陶陶器					
		壺 紙片數 (枚)	高台付壺 紙片數 (枚)	壺蓋 紙片數 (枚)	甕 紙片數 (枚)	瓶 紙片數 (枚)	柵 紙片數 (枚)	器種不明 紙片數 (枚)	壺 紙片數 (枚)	甕 紙片數 (枚)	瓶 紙片數 (枚)	柵 紙片數 (枚)	骨
不明	不明												
表深	I・II区												
槽台	I・II区												
上層構造まで	I・II区	7	32	1	19	1	7	8	171	3	24	6	69
下層構造まで	I・II区	9	60	4	38	3	62	51	175	26	589	1	7
下層構造面下	漆喰1162回切 下層構造面下												
下層構造面下	漆喰1162回切 サブトレ(3)												

遺構外⑥

遺構	かわらけ			白いわらけ			白磁			青白磁			青磁			施釉系青磁		
	口クロ 大・中		小	手づくね 大		小	合子身 大		盤	梅瓶		碗	合子身 大		盤	刷花文碗 (1種)		施釉系青磁
	幅行数 (cm)	面積 (cm <sup>2</sup> )	幅行数 (cm)															
1001																		
1002	46	496	12	130														
1003			1	7														
1004																		
1005	7	77	4	20	8	94	2	7										
1008	4	25				2	48											
1011						2	10											
1014						1	5											
1015										2	17	1	5					
1016	4	20	1	9	14	79	4	50										
1020	5	67			4	34	1	15	1	8								
1022																		
1025					1	7	1	17										
1026	1	12	1	1	17	155	5	34										
1027						2	6											
1028	2	11	2	9	3	23												
1029	1	17			6	69	1	18										
1030	4	44	2	6	9	76	1	21										
1030																		
1034						2	19	1	4									
1031	2	10	2	5	3	24	2	9										
1032		1	22	2	15	0												
or1032	1	6			2	45	1	7										
1034	4	19	2	25	13	136	4	14										
1036	9	65	8	111	25	274	14	46		1	2	1	7	1	2	9		
1037						5	55	2	6									
1038	16	119	13	49	37	279	15	66										
1040	11	69	3	16	5	31												
1041																		
1042																		
1043	1	3				2	10	1	3		1	12						
1044																		
1045																		
1046						6	235											

遺構	発掘日・実測				測量・計測				備前				土器			
	折縁数 破片数	入子 底付数	筒形香炉 破片数	不明 破片数	圓筒 破片数	直筒 破片数	片口鉢 1個 破片数	甕 破片数	手鉢 破片数	直筒 破片数	手鉢 破片数	火鉢 破片数	板用品 破片数	不明 破片数	小片 破片数	
1001	5	156	1	27	1	64	2	53	71	5595	1	72	6	547	1	84
1002																
1003																
1004																
1005																
1008																
1011																
1014																
1015																
1016																
1020																
1022																
1025																
1026																
1027																
1028																
1029																
1030																
1034																
1031																
1032																
1032																
or1050																
1034																
1036																
1037																
1038																
1040																
1041																
1042																
1043																
1044																
1045																
1046																

遺構	瓦質土器			瓦			陶製品			鉄製品			石製品・石			
	大林	平瓦	丸瓦	不明	鐵	銅	錫石	鐵石	錫片狀	鐵	錫片狀	鐵	錫片狀	鐵	錫片狀	石英
	破片數 (枚)	重置 (g)														
1001										1	23			1	156	
1002	6	590	12	160	3	623										
1003																
1004																
1005										2	19					
1008																
1011																
1014																
1015																
1016																
1020																
1022																
1025																
1026									1	8						
1027											1	4				
1028																
1029																
1030																
1034																
1031										1	3					
1032												2	11			
or 1050																
1034																
1036																
1037																
1038										2	14	1	9			
1040															1	6
1041															1	51
1042																
1043																
1044																
1045																
1046																

遺構	土師器										ロクロ土師器 ・土師質土器										
	破片數	坏	高坏	比金型坏	相模型坏	武藏型壞	ケズリ壊	台付壊	壊	鉢	碗	不明	坏	高台付壊	壊	鉢	碗	不明	坏	高台付壊	壊
	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)	(枚)
1001	3																				
1002																					
1003																					
1004																					
1005																					
1008																					
1011																					
1014	3																				
1015																					
1016	5																				
1020	6																				
1022	1																				
1025																					
1026																					
1027																					
1028	1																				
1029																					
1030																					
1030																					
1034																					
1031																					
1032																					
1032	1																				
or1050																					
1034	2																				
1036	115																				
1037																					
1038																					
1040																					
1041																					
1042																					
1043																					
1044																					
1045	1																				
1046	2																				

遺物	古式土断器			須惠器			灰釉陶器			不明
	劍	壺	环	高台付环	环	壺	瓶	壺	瓶	
	破片数	重置 破片数	重置 破片数	破片数	重置 破片数	重置 破片数	破片数	重置 破片数	重置 破片数	
1001										
1002	2	5					3	39		
1003										
1004										
1005							1	29		
1006							2	64		
1011										
1014							2	27		
1015										
1016										
1020							1	111		
1022										
1025										
1026							2	29		
1027										
1028										
1029							1	21		
1030							1	142		
1034										
1031										
1032										
1032?										
1050?										
1034										
1036	21	267	7	129	1	7	20	153	2	35
1037										
1038							1	3	6	142
1040							1		1	5
1041										
1042										
1043										
1044										
1045										
1046										



遺構	新製品		石		土器		占式土器		須恵器		灰陶器		陶		不明陶器		
	紙片數	重	白色石	紙片數	重	燒	紙片數	重	高台付	紙片數	重	燒	紙片數	重	不明	小造	不明
1049				1	8'	1	9		1	27							
1050																	
1051																	
1052	1	6			3	9									1	6	
1054				4	12	2	32								1	35	
1056						1	10				1	1			1	9	
1057						1	4										
1058				3	18	4	40		2	19					1	4	
1060															1	15	
1061															1	12	
1063						1	2								1	28	
1064						1	8										
1065																	
1067																	
1069				1	2	4	38		1	19							
1070																	
1071				8	25	3	40										
1072						1	25										
1073																	
1074																	
1076															1	1	
1078																	
1079									1	7							
1085																	
1086																	
1087																	
1088																	
1092																	
1093	2	9							1	7		1	5				
1094																	
1095				1	17			2	17	2	66			1	6	1	14
1097																	

遺構	口クロ			手づくね			白筋・青筋			尾張・常滑			土器			瓦器			
	大・中 施片数	小 施片数	大 施片数	小 施片数															
1101	1	14		13	106	4	11									4	10		
1102	3	23	3	11	21	217	3	10							1	.32	22	.49	
1103	9	165	3	12	14	201	5	23									4	.9	
1106	1	12																	
1108																			
1099	3	25	1	5	6	182	3	9							1	.35	2	.6	
1110	3	24		7	97	2	30								1	.16	1	.8	
1111	1	21		4	30											1	.2		
1112				4	43	2	5												
1113				3	.56														
1114	7	.69	7	74	150	152	59	.77							1	.44	.65	.97	
1115				1	6											4	.8		
1116	2	8	11	.79	8	.69										11	.28		
1117																1	.3		
1118									1	9	2	11						1	.45
1120				9	.65	3	.68		1	7						1	.2		
1121	3	.41	1	.13			1	.4				1	.4						
1123																	1	.5	
1124									3	11							1	.3	
1125									1	.2							3	.9	
1126																2	.6		
1127	2	14		1	.15	1	.13									1	.5		
1128																	1		
1129	3	17	2	12	4	.36	5	.39											
1131					2	.22													
1132												1	J						
1133				1	J1														
1134				1	8	2	7								1	.86			
1135	1	13															1	J	
1137																6	18		
1138					2	J4										5	J7		
1139					12	.154									1	J4		.5	
1140																		.5	

通稱	土壤剖面			凋落物			灰輪調節			不明
	坏	熟	湿	不明	坏	熟	湿	不明	灰	
	腐片數 (c)									
1101										
1102		2	9							
1103							1	33		
1106										
1108										
1089	1	5	2	8			1	11		1
1110										5
1111										
1112		3	35				2	11		1
1113										24
1114	1	4	2	7			1	10		
1115		1	7							
1116		5	16	1	16					
1117	1	5					1	2		
1118										
1120	4	16	2	8			1	31	1	10
1121										
1123										
1124	2	8	2	5						
1125										
1126	1	4					1	1		
1127		1	7							
1128		3	14							
1129		2	16					1	47	
1131		2	7				1	4		
1132					1	16				
1133										
1134	5	26	2	17						
1135										
1137		3	9			1	6			
1138										
1139		1	10							
1140		2	9				1	3		

遺構	かくらうけ			手づくね			手づくね			白小わらげ			黒花文綬			尾瀬・宮浦			瓦屋			瓦質土器			鉄製品				
	口クロ	大・中	小	大	小	内折打	小片	手づくね	新花文綬	(1點)	小	黒花文綬	(1點)	黒花文綬	(1點)	片口鉢	盃	1頭	片口鉢	小片	火鉢	瓦面	瓦底	瓦質	鐵	施行数	施行数		
	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数	施行数		
1141																													
1142																													
1143		2																											
1145					1																								
1146																													
1147	6	5d	1	3	7	100	2	19																					
1148																													
1149																	1	d											
1150	2	g																											
1153	6	5d	1	3	24	238	16	105											1	J2									
1153	1	5		2	28	1	7																						
1154	1	7		6	5d	1	85																						
1155																													
1156																													
1159																													
1162	4	5d	8	5d	92	773	15	68	1	5	15	46					1	25		1	26	15	23						
1163																			3	II									
1164																													
1165																													
1166																													
1167	3	16	1	10	20	172	7	67	1	10		1	6			1	40	1	8		3	I6					1	5	
1168																													
1172																	1	I6											
1173		2																											
1173																													
1174																													
1175		3	29	19	274	5	37											2	II7										
1176		1	6	8	89																								
1178																	1	I0											
1179																													
1183																													
1184	1	97	1	7	5	55																							

上層遺構⑩

測號	土器器				口侈土陶器 • 土陶質土				須惠器				灰釉陶器			
	白色石	灰	相模型陶	美	灰	蓋	高台付环	灰	片茎	灰	灰片數	灰	瓶	碗	灰	灰
	灰片數 (枚)	灰片數 (枚)	灰片數 (枚)	灰片數 (枚)		灰片數 (枚)	灰片數 (枚)	灰片數 (枚)	灰片數 (枚)	灰片數 (枚)	灰片數 (枚)		灰片數 (枚)	灰片數 (枚)	灰片數 (枚)	
1141																
1142																
1143																
1145		1	2													
1146								1	2							
1147								2	36							
1148		1	9					3	18							
1149																
1150								3	15							
1153																
1154																
1155																
1156								4	11							
1159		6	22	6	57	3	11	1	4	1	25	1	9	1	18	
1162																
1163		1	6													
1164								2	14							
1165								3	19			1	10			
1166														1	29	
1167									5	23				2	165	
1168									1	12						
1172																
1173																
1173																
1174	1	45	19	179	31	241	10	172		1	39	7	38	1	23	45
1175								16	192					1	8	3
1176								1	3					4	266	1
1178																3
1179									4	23						
1183									1	7				1	4	
1184									1	5				1	2	

遺構	かわらけ			常滑			土器			土瓶器			ロクロ土瓶器			古式土瓶器			土器			灰釉陶器				
	大 紙片數 (枚)	小 紙片數 (枚)	内折れ 紙片數 (枚)	軽用片 紙片數 (枚)	小片 紙片數 (枚)	石 紙片數 (枚)	白色石 紙片數 (枚)	坏 紙片數 (枚)	台付焼 紙片數 (枚)	壺 紙片數 (枚)	壺 紙片數 (枚)	不明 紙片數 (枚)	長颈瓶 紙片數 (枚)	土師質土 紙片數 (枚)	土師質 紙片數 (枚)	壺 紙片數 (枚)										
1185	3	229	1	3				4	7	1	39					1	6									
2001								1	381							1	12									
2002																										
2004																										
2005																	1	2	1	5						
2006																	1	8		5	31	2	22			
2007																	1	4	1	4					1	9
2014								1	2							1	4									
上層遺構(?)																										

遺構	常滑			土瓶器			・土師質土			古式土瓶器			須恵器			壺			壺			壺			壺		
	常 紙片數 (枚)	燒 紙片數 (枚)	坏 紙片數 (枚)	相模型壺 紙片數 (枚)	壺 紙片數 (枚)	碗 紙片數 (枚)	壺 紙片數 (枚)																				
2008	6	57	1	7												2	11	1	11	3	33			1	15		
2009	2	80	2	18												2	23	1	23					3	11	1	34
2010	1	208	1	5	1	8	7	5	47	1	5	4	31		3	15	1	23	5	114	2	12		1	34	2	
2011		28	115	31	112																						
2012																											
2013																											
2015																											
2016																											
下層遺構																											

表4 出土遺物観察表

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整 ガフ ササ付	外底面圧痕 板状 1/3状	色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
<b>表面探査・表土出土遺物(図10)</b>											
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.4)	1.5	1/3		○		○	黄灰 雲母
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	5.2	1.6	2/3		○		○	黄灰 雲母
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	7.3	1.6	ほぼ完形	[62]	○	○		灰黄 白針・雲母、砂質
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.7	1.5	ほぼ完形	[49]	○	○		黄橙 白針・雲母
5	磁器	龍泉窯系青磁 刻花文碗	—	—	[2.8]	口小片					緑灰 半透明 大宰府I-4類
6	磁器	龍泉窯系青磁 刻花文碗	(12.0)	—	[3.6]	口~ 体1/6					緑灰 半透明 大宰府田類
7	磁器	龍泉窯系青磁 刻花文碗	—	—	[1.7]	口小片					緑灰 半透明 大宰府田類
8	陶器	常滑 甕	—	—	[5.7]	口小片					褐色 白色粒・黒色粒
9	陶器	常滑 転用研磨具	長さ 7.8	幅 5.7	厚さ 1.5	甕口片	107				暗赤褐色 便6b型式 口縁部片を転用 白色粒・黒色粒
10	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.6	狹端面 片側面					灰 D類 小窓・赤色粒・気泡 白面斜格子文叩き+ハケメ
<b>上層遺構までの出土遺物(図11)</b>											
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.1	1.5	1/2		○			淡黄橙 白針・雲母
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.3	1.6	4/5		○	○		黄橙 白針・雲母
13	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.4	1.6	口1/2~ 底完形		○		○	黄橙 白針・雲母 内外面煤付着
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.2	1.6	2/3		○	○		黄橙 白針・雲母
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.1	1.8	口1/2~ 底完形		○			明黄灰 白針・雲母
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(7.0)	2.0	1/2		○			橙 白針・雲母
17	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.3	1.3	ほぼ完形	[45]	○		○	黄橙 白針 口縁部煤付着
18	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	7.4	3.4	ほぼ完形	[146]	○			灰橙 白針・雲母、細砂質 硬質
19	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	2.0	4/5		○			淡黄 ロクロ成形の可能性あり
20	土器	手づくね かわらけ・大	(8.8)	—	1.2	1/4		○			橙 内折れ 白針
21	土器	手づくね かわらけ・大	(9.2)	—	1.6	1/3		○			橙 白針・雲母 バックスキン状の内底ナデ
22	土器	手づくね かわらけ・大	14.3	—	3.2	ほぼ完形	[184]	○			淡黄 白針・雲母、砂質 口縁部指抜き強く残る
23	土器	手づくね かわらけ・大	14.9	—	3.5	ほぼ完形	[288]	○			淡黄橙 白針・雲母
24	磁器	龍泉窯系青磁 束口碗	(11.0)	—	[2.3]	口1/8					緑灰 半透明 大宰府I-6b類
25	陶器	常滑 甕口鉢I類	(31.0)	(15.9)	12.8	口1/8~ 底1/5					灰 長石・黒色粒
26	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.0	1/4以下					黑灰 凹面離れ砂 凸面綱目叩き+離れ砂
<b>上層遺構出土遺物(1)(図12)</b>											
27	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.6	1.8	ほぼ完形	[52]	○	○		黄灰 瓈構1002上層 白針・雲母
28	磁器	龍泉窯系青磁 刻花文碗	—	—	[3.0]	口小片					灰綠 透明 瓈構1002上層 大宰府I-4類
29	陶器	漬戸 折縁皿	—	—	[2.4]	口小片					灰白 瓈構1002上層 軟質 施釉
30	陶器	漬戸 折縁深皿	—	—	[3.7]	口小片					淡黃灰 瓈構1002上層 軟質 施釉
31	陶器	常滑 片口鉢II類	—	—	[6.8]	口小片					褐 瓈構1002上層 白色粒
32	陶器	備前 攝鉢	—	—	[6.9]	口小片					暗灰 瓈構1002上層 河野田(Ⅲ)類 菊文花スタンプ
33	瓦質土器	火鉢	—	—	[7.2]	口小片					

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 出土ほかの特徴
			口径	底径	器高			ナメ	村井状	板状	X/△状		
34	瓦質土器	火鉢	—	—	[10.6]	底小片						灰	遺構1002 河野6(Ⅲ) 頸輪花形 菊花文スタンプ
35	陶器	深美甕	—	—	[12.9]	胴小片						灰	遺構1003 白色粒
36	土器	軒用円盤	長さ 2.0	幅 2.1	厚さ 0.7	完形	2.6					橙	遺構1011 雲母 八角形
37	磁器	龍泉窯系青磁 小碗	—	3.2	[2.5]	底2/3						暗灰緑 不透明	大宰府I 稲作
38	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	1.3	1/2	○					淡橙	遺構1016 雲母
39	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	1.4	1/4	○		○			黄灰	遺構32A 雲母、砂質 口縁部煤付着
40	陶器	須恵器 甕	(18.4)	—	[4.3]	口1/6						暗灰	遺構1020 石灰
41	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.0)	2.0	1/4	○					赤橙	遺構1036 白針・雲母、細砂質
42	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	7.3	2.0	3/4	○					遺構1036 白針・雲母	
43	土器	ロクロ かわらけ・大	—	6.2	[1.3]	3/4	○					橙範	遺構1036 白针・雲母
44	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.0	1/8	○					灰白	遺構1036 白針
45	土器	土師器 杯	(16.2)	—	5.3	口小～ 底2/3						黄橙	遺構1036 白針 外底焼けむらによる黒斑
46	磁器	青白磁 輪花瓶	—	—	[0.8]	口小片						淡青 透明	遺構1036
47	陶器	常滑 甕	—	—	[15.4]	胴小片						褐	遺構1036 長石・黑色粒
48	土器	土師質土器 杯	(13.0)	6.2	3.2	口小～ 底2/3	○					褐	遺構1036 白針・雲母、砂質感強い
49	土器	土師器 高台付杯	—	6.8	[2.3]	底完形						黄橙	遺構1036 白針 硬質 内底面放射状暗文 甲型模倣
50	土器	土師器 甕	(12.8)	—	[7.3]	口1/6						褐	遺構1036 白針・雲母
51	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	1.9	1/2	○					褐	遺構1056 白針・雲母
52	土器	手づくね かわらけ・中折	(6.6)	—	1.6	1/4	○					褐	遺構1057 雲母
53	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(6.0)	2.2	口小～ 底1/2	○		○			黄灰	遺構1058 白針・雲母
54	陶器	灰釉陶器 瓶	—	(7.0)	[1.7]	底1/4						灰	遺構1067 E90 or D53式 白色粒
55	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.3	1/4	○					黄灰	遺構1046 白針・雲母 口縁部煤付着
56	土器	手づくね かわらけ・大	(16.0)	—	3.4	1/4	○					褐～黄灰	遺構1046 白針・雲母、砂質
57	磁器	青白磁 翻花文碗	—	(4.8)	[3.6]	体～ 底1/6						青灰 半透明	遺構1046
58	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	[1.7]	口1/3						黄灰	遺構1076 白針・雲母
59	土器	手づくね かわらけ・小	8.5	—	1.4	完形	49	○				褐	遺構1095 白針・雲母
60	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	1.6	1/2	○					黄灰	遺構1095 白針・雲母、砂質 焼成前に竹管状压痕
上層遺構出土遺物(2)(図13)													
61	陶器	常滑 甕	—	—	[13.4]	胴小片						暗範	遺構1097 白色粒 硬質 胴部外面ランダム押印
62	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	—	[3.4]	1/4	○					黄橙	遺構1110 白針
63	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.4)	1.9	1/3	○					灰黄	遺構1114 白針
64	土器	手づくね かわらけ・小	9.7	—	2.3	ほぼ完形	[73]	○				褐	遺構1114 白針 口外面～内面煤付着
65	鉄製品	釘	長さ (5.4)	幅 0.5	厚さ 0.6	下端欠損	[4.1]					—	遺構1150
66	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.7	1/3	○					褐	遺構1153 白針・雲母
67	土器	手づくね かわらけ・大	(15.0)	—	[3.7]	口～ 底1/4	○					褐	遺構1153 白針・雲母
68	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	2.0	完形	85.0	○				灰黄～褐	遺構1154 白針 口唇部煤付着

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	重量 (g)	内底面調整 ガフ 999状	外底面圧痕 板状 スル状	色調	出土遺構・ 跡土ほかの特徴
			口径	底径	器高						
69	土器	手づくね かわらけ・小	9.9	—	2.0	完形	56	○		根	遺構1155 白針・雲母
70	土器	手づくね かわらけ・大	14.3	—	3.0	ほぼ完形 [201]	○			にぶい根	遺構1162 白針・雲母 口縁部煤付着
71	磁器	龍泉窯系青磁 蓮瓣文碗	—	3.8	[2.6]	底1/2				青灰 不透明	遺構1162 大宰府里類
72	陶器	常滑 甕	—	—	[1.8]	口小片				暗褐	遺構1162 白色粒・黒色粒
73	陶器	須恵器 高台付环	—	(9.0)	[1.4]	底1/4				灰	遺構1162 白色粒
74	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	1.7	完形	75	○		黄灰	遺構1166 白針・雲母
75	土器	手づくね かわらけ・小	(10.0)	—	1.7	口～ 体1/4	○			黄灰	遺構1174 白針
76	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	—	2.9	口～ 体1/6	○			黄灰	遺構1174 白針・雲母
77	土器	吉備系 碗	(11.8)	—	[3.6]	1/6				灰白～暗灰	遺構1175 高台削落 口縁部煤付着
78	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	9.0	3.3	1/2	○	○	○	黄根	遺構1184 白針
下層遺構面までの出土遺物(図14)											
79	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.5)	1.4	1/2	○			根	白針
80	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(7.5)	3.2	1/2	○			黄根	白針 外面～口縁部内面淡黑色 に変色
81	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.7)	(7.5)	4.1	1/2	○			根	白針
82	土器	手づくね かわらけ	(7.0)	—	1.0	口～ 体1/4				暗灰	内折れ・堅織 内外面ミガキ調整
83	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	—	1.7	1/2	○			黄灰	白針
84	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	3.0	1/2				淡黄灰	白針・雲母 口縁部煤付着
85	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	3.9	口1/4～ 底3/4	○			黄根	白針
86	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.4	1/4	○			黄根	白針 粘土板結合法による成形
87	土器	手づくね かわらけ・大	(14.2)	—	3.5	1/3	○			根	白針
88	陶器	絞釉陶器 器種不明	—	—	[1.7]	底小片				綠灰	
89	瓦質土器	風炉	—	—	[1.7]	小片				暗灰	
90	土器	土師器 高环	—	—	[6.6]	环底～ 脚片				淡黄灰	白針・角閃石 古墳後期
91	土器	土師器 甕	(16.4)	—	[5.8]	口～ 脚1/4				角閃石 口縁部煤付着	
92	土器	土師器 甕	—	—	[4.3]	胸小片				根	下層遺構面下⑨ ⑩ ⑪ 白色粒・黒色粒
93	陶器	須恵器 环底	(13.8)	—	[2.9]	口1/8				灰	
下層遺構出土遺物(図15)											
94	陶器	常滑or諸美 甕	—	—	[10.7]	胸小片				明褐	遺構2002 白色粒・砂質感強い、
95	土器	ロクロ土師器 甕	—	—	[2.3]	口小片				にぶい根	遺構2008 白針・雲母
96	土器	土師質土器 甕	14.9	6.4	4.6	完形	241			内面淡根褐 外表面～灰褐	遺構2010 白針・石英粒 外底全面黒色に変色
97	陶器	常滑 甕	—	—	[5.6]	頭小片				褐	遺構2010 長石粒
98	土器	土師質土器 甕	—	—	[2.9]	口小片				根	遺構2011 白色粒
99	土器	土師質土器 甕	—	—	[3.2]	口小片				根	遺構2011 白針・雲母
100	土器	土師質土器 甕	—	—	[2.4]	口小片				黄灰	雲母 外面煤付着
101	陶器	灰釉陶器 甕	—	(7.3)	[2.4]	底1/6				灰	遺構2011 白色粒

## 第五章 調査成果のまとめ

ここまで、簡略な説明を行ってきた。6443m<sup>2</sup>という狭い範囲の調査であり、鎌倉後期以降の整地面が削平により失われてはいたが、こうした中でも平安末期～鎌倉前期を中心とした幾つかの知見を得ることができた。以下、要点を整理して本報告のまとめとしたい。

上層遺構群は鎌倉前期以降に属し、掘り込み面は削平されていたものの、鎌倉後期～南北朝期の井戸や東西溝といった遺構も検出されている。注目されるのは鎌倉前期の東西溝（遺構1036）と、これに並行する柱穴列2列で、前者は永福寺方面に向かう「二階堂大路」の南側溝である可能性が高い。断面形態・埋土様相・出土遺物の傾向などから、鎌倉前期でも比較早い段階に埋没したことが想定される。明確な根拠を示せず多分に感覚的な見解に過ぎないが、13世紀第2四半期でも早期にうちに機能廃絶、埋没に至ったと考えている。この北隣では、概ね同方向で延びる新しい段階の東西溝（遺構1001）をごく部分的だが確認しているので、13世紀中頃前後には大路側溝が北に移動した可能性を指摘できる。柱穴列については、2列同時存在の可能性も含め明確な復元案を示せないが、埋土様相から東西溝1036と同時に存在した可能性が高く、溝に近接し過ぎている点から、建物よりは板塀（2列併存であれば築地塀）など区画・遮蔽施設であった可能性が高い。二階堂大路に関する考古学的知見については第一章で述べた通りであるが、今後、関連事例の成果が蓄積される中で検討が進むことに期待したい。また、二階堂大路や関連施設の在り方とともに、そこに接して展開したであろう土地利用の具体像についても注目したい。

下層遺構群は中世基盤層の上面を掘り込み層としており、層位的には上述した遺構1036など、鎌倉初期～前期の遺構より確實に古い。東西・南北・蛇行など数条の小規模な溝が検出され、概して埋土中からの出土遺物は僅少であった。こうした中、東西溝（遺構2010）からは溝底付近で完存する土師質土器の壺が出土しており、器形・法量・整形技法などの諸点で鎌倉出土の「かわらけ」でも最古の部類、或いはそれを若干遡る可能性に言及した。その可否は今後の土器研究に委ねたいが、遺物自体の特徴に加え、出土層位・伴出遺物に関しても一定の情報を提示できたことで、研究の進展に寄与できるものと期待している。おそらく、大倉地区では中世基盤層まで調査できれば本例と同様の事例が僅かずつでも追加されて行くだろう。筆者自身、今後の調査に当たっては十分に留意したい。

今回、中世の遺構埋土や遺物包含層から古代以前の出土遺物が一定量みられた。中世基盤層の上面や、その下位層でも所産時期を確定できる古代の遺構は確認されなかったが、中世層への遺物混入量を見ると、下層遺構群の溝の中には平安時代を遡る事例があるかもしれない。本地点でなくとも、近隣に古代遺構が展開することは、周辺での調査例からも明らかである。本地点では古墳時代前・後期の土器が目立つ印象を受けたが、奈良・平安時代の資料も確実に存在する。いずれにせよ、大倉地区が「賴朝以前」の鎌倉を再現するに当たり重要なエリアであることは間違いない。

参考文献は第一章末（304頁）に記載した。

## 付編 大倉幕府周辺遺跡群の自然科学分析

パリメ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

大倉幕府周辺遺跡群（神奈川県鎌倉市雪ノ下に所在）は、大倉幕府跡（大倉御所）の推定地をコの字状に取り囲む範囲とされており、源頼朝入府以前から交通の要塞となっていたとされる。大倉御所の周囲には御家人などの屋敷が存在していたと推定されており、鎌倉時代後期になると商業地域となっていたと推定されている。これまでの発掘調査の結果、建物跡や井戸跡などが検出されている。今回は、調査区周辺の古植生などに関する情報を得るために、花粉分析と植物珪酸体分析を実施した。

### 1. 試料

II区北壁の土層断面より採取され、分析調査用に選択された土壤試料3点（試料番号1,2,4）である。これら3試料は、試料番号1が黒褐色砂質シルト～粘土、試料番号2が赤黒色礫混じり砂質シルト～粘土、試料番号4が黒色礫混じり砂質シルト～粘土からなる。なお、分析の際は、同一試料を各分析項目で分割して用いた。

### 2. 分析方法

#### （1）花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的の処理を施して花粉を濃集する。

残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉（1973）、中

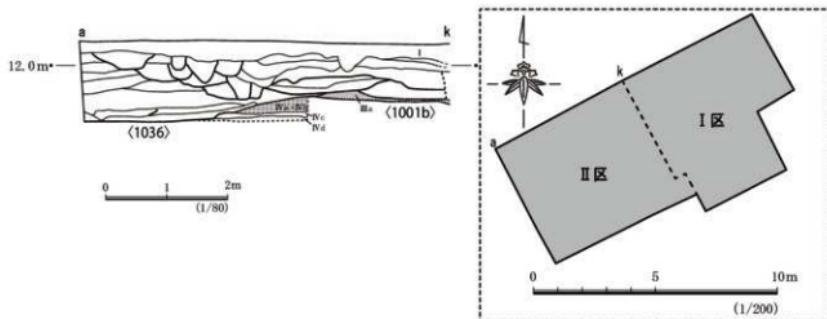


図1 試料採取箇所

村(1980)、三好ほか(2011)などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。

## (2) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤(2010)の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を計量し、乾土1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を乾土1gあたりの個数に換算)を求める。

結果は、検出された植物珪酸体の分類群と植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め(100単位にする)、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

## 3. 結果

### (1) 花粉分析

結果を表1に示す。II区北壁の3点(試料番号1,2,4)では、いずれも検出される花粉化石数は少なく、定量分析を行うだけの個体数は得られない。

僅かに検出された種類は、木本花粉ではモミ属、マツ属、スギ属、草本花粉ではイネ科やアカザ科である。

これらの保存状態は悪く、花粉外膜が壊れている、あるいは溶解している状態である。

なお分析残渣中には、微細な炭化植物片(いわゆる微粒炭)が含まれている。プレパラート内の状況写真を図版1に示す。

### (2) 植物珪酸体分析

結果を表2、図1に示す。

II区北壁の3点(試料番号1,2,4)からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。

植物珪酸体含量は各試料で異なり、試料番号1が8,100個/g、試料番号2が6,700個/g、試料番号4が12,100個/gである。

各試料での産状は同様であり、メダケ属を含むタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属やススキ属などを伴う。また栽培植物であるイネ属が産出し、葉部の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が見られる。

表1 花粉分析結果

種類	II区北壁		
	1	2	4
<b>木本花粉</b>			
モミ属	1	-	-
マツ属	-	-	2
スギ属	-	1	-
<b>草本花粉</b>			
イネ科	-	-	1
アカザ科	1	-	-
<b>シダ類胞子</b>			
イノモトソウ属	2	3	30
他のシダ類胞子	10	-	21
<b>合計</b>			
木本花粉	1	1	2
草本花粉	1	0	1
シダ類胞子	12	3	51
合計	14	4	54

その含量は少なく、試料番号1と2がともに短細胞珪酸体200個/g、機動細胞珪酸体400個/g、試料番号4の短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体がいずれも100個/g未満である。

試料番号1と2では糊(類)に形成される顆粒酸体や葉部の短細胞列も検出される。

イネ科以外に、樹木起源としてクスノキ科葉部に由来した植物珪酸体が多く検出される。また植物珪酸体の他に珪藻殻も認められる。

#### 4. 考察

II区北壁から採取された3試料では、花粉化石がほとんど検出されず、古植生推定のための定量解析を行うことができなかった。

一般的に花粉やシダ類胞子は、腐蝕に対する抵抗性が種類により異なっており、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている(中村, 1967; 徳水・山内, 1971; 三宅・中越, 1998など)。検出された木本類はモミ属、マツ属、スギ属で、いずれも針葉樹由来である。草本類のイネ科やアカザ科は、抵抗性の強い種類や分解が進んでも同定可能な種類である。花粉外膜が破損している、あるいは溶解している状況も踏まえると、堆積時に取り込まれた花粉は後代の経年変化により分解や消失したと考えられる。しかし、検出された種類からII区北壁の土層が形成された頃に少なくともモミ属やマツ属、スギ属などの針葉樹、イネ科やアカザ科などの草本類が周辺地域に生育しており、そのような場所から花粉が飛来したと考えられる。

また、植物珪酸体で検出された分類群からは、イネ科の中にメダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属が含まれていたことがうかがえる。堆積物1gあたりに含まれる植物珪酸体含量は3試料ともそれほど大差なく、また全体的に少ない。このことから、比較的堆積速度が速かったことが想定される。また、産出の目立ったタケ亜科の植物珪酸体は他のイネ科と比較して風化に強く、生産量の多い点がこれまでの研究から指摘されており(近藤, 1982; 杉山・藤原, 1986)、他の種類よりも残留しやすいことが知られている。今回の産状もタケ亜科が土層中に相対的に多く残留したために、その産出が目立つ結果になったと考えられる。

そのほか、クスノキ科葉部の植物珪酸体が多く検出されたことから、針葉樹の他に樹木が生育していたと思われる。クスノキ科は、日本ではタブノキをはじめ常緑広葉樹の構成種を多く含む。また、これらの種類の花粉は分解しやすい性質なため花粉分析において検出されることがない。おそらく、遺跡の後背地など比較的の付近には、これらクスノキ科などをはじめとして常緑樹が生育していたとみられる。

表2 植物珪酸体含量

(個/g)

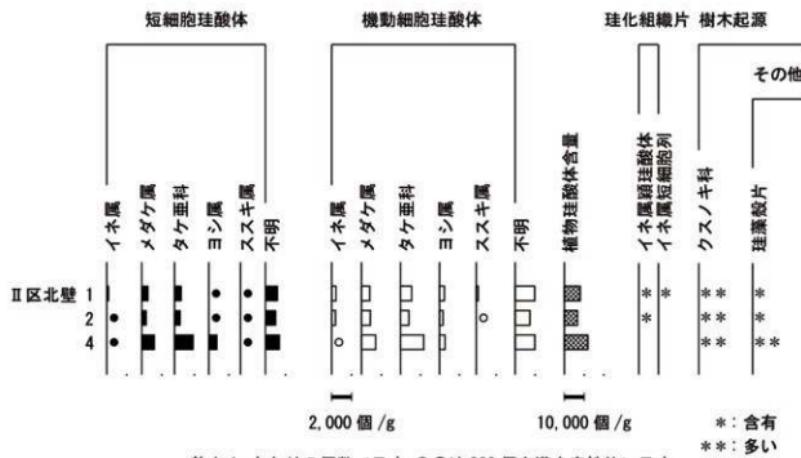
分類群	II区北壁		
	1	2	4
<b>イネ科葉部短細胞珪酸体</b>			
イネ属	200	200	<100
メダケ属	600	500	1,300
タケ亜科	700	600	1,900
ヨシ属	100	200	800
ススキ属	<100	100	<100
不明	1,200	1,100	1,500
<b>イネ科葉身機動細胞珪酸体</b>			
イネ属	400	400	<100
メダケ属	800	900	1,400
タケ亜科	1,100	900	2,400
ヨシ属	500	400	600
ススキ属	200	200	-
不明	2,000	1,500	2,000
<b>合計</b>			
イネ科葉部短細胞珪酸体	3,000	2,500	5,600
イネ科葉身機動細胞珪酸体	5,100	4,200	6,500
<b>植物珪酸体含量</b>	<b>8,100</b>	<b>6,700</b>	<b>12,100</b>
<b>珪化組織片</b>			
イネ属顆粒珪酸体	*	*	-
イネ属短細胞列	*	-	-
<b>樹木起源珪酸体</b>			
クスノキ科	**	**	**
その他			
珪藻殻片	*	*	**

含量は、10の位で丸めている(100単位にする)

合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている

<100: 100個/g未満

-: 未検出, \*: 含有, \*\*: 多い



乾土 1gあたりの個数で示す。●○は 200 個未満を定性的に示す。

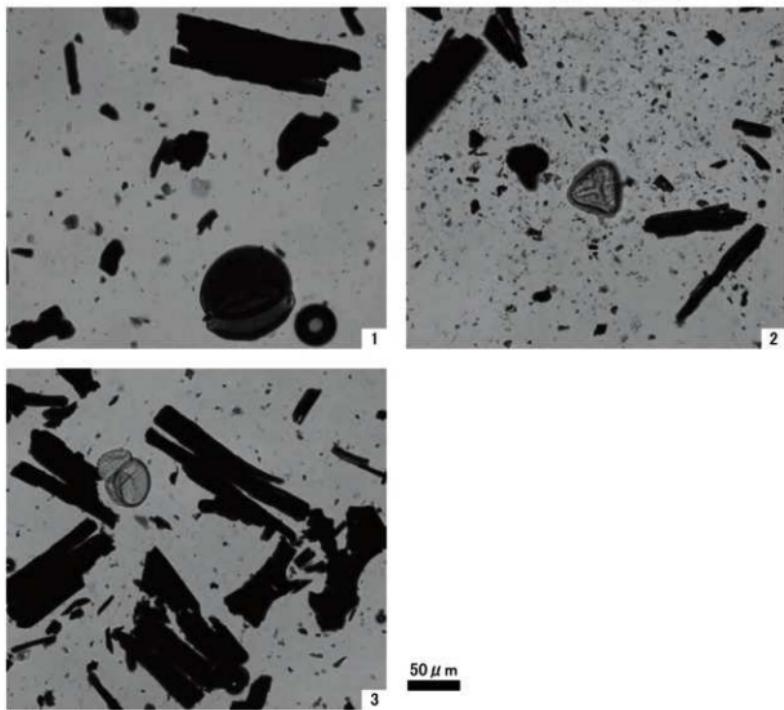
図2 大倉幕府周辺遺跡群の植物珪酸体含量

なお各試料からは、栽培植物であるイネ属がわずかに産出した。これより、II 北壁の土層が形成された頃に周辺で稲作が行われた可能性あるいはイネ属の植物体が何らかの生活資材(燃料材や住居構築材など)として利用された可能性が想定される。この点については、今後さらに当該期の土層を対象として堆積環境や植生に関する分析調査を実施し、発掘調査所見を含めて検討することが望まれる。

#### 引用文献

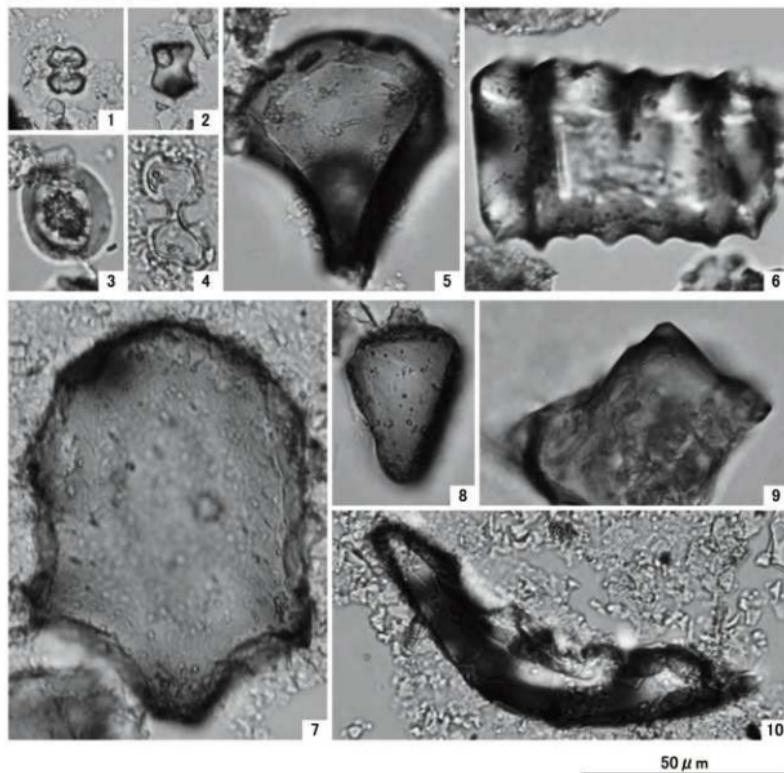
- 近藤鍊三,1982,Plant opal分析による黒色腐植層の成因究明に関する研究,昭和56年度科学的研究費(一般研究C)研究成果報告書,32p.
- 近藤鍊三,2010,プラント・オパール図譜,北海道大学出版会,387p.
- 三宅 高・中越信和,1998,森林土壤に堆積した花粉・胞子の保存状態,植生史研究,6,15-30.
- 三好教夫・藤木利之・木村裕子,2011,日本産花粉図鑑,北海道大学出版会,824p.
- 中村 純,1967,花粉分析,古今書院,232p.
- 中村 純,1980,日本産花粉の標識 I II (国版),大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12,13集,91p.
- 島倉巳三郎,1973,日本植物の花粉形態,大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集,60p.
- 杉山真二・藤原 宏志,1986,機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定-古環境推定の基礎資料として-,考古学と自然科学,19,69-84.
- 徳永重元・山内輝子,1971,花粉・胞子・化石の研究法,共立出版株式会社,50-73.

図版1 花粉分析プレパラートの状況



1. 分析プレパラート内の状況(Ⅱ区北壁:1)
2. 分析プレパラート内の状況(Ⅱ区北壁:2)
3. 分析プレパラート内の状況(Ⅱ区北壁:4)

図版2 植物珪酸体



1. イネ属短細胞珪酸体(II区北壁:2)  
2. メダケ属短細胞珪酸体(II区北壁:4)  
3. ヨシ属短細胞珪酸体(II区北壁:1)  
4. ススキ属短細胞珪酸体(II区北壁:2)  
5. イネ属機動細胞珪酸体(II区北壁:1)  
6. メダケ属機動細胞珪酸体(II区北壁:1)  
7. ヨシ属機動細胞珪酸体(II区北壁:4)  
8. ススキ属機動細胞珪酸体(II区北壁:2)  
9. イネ属頸珪酸体(II区北壁:2)  
10. クスノキ科葉部珪酸体(II区北壁:4)



1. 現地調査前（南東から）



2. I区 表土掘削状況（南から）



3. I区上層 全景（西から）



4. I区上層 遺構 1001・1036（東から）



5. 同左 低位から（東から）

図版2



1. I区上層 遺構 1001・1036（西から）



2. I区上層 遺構 1001 断面（西から）



3. I区上層 遺構 1036 断面（東から）



4. I区上層 遺構 1002（南から）



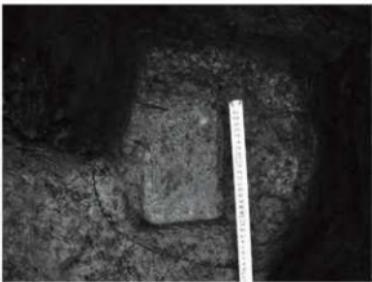
5. I区上層 遺構 1002 断面（南から）



6. I区上層 遺構 1014 断面（西から）



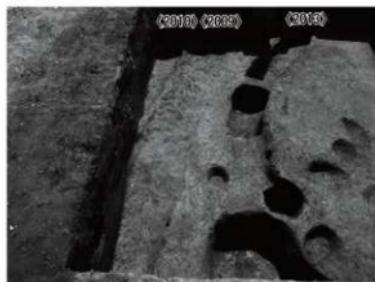
7. I区上層 遺構 1014 底面（西から）



8. I区上層 遺構 1014 底面の礎板痕跡（西から）



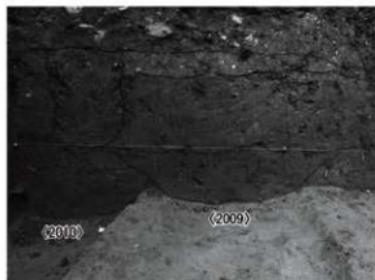
1. I区下層 全景（南から）



2. I区下層 遺構 2009・2010・2014（東から）



4. I区下層 遺構 2013 断面（東から）



3. I区下層 遺構 2009・2010 断面（東から）



5. I区下層下 トレンチ掘削状況（南西から）

図版4



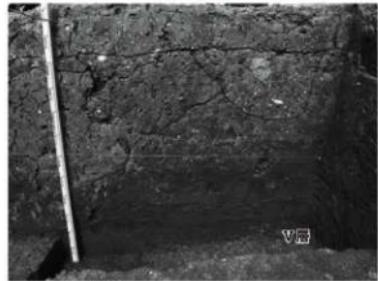
1. I区下層下 全景（北から）



2. I区下層下 トレンチ①底面（東から）



3. I区下層下 トレンチ①断面（北から）



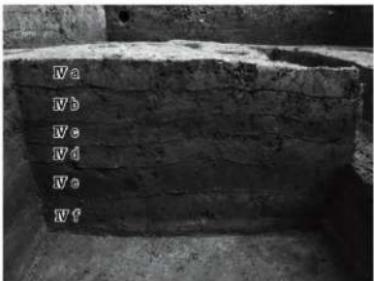
4. I区下層下 トレンチ①断面（西から）



5. I区下層下 トレンチ②（西から）



6. I区下層下 トレンチ②断面（西から）



7. I区下層下 トレンチ②断面（北から）



8. I区下層下 トレンチ②・③断面（北西から）



1. II区上層① 全景（西から）



2. II区上層② 全景（西から）

図版6



1. II区上層③～下層①全景（西から）



2. II区上層③ 遺構 1036（西から）



3. II区下層① 遺構 2009・2010（西から）



4. II区下層① 遺構 2010 土器出土状況（西から）



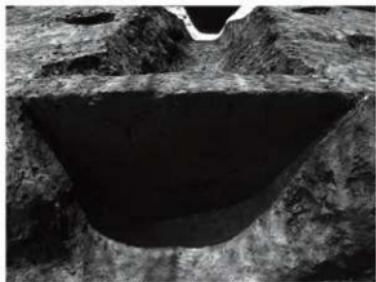
1. II区下層② 全景 (西から)



2. II区下層② 遺物 2011 検出状況 (北から)



3. II区下層② 遺構 2011 (南から)



4. II区下層② 遺構 2011 断面 (北から)

図版8



1. II区下層② 遺構 2013 (東から)



2. 同上 低位から (南西から)



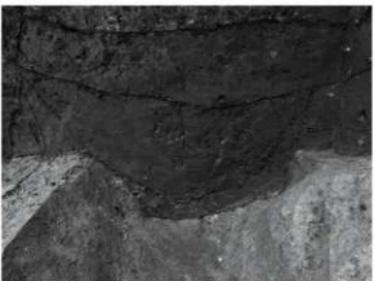
3. I区下層調査時 上層遺構 1162 (北から)



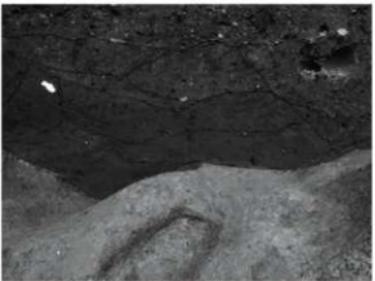
4. 同上 断面 (北から)



5. II区下層調査時 上層遺構 1036 断面 (東から)



6. II区下層 遺構 2011 断面 (北から)



7. II区上層遺構 1174・下層遺構 2009 断面 (東から)



8. II区北壁断面 土層サンプリング箇所(南から)





鎌倉城 (No.87)

西御門一丁目 68番94 地点

## 例 言

1. 本報告は、鎌倉市西御門一丁目68番94において実施した、鎌倉城（鎌倉市No.87）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は平成29年5月22日から同年6月9日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は、47.42m<sup>2</sup>である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者	押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時の任用職員）
調査員	岡田慶子、松吉里永子（鎌倉市文化財課 臨時の任用職員）
作業員	遠藤雅廣、鈴木道明、水野幹晴、山口芳治
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）	
4. 整理作業参加者 押木弘己、後藤 健、梅岡ケイト、松吉里永子（鎌倉市文化財課 臨時の任用職員）
5. 本報告の執筆と編集は、押木が行った。
6. 本調査の実施にあたり、（株）齊藤建設より同社が実施した調査測量図および国土座標データを提供していただいた。記して謝意を表したい。
7. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「K J 1 7 0 1」とし、出土品への注記などに使用した。

## 目次 本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	359
第1節 遺跡の立地	
第2節 周辺の調査成果	
第二章 調査の方法と経過 .....	362
第1節 調査の経緯と経過	
第2節 調査の方法	
第三章 基本土層 .....	363
第四章 検出遺構と出土遺物 .....	365
第1節 検出遺構	
第2節 出土遺物	
第3節 立ち会い調査の遺構と遺物	
第五章 調査成果のまとめ .....	372

## 挿図目次

図1 調査地点の位置 .....	360	図7 出土遺物 .....	369
図2 調査区配置図 .....	362	図8 立ち会い調査時	
図3 土層断面図 .....	364	炭化物・かわらけ集中範囲 .....	371
図4 2面全体図 .....	366	図9 立ち会い調査時	
図5 3面全体図 .....	367	かわらけ集中範囲出土遺物 .....	372
図6 3面下(調査規制深度)全体図 .....	368		

## 表目次

表1 周辺調査地点一覧 .....	361	表4 立会調査時 かわらけ集中範囲	
表2 3面 磐石所見 .....	365	出土遺物観察表 .....	372
表3 出土遺物観察表 .....	370	表5 出土遺物カウント・計量表 .....	373

## 図版目次

図版1 .....	375	図版2 .....	376
1. 現地調査前(南東から)		1. ③調査区3面 磐石A周辺(北から)	
2. ②調査区2面(東から)		2. ③調査区3面 磐石B(西から)	
3. ③調査区2面(西から)		3. ④調査区3面 磐石C(南から)	
4. ④調査区2面(東から)		4. ④調査区3面 磐石D(南から)	
5. ①調査区トレチ3面(南東から)		5. ④調査区3面 磐石E(南から)	
6. ②調査区トレチ3面(西から)		6. ④調査区3面 磐石F(東から)	
7. ③調査区トレチ3面(西から)		7. ④調査区トレチ3面下(南から)	
8. ④調査区トレチ3面(東から)		8. ④調査区3面下 土坑1(東から)	
		図版3 出土遺物 .....	377

## 凡例

1. 採図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第Ⅷ系：東日本大震災後の補正前）に基づいている。
3. 採図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより $0^{\circ} 09' 25''$ ほど東に振れている。
4. 遺構採図中の水糸高は、海拔値を示す。
5. 出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。
  - ◆かわらけ・遺物全体の様相：宗基秀明 2005「中世鎌倉の土器・陶磁器」「全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集」
  - ◆火鉢：河野眞知郎 1992「鎌倉の搬入土器と在地土器」「中近世土器の基礎研究Ⅲ」日本中世土器研究会（A～G類表記）
    - ：河野眞知郎 1993「中世鎌倉火鉢考—東国との関連において」「考古論叢神奈川」第2集 神奈川県考古学会（I～VI類表記）
  - ◆輸入陶磁器：「太宰府条坊跡 X V—陶磁器分類編一」太宰府市教育委員会 2000
  - ◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008「中世瀬戸窯の研究」高志書院
  - ◆常滑・渥美窯製品：「愛知県史」別編窯業3 中世・近世常滑系 愛知県 2012

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 第1節 遺跡の立地

本調査地は鎌倉市西御門一丁目68番94に所在する。鶴岡八幡宮の北東約500mに位置し、樹枝状に開かれた丘陵谷戸内に立地する(図1)。調査着手時の標高は28.8m前後であったが(図2)、既に宅地造成が一定程度進んだ中での計測値であり、造成前は標高29~30m前後の平場であった(図8)。

遺跡としての「鎌倉城」(鎌倉市No.87)は旧鎌倉市街を三方に取り巻く丘陵地に散在的に展開しており、西は極楽寺・稻村カ崎、北は山之内、東は大町・淨明寺方面まで及んでいる。遺跡名は九条兼実の日記『玉葉』に表現された「鎌倉城」に由来するが、実態としては城郭に関わる要素は希薄である。土地の来歴に基づく相応の名称が史料または伝承の上でも見当たらない場合、行政手続き上、便宜的に適用されている面もあるだろう。後述するように、本地点でも城郭の存在を示す知見は得られていない。

## 第2節 周辺の調査成果

西御門地区の谷戸内は宅地化が進んでいるものの発掘調査の件数は少なく、図1の範囲では6地点を数えるに過ぎない。このため現時点では当地区全体の歴史を考古学の成果から語ることは叶わないが、以下に、断片的ながら周辺での調査成果を列挙しておく。

本地点と同じ谷戸内(①)では、今回の調査に先立つ平成29年1月~5月に宅地造成工事に伴う発掘調査が実施されている。調査終了から間もないため成果の詳細は明らかとなっていないが、中世の整地面が墨重して検出され、土地利用の継続性が窺われる。本地点3面の礎石配列や3面上炭層の面的広がりを探る上で、今後の報告が期待される。また、本地点より下層まで調査が及んでいるので、土地利用の開始時期や変遷・画期といった情報にも留意したい。

西御門遺跡(No.325)の地点②では中世の遺構面3枚が検出され、当地点での土地開発は13世紀末に始まり、15世紀前葉まで続いたと報告されている。最下層の第3面(13世紀末~14世紀前半)では木組み護岸をもつ新旧2段階の東西溝が検出されている。

地点③では2回に分けて小規模なトレンチ調査が実施されている。調査範囲が限定的でありながらも中世に属する6枚以上の遺構面が確認され、上位の3枚については出土遺物から戦国時代~近世の所産と考えられている。戦国期には南北方向の浅い溝状遺構が検出され、東に接する現行の道路と近似した軸線をもつものであった。

報恩寺跡(No.251)の地点④では、市立第2中学校の校地整備に伴い昭和49年6月と昭和51年1月~2月に緊急調査が実施されている。両調査とも、今のところ略報が公刊されているのみなので成果の具体的内容を知ることはできない。谷戸内に残る平場5段(上から順に第1~第5平場)のうち、下段の第4・5平場が調査対象とされた。第4平場では東西方向の石列が検出され、その規模や谷戸内での位置から一辺16m前後の方形基壇としての復元案が示された上で、仏殿であった可能性が指摘されている。最下段の第5平場では新旧2段階の凝灰岩切石列や井戸、南北に走る近年までの古道が検出され、石列については築地垣の基礎または石垣に、古道については前身遺構として報恩寺参道があつた可能性が示唆されている。「鎌倉廃寺事典」に拠ると、報恩寺は「山号南陽、報恩護国禪寺。開山義堂周信、開基上

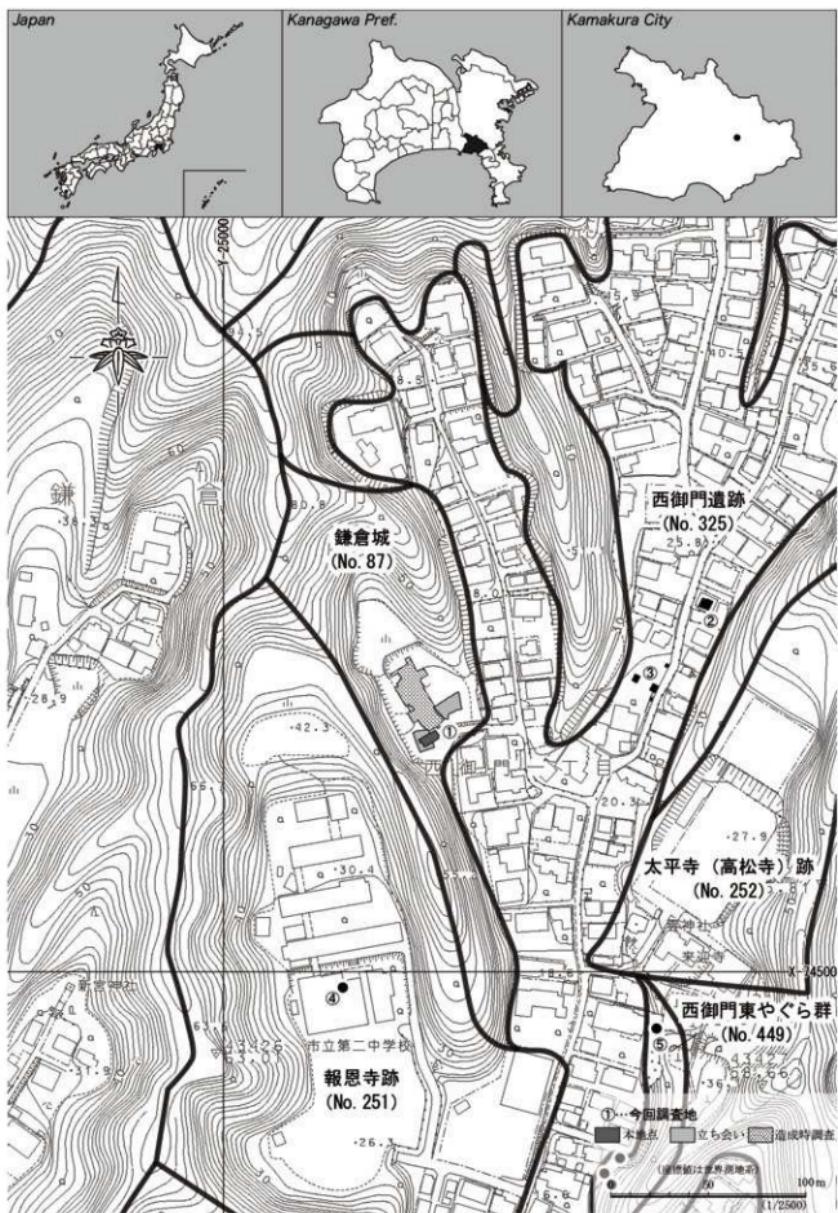


図1 調査地点の位置 (鎌倉市発行 1:2,500都市計画基本図を使用・改変)

表1 周辺調査地点一覧(①~⑤は図1に掲載)

No.	地番	調査年度	面積 (m <sup>2</sup> )	所取報告書(正式報告のみ)
<b>鎌倉城(No.87)</b>				
①	西御門一丁目68番94	2017年度	47.42	本報告
	西御門一丁目68番16	2016年度		未報告
<b>西御門遺跡(No.325)</b>				
②	西御門一丁目55番5	2006年度	30	「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28(第2分冊)」鎌倉市教育委員会 森 孝子2012
一	西御門一丁目11番14	2006年度	43	「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書32(第1分冊)」鎌倉市教育委員会 伊丹まどか他2016
一	西御門一丁目68番1		153	「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書32(第1分冊)」鎌倉市教育委員会 古田土儀一他2016
③	西御門一丁目62番1	2011年度	26	「西御門遺跡発掘調査報告書」(株)齊藤建設 長澤保崇・菊川英政2011
	西御門一丁目62番1の一部	2011年度	7	「西御門遺跡第2次発掘調査報告書」(株)博通 熊谷 満2012
<b>報恩寺跡(No.251)</b>				
④	西御門一丁目91番3外	1975年度	700	「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ」鎌倉市教育委員会 松尾宣方・玉林美男1983
<b>西御門東やぐら群(No.449)</b>				
⑤	西御門一丁目31番	2003年度	42	「西御門東やぐら群Ⅱ」(財)かながわ考古学財团 鈴木庸一郎・栗原伸好2005
<b>保寿院跡(No.250)</b>				
一	西御門一丁目922番4	2003年度	76	「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23(第2分冊)」鎌倉市教育委員会 沢澤晶子他2012

杉能憲」で、「創建は応安四年(1371)」という。略報では、史料に基づいて第1平場に半雲亭、第2平場に雲臥庵、第3平場に方丈の存在を推定している。

西御門東やぐら群(No.449)では、平成13~15年度に10基のやぐらが調査されている。地点⑤の位置には10号やぐらが所在し、1~9号やぐらで構成される南側のやぐら群とは80mほど隔てた場所に単基で発見されている。やぐら群全体としては下層出土遺物から14世紀前半~中葉、上層出土遺物から15世紀中葉~後半という利用期間が考えられ、やぐらの構築が14世紀前半より遡る可能性も指摘されている。

太平寺(高松寺)跡(No.252)での発掘調査例はない。現在の来迎寺および八雲神社から北側に位置し、大平寺・高松寺ともに尼寺であった。史料上、太平寺は弘安五・六年(1282・83)には存在したようで、押宗寺院とされる。南北朝期、鎌倉公方の足利基氏室が中興したとされ、応安四年(1371)頃には伽藍整備が進み、持氏・成氏ら歴代公方の女子が住持を務めて尼五山の第一に列せられた。16世紀半ばに里見義弘が鎌倉を攻めた際、住持青岳尼が本尊とともに安房に連れ去られて退廃し、後北条氏の治世下には仏殿が圓覚寺に移築された(国宝舍利殿)。なお、里見氏に奪われた本尊は東慶寺觀音堂の建立に伴い、鎌倉に戻されたという。高松寺は日蓮宗で山号を寿延山という。寛永十九年(1642)、大平寺跡に創建されたといふ。

図1の範囲からは南に外れるが、鶴岡八幡宮から丘陵を挟んだ北東側の谷戸には保寿院という禅院も所在したとされる。北条氏一門赤橋氏の出身で、足利尊氏となる清江禅尼(応安元年=1368歿)の菩提寺であった。以後、史料からは15世紀中頃までの存続を窺えるが、その後いつの頃か、瑞泉寺の塔頭として同寺境内に移されたといふ。旧境内域での発掘調査例は1件のみと少ないが、ここでは中世に属する10枚の遺構面が検出され、13世紀初頭~15世紀前半における土地利用の痕が確認されている。この120mほど東に位置する西御門遺跡内の調査地2地点でも最大12枚の遺構面が把握され、13世紀前半~15世紀の継続的土地利用を窺わせる成果が得られている。

以上のように、西御門地区は文献・考古とともに南北朝~室町時代前期の動向を示す資料が比較的良く残されており、当該期の鎌倉全体を考える上でも鍵となるエリアといえるだろう。

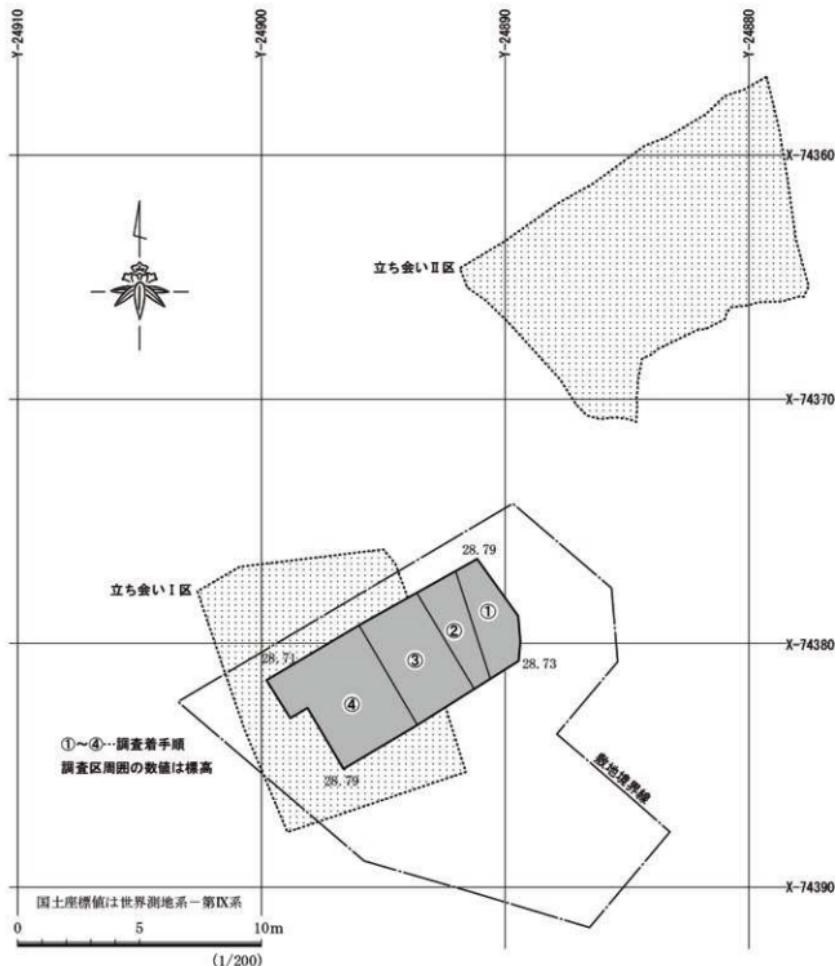
#### 参考文献(表1掲載分以外)

貫 達人・川添武胤 1980 「鎌倉廃寺事典」 有隣堂

## 第二章 調査の方法と経過

### 第1節 調査の経緯と経過

本発掘調査は個人専用住宅の建設に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会（市教委）が実施した。今回の調査に先立って宅地造成工事が実施され、これに伴う立ち会い調査が平成27年度後半に、道路



新設部分についての発掘調査が平成28年度末～29年度初めに実施されている。本調査地は造成工事が終了した箇所であり、立ち会い調査の結果、現状の地表面（標高28.8m前後）が中世の遺物包含層であることが把握されていた。このため、住宅建設に伴う確認調査は実施されず、市教委と施工者側との協議・調整を経て平成29年5月22日から発掘調査を実施することとなった。平成29年6月9日には現地調査を終了し、続く平成29年度前半には出土品および記録類の整理と報告書の作成に移行した。これらの整理作業は、鎌倉市教育委員会文化財課分室において行った。

なお、立ち会い調査の成果については、その一部を第五章に掲載している。

## 第2節 調査の方法

今回の発掘調査は住宅の基礎部分を対象としたが、造成工事による盛土部分は調査範囲から除外したため、最終的に47.42m<sup>2</sup>が調査範囲となった。調査深度は基礎工事の及ぶ深さまでと制限されたため、調査区全体は地表下約30cmまで、「田」の字状の布基礎打設部分については地表下60cmまで掘削したところで調査を終了した。これより下位にも中世の遺構面が複数枚残っていることは、宅地造成に伴う発掘調査によって確認されている。

掘削に伴う発生土置き場を確保するため、調査区は四分割して東から順に調査に着手した（図2）。今回は全て人力で掘削し、調査を終えた部分を発生土置き場とした。各区とも3枚の遺構面を把握し、最上層の1面は造成工事時に搅拌を受けた中世の遺物包含層と判断された。各区・各面とも写真撮影と測量図作成を進め、測量には国家座標系（JGD2011）に基づく基準軸を用いた。基準点は、宅地造成前の発掘調査で使用していたものを（株）齊藤建設より提供していただいた。

## 第三章 基本土層

図3に堆積土層の断面図を掲げたが、今回は掘削深度が最大で60cmと浅いこともあり、基本土層の把握には至らなかった。確認した範囲では、破碎泥岩を用いた盛土・整地が繰り返し施されたことが分かり、丘陵裾に近い調査区の西端部では、地表下50cmの「3面下」で岩盤面が検出された。岩盤は東に落ち込み、本来の深い谷地形を盛土で嵩上げしつつ、可住地となる平場を次第に拡張させていった状況が窺えた。

前章でも述べたように、本地点では造成工事のために地表面が中世層となっていたが、最上層の1層は造成時の搅拌を受けており、コンクリートブロックや碎石片を所々に含んでいた。

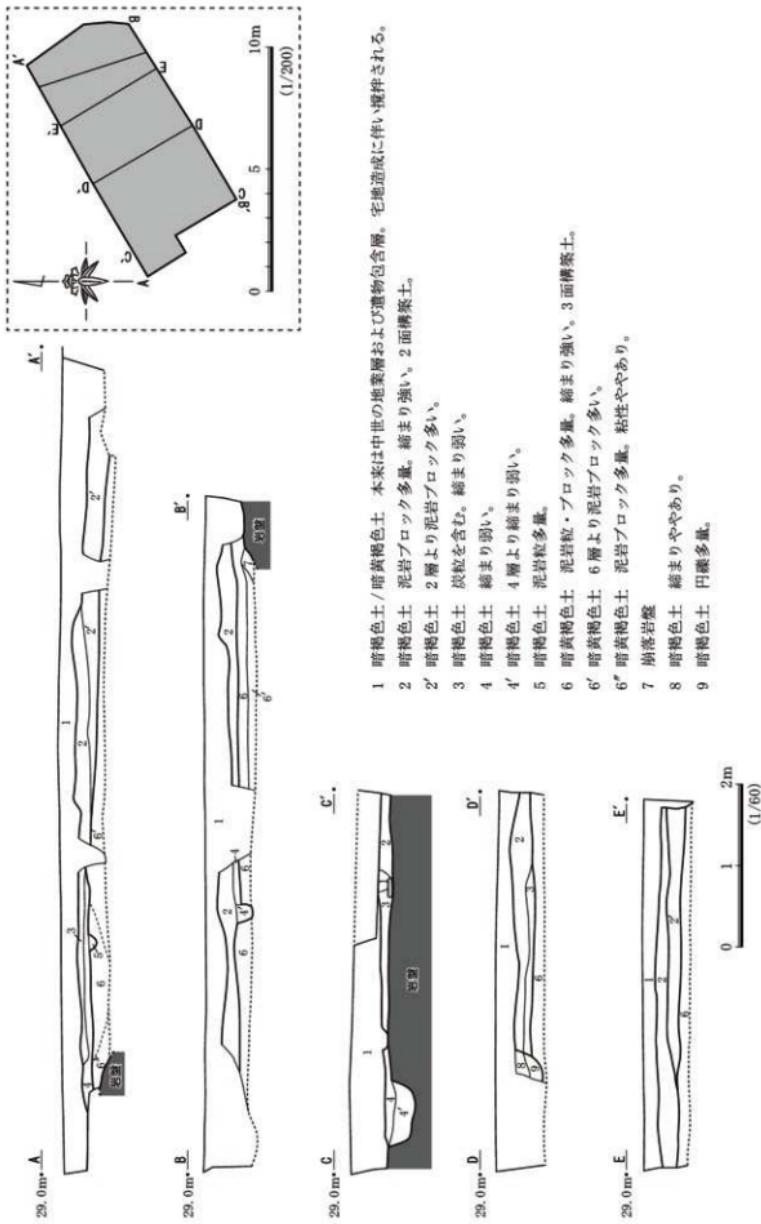


図3 土層断面図

## 第四章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 検出遺構

#### (1) 1面の遺構

1面は地表下10cmの標高28.7m前後で確認した。図3-1層を除去したレベルにあり、面上では少量のコンクリート片など擾拌の影響が見受けられた。中世の整地層であった可能性もあるが、明確な遺構も検出できなかつたため平面図は提示しなかつた。

#### (2) 2面の遺構(図4)

地表下20cmの標高28.6m前後で確認された。泥岩ブロックによる盛土層上面を2面としたが、面上を整えた形跡は希薄で、確実な遺構も見て取れなかつたことから、ここも遺構面(生活面)と明言するには難がある。面上、または盛土中に半ば埋まつた状態でかわらけが散在していた。

#### (3) 3面の遺構(図5)

地表下50cm、標高28.3m前後で検出された。盛土層の上面を泥岩粒で整えており、面上同レベルに複数の安山岩礎石が据えてあつたことから、ある時期の生活面であったことは確実である。面上に炭粒を多量に含んだ粘質土が5cmほどの厚さで堆積し、礎石は柱当たりを除いて被熱のため灰色に変色してゐることから、3面上の礎石建物は火災で焼失したと考えられる。面上および炭屑層中からは、かわらけの完形資料が何点か出土している。

礎石は6基を確認したが調査範囲の制約から並びは把握できず、復元しうる建物が1棟なのか、複数となるのかも捉えることができなかつた。礎石Cの上面には柱痕跡とともに鉄錆が融着していた。柱に打ち付けられた釘などが溶解したものであらうか。

表2 3面 磈石所見

礎石No.	上端面標高 (m)	下底面標高 (m)	備考
A	28.47	28.29	安山岩
B	28.44	28.21	安山岩
C	28.51	28.34	安山岩 12cm角の柱痕・鉄付着
D	28.46	28.34	安山岩 10cm角の柱痕
E	28.44	28.27	安山岩 10cm角(L字状)の柱痕
F	28.34	28.26	安山岩 斜平岩盤面上に据わる
鎌倉石	28.48	28.34	凝灰岩切石 磈石Aの南に接する

#### (4) 3面下(図6)

掘削制限の深度まで掘り下げた結果、調査区西端部では標高28.25～28.3mで岩盤面が検出された。西側が平坦面をなし、東側は斜面となっていた。前者は人工的に削平されたものであらう。3面礎石Fが岩盤面上に据えられていたのとともに、調査区南西角付近では深さ30cmの土坑1基が検出された。斜面以東では標高28.2m前後まで掘り下げたが新たな整地面は確認できず、ここで規制深度に達したため調査を終了した。

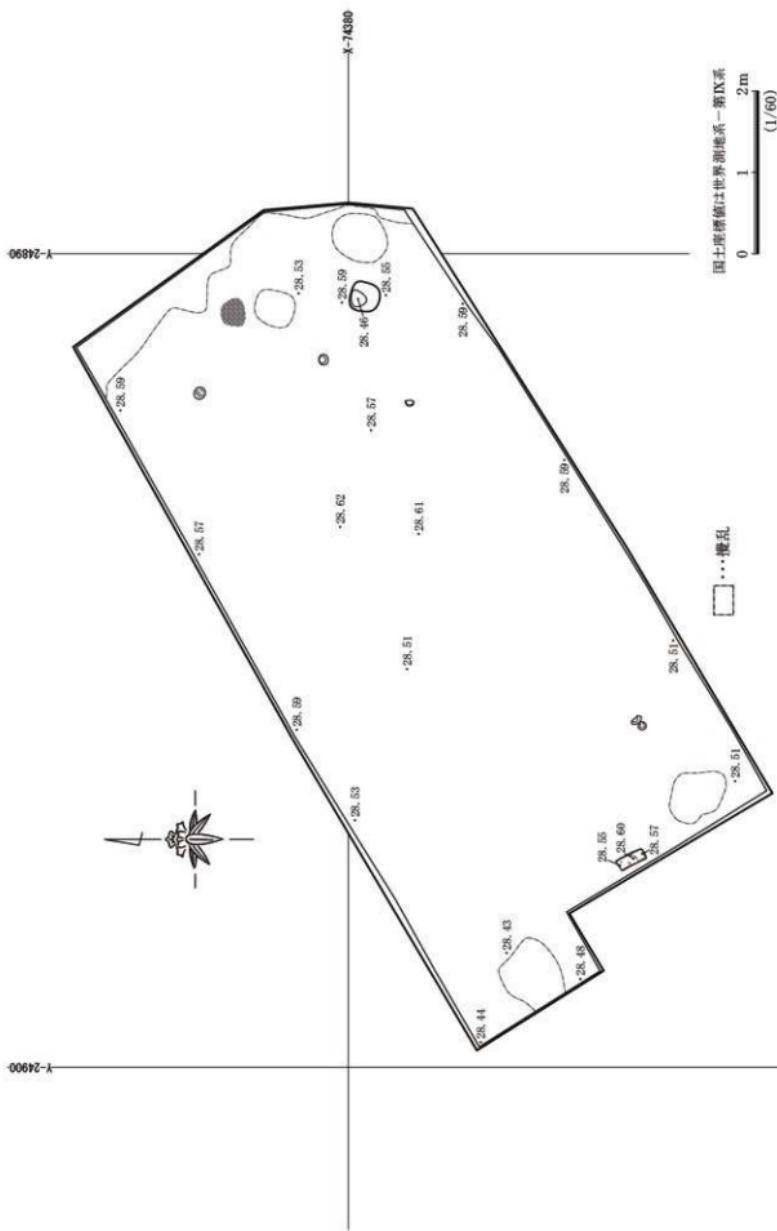


図4 2面全体図

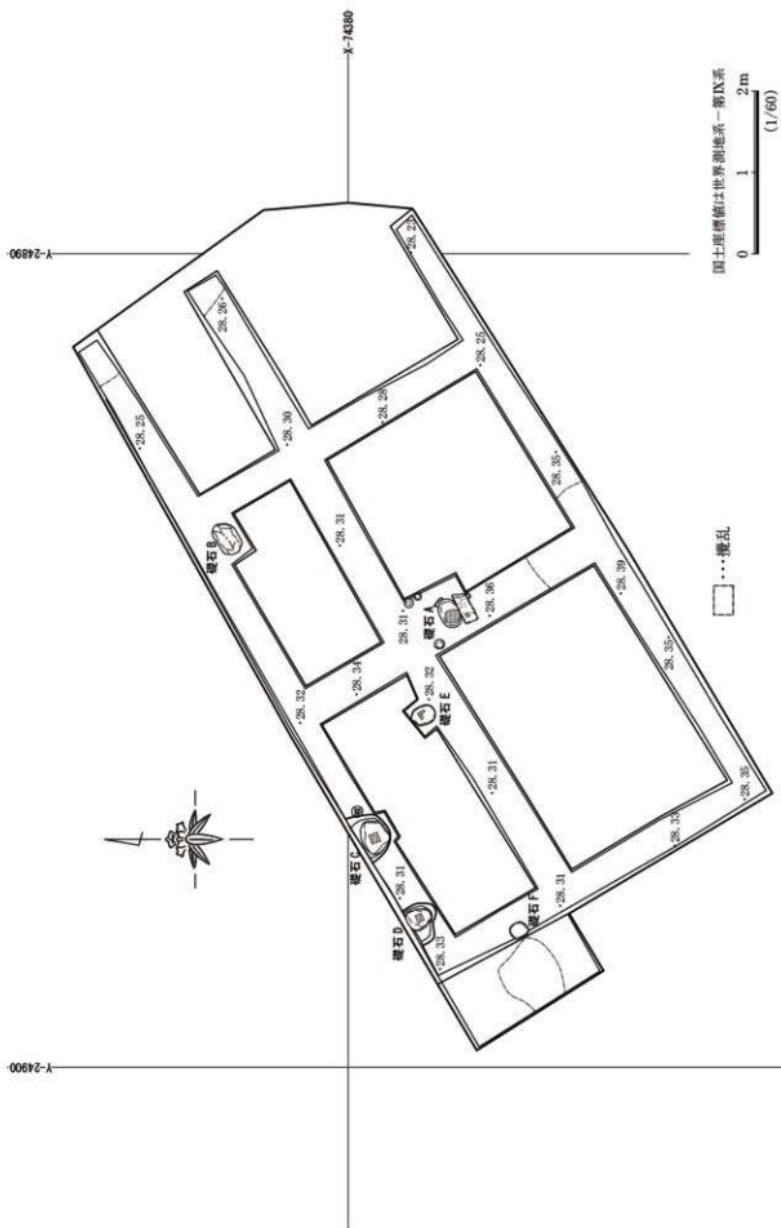
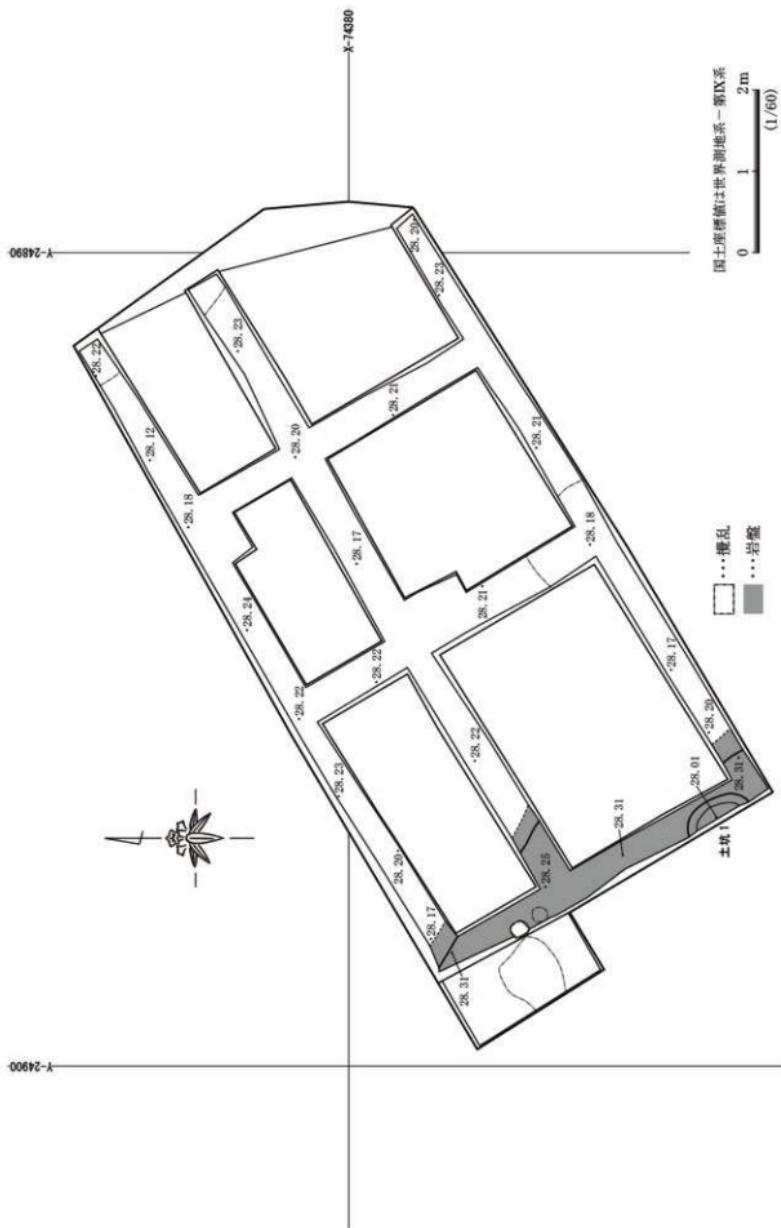


図5 3面全体図



## 第2節 出土遺物

図7には各層位の出土遺物を示した。同図および表5を見ても分かるように、本地点で出土した遺物の大部分をロクロ成形かわらけが占めている。手づくねかわらけは1点も出土していないが、掘削深度に制限があったため、より下層まで調査を行えていれば出土した可能性はある。ロクロかわらけの器形は表土～3面上まで大きな変化はなく、大皿は身深で内弯度が強く、皿というよりも壺形に近い。口径／底径比は60%前後を示し、大皿と同様の器形で口径10cm台の中皿も少量だが含まれる。小皿は口径7cm台が主体で、身浅とやや身深の2種があり、どちらも内弯度が強い。

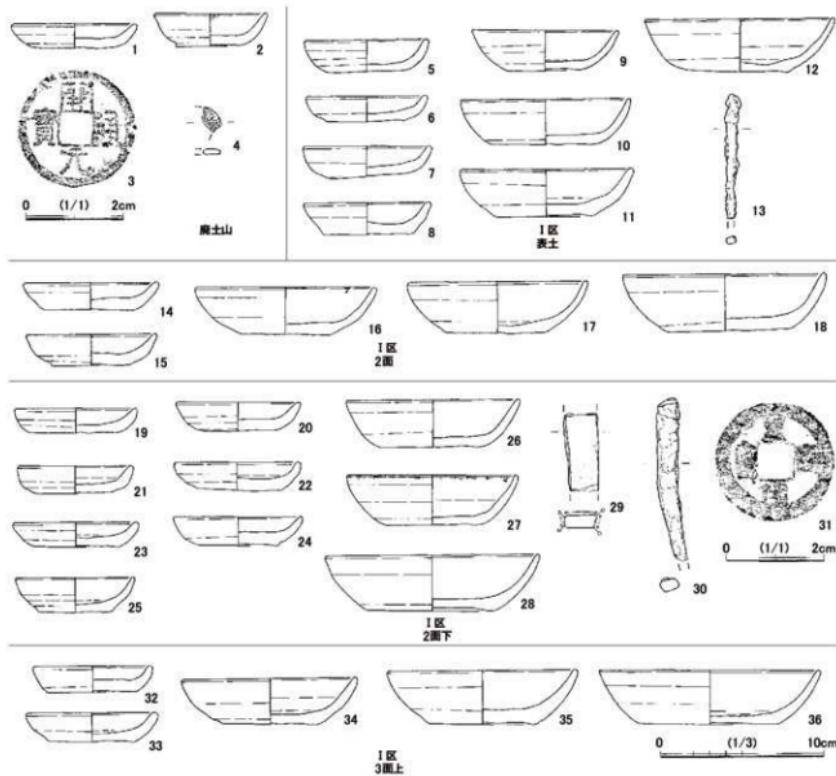


図7 出土遺物

表3 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	重量(g)	内底面調整		外底面圧痕	色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			竹	竹4枚			
出土遺物(図7)												
1	土器	ロク口 かわらけ・小	(7.4)	(3.9)	1.4	1/2		○		○	黄緑	白針
2	土器	ロク口 かわらけ・小	6.3	4.0	2.5	ほぼ完形	36.0	○		○	橙	白針 口縁部煤付着
3	銅製品	錢	直徑 2.4	孔徑 0.6	厚さ 0.1	完形	3.0				—	開元通寶(真書) 中国唐代 621年初鋤
4	骨製品	装飾具	長さ [1.2]	幅 [1.1]	厚さ 0.4	小片	0.4				白	鶴刻菊花文
5	土器	ロク口 かわらけ・小	7.5	5.1	2.0	3/4		○	○		黄緑	白針
6	土器	ロク口 かわらけ・小	7.2	4.7	1.6	完形	41.0	○	○		黄緑	白針 口縁部煤付着
7	土器	ロク口 かわらけ・小	7.6	4.9	1.9	2/3		○	○		黄緑	白針
8	土器	ロク口 かわらけ・小	7.6	5.5	2.0	3/4		○	○		黄緑	白針
9	土器	ロク口 かわらけ・中	8.9	4.5	2.4	完形	50.0	○	○		橙	白針
10	土器	ロク口 かわらけ・中	10.3	6.6	2.8	3/4		○	○		橙	白針
11	土器	ロク口 かわらけ・中	10.4	6.0	2.9	1/2		○	○		橙	白針 口縁部一部黒色に変色
12	土器	ロク口 かわらけ・大	11.5	6.3	3.2	4/5		○	○		橙	白針
13	鉄製品	釘	長さ [7.6]	幅 0.5	厚さ 0.4	下端欠損	8.0				—	
14	土器	ロク口 かわらけ・小	8.1	5.7	1.6	3/4		○	○		黄緑	白針、砂質
15	土器	ロク口 かわらけ・小	7.9	4.8	1.9	2/3		○	○		黄緑	白針
16	土器	ロク口 かわらけ・中	(10.8)	(5.6)	2.9	3/4		○	○		橙	口縁部黒色に変色
17	土器	ロク口 かわらけ・中	10.8	6.1	3.1	2/3		○	○		黄緑	白針 薄手丸深
18	土器	ロク口 かわらけ・大	12.3	7.5	3.5	3/4		○	○		黄緑	白針、砂質
19	土器	ロク口 かわらけ・小	7.4	5.2	1.5	3/4		○	○		黄緑	白針、砂質
20	土器	ロク口 かわらけ・小	7.4	4.7	1.7	3/4		○	○		黄緑	白針
21	土器	ロク口 かわらけ・小	6.9	4.6	1.7	ほぼ完形	47.0	○	○		黄緑	白針
22	土器	ロク口 かわらけ・小	7.5	5.1	1.7	2/3		○	○		橙	白針、砂質
23	土器	ロク口 かわらけ・小	7.5	5.4	1.5	2/3		○	○		黄緑	白針
24	土器	ロク口 かわらけ・小	7.7	5.0	1.7	2/3		○	○		黄緑	白針
25	土器	ロク口 かわらけ・小	(7.2)	4.6	2.1	2/3		○	○		黄緑	白針
26	土器	ロク口 かわらけ・中	10.5	6.4	2.9	3/4		○	○		橙	白針 薄手丸深
27	土器	ロク口 かわらけ・中	(10.4)	5.8	3.0	3/4		○	○		橙	白針 口縁部全体に煤付着 薄手丸深
28	土器	ロク口 かわらけ・大	12.9	7.9	3.4	4/5		○		○	橙	白針 外底面に線刻「—」
29	石製品	砥石	長さ [4.3]	幅 2.1	厚さ 0.6~0.8	両端欠損	11.8				灰桃	仕上げ砥 嘴漏
30	鉄製品	釘	長さ [9.9]	幅 1.2	厚さ 0.8	下端欠損	29.0				—	
31	銅製品	錢	直徑 2.6	孔徑 0.7	厚さ 0.1	完形	2.0				—	皇宋通寶(篆書) 中国北宋 1038年初期
32	土器	ロク口 かわらけ・小	7.1	5.5	1.6	ほぼ完形	45.0	○	○		黄緑	3面上礫石A 白針、砂質
33	土器	ロク口 かわらけ・小	7.9	5.3	1.8	完形	56.0	○	○		黄緑	3面上礫石A 白針、砂質
34	土器	ロク口 かわらけ・中	10.6	5.9	2.8	完形	113.0	○	○		橙	3面上礫石A 白針、砂質
35	土器	ロク口 かわらけ・中	11.5	6.6	3.3	ほぼ完形	154.0	○	○		橙	3面上礫石A 白針、砂質
36	土器	ロク口 かわらけ・大	13.3	8.5	3.3	4/5		○			橙	白針 薄手丸深

### 第3節 立ち会い調査の遺構と遺物

今回の発掘調査に先立ち、平成27年12月から同28年1月には宅地造成工事に伴う立ち会い調査が実施されている。調査の対象範囲は図2に示した通りで、このうち発掘調査区と重複する立ち会いI区の調査成果について、その一部を掲載する。

立ち会いI区では、当時の地表下1mで中世の遺構面を検出した。遺構面の標高は29.0～28.6mと高低差があり、南東側が最も低くなっていた。立ち会い調査は遺構確認までに留まり、整地上面上に大小の遺構プランを確認した。調査区の中央部では埋土に炭化物を多く含む不整形の落ち込みプランが検出され、比較的まとまった量のかわらけが出土した（図8－炭化物・かわらけ集中範囲）。東西2.4m、南北1.1mの平面規模を測り、所謂「かわらけ溜まり」という程の稠密な出土状況は認められなかった。ここではロクロかわらけが出土遺物の大部分を占め、常滑窯や瓦質火鉢がわずかに伴っていた（表5）。図9および表4に、実測図と観察内容を示した。

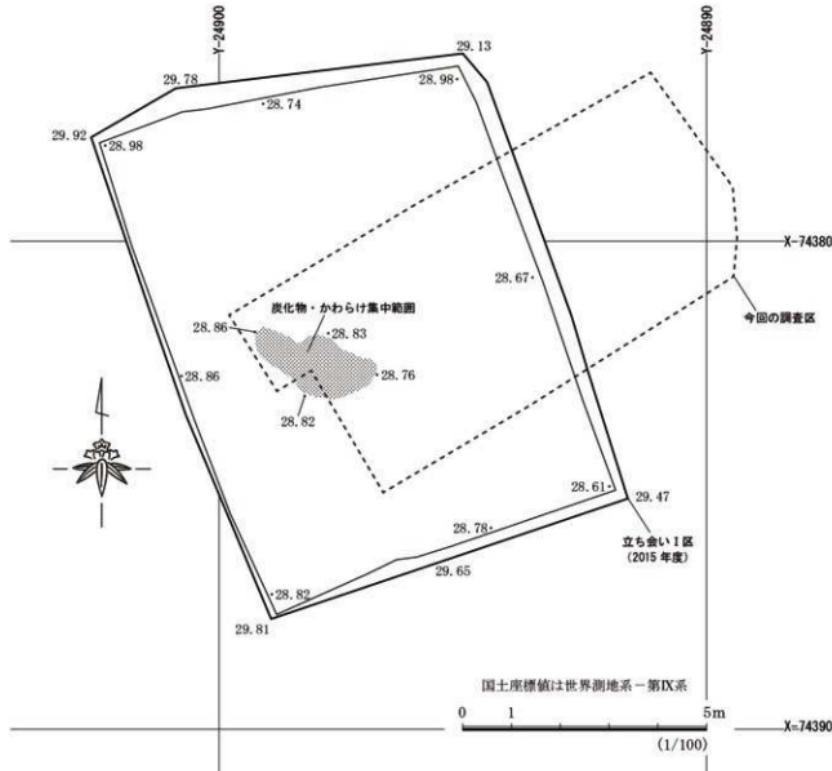


図8 立ち会い調査時 炭化物・かわらけ集中範囲

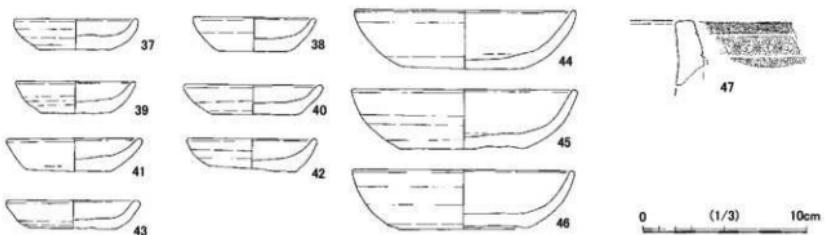


図9 立ち会い調査時 かわらけ集中範囲出土遺物

表4 立会い調査時 かわらけ集中範囲出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	重量(g)	内底面調査		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高			ナメ	ササ付		
<b>立ち会い調査 かわらけ集中出土遺物(図9)</b>											
37	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.6	1.8	4/5		○	○	黄緑	白針
38	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.4	2.1	3/4		○	○	橙	白針、砂質
39	鉄製品	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.2	2.0	4/5		○	○	橙	白針
40	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.3	1.8	ほぼ完形	66.0	○		橙	白針
41	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.3	2.0	4/5		○	○	黄緑	白針、砂質
42	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.5	1.8	完形	60.0	○	○	黄緑	白針
43	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.2	1.7	完形	51.0	○	○	黄緑	白針
44	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.4)	(7.8)	3.6	3/4		○	○	橙	白針
45	土器	ロクロ かわらけ・大	13.5	7.9	3.7	完形	197.0	○	○	橙	白針
46	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	7.6	3.6	完形	185.0	○	○	橙	白針
47	瓦質土器	火鉢	—	—	[4.0]	口小片				淡赤	河野B(A類・D類) 迷珠文貼付・菊花文スタンプ

## 第五章 調査成果のまとめ

今回は平面規模・掘削深度ともに限定的な発掘調査となったが、3面では丁寧な整地面上で礎石建物の一角と思しき遺構を確認することができた。礎石の展開状況は詳らかでないが、隣接して実施された宅地造成部分の発掘成果と合成することで、建物の規模や性格も掘めてくるだろう。3面上の堆積土は炭化物を多く含み、礎石であろう安山岩にも強い被熱による変色が見て取れたことから、建物は火災で焼失した可能性が高い。3面上の出土かわらけは深身で内弯傾向が強い器形で、大・中・小に法量分化していることから、鎌倉末期～南北朝期=14世紀前半の所産と考えられる。3面下では尾根据で岩盤を検出したが、谷戸中心部に向けて下がっており、この部分では盛り土整地面が累積しているだろう。谷戸利用の開始期がいつまで遡るのか、これも隣接調査の成果報告を待ちたい。

立ち会いI区の遺構面は3面より50cmほど高く、この間に2枚ほどの遺構面があったと考えられる。炭化物・かわらけ集中範囲の出土かわらけに中型品は見られず、比較個体数は少ないが、3面出土資料より大型・小型品とも一回り大きい感がある。かわらけを見る限り3面との年代差は小さく、14世紀中頃まで嵩上げ造成を施しつつ、土地利用が続けられたことが推察できる。

表5 出土遺物力カウント・計量表





1. 現地調査前（南東から）



2. ②調査区 2面（東から）



3. ③調査区 2面（西から）



4. ④調査区 2面（東から）



5. ①調査区トレンチ 3面（南東から）



6. ②調査区トレンチ 3面（西から）



7. ③調査区トレンチ 3面（西から）



8. ④調査区トレンチ 3面（東から）

図版2



1. ③調査区3面 磚石A周辺（北から）



2. ③調査区3面 磚石B（西から）



3. ④調査区3面 磚石C（南から）



4. ④調査区3面 磚石D（南から）



5. ④調査区3面 磚石E（南から）



6. ④調査区3面 磚石F（東から）



7. ④調査区トレンチ3面下（南から）



8. ④調査区3面下 土坑1（東から）



## 報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさはうこくしょ						
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書						
副書名	平成29年度調査報告						
卷次	34 (第1分冊)						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者	伊丹まさか・福田誠・伊丹まさか・渡辺美佐子・田畠衣理・押木弘己・押木弘己・押木弘己						
編集機関	鎌倉市教育委員会						
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号						
発行年月日	西暦2018年3月30日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村 遺跡番号					
かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさはうこくしょ 由比ヶ浜中世集落墓地遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜二丁目 1235番4	14204	372	35° 18' 42"	139° 32' 44"	20070611 ~ 20070824	798 個人専用住宅 (地下室)
げばしうらへんいせき 下馬周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜二丁目 107番5	14204	200	35° 19' 07"	139° 32' 37"	20070828 ~ 20070921	12 店舗併用 個人専用住宅 (鋼管杭構造)
おおくらばくふあと 大倉幕府跡	神奈川県鎌倉市 雪ノ下三丁目 637番6	14204	253	35° 19' 26"	139° 33' 44"	20080228 ~ 20080404	25 個人専用住宅 (柱状改良工事)
だいやまいせき 白山遺跡	神奈川県鎌倉市 山ノ内字源治 860番1	14204	29	35° 20' 16"	139° 32' 31"	20100112 ~ 20100217	30 個人専用住宅 (地下室)
とうしょうじあと 東勝寺跡	神奈川県鎌倉市 小町三丁目 529番1、4、5	14204	246	35° 19' 18"	139° 33' 34"	20150901 ~ 20151225	83.01 個人専用住宅 (柱状改良工事)
おおくらばくふしうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 二階堂字住柄 12番8	14204	49	35° 19' 26"	139° 33' 50"	20160510 ~ 20160715	69.14 個人専用住宅 (鋼管杭工事)
かまくらじょう 鎌倉城	神奈川県鎌倉市 西御門一丁目 68番94	14204	87	35° 19' 45"	139° 33' 34"	20170522 ~ 20170621	405 個人専用住宅 (基礎工事)
所収道路名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさはうこくしょ 由比ヶ浜中世集落墓地遺跡	城館跡 その他の墓	中世	堅穴建物、土坑、 ピット	土師器、須恵器、かわ らけ、国産陶器、舶載 陶磁器、土製品、石製 品、金銀製品、骨製品	14世紀代堅穴建物、土坑 など、生活痕跡を検出。		
げばしうらへんいせき 下馬周辺遺跡	城館跡 都市遺跡	中世	柱穴、土坑等	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、貝	13世紀後半～14世紀代 の土地利用痕跡を検出。		
おおくらばくふあと 大倉幕府跡	官衙跡	中世	溝、土坑、ピット	土師器、須恵器、かわ らけ、国産陶器、舶載 陶磁器、土製品、金属 製品、木製品	13世紀前半～14世紀の生 活面を検出。破碎肥泥岩に よる地表面を検出。		
だいやまいせき 白山遺跡	遺物散布地 城館跡 岩跡 集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世	溝状遺構、土坑、 ピット	土師器、灰釉陶器、かわ らけ、国産陶器、舶 載陶磁器、瓦質製品、 石製品、金属製品	丘陵の岩盤斜面に上 て敷設した13世紀末～ 15世紀代の中世生活面を 検出。		
とうしょうじあと 東勝寺跡	社寺跡	中世	土坑、ピット	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、金属製品、 石製品	丘陵斜面の埋没後、13世 紀後半以降の土地利用を 確認。		
おおくらばくふしうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	城館跡 都市遺跡	古墳・奈良・ 平安・中世	溝、井戸、ピット	土師器、須恵器、灰釉 陶器、かわらけ、国産 陶器、舶載陶磁器、瓦	平安時代末期の溝と鎌倉 初期の東西溝を確認。後者 は二階堂大路の南側溝か。		
かまくらじょう 鎌倉城	城館跡	中世	礎石建物	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、金属製品、 石製品、瓦質土器	14世紀前半の礎石建物を 確認。戻層でおわされて おり、焼失した可能性が 高い。		

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

平成 29 年度発掘調査報告

( 第 1 分 冊 )

発 行 日 平成 30 年 3 月 30 日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印 刷 芝浦エンジニアリング株式会社